

東洋文献文化学

(2025.3.14)更新

講義コード	専修コード	担当専修別	講義名	講義形態	授業時間数	単位	開講期	曜日1	時限1	曜日2	時限2	担当教員名	使用言語	(院)聴講生	シラバス連番	備考
1331007	01	国語学国文学	国語学国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	木	2			市村 太郎	日本語	○	東洋文献文化学1	学部・大学院科目
1340001	01	国語学国文学	国語学国文学(演習)	演習	60	4	通年	金	5			大槻 信	日本語	○	東洋文献文化学2	学部・大学院科目
1340004	01	国語学国文学	国語学国文学(演習)	演習	60	4	通年	木	5			田中 草大	日本語	○	東洋文献文化学3	学部・大学院科目
1341007	01	国語学国文学	国語学国文学(演習)	演習	30	2	前期	火	2			高橋 幸平	日本語	○	東洋文献文化学4	学部・大学院科目
1341008	01	国語学国文学	国語学国文学(演習)	演習	30	2	後期	火	2			高橋 幸平	日本語	○	東洋文献文化学5	学部・大学院科目
1341009	01	国語学国文学	国語学国文学(演習)	演習	30	2	後期	月	4			河村 瑛子	日本語	○	東洋文献文化学6	学部・大学院科目
1331008	01	国語学国文学	国語学国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	木	2			市村 太郎	日本語	○	東洋文献文化学7	学部・大学院科目
1331009	01	国語学国文学	国語学国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			佐々木 孝浩	日本語	○	東洋文献文化学8	学部・大学院科目
1331010	01	国語学国文学	国語学国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	3			田中 草大	日本語	○	東洋文献文化学9	学部・大学院科目
1331011	01	国語学国文学	国語学国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	3			田中 草大	日本語	○	東洋文献文化学10	学部・大学院科目
1331012	01	国語学国文学	国語学国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	2			河村 瑛子	日本語	○	東洋文献文化学11	学部・大学院科目
1331013	01	国語学国文学	国語学国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			河村 瑛子	日本語	○	東洋文献文化学12	学部・大学院科目
1331014	01	国語学国文学	国語学国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	金	3			土佐 朋子	日本語	○	東洋文献文化学13	学部・大学院科目
1331015	01	国語学国文学	国語学国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	金	3			土佐 朋子	日本語	○	東洋文献文化学14	学部・大学院科目
M123001	02	中国語学中国文学	中国語学中国文学(演習)	演習	30	2	前期	月	2			成田 健太郎	日本語	○	東洋文献文化学15	大学院科目
M123002	02	中国語学中国文学	中国語学中国文学(演習)	演習	30	2	後期	月	2			成田 健太郎	日本語	○	東洋文献文化学16	大学院科目
M123005	02	中国語学中国文学	中国語学中国文学(演習)	演習	30	2	前期	水	4			緑川 英樹	日本語	○	東洋文献文化学17	大学院科目
M123006	02	中国語学中国文学	中国語学中国文学(演習)	演習	30	2	後期	水	4			緑川 英樹	日本語	○	東洋文献文化学18	大学院科目
M123003	02	中国語学中国文学	中国語学中国文学(演習)	演習	30	2	前期	金	3			木津 祐子	日本語	○	東洋文献文化学19	大学院科目
M123004	02	中国語学中国文学	中国語学中国文学(演習)	演習	30	2	後期	金	3			木津 祐子	日本語	○	東洋文献文化学20	大学院科目
1431001	02	中国語学中国文学	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	1			永田 知之	日本語	○	東洋文献文化学21	学部・大学院科目
1431002	02	中国語学中国文学	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	1			永田 知之	日本語	○	東洋文献文化学22	学部・大学院科目
1431003	02	中国語学中国文学	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	金	2			井口 千雪	日本語	○	東洋文献文化学23	学部・大学院科目
1431004	02	中国語学中国文学	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	金	2			井口 千雪	日本語	○	東洋文献文化学24	学部・大学院科目
1431006	02	中国語学中国文学	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	3			松江 崇	日本語	○	東洋文献文化学25	学部・大学院科目
1431007	02	中国語学中国文学	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	3			松江 崇	日本語	○	東洋文献文化学26	学部・大学院科目
1431008	02	中国語学中国文学	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	金	1			野原 将揮	日本語	○	東洋文献文化学27	学部・大学院科目
1431009	02	中国語学中国文学	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	金	1			野原 将揮	日本語	○	東洋文献文化学28	学部・大学院科目
1431012	02	中国語学中国文学	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			大西 克也	日本語	○	東洋文献文化学29	学部・大学院科目
1431005	02	中国語学中国文学	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	4			木津 祐子	日本語	○	東洋文献文化学30	学部・大学院科目
1431010	02	中国語学中国文学	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	木	1			池田 巧	日本語	○	東洋文献文化学31	学部・大学院科目
1431011	02	中国語学中国文学	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	木	1			池田 巧	日本語	○	東洋文献文化学32	学部・大学院科目
1530002	03	中国哲学史	中国哲学史(特殊講義)	特殊講義	60	4	通年	水	4			池田 恭哉	日本語	○	東洋文献文化学33	学部・大学院科目
1531004	03	中国哲学史	中国哲学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	木	2			倉本 尚徳	日本語	○	東洋文献文化学34	学部・大学院科目
1531005	03	中国哲学史	中国哲学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	木	2			倉本 尚徳	日本語	○	東洋文献文化学35	学部・大学院科目
1531010	03	中国哲学史	中国哲学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	1			永田 知之	日本語	○	東洋文献文化学36	学部・大学院科目
1531011	03	中国哲学史	中国哲学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	1			永田 知之	日本語	○	東洋文献文化学37	学部・大学院科目
1540002	03	中国哲学史	中国哲学史(演習)	演習	60	4	通年	水	2			池田 恭哉	日本語	○	東洋文献文化学38	学部・大学院科目
1541003	03	中国哲学史	中国哲学史(演習)	演習	30	2	前期	月	3			古勝 隆一	日本語	○	東洋文献文化学39	学部・大学院科目
1541004	03	中国哲学史	中国哲学史(演習)	演習	30	2	後期	月	3			古勝 隆一	日本語	○	東洋文献文化学40	学部・大学院科目
1541001	03	中国哲学史	中国哲学史(演習)	演習	30	2	後期	月	5			福谷 彬	日本語	○	東洋文献文化学41	学部・大学院科目
1541002	03	中国哲学史	中国哲学史(演習)	演習	30	2	前期	月	5			福谷 彬	日本語	○	東洋文献文化学42	学部・大学院科目
1633001	04	インド古典学	インド古典学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	金	2			天野 恭子	日本語	○	東洋文献文化学43	学部・大学院科目
1633005	04	インド古典学	インド古典学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			沼田 一郎・谷口 力光	日本語	○	東洋文献文化学44	学部・大学院科目
1633006	04	インド古典学	インド古典学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			Martin Kimmel・Benedikt Peschl・Chama Bernard	日本語	○	東洋文献文化学45	学部・大学院科目
1633007	04	インド古典学	インド古典学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	3			CATT, Adam Alvah	日本語	○	東洋文献文化学46	学部・大学院科目
1633008	04	インド古典学	インド古典学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	3			CATT, Adam Alvah	日本語	○	東洋文献文化学47	学部・大学院科目
1644001	04	インド古典学	インド古典学(演習)	演習	30	2	後期	月	2			Tao PAN	英語	○	東洋文献文化学48	学部・大学院科目
1644002	04	インド古典学	インド古典学(演習)	演習	30	2	後期	月	3			Tao PAN	英語	○	東洋文献文化学49	学部・大学院科目
1644003	04	インド古典学	インド古典学(演習)	演習	30	2	前期	金	2			天野 恭子	日本語	○	東洋文献文化学50	学部・大学院科目
1644004	04	インド古典学	インド古典学(演習)	演習	30	2	前期	火	5			VASUDEVA, Somdev	英語	○	東洋文献文化学51	学部・大学院科目
1644005	04	インド古典学	インド古典学(演習)	演習	30	2	前期	木	4			山口 周子	日本語	○	東洋文献文化学52	学部・大学院科目
1644006	04	インド古典学	インド古典学(演習)	演習	30	2	後期	木	4			芳原 綾子	日本語	○	東洋文献文化学53	学部・大学院科目
1644008	04	インド古典学	インド古典学(演習)	演習	30	2	前期	月	2			Tao PAN	英語	○	東洋文献文化学54	学部・大学院科目
1644011	04	インド古典学	インド古典学(演習)	演習	30	2	後期	火	5			VASUDEVA, Somdev	英語	○	東洋文献文化学55	学部・大学院科目
1653001	04	インド古典学	インド古典学(講読)	講読	30	2	前期	水	2			天野 恭子	日本語	○	東洋文献文化学56	学部・大学院科目
1653002	04	インド古典学	インド古典学(講読)	講読	30	2	後期	水	2			大島 智靖	日本語	○	東洋文献文化学57	学部・大学院科目
1653003	04	インド古典学	インド古典学(講読)	講読	30	2	前期	木	3			Tao PAN	英語	○	東洋文献文化学58	学部・大学院科目
1653004	04	インド古典学	インド古典学(講読)	講読	30	2	後期	木	3			Tao PAN	英語	○	東洋文献文化学59	学部・大学院科目
1831001	05	仏教学	仏教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	3			宮崎 泉	日本語	○	東洋文献文化学60	学部・大学院科目
1831002	05	仏教学	仏教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	3			宮崎 泉	日本語	○	東洋文献文化学61	学部・大学院科目
1831003	05	仏教学	仏教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	4			船山 徹	日本語	○	東洋文献文化学62	学部・大学院科目
1831004	05	仏教学	仏教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	4			船山 徹	日本語	○	東洋文献文化学63	学部・大学院科目
1831007	05	仏教学	仏教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	金	2			DEROCHE, Marc-Henri Jean	英語	○	東洋文献文化学64	学部・大学院科目
1831008	05	仏教学	仏教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	木	2			倉本 尚徳	日本語	○	東洋文献文化学65	学部・大学院科目

1831009	05	仏教学	仏教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	木	2		倉本 尚徳	日本語	○	東洋文献文化学66	学部・大学院科目
1841001	05	仏教学	仏教学(演習)	演習	30	2	前期	火	3		宮崎 泉	日本語	○	東洋文献文化学67	学部・大学院科目
1841002	05	仏教学	仏教学(演習)	演習	30	2	後期	火	3		宮崎 泉	日本語	○	東洋文献文化学68	学部・大学院科目
1841003	05	仏教学	仏教学(演習)	演習	30	2	前期集中	その他	その他		岸野 亮示	日本語	○	東洋文献文化学69	学部・大学院科目
1841004	05	仏教学	仏教学(演習)	演習	30	2	前期	水	4		熊谷 誠慈	日本語	○	東洋文献文化学70	学部・大学院科目
1841006	05	仏教学	仏教学(演習)	演習	30	2	前期	火	2		佐藤 直実	日本語	○	東洋文献文化学71	学部・大学院科目
1841007	05	仏教学	仏教学(演習)	演習	30	2	後期	月	5		志賀 浄邦	日本語	○	東洋文献文化学72	学部・大学院科目
1841008	05	仏教学	仏教学(演習)	演習	30	2	前期	木	4		山口 周子	日本語	○	東洋文献文化学73	学部・大学院科目
1841009	05	仏教学	仏教学(演習)	演習	30	2	後期	木	4		芳原 綾子	日本語	○	東洋文献文化学74	学部・大学院科目
1841010	05	仏教学	仏教学(演習)	演習	30	2	後期	木	5		菊谷 竜太	日本語	○	東洋文献文化学75	学部・大学院科目
1851001	05	仏教学	仏教学(講読I)	講読	30	2	前期	木	3		Tao PAN	英語	○	東洋文献文化学76	学部・大学院科目
1851002	05	仏教学	仏教学(講読I)	講読	30	2	後期	木	3		Tao PAN	英語	○	東洋文献文化学77	学部・大学院科目
9628001	05	仏教学	チベット語(初級)(語学)	語学	30	2	前期	月	1		高橋 慶治	日本語	○	東洋文献文化学78	学部・大学院科目
9629001	05	仏教学	チベット語(初級)(語学)	語学	30	2	後期	月	1		高橋 慶治	日本語	○	東洋文献文化学79	学部・大学院科目
9630001	05	仏教学	チベット語(中級)(語学)	語学	30	2	前期	水	1		宮崎 泉	日本語	○	東洋文献文化学80	学部・大学院科目
9630002	05	仏教学	チベット語(中級)(語学)	語学	30	2	後期	水	1		宮崎 泉	日本語	○	東洋文献文化学81	学部・大学院科目
1502001	03	中国哲学史	系共通科目(中国哲学史)(講義)	講義	30	2	前期	火	4		池田 恭哉	日本語	○	東洋文献文化学82	学部科目
1504001	03	中国哲学史	系共通科目(中国哲学史)(講義)	講義	30	2	後期	火	4		池田 恭哉	日本語	○	東洋文献文化学83	学部科目
1550001	03	中国哲学史	中国哲学史(講読)	講読	60	4	通年	火	2		池田 恭哉	日本語	○	東洋文献文化学84	学部科目
1602001	04	インド古典学	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)	講義	30	2	前期	月	3		天野 恭子	日本語	○	東洋文献文化学85	学部科目
1604001	04	インド古典学	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)	講義	30	2	後期	月	3		天野 恭子	日本語	○	東洋文献文化学86	学部科目
1702001	04	インド古典学	系共通科目(インド哲学史)(講義)	講義	30	2	前期	水	4		VASUDEVA, Somdev	日本語	○	東洋文献文化学87	学部科目
1704001	04	インド古典学	系共通科目(インド哲学史)(講義)	講義	30	2	後期	水	4		VASUDEVA, Somdev	日本語	○	東洋文献文化学88	学部科目
1802001	05	仏教学	系共通科目(仏教学)(講義)	講義	30	2	前期	月	2		宮崎 泉	日本語	○	東洋文献文化学89	学部科目
1804001	05	仏教学	系共通科目(仏教学)(講義)	講義	30	2	後期	月	2		宮崎 泉	日本語	○	東洋文献文化学90	学部科目

東洋文献文化学1

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学 (特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学文学部 准教授 市村 太郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本語文法史概説				
[授業の概要・目的]					
(授業の概要・目的) 日本語文法史概説					
<p>本講義は、古代から現代にかけて、日本語文法がどのように変化したのかを、現代文法研究の枠組みに沿って通時的な観点から概説するものである。日本語文法史に関する基本的・一般的な事項について、用例を吟味しながら確認・解説し、学術的な議論を行うための知見を養う。</p> <p>文法は言語の骨格を成すものであり、日本語の史的変遷を考える上で、文法の変遷の要点を理解しておくことは欠かせない。古典語と現代語の言葉遣いが大きく異なることは日本語母語話者にとっては一般的な感覚であろうが、その感覚は一体何によるものなのだろうか。また国語教育では個別的に扱われることの多い文語文法と口語文法はどのようなつながりを持つのだろうか。</p> <p>日本語文法史研究には、これまで膨大な蓄積があり、現在も日々、大小さまざまなテーマでの研究がなされているが、そこに適切にアクセスするためにも、まずは基本的なトピックをおさえておきたい。</p> <p>なお、例示に際しては古代語と近代語の対比という観点から、『古今和歌集』の近世語訳である本居宣長『古今集遠鏡』を積極的に活用する。</p>					
[到達目標]					
<p>1.古代から現代に至る日本語文法について、各文法概念における歴史的変遷に関して、主要事項を理解し、説明できる。</p> <p>2.古代から現代に至る日本語文法について、自ら問題を発見し、テーマを設定して考察できる。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回	イントロダクション・授業の概要	文法史研究のための用例収集方法			
第2回	文の構造・文のタイプ				
第3回	活用				
第4回	格				
第5回	ヴォイス				
第6回	アスペクト・テンス				
第7回	モダリティ				
第8回	感動表現・希望表現				
第9回	係り結び				
----- 国語学国文学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

国語学国文学 (特殊講義) (2)

第10回 とりたて
第11回 準体句
第12回 条件表現
第13回 待遇表現
第14回 文法史研究の実際
レポートの提出
フィードバック【文書を作成してポータルサイトにて通知】

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績は、期末のレポート70%、平常点30%によって評価する。
レポート課題は講義中に指示する。
平常点は、PANDAを利用した毎回の小課題・コメントによる。

レポートは、学術論文に準じた形式で、日本語文法史上の問題に関するテーマを適切に設定し、先行研究を確認しつつ、用例に基づいて、論理的に論述できているかを評価する。

【教科書】

高山善行・青木博史編 『ガイドブック日本語文法史』（ひつじ書房,2010）ISBN:978-4894764897
本授業は、特に2回目以降、教科書の記述内容を解説し、確認・吟味することが主となる。

【参考書等】

（参考書）

小田勝 『実例詳解 古典文法総覧』（和泉書院,2015）ISBN:978-4757607316
日本語文法学会編 『日本語文法事典』（大修館書店,2014）ISBN:978-4469012866
岡崎友子・森勇太 『ワークブック日本語の歴史』（くろしお出版,2016）ISBN:978-4874247068
その他、授業内に紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

【予習】

この授業では、教科書を使用するため、事前に目を通し、疑問点等を整理しておいてほしい。

【復習】

講義後PANDA上の小課題に回答する。レポート執筆に向けての構想・調査を行う。

（その他（オフィスアワー等））

・メール・PANDA等による連絡は随時受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学2

科目ナンバリング	G-LET10 71340 SJ36				
授業科目名 <英訳>	国語学国文学 (演習) Japanese Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 大槻 信		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	金5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	訓点資料『遊仙窟』の研究				
[授業の概要・目的]					
<p>漢籍訓点資料をとりあげ、演習形式で研究を行う。 訓点資料についての基礎知識を獲得し、訓点資料を日本語史・日本文学の研究資料として使用する ための方法・視点を学ぶことを目的とする。 授業では、調べ、考える楽しさを重視する。</p>					
[到達目標]					
<p>訓点資料についての基礎知識を獲得し、様々な工具書を用いて訓点資料を読解し、そこに現れた日 本語について考察できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>日本では、漢文を読解するための補助手段として、漢文本文に返点・仮名・ヲコト点などを記入す ることがあった。返点により語順を示し、仮名によって訓や音を表す。ヲコト点は字画の様々な位 置に点や線を施すことで、助詞・助動詞のような助辞や活用語尾などを表示した。これらの注記・ 符号を「訓点」、訓点が施された文献を「訓点資料」と呼ぶ。 本演習では、唐代の伝奇小説『遊仙窟』の訓点本（陽明文庫本）をとりあげ、その研究を行う。具 体的には、資料をもとに訓み下し文を作成し、その過程で、書誌・表記・音韻・文法・語彙といっ た種々の方面から検討を加える。日本語史、訓読語、古辞書、伝奇小説などに興味がある人には面 白いものとなる。年度はじめ数回をイントロダクションと訓点資料入門にあてる。その後、受講者による発表形式で進める。発表者は担当部分（半丁分、洋本の1ページに相当）から問題点を見つけ出し、発表する。授業では受講者からの積極的な発言を歓迎し、活発な議論が行われることを期待している。</p>					
【前期】					
第1回 イントロダクション					
第2回 イントロダクション、担当決め					
第3回 イントロダクション					
第4回 29才 前半					
第5回 29才 後半					
第6回 29才 前半					
第7回 29才 後半					
第8回 30才 前半					
第9回 30才 後半					
第10回 30才 前半					
第11回 30才 後半					
----- 国語学国文学 (演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学 (演習)(2)

第12回 31才 前半
第13回 31才 後半
第14回 31ウ 前半
第15回 31ウ 後半

【後期】

第1回 32才 前半
第2回 32才 後半
第3回 32ウ 前半
第4回 32ウ 後半
第5回 33才 前半
第6回 33才 後半
第7回 33ウ 前半
第8回 33ウ 後半
第9回 34才 前半
第10回 34才 後半
第11回 34ウ 前半
第12回 34ウ 後半
第13回 35才 前半
第14回 35才 後半
第15回まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績は発表によって評価し、授業中の発言等を平常点として加味する。
発表の機会がなかった者は発表に相当するレポートをもって評価する。

【教科書】

資料のコピーを配布する。

【参考書等】

(参考書)

張文成作・今村与志雄訳『遊仙窟』（岩波文庫、岩波書店、1990年）
吉田金彦・築島裕・石塚晴通・月本雅幸編『訓点語辞典』（東京堂出版、2001年）
その他は授業時に指示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

受講者全員がその時間に取り上げる該当部分について予習した上で授業にのぞむこと。

国語学国文学 (演習)(3)へ続く

国語学国文学 (演習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学3

科目ナンバリング	G-LET10 71340 SJ36				
授業科目名 <英訳>	国語学国文学 (演習) Japanese Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 草大		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	木5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本語を調査する				
[授業の概要・目的]					
<p>言葉について考えるためには、それが現代の言葉であれ過去の言葉であれ、自分の考えが独りよがりなものでないことを確認するため、「調べる」という過程を経ることが必要である。この授業では、日本語の調べ方を学び、実践する。具体的には次の行程をとる；</p> <p>(1) 日本語を調べるにはどのような方法があるか、調べる際に注意すべきことは何か、そもそも日本語を調べるとは何を調べることなのか、といったことについて一通り学ぶ (講義形式)。 (2) 上記(1)を踏まえて各自、日本語の任意のトピックについて調べる (教員からの課題に答えるのでも、自分で課題を設定するのでもよい)。</p> <p>なお、より詳しい行程については受講生数に応じて調整していく。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・日本語を調べるにはどのような方法があるか、調べる際に注意すべきことは何かを理解する。 ・日本語のトピックについて、そのトピックにとって適切な方法によって調べ、それをもとに考えを進めることができる。 ・自分の調べたことと考えたことを、読者がストレスなく理解できるような形で文章化できる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：概要説明 第2-5回：レクチャー (「調べ方」「調べる際の注意」) 第6-29回：受講生発表 第30回：ふりかえり</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点と授業内発表：100%					
----- 国語学国文学 (演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学 (演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

レクチャー及び他参加者の発表内容を、自分の発表にどのように活用できるか考え、試行する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学4

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学 (演習) Japanese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	同志社女子大学表象文化学部 高橋 幸平 准教授	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	文学をめぐる諸概念 (解釈とは何をすることか)				
[授業の概要・目的]					
<p>文学やその鑑賞行為をめぐる諸概念は、必ずしも自明ではない。たとえば、文学研究には作品解釈も含まれようが、解釈とは正確には何をどうすることを意味しているのだろうか。妥当な解釈とそうでない解釈があるとすれば、何によって両者は区別されるのか。ほかにも分析すべき概念は多い。「文学作品に読む価値があるとすれば、その価値とは何だろうか」、「文学はフィクションと同義だろうか」、「作品とはどれのことか。初出誌面で読むテキストとWeb上で公開されたテキストとは同じ作品だろうか」。いずれも、重要であるとはわかっていても簡単には答えられず、手のつけにくい問題である。</p> <p>文学の哲学 (The philosophy of literature) と呼ばれる分析美学の一分野では、文学とその鑑賞行為にまつわる諸概念を精緻化すべく議論が展開されてきた。しかし、それらの学問的蓄積の多くは未邦訳であり、特に日本文学研究においては参照されることが少ない。</p> <p>本演習では、Contemporary Readings in the Philosophy of Literature: An Analytic Approach (Davies & Matheson, 2008) におさめられた文学の哲学の代表的な論文のうち、解釈という概念を論じたものを輪読し、文学と文学をめぐる実践にかかわる諸概念への理解を深めることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>文学理論に関する英語文献を理解することができる。 文学と文学をめぐる実践にかかわる諸概念について、代表的な学問的立場を説明できる。 自身の研究の前提としてどのような学問的立場を取るのかを自覚し説明できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1 ガイダンス 2 "Intentionalism in Aesthetics" / Paisley Livingston 1 3 "Intentionalism in Aesthetics" / Paisley Livingston 2 4 "Intentionalism in Aesthetics" / Paisley Livingston 3 5 "Semantic Intentions, Utterance Meaning, and Work Meaning" / David Davies 1 6 "Semantic Intentions, Utterance Meaning, and Work Meaning" / David Davies 2 7 "The Death of the Author: An Analytical Autopsy" / Peter Lamarque 1 8 "The Death of the Author: An Analytical Autopsy" / Peter Lamarque 2 9 "The Death of the Author: An Analytical Autopsy" / Peter Lamarque 3 10 "Incompatible Interpretations of Art" / Susan L. Feagin 1 11 "Incompatible Interpretations of Art" / Susan L. Feagin 2 12 "Incompatible Interpretations of Art" / Susan L. Feagin 3 13 "True Interpretations" / Stephen Davies 1 14 "True Interpretations" / Stephen Davies 2</p>					
----- 国語学国文学 (演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学 (演習)(2)

15まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業に臨む態度...25%
(欠席:1回...-5点、2回...-15点、3回...-30点、4回...-50点)
文献の理解度...25%
(受講生は順に日本語訳する。また内容を自分の言葉で敷衍する)
発表 or 期末レポート...50%

【教科書】

対象論文をオンラインで配布する。

【参考書等】

(参考書)

Davies, D., & Matheson, C. (Eds.) 『Contemporary readings in the philosophy of literature: An analytic approach』 (Broadview Press. 2008.) (授業で扱う論文を収めた論文集。)
Carroll, N., & Gibson, J. 『The Routledge Companion to Philosophy of Literature』 (Routledge. 2015)

【授業外学修(予習・復習)等】

発表では文献の部分訳と内容の解説・注釈を求められる。授業で扱う範囲は事前に日本語で説明できるように準備しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は対象論文の日本語訳とその内容についてのディスカッションで構成される。一般に、この分野の論文は特に明晰で論理展開を追いやすく、英語としての難易度はそれほど高くない。なお、一回の授業で扱う分量は3000 wordsくらいを予定している。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学5

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学 (演習) Japanese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	同志社女子大学表象文化学部 高橋 幸平 准教授	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	文学をめぐる諸概念 (解釈・想像・感情)				
[授業の概要・目的]					
<p>文学やその鑑賞行為をめぐる諸概念は、必ずしも自明ではない。たとえば、文学研究には作品解釈も含まれようが、解釈とは正確には何をどうすることを意味しているのだろうか。妥当な解釈とそうでない解釈があるとすれば、何によって両者は区別されるのか。ほかにも分析すべき概念は多い。「文学作品に読む価値があるとすれば、その価値とは何だろうか」、「文学はフィクションと同義だろうか」、「作品とはどれのことか。初出誌面で読むテキストとWeb上で公開されたテキストとは同じ作品だろうか」。いずれも、重要であるとはわかっていても簡単には答えられず、手のつけにくい問題である。</p> <p>文学の哲学 (The philosophy of literature) と呼ばれる分析美学の一分野では、文学とその鑑賞行為にまつわる諸概念を精緻化すべく議論が展開されてきた。しかし、それらの学問的蓄積の多くは未邦訳であり、特に日本文学研究においては参照されることが少ない。</p> <p>本演習では、Contemporary Readings in the Philosophy of Literature: An Analytic Approach (Davies & Matheson, 2008) におさめられた文学の哲学の代表的な論文のうち、解釈・想像・感情を論じたものを輪読し、文学と文学をめぐる実践にかかわる諸概念への理解を深めることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>文学理論に関する英語文献を理解することができる。 文学と文学をめぐる実践にかかわる諸概念について、代表的な学問的立場を説明できる。 自身の研究の前提としてどのような学問的立場を取るのかを自覚し説明できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1 ガイダンス 2 "Art Interpretation" / Robert Stecker 1 3 "Art Interpretation" / Robert Stecker 2 4 "Literary Rationality" / Carl Matheson 1 5 "Literary Rationality" / Carl Matheson 2 6 "Fearing Fictions" / Kendall Walton 1 7 "Fearing Fictions" / Kendall Walton 2 8 "Fiction and the Emotions" / Alex Neill 1 9 "Fiction and the Emotions" / Alex Neill 2 10 "The Pleasures of Tragedy" / Susan L. Feagin 1 11 "The Pleasures of Tragedy" / Susan L. Feagin 2 12 "The Pleasures of Tragedy" / Susan L. Feagin 3 13 "The Paradox of Horror" / Berys Gaut 1 14 "The Paradox of Horror" / Berys Gaut 2</p>					
----- 国語学国文学 (演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学 (演習)(2)

15まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業に臨む態度...25%
(欠席:1回...-5点、2回...-15点、3回...-30点、4回...-50点)
文献の理解度...25%
(受講生は順に日本語訳する。また内容を自分の言葉で敷衍する)
発表 or 期末レポート...50%

【教科書】

対象論文をオンラインで配布する。

【参考書等】

(参考書)

Davies, D., & Matheson, C. (Eds.) 『Contemporary readings in the philosophy of literature: An analytic approach』 (Broadview Press. 2008.) (授業で扱う論文を収めた論文集。)
Carroll, N., & Gibson, J. 『The Routledge Companion to Philosophy of Literature』 (Routledge. 2015)

【授業外学修(予習・復習)等】

発表では文献の部分訳と内容の解説・注釈を求められる。授業で扱う範囲は事前に日本語で説明できるように準備しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は対象論文の日本語訳とその内容についてのディスカッションで構成される。一般に、この分野の論文は特に明晰で論理展開を追いやすく、英語としての難易度はそれほど高くない。なお、一回の授業で扱う分量は3000 wordsくらいを予定している。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河村 瑛子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『俳諧類船集』研究				
[授業の概要・目的]					
<p>過去の文献に記されたことからを正確に理解するためには、言葉の精密な意味合いと、その背後にある世界観を把握することが肝要である。近世前期に花開いた古俳諧は、文学史上初めて、豊富な俗語の資料を残してくれた。本演習では、古俳諧が齎した史上最大の連想語辞書『俳諧類船集』の読解を通して、古人の精神世界に分け入りたい。</p> <p>本書に記された連想語群は、日本人の伝統的な共通認識を反映しており、しかも、和漢雅俗にわたる浩瀚な内容を含んでいる。たとえば「語る」の項目を見ると、その連想語として、浄瑠璃、平家、みどり子、謡、梓神子、盗人、遊女などが挙げられている。これを眺めるだけで、「語る」と「話す」とがどう違うのかといった言葉の原義から、物語や歴史叙述の根源的な問題にまで想像が膨らんでくるだろう。本演習では、『類船集』の連想語のネットワークを分析する方法とその意義について実践的に学ぶ。</p> <p>本演習では、はじめに教員による概説的講義を行い、以後は受講者の発表によって進める。具体的には、本書の見出語と連想語との関係性を文献上の根拠にもとづいて考察し、そこから浮かび上がる問題点を受講者全員で吟味することによって、言葉の深奥に迫る。</p> <p>この授業は、古文献の基礎的な調査・読解の方法を習得し、文学・語学・文化における良質な問題点を発見するための思考を養う場である。近世文学研究の立場にとどまらず、様々な角度から取り組むことが可能であろう。本演習が受講者各々の専門的研究へとつながる視座を獲得する機会となることを期待する。</p>					
[到達目標]					
<p>くずし字読解能力と、和本の基本的な扱い方を身につける。多様な資料の性格を把握し、古文献を適切に運用できるようになる。テキストを実証的に解釈する方法を習得する。自ら良質な問題点を発見し、それを適切な方法によって解決できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1.イントロダクション(受講に関する重要な伝達事項があるので、必ず出席すること) 2.『俳諧類船集』概説 3.和装本の扱い方について 4.受講者による発表と討議(1)「浜」条 5.受講者による発表と討議(2)「浜」条 6.受講者による発表と討議(3)「浜」条 7.受講者による発表と討議(4)「橋」条 8.受講者による発表と討議(5)「橋」条 9.受講者による発表と討議(6)「橋」条 10.受講者による発表と討議(7)「橋」条 11.受講者による発表と討議(8)「階子」条 12.受講者による発表と討議(9)「柱」条 13.受講者による発表と討議(10)「柱」条 					
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----					

国語学国文学 (演習) (2)

- 14.受講者による発表と討議(11)「柱」条
15.フィードバック

受講者の理解の度合いや発表の進行度等によって、予定を変更する場合がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点(発表および授業中の発言等)による。授業時間内に発表できなかった者は、レポートで代替する。発表・レポートは到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない
プリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)

額原退蔵『額原退蔵著作集 第16巻 近世語研究』(中央公論社,1980) ISBN:4124012012
このほかの参考書は、適宜授業中に紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

発表担当者はもちろん、受講者全員が該当箇所を十分に予習し、自身の見解を持って授業に臨むこと。授業では版本・写本および文書類の写真を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。授業で扱う資料の予習復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。『類船集』の注釈研究においては、古俳諧をはじめとした和漢の古典文学作品はもとより、近世期の随筆類、歴史資料や図像資料、時には民俗学・文化人類学など隣接諸学の成果をも参照することが求められる。専門分野にかかわらず、日頃から広い分野の読書を心がけること。

(その他(オフィスアワー等))

第1回目の講義では、受講に関する重要事項について説明するので、必ず出席すること。受講人数によっては他学部学生の履修を制限することがある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学 (特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学文学部 准教授 市村 太郎	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本語文法史・語彙史研究のためのコーパスの活用				
[授業の概要・目的]					
(授業の概要・目的) 日本語文法史・語彙史研究のためのコーパスの活用					
<p>本授業では、『日本語歴史コーパス』の等のコーパスを用いて、日本語文法史・語彙史に関する調査を行う方法について、例題を通して検討する。また、コーパス化された各時代の資料の特質や、利用にあたって注意すべき点の解説や、関連する研究の紹介等も行う。</p> <p>2010年代以降、国立国語研究所より大規模な日本語コーパスが公開され、近年では現代語研究のみならず、主に文法史・語彙史研究においても、コーパスを利用することが当たり前の状況になった。そのため、これらの分野で研究を行う場合には、コーパスを利用するスキルが求められるようになってきている。</p> <p>ただ、研究者を主なターゲットとして作成されていることもあり、有効に活用するためには前提となる一定の日本語史的な事項を踏まえる必要がある。また、仕様書等を確認せず、一見しただけだとわからないような落とし穴も存在する。</p> <p>本講義では、そのような状況を踏まえ、日本語史研究の一般的なトピックを例に、コーパスに関する背景的な情報や、注意すべき点などを織り交ぜつつ、主に日本語文法史・語彙史研究におけるコーパスの有効な利用法を検討したい。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1.コーパスを日本語史研究に利用するための必要な知識を習得する。 2.コーパスを日本語文法史・語彙史の研究に適切に活用する方法を考え、自らテーマを設定し応用できる。 					
[授業計画と内容]					
第1回 授業概説 日本語史研究で利用できるコーパス・データベースの紹介					
第2回 『日本語歴史コーパス』『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の解説					
第3回 コーパスの検索方法・データの集計方法					
第4回 奈良時代語コーパスの解説					
第5回 奈良時代語コーパスの文法史・語彙史研究への活用					
第6回 平安時代語コーパスの解説					
第7回 平安時代語コーパスの文法史・語彙史研究への活用					
第8回 鎌倉時代語コーパスの解説と文法史・語彙史研究への活用					
第9回 室町時代語コーパスの解説					
第10回 室町時代語コーパスの文法史・語彙史研究への活用					
第11回 江戸時代語コーパスの解説					
第12回 江戸時代語コーパスの文法史・語彙史研究への活用					
国語学国文学 (特殊講義) (2)へ続く					

<p>国語学国文学 (特殊講義) (2)</p> <hr/> <p>第13回 明治・大正以降のコーパスの解説 第14回 明治・大正以降のコーパスの文法史・語彙史研究への活用 レポートの執筆と提出 フィードバック【文書を作成しポータルサイトにて通知】</p>
<p>【履修要件】</p> <p>特になし</p>
<p>【成績評価の方法・観点】</p> <p>成績は、期末のレポート70%、平常点30%によって評価する。 レポート課題は講義中に指示する。 平常点は、PANDA上にアップする毎回の小課題・コメントによる。</p> <p>レポートは、学術論文に準じた形式で、日本語文法・語彙史上の問題に関するテーマを適切に設定し、先行研究を確認しつつ、コーパスによる調査を行い、論理的に論述できているかを評価する。</p>
<p>【教科書】</p> <p>田中牧郎編『コーパスで学ぶ日本語学 日本語の歴史』（朝倉書店,2020）ISBN:978-4254516548（第4回以降の内容および毎回の課題は、本書を基に行う。） 第1～3回は教科書なしでも受講可。第4回より、教科書を基に講義を進めていく。</p>
<p>【参考書等】</p> <p>（参考書） 授業中に紹介する</p> <p>（関連URL） https://clrd.ninjal.ac.jp/index.html(国立国語研究所・言語資源開発センター)</p>
<p>【授業外学修（予習・復習）等】</p> <p>【予習】 教科書の当該箇所に事前に目を通し、疑問点を整理しておく等しておいてほしい。</p> <p>【復習】 授業で解説した手順を確認し、PANDAで出題する確認のための小課題に取り組む。また、期末レポートの構想や調査の準備を行う。</p>
<p>（その他（オフィスアワー等））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーパスの授業用アカウントを配布します。もちろん各自で取得したものはそれを使ってください構いません。（アカウント取得は無料） ・課題はコンピュータの利用を前提としています。 ・授業内でデータの集計等を行うため、持ち込み可能ならばPC（エクセル等が使える端末）をお持ちいただくとよいでしょう。検索だけならばスマホでも可能です。 ・メールやPANDAによる連絡は随時受け付けます。 <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>

東洋文献文化学8

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学 (特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 佐々木 孝浩		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本古典書誌学入門				
[授業の概要・目的]					
<p>デジタル技術の発達により、世界中の膨大な数の古典籍の画像がインターネット上などで公開され、誰でも容易にそれらに接して研究に利用できるようになっている。そのような環境の中で生まれたDigital Humanities (人文情報学) は、日々目覚ましい成長を続けている。そのような時代にあって、日本古典文学の研究も、既存の校訂本文のみによって行うことの限界が明らかになってきている。新しくより深い研究を行うためには、膨大なデジタルデータと上手く付き合っていく必要があるが、それには文学テキストを保存する媒体たる書物についての知識が必須となる。同じデジタル画像を見ても、書物に関する知識を有する者と有さない者では、得られる情報の量と質に大きな差があるのである。</p> <p>本特殊講義では、デジタル時代に対応しうる書物に関する知識を身に付けるために、奈良時代から江戸時代までの実物資料に触れながら、書物の材料である紙の種類と、書物の形態である装訂、その装訂とそこに保存されるテキストとの相関関係などを中心に説明するとともに、古典籍調査のポイントや、書物の知識を古典研究に具体的に应用する方法についても紹介する。</p>					
[到達目標]					
<p>この講義の目標は、自分の研究対象に関連する古典籍を正しく理解し、適正な評価を下して研究に活用できるようになるための、書誌学の基本的な知識と技能を身に付けることである。具体的には以下の3点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 装訂の種類とその特徴が説明できるようになる。 2. 装訂と保存されるテキストの相関関係が説明できるようになる。 3. 古典籍の現物および画像などを研究に活用できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 日本古典書誌学の紹介と学界の現状説明 第2回 和紙の種類1：歴史と素材による種類について 第3回 和紙の種類2：装飾とその使用傾向について 第4回 装訂の種類1：書物の歴史と卷子装について 第5回 装訂の種類2：折本装と粘葉装について 第6回 装訂の種類3：綴葉装について 第7回 装訂の種類4：袋綴装について 第8回 装訂の種類5：その他の特殊な装訂と改装について 第9回 装訂と内容の関係1：写本に関する問題 第10回 装訂と内容の関係2：版本に関する問題 第11回 和本の調査法1：書誌情報の取り方 第12回 和本の調査法2：奥書・刊記と時代判定</p>					
国語学国文学 (特殊講義)(2)へ続く					

国語学国文学 (特殊講義)(2)

- 第13回 書誌学応用の方法 1 : 勅撰和歌集・『源氏物語』
第14回 書誌学応用の方法 2 : 『平家物語』・『枕草子』その他
第15回 補足説明と全体のまとめ及びフィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点30%、レポート70%

【教科書】

講義資料を配付する。

【参考書等】

(参考書)

佐々木孝浩 『日本古典書誌学論』(笠間書院、2016年) ISBN:4305708086

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫編 『訂正新版 図説 書誌学 古典籍を学ぶ』(勉誠社、2023年)
ISBN:4585300104

堀川貴司 『書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む』(勉誠出版、2010年) ISBN:4585200010

【授業外学修(予習・復習)等】

自分の研究で必要となる書物はどのようなものであるのか、受講前に確認して、その性格や特徴について考えてみることを希望する。

京都は古典籍に触れる機会の多い場所でもあるので、図書館や美術館・博物館、古書店などに日頃から足を運んでそれらに親しむことを希望する。

(その他(オフィスアワー等))

メールによる質問や相談等を受け付ける。

講義中に原資料に触れるので、講義の前と後に手を石鹸でしっかり洗っていただきたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学9

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学 (特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 草大		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古代日本語表記の史的変遷 (1)				
[授業の概要・目的]					
<p>日本語の歴史を、「古代語」(奈良時代以前から鎌倉時代まで)と「近代語」(室町時代から現代まで)に二分する捉え方があります。この授業では、前者すなわち「古代語」における文字・表記の歴史を概説します。</p> <p>前期では、この古代語の中の更に前半部(奈良時代・平安時代)を対象にします。</p> <p>表記は「どのような文字・符号を用いるか(形態)」と「それらの文字・符号をどのように用いるか(運用)」という2つの観点から捉えることができますが、本講義ではこの両観点から、古代日本語がどのように表記されてきたかを通観します。また、それぞれのトピックについて、先行研究等をもとに、より専門的な問題や知見を紹介します。</p>					
[到達目標]					
<p>古代日本語の表記法の歴史を下記の2方向から理解し、説明できる。</p> <p>(1) どのような文字・符号を用いるか。</p> <p>(2) それらの文字・符号をどのように用いるか。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：講義概要、総説</p> <p>第2-4回：漢字 (1)概説 (2)日本への導入と展開</p> <p>第5回：上代の文字資料の例</p> <p>第6回：古事記の用字法</p> <p>第7-8回：万葉集の用字法</p> <p>第9回：奈良時代～平安初期の漢字政策</p> <p>第10-11回：仮名：概説</p> <p>第12-13回：論文講読</p> <p>第14回：筆記試験</p> <p>第15回：フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
筆記試験：100%					
[教科書]					
使用しない					
----- 国語学国文学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

国語学国文学 (特殊講義) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する参考文献を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学10

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学 (特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 草大		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古代日本語表記の史的変遷 (2)				
【授業の概要・目的】					
<p>日本語の歴史を、「古代語」(奈良時代以前から鎌倉時代まで)と「近代語」(室町時代から現代まで)に二分する捉え方があります。この授業では、前者すなわち「古代語」における文字・表記の歴史を概説します。</p> <p>後期では、この古代語の中の更に後半部(平安時代・鎌倉時代)を対象にします。</p> <p>表記は「どのような文字・符号を用いるか(形態)」と「それらの文字・符号をどのように用いるか(運用)」という2つの観点から捉えることができますが、本講義ではこの両観点から、古代日本語がどのように表記されてきたかを通観します。また、それぞれのトピックについて、先行研究等をもとに、より専門的な問題や知見を紹介します。</p>					
【到達目標】					
<p>古代日本語の表記法の歴史を下記の2方向から理解し、説明できる。</p> <p>(1) どのような文字・符号を用いるか。</p> <p>(2) それらの文字・符号をどのように用いるか。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回：講義概要、前期の復習</p> <p>第2-4回：仮名</p> <p>第5-7回：変体漢文</p> <p>第8回：東アジアの漢字利用</p> <p>第9-10回：仮名遣い</p> <p>第11回：漢字仮名交じり文</p> <p>第12-13回：論文講読</p> <p>第14回：筆記試験</p> <p>第15回：フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 国語学国文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

国語学国文学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポート課題：100%

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する参考文献を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学11

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学 (特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河村 瑛子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	芭蕉研究				
[授業の概要・目的]					
<p>俳諧は、俳句の源流とされる短詩型文芸である。近世初期、俳諧は文学ジャンルとして確立し、以来、急速な成熟と変容を遂げた。そのような俳諧史の変革に最も意識的に与した人物に、芭蕉がいる。芭蕉は、同時代より近現代に到るまで日本文学史上の重要人物とされており、文学・文化・思想における影響力は甚大である。本講義では、最新の研究状況を踏まえ、その文学的特性や表現上の妙味について実践的に把握することを目指す。</p> <p>前半は、芭蕉の伝記と作品について、近世前期の文学史の展開を踏まえつつ講義し、その上で、芭蕉の代表作である『奥の細道』の精読を行う。作品の生成過程を吟味しつつ、関連資料の運用方法を学びながら、一字一句に込められた作意を繙くことで、作品を実証的に解釈する手法を身につける。</p> <p>後半は、近世文学研究を行う上で重要な資料であり、芭蕉の作品とも分かちがたく結びつく書簡資料を取り上げる。書簡資料を扱う上での入門的な講義を行った上で、芭蕉書簡の読解に取り組む。内容に関連する芭蕉の作品や、伝記上の問題、俳壇状況、芭蕉の思想・人間性など、俳諧史の諸問題と併せて解説し、芭蕉の文事を史的動態の中に位置づける。</p> <p>芭蕉は、文学作品・書簡を含めた「ふみ」の持つ力について、きわめて意識的な人物として特筆される。本講義の主体的な受講を通して、文学および文学研究の意味について、各自が考察を深めることを期待する。</p>					
[到達目標]					
<p>近世前期から中期にかけての俳諧史と、諸派の俳諧の特性を把握し、その動態の中で、芭蕉文学の特性を説明できるようになる。芭蕉作品の生成過程の諸相を理解し、関連資料を適切に運用しつつ、作品を精密に読解できるようになる。くずし字の読解能力を身につけ、俳諧作品や書簡資料を読解できるようになる。テキストにおける良質な問題点を自ら発見し、それを実証的方法によって解決できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション(受講に関する重要な伝達事項があるので、必ず出席すること) 2. 芭蕉の伝記と作品 3. 『奥の細道』概説 4. 『奥の細道』精読(1) 黒羽 5. 『奥の細道』精読(2) 雲巖寺 6. 『奥の細道』精読(3) 殺生石・遊行柳 7. 『奥の細道』精読(4) 白河の関 8. 『奥の細道』精読(5) 須賀川 9. 書簡資料概説・芭蕉書簡精読(1) 天和年間の書簡(前半) 10. 芭蕉書簡精読(2) 天和年間の書簡(後半) 11. 芭蕉書簡精読(3) 貞享年間の書簡(前半) 					
----- 国語学国文学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

国語学国文学 (特殊講義) (2)

- 12.芭蕉書簡精読(4) 貞享年間の書簡(後半)
- 13.芭蕉書簡精読(5) 元禄年間の書簡(前半)
- 14.芭蕉書簡精読(6) 元禄年間の書簡(後半)・総括
- 15.フィードバック

授業の進行度や受講者の理解度等によって、内容や順序等を変更する場合がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点(30%)、小テスト(20%)、期末レポート(50%)による。平常点は、授業への参加度や、毎回提出されるコメント等によって評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)
鈴木勝忠『俳諧史要』(明治書院、1973)
このほかの参考書は、適宜授業中に紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

版本・写本および書簡資料など文書類の写真を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。配付資料の予習・復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。くずし字を自在に読み解く力を身につけることは、各人の研究活動の幅を広げることとなる。また、書簡資料に馴染みのない場合、活字化された書簡集を読むなどして書簡の文体に親しむことが、読解能力の向上を支えるであろう。

俳諧は、和漢雅俗にわたる文化現象を取りこむ文芸であるから、日頃より幅広い読書を心がけることが望ましい。また、授業で扱わない芭蕉作品や、前時代・同時代の俳人の作品についても、積極的に読解を試みてほしい。講義内容を精緻かつ俯瞰的に理解する助けとなるはずである。

(その他(オフィスアワー等))

第1回目の講義では、受講に関する重要事項について説明するので、必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学12

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学 (特殊講義) Japanese Language and Literature	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河村 瑛子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	世界の中の日本文学				
[授業の概要・目的]					
<p>日本古典文学研究は世界中で活発に行われており、日本国外に所蔵される古典籍資料も豊富に存在する。本講義の前半では、米国マサチューセッツ州のハーバード燕京研究所を拠点として担当教員が実施した研究の成果を踏まえ、主に北米における日本古典文学の研究・教育の状況や資料環境、注目すべき資料等について講義し、それを踏まえて日本古典文学研究が内包する諸問題について吟味する。また、在外日本古典籍研究を円滑に実施するためには、古典籍の取り扱いや書誌記述等にあらかじめ習熟していることが要請され、日本国内での予備調査も必須である。そこで講義の後半では、古典籍の取り扱いや書誌調査の方法について入門的な講義を行い、さらに古典籍の原本を用いた書誌調査実習を通して書誌調査・書誌記述の方法を実践的に身につける。以上を通して、世界文学としての日本古典文学が有する課題と可能性について各人が主体的に考察を深めることを期待する。</p>					
[到達目標]					
<p>北米における日本古典文学研究の状況および資料環境を理解する。世界文学としての日本文学の意義と研究上の課題について説明できるようになる。古典籍の取り扱いと書誌調査に関する基礎知識、書誌記述の技能を獲得し、古文献研究を主体的に遂行する力を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション(受講に関する重要な伝達事項があるので、必ず出席すること) 2. 在外日本古典文学研究(1) 北米における日本文学研究 3. 在外日本古典文学研究(2) ハーバード燕京研究所・ハーバード燕京図書館 4. 在外日本古典文学研究(3) ハーバード美術館群 5. 在外日本古典文学研究(4) ボストン美術館 6. 在外日本古典文学研究(5) ニューヨーク公共図書館・その他 7. 世界文学としての日本古典文学：研究上の諸問題 8. 日本書誌学研究(1) 日本古典籍概説 9. 日本書誌学研究(2) 京都大学の資料 10. 日本書誌学研究(3) 書誌調査入門 11. 日本書誌学研究(4) 書誌調査実習 12. 日本書誌学研究(5) 書誌調査実習 13. 日本書誌学研究(6) 書誌調査実習 14. まとめ 15. フィードバック 					
<p>授業の進行度や受講者の理解度等によって内容や順序等を変更する場合がある。</p>					
----- 国語学国文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

国語学国文学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

古典籍の原本や写真を使用するので、くずし字の基礎知識があることが望ましい(必須ではない)。授業内ではくずし字読解のための入門的講義を行わない。

[成績評価の方法・観点]

平常点40%、レポート60%。平常点は授業への参加度・提出物によって評価する。レポートは到達目標の達成度に基づいて評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

鈴木淳, マクヴェイ山田久仁子 『ハーバード燕京図書館の日本古典籍』 (八木書店, 2008) ISBN: 9784840696692

このほかの参考書は、適宜授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

版本・写本の写真および古典籍の原本を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。配付資料の予習・復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。

(その他(オフィスアワー等))

第1回目の講義では、受講に関する重要事項について説明するので、必ず出席すること。古典籍の原本を用いた実習を行うため、マニキュア・ネイルチップ等をあらかじめ除去しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET10 61331 LJ36				
授業科目名 <英訳>	国語学国文学 (特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	佛教大学文学部 教授 土佐 朋子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『懐風藻』の表現と歴史認識				
[授業の概要・目的]					
『懐風藻』は、天平勝宝3年(751)に成立した、日本で最初の漢詩集である。本授業では、大友皇子、河島皇子、大津皇子を中心として、その漢詩と人物伝を漢籍と比較対照しながら読むことにより、古代日本における漢籍受容と、古代日本の漢詩の表現に対する理解を深める。また、『日本書紀』『万葉集』との比較対照を行うことにより、『懐風藻』編者における歴史認識の特異性についても考察する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・漢籍との比較対照の手法を習得する。 ・日本古代の漢詩文に対する自分自身の解釈を定めることができる。 ・日本古代における漢籍受容と、日本古代漢詩文の表現の特質について理解する。 ・『懐風藻』の歴史認識を理解する。 					
[授業計画と内容]					
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、履修者の人数、講義の進みぐあいなどに応じて、進め方や内容を変更する場合がある。					
第1回 ガイダンス (授業の方針や概要を説明する)					
第2回 『懐風藻』の本文と伝来					
第3回 『懐風藻』序文 編者Xの正体					
第4回 大友皇子伝と大友皇子詩 『懐風藻』の歴史認識					
第5回 河島皇子伝と河島皇子詩					
第6回 『日本書紀』大津皇子小伝					
第7回 『懐風藻』大津皇子伝の歴史認識					
第8回 大津皇子「春苑言宴詩」 大津皇子における漢詩創作の特質					
第9回 大津皇子「遊獵詩」 漢籍の遊獵の詩賦との比較					
第10回 大津皇子の七言二句 中国皇帝の聯句創作					
第11回 「後人聯句」 永遠の「潜竜」					
第12回 大津皇子「臨終詩」と中国「臨刑詩」					
第13回 『懐風藻』の大津皇子と『万葉集』の大津皇子					
第14回 『懐風藻』の表現と歴史認識 まとめ					
《定期試験》					
第15回 フィードバック					
----- 国語学国文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

国語学国文学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業内小レポート）50点

定期試験（筆記）50点

[教科書]

江口孝夫 『懐風藻』（講談社、2000年）ISBN:4061594524

[参考書等]

（参考書）

小島憲之 『日本古典文学大系69 懐風藻 文華秀麗集 本朝文粹』（岩波書店、1964年）

大野保 『懐風藻の研究』（三省堂、1957年）

土佐朋子 『静嘉堂文庫蔵『懐風藻箋註』本文と研究』（汲古書院、2018年）

土佐朋子 『校本懐風藻』（新典社、2021年）

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・講義の前に予め作品を読んでおく（予習）。
- ・「参考書等」に記載した文献を用いて講義の内容に対する理解を深める。

（その他（オフィスアワー等））

連絡にはメールを用いる。メールアドレスは下の通り。

tosa@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学14

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	国語学国文学 (特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	佛教大学文学部 教授 土佐 朋子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『懐風藻』の表現と思想				
[授業の概要・目的]					
<p>日本で最初の漢詩集『懐風藻』（天平勝宝3年 751 ）には、64人の合計116首の漢詩が収録されている。本授業では、藤原宇合を中心とした古代日本の律令官人の漢詩を、漢籍と比較対照しながら読むことにより、それらにおける漢籍受容と漢詩文創作について理解を深めると同時に、『懐風藻』の表現および思想を考察する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・漢籍との比較対照の手法を習得する。 ・日本古代の漢詩文に対する自分自身の解釈を定めることができる。 ・日本古代における漢籍受容と、日本古代漢詩文の表現と思想の特質について理解する。 					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、履修者の人数、講義の進みぐあいなどに応じて、進め方や内容を変更する場合がある。</p> <p>第1回 ガイダンス（授業の方針や概要を説明する） 第2回 『懐風藻』概説 第3回 藤原宇合「暮春曲宴南池詩」 「不忘帰」の意志 第4回 藤原宇合「悲不遇詩」 理想の「賢者」とは 第5回 藤原宇合「在常陸贈倭判官留在京詩」 仙境と俗世 第6回 藤原宇合「奉西海道節度使之作」 「代弁」という形の「述志」 第7回 藤原宇合と高橋虫麻呂 節度使をめぐる和漢競作 第8回 藤原宇合「遊吉野川詩」 俗世の周縁における脱俗 第9回 『懐風藻』吉野詩と宇合「遊吉野川詩」 第10回 藤原宇合「秋日於左僕射長王宅詩」 大隠への志 第11回 長屋王と漢詩創作 第12回 長屋王宅新羅宴1 肖奈行文詩の大同という理想 第13回 長屋王宅新羅宴2 下毛野虫麻呂詩の祥瑞思想 第14回 『懐風藻』の表現と思想 まとめ 《定期試験》 第15回 フィードバック</p>					
----- 国語学国文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

国語学国文学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業内小レポート）50点

定期試験（筆記）50点

[教科書]

江口孝夫 『懐風藻』（講談社、2000年）ISBN:4061594524

[参考書等]

（参考書）

小島憲之 『日本古典文学大系69 懐風藻 文華秀麗集 本朝文粹』（岩波書店、1964年）

大野保 『懐風藻の研究』（三省堂、1957年）

土佐朋子 『静嘉堂文庫蔵『懐風藻箋註』本文と研究』（汲古書院、2018年）

土佐朋子 『校本懐風藻』（新典社、2021年）

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・講義の前に予め作品を読んでおく（予習）。
- ・「参考書等」に記載した文献を用いて講義の内容に対する理解を深める。

（その他（オフィスアワー等））

連絡にはメールを用いる。メールアドレスは下の通り。

tosa@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学15

科目ナンバリング	G-LET11 7M123 SJ36				
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学 (演習) Chinese Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 成田 健太郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『管錐編』選読				
【授業の概要・目的】					
『管錐編』は、中国近代を代表する文学者の一人である銭鍾書 (1910-1998) による中国古典文学に関する札記である。本演習ではそのなかでも、『毛詩正義』に関する札記の部分を読み、その説くところを正確に理解し、得られた知見を訳注の形にまとめる。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典中国語で書かれたテキストを正確に読解し、明晰な日本語による訳注の形式において再構成する能力を獲得する。 ・ 札記テキストが対象とし、またそのなかで言及される多数の文学テキストを比較対照し、その総体を立体的に理解する。 ・ 札記テキストの所論を文学研究の方法として批判的に理解する。 					
【授業計画と内容】					
第1回：使用テキストの確認、分担の決定 第2回～第14回：訳注の作成、検討作業 第15回：フィードバック					
【履修要件】					
古典中国語の読解力、中国古典文学についての知識と関心を有すること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点 (訳注原稿の内容、授業における訳注改善に寄与する発言等) による。					
【教科書】					
PandAを使用して資料を共有する。					
【参考書等】					
(参考書) 銭鍾書 『管錐編』 (生活・読書・新知三聯書店) ISBN:9787108065933					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
出席者は、訳注作成担当者以外も、各自テキストを誠実に読みこんだうえで授業にのぞむ必要がある。					
【その他 (オフィスアワー等)】					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

東洋文献文化学16

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学 (演習) Chinese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 成田 健太郎	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『管錐編』選読				
【授業の概要・目的】					
『管錐編』は、中国近代を代表する文学者の一人である銭鍾書 (1910-1998) による中国古典文学に関する札記である。本演習ではそのなかでも、『毛詩正義』に関する札記の部分を読み、その説くところを正確に理解し、得られた知見を訳注の形にまとめる。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典中国語で書かれたテキストを正確に読解し、明晰な日本語による訳注の形式において再構成する能力を獲得する。 ・ 札記テキストが対象とし、またそのなかで言及される多数の文学テキストを比較対照し、その総体を立体的に理解する。 ・ 札記テキストの所論を文学研究の方法として批判的に理解する。 					
【授業計画と内容】					
第1回：使用テキストの確認、分担の決定 第2回～第14回：訳注の作成、検討作業 第15回：フィードバック					
【履修要件】					
古典中国語の読解力、中国古典文学についての知識と関心を有すること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点 (訳注原稿の内容、授業における訳注改善に寄与する発言等) による。					
【教科書】					
PandAを使用して資料を共有する。					
【参考書等】					
(参考書) 銭鍾書 『管錐編』 (生活・読書・新知三聯書店) ISBN:9787108027467					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
出席者は、訳注作成担当者以外も、各自テキストを誠実に読みこんだうえで授業にのぞむ必要がある。					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

東洋文献文化学17

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学 (演習) Chinese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 緑川 英樹	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東坡詩選読				
【授業の概要・目的】					
北宋の代表的な詩人として知られる蘇軾（蘇東坡、1036～1101）の詩を読む。精密な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力を身につけるとともに、宋代文学に対する理解を深めることをめざす。					
【到達目標】					
中国における伝統的な古典注釈学の成果を踏まえつつ、精密かつ斬新な解釈をみずから提出する能力を養う。あわせて日本中世の抄物を参照することにより、五山漢文学に関して一定の知見を得る。					
【授業計画と内容】					
施元之・施宿・顧禧『註東坡先生詩』（施顧注）を底本にして、蘇軾の詩を読み進めてゆく。南宋以来の諸注釈や日本の室町時代に編纂された抄物『四河入海』を参考にしながら、担当者に詳細な校勘記・訳注を準備してもらい、それをもとに受講者全員で討論する。 第1回 イン트로ダクション 蘇軾および蘇軾集についての概説。参考文献などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。 第2回～第14回 蘇軾詩の精読 第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、蘇軾研究の現状と課題についてまとめる。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点（授業内での担当、発言）による。					
【教科書】					
ハンドアウトを配布する。					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈を読んでおくこと。					
（その他（オフィスアワー等））					
特になし。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

東洋文献文化学18

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学 (演習) Chinese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 緑川 英樹	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東坡詩選読				
【授業の概要・目的】					
北宋の代表的な詩人として知られる蘇軾（蘇東坡、1036～1101）の詩を読む。精密な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力を身につけるとともに、宋代文学に対する理解を深めることをめざす。					
【到達目標】					
中国における伝統的な古典注釈学の成果を踏まえつつ、精密かつ斬新な解釈をみずから提出する能力を養う。あわせて日本中世の抄物を参照することにより、五山漢文学に関して一定の知見を得る。					
【授業計画と内容】					
施元之・施宿・顧禧『註東坡先生詩』（施顧注）を底本にして、蘇軾の詩を読み進めてゆく。南宋以来の諸注釈や日本の室町時代に編纂された抄物『四河入海』を参考にしながら、担当者に詳細な校勘記・訳注を準備してもらい、それをもとに受講者全員で討論する。 第1回 イントロダクション 蘇軾および蘇軾集についての概説。参考文献などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。 第2回～第14回 蘇軾詩の精読 第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、蘇軾研究の現状と課題についてまとめる。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点（授業内での担当、発言）による。					
【教科書】					
ハンドアウトを配布する。					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈を読んでおくこと。					
（その他（オフィスアワー等））					
特になし。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

東洋文献文化学19

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学 (演習) Chinese Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 木津 祐子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『籌海圖編』巻九「大捷考」選読				
【授業の概要・目的】					
<p>明の鄭若曾撰『籌海圖編』（嘉靖41年、1562年）は、所謂「倭寇史料」の一つとして知られ、嘉靖大倭寇が猖獗を極めた時期までの、中国東南海域の兵防、日本の国土や風土、倭寇制圧記録などをまとめた書物である。その中の巻九「大捷考」は、倭寇の頭領であった王直や徐海などの制圧記となっていて、著者には茅坤、胡松、徐渭らといった当世の名文家が名を連ねる。本授業ではその中から文学性の高い作品を選び、他の倭寇史料や白話小説類と対照させながら、その内容を精読する。</p>					
【到達目標】					
<p>明末の、白話と文言が接近しつつあった時代の作品として倭寇史料を精読することを通して、当時の文人の言語活動の一端を学ぶ。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>担当者により訳注を準備して、受講者全員で内容を討議しながら読解を進める。 受講者は、自己の担当部分以外にも十分予習をし、積極的に討論に参加すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．ガイダンス 2．資料説明、分担確認 3 - 14．『籌海圖編』巻九「大捷考」の読解 15．読解を通じて関心を持った内容についてのディスカッション 					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点により評価。平常点には、担当時以外の議論内容や平素の準備も含む。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業中に指示					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

東洋文献文化学20

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学 (演習) Chinese Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 木津 祐子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『籌海圖編』巻九「大捷考」				
【授業の概要・目的】					
<p>前期に引き続き、『籌海圖編』巻九「大捷考」の読解を進める。 明の鄭若曾撰『籌海圖編』（嘉靖41年、1562年）は、所謂「倭寇史料」の一つとして知られ、嘉靖大倭寇が猖獗を極めた時期までの、中国東南海域の兵防、日本の国土や風土、倭寇制圧記録などをまとめた書物である。その中の巻九「大捷考」は、倭寇の頭領であった王直や徐海などの制圧記となっていて、著者には茅坤、胡松、徐渭らといった当世の名文家が名を連ねる。本授業では「大捷考」から文学性の高い作品を選び、他の倭寇史料や白話小説類と対照させながら精読する。</p>					
【到達目標】					
<p>明末の、白話と文言が接近しつつあった時代の作品として倭寇史料を精読することを通して、当時の文人の言語活動の一端を学ぶ。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>担当者により訳注を準備して、受講者全員で内容を討議しながら読解を進める。 受講者は、自己の担当部分以外にも積極的に討論に参加すること。</p> <p>1．前期の内容について討論 2 - 1 4．「大捷考」を引き続き読む 1 5．ディスカッション</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点により評価。平常点には、担当時以外の議論内容や平素の準備も含む。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業中に指示。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

東洋文献文化学21

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学 (特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 永田 知之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	漢籍目録法				
[授業の概要・目的]					
漢籍目録の作成要領を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。					
[到達目標]					
各種の漢籍目録 (データベースを含む) の構造や内容を読み取る力をつけることにより、目的や用途に応じて必要な漢籍をすぐに検索できるようになる。					
[授業計画と内容]					
漢籍の目録法、書誌情報の採取について解説する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることがあり得る。					
第1回 ガイダンス					
第2回 漢籍の定義 (漢籍と目録の関係)					
第3回 カード作成の目的 (書誌の基本)					
第4回 書名 (表題の確定)					
第5回 書名 (合刻と合綴)					
第6回 書名 (漢籍の同定)					
第7回 巻数 (書誌の特徴)					
第8回 撰者 (書籍への関与の形態)					
第9回 撰者 (書籍に関与した人物の情報)					
第10回 鈔刻 (複製の手法)					
第11回 鈔刻 (刊行年と出版者)					
第12回 鈔刻 (底本の表示)					
第13回 鈔刻 (特殊な情報)					
第14回 叢書・増出・地志カードの作成					
第15回 まとめ					
フィードバックの方法については、授業時に指示する。					
[履修要件]					
特になし					
----- 中国語学中国文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

中国語学中国文学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。
評価の6割はレポート、4割は平常点による。
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房,2024）ISBN:4480512765（筑摩書房1991年版を文庫化）

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社,2003）ISBN:9784891746346

京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター編集 『漢籍目録 カードのとりかた』（朋友書店,2005）ISBN:9784892811067

（関連URL）

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/toho/html/top.html>(東方学デジタル図書館)

[https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80\(%E8%B3%87%E6%96%99\).pdf](https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80(%E8%B3%87%E6%96%99).pdf)(漢籍目録入門（資料）（中里見敬氏）)

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/130672/1/kogusho.pdf>(工具書について 漢籍の整理（永田知之）)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/106/0/106_1493/_pdf/-char/ja(漢籍整理備忘録 中国の古典籍・古文書の理解のために（小島浩之氏）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学22

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学 (特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 永田 知之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	漢籍分類法				
[授業の概要・目的]					
四部分類法を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。					
[到達目標]					
書物の分類を通じて漢字文化の特徴を理解することにより、西洋近代に由来する學術の枠組みを超えた幅広い視野を養う。					
[授業計画と内容]					
『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』に基づき、分類法について解説すると共に、漢籍に関わる諸事象を紹介する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。 第1回 ガイダンス 第2回 経部・概説 第3回 経部・五経等 (経注疏合刻類～春秋類) 第4回 経部・四書等 (四書類～小学類) 第5回 史部・概説 第6回 史部・叙述形式 (正史類～載記類) 第7回 史部・制度、伝記、地理 (詔令奏議類～政書類) 第8回 史部・資料、史論 (書目類～史評類) 第9回 子部・概説 第10回 子部・思想、技術 (儒家類～術数類) 第11回 子部・趣味、宗教 (芸術類～道家類) 第12回 集部・概説 第13回 集部・各論 第14回 叢書部 第15回 まとめ フィードバックの方法については、授業時に指示する。					
[履修要件]					
特になし					
----- 中国語学中国文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

中国語学中国文学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。
評価の6割はレポート、4割は平常点による。
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房,2024）ISBN:4480512765（筑摩書房1991年版を文庫化）

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社,2003）ISBN:9784891746346

吉川幸次郎 『吉川幸次郎遺稿集 第1巻』（筑摩書房,1995）ISBN:4480746412

程千帆・徐有富著、向嶋成美・大橋賢一・樋口泰裕・渡邊大訳 『中国古典学への招待 目録学入門』（研文出版,2016）ISBN:9784876364091

（関連URL）

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/65024/2/kanseki_bunrui.pdf(京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧：部-類-属-目-例)

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/refguide/13216>(漢籍の探し方（大西賢人氏）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学23

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学 (特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 井口 千雪		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	明代白話文学研究 (『三国志演義』の出版背景)				
[授業の概要・目的]					
<p>中国においては、明代後期 (16~17世紀) に、口語を反映した文体で書かれた所謂「白話小説」が隆盛を迎えたが、それらの作品には、当時の社会における多様な階層に属する人々の価値観が表れている。この講義では、代表作品の一つ、『三国志演義』を題材として、明代白話小説の出版背景、当時の社会思潮における意義を考察する。前期授業の前半では講義を中心とし、後半では明代に刊行された『三国志演義』版本をテキストとして読解を行い、明代版本に関する書誌学的知識を深める。</p>					
[到達目標]					
<p>中国文学を理解するために不可欠となる明代の出版事業や白話小説の受容について理解すること。および、書誌学的視点から明代版本の特徴や、諸版本の異同を考察できるようになること。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p>					
第1週	イントロダクション (中国明代の出版について)				
第2週	最古の序を持つ『三国志演義』嘉靖壬午序本、及びその出版背景について				
第3週	武定侯郭勛による『三国志演義』の私刻 (1)				
第4週	武定侯郭勛による『三国志演義』の私刻 (2)				
第5週	明代における武臣の文学活動 (1)				
第6週	明代における武臣の文学活動 (2)				
第7週	明代に刊行された『三国志演義』諸版本の継承関係 (1)				
第8週	明代に刊行された『三国志演義』諸版本の継承関係 (2)				
第9週	『三国志演義』版本をテキストとした読解、諸版本の校勘 (1)				
第10週	『三国志演義』版本をテキストとした読解、諸版本の校勘 (2)				
第11週	『三国志演義』版本をテキストとした読解、諸版本の校勘 (3)				
第12週	『三国志演義』版本をテキストとした読解、諸版本の校勘 (4)				
第13週	『三国志演義』版本をテキストとした読解、諸版本の校勘 (5)				
第14週	『三国志演義』版本をテキストとした読解、諸版本の校勘 (6)				
第15週	『三国志演義』版本をテキストとした読解、諸版本の校勘 (7)				
[履修要件]					
中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。					
中国語学中国文学 (特殊講義)(2)へ続く					

中国語学中国文学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への参加状況、授業内での発言）
テキストの読解を1回以上担当すること。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

井口千雪 『三国志演義成立史の研究』（汲古書院）ISBN:9784762965678

金文京 『『三国志演義』の世界（増補版）』（東方書店）ISBN:9784497210098

中川諭 『『三国志演義』版本の研究』（汲古書院）ISBN:4762926248

小松謙 『「四大奇書」の研究』（汲古書院）ISBN:4762928852

[授業外学修（予習・復習）等]

第1週～第8週については、授業後に内容を復習すること。

第9～第15週については、授業の前に2～3時間を使って、テキスト読解の予習、及び諸版本の校勘をすること。

（その他（オフィスアワー等））

最初の授業で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学24

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学 (特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 井口 千雪		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	明代白話文学研究 (『三国志演義』の成立過程)				
[授業の概要・目的]					
<p>中国においては、明代後期(16~17世紀)に、口語を反映した文体で書かれた所謂「白話小説」が隆盛を迎えたが、それらの作品は多くの場合、一人の作者によって創作されたものではなく、歴史書や、民間で発展した説話・戯曲などを下地として形成された。この講義では、代表作品の一つ、『三国志演義』を題材として、明代白話小説の成立過程、中国文学史における大衆文学の意義を考察する。後期授業の前半では講義を中心とし、後半では明代に刊行された『三国志演義』版本をテキストとして読解を行い、明代版本に関する書誌学的知識を深める。</p>					
[到達目標]					
<p>中国文学を理解するために不可欠となる明代白話小説の成立過程や、大衆文学の意義について理解すること。および、書誌学的視点から明代版本の特徴や、諸版本の異同を考察できるようになること。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p>					
第1週	イントロダクション (『三国志演義』の素材について)				
第2週	劉備の人物像とその形成				
第3週	諸葛孔明の人物像とその形成 (1)				
第4週	諸葛孔明の人物像とその形成 (2)				
第5週	呂布と貂蝉の物語の形成				
第6週	曹操の人物像の形成 (1)				
第7週	曹操の人物像の形成 (2)				
第8週	周瑜など呉の人物の物語の成立について				
第9週	『三国志演義』 版本をテキストとした読解、	諸版本の校勘 (1)			
第10週	『三国志演義』 版本をテキストとした読解、	諸版本の校勘 (2)			
第11週	『三国志演義』 版本をテキストとした読解、	諸版本の校勘 (3)			
第12週	『三国志演義』 版本をテキストとした読解、	諸版本の校勘 (4)			
第13週	『三国志演義』 版本をテキストとした読解、	諸版本の校勘 (5)			
第14週	『三国志演義』 版本をテキストとした読解、	諸版本の校勘 (6)			
第15週	『三国志演義』 版本をテキストとした読解、	諸版本の校勘 (7)			
----- 中国語学中国文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

中国語学中国文学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への参加状況、授業内での発言）
テキストの読解を1回以上担当すること。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

井口千雪 『『三国志演義』成立史の研究』（汲古書院）ISBN:9784762965678

金文京 『三国志演義の世界（増補版）』（東方書店）ISBN:9784497210098

竹内真彦 『最強の男 三国志を知るために』ISBN:978-4-86110-702-3

小松建男 『中国近世小説の伝承と形成』ISBN:978-4876363070

[授業外学修（予習・復習）等]

第1週～第8週については、授業後に内容を復習すること。

第9～第15週については、授業の前に2～3時間を使って、テキスト読解の予習、及び諸版本の校勘をすること。

（その他（オフィスアワー等））

最初の授業で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学25

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学 (特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 松江 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国語文法史における地域差異				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業の目的は、中国語史における文法面での地域的差異について、如何なる文法項目に地域差がみられるのか、それらが現代中国語諸方言における状況とどのような通時的関係にあるのか、といった点を理解することにある。</p> <p>対象とするのは、主に上古（前漢以前）から近古（唐宋）までの中国語であり、教員が当該時期における文法面での地域差異について概説した後、近古中国語の文法と現代中国語方言の文法との関連に着目した論文を読解しつつ、教員が内容上の補足を行うことにより、中国語史における文法面での重要な地域的差異について理解を深める。</p>					
[到達目標]					
<p>古代中国語と現代中国語諸方言における文法面での地域差異の概要を理解した上で、前者と後者との通時的関連性を巡る諸問題について把握する。さらに、重要な文法項目について、古代中国語から現代中国語諸方言へと継承される間に、どのようなメカニズムにより変化したのかについて理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>この授業はフィードバック（方法は別途連絡）を含む全15回で行う。</p> <p>古代中国語研究のための基本書を紹介した上で、古代中国語と現代中国語諸方言における文法面での地域差異について概説する。その上で、梅祖麟1994「唐代、宋代共同語的語法和現代方言的語法（『中国境内語言[既/旦]語言学』1994年第2期）をテキストとして読解しつつ（下に記した「梅祖麟1994」の後の「」内は、テキストにおける該当箇所の日本語訳）、適宜関連する論文を参照しながら、中国語史における文法面での地域差異とその通時的変遷を検討する。</p> <p>なお、中国語論文の読解の際は、担当の履修者が日本語訳を提出し、教員がその内容について解説と補足を行う形式で授業を進める。具体的な授業計画は以下のようなものである。</p>					
第1回	授業の目的の説明、古代中国語研究のための基本書の紹介				
第2回	上古中国語における文法面での地域差異についての概説				
第3回	中古中国語における文法面での地域差異についての概説				
第4回	梅祖麟1994「唐宋代共通語についての概説」（1）				
第5回	梅祖麟1994「唐宋代共通語についての概説」（2）				
第6回	梅祖麟1994「動補構造と可能補語構造」（1）				
第7回	梅祖麟1994「動補構造と可能補語構造」（2）				
第8回	梅祖麟1994「完了アスペクト語尾の来源及び関連する問題」（1）				
第9回	梅祖麟1994「完了アスペクト語尾の来源及び関連する問題」（2）				
第10回	[梅祖麟1994の補足] 処置構文について（1）				
第11回	[梅祖麟1994の補足] 処置構文について（2）				
第12回	梅祖麟1994「余論と結論」（1）				
中国語学中国文学 (特殊講義)(2)へ続く					

中国語学中国文学 (特殊講義)(2)

第13回 梅祖麟1994「余論と結論」(2)

第14回 まとめ：古代中国語と現代中国語諸方言における文法面での地域差異

第15回 フィードバック

【履修要件】

現代中国語を学習した経験があること。
漢文について基礎的な知識を持っていること。

【成績評価の方法・観点】

平常点70点とレポート30点により評価する。ただし、レポートの提出については、授業において中国語論文の日本語訳(訳と注釈を含む)を发表することにより代替することが可能とする。

【教科書】

ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

中国語論文の日本語訳を担当する履修者は、必ず事前に日本語訳を作成しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員との連絡方法はメールによること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学 (特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究所 教授 松江 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国語における二重目的語構文の史的変遷				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業の目的は、中国語における二重目的語構文の史的変遷について、各時期にどのような形式がみられるのか、各構文は如何なる意味的特徴を備えているのか、それらと現代中国語における二重目的語構文とはどのような通時的関係にあるのか、といった点を理解することにある。</p> <p>検討の対象するのは、上古（前漢以前）から、中古（後漢～隋）、近古（唐宋）、近代（元～清）そして現代に至る種々の二重目的語構文であり、教員が現代中国語における当該構文を巡る諸問題について概説した後、上古から現代までの二重目的語構文の史的変遷を論じたテキストを読解する。その際、教員が適宜、内容上の補足を行うことにより、中国語史における当該構文の史的変遷について理解を深める。</p>					
[到達目標]					
<p>古代中国語の重要な構文について、上古から現代までの史的変遷を把握し、各時代における構文の意味的特徴とそれらが変化したメカニズムとを理解する。さらに以上を踏まえた上で、二重目的語構文の史的变化と、中国語の文法体系の構造的変化との相関関係について考察を進め、中国語における二重目的語構文の特徴について、類型論的観点から理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>この授業はフィードバック（方法は別途連絡）を含む全15回で行う。</p> <p>中国語史研究のための基本書を紹介した上で、現代中国語における二重目的語構文とそれをめぐる諸問題について解説する。そして二重目的語構文の上古から現代までに史的変遷を解説した張美蘭2023『漢語歴史句法概要』「第六章・漢語双賓句式的歴時発展」（清華大学出版社）をテキストとしつつ（下に記した「張美蘭2023」の後の「」内は、テキストにおける該当箇所の日本語訳）、関連する論文を参照しながら、中国語史における二重目的語構文の史的変遷とそのメカニズムについて検討する。その上で、「貸し借り」を表す二重目的語構文の変遷を音韻変化との関連から論じた雷tang2洵2019「古漢語動詞“假”“借”的音義、句法及其演变」（『中国語学』266号）を読解し、二重目的語と他の言語要素との関連の問題を考察する。</p> <p>なお、中国語論文の読解の際は、担当の履修者が日本語訳を提出し、教員がその内容について解説と補足を行う形式で授業を進める。具体的な授業計画は以下のようである。</p>					
第1回	授業の目的の説明、中国語史研究のための基本書の紹介				
第2回	現代中国語における二重目的語構文と関連する諸問題（1）				
第3回	現代中国語における二重目的語構文と関連する諸問題（2）				
第4回	張美蘭2023「先秦漢代における二重目的語動詞と意味類型」（1）				
第5回	張美蘭2023「先秦漢代における二重目的語動詞と意味類型」（2）				
第6回	張美蘭2023「中古における二重目的語動詞と意味類型」（1）				
中国語学中国文学 (特殊講義)(2)へ続く					

中国語学中国文学 (特殊講義)(2)

- 第7回 張美蘭2023「中古における二重目的語動詞と意味類型」(2)
第8回 張美蘭2023「唐宋元明清における二重目的語動詞と意味類型」(1)
第9回 張美蘭2023「唐宋元明清における二重目的語動詞と意味類型」(2)
第10回 張美蘭2023「二重目的語構文の構造特徴」(1)
第11回 張美蘭2023「二重目的語構文の構造特徴」(2)
第12回 雷tang2洵2019の読解と解説(1)
第13回 雷tang2洵2019の読解と解説(2)
第14回 まとめ：中国語史における二重目的語構文の変遷とそのメカニズム
第15回 フィードバック

【履修要件】

現代中国語を学習した経験があること。
漢文について基礎的な知識を持っていること。

【成績評価の方法・観点】

平常点70点とレポート30点により評価する。ただし、レポートの提出については、授業において中国語論文の日本語訳(訳と注釈を含む)を発表することにより代替することが可能とする。

【教科書】

ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

中国語論文の日本語訳を担当する履修者は、必ず事前に日本語訳を作成しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員との連絡方法はメールによること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学27

科目ナンバリング	G-LET11 61431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学 (特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 野原 将揮		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	上古音研究				
【授業の概要・目的】					
本講義は中国語音韻史のうち上古音について大まかな枠組みを扱い、近年の研究を中心に紹介する予定である。					
【到達目標】					
上古音の研究方法を理解している 上古音の大まかな枠組みを理解している 近年の仮説を理解している					
【授業計画と内容】					
以下の計画に沿って講義を進めるが、参加者の理解状況、興味関心とトピックによって、テーマごとの講義回数あるいは順序に変更が生じる可能性がある。 第1回－第5回：ガイダンス、音韻学について、上古音の基礎 第6回－第8回：声母に関わる仮説 第10回－第14回：韻母に関わる仮説 第15回：フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
授業への取り組み（50点）とレポート（50点）					
【教科書】					
使用しない 配布資料を準備する					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する 適宜紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
参照すべき文献は多岐にわたるので、テーマに応じて授業時に指示する。指示に従って読んでおくこと。資料はその都度配布する予定。					
（その他（オフィスアワー等））					
授業内で案内します。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-LET11 61431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学 (特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 野原 将揮		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国語音韻学：中古音について				
【授業の概要・目的】					
中古音は上古音、近世音を研究するための一つの定点であり、中国語諸方言、漢字音等を研究する上で不可欠の分野である。そこで本講義では中古音の基礎的な知識・概念を提供するとともに、関連する事項（特に中国語学の専門用語、字書、義書等）についても紹介する予定である。また中古音と上古音の関係についてもあわせて紹介したい。					
【到達目標】					
中古音の基本的な概念を理解する 中古音の声母・韻母の用語を覚える 中国語音韻学の専門用語を音声学の用語で説明ができる 字書・義書・韻書の成立と大まかな流れを理解する					
【授業計画と内容】					
特に前半では中古音の基本的な概念を理解することを目的とする。第10回までに中古音の基本的な専門用語を暗記すること。授業内でも工夫して暗記する時間を設ける予定である。 第1回－第3回 ガイダンス 音声学、音韻論、中国語音韻学の用語について 第4回－第6回 切韻系韻書、反切について 第7回－第9回 韻図、方言、漢字音について 第10回 中古音の用語チェック 後半は中古音に関連する事項について紹介する。 第11回－14回 字書、義書について 第15回 まとめ、フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
議論への積極的な参加（20%） 小テスト（50%） レポート（30%）					
----- 中国語学中国文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

中国語学中国文学 (特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内で適宜紹介しますが、専門用語を覚えてもらいます。

(その他(オフィスアワー等))

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET11 61431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学 (特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 大西 克也		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	上古中国の言葉と文字				
[授業の概要・目的]					
<p>上古中国語 (概ね前6世紀頃から紀元前後) は、3000年を超える歴史を持つ中国語において、十分な資料によってその文法体系の概要を知り得る最古層の言語である。本講義では、上古中国語に特徴的な文法現象を取り上げ、基本的かつ特徴的な諸現象を検討することを通じて、当時の人々が言語によってどのように世界に対する認識を表出しようとしていたのかを理解することを目的とする。また言語媒体としての文字とテキストを豊富な出土資料によって概観することにより、当時の言語をより深く理解することに役立つ。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 上古中国語の基本的な文法的特徴の概要を理解する。 ・ 上古中国語において有効に機能していた各種文法範疇に関わる意味と形式について理解を深める。 ・ 上記を通じて、当時の人々がどのように言語表現を選択し、それによってどのように世界に対する認識を表出しようとしていたのか、そのメカニズムについて理解を深める。 ・ 言語の媒体であったテキスト及び文字について、一次資料としての出土文献によって、言語表記体系としての特徴および文化的意味について理解する。 					
[授業計画と内容]					
<p>2025年8月4日～8日までの集中講義として行う予定である。日程は変更される可能性もあるのでKULASISで確認すること。</p>					
8月4日					
1. ガイダンス					
2. あるモノとないモノ 名詞の指示性					
3. モノとの距離感 指示詞・代名詞の機能とその使い分け					
8月5日					
4. 名詞と動詞の境目					
5. ヴォイスを考えるために 能格動詞と対格動詞					
6. ものごとの尋ねた方 疑問詞					
8月6日					
7. 使役の諸相					
8. 受身文の世界観					
9. 授与と取得 二重他動性構文					
8月7日					
中国語学中国文学 (特殊講義)(2)へ続く					

中国語学中国文学 (特殊講義)(2)

10. 空間の捉え方 存在文
11. 時間の捉え方 テンス、アクチオンスアルトとアスペクト
12. 出来事をどう伝えるか モダリティ

8月8日

13. 戦国時代の漢字とその多様性
14. 秦の文字統一とテキストの変容
15. 漢字の宗教性と日本への伝来

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点(20%)とレポート(80%)による。レポートの題目は授業時に指示する。

【教科書】

使用しない
教材、資料等はファイルで配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

本講義に関連する日本語で書かれた適切な概説書等はなく、特に予習は必要としない。授業内容を理解するためには、講義で引用する例文を正確に理解することが重要である。レポート作成に際しては、授業中で紹介する各種注釈、訳本、参考書によって、例文を十分に吟味してほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET11 61431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学 (特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 木津 祐子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	域外官話資料研究				
[授業の概要・目的]					
<p>中国の周縁地域は、歴代、中国語を学ぶことを通して自らの文化活動や経済を維持してきた。その過程では各地各様の多くの資料が作成された。本授業では、それらの資料群の中から特に長崎と琉球で作成された文献を手掛かりに、資料作成者（使用者）が中国と自らとの関係を如何に捉えていたか、さらにその時々中国語はどのようなものであったかについて、考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>中国語の歴史的変遷を学ぶ上で、中国境内で生まれた資料だけではなく、周縁地域の資料分析は欠かせることができない。そのためには、それら資料が誕生した背景や、作成者の目的や意図を理解した上で、資料を利用し分析することが必須となる。本授業を通して、各時代の文献資料の言語がどのように現代中国語と連続しているのかについて理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的には以下の内容について講義を進める。講義の進み具合に応じて、順序や内容を変更することもある。講義内容について、授業中に受講生にコメントや文献読解を求めることがある。</p> <p>第1回 導入 (1) 扱う資料の説明 第2回 明清：長崎の資料 (1) 第3回 明清：長崎の資料 (2) 第4回 明清：長崎の資料 (3) 第5回 明清：長崎の資料 (4) 第6回 長崎の資料から見えること 第7回 明清：琉球の資料 (1) 第8回 明清：琉球の資料 (2) 第9回 明清：琉球の資料 (3) 第10回 明清：琉球の資料 (4) 第11回 琉球の資料から見えること 第12回 相互比較と討論 第13回 時間軸を遡る 第14回 空間軸を広げる 第15回 総括討論</p>					
[履修要件]					
中国語を履修していること					
中国語学中国文学 (特殊講義)(2)へ続く					

中国語学中国文学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（3割・授業への関与など）と期末レポート(7割)によって評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

中国語学史に関するおおまかな流れを把握しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学31

科目ナンバリング	G-LET11 61431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学 (特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 池田 巧		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国語方言研究の基礎知識				
[授業の概要・目的]					
中国語には多様な方言が存在する。現代に生きて話される方言のありようを理解するには、中国語の歴史に関する基礎知識が不可欠である。本講義では中国語方言の緒特徴を概観するとともに、方言研究の基礎となる中古音の体系と、中国語音韻史で使われる伝統的な用語と概念について解説し、あわせて標準語の成立事情についても紹介したい。					
[到達目標]					
中国語方言の体系を理解するうえで不可欠の中国語音韻史研究の諸概念を理解する。					
[授業計画と内容]					
<p>第一回 はじめに：中国語とはどのような言語か</p> <p>第二回 現代中国語の表記法（簡体字と繁体字、ピンイン）</p> <p>第三回 現代中国語の音韻体系</p> <p>第四回 中国語方言概観（1）</p> <p>第五回 中国語方言概観（2）</p> <p>第六回 方言と普通話</p> <p>第七回 中古中国語の音韻（1）韻書と反切</p> <p>第八回 中古中国語の音韻（2）等韻図と声母</p> <p>第九回 中古中国語の音韻（3）声調</p> <p>第十回 中古中国語の音韻（4）音韻地位と復元音</p> <p>第十一回 中国語方言研究の歴史</p> <p>第十二回 中央研究院による方言調査</p> <p>第十三回 方言調査の方法</p> <p>第十四回 方言調査のマニュアル</p> <p>第十五回 フィードバック（授業時に指示します）</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点（30％）授業内レポート（70％）					
[教科書]					
使用しない					
----- 中国語学中国文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

中国語学中国文学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Jerry Norman 『Chinese』 (Cambridge University Press, 1987) ISBN:978-0521296533

参考書は多岐にわたるので、授業中に随時指示する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介できるのは概要のみなので、具体的なデータや記述研究、詳細な解説書などを各自が参照して確認する作業を行ない復習する必要がある。要所要所で理解の確認をする課題も準備したい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学32

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学 (特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 池田 巧		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国語方言研究の方法				
[授業の概要・目的]					
中国の方言研究の方法論を概説する。					
[到達目標]					
中国語方言の多様性を理解するとともに、方言と普通話、あるいは方言と中古音との対応関係を学ぶ。					
[授業計画と内容]					
第一回 中国語の方言研究について 第二回 中国語方言研究の簡史 第三回 方言研究の方法と調査マニュアル 第四回 方言調査字表と詞表 第五回 音韻体系の記述と分析 第六回 語彙体系の記述と分析 (1) 第七回 語彙体系の記述と分析 (2) 第八回 文法調査のマニュアル 第九回 文法体系の記述と分析 (1) 第十回 文法体系の記述と分析 (2) 第十一回 類型論と方言研究 第十二回 言語類型地理論 第十三回 言語地理学の考え方 第十四回 言語地理学研究の成果 第十五回 フィードバック (授業時に指示します)					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 (30%) 授業内レポート (70%)					
----- 中国語学中国文学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

中国語学中国文学 (特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

W.A.グロータース 『中国の方言地理学のために』 (好文出版) ISBN:978-4872200133

参考書は多岐に渡り、また中国の出版物が多いので、適宜指示をして補う予定。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業で紹介できるのは概要のみなので、具体的なデータや記述研究、詳細な解説書などを各自が参照して確認する作業を行ない復習する必要がある。要所要所で理解の確認をする課題も準備したい。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET12 61530 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史 (特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 池田 恭哉		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	水4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	北朝・隋の正史の儒林伝を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>南北朝時代、中国は南北に分かれ、その学問の在り方も様相を異にした部分が多い。中国の思想と言えは儒学をすぐに想起しようが、その根幹たる経書には歴代様々な注釈が施され、南朝と北朝とで、どの注釈書に依拠して各経書を読んだかが異なったことは、よく知られる。またそれが統一された隋では、依拠する注釈をめぐる軋轢も生じた。</p> <p>そこで本講義では、北朝から隋における儒学、経学の実態を探る第一歩として、北朝・隋の正史の儒林伝を読んでいく。具体的には『北齊書』『隋書』である。</p> <p>北朝における学問の共有や伝承の様子を、時には南朝の動向をも視野に入れつつたどり、それがどう隋に吸収されたかを考えることで、当時備えることが目指された学問の実態を探る。また儒者に対して、北朝から隋の社会がどのような役割を期待していたのかについても、考えていきたい。こうした営みは、南北朝時代に限らず、中国社会全般を考える上でのヒントになろう。</p> <p>なおすでに令和2年度から『魏書』儒林伝、『周書』儒林伝、『北齊書』儒林伝の途中までを読み終えており、今年度は『北齊書』儒林伝の途中からになる。ただし過去の内容は当然フォローするし、一貫した文脈があるわけではないので、今年度からの受講も問題ない。むしろ分野を問わない、様々な学生の新規での履修に期待したい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・北朝と隋の正史の儒林伝を精読することで、北朝から隋における学問の特質を理解できる。 ・北朝における学問継承の在り方を明らかにし、その隋への吸収を含め、系統立てて説明できる。 ・儒林伝に描出される儒者の活動を読み解くことで、学問と社会の関係性について、自らの問題意識に関連付けて考察する。 					
[授業計画と内容]					
<p>原則として講義形式（北朝・隋の正史の儒林伝に対する教員作成の訳注を基に、それに関連する事項などを解説、補足する）で進めるが、時に出席者にも講義の内容にコメントしてもらう場面を設けることがある。</p>					
<p>1 ガイダンス</p> <p>2・3 北朝から隋にかけての儒学に関する先行研究紹介</p> <p>4～6 『北齊書』儒林伝精読：チョウ柔</p> <p>7～8 張買奴・劉軌思・鮑季詳</p> <p>9～11 ケイ峙・劉昼</p> <p>12・13 馬敬徳</p> <p>14・15 張景仁</p> <p>16～18 権会・張思伯</p> <p>19・20 張雕</p>					
中国哲学史 (特殊講義) (2)へ続く					

中国哲学史 (特殊講義) (2)

- 21・22 孫霊暉・石曜
23～25 『隋書』儒林伝精読：序
26・27 元善
28・29 辛彦之
30 まとめ：儒学と社会

フィードバックの方法は授業時に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（教員による発問に対する積極的な回答、講義に際しての討議への参加など）を40%、最終レポートを60%で評価。

【教科書】

授業中に指示する
教員作成のプリントを使用する。

【参考書等】

（参考書）
氣賀澤保規ほか『中国史書入門 現代語訳 北齊書』（勉誠出版,2021年）ISBN:978-4-585-29612-6
（『北齊書』の邦訳で、儒林伝序の邦訳を含む。北齊を含む北朝の歴史を概観できる。）
上記の書籍の他、参考書籍は数多いので、授業中に紹介していく。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習としては、講義で取り上げる漢文を、自分でも現代語訳してみる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史 (特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国の僧伝を読むー 『続高僧伝』講読				
[授業の概要・目的]					
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、道宣自身が僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の実地踏査をもとに幾度も増補改訂を行ったものであり、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、『続高僧伝』の各種版本・撰者道宣の伝記について概観した後、主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、中国仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>今年度は昨年度に引き続き訳経篇巻に収録された人物を検討する。具体的には北朝後期から隋代にかけて生きた彦琮をとりあげる。彦琮は北齊の名門趙郡李氏の出身であり、早くから梵語仏典にも通じていた。翻訳事業への参与を通じて西域事情にも通じ、玄奘が弟子に『大唐西域記』を編纂させるにあたり彼の『西域伝』を参照させたとされる。近年彦琮について、その翻訳論や国家論、文学など、多角的に検討した齊藤隆信『釈彦琮の研究』が上梓された。この書を参照しその内容を検討することも同時に行う。</p>					
[到達目標]					
<p>内容面</p> <p>一、インド仏教と中国仏教との差異を学ぶ。</p> <p>二、隋代の主要な僧の経歴を把握し、隋の仏教復興政策について理解する。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p> <p>技能面</p> <p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、仏教漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A ・ S A T などの電子仏典資料や様々な工具書について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回： 『続高僧伝』を読むために必要な基本的資料と工具書</p> <p>第2回： 『続高僧伝』講義 道宣の略伝・諸版本・訳注レジュメ作成方法の説明</p> <p>第3回： 『続高僧伝』講義 彦琮の経歴</p> <p>第4回： 『続高僧伝』講読 彦琮伝1</p> <p>第5回： 『続高僧伝』講読 彦琮伝2</p> <p>第6回： 『続高僧伝』講読 彦琮伝3</p>					
中国哲学史 (特殊講義)(2)へ続く					

中国哲学史 (特殊講義)(2)

第7回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝4
第8回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝5
第9回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝6
第10回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝7
第11回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝8
第12回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝9
第13回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝10
第14回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝11
第15回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝12

【履修要件】

古典漢文読解の基礎的な能力や現代中国語文読解能力があれば望ましいが、学ぶ意欲のある方であればどなたでも受講を歓迎する。

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況またはレポート）100%。

【教科書】

中華書局『続高僧伝』郭紹林校点本（2013）を基本テキストとして使用する。蘇小華『續高僧傳校注』も随時参照する。他に多数の版本を対校に用いる。すべてデータあるいはプリントとして配布する。

【参考書等】

（参考書）

『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8, 9, 10』（大東出版社）（書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

『大乘仏典 中国・日本篇』（中央公論社）（『続高僧伝』の何人かの伝記について現代語訳と注を掲載）

『新国訳大蔵経・『続高僧伝』1』（大蔵出版）（巻六までの書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

齊藤隆信『釈彦琮の研究』（臨川書店，2022）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：僧伝をあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し（国訳一切経）各種版本の文字の異同等を調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学35

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東アジア仏教史に関する研究書講読				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義は9世紀頃までの東アジア仏教史研究の近年の動向を把握し、新しい研究の視点・方法を身につけるのが目的である。</p> <p>特に王権とのかかわり、社会とのかかわり、都市と山林の仏教、女性と仏教、戒律(寺院生活)動物と仏教 仏教文物、国家間の交流といった幅広いテーマをとりあげたい。</p> <p>講義においては、毎回事前にテーマを決め、関連論文あるいは図書を用意するので、全員があらかじめそれを読んで出席し授業で自由に討論を行う形で進める。テーマごとに担当者を決め、関連論文図書のその概要や方法論、資料などを簡潔にまとめたレジュメを用意する。授業計画で示した書籍はあくまで一例であり、参加者の希望により題材とする論文・図書を柔軟に変更する。</p>					
[到達目標]					
<p>内容面</p> <p>一、近年の東アジア仏教史の研究動向を学ぶ。</p> <p>二、東アジア仏教史研究の諸相について学ぶ。</p> <p>技能面</p> <p>一、研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み込むことができる。</p> <p>二、異なる視点から見れば同じ史料に対し別の解釈がなされることを理解する。</p> <p>三、主体的かつ論理的に自己の意見を述べ、議論することができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回： ガイダンス・東アジア仏教に関する近年の著作の紹介</p> <p>第2回： 河上麻由子『古代アジア世界の対外交渉と仏教』前半</p> <p>第3回： 河上麻由子『古代アジア世界の対外交渉と仏教』後半</p> <p>第4回： 伴瀬明美等編『東アジアの後宮』2023 前半</p> <p>第5回： 伴瀬明美等編『東アジアの後宮』2023 後半</p> <p>第6回： 加藤勝編『器と信仰ー東アジアの舍利荘厳をめぐる美術史・考古学からのアプローチ』2024 前半</p> <p>第7回： 加藤勝編『器と信仰』後半</p> <p>第8回： 張弓『漢唐佛寺文化史』上</p> <p>第9回： 張弓『漢唐佛寺文化史』下</p> <p>第10回 Forte, Political Propaganda and Ideology in China at the end of the Seventh Century, Kyoto, 2005 前半</p> <p>第11回： Forte, Political Propaganda and Ideology in China at the end of the Seventh Century, Kyoto, 2005 後半</p> <p>第13回： 劉淑芬『中古的社邑与信仰』2023 前半</p> <p>第14回： 劉淑芬『中古的社邑与信仰』2023 後半</p> <p>第15回： 総括</p>					
中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く					

中国哲学史 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況）100%。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：次回の論文・図書を読み内容を把握しておく。関連する研究を探して読む。論文で引用された史料の現代語訳や書き下し（国訳一切経）などを調べておく。

復習：講義内容を復習し，疑問等があれば関連する資料を調査し，次回講義時に発表する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けないが，開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学36

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史 (特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 永田 知之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	漢籍目録法				
[授業の概要・目的]					
漢籍目録の作成要領を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。					
[到達目標]					
各種の漢籍目録（データベースを含む）の構造や内容を読み取る力をつけることにより、目的や用途に応じて必要な漢籍をすぐに検索できるようになる。					
[授業計画と内容]					
漢籍の目録法、書誌情報の採取について解説する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることがあり得る。					
第1回 ガイダンス					
第2回 漢籍の定義（漢籍と目録の関係）					
第3回 カード作成の目的（書誌の基本）					
第4回 書名（表題の確定）					
第5回 書名（合刻と合綴）					
第6回 書名（漢籍の同定）					
第7回 巻数（書誌の特徴）					
第8回 撰者（書籍への関与の形態）					
第9回 撰者（書籍に関与した人物の情報）					
第10回 鈔刻（複製の手法）					
第11回 鈔刻（刊行年と出版者）					
第12回 鈔刻（底本の表示）					
第13回 鈔刻（特殊な情報）					
第14回 叢書・増出・地志カードの作成					
第15回 まとめ					
フィードバックの方法については、授業時に指示する。					
[履修要件]					
特になし					
----- 中国哲学史 (特殊講義)(2)へ続く -----					

中国哲学史 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。
評価の6割はレポート、4割は平常点による。
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房,2024）ISBN:4480512765（筑摩書房1991年版を文庫化）

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社,2003）ISBN:9784891746346

京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター編集 『漢籍目録 カードのとりかた』（朋友書店,2005）ISBN:9784892811067

（関連URL）

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/toho/html/top.html>(東方学デジタル図書館)

[https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80\(%E8%B3%87%E6%96%99\).pdf](https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80(%E8%B3%87%E6%96%99).pdf)(漢籍目録入門（資料）（中里見敬氏）)

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/130672/1/kogusho.pdf>(工具書について 漢籍の整理（永田知之）)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/106/0/106_1493/_pdf/-char/ja(漢籍整理備忘録 中国の古典籍・古文書の理解のために（小島浩之氏）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学37

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史 (特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 永田 知之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	漢籍分類法				
[授業の概要・目的]					
四部分類法を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。					
[到達目標]					
書物の分類を通じて漢字文化の特徴を理解することにより、西洋近代に由来する學術の枠組みを超えた幅広い視野を養う。					
[授業計画と内容]					
『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』に基づき、分類法について解説すると共に、漢籍に関わる諸事象を紹介する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることがあり得る。					
第1回 ガイダンス					
第2回 経部・概説					
第3回 経部・五経等 (経注疏合刻類～春秋類)					
第4回 経部・四書等 (四書類～小学類)					
第5回 史部・概説					
第6回 史部・叙述形式 (正史類～載記類)					
第7回 史部・制度、伝記、地理 (詔令奏議類～政書類)					
第8回 史部・資料、史論 (書目類～史評類)					
第9回 子部・概説					
第10回 子部・思想、技術 (儒家類～術数類)					
第11回 子部・趣味、宗教 (芸術類～道家類)					
第12回 集部・概説					
第13回 集部・各論					
第14回 叢書部					
第15回 まとめ					
フィードバックの方法については、授業時に指示する。					
[履修要件]					
特になし					
----- 中国哲学史 (特殊講義)(2)へ続く -----					

中国哲学史 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。
評価の6割はレポート、4割は平常点による。
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房,2024）ISBN:4480512765（筑摩書房1991年版を文庫化）

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社,2003）ISBN:9784891746346

吉川幸次郎 『吉川幸次郎遺稿集 第1巻』（筑摩書房,1995）ISBN:4480746412

程千帆・徐有富著、向嶋成美・大橋賢一・樋口泰裕・渡邊大訳 『中国古典学への招待 目録学入門』（研文出版,2016）ISBN:9784876364091

（関連URL）

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/65024/2/kanseki_bunrui.pdf(京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧：部-類-属-目-例)

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/refguide/13216>(漢籍の探し方（大西賢人氏）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET12 71540 SJ36				
授業科目名 <英訳>	中国哲学史 (演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 池田 恭哉		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	水2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	阮元の文章を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>阮元 (1764-1849) は言うまでもなく清朝考証学を代表する学者である。この授業では、彼の著作『ケン経室集』(ケン: 研+手)の中から、経学を中心として思想に関わる内容の文章を選読する。文章のジャンルは序・論・跋・書など多岐にわたる。</p> <p>多彩なテーマやジャンルの文章を読むことは、特定の分野に偏らない中国古典全般にわたる読解能力を高めるとともに、その考証の手法や表現の方法を学ぶことをも可能にするであろう。そして同時代の学者が、同じテーマに対して考察を展開していた場合、時に阮元を離れてでも、それについて検証していくので、清朝という時代の学的風潮も体感できる。</p> <p>話題は経学を中心としつつ、中国の多様な時代、分野に及ぶことになる。また文章のジャンルも特定のものにこだわらない。そのため中国哲学史に限らない、様々な専攻の学生の積極的な出席を歓迎する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・中国古典文献を、典拠や用例を調べ、その原典にあたりながら正確に読解できる。 ・読解の成果を自然な日本語に訳し、また適切な注釈を附すことで、訳注の形で提示する能力を身につける。 ・文献に披瀝されている考証の手法を体得することを目指す。 ・読解内容に対する阮元以外の考証をも検討することで、同一テーマに対する多角的な視野を持つ力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>毎回の担当者を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。読む文章は教員が適宜選択するが、履修者の興味関心を見て決定する予定である。</p> <p>1 ガイダンス 2 ~30 阮元の文章を読む</p> <p>例：釈達、太極乾坤説、儀礼喪服大功章伝注舛誤考、孝経解、漢読考周礼六卷序、与洪[竹+均]軒頤暄論三朝記書、十三経注疏校勘記序、大雅文王詩解、左伝引康誥解、詩書古訓序、孝経先王即文王説</p> <p>フィードバックの方法は授業時に説明する。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 中国哲学史 (演習) (2)へ続く -----					

中国哲学史 (演習) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点による（訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加などを総合的に判断する）。

[教科書]

授業中に指示する
テキストはコピーして配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

演習は何より学生が主役であるため、自身の意見を言うためには、相応の予習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET12 71541 SJ36				
授業科目名 <英訳>	中国哲学史 (演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 古勝 隆一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『玉燭宝典』講読				
[授業の概要・目的]					
この授業では、隋代の時令書である杜台卿『玉燭宝典』を講読する。テキストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはもちろんだが、それをサポートする、書誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。					
[到達目標]					
以下の三点が具体的な到達目標である。 <ul style="list-style-type: none"> ・『玉燭宝典』の日本中世写本を読みとる能力を養う。 ・『玉燭宝典』を正確に理解し、適切な日本語に訳す。 ・出典を調べ、注釈を施す。 					
[授業計画と内容]					
『玉燭宝典』十二巻のうち、巻五「附説」部分を読む <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 ガイダンス ・第2回 『玉燭宝典』の諸本について ・第3回 『玉燭宝典』の引用について ・第4回 「附説曰此月夏至」以下の部分の講読 ・第5回 「裴玄新言云」以下の部分の講読 ・第6回 「續齊諧云」以下の部分の講読 ・第7回 「南方之事」以下の部分の講読 ・第8回 「けい楚四民」以下の部分の講読 ・第9回 「爾雅釋草云」以下の部分の講読 ・第10回 「南方民又競渡」以下の部分の講読 ・第11回 「多六齊放生」以下の部分の講読 ・第12回 「淮南万畢術云」以下の部分の講読 ・第13回 「淮南子云」以下の部分の講読 ・第14回 「風俗通云」以下の部分の講読 ・第15回 フィードバック (詳細は授業時に指示する) 					
[履修要件]					
中級程度の中国語を修得していること。					
----- 中国哲学史 (演習)(2)へ続く -----					

中国哲学史 (演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点による。平常点は、授業への参加状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。

[教科書]

授業中に指示する
必要なテキストは教室にて配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。
『新華字典』『古代漢語詞典』『王力古漢語字典』。

[授業外学修(予習・復習)等]

必ず予習した上で、授業に出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学40

科目ナンバリング		G-LET12 71541 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史 (演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 古勝 隆一	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『玉燭宝典』講読				
[授業の概要・目的]					
この授業では、隋代の時令書である杜台卿『玉燭宝典』を講読する。テキストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはもちろんだが、それをサポートする、書誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。					
[到達目標]					
以下の三点が具体的な到達目標である。 <ul style="list-style-type: none"> ・『玉燭宝典』の日本中世写本を読みとる能力を養う。 ・『玉燭宝典』を正確に理解し、適切な日本語に訳す。 ・出典を調べ、注釈を施す。 					
[授業計画と内容]					
『玉燭宝典』十二巻のうち、巻二「附説」部分を読む <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 ガイダンス ・第2回 「附説曰孔子内備經」以下の部分の講読 ・第3回 「けい楚記云謝靈運孫」以下の部分の講読 ・第4回 「此月民并種戒火」以下の部分の講読 ・第5回 「周書云春分之日」以下の部分の講読 ・第6回 「けい楚記云婦人以一双竹著」以下の部分の講読 ・第7回 「其婚禮小正云」以下の部分の講読 ・第8回 「魏武明罰令云」以下の部分の講読 ・第9回 「孫楚祭子推文」以下の部分の講読 ・第10回 「琴操云晋重耳」以下の部分の講読 ・第11回 「春秋傳云且出怨言」以下の部分の講読 ・第12回 「七諫云推割完」以下の部分の講読 ・第13回 「此節城市尤多」以下の部分の講読 ・第14回 「山海大荒西經云」以下の部分の講読 ・第15回 フィードバック (詳細は授業時に指示する) 					
[履修要件]					
中級程度の中国語を修得していること。					
----- 中国哲学史 (演習)(2)へ続く -----					

中国哲学史 (演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点による。平常点は、授業への参加状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。

[教科書]

授業中に指示する
必要なテキストはPDFにて配布する。

[参考書等]

(参考書)

毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。
『新華字典』『古代漢語詞典』『王力古漢語字典』。

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に工具書類を用いて文意を読み取っておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学41

科目ナンバリング		G-LET12 71541 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史 (演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 福谷 彬		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『朱文公文集』精読				
[授業の概要・目的]					
<p>中国宋代の朱子学に関わる文献を精読することを通じて、史料を読解し、思想を深く理解するための能力を身に着ける。</p> <p>朱子学は中国だけでなく、前近代の朝鮮や日本の社会にも大きな影響を与えた。しかし、朱子学を正しく理解するためには、中国の伝統的な経学の知識はもとより、哲学的思考も必要なため、独学は難しい。本演習では、基本的な参照文献・工具書を紹介しつつ、朱子学を深く理解するための素地を養って頂きたい。</p>					
[到達目標]					
<p>講義では講師は自分の見解を示すが、最も大切なのは参加者自身が自分で考える姿勢を身に着けることであると考えている。疑問や着想、読みたい文献を、受講者の側から出してくれることを歓迎したい。</p> <p>自ら文献を集め、問題を見つけ、考察を深める方法を身に着けることを到達目標とする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進めるが、進捗によっては変更もあり得る。</p> <p>第一回 ガイダンス 第二回～第十四回 『朱文公文集』を精読 第十五回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。					
[教科書]					
教材は担当教員が準備する。					
----- 中国哲学史 (演習)(2)へ続く -----					

中国哲学史 (演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

特に前提となる専門的な知識などは要求しないが、広く東アジアや中国の伝統思想や文化に関心を有する学生の履修を期待する。また、各自の関心や専門など、必要に応じて、授業時に紹介した史料や参考文献などを適宜、参看することが望まれる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学42

科目ナンバリング		G-LET12 71541 SJ36			
授業科目名 <英訳>	中国哲学史 (演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 福谷 彬		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『朱文公文集』精読				
[授業の概要・目的]					
<p>中国宋代の朱子学に関わる文献を精読することを通じて、史料を読解し、思想を深く理解するための能力を身に着ける。</p> <p>朱子学は中国だけでなく、前近代の朝鮮や日本の社会にも大きな影響を与えた。しかし、朱子学を正しく理解するためには、中国の伝統的な経学の知識はもとより、哲学的思考も必要なため、独学は難しい。本演習では、基本的な参考文献・工具書を紹介しつつ、朱子学を深く理解するための素地を養って頂きたい。</p>					
[到達目標]					
<p>講義では講師は自分の見解を示すが、最も大切なのは参加者自身が自分で考える姿勢を身に着けることであると考えている。疑問や着想、読みたい文献を、受講者の側から出してくれることを歓迎したい。</p> <p>自ら文献を集め、問題を見つけ、考察を深める方法を身に着けることを到達目標とする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進めるが、進度によっては変更もあり得る。</p> <p>第一回 ガイダンス 第二回～第十四回 『朱文公文集』を精読 第十五回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。					
[教科書]					
教材は担当教員が準備する。					
----- 中国哲学史 (演習)(2)へ続く -----					

中国哲学史 (演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

特に前提となる専門的な知識などは要求しないが、広く東アジアや中国の伝統思想や文化に関心を有する学生の履修を期待する。また、各自の関心や専門など、必要に応じて、授業時に紹介した史料や参考文献などを適宜、参看することが望まれる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学43

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学 (特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 天野 恭子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	ヴェーダ祭式文献研究				
[授業の概要・目的]					
<p>ヴェーダ祭式文献は、後のインドの哲学・宗教思想の出発点とも言える重要な文献である。所謂バラモン階級の司祭による専門書としての性格が強いが、その儀礼には土着文化や非正統派の文化の要素が多く含まれ、近年はこの視点からヴェーダ祭式文化を検討し直す研究が活発化している。本特殊講義では、シャタパタブラーフマナおよびタイッティリーヤブラーフマナ（紀元前7～6世紀）における「人間供犠」の記述を精読し検討する。ヴェーダ祭式文化の持つ多様性、多重性が発展する流れと、同時に起こっていた正統派ヴェーダ祭式の普及という複雑な局面を、文献の記述の中に考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>インドの哲学・宗教の源であるヴェーダ祭式文化、特にその多重性について理解する。ヴェーダ語（古典サンスクリット語より古い形を残す古拙な言語）を正しく理解する手法を習得する。正統派のバイアスのある文献記述から、非正統派について理解する視点を得る。「人間供犠」という儀礼が持ちうる意味について深い考察を得、古代インドだけでなく普遍的な人間の精神文化の一端について理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 ヴェーダ祭式文献に関する基礎知識。人間供犠についての研究史。 第2回 シャタパタブラーフマナの文献史における位置づけ。言語と伝承の特徴。 第3-12回 シャタパタブラーフマナ「人間供犠」章の記述の検討。 第13-15回 シャタパタブラーフマナ「人間供犠」章と、タイッティリーヤブラーフマナ「人間供犠」章の比較研究。</p>					
[履修要件]					
<p>基礎的なサンスクリット読解能力が必要。サンスクリット未習者でも履修を許可する場合があるので、未習者は担当教員に相談してください。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>授業の予習・復習、授業時の発言より評価する。</p>					
[教科書]					
<p>授業中で読むテキストや資料は、授業の中で配布する。</p>					
----- インド古典学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

インド古典学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の予習が必要。授業において指示したヴェーダ文献を読むために必要な方法を予習しながら身に付ける。文献の精読が重要であるため、文法の精密な分析や語意・文意の熟考を行うこと。早く大量に読むことはこの授業では必要としていない。授業中に言及した研究書や論文に、授業後の復習の際に触れておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学44

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学 (特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 沼田 一郎 非常勤講師 谷口 力光		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ダルマ文献の研究				
【授業の概要・目的】					
この講義の目的は、ダルマ文献の研究史、文献史、文献講読を通してヒンドゥー教徒にとっての生活規範、社会制度などについての基礎的な知識を提示することにある。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 先行研究の調査方法を理解する。 ・ 当該分野の通時的な発展と、他分野との関連を理解する。 ・ 具体的な研究課題を知る。 ・ サンスクリット語の読解能力を高める。 					
【授業計画と内容】					
第1回：文献史の概要：沼田 第2回～第3回：研究史の概要：谷口 第4回～第6回：『マハーバーラタ』 MokSadharna章「王の職務」編講読：沼田 第7回～第9回：『マヌ法典』第7章、『実理論』の講読：沼田 第10回～第12回：VyavahaaramaatRkaa講読：谷口 第13回～15回：家族法関連のダルマ文献テキスト講読：谷口 ・ 実施時期は、2025年8月11日（月）から15日（金）までの、2～4限である。					
【履修要件】					
サンスクリット語の基礎知識があることが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点（予習、復習をふまえた授業参加）により、評価する。					
【教科書】					
適宜、資料を配布する。					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
文献読解のための予習、復習が必要になる。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

東洋文献文化学45

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学 (特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 KUEMMEL, Martin Joachim 非常勤講師 PESCHL, Benedikt Thomas 非常勤講師 BERNARD, Chams Benoit Alex Skandar		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	インド・イランの言語、文献、宗教：インド・イラン共通時代から中世中央アジアまで				
【授業の概要・目的】					
この講義は、インド・イラン語族の言語、文学、宗教への入門を提供する。3名の講師が、古代インド・アーリア語、古アヴェスター語、新アヴェスター語、中期ペルシャ語、バクトリア語、パルティア語、ホラズム語に関連するトピックを扱う。参加者は、これらの言語の、文字体系、音韻論、形態論を含む基本文法を学ぶだけでなく、原典の写本やテキストを実際に読むことで、言語、文学、宗教思想への理解を深めることができる。使用するテキストは主に宗教文献であり、バラモン教、ヒンドゥー教、ゾロアスター教、マニ教に関連するさまざまなトピックについても議論する。					
【到達目標】					
インド・イラン語族の言語、文学、宗教に関連する重要な参考文献についての基本的な知識を習得する。古代インド・アーリア語、古アヴェスター語、新アヴェスター語、中期ペルシャ語、バクトリア語、パルティア語、ホラズム語の基本文法を、通時的および共時的な観点の両方から習得する。講義全体を受講し、指定された読解課題を行うことによって、それぞれの言語で書かれた宗教文献を基本的に読解できる能力を身に付ける。					
【授業計画と内容】					
3名の講師が交代で授業を進める。					
1．インド・イラン語およびイラン語の概要、分類、印欧語の言語接触における主な特徴 (Kuemmel)					
2．アヴェスター語コーパスと伝承についての現代的視点 (Peschl)					
3．中期イラン語についての概説と研究史、中期ペルシャ語の文字とコーパス入門 (文献学の基礎概念)、中期ペルシャ語の数詞 (Bernard)					
4．インド・イラン語の歴史音韻論: 印欧祖語からサンスクリット語および祖イラン語へ (Kuemmel)					
5．アヴェスター語1: 音声学と音韻論 (代表的な音声変化)、古アヴェスター語と新アヴェスター語のテキストサンプル (Peschl)					
6．中期ペルシャ語の歴史音韻論、古代ペルシャ語および中期ペルシャ語文法 (形態統語論) の歴史的発展、テキストサンプル (Bernard)					
7．イラン語の歴史音韻論および形態音韻論: 祖イラン語から古代および中期イラン語へ (Kuemmel)					
8．アヴェスター語2: 形態論、新アヴェスター語のテキストサンプル (Peschl)					
9．中期ペルシャ語の形態論、テキストサンプル; バクトリア語入門、バクトリア文字、歴史音韻論、バクトリア語の数詞 (Bernard)					
10．インド・イラン語の歴史的形態統語論: 名詞・代名詞の屈折と名詞句 (Kuemmel)					
11．アヴェスター語3: 統語論、新アヴェスター語のテキストサンプル (Peschl)					
----- インド古典学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

インド古典学 (特殊講義)(2)

- 1 2 . バクトリア語歴史文法、テキストサンプル (Bernard)
- 1 3 . インド・イラン語の歴史的形態統語論: 動詞システム (Kuemmel)
- 1 4 . 古代におけるアヴェスターの注釈学: 中期ペルシャ語の翻訳および注釈付きの古・新アヴェスター語のテキストサンプル (Peschl)
- 1 5 . バクトリア語の形態統語論 (バクトリア語の歴史を通じての変遷)、バクトリア語の他の言語 (ガンダーリー語、トカラ語) への影響 (言語接触)、テキストサンプル (Bernard)

【履修要件】

サンスクリット語文法を既習していることが望ましいが、既修者でなくても履修可。

【成績評価の方法・観点】

議論への積極的な参加および授業内容の復習。

【教科書】

必要な資料は講義の際に配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修 (予習・復習) 等】

講読箇所の予習および、授業で行われた議論の復習を行うこと。

(その他 (オフィスアワー等))

質問等は授業中や授業後に受けつける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学46

科目ナンバリング	G-LET13 61633 LJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学 (特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 CATT, Adam Alvah		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)				
【授業の概要・目的】					
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 					
【授業計画と内容】					
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1（7週間） 2. Hymn 2（7週間） 3. フィードバックなど（1週間） 					
【履修要件】					
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

東洋文献文化学47

科目ナンバリング	G-LET13 61633 LJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学 (特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授	CATT, Adam Alvah	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)				
【授業の概要・目的】					
紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語 (古期サンスクリット語) はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 					
【授業計画と内容】					
この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定 (学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるように、以下の授業計画は週毎に分けられていない)。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1 (7 週間) 2. Hymn 2 (7 週間) 3. フィードバックなど (1 週間) 					
【履修要件】					
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

東洋文献文化学48

科目ナンバリング	G-LET13 71644 SJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学 (演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Introduction to Iranian Linguistics				
[授業の概要・目的]					
This course offers an introduction to Old and Middle Iranian languages including Avestan, Old Persian and Khotanese. Along with language and literature, students will learn the scripts for writing Avestan, Old Persian and Khotanese as well. The reading materials include Avestan Yasna, Old Persian inscriptions of King Darius I and Khotanese Vajracchedika. Therefore, this course provides glimpses into development of Iranian languages, early history of Iran as well as early Buddhism.					
[到達目標]					
The participants will learn Avestan, Old Persian and Khotanese scripts, Old and Middle Iranian languages and historical grammar of Iranian linguistics.					
[授業計画と内容]					
Week #01 Introduction: From PIE to Indo-Iranian Week #02 Introduction: Avestan languages and Avesta Week #03 Introduction: Old Persian and Cuneiform Week #04 Khotanese and Buddhist texts Week #05 to #07 Reading: Old Avestan Yasna Week #08 to #10 Reading: Behistun Inscription (Old Persian) Week #11 to #14 Reading: Khotanese Vajracchedika Week #15 Feedback					
[履修要件]					
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.					
[成績評価の方法・観点]					
Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final essay. Assessment will be based on class performance (50%) and final essay (50%)					
[教科書]					
授業中に指示する					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- インド古典学 (演習)(2)へ続く -----					

インド古典学 (演習)(2)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET13 71644 SJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学 (演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Introduction to Indian (Paninian) Grammar				
[授業の概要・目的]					
This course offers an introduction to traditional Indian grammar represented by the grammarian Panini. The course content will cover history of Indian grammatical traditions, system of Paninian grammar and its influence. Reading materials include Panini ' s grammar Astadhyayi, commentaries on Astadhyayi as well as Pali, Prakrit and Buddhist grammar developed from Astadhyayi.					
[到達目標]					
The participants will learn the logic and terminology of Paninian grammar, grammatical operations as well as other grammatical traditions based on Astadhyayi.					
[授業計画と内容]					
Week #01 Introduction: Why should we study Indian grammar? Week #02 Introduction: History of scholarship and bibliography Week #03 Introduction: History, influence and terminology of Paninian grammar Week #04 Introduction: Grammatical operations (pratyahara, pratyaya, agama, declension, conjugation) Week #05 Reading: Sarasiddhantakaumudi of Varadaraja (17th cent., Devasthali); Siddhantakaumudi of Bhattoji Diksita (16th-17th cent., Chandra Vasu) Week #06 Reading: Sarasiddhantakaumudi; Siddhantakaumudi Week #07 Astadhyayi (5th-4th cent. BCE, Katre) Week #08 Astadhyayi (Katre) Week #09 Astadhyayi in RV commentary (Sayana 14th cent.) and Kavya commentary (Meghaduta, Mallinatha 14th-15th cent.) Week #10 Kasika of Jayaditya & Vamana (7th cent., Ojihara & Renou) Week #11 Mahabhasya of Patanjali (2nd cent. BCE), Pradipa of Kaiyata (10th-11th cent.) and Uddyota of Nagesa (18th cent., Joshi & Roodbergen) Week #12 Pali grammar: Saddaniti of Aggavamsa (12th cent., Smith) Week #13 Prakrit grammar: Prakrtaprakasa of Vararuci (3rd-4th cent., Cowell) Week #14 Buddhist grammar: Candravyakarana of Candragomin (7th cent., Liebich) Week #15 Feedback					
[履修要件]					
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.					
----- インド古典学 (演習) (2)へ続く -----					

インド古典学 (演習) (2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 天野 恭子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	ヴェーダ祭式文献研究				
[授業の概要・目的]					
<p>ヴェーダ祭式文献は、後のインドの哲学・宗教思想の出発点とも言える重要な文献である。所謂バラモン階級の司祭による専門書としての性格が強いが、その儀礼には土着文化や非正統派の文化の要素が多く含まれ、近年はこの視点からヴェーダ祭式文化を検討し直す研究が活発化している。本特殊講義では、タイッティリーヤブラーフマナ(紀元前7～6世紀)における「人間供犠」の記述を精読し検討する。「人間供犠は本当は行われておらず、記述が作られただけ」という説を問い直すべく、記述の中に含まれる様々な要素(語彙、儀礼行為)の起源を探りながら読み進める。ヴェーダ祭式文献を読んで知識をつけるだけでなく、学説を問い直す経験を共に味わいたい。</p>					
[到達目標]					
<p>インドの哲学・宗教の源であるヴェーダ祭式文化、特にその多重性について理解する。ヴェーダ語(古典サンスクリット語より古い形を残す古拙な言語)を正しく理解する手法を習得する。正統派のバイアスのある文献記述から、非正統派について理解する視点を得る。「人間供犠」という儀礼が持ちうる意味について深い考察を得、古代インドだけでなく普遍的な人間の精神文化の一端について理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 ヴェーダ祭式文献に関する基礎知識。人間供犠についての研究史。 第2回 タイッティリーヤブラーフマナの文献史における位置づけ。言語と伝承の特徴。 第3-15回 タイッティリーヤブラーフマナ「人間供犠」章の記述の検討。</p>					
[履修要件]					
<p>基礎的なサンスクリット読解能力が必要。サンスクリット未習者でも履修を許可する場合があるので、未習者は担当教員に相談してください。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>授業の予習・復習、授業時の発言より評価する。</p>					
[教科書]					
<p>授業中で読むテキストや資料は、授業の中で配布する。</p>					
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----					

インド古典学 (演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の予習が必要。授業において指示したヴェーダ文献を読むために必要な方法を予習しながら身に付ける。文献の精読が重要であるため、文法の精密な分析や語意・文意の熟考を行うこと。早く大量に読むことはこの授業では必要としていない。授業中に言及した研究書や論文に、授業後の復習の際に触れておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学51

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学 (演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授	VASUDEVA , Somdev	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Nyaya and Vaisesika Realist Philosophy in India				
【授業の概要・目的】					
This course is a Sanskrit reading course focussing on the Tarkasamgraha of Annambhatta composed in the 17th century. We will perform a close reading of the selected text and analyze the content paying attention to philosophical themes and controversies with rival schools of thought.					
【到達目標】					
The objective is to familiarize students to read specialized Sanskrit philosophical texts. Students will learn: 1) how to interpret the sutras and commentaries according to the criteria that guided the original authors, and 2) how to interpret the text according to contemporary philological, hermeneutic and philosophical theories. Students will be introduced to standard form of English translation commonly used to translate such material.					
【授業計画と内容】					
week 1: padartha, dravya, guna week 2: karma, samanya, visesa week 3: samavaya, non-existence, the elements week 4: time and space week 5: the self week 6: the mind, the sensory media week 7: maturation week 8: number, size week 9: separateness, union week 10: division week 11: otherness and belonging week 12: language week 13: intellect and experience week 14: cause and effect week 15: reflection					
【履修要件】					
特になし					
----- インド古典学 (演習)(2)へ続く -----					

インド古典学 (演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

participation in class. preparation and translation in class.

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Preparation of material before each week's reading.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET13 71644 SJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学 (演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山口 周子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	パーリ語講読				
[授業の概要・目的]					
<p>パーリ語は、上座部仏教系の聖典書写に使用された主要言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様、インド古典学および仏教学の学習・研究を進めるうえで極めて有益な言語のひとつである。</p> <p>また、その音韻的特徴などを把握することで、古典サンスクリット語やヴェーダ語といった古代インド語に対する知識を深めることも期待できる。</p> <p>テキスト講読を通してパーリ語の読解力を付けることを目指す。(上座部仏教に伝わる「ジャータカ(本生譚)」に収録の短編物語を講読テキストとする。)</p> <p>なお、文法的な事柄については、講読を進める中で、必要に応じて解説する。</p>					
[到達目標]					
今後の学習や研究に必要なパーリ語原典テキストを自力で読解できる程度の語彙力と読解力を身につける。					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーリ語について(言語的特徴などについて概説) ・精読に必要な辞書や文法書などの紹介 ・講読テキストのプリント配布 ・講読テキストに関する概説(物語の内容、関連テキストなど) <p>第2回-14回：テキスト講読：Sasajaataka (J316: 兔本生譚)</p> <p>学期末テスト</p> <p>第15回：フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪読形式を基本とする。文法事項等、テキストの理解に必要な事柄は、必要に応じて解説を加える。 ・授業の進度は、受講生の理解度に応じて変更する場合がある。 ・上記講読テキストが予定より早く読み終わられた場合、Saaratthappakaasinii (Samyuttanikaaya 注釈書)にある Sakka に関する箇所を読む。 					
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----					

インド古典学 (演習)(2)

【履修要件】

初級程度のサンスクリット語読解力があること。

【成績評価の方法・観点】

平常点（テキスト読解力、あるいは内容理解への積極性：50点）と学期末テスト（50点）による。
（ 学期末テストは初見テキストを問題とし、辞書・文法書などの持ち込みは可とする。 ）

【教科書】

プリント配布

【参考書等】

（参考書）

Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』（The Pali Text Society）ISBN:0 86013 318 4

水野 弘元 『パーリ語文法』（山喜房佛書林）ISBN:4-7963-0010-4

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・テキスト講読は輪読形式で行うため、原則として予習をして臨むこと。
- ・初学者はできる範囲で予習し、復習に重点をおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET13 71644 SJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 芳原 綾子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アルダマーガディー入門				
[授業の概要・目的]					
<p>現在もインド国内で教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点もある。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディー(Amg)は、中期インド語の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。Amgで書かれたテキストを実際に読み、必要な参考書を使い、音韻変化等になれる。</p>					
[到達目標]					
<p>アルダマーガディー(Amg)で書かれたテキストを読み、サンスクリットとは異なる、音韻変化や文法をもつ中期インド語の特徴を理解する。単語の意味や語形を調べるために必要な参考書類を使用ようになる。撰文の読解を通して、Amgで書かれた経典を保持してきたジャイナ教の基本的な思想を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1回目:アルダマーガディーに関する概説と辞書・参考書、および、Amgのテキストを伝承してきたジャイナ教白衣派の紹介 2回目:母音と子音の音韻変化 3回目:名詞変化 4回目:代名詞の変化 5回目:a語幹動詞、e語幹動詞の活用(現在形、未来形) 6回目:過去時制、分詞etc. 7回目:出家者の1日の過ごし方を述べる『ウッタラジャヤナ』第26章からの抜粋 8回目:日課をまとめた『アーヴァッサヤ』のテキスト紹介と第1章「サーマーイカ」の撰文の読解 9~11回目:『アーヴァッサヤ』第4章「Pratikramana」の撰文の読解 12~14回目:『アーヴァッサヤ』第5章「Kaya-utsarga」の撰文の読解 15回目:全体のまとめ テキストの読解に際しては、出席者のサンスクリットの知識を考慮して進める。</p>					
[履修要件]					
初級サンスクリット文法を履修していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点:授業内での発言(和訳等含む)					
[教科書]					
<p>コピーを配布する 渡辺研二 「アルダ・マーガディー語文法入門(1)-(3)」 『ジャイナ教研究』第14-16号, 2008--2010. インド古典学(演習)(2)へ続く</p>					

インド古典学 (演習)(2)

F. van den Bossche. A Reference Manual of Middle Prakrit Grammar. Gent. 1999.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

予習：サンスクリット語文法の既習者は、同じ文法事項についてサンスクリット語の場合を確認する。

復習：各回、文法事項の確認

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学54

科目ナンバリング	G-LET13 71644 SJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学 (演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Introduction to Indo-European Linguistics				
[授業の概要・目的]					
This course offers an introduction to Indo-European Linguistics and basic knowledge of different Indo-European language families including Anatolian, Indo-Iranian, Greek, Italic, Germanic, Celtic, Balto-Slavic, Tocharian and Armenian. Along with language and literature, students will learn the various scripts for writing these languages. After brief introduction of grammar, reading materials of various languages will be studied and analysed.					
[到達目標]					
The participants will learn the basic theories of Indo-European Linguistics and basic knowledge of different Indo-European language families including Anatolian, Indo-Iranian, Greek, Italic, Germanic, Celtic, Balto-Slavic, Tocharian and Armenian.					
[授業計画と内容]					
Week #01 Introduction: Research history of Indo-European Linguistics Week #02 Introduction: Indo-European language families Week #03 Introduction: Important books, papers and online databases. Week #04 to #14 Anatolian, Indo-Iranian, Greek, Italic, Germanic, Celtic, Balto-Slavic, Tocharian and Armenian. Grammar and reading materials. Week #15 Feedback					
[履修要件]					
Knowledge of Sanskrit, Greek or Latin is desired, but not necessary.					
[成績評価の方法・観点]					
Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final essay. Assessment will be based on class performance (50%) and final essay (50%)					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- インド古典学 (演習)(2)へ続く -----					

インド古典学 (演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学55

科目ナンバリング	G-LET13 71644 SJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学 (演習) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授	VASUDEVA, Somdev	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	The Kumarasambhava of Kalidasa				
【授業の概要・目的】					
This course is a Sanskrit reading course focussing on the fourth chapter of the Kumarasambhava of Kalidasa an ornate "Composition in Cantos" completed in the Gupta empire between 415 and 445 CE. The work is a courtly retelling of the mythological events leading to the birth of the God of War.					
【到達目標】					
The objective is to familiarize students to read the specialized Sanskrit of courtly "Compositions in Cantos" (sargabandha) that were the most prestigious literary form of produced by classical poets. Students will learn: 1) how to interpret the grammar, syntax, narrative, and aesthetic content of the work according to the standards that guided the original author and his commentators. 2) We will examine how to interpret the text according to contemporary philological, linguistic, aesthetic and philosophical theories. Students will be introduced to standard form of English translation commonly used to translate such material.					
【授業計画と内容】					
week 1: Introduction to the poet, the literary genre and the style.					
week 2-14: Reading, translation and analysis of the text and occasional consultation of commentarial passages.					
week 15: revision and recapitulation					
【履修要件】					
Completion of first year of Sanskrit study.					
【成績評価の方法・観点】					
participation in class. preparation and translation in class.					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
Preparation of material before each week's reading. approximately one hour per week.					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

東洋文献文化学56

科目ナンバリング	G-LET13 71653 LJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学 (講読) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 天野 恭子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	サンスクリット初級演習 (古典サンスクリット)				
[授業の概要・目的]					
サンスクリット文法を既習した学生を対象とする初級演習。語彙集を備えたリーダーを使って、易しい韻文・散文を読むことで文法知識を確実に身につけること、最終的に辞書を使って自力で原典が読めるようになることを目的とする。					
[到達目標]					
サンスクリット文法をきちんと身につけた上で、テキストを正確に読むことができるようになる。また、サンスクリットの辞書、文法書を有効に使えるようになる。					
[授業計画と内容]					
第1回 これからテキストを読んでいくための基礎的知識と工具書 (文法書・辞書など) の説明を行う。文の基本構造の分析や複合語などのいくつかの文法項目の復習を行う。 第2～6回 教科書のうち、「ナラ王物語」から数章を読む。 第7～11回 「ヒトパデーシャ」からいくつかの物語を選んで読む。 第12～15回 「カターサリットサーガラ」からいくつかの物語を選んで読む。 試験は行わない。					
毎回の進度は受講者の習熟度によるが、文法を正確に分析し、文意を熟考しながら読み進めることが重要である。					
[履修要件]					
サンスクリット文法既習者					
[成績評価の方法・観点]					
毎回の予習および、授業内での発言から評価する。					
[教科書]					
Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』 (Motilal Banardidass) ISBN:978-81-208-1362-2 (インド学研究室にて購入できる。)					
[参考書等]					
(参考書)					
Whitney, William Dwight 『A Sanskrit Grammar』 (Kessinger Publisheng, 1913) ISBN:1430473754 Whitney, William Dwight 『The roots, verb-forms, and primary derivatives of the Sanskrit language』 (
インド古典学 (講読)(2)へ続く					

インド古典学 (講読)(2)

Montilal Banarsidass, 1991) ISBN:8120804848

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回の予習・復習が必須である。特に復習が大事であり、予習が十分できなかった場合も授業には出席して復習をきちんと行うこと。またデーヴァナーガリ文字を学んでいない者は、受講前に自習しておくことが望ましい(サンスクリットやヒンディーの文法書で自習することができる)。

(その他 (オフィスアワー等))

この授業を履修する学生は、後期に開講される「サンスクリット初級演習 (ヴェーダ語)」も履修することが望ましいが、どちらを先に履修してもかまわない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学57

科目ナンバリング		G-LET13 71653 LJ36			
授業科目名 <英訳>	インド古典学 (講読) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 大島 智靖		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	サンスクリット初級演習 (初期サンスクリット [ヴェーダ語])				
[授業の概要・目的]					
サンスクリット基礎文法の既習者を対象とする初級演習。ヴェーダ聖典の原文を講読しながら、初期サンスクリット (ヴェーダ語) の文法や原典講読の方法論の基礎を習得する。					
[到達目標]					
サンスクリット語の文章を正確に分析する技法を学ぶ。音韻、文法、語形成法についての知識を、実際の原典講読に生かす、原典研究の基礎的な力を身に付ける。サンスクリット原典研究に必要な、基本的な研究書の使い方を学ぶ。本授業では、古典サンスクリットとは異なる古い特徴を残す、初期サンスクリット語 (ヴェーダ語) を扱うため、その語形・文法理解に欠かせないヴェーダ語文法の基礎知識も学ぶ。ヴェーダ聖典という、非常に古い文献を扱うため、古代インド社会の歴史的・文化的背景、特にヴェーダ祭式についての知見も得る機会となる。					
[授業計画と内容]					
Lanman, C. R., A Sanskrit Readerを教科書とし、その中のヴェーダ聖典を引用している部分を学習する。同時に、W. D. Whitney, Sanskrit Grammarを参照してもよいが、A Vedic Grammar for Studentsの使用にも習熟することを目指す。 引用されているヴェーダ聖典は、韻文で作られた讃歌や、散文で記された神学的祭式解釈など、幅広いジャンルを含むが、そのような様々な文体、内容に触れる。参加者は、A Sanskrit Readerに集録されている語彙集を用いて事前に原文を訳し、授業で発表する。それに加え、原典を実際に研究する際に必要な専門書を授業の中で紹介し、使用の手ほどきをする。					
第1回 ヴェーダ聖典についての概論。 第2回～第15回 テキスト精読 (リグヴェーダ讃歌、様々なブラーフマナ神話)。					
[履修要件]					
サンスクリット文法既習者。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 (講読の予習および授業内容の復習の状況) によって評価する。					
----- インド古典学 (講読)(2)へ続く -----					

インド古典学 (講読)(2)

[教科書]

Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』 ISBN:978-81-208-1363-2 (インド古典学研究室にて購入できる。)

[参考書等]

(参考書)

Macdonell, A. A. 『A Vedic Grammar for Students』 (D. K. Printworld (P) Ltd, 2010.) ISBN:81-246-0126-7 (インド古典学研究室にて購入できる。)

Macdonell, A. A. 『Vedic Grammar』 (De Gruyter, 1910; Bhartiya Publishing House, 1975, etc.) ISBN:9783111204703

Whitney, William Dwight 『Sanskrit Grammar』 (rep. Dover Publications, 2003.) ISBN:9780486431369

Goto, Toshifumi 『Old Indo-Aryan Morphology and Its Indo-Iranian Background』 (Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 2013.) ISBN:978-3-7001-6948-2

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回の予習が必須であるが、予習をしていなくても欠席しないこと。原典を丁寧に精読するため、量的には多く進まないが、一語一語の音韻の問題、文法形、語彙の意味を吟味し、文全体の構造もよく考えて予習を行う必要がある。授業で習ったことを、必要があればいつでも見直しできるように、知識を蓄積するノートや何らかのシステムを、それぞれが工夫して作ることが望ましい。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET13 71653 LJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学 (講読) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木3	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	German Reading in Indology and Buddhology				
[授業の概要・目的]					
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>					
[到達目標]					
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.					
[授業計画と内容]					
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks)</p> <p>Week #01 Tools & Tips</p> <p>1.1. Lexika, Handbooks, Tools</p> <p>1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic)</p> <p>1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher)</p> <p>Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;</p> <p>Week #02 Introduction to German Indology</p> <p>2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics</p> <p>2.2. Buddhist Studies</p> <p>2.3. Jaina Studies</p> <p>Reference: Bechert & von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmut von Glasenapp-Stiftung</p> <p>Website: https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.shtml ; https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks)</p> <p>Week #03 Indology in German</p> <p>3.1. Important Scholars</p> <p>3.2. Representative Works</p> <p>3.3. Reading Exercise</p> <p>Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;</p> <p>Website: https://whowaswho-indology.info ;</p>					
----- インド古典学 (講読)(2)へ続く -----					

インド古典学 (講読)(2)

Week #04 Indology in German

4.1. Important Scholars

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

[履修要件]

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

[成績評価の方法・観点]

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

インド古典学 (講読)(3)へ続く

インド古典学 (講読)(3)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET13 71653 LJ36				
授業科目名 <英訳>	インド古典学 (講読) Indological Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木3	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	German Reading in Indology and Buddhology				
[授業の概要・目的]					
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>					
[到達目標]					
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.					
[授業計画と内容]					
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks) Week #01 Tools & Tips 1.1. Lexika, Handbooks, Tools 1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic) 1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher) Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;</p> <p>Week #02 Introduction to German Indology 2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics 2.2. Buddhist Studies 2.3. Jaina Studies Reference: Bechert & von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmuth von Glasenapp-Stiftung Website: https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml ; https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks) Week #03 Indology in German 3.1. Important Scholars 3.2. Representative Works 3.3. Reading Exercise Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen; Website: https://whowaswho-indology.info ;</p>					
----- インド古典学 (講読)(2)へ続く -----					

インド古典学 (講読)(2)

Week #04 Indology in German

4.1. Important Scholars

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

【履修要件】

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

インド古典学 (講読)(3)へ続く

インド古典学 (講読)(3)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学60

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学 (特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ツォンカパの説く仏教の実践とその典拠研究				
[授業の概要・目的]					
チベット仏教を代表する大学者のひとりである、ゲルク派の祖ツォンカパが大乗仏教の実践について著した論書のひとつに『菩提道次第大論』がある。本特殊講義は、インド大乗仏教の実践と比較しながら『菩提道次第大論』を精読し、ツォンカパとインド仏教双方の実践についての理解を深めることを目的とする。					
[到達目標]					
ツォンカパの説く実践の検討を通じて、ツォンカパとインド仏教双方の実践に対する理解を深める。					
[授業計画と内容]					
授業は『菩提道次第大論』を通読しながら進める。ツォンカパに関する研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、本講義で扱う『菩提道次第大論』にも既に和訳が存在するが、既存の研究を批判的に扱いながら授業に参加することが望まれる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の立場も十分に把握しておくことが求められる。授業は、初回に『菩提道次第大論』について概説し、二回目から十四回目は、『菩提道次第大論』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。					
フィードバック方法は授業中に説明する。					
[履修要件]					
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。後期の同特殊講義をあわせて受講することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点による。					
[教科書]					
テキストはコピーして配布する。					
----- 仏教学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

仏教学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学61

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学 (特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ツォンカパの説く仏教の実践とその典拠研究				
[授業の概要・目的]					
チベット仏教を代表する大学者のひとりである、ゲルク派の祖ツォンカパが大乗仏教の実践について著した論書のひとつに『菩提道次第大論』がある。本特殊講義は、インド大乗仏教の実践と比較しながら『菩提道次第大論』を精読し、ツォンカパとインド仏教双方の実践についての理解を深めることを目的とする。					
[到達目標]					
ツォンカパの説く実践の検討を通じて、ツォンカパとインド仏教双方の実践に対する理解を深める。					
[授業計画と内容]					
<p>前期に引き続き、十四回目までの授業は『菩提道次第大論』を通読しながら進める。ツォンカパに関する研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、本講義で扱う『菩提道次第大論』にも既に和訳が存在するが、既存の研究を批判的に扱いながら授業に参加することが望まれる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の立場も十分に把握しておくことが求められる。授業は、『菩提道次第大論』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。必要があれば、初回に『菩提道次第大論』について概説する。第十五回の授業にはフィードバックを行う。</p> <p>フィードバック方法は授業中に説明する。</p>					
[履修要件]					
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。前期の同特殊講義を受講していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点による。					
[教科書]					
テキストはコピーして配布する。					
----- 仏教学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

仏教学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET14 61831 LJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 船山 徹	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	漢語經典の偽作と編輯：失訳『舍利弗問經』を読む(1)				
[授業の概要・目的]					
<p>インド仏教の実態を知る主な資料としてサンスクリット語やパーリ語の「原典」のほかに、「漢訳」(古典漢語に翻訳)された中国語訳やチベット語訳などの「翻訳」があります。特に漢訳はチベット語訳より数世紀早く行われた場合が多いので、比較的早期の、形成途中にあったインド仏教史の生資料として価値が高いです。一方、インドを離れて中国に目を転ずると、中国仏教を知る主な資料としては「漢訳」のほかに、中国人の自国語による著作があり、それらは写本や木版印刷、石刻資料(石碑)等の形で数多く残ります。そしてそれ以外に、「漢訳」で満足できなかった内容を漢訳されたという形で偽造した經典——「偽經」(偽作經典)——から知られる中国仏教徒の活動や、偽作ではないけれども複数の漢訳を適宜抽出して作成した「編輯經典」も大きな役割を果たしました。</p> <p>この授業では5世紀中国の仏教書誌の実態を示す例として『舍利弗問經』を取り上げ、それをゆっくりと丁寧に読みながら、この經典に見られる1偽經的要素と2編輯經典的要素と3翻訳經典としての要素を具体的に把握し、中国仏教における翻訳史の現実に迫ります。</p>					
[到達目標]					
<p>一、仏典漢訳史(仏典漢訳の歴史的変異)の概略を理解する。 二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。 三、漢訳仏典の読解力を向上させ、漢訳仏典の適切な現代日本語訳を作る力を養成する。</p> <p>あわせて次の3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵經に関する知識と使用上の留意点。 2. 仏教漢文の訓読法(仏教に特有の訓読の問題点を含む)。 3. 電子化された一次資料の使い方と留意事項。 					
[授業計画と内容]					
第1回	仏典漢訳史の概説：後漢から北宋までの翻訳史				
第2回	仏典漢訳史の概説：翻訳作成方法の二類型				
第3回	偽經の特徴と事例紹介				
第4回	大蔵經の歴史				
第5回	大蔵經電子版の使い方				
第6回	編輯經典の特徴と事例紹介				
第7回	失訳『舍利弗問經』の概要、特に前半の内容				
第8回	『舍利弗問經』訓読(大正蔵24巻899頁下段)：序				
第9回	『舍利弗問經』訓読(大正蔵24巻900頁上段#12316中段)：仏滅後100年余りの伝法の様子				
第10回	『舍利弗問經』訓読(大正蔵24巻900頁中段#12316下段)：部派分裂について				
第11回	『舍利弗問經』訓読(大正蔵24巻900頁下段)：「主要五部派」(偽經的要素)				
第12回	『舍利弗問經』と「主要五部派」を説く偽經群とを比較する				
第13回	『舍利弗問經』訓読(大正蔵24巻900頁下段#12316901頁上段)：僧衣と食事の決まり				
仏教学(特殊講義)(2)へ続く					

仏教学 (特殊講義)(2)

第14回 『舍利弗問經』訓読（大正蔵24巻901頁上段）：飲酒の決まり
第15回 前期精読箇所 of 整理とまとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（原文精読を必ず一度は担当する。積極的に意見と質問を提起する）。
自らの疑問や調べた内容について発言し、出席者たち全員に意見交換を促す。

【教科書】

教科書は使用しません。
授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。
特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店、2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史の全貌を知るための唯一の概説書。アマゾンの読者レビューも参照。）

Funayama Toru 『Chinese Buddhist Apocrypha』（Brill, 2015）ISBN:978-90-04-28343-5（Brill's Encyclopedia of Buddhism, Brill, 2015, pp. 283-291. 出席者にPDFを配布します。）

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。
特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：
配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を必ず準備しなさい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。
授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。
授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学 (特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 船山 徹	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	漢語經典の偽作と編輯：失訳『舍利弗問經』を読む(2)				
[授業の概要・目的]					
<p>インド仏教の実態を知る主な資料としてサンスクリット語やパーリ語の「原典」のほかに、「漢訳」(古典漢語に翻訳)された中国語訳やチベット語訳などの「翻訳」があります。特に漢訳はチベット語訳より数世紀早く行われた場合が多いので、比較的早期の、形成途中にあったインド仏教史の生資料として価値が高いです。一方、インドを離れて中国に目を転ずると、中国仏教を知る主な資料としては「漢訳」のほかに、中国人の自国語による著作があり、それらは写本や木版印刷、石刻資料(石碑)等の形で数多く残ります。そしてそれ以外に、「漢訳」で満足できなかった内容を漢訳されたという形で偽造した經典——「偽經」(偽作經典)——から知られる中国仏教徒の活動や、偽作ではないけれども複数の漢訳を適宜抽出して作成した「編輯經典」も大きな役割を果たしました。</p> <p>この授業では5世紀中国の仏教書誌の実態を示す例として『舍利弗問經』を取り上げ、それをゆっくりと丁寧に読みながら、この經典に見られる1偽經的要素と2編輯經典的要素と3翻訳經典としての要素を具体的に把握し、中国仏教における翻訳史の現実に迫ります。</p>					
[到達目標]					
<p>一、仏典漢訳史(仏典漢訳の歴史的変異)の概略を理解する。 二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。 三、漢訳仏典の読解力を向上させ、漢訳仏典の適切な現代日本語訳を作る力を養成する。</p> <p>あわせて次の3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵經に関する知識と使用上の留意点。 2. 仏教漢文の訓読法(仏教に特有の訓読の問題点を含む)。 3. 電子化された一次資料の使い方と留意事項。 					
[授業計画と内容]					
第1回	中国中世仏教を理解するための工具書				
第2回	中国中世仏教を理解するために役立つウェブサイト				
第3回	失訳『舍利弗問經』の概要、特に後半の内容				
第4回	『舍利弗問經』訓読(大正蔵24巻901頁中段#12316下段): 善悪と輪廻転生				
第5回	『舍利弗問經』訓読(大正蔵24巻901頁下段): 善悪と八部鬼神				
第6回	『舍利弗問經』訓読(大正蔵24巻902頁上段): 善悪と八部鬼神(続き)				
第7回	『舍利弗問經』訓読(大正蔵24巻902頁上段): 四大比丘の善行				
第8回	『舍利弗問經』訓読(大正蔵24巻902頁中段): 善行と受戒、得戒(編輯經典的要素)				
第9回	『舍利弗問經』と『法顯伝』に特徴的な語彙との関係				
第10回	『舍利弗問經』訓読(大正蔵24巻902頁下段): 悪行と三悪道への墮落				
第11回	『舍利弗問經』訓読(大正蔵24巻902頁下段): 釈迦族の出家				
第12回	『舍利弗問經』訓読(大正蔵24巻902頁下段#12316903頁上段): 文殊と舍利弗				
仏教学(特殊講義)(2)へ続く					

仏教学 (特殊講義)(2)

- 第13回 『舍利弗問經』 末尾に見られる唐突さと奇妙な末尾：偽經的要素か編輯的要素か？
第14回 前期後期の全体を通じて得られた『舍利弗問經』の内容的特徴と言語的/語彙的特徴
第15回 総括：『舍利弗問經』が我々に伝えるメッセージ：内容、言語、時代背景

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（原文精読を必ず一度は担当する。積極的に意見と質問を提起する）。
自らの疑問や調べた内容について発言し、出席者たち全員に意見交換を促す。

【教科書】

使用しない

教科書は使用しません。

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。
特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史の全貌を知るための唯一の概説書。アマゾンの読者レビューも参照。）

Funayama Toru 『Chinese Buddhist Apocrypha』（Brill, 2015）ISBN:978-90-04-28343-5（Brill's Encyclopedia of Buddhism, Brill, 2015, pp. 283-291. 出席者にPDFを配布します。）

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備しなさい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学64

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学 (特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	チベット仏教瞑想論 / Theories of Meditation in Tibetan Buddhism				
[授業の概要・目的]					
<p>We will investigate the relation between oral/textual tradition (Tibetan: thos pa), philosophical inquiry (bsam pa) and meditative practices (sgom pa) in Tibet, by focusing on the literature of theories of meditation and of spiritual advice.</p> <p>We will provide first a general overview of such various literary genres and of the history of meditation and yoga in Tibet. Then we will focus especially on the tradition of the School of the Ancients (rNying ma pa), following its classification of Buddhist teachings which culminates in the Great Perfection (rDzogs chen), considered as the pinnacle of both sUltra-s and tantra-s.</p> <p>We will read a selection of texts by Klong chen Rab 'byams pa (1308-1363), 'Jigs med gling pa (1730-1798), etc.</p> <p>We will intend to elucidate such materials by situating them in the broader history of Buddhist philosophy, psychology and epistemology. Especially, we will consider two main cognitive faculties, "mindfulness" and "clear comprehension" (dran pa dang shes bzhin), and their training in connection to the soteriological question of the recognition of the "nature of mind" (sems nyid).</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> - Acquiring the fundamental knowledge of theories of meditation in Tibetan Buddhism - Developing Tibetan reading skills and critical research methodology in this field 					
[授業計画と内容]					
<p>Class 1. Introduction</p> <p>Classes 2-14. Reading selected Tibetan texts</p> <p>Class 15. Wrap-up session and feedback</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
Evaluation is made according to active participation and presentation.					
----- 仏教学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

仏教学 (特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Tibetan texts and secondary literature will be provided or indicated at each class for the preparation of the next class.

(その他 (オフィスアワー等))

DEROCHE Marc-Henri: deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET14 61831 LJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学 (特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国の僧伝を読むー 『続高僧伝』 講読				
[授業の概要・目的]					
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、道宣自身が僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の実地踏査をもとに幾度も増補改訂を行ったものであり、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、『続高僧伝』の各種版本・撰者道宣の伝記について概観した後、主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、中国仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>今年度は昨年度に引き続き訳経篇巻に収録された人物を検討する。具体的には北朝後期から隋代にかけて生きた彦琮をとりあげる。彦琮は北齊の名門趙郡李氏の出身であり、早くから梵語仏典にも通じていた。翻訳事業への参与を通じて西域事情にも通じ、玄奘が弟子に『大唐西域記』を編纂させるにあたり彼の『西域伝』を参照させたとされる。近年彦琮について、その翻訳論や国家論、文学など、多角的に検討した齊藤隆信『釈彦琮の研究』が上梓された。この書を参照しその内容を検討することも同時に行う。</p>					
[到達目標]					
<p>内容面</p> <p>一、インド仏教と中国仏教との差異を学ぶ。</p> <p>二、隋代の主要な僧の経歴を把握し、隋の仏教復興政策について理解する。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p> <p>技能面</p> <p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、仏教漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A ・ S A T などの電子仏典資料や様々な工具書について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回： 『続高僧伝』を読むために必要な基本的資料と工具書</p> <p>第2回： 『続高僧伝』講義 道宣の略伝・諸版本・訳注レジュメ作成方法の説明</p> <p style="text-align: right;">仏教学 (特殊講義)(2)へ続く</p>					

仏教学 (特殊講義)(2)

第3回：	『続高僧伝』講義	彦琮の経歴
第4回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝1
第5回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝2
第6回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝3
第7回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝4
第8回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝5
第9回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝6
第10回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝7
第11回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝8
第12回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝9
第13回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝10
第14回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝11
第15回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝12

【履修要件】

古典漢文読解の基礎的な能力や現代中国語文読解能力があれば望ましいが、学ぶ意欲のある方であればどなたでも受講を歓迎する。

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況またはレポート）100%。

【教科書】

中華書局『続高僧伝』郭紹林校点本（2013）を基本テキストとして使用する。蘇小華『續高僧傳校注』も随時参照する。他に多数の版本を対校に用いる。すべてデータあるいはプリントとして配布する。

【参考書等】

（参考書）

『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8, 9, 10』（大東出版社）（書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

『大乘仏典 中国・日本篇』（中央公論社）（『続高僧伝』の何人かの伝記について現代語訳と注を掲載）

『新国訳大蔵経・『続高僧伝』1』（大蔵出版）（巻六までの書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

齊藤隆信『釈彦琮の研究』（臨川書店，2022）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：僧伝をあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し（国訳一切経）各種版本の文字の異同等を調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

仏教学 (特殊講義)(3)へ続く

仏教学 (特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET14 61831 LJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東アジア仏教史に関する研究書講読				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義は9世紀頃までの東アジア仏教史研究の近年の動向を把握し、新しい研究の視点・方法を身につけるのが目的である。</p> <p>特に王権とのかかわり、社会とのかかわり、都市と山林の仏教、女性と仏教、戒律(寺院生活)動物と仏教 仏教文物、国家間の交流といった幅広いテーマをとりあげたい。</p> <p>講義においては、毎回事前にテーマを決め、関連論文あるいは図書を用意するので、全員があらかじめそれを読んで出席し授業で自由に討論を行う形で進める。テーマごとに担当者を決め、関連論文図書のその概要や方法論、資料などを簡潔にまとめたレジュメを用意する。授業計画で示した書籍はあくまで一例であり、参加者の希望により題材とする論文・図書を柔軟に変更する。</p>					
[到達目標]					
<p>内容面</p> <p>一、近年の東アジア仏教史の研究動向を学ぶ。</p> <p>二、東アジア仏教史研究の諸相について学ぶ。</p> <p>技能面</p> <p>一、研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み込むことができる。</p> <p>二、異なる視点から見れば同じ史料に対し別の解釈がなされることを理解する。</p> <p>三、主体的かつ論理的に自己の意見を述べ、議論することができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回： ガイダンス・東アジア仏教に関する近年の著作の紹介</p> <p>第2回： 河上麻由子『古代アジア世界の対外交渉と仏教』前半</p> <p>第3回： 河上麻由子『古代アジア世界の対外交渉と仏教』後半</p> <p>第4回： 伴瀬明美等編『東アジアの後宮』2023 前半</p> <p>第5回： 伴瀬明美等編『東アジアの後宮』2023 後半</p> <p>第6回： 加藤勝編『器と信仰——東アジアの舍利荘厳をめぐる美術史・考古学からのアプローチ』2024 前半</p> <p>第7回： 加藤勝編『器と信仰』後半</p> <p>第8回： 張弓『漢唐佛寺文化史』上</p> <p>第9回： 張弓『漢唐佛寺文化史』下</p> <p>第10回 Forte, Political Propaganda and Ideology in China at the end of the Seventh Century, Kyoto, 2005 前半</p> <p>第11回： Forte, Political Propaganda and Ideology in China at the end of the Seventh Century, Kyoto, 2005 後半</p> <p>第13回： 劉淑芬『中古的社邑与信仰』2023 前半</p> <p>第14回： 劉淑芬『中古的社邑与信仰』2023 後半</p>					
仏教学(特殊講義)(2)へ続く					

仏教学 (特殊講義)(2)

第15回： 総括

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業内での発言・発表状況）100%。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
その他の参考文献については講義中に随時提示する。

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：次回の論文・図書を読み内容を把握しておく。関連する研究を探して読む。論文で引用された史料の現代語訳や書き下し（国訳一切経）などを調べておく。
復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学67

科目ナンバリング	G-LET14 71841 SJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学 (演習) Buddhist Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	インド中期中観派と空思想をめぐる諸問題研究				
【授業の概要・目的】					
ナーガールジュナの名著『中論』には様々な立場から多数の注釈が著され、それによって中観派も様々に展開していく。本演習では、サンスクリットも現存するチャンドラキールティのプラサンナパダーを中心に、関連する諸注釈も参照しながら、そこに見られる多様な議論の検討を通して、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深めることを目的とする。					
【到達目標】					
『プラサンナパダー』に見られる多様な議論を検討しながら、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深める。					
【授業計画と内容】					
初回の授業の中で、著者、著作、背景等についてイントロダクションを行い、二回目から十四回の授業では、『プラサンナパダー』を精読しながら、関連する諸問題について解説ならびに議論を行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。					
フィードバック方法は授業中に説明する。					
【履修要件】					
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。後期の演習もあわせて受講することが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点による。					
【教科書】					
テキストはコピーして配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-LET14 71841 SJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学 (演習) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	インド中期中観派と空思想をめぐる諸問題研究				
【授業の概要・目的】					
ナーガールジュナの名著『中論』には様々な立場から多数の注釈が著され、それによって中観派も様々に展開していく。本演習では、サンスクリットも現存するチャンドラキールティのプラサンナパダーを中心に、関連する諸注釈も参照しながら、そこに見られる多様な議論の検討を通して、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深めることを目的とする。					
【到達目標】					
『プラサンナパダー』に見られる多様な議論を検討しながら、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深める。					
【授業計画と内容】					
前期に引き続き、十四回目までの授業では、『プラサンナパダー』を精読しながら、関連する諸問題について解説ならびに議論を行う。必要があれば、初回の授業の中で、著者、著作、背景等についてイントロダクションを行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。					
フィードバック方法は授業中に説明する。					
【履修要件】					
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。前期の演習も受講していることが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点による。					
【教科書】					
テキストはコピーして配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-LET14 71841 SJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 岸野 良治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	仏教戒律文献の解読				
[授業の概要・目的]					
<p>仏教に関する正確な知識を得るためには、仏典の解読は欠かせない。とりわけ、仏教がインドで生まれたことを勘案すれば、インド語原典の解読が極めて重要であることは論を俟たないであろう。ところが、その「インド語原典」は、必ずしもインド語写本で十分な量が現存しているわけではない。むしろ、チベット語訳や漢訳など、他の言語で現存している場合が多く、結果、仏教のインド語原典を解読するには、インド語写本以外にも、チベット語訳や漢訳などの文献を解読する必要があるのである。</p> <p>本授業では、仏教のインド語原典を解読するための技法を身につけることを目指し、その一例として、とくに戒律文献をとりあげる。より具体的に言えば、遅くとも6世紀頃までに成立した『ヴィナヤ・サンクラハ』という戒律の綱要書である。この『ヴィナヤ・サンクラハ』は、現代の研究者が概して「根本説一切有部律」と呼ぶ巨大な戒律テキストの綱要書であり、残念ながら、インド語では現存していない。しかしながら、チベット語訳と漢訳(義浄[635-713]による翻訳)で全文が現存している。また、そこには、当然のことながら「根本説一切有部律」からの引用が多く、同律のサンスクリットで現存している部分の引用に関しては、サンスクリットの回収が可能である。そのため、本授業では、チベット語訳と義浄訳の『ヴィナヤ・サンクラハ』を解読し、「根本説一切有部律」からの引用に関しては、適宜サンスクリットテキストも併読する。</p> <p>付言すると、義浄訳の『ヴィナヤ・サンクラハ』は、とくに近世後期以降の日本の仏教界に大きな影響を与えたテキストとしても知られている。その意味で、本授業における『ヴィナヤ・サンクラハ』の解読は、日本仏教に関心のある者にとっても重要な機会となるであろう。</p> <p>なお、本授業を受講するにあたっては、すでにサンスクリット、チベット語テキスト、漢籍という三者を解読する基礎的な技能を有していることが望ましいことは確かである。しかしながら、必ずしもその限りではない。サンスクリットやチベット語テキストだけでなく義浄訳も多用するために、例えば、漢籍のみ解読することができる者でも大いに歓迎する。</p>					
[到達目標]					
<p>仏教の戒律テキストの概要と研究状況の大局を把握するとともに、それを実際に解読するための手法や技術の基礎を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>授業においては、まず、仏教の戒律テキストの現存状況を概説する。また、その戒律テキストに対してどのような研究がなされているのかということ、特に本授業に直接かわる「根本説一切有部律」に重点をおいて解説する。そして、それらの基礎的な知識を確認した後に、実際にテキストの解読に入る。解読するテキストに関しては、こちらでプリントを作成し、適宜配布する。大まかな予定は以下の通りである。</p>					
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----					

仏教学 (演習)(2)

第一～四回 戒律テキストの概要と研究状況の解説
第五～十五回 資料の読解

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

岸野亮示編 『戒律研究へのいざない』 (臨川書店、2024) ISBN:9784653045830

岸野亮示、ジャクリーヌ・ストーン 『現世の活動と来世の往生 (シリーズ実践仏教II)』 (臨川書店、2020) ISBN:9784653045724

【授業外学修 (予習・復習) 等】

授業配布資料を予習・復習すること。出席者には課題をそのつど課す。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学70

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学 (演習) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	人と社会の未来研究院 教授 熊谷 誠慈	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	仏教思想研究 (インド・チベット宗教哲学文献精読)				
【授業の概要・目的】					
<p>本授業では、ボン教 (チベットの土着宗教) の範疇論的存在論を理解すべく、テトゥン・ギェルツェンペル (14世紀) 著『ボン門明示』 (Bon sgo gsal byed) を精読する。加えて、インド仏教思想からの影響を分析すべく、Abhidharmakosaについても適宜参照する。また、受講者の興味に応じて適宜、他の文献の精読やディスカッションを行い、さらには応用仏教学的な学際的議論も行うなど、総合的に仏教思想の理解を深めることを目標とする。</p> <p>本授業はチベット語文献の精読に基づいて行うため、受講者はすでにチベットを習得していることが望ましい。さらに、サンスクリット語および漢訳テキストも適宜参照することから、サンスクリット語および漢文についても一定の読解技術が要求される。</p>					
【到達目標】					
古典チベット語文献を原典で精読しながら、思想を体系的に整理することを目標とする。					
【授業計画と内容】					
<p>初回は『ボン門明示』のイントロダクションを行う。</p> <p>第2回～第15回は、『ボン門明示』の精読・分析を行う。また、受講者の興味に応じて適宜、他の文献の精読、ディスカッションを行い、さらには応用仏教学的な学際的議論も行うなど、総合的に仏教思想の理解を深めることを目標とする。</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
成績評価は、平常点に基づいて行う。					
【教科書】					
授業中に指示する テキストおよび資料については適宜授業中に配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
配布資料を事前に参照し、文献を事前に精読してくること。					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

東洋文献文化学71

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	宗教情報センター 京都支社 研究員 佐藤 直実	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	大乘仏教經典の読解				
[授業の概要・目的]					
チベット語訳『阿しゆく仏国經』敦煌写本の講読を行う。					
<p>阿しゆく(skt. AkSobhya, tib. mi 'khrugs pa)仏は、東方・妙喜世界を主宰する他土仏である。西方・極楽世界の阿弥陀仏と共に、大乘仏教黎明期に登場し、般若經や維摩經にも記され、後に四方四仏の東方仏として定着する。密教では金剛界曼荼羅の東方に据えられ、後期密教では、大日如来に代わり、曼荼羅の主尊になる場合もある。</p> <p>『阿しゆく仏国經(skt. AkSobhya vyUha, tib. mi 'khrugs pa'i bkod pa)』は、阿しゆく仏の修行から成道、涅槃にいたるまでの半生と、その仏国土の様子を描く經典で、大乘仏教興起のなぞを解くための重要な資料である。インド原典は散逸しているが、漢訳が2種類、チベット語訳が1種類ある。</p> <p>チベット語訳には「碑文」1種と「文献」があり、「文献」にはチベット大蔵經所収の写本・版本合計11本と、蔵外写本3本がある。</p> <p>本演習では、蔵外写本の中から「敦煌写本」を扱う。敦煌写本は吐蕃王国時代(8c-9c)に書写されたものであり、『阿#38310仏国經』の中で現存する最古の文献である。3フォリオほどの断片で、第1章前半に相当する。授業では、大蔵經所収のチベット語訳と漢訳2訳を参照しながら、読み進め、チベット大蔵經の伝承過程について概説する。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 古典チベット語で書かれた仏教經典の読解力の養成 2) チベット大蔵經並びに大乘仏教の基礎知識の習得 3) 仏教文献学の研究手法の習得 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 テキストの概説と資料配付 第2-14回 敦煌写本『阿しゆく仏国經』の講読 第15回 フィードバック</p>					
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----					

仏教学 (演習)(2)

【履修要件】

わからないことに関しては、授業中に積極的に質問してください。

【成績評価の方法・観点】

授業時の発表及び平常点をもとに総合的に評価。
テストは行わない。

【教科書】

授業中に資料を配付する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業時に読むテキスト箇所の和訳。必要に応じて、その背景についても調べる。

(その他(オフィスアワー等))

わからないことに関しては、授業中に積極的に質問してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36			
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学 文化学部 教授 志賀 浄邦	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	シャーンタラクシタ作『真実集成』及びカマラシーラ作『真実集成細注』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>8世紀インドおよびチベットにおいて活躍した学僧シャーンタラクシタによる著作『真実集成(Tattvasamgraha)』とその弟子カマラシーラによる『真実集成細注(Tattvasamgrahapanjika)』第9章「行為とその報いの関係の考察」と第7章第4節「ジャイナ教徒によって構想されたアートマンの考察」を講読する。本著作『真実集成』は独立作品でありながら、ダルマキールティの認識論・論理学の注釈書的な側面も合わせ持っている。本授業では、上記のテキストを精読することを通して、ミーマーンサー学派の業報論またジャイナ教のアートマン(ジーヴァ)論はいかなるものであったか、またそれに対して無我の立場に立つ仏教徒からはどのような批判がなされたのか、ジャイナ教徒と仏教徒の論争の争点はいかなるものであったかといった問題について考察することを目的とする。当該テキストには、対論者の見解が他の論書等から忠実に引用されている場合も少なくないため、テキストの読解と同時にサンスクリット断片の収集・精査も合わせて行いたい。</p> <p>また本著作には様々な学派の見解が引用・紹介されていることから、このテキストを読み解くことを通して7～8世紀インドの思想状況を概観することができる。『真実集成』の他の章・節(特に第7章第1～3節)の記述とも比較しながら、本著作のインド思想史上における位置づけも試みたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・サンスクリットおよびチベット語で書かれたテキストを正確に読解することができるようになる。 ・テキスト上の問題点に気づき、それを発見・指摘し的確に修正できるようになる。 ・先行研究を批判的に検討した上で、独自の意見・見解を打ち出せるようになる。 ・電子データをはじめとする周辺資料を駆使することにより、チベット訳テキストをサンスクリット断片と同定できるようになる。 ・テキストを読解する過程で遭遇した問題に対して適切に問いを設定し、立論と論証によりそれを解決することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>授業では『真実集成』及び『真実集成細注』第9章「行為とその報いの関係の考察」と第7章第4節「ジャイナ教徒が構想したアートマンの考察」を講読する。担当者が作成した校訂テキストを元に、先行研究等を参考にしながら、批判的に精読する。</p> <p>第1～2回 インド哲学諸派による業報論・アートマン論 第3～5回 仏教徒による無我説についての概説</p> <p>第6～14回 『真実集成』及び『真実集成細注』第9章および第7章第4節の講読と解説(受講生による輪読形式)</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----					

仏教学 (演習)(2)

受講生と議論を交わしながら原典テキストを読み進めるという授業の性格上、授業各回の進度は異なる。

【履修要件】

サンスクリット、チベット語、英語の基本的な読解能力を必要とする。

【成績評価の方法・観点】

平常点による。(毎時間の発表が100%)

【教科書】

授業中に指示する
その他、授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

- ・講読するテキストを事前に配布するので、その回に読む箇所を事前に精読しておくこと。
- ・テキスト上の問題点等について、指摘・質問できるよう準備しておくこと。
- ・その回に読んだ箇所について再度読み直し、授業で議論された問題点等を再度確認しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

質問等は授業の前後に受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET14 71841 SJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学 (演習) Buddhist Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山口 周子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	パーリ語講読				
[授業の概要・目的]					
<p>パーリ語は、上座部仏教系の聖典書写に使用された主要言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様、インド古典学および仏教学の学習・研究を進めるうえで極めて有益な言語のひとつである。</p> <p>また、その音韻的特徴などを把握することで、古典サンスクリット語やヴェーダ語といった古代インド語に対する知識を深めることも期待できる。</p> <p>テキスト講読を通してパーリ語の読解力を付けることを目指す。(上座部仏教に伝わる「ジャータカ(本生譚)」に収録の短編物語を講読テキストとする。)</p> <p>なお、文法的な事柄については、講読を進める中で、必要に応じて解説する。</p>					
[到達目標]					
今後の学習や研究に必要なパーリ語原典テキストを自力で読解できる程度の語彙力と読解力を身につける。					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーリ語について(言語的特徴などについて概説) ・精読に必要な辞書や文法書などの紹介 ・講読テキストのプリント配布 ・講読テキストに関する概説(物語の内容、関連テキストなど) <p>第2回-14回：テキスト講読：Sasajaataka (J316: 兔本生譚)</p> <p>学期末テスト</p> <p>第15回：フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪読形式を基本とする。文法事項等、テキストの理解に必要な事柄は、必要に応じて解説を加える。 ・授業の進度は、受講生の理解度に応じて変更する場合がある。 ・上記講読テキストが予定より早く読み終わられた場合、Saaratthappakaasinii (Samyuttanikaaya 注釈書)にある Sakka に関する箇所を読む。 					
----- 仏教学 (演習)(2)へ続く -----					

仏教学 (演習)(2)

【履修要件】

初級程度のサンスクリット語読解力があること。

【成績評価の方法・観点】

平常点（テキスト読解力、あるいは内容理解への積極性：50点）と学期末テスト（50点）による。
（ 学期末テストは初見テキストを問題とし、辞書・文法書などの持ち込みは可とする。 ）

【教科書】

プリント配布

【参考書等】

（参考書）

Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』（The Pali Text Society）ISBN:0 86013 318 4

水野 弘元 『パーリ語文法』（山喜房佛書林）ISBN:4-7963-0010-4

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・テキスト講読は輪読形式で行うため、原則として予習をして臨むこと。
- ・初学者はできる範囲で予習し、復習に重点をおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学74

科目ナンバリング	G-LET14 71841 SJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 芳原 綾子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アルダマーガディー入門				
[授業の概要・目的]					
<p>現在もインド国内で教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点もある。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディー(Amg)は、中期インド語の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。Amgで書かれたテキストを実際に読み、必要な参考書を使い、音韻変化等になれる。</p>					
[到達目標]					
<p>アルダマーガディー(Amg)で書かれたテキストを読み、サンスクリットとは異なる、音韻変化や文法をもつ中期インド語の特徴を理解する。単語の意味や語形を調べるために必要な参考書類を使用ようになる。撰文の読解を通して、Amgで書かれた経典を保持してきたジャイナ教の基本的な思想を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1回目:アルダマーガディーに関する概説と辞書・参考書、および、Amgのテキストを伝承してきたジャイナ教白衣派の紹介 2回目:母音と子音の音韻変化 3回目:名詞変化 4回目:代名詞の変化 5回目:a語幹動詞、e語幹動詞の活用(現在形、未来形) 6回目:過去時制、分詞etc. 7回目:出家者の1日の過ごし方を述べる『ウッタラジャヤナ』第26章からの抜粋 8回目:日課をまとめた『アーヴァッサヤ』のテキスト紹介と第1章「サーマーイカ」の撰文の読解 9~11回目:『アーヴァッサヤ』第4章「Pratikramana」の撰文の読解 12~14回目:『アーヴァッサヤ』第5章「Kaya-utsarga」の撰文の読解 15回目:全体のまとめ テキストの読解に際しては、出席者のサンスクリットの知識を考慮して進める。</p>					
[履修要件]					
初級サンスクリット文法を履修していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点:授業内での発言(和訳等含む)					
[教科書]					
コピーを配布する 渡辺研二 「アルダ・マーガディー語文法入門(1)-(3)」 『ジャイナ教研究』第14-16号, 2008--2010. 仏教学(演習)(2)へ続く					

仏教学 (演習)(2)

F. van den Bossche. A Reference Manual of Middle Prakrit Grammar. Gent. 1999.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

予習：サンスクリット語文法の既習者は、同じ文法事項についてサンスクリット語の場合を確認する。

復習：各回、文法事項の確認

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET14 71841 SJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学 (演習) Buddhist Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 菊谷 竜太		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	インド・チベット密教注釈文献を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>インド後期仏教においてカリユガ期の一切知者と呼ばれたラトナーカラシャーンティ (10世紀頃) の著した「ヘーヴァジュラ」注『真珠の首飾り (Muktavali)』ならびに顕密双修の著名な学匠アバヤーカラグプタ (11世紀頃) によってまとめられた密教百科事典的注釈書『口伝としての如意樹の花房 (Amnayakalpadrumanjari)』両書に加えて、チベットにおけるシャル派の碩学プトウン・リンチェントゥブ (1290-1364年) によって著述された「サンプトードバヴァ」広注『心の真実を明らかにするもの』という三つの注釈文献の部分的精読を通じて、インドからチベットに伝えられた密教注釈文献がもつ基本的性格を明らかにするとともに、その基本的なスタイルと注釈方軌・注釈基準を押さえ、密教注釈文献を読み解く上で必要となる基盤的知識を工具類の使用法とともに身につける。</p> <p>この講義ではとくに各注釈の巻頭あるいは末尾に記された敬礼偈 (mangala) ないし回向偈 (parinama) に組み込まれた著作動機あるいは著作間の関係性に注目し、インド・チベット世界における注釈文献のありかたについて考察を深める。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・サンスクリット語およびチベット語で書かれたテキストを精密に読み解くことができるようになる。 ・原典のテキストを批判的に読解することを通じて、文献学的な問題点に気づき、その問題点についての的確に修正し、あらたな情報を付加することができるようになる。 ・先行研究を批判的に検討した上で、独自の意見あるいは見解を打ち出せるようになる。 ・人文情報学 (DH) にもとづいた諸技術を駆使することにより、平行箇所あるいは原語を想定し、それらの情報を積極的に活用することができるようになる。 ・テキストの読解過程で遭遇した問題に対して適切に問いを設定し、文献学的なエビデンスにもとづき、論理的にそれらの問題を解決することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>授業において『真珠の首飾り』『口伝としての如意樹の花房』『心の真実を明らかにするもの』三書の該当箇所を順次に講読する。基本的に担当者が作成した校訂・訳注テキストにもとづき、先行研究などを対照しつつ、批判的に精読する。</p> <p>第1～3回 イントロダクション・密教注釈文献概説</p> <p>第4～6回 『真珠の首飾り』冒頭部の読解ならびに解説</p> <p>第7回 インド密教における注釈基準 - 「七飾」と「六辺」</p> <p>第8～10回 『口伝としての如意樹の花房』冒頭部の読解ならびに解説</p>					
----- 仏教学 (演習)(2)へ続く -----					

仏教学 (演習)(2)

第11回 インド密教における注釈基準 — 聖典の分類法と注釈方軌

第12～14回 『心の真実を明らかにするもの』冒頭部・終末部の読解ならびに解説

第15回 フィードバック

受講生と議論を交わしながら原典テキストを読み進めるという本授業の性格上、授業各回の進度は異なる場合がある。

[履修要件]

サンスクリット語、チベット語の基本的な読解能力を必要とする。

[成績評価の方法・観点]

平常点による（毎時間の発表が100％）。

[教科書]

授業中に指示する
その他、授業中に適宜プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・ 講読するテキストを事前に配布するので、その回に読む箇所を事前に確認し、精読しておくこと。
- ・ 事前にテキストの問題点などについて、授業中に指摘・質問できるよう準備しておくこと。
- ・ 事後にその回に読んだ箇所について再度読み直し、授業において議論された問題点などについて再度確認し、疑問点を整理しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業の前後に受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学76

科目ナンバリング	G-LET14 71851 LJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学(講読Ⅰ) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	German Reading in Indology and Buddhology				
[授業の概要・目的]					
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>					
[到達目標]					
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.					
[授業計画と内容]					
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks) Week #01 Tools & Tips 1.1. Lexika, Handbooks, Tools 1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic) 1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher) Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur; Week #02 Introduction to German Indology 2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics 2.2. Buddhist Studies 2.3. Jaina Studies Reference: Bechert & von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmuth von Glasenapp-Stiftung Website: https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml ; https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks) Week #03 Indology in German 3.1. Important Scholars 3.2. Representative Works 3.3. Reading Exercise Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen; Website: https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Week #04 Indology in German</p>					
<p>----- 仏教学(講読Ⅰ)(2)へ続く -----</p>					

仏教学 (講読Ⅰ)(2)

4.1. Important Scholars

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

【履修要件】

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

仏教学 (講読Ⅰ)(3)へ続く

仏教学 (講読Ⅰ)(3)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学77

科目ナンバリング	G-LET14 71851 LJ36				
授業科目名 <英訳>	仏教学(講読Ⅰ) Buddhist Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	German Reading in Indology and Buddhology				
[授業の概要・目的]					
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>					
[到達目標]					
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.					
[授業計画と内容]					
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks) Week #01 Tools & Tips 1.1. Lexika, Handbooks, Tools 1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic) 1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher) Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur; Week #02 Introduction to German Indology 2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics 2.2. Buddhist Studies 2.3. Jaina Studies Reference: Bechert & von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmut von Glasenapp-Stiftung Website: https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml ; https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks) Week #03 Indology in German 3.1. Important Scholars 3.2. Representative Works 3.3. Reading Exercise Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen; Website: https://whowaswho-indology.info ;</p>					
----- 仏教学(講読Ⅰ)(2)へ続く -----					

仏教学 (講読Ⅰ)(2)

Week #04 Indology in German

4.1. Important Scholars

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

【履修要件】

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

仏教学 (講読Ⅰ)(3)へ続く

仏教学 (講読Ⅰ)(3)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89628 LJ48				
授業科目名 <英訳>	チベット語(初級)(語学) Tibetan	担当者所属・ 職名・氏名	愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月1	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	チベット語初級				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>					
[到達目標]					
前期はチベット文字およびその読み方を習得し、チベット語の名詞の構造、文での使い方を理解する。					
[授業計画と内容]					
授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション(1週) 2. 文字と発音(4週) 3. 名詞(4週) 4. 形容詞(1週) 5. 助動詞(3週) 6. まとめ(1週) 7. フィードバック(1週) <p>「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。</p> <p>受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。</p>					
[履修要件]					
履修に必要な要件は特にないが、後期のチベット語(初級)をあわせて受講することが望ましい。					
----- チベット語(初級)(語学)(2)へ続く -----					

チベット語 (初級) (語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

成績は、学期末に行う試験（100％）によって決定する。
チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学79

科目ナンバリング	G-LET49 89629 LJ48				
授業科目名 <英訳>	チベット語 (初級) (語学) Tibetan	担当者所属・ 職名・氏名	愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月1	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	チベット語初級				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>					
[到達目標]					
後期は動詞の屈折を中心として学び、文の構造を理解する。					
[授業計画と内容]					
<p>前期のチベット語 (初級) に引き続き、チベット語初級文法を解説する。授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動詞 (5週) 2. 複文他 (5週) 3. チベット語テキスト演習 (4週) 4. フィードバック (1週) <p>基本的な文法の解説を終えた後は、性格の異なる短い文章をできる限り読み、実践的なチベット語の習得を目指す。</p>					
[履修要件]					
前期のチベット語 (初級) を受講していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
<p>成績は、学期末に行う試験 (100%) によって決定する。 チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。</p>					
チベット語 (初級) (語学)(2)へ続く					

チベット語 (初級) (語学)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89630 LJ48				
授業科目名 <英訳>	チベット語(中級)(語学) Tibetan	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水1	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	チベット語(中級)				
[授業の概要・目的]					
この授業は、チベット語初級を学んだ学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めることを目的とする。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中で使われるチベット語も多様であるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げることで、広い分野の仏教文献に対処できる基礎的な能力を身につけることを目指す。					
[到達目標]					
チベット語文法に対する理解を深め、多様なチベット語文献を読解する能力を習得することを目的とする。					
[授業計画と内容]					
この授業では、時代によるチベット語自体の違いや、翻訳文献の中でも経典や注釈といったスタイルの違いも網羅するために、以下のような文献を順に取り上げる予定である。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 古チベット語を含むチベット撰述仏教文献 2. サンスクリット経典からの翻訳文献 3. サンスクリット注釈からの翻訳文献 					
それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴を解説し、読解に必要な内容の説明を行う。その後各文献を四から五週程度かけて輪読する。					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
チベット語初級文法を終えていること。読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。後期のチベット語(中級)をあわせて受講することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。授業中の発表により評価する。					
[教科書]					
授業中にプリントを配布する。					
----- チベット語(中級)(語学)(2)へ続く -----					

チベット語 (中級) (語学)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

それぞれのチベット語文献の性格に注意しながら予習し、問題点を整理しておくことが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文献文化学81

科目ナンバリング		G-LET49 89630 LJ48			
授業科目名 <英訳>	チベット語(中級)(語学) Tibetan	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水1	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	チベット語(中級)				
[授業の概要・目的]					
この授業は、チベット語初級を学んだ学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めることを目的とする。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中で使われるチベット語も多様であるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げることで、広い分野の仏教文献に対処できる基礎的な能力を身につけることを目指す。					
[到達目標]					
チベット語文法に対する理解を深め、多様なチベット語文献を読解する能力を習得することを目的とする。					
[授業計画と内容]					
この授業では、独立した論書と他の論書に対する注釈といった翻訳文献中のスタイルの違いや、翻訳文献とチベット撰述文献の相違に対する理解を深めるため、以下のような文献を順に取り上げる予定である。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. サンスクリット論書からの翻訳文献 2. サンスクリット注釈からの翻訳文献 3. チベット撰述古典チベット語文献 					
それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴を解説し、読解に必要な内容の説明を行う。その後各文献を四から五週程度かけて輪読する。					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
チベット語初級文法を終えていること。読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。前期のチベット語(中級)を受講していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。授業中の発表により評価する。					
[教科書]					
授業中にプリントを配布する。					
----- チベット語(中級)(語学)(2)へ続く -----					

チベット語 (中級) (語学)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

それぞれのチベット語文献の性格に注意しながら予習し、問題点を整理しておくことが求められる。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET12 11502 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(中国哲学史)(講義) History of Chinese Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 池田 恭哉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国哲学史講義()				
[授業の概要・目的]					
中国哲学(思想)の特徴的な考え方や概念について講義をする。その際、その歴史的な展開に留意する。「中国哲学『史』講義」と題する所以である。中国哲学(思想)、それにより醸成された文化は、実に広範な内容を備えており、本講義で取り上げられるのは、そのごく一部に過ぎない。本講義を通じて得た知見を、自らの様々な場面に活かしてほしい。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・中国哲学(思想)における「理」、「気」、「性」などの基本的諸概念の持つ意味を理解する。 ・中国哲学(思想)における物事の見方、捉え方を知り、その歴史的な展開を整理できる。 ・中国哲学(思想)の内容を基礎に、中国文化は言うに及ばず、人類の文化全体についての課題に取り組むことができる。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：中国哲学(思想)について 2 中国思想の流れ 3 儒教・道教・仏教 4 生と死 5 性説 その1(性善説、性悪説) 6 性説 その2(性三品説など) 7 理と気 その1 8 理と気 その2 / 陰陽五行 9 天について(天観念、天人相関など) 10 仁・義 / 経と権 11 忠と孝(君臣・父子) 12 華夷思想 / 文と武 13 隠逸について 14 道統について 15 試験及びフィードバック(詳細は授業時に解説) 					
[履修要件]					
同一科目コードの講義科目を複数回履修しても、成績の良いもののみが単位認定されるので注意すること。					
----- 系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (中国哲学史) (講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

時に課す授業内容に関連する小レポート（30％）と学期末試験（70％）による。

[教科書]

使用しない
資料は授業時に配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

原典を読むことでこそ体感できるものがあるはずです。ぜひ各種の中国古典に触れてみてください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET12 11504 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(中国哲学史)(講義) History of Chinese Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 池田 恭哉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国哲学史講義()				
[授業の概要・目的]					
<p>中国の学問について、特に哲学(思想)と密接に関わる内容を講義する。概略は以下の通りである。</p> <p>中国の学問では、書物(文献)の存在が欠かせないが、まずそれらを内容で区分した「目録学」について紹介する。次に書物を実際に読解する際の指針となる「注釈」の意義を考える。以上を踏まえ、中国哲学(思想)が主に扱う分野のうちで経書(儒教経典)について、各経書の成立や内容を紹介していく。</p> <p>以上を通じ、中国哲学(思想)が経書の注解、読解により営まれたものであることを示し、その学術的な意義を明らかにしたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・中国古典学、中でも哲学(思想)を学ぶ上での基礎的な知識を獲得する。 ・目録学について学び、それが持つ学術的な意義を理解する。 ・様々な注釈の実例を通して、中国古典における注釈が有した意味を体得し、その重要性を説明できる。 ・中国の各種の儒教経典(経書)の成立や内容について整理し、中国古典学における経書およびその学たる経学の位置について理解する。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：経学について 2 目録学について その1 3 目録学について その2 4 注釈について その1 5 注釈について その2 6 易 7 書 8 詩 9 礼・楽 その1 10 礼・楽 その2 11 春秋(左伝) 12 春秋(公羊伝・穀梁伝) 13 論語・孟子・孝経 14 緯書 15 フィードバック(詳細は授業時に解説する) 					
----- 系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (中国哲学史) (講義)(2)

[履修要件]

同一科目コードの講義科目を複数回履修しても、成績の良いもののみが単位認定されるので注意すること。

[成績評価の方法・観点]

時に課す授業内容に関連する小レポート（30％）と学期末試験（70％）による。

[教科書]

使用しない
資料はプリントして配布する。

[参考書等]

（参考書）
野間文史『五経入門 中国古典の世界 (研文選書)』（研文出版）ISBN:4876363749
その他は授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

原典を読むことでこそ体感できるものがあるはずです。ぜひ各種の中国古典に触れてみてください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET12 21550 LJ36				
授業科目名 <英訳>	中国哲学史 (講読) History of Chinese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 池田 恭哉		
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	火2	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「孟子」の思想を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業の最大の目的は、漢文を読むための基礎的な知識を習得し、それらを活用して実際の漢文を読み、その読解力を身につけることである。そのため前期の中盤までは、漢文とその読み方について概説をし、また工具書などを紹介する。</p> <p>概説の後には、実際の漢文読解の段階に進む。今年度はテキストに「孟子」の代表的な注釈書である清・焦循『孟子正義』を用いる。孟子については性善説など高校の授業でその思想に触れたことのある人も多いだろう。本授業では、原典を自分で読むことを通じて、孟子の思想と向き合ってみよう。その際、清朝の焦循が著した孟子の代表的な注釈書である『孟子正義』に導かれつつ読む。中国古典の読解に欠かせない「注釈」の意義を実感し、またその形式に慣れてもらうためである。</p> <p>この授業では、原典の読解を通して、色々な読解の可能性を出席者同士で討議することを特に重視する。漢文読解の基礎は、前期を中心に概説するし、原典の読解も、履修者のペースに合わせて進める。そのため漢文読解の経験、専攻分野を問わず、様々な興味関心から多くの学生の参加を期待する。</p>					
[到達目標]					
<p>目標は下記の5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、漢文を読むための基礎的な知識を習得する。 2、漢文読解における注釈の意義を理解できる。 3、注釈を活用しつつ、自ら出典を調べ、漢文を正確に読める。 4、出典を調べる際に活用する工具書、あたるべきテキストなどを整理できる。 5、自らの読解内容を、根拠を持って他者に提示しつつ議論することで、自らの読解を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>最初のうちは講義形式で進める。時にその内容の定着を見る問いを発し、それに出席者に答えてもらう場合もある。</p> <p>焦循『孟子正義』を読む段階に入ってから、毎回の担当者を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。その際には、担当者以外の出席者の積極的な参画、発言が求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 漢籍に触れる：漢籍の歴史、形態について 3・4 漢文の読み方：直読、訓読、現代語訳について 5・6 漢文の読み方：典故について 7・8 漢文の読み方：注釈について 9 『孟子』とその注釈：その成立と趙岐、朱熹、焦循らによる注釈について 10～30 『孟子正義』の読解と討議（梁恵王章句上） 					
----- 中国哲学史 (講読)(2)へ続く -----					

中国哲学史 (講読)(2)

フィードバックの方法は授業時に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による（教員の発問に対する積極的な回答、訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加、前期末・後期末に課すレポート課題などを総合的に判断する）。

【教科書】

授業中に指示する
テキストはコピーして配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

何より学生が主役であるため、他者が作成した訳注稿に対して自身の意見を言うためには、相応の予習が必要となる。また自身が作成した訳注稿は、復習として後日修正稿を提出してもらう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 11602 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義) History of Sanskrit Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 天野 恭子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	サンスクリット文献史(ヴェーダ文献)				
[授業の概要・目的]					
<p>ヴェーダからウパニシャッドに至るヴェーダ聖典に触れ、古代インドの宗教・思想の展開、古代インド文化・社会のあり方について、学び、考える。古代インドの宗教や歴史について詳しく解説を行うが、それらの知識を得ることだけでなく、当時の宗教文献に向き合い、作者の宗教体験や世界観に迫る体験を、参加者と共に味わいたい。原典の日本語訳を精読し、まず最低限必要な解説をするが、その後は個人個人が文献と向き合う時間を取り、授業の最後にレポートとして提出してもらう。次の授業でそれらのレポートを基にして、様々な視点での解釈を互いに学びつつ、文献への理解を深めていく。古代インドの宗教や歴史を学ぶことを目的の一つとするが、それを広く古代インドを超えて世界を理解することに生かせる視点を養うことが、この授業の重要な目的である。</p>					
[到達目標]					
<p>ヴェーダ文献およびその思想、社会的背景についての基本的な知識を得、古代文献の研究における様々な課題、難題について、理解する。思想や社会を研究する上で、様々な視点を持って研究対象を見ること、自分なりの問いを立てることを学ぶ。文献に書かれたことから思想や文化・社会を読み解く力、さらにその上に想像力を発揮する力も養いたい。古代インドに見られる様々な思想的、社会的事象を普遍的に捉え、古代インドを超えて広く世界全体を見る視点として生かすことを学ぶ。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回	古代インドの歴史と言語				
第2回	インド・アリア人とヴェーダの宗教				
第3回	リグヴェーダ(1):自然神				
第4回	リグヴェーダ(2):社会慣習の神				
第5回	リグヴェーダ(3):多様な神				
第6回	アタルヴァヴェーダの神々(1)				
第7回	アタルヴァヴェーダの神々(2)				
第8回	ヤジュルヴェーダと儀礼の発展				
第9回	ヤジュルヴェーダの儀礼と神々(1)				
第10回	ヤジュルヴェーダの儀礼と神々(2)				
第11回	祭式から哲学へ:ブラーフマナ				
第12回	ウパニシャッド哲学:輪廻と梵我一如(1)				
第13回	ウパニシャッド哲学:輪廻と梵我一如(2)				
第14回	ウパニシャッド哲学:輪廻と梵我一如(3)				
第15回	古代インドの宗教・哲学思想の発展と社会の変化について:まとめ				
系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回授業の際に書く短いレポートを、総合して評価する。

【教科書】

必要な資料は授業中に配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

予習は特に必要ない。毎回の授業で、その日の題材について考えを深め、それを短いレポートに書いて提出する。

(その他(オフィスアワー等))

サンスクリット文献全般について学ぶために、サンスクリット文献史(叙事詩以降)も受講することが望ましい。また、インド思想のその後の展開を知るためには、インド哲学史を受講することをすすめる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET13 11604 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義) History of Sanskrit Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 天野 恭子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	サンスクリット文献史(叙事詩以降)				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業では、インド二大叙事詩『マハーバーラタ』と『ラーマヤナ』および、それ以降に作られた様々なジャンルのサンスクリット文献について、毎回一つの例を取り上げ、歴史的、文化的背景について概説した上で、原文の日本語訳を精読する。個人個人がサンスクリット詩や文学と向き合う時間を取り、授業の最後にレポートとして提出してもらう。歴史や文化について論じるもよし、文学的な視点から作品を味わうもよし。それぞれの視点で原文の日本語訳と向き合う。次の授業ではレポートを基にして、様々な視点、様々な解釈を、互いに学びつつ、文献への理解を深める。サンスクリット文学の歴史・文化・思想的背景を学ぶことを目的の一つとするが、それを広く、古代・中世インドを超えて世界を理解することに生かせる視点を養うことが、この授業の重要な目的である。</p>					
[到達目標]					
<p>様々なジャンルのサンスクリット文献、インド古代・中世の思想、文化、社会についての基本的な知識を得る。思想や文化、社会を研究する上で、様々な視点を持って研究対象を見ること、自分なりの問いを立てることを学ぶ。文献に書かれたことから思想や文化・社会を読み解く力、さらにその上に想像力を発揮する力も養う。古代・中世インド文献に見られる様々な思想的・芸術的・社会的事象を普遍的に捉え、インドを超えて広く世界全体を見る視点として生かすことを学ぶ。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回	サンスクリット文献概説				
第2回	二大叙事詩の内容と成立過程				
第3回	マハーバラタ 1				
第4回	マハーバラタ 2				
第5回	ラーマヤナ				
第6回	ダルマと人生の四大目的(法、実利、愛、解脱): 法典文献				
第7回	政治学文献				
第8回	ヒンドゥー教の形成: 一神教信仰の成立とヒンドゥー神話				
第9回	古伝承文献(プラーナ)の内容概観・形成史				
第10回	プラーナの世界観・時間観				
第11回	説話文学: 動物寓話と大説話				
第12回	サンスクリット美文学(カーヴィヤ) 1				
第13回	サンスクリット美文学(カーヴィヤ) 2				
第14回	演劇と美的体験理論				
第15回	全体の総括				
系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回のレポートにより評価する。

【教科書】

教科書は特に使用しない。考察するサンスクリット文献の日本語訳は、毎回授業時に資料プリントとして配布/アップロードされる。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

各ジャンルごとの参考文献は、その都度授業で紹介する。叙事詩と説話、カーヴィヤについては、世界歴史大系「南アジア史1：先史・古代」(山崎元一・小西正捷編)山川出版社(2007年)の「第9章：文学史の流れ」が参考になる。

【授業外学修(予習・復習)等】

予習は必要ない。毎回の授業で、その日の題材について考えを深め、それを短いレポートに書いて提出する。

(その他(オフィスアワー等))

サンスクリット文献全般について学ぶためには、サンスクリット文献史(ヴェーダ文献)、インド哲学史(前期と後期)も合わせて受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 11702 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(インド哲学史)(講義) History of Indian Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授	VASUDEVA, Somdev	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	History of Indian Philosophy A				
[授業の概要・目的]					
<p>This class aims to give an overview of the most influential traditions of Indian philosophical thought and to present brief summaries of the main doctrines as presented in original sources. We will study the historical development and the main debates that shaped these traditions.</p> <p>本講義では、インドの哲学的思想において最も影響力をもっていた哲学諸派を概観します。授業では、それぞれの学派が伝承してきた主な原典を参照しつつ、それぞれの教義について見ていきます。それによって、それらの諸伝統を形成している思想の歴史的発展と、諸伝統の間で交わされた主要な議論について考えていきます。授業ではサンスクリット語によって書かれた原典を参照しますが、サンスクリット語の知識が必須というわけではありません。また、本講義は英語で進められますが、TA(ティーチング・アシスト)による日本語の簡単な解説も同時に行われます。</p>					
[到達目標]					
<p>1) Students will learn about the principal themes and problems discussed in Indian philosophical thought. 2) Students will become familiar with the historical development of these themes. 3) Students will study the main arguments and positions upheld by competing traditions. 4) Students will study the most important intra-system debates that shaped the development of these traditions. 5) Students will compare the main concepts and methods of Indian philosophical thought with the beliefs of other philosophical traditions.</p> <p>1) インドの哲学思想で論じられている主要なテーマや問題について学ぶ。 2) これらのテーマの歴史的発展を知る。 3) インド思想の諸伝統によって支持されている主な議論や思想的立場を学ぶ。 4) これらの伝統の発展に寄与した重要な議論について学ぶ。 5) インド哲学思想の主な概念や思考方法を、他の哲学的伝統の考え方と比較する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Week 1. Introduction. Is philosophy the same as tradition, darsana or tarka? How do we study it? Can we compare it to other traditions?</p> <p>Week 2. The Vedas and Upanishads as the source. The argument of infallible tradition. The counter-argument of omniscient founders.</p> <p>Week 3. The grammarians and the language of philosophy. The style and content of Patanjali's Great Commentary. The Vakyapadiya and linguistic monism.</p>					
----- 系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (インド哲学史) (講義)(2)

Week 4. Abhidharma and the conceptual vocabulary of Buddhist thought.

Week 5. Yogachara idealism. Phenomenological and ontological emptiness.

Week 6. Nyaya. Knowledge and realism. Liberation through knowledge.

Week 7. Vaisesika categorization. Prasastapada.

Week 8. Samkhya dualism. The Samkhyakarika and the Yuktidipika.

Week 9. Yoga analysis of mental processes. The Yogasutra and its commentaries.

Week 10. Mimamsa hermeneutics. Kumarila and Prabhakara.

Week 11. Advaita Vedanta. Shankara and his followers

Week 12. Visistadvaita and Dvaita Vedanta. Theistic interpretations. Ramanujan and Madhva.

Week 13. Shaiva Siddhanta and Isvarapratyabhijna. Shaiva dualism and non-dualism

Week 14. Navya Nyaya. The Tattvacintamani and its influence on all schools of thought.

Week 15. Review.

第1週：序章。インド「哲学」は、インド思想における「ダルシャナ」や「タルカ」といった伝統と同じか？また、どのようにしてそれを学ぶのか？あるいは、他の伝統と比較することは可能なのか？

第2週：インド思想の資料としてのヴェーダとウパニシャッドについて。「無謬」についての伝統的な議論について。全知者としての創造者に対する反論。

第3週：文法学者と哲学の言語について。パタンジャリの『大注解』の文体と内容。バルトリハリの『ヴァーキャパディーヤ』と言語的一元論について。

第4週：アビダルマ思想および仏教の思想に見られる概念的な語彙について。

第5週：ヨーガーチャラ（瑜伽行）派の観念論（唯心論）。現象学のおよび存在論的な「空」の思想について。

第6週：ニヤーヤ学派の知識論と実在論。彼らの考える「知識による解脱」とは。

第7週：ヴァイシェシカ学派のカテゴリー論について。プラシャスタパーダによる著作を中心に。

第8週：サーンキヤ学派の二元論について。『サーンキヤ・カーリカー』と『ユクティ・ディーピカー』を中心に。

第9週：精神的なプロセスについてのヨーガ学派の考え方について。『ヨーガ・スートラ』とその注釈書を中心に。

第10週：ミーマーンサー学派の聖典解釈学について。クマーリラとプラバーカラの思想について。

第11週：アドヴァイタ・ヴェーダント（ヴェーダント学派の不二一元論）について。シャンカラとその弟子たちの思想的伝統について。

第12週：ヴィシシュタ・アドヴァイタ（ヴェーダント学派の限定（制限）不二一元論）とドヴァイタ・ヴェーダント（ヴェーダント学派の二元論）について。有神論的な解釈について。ラーマヌジャとマドゥヴァの思想。

系共通科目 (インド哲学史) (講義)(3)へ続く

系共通科目 (インド哲学史) (講義)(3)

第13週：シャイヴァ・シッターンタ（シヴァ教の伝統）と『イーシュヴァラ・プラティヤビジュニャー』について。シヴァ教の二元論と一元論。

第14週：ナヴィヤ・ニヤーヤ（新ニヤーヤ学派）について。『タットヴァ・チンターマニ』の内容と、その思想が他のすべての諸学派へ与えた影響について。

第15週：まとめ。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class work 60%. Final paper to be submitted in week 15: 40%.

【教科書】

Garfield, Jay 『Treatise on the Three Natures (Trisvabhavanirdesa)』 (Oxford University Press) (pp. 35-45 in William Edelglass and Jay Garfield (eds.), Buddhist Philosophy: Essential Readings. 2009)

Franco, Eli 『On the Periodization and Historiography of Indian Philosophy.』 (Publications of the De Nobili Research Library) (Periodization and Historiography of Indian Philosophy. Vienna 2013.)

Halbfass, Wilhelm 『The Sanskrit Doxographies and the Structure of Hindu Traditionalism』 (: State University of New York Press) (India and Europe: An Essay in Understanding. Albany, 1988)

Materials distributed in class.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

Details provided in class.

【授業外学修（予習・復習）等】

Preparation consists of reading short articles and text passages in advance for the next week.

（その他（オフィスアワー等））

It is desirable to continue with Indian Philosophy B in the next semester to study the content of the Indian Philosophical traditions in relation to specific themes, especially ontology and epistemology.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET13 11704 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(インド哲学史)(講義) History of Indian Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授	VASUDEVA, Somdev	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	History of Indian Philosophy B				
[授業の概要・目的]					
<p>This class aims to give an overview of the most influential themes and problems debated in the Indian philosophical traditions as presented in original sources. We will study the historical development and the main debates that shaped these traditions.</p> <p>本講義は、インドの哲学的伝統において最も影響力のあったテーマや、諸伝統の間で長年議論されてきた諸問題について概観します。授業では、原典の資料を紹介しながらそれぞれのテーマについて見ていきます。授業ではサンスクリット語によって書かれた原典を参照しますが、サンスクリット語の知識が必須というわけではありません。また、本講義は英語で進められますが、TA(ティーチング・アシスト)による日本語の簡単な解説も同時に行われます。</p>					
[到達目標]					
<p>1) Students will learn about the principal themes and problems discussed in Indian philosophical thought. 2) Students will become familiar with the historical development of these themes. 3) Students will study the main arguments and positions upheld by competing traditions. 4) Students will study the most important intra-system debates that shaped the development of these traditions. 5) Students will compare the main concepts and methods of Indian philosophical thought with the beliefs of other philosophical traditions.</p> <p>1) インドの哲学思想で論じられている主要なテーマや問題について学ぶ。 2) これらのテーマの歴史的発展を知る。 3) インド思想の諸伝統によって支持されている主な議論や立場を学ぶ。 4) これらの伝統の発展に寄与した重要な議論について学ぶ。 5) インド哲学思想の主な概念や思考方法を、他の哲学的伝統の考え方と比較する。</p>					
[授業計画と内容]					
Week 1. Introduction. Metaphysics, Ontology, Epistemology and Cosmology.					
Week 2. Pramana Epistemology. What is an instrument of knowing? How many instruments are there?					
Week 3. Perception					
Week 4. Error and Doubt. What is error? How many types of doubt are there?					
Week 5. Inference. How can vyapti be established?					
-----系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目 (インド哲学史) (講義)(2)

Week 6. Verbal cognition. The relationship between word and meaning. What is a referent?

Week 7. Analogy. Is analogy reliable?

Week 8. Other means of knowledge.

Week 9. Competing ontologies. Elements, categories, or phenomena? Substances, qualities and relations.

Week 10. Theories of Causation.

Week 11. Transformatio, evolution, agency and action.

Week 12. The nature and qualities of the self.

Week 13. Non-existence.

Week 14. Theories of Time.

Week 15. Review.

- 第1週：序章。インド思想における重要なテーマ、形而上学、存在論、認識論、宇宙論について。
第2週：プラマーナ（認識論）について。正しく知るための道具とは何か？それはいくつあるのか？
第3週：正しい認識方法1。直接知覚について。
第4週：誤謬と疑いについて。認識における誤謬（誤り）とは何か？疑いにはどのような種類があるのか？
第5週：正しい認識方法2。推論について。推論における遍充関係はどのようにして確立されるのか？
第6週：正しい認識方法3。ことばによる認識について。ことばと意味の関係とは。ことばの指し示す対象とは何か？
第7週：正しい認識方法4。類推について。類推による認識は、正しい認識根拠として信頼できるのか？
第8週：その他の知識の手段について。
第9週：インド思想において論争される存在論について。存在は要素なのか、カテゴリーなのか、または現象なのか？物質と、性質、そしてそれらを結びつける諸関係について。
第10週：因果関係に関する理論。
第11週：物事の変様と展開について。行為の主体と行為について。
第12週：自己の本質と性質について。
第13週：非存在について。
第14週：インド思想における時間の理論について。
第15週：まとめ。

【履修要件】

特になし

系共通科目 (インド哲学史) (講義)(3)へ続く

系共通科目 (インド哲学史) (講義)(3)

[成績評価の方法・観点]

Class work 60%. Final paper to be submitted in week 15: 40%.

[教科書]

Details provided in class.

[参考書等]

(参考書)

Taber, John 『A Hindu Critique of Buddhist Epistemology: Kumarila on Perception』 (Routledge) (London and New York:, 2005.)

Westerhoff, Jan 『The Dispeller of Disputes: Nagarjuna ' s Vignahavyavartani. 』 (Oxford University Press) (2010)

Dravid, N. S. 『A Bouquet of Flowers of Reasoning (Nayakusumanjali)』 (Indian Council of Philosophical Research) (New Delhi 1996)

Details provided in class.

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Preparation consists of reading short articles and text passages in advance for the next week.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET14 11802 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(仏教学)(講義) Buddhist Studies (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	インド・チベット仏教思想史				
[授業の概要・目的]					
インド・チベット仏教思想史のうち、インドで大乗仏教が興るまでの思想史の流れを概説する。仏教誕生の背景から仏教教義が体系化されていく様子を初期仏教、部派仏教の順に追う。					
[到達目標]					
大乗仏教興起以前のインド仏教の特徴的な思想について、基本的な事項を理解した上で、全体の流れを把握できるようになる。					
[授業計画と内容]					
毎回の授業内容は、おおよそ以下の通りである。					
第1回 序論：仏教と仏教学					
第2回 仏教誕生の背景					
第3回 仏陀の生涯					
第4回 初期仏教：基本的な教説					
第5回 初期仏教：教説の特徴					
第6回 初期仏教：教団の発展					
第7回 部派仏教：アショーカ王と教団の分裂					
第8回 部派仏教：阿含(アーガマ)と論(アピダルマ)					
第9回 説一切有部の思想：概説					
第10回 説一切有部の思想：その世界観					
第11回 説一切有部の思想：五位七十五法の成立					
第12回 説一切有部の思想：五位七十五法					
第13回 説一切有部の思想：因果説と縁起解釈					
第14回 説一切有部の思想：実践と聖者の階位					
第15回 フィードバック					
フィードバック方法は授業中に説明する。					
[履修要件]					
特にないが、後期の仏教学講義をあわせて受講することが望ましい。					
----- 系共通科目(仏教学)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (仏教学) (講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業期間中の7回程度の課題（50％）と筆記試験（50％）を行い、インド仏教の思想の流れと、個々の思想に対する理解にしたがって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習の必要がある時は、授業中に指示する。
授業内容に馴染みがないことが多いと思われるので、毎回の授業後に復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET14 11804 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(仏教学)(講義) Buddhist Studies (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 宮崎 泉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	インド・チベット仏教思想史				
[授業の概要・目的]					
インド・チベット仏教思想史のうち、経量部の思想を含め、インドで大乗仏教が興って以降の思想史の流れを概説する。大乗仏教の興起とその展開を、大乗経典、中観学派、唯識学派、密教の順に追う。さらにチベット仏教について、国家仏教としての色彩の濃い前伝期の仏教と、宗派仏教の性格を持つ後伝期に現れる諸宗派の特徴的な思想を概説する。					
[到達目標]					
インド・チベットにおける大乗仏教興起以降の特徴的な思想について、基本的な事項を理解し、全体の流れも把握できるようになる。					
[授業計画と内容]					
毎回の授業内容は、おおよそ以下の通りである。					
第1回 経量部の思想：概説					
第2回 経量部の思想：三世実有説批判と五位七十五法の整理					
第3回 大乗運動と大乗経典：概説					
第4回 大乗運動と大乗経典：空性と慈悲					
第5回 中観学派の思想：概説					
第6回 中観学派の思想：『中論』に説かれる縁起と空					
第7回 唯識学派の思想：概説とアーラヤ識					
第8回 唯識学派の思想：三性説と空性理解					
第9回 仏教論理学派					
第10回 中期中観派					
第11回 後期インド仏教と密教					
第12回 前伝期のチベット仏教					
第13回 後伝期の仏教諸派の思想1(カダム派、サキャ派、カギユ派)					
第14回 後伝期の仏教諸派の思想2(ニンマ派、ジョナン派、ゲルク派)、宗派折衷運動、ボン教の歴史と思想					
第15回 フィードバック					
フィードバック方法は授業中に説明する。					
-----系共通科目(仏教学)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目 (仏教学) (講義)(2)

[履修要件]

特にないが、後期の授業は前期の内容を引き継ぐものなので、前期の仏教学講義を受講していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

授業期間中の7回程度の課題（50％）と筆記試験（50％）を行い、インド仏教とチベット仏教の思想の流れと、個々の思想に対する理解にしたがって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習の必要がある時は、授業中に指示する。
授業内容に馴染みがないことが多いと思われるので、毎回の授業後に復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

3663001	10	フランス語学フランス文学	フランス語学フランス文学(外国語実習)	実習	30	1	前期	火	4			Justine LE FLOC'H	フランス	○	西洋文献文化学206	学部科目
3663002	10	フランス語学フランス文学	フランス語学フランス文学(外国語実習)	実習	30	1	後期	火	4			Justine LE FLOC'H	フランス	○	西洋文献文化学207	学部科目
9635001	10	フランス語学フランス文学	フランス語(中級)(語学)	語学	30	2	前期	水	4			Justine LE FLOC'H	フランス	○	西洋文献文化学208	学部科目
9635002	10	フランス語学フランス文学	フランス語(中級)(語学)	語学	30	2	後期	水	4			Justine LE FLOC'H	フランス	○	西洋文献文化学209	学部科目
9636001	10	フランス語学フランス文学	フランス語(上級)(語学)	語学	30	2	前期	水	2			Justine LE FLOC'H	フランス	○	西洋文献文化学210	学部科目
9636002	10	フランス語学フランス文学	フランス語(上級)(語学)	語学	30	2	後期	水	2			Justine LE FLOC'H	フランス	○	西洋文献文化学211	学部科目
3702001	11	イタリア語学イタリア文学	イタリア語学イタリア文学(講義)	講義	30	2	前期	月	3			村瀬 有司	日本語	○	西洋文献文化学212	学部科目
3703001	11	イタリア語学イタリア文学	イタリア語学イタリア文学(講義)	講義	30	2	後期	月	3			村瀬 有司	日本語	○	西洋文献文化学213	学部科目
3751001	11	イタリア語学イタリア文学	イタリア語学イタリア文学(講読)	講読	30	2	前期	水	4			村瀬 有司	日本語	○	西洋文献文化学214	学部科目
3751002	11	イタリア語学イタリア文学	イタリア語学イタリア文学(講読)	講読	30	2	後期	水	4			村瀬 有司	日本語	○	西洋文献文化学215	学部科目
3751003	11	イタリア語学イタリア文学	イタリア語学イタリア文学(講読)	講読	30	2	前期	火	4			河合 成雄	日本語	○	西洋文献文化学216	学部科目
3751004	11	イタリア語学イタリア文学	イタリア語学イタリア文学(講読)	講読	30	2	後期	火	4			河合 成雄	日本語	○	西洋文献文化学217	学部科目
9663001	11	イタリア語学イタリア文学	イタリア語(会話)	語学	30	2	前期	火	5			Ida Duretto	イタリア	○	西洋文献文化学218	学部科目
9663002	11	イタリア語学イタリア文学	イタリア語(会話)	語学	30	2	後期	火	5			Ida Duretto	イタリア	○	西洋文献文化学219	学部科目
9668001	11	イタリア語学イタリア文学	スペイン語(中級I)(語学)	語学	30	2	前期	火	5			小西 咲子	日本語	○	西洋文献文化学220	学部科目
9669001	11	イタリア語学イタリア文学	スペイン語(中級II)(語学)	語学	30	2	後期	火	5			小西 咲子	日本語	○	西洋文献文化学221	学部科目
9673001	11	イタリア語学イタリア文学	スペイン語(初級)I	語学	30	2	前期	火	4			小西 咲子	日本語	○	西洋文献文化学222	学部科目
9674001	11	イタリア語学イタリア文学	スペイン語(初級)II	語学	30	2	後期	火	4			小西 咲子	日本語	○	西洋文献文化学223	学部科目
9675001	11	イタリア語学イタリア文学	イタリア語(初級4時間コース)I	語学	30	4	前期	金	4	金	5	田中 真美	日本語	○	西洋文献文化学224	学部科目
9676001	11	イタリア語学イタリア文学	イタリア語(初級4時間コース)II	語学	30	4	後期	金	4	金	5	田中 真美	日本語	○	西洋文献文化学225	学部科目
3902001	36	西洋文化学系	西洋文学入門(講義)	講義	30	2	前期	木	5			山 定嗣・川島 隆・中村 唯史・廣田 篤彦・小林 久美子	日本語	○	西洋文献文化学226	学部科目

西洋文献文化学1

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学 (演習) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ホメーロス『オデュッセイア』精読				
【授業の概要・目的】					
ギリシア語文法を学んだ人を対象として、ホメーロス『オデュッセイア』を精読する。トロイア戦争後、故郷イタケーへ帰還するまでの英雄の冒険である本作の講読を通して、叙事詩の韻律や文体に習熟することを目指すと共に、注釈書を用いて本文や解釈上の問題についても検討する。					
【到達目標】					
ギリシア語原典（韻文）の読解力を高める。 古典作品の伝承と受容について知識を深める。					
【授業計画と内容】					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 テクストの精読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
【履修要件】					
ギリシア語文法を修得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
原典と注釈を熟読すること。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学2

科目ナンバリング	G-LET15 73141 SJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学 (演習) Greek and Latin Classics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ホメーロス『オデュッセイア』精読				
【授業の概要・目的】					
ギリシア語文法を学んだ人を対象として、ホメーロス『オデュッセイア』を精読する。トロイア戦争後、故郷イタケーへ帰還するまでの英雄の冒険である本作の講読を通して、叙事詩の韻律や文体に習熟することを目指すと共に、注釈書を用いて本文や解釈上の問題についても検討する。					
【到達目標】					
ギリシア語原典（韻文）の読解力を高める。 古典作品の伝承と受容について知識を深める。					
【授業計画と内容】					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 テクストの精読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
【履修要件】					
ギリシア語文法を修得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
原典と注釈を熟読すること。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学3

科目ナンバリング	G-LET15 73141 SJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋古典学演習I				
[授業の概要・目的]					
西洋古典学に関する専門知識を得るとともに、受講者が自身の研究テーマに即して報告をおこない、参加者全員で討論する。研究報告と討論を通じて研究テーマに関する理解を深めるとともに、研究を進める上での問題点を認識し、研究を発展させることを目標とする。					
[到達目標]					
この授業の到達目標は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・西洋古典学に関する専門知識を修得することができる。 ・自らの研究テーマを設定し発展させることができる。 ・独自性を追求できる能力を身につける。 					
[授業計画と内容]					
参加者は自身の研究テーマについて複数回の発表をおこなう。研究課題の設定、先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読が必要となる。また討論に積極的に参加し、研究の協働をおこなうことが求められる。					
第1回：イントロダクション 論文の書き方や研究の進め方について 第2回～14回：担当者による発表と全体討論 第15回：フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
研究報告や討論への参加などの平常点(40%)および学期末のレポート(60%)					
[教科書]					
使用しない					
----- 西洋古典学(演習)(2)へ続く -----					

西洋古典学 (演習) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読など研究の基礎となる作業に加えて、発表の準備や討論を経て明らかになった問題点について再検討する必要がある。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学4

科目ナンバリング	G-LET15 73141 SJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋古典学演習II				
[授業の概要・目的]					
西洋古典学に関する専門知識を得るとともに、受講者が自身の研究テーマに即して報告をおこない、参加者全員で討論する。研究報告と討論を通じて研究テーマに関する理解を深めるとともに、研究を進める上での問題点を認識し、研究を発展させることを目標とする。					
[到達目標]					
この授業の到達目標は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・西洋古典学に関する専門知識を修得することができる。 ・自らの研究テーマを設定し発展させることができる。 ・独自性を追求できる能力を身につける。 					
[授業計画と内容]					
参加者は自身の研究テーマについて複数回の発表をおこなう。研究課題の設定、先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読が必要となる。また討論に積極的に参加し、研究の協働をおこなうことが求められる。					
第1回：イントロダクション 論文の書き方や研究の進め方について 第2回～14回：担当者による発表と全体討論 第15回：フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
研究報告や討論への参加などの平常点(40%)および学期末のレポート(60%)					
[教科書]					
使用しない					
----- 西洋古典学(演習)(2)へ続く -----					

西洋古典学 (演習) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読など研究の基礎となる作業に加えて、発表の準備や討論を経て明らかになった問題点について再検討する必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学5

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学 (演習) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授	
配当学年	全回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	プラトン『エウテュデモス』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、プラトン（前424/423-前347）の『エウテュデモス』を原典から精読する。この対話篇は、ソクラテスがソフィストであるエウテュデモスとディオニュソドロスと議論を交わしながら、知識や徳についての深い考察を行うものである。本対話篇では特に、ソフィスト術や弁論術といった当時の知的風潮に対する批判が中心的なテーマとなり、ソクラテスの哲学的アプローチが浮き彫りとなる。</p> <p>『エウテュデモス』は一見、単なるソフィストへの風刺にとどまらず、哲学そのものを吟味にかけ、知識、真理、教育の本質について問われる。本授業では、テキストを精読する中で以下の問いに取り組む：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソクラテスはどのようにしてソフィストの議論を批判しているのか。 ・知識や教育の本質について、プラトンはどのような見解を提示しているのか。 <p>授業では、本対話篇の歴史的背景や政治的文脈を考慮しつつ、現代の哲学との関連についても議論を行う。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語で書かれた文献を正確に読むことができるようになる。 ・注釈書・研究書を批判的に読み、また自らの訳・注を作成することによって、文献学的研究の基礎能力を身につけることができる。 ・文献解釈に関わる論文作成において、テキストにもとづいた議論を展開することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 最初に『エウテュデモス』の内容および思想史的位置づけについて説明を行う。次に演習参加に当たって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行う。</p> <p>第2回～第14回 プラトン『エウテュデモス』精読 『エウテュデモス』を冒頭から精読していく。毎回参加者全員が少しずつ訳読する形式を採用し、教科書として挙げた Oxford Classical Text の2ページを目安に読み進める。</p> <p>第15回 まとめ 前期に読んだテキストの内容および授業期間中に提起された議論を振り返りながら、参加者全員で議論を行う。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがある。</p>					
----- 西洋古典学 (演習)(2)へ続く -----					

西洋古典学 (演習)(2)

【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を習得していること。

【成績評価の方法・観点】

成績は、授業での取り組み（80点）と、議論への積極的な参加（20点）によって算出する。「授業での取り組み」は、毎回範囲となる箇所訳のために、注釈書や文法書にあたって準備できているか、また哲学的な議論の理解のために注釈等に参照して予習ができているのかを評価する。

【教科書】

J. Burnet 『Platonis Opera III (Oxford Classical Text)』 (Oxford, 1903)
使用するテキストのコピーは授業で配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

資料については授業で紹介するので、初回のガイダンスに出席してください。

毎回読んでくるコメンタリーや参照すべき諸外国語訳等の資料のコピーは授業で配布します。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前に古典ギリシア語で書かれたテキストを読んで準備する必要がある。授業中にその場で訳読できるように準備する必要があり、能力によって個人差はあるが5時間程度かかるだろう。どのような準備を具体的にすべきかについては、初回のイントロダクションで説明する。

（その他（オフィスアワー等））

演習の課題の都合上、きりのよいところまで読み進めるために、授業時間を延長することがある。延長時間における参加は成績評価にさいして考慮せず、正規の授業終了時間に退席しても問題ないが、授業でなされる議論の詳細を知るためには延長時間も参加する必要がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学6

科目ナンバリング	G-LET15 73141 SJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学 (演習) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	プラトン『エウテュデモス』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、プラトン（前424/423-前347）の『エウテュデモス』を原典から精読する。この対話篇は、ソクラテスがソフィストであるエウテュデモスとディオニュソドロスと議論を交わしながら、知識や徳についての深い考察を行うものである。本対話篇では特に、ソフィスト術や弁論術といった当時の知的風潮に対する批判が中心的なテーマとなり、ソクラテスの哲学的アプローチが浮き彫りとなる。</p> <p>『エウテュデモス』は一見、単なるソフィストへの風刺にとどまらず、哲学そのものを吟味にかけ、知識、真理、教育の本質について問われる。本授業では、テキストを精読する中で以下の問いに取り組む：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソクラテスはどのようにしてソフィストの議論を批判しているのか。 ・知識や教育の本質について、プラトンはどのような見解を提示しているのか。 <p>授業では、本対話篇の歴史的背景や政治的文脈を考慮しつつ、現代の哲学との関連についても議論を行う。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語で書かれた文献を正確に読むことができるようになる。 ・注釈書・研究書を批判的に読み、また自らの訳・注を作成することによって、文献学的研究の基礎能力を身につけることができる。 ・文献解釈に関わる論文作成において、テキストにもとづいた議論を展開することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 最初に前期まで読んだ『エウテュデモス』の内容について復習・おさらい、論点の整理などを行う。次に演習参加に当たって参照すべき注釈書や研究書を再度紹介し、授業形式について詳しい説明を行う。</p> <p>第2回～第14回 プラトン『エウテュデモス』精読 『エウテュデモス』を前期に続けて精読していく。毎回参加者全員が少しずつ訳読する形式を採用し、教科書として挙げた Oxford Classical Text の2ページを目安に読み進める。</p> <p>第15回 まとめ 後期に読んだテキストの内容および授業期間中に提起された議論を振り返りながら、参加者全員で議論を行う。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがある。</p>					
----- 西洋古典学 (演習) (2)へ続く -----					

西洋古典学 (演習) (2)

【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を習得していること。

【成績評価の方法・観点】

成績は、授業での取り組み（80点）と、議論への積極的な参加（20点）によって算出する。「授業での取り組み」は、毎回範囲となる箇所訳のために、注釈書や文法書にあたって準備できているか、また哲学的な議論の理解のために注釈等に参照して予習ができているのかを評価する。

【教科書】

J. Burnet 『Platonis Opera III (Oxford Classical Text)』 (Oxford, 1903)
使用するテキストのコピーは授業で配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

資料については授業で紹介するので、初回のガイダンスに出席してください。

毎回読んでくるコメントリーや参照すべき諸外国語訳等の資料のコピーは授業で配布します。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前に古典ギリシア語で書かれたテキストを読んで準備する必要がある。授業中にその場で訳読できるように準備する必要があり、能力によって個人差はあるが5時間程度かかるだろう。どのような準備を具体的にすべきかについては、初回のイントロダクションで説明する。

（その他（オフィスアワー等））

演習の課題の都合上、きりのよいところまで読み進めるために、授業時間を延長することがある。延長時間における参加は成績評価にさいして考慮せず、正規の授業終了時間に退席しても問題ないが、授業でなされる議論の詳細を知るためには延長時間も参加する必要がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学7

科目ナンバリング	G-LET15 73151 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学 (講読) Greek and Latin Classics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語中級講読				
【授業の概要・目的】					
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、キケロー『カエリウス弁護』(Pro Caelio)を教材に講読を行う。					
【到達目標】					
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する					
【授業計画と内容】					
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
【履修要件】					
ラテン語初級文法を既習得であること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。					
【教科書】					
プリントを配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学8

科目ナンバリング	G-LET15 73151 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学 (講読) Greek and Latin Classics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語中級講読				
【授業の概要・目的】					
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、キケロー『カエリウス弁護』(Pro Caelio)を教材に講読を行う。					
【到達目標】					
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する					
【授業計画と内容】					
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 インTRODクシヨン 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
【履修要件】					
ラテン語初級文法を既習得であること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。					
【教科書】					
プリントを配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学9

科目ナンバリング		G-LET15 73151 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学 (講読) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山下 修一	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火2	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語中級講読				
[授業の概要・目的]					
古典ギリシア語の初級文法を学習した者を対象に、クセノポン『アナバシス』の精読を通して、古典ギリシア語の基礎力を養成する。					
[到達目標]					
既習のギリシア語文法を確認しながら、辞書・文法書・注釈書を用いて、平易なギリシア語散文を読む力を養う。					
[授業計画と内容]					
クセノポンの平明な散文を読むことで、今後の原典講読に必要とされる古典ギリシア語の読解力を養成することを目指す。そのために、テキストに沿って文法事項の復習をおこなう一方、辞書・文法書・注釈書の活用法の習得と語彙の増強を図りながら、原文を精読する。 授業は、出席者に訳読をしてもらう形式で進める。毎回2～3ページを読み進める予定である。参加者には、予習はもちろん、毎回の授業の復習が求められる。 初回の授業では、授業の進め方や履修にあたっての注意点を説明する。また、テキストや注釈書の使用方法を説明する。第2回の授業から読解を進めていく。					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 読解 第15回 フィードバック(まとめ)					
[履修要件]					
古典ギリシア語の初級文法を既習のこと。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点評価。(必要に応じて学期末テストを行う予定である。)					
[教科書]					
E. C. Marchant (ed.) 『Xenophontis Opera Omnia, Expeditio Cyri』 (Oxford University Press) ISBN: 9780198145547 (テキスト) コピーを配布する。					
[参考書等]					
(参考書) Maurice W. Mather, Joseph Hewitt 『Xenophon's Anabasis: Book 1-4』 (University of Oklahoma Press) ISBN:9780806113470					
----- 西洋古典学 (講読)(2)へ続く -----					

西洋古典学 (講読)(2)

コピーを配布する。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回の授業には、指定された範囲を予習した上で受講すること。

(その他 (オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学10

科目ナンバリング		G-LET15 73151 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学 (講読) Greek and Latin Classics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山下 修一	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火2	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語中級講読				
[授業の概要・目的]					
古典ギリシア語の初級文法を学習した者を対象に、ヘーロドトスの『歴史』の精読を通して、古典ギリシア語の基礎力を養成する。					
[到達目標]					
既習のギリシア語文法を確認しながら、辞書・文法書・注釈書を用いて、平易なギリシア語散文を読む力を養う。					
[授業計画と内容]					
<p>ヘーロドトスの平明な散文を読むことで、今後の原典講読に必要とされる古典ギリシア語の読解力を養成することを目指す。そのために、テキストに沿って文法事項の復習をおこなう一方、辞書・文法書・注釈書の活用法の習得と語彙の増強を図りながら、原文を精読する。</p> <p>授業は、出席者に訳読をしてもらう形式で進める。毎回2～3ページを読み進める予定である。参加者には、予習はもちろん、毎回の授業の復習が求められる。</p> <p>初回の授業では、授業の進め方や履修にあたっての注意点を説明する。また、テキストや注釈書の使用方法を説明する。第2回の授業から読解を進めていく。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 読解 第15回 フィードバック(まとめ)</p>					
[履修要件]					
古典ギリシア語の初級文法を既習のこと。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点評価。(必要に応じて学期末テストを行う予定である。)					
[教科書]					
N. G. Wilson (ed.) 『Herodoti Historiae - 』 (Oxford University Press) ISBN:9780199560707 (テキスト) コピーを配布する。					
[参考書等]					
(参考書) Asheri, David, Alan Lloyd, and Aldo Corcella. 『A commentary on Herodotus』 (Oxford University Press) ISBN:9780199639366					
----- 西洋古典学 (講読)(2)へ続く -----					

西洋古典学 (講読)(2)

コピーを配布する。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回の授業には、指定された範囲を予習した上で受講すること。

(その他 (オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学11

科目ナンバリング	G-LET15 63131 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学 (特殊講義) Greek and Latin Classics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ホラーティウス『カルミナ』精読I				
[授業の概要・目的]					
<p>古代ローマの詩人ホラーティウスの抒情詩『カルミナ』を精読する。ラテン語テキストの読解力を高めるとともに、ホラーティウスの詩作の工夫を読み解くことを目的とする。また関連する文献など受講者の関心に合わせて適宜講読する。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>					
[到達目標]					
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの社会・文化を理解する。</p> <p>作品の性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>ホラーティウスの『カルミナ』はラテン文学における抒情詩を代表する作品のひとつである。ギリシアから受け継いだ韻律を用い、巧みなラテン語の技法を駆使して編まれた作品を読解する。授業では毎回数歌ずつ読み進め、履修者相互で議論しながらラテン詩の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『カルミナ』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>					
[履修要件]					
ラテン語文法を修得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点で評価する。					
----- 西洋古典学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

西洋古典学 (特殊講義) (2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学12

科目ナンバリング	G-LET15 63131 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学 (特殊講義) Greek and Latin Classics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ホラーティウス『カルミナ』精読II				
[授業の概要・目的]					
<p>古代ローマの詩人ホラーティウスの抒情詩『カルミナ』を精読する。ラテン語テキストの読解力を高めるとともに、ホラーティウスの詩作の工夫を読み解くことを目的とする。また関連する文献など受講者の関心に合わせて適宜講読する。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>					
[到達目標]					
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの社会・文化を理解する。</p> <p>作品の性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>ホラーティウスの『カルミナ』はラテン文学における抒情詩を代表する作品のひとつである。ギリシアから受け継いだ韻律を用い、巧みなラテン語の技法を駆使して編まれた作品を読解する。授業では毎回数歌ずつ読み進め、履修者相互で議論しながらラテン詩の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。前期の続きから読み始めるため、具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『カルミナ』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>					
[履修要件]					
ラテン語文法を修得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点で評価する。					
----- 西洋古典学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋古典学 (特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学13

科目ナンバリング		G-LET15 63131 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学 (特殊講義) Greek and Latin Classics (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	テオクリトス『牧歌』講読				
【授業の概要・目的】					
この授業では、ギリシア語文法を学んだ人を対象として、テオクリトス『牧歌』の講読を行なう。ヘレニズム時代の代表的詩人の作品を精読することで、ギリシア語の読解能力を高めるとともに、古典期とは異なる文学的趣向やドーリス方言についても理解を深める。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 原典の精読を通してギリシア語を読む力を高める ・ 辞書や注釈書を実際に数多く用いてその利用法に習熟する 					
【授業計画と内容】					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
【履修要件】					
ギリシア語文法を修得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する プリントを配布する予定。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学14

科目ナンバリング		G-LET15 63131 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋古典学 (特殊講義) Greek and Latin Classics (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	テオクリトス『牧歌』講読				
【授業の概要・目的】					
この授業では、ギリシア語文法を学んだ人を対象として、テオクリトス『牧歌』の講読を行なう。ヘレニズム時代の代表的詩人の作品を精読することで、ギリシア語の読解能力を高めるとともに、古典期とは異なる文学的趣向やドーリス方言についても理解を深める。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 原典の精読を通してギリシア語を読む力を高める ・ 辞書や注釈書を実際に数多く用いてその利用法に習熟する 					
【授業計画と内容】					
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
【履修要件】					
ギリシア語文法を修得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する プリントを配布する予定。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学15

科目ナンバリング	G-LET15 73141 SJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学 (演習) Greek and Latin Classics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	オウィディウス『変身物語』精読I				
[授業の概要・目的]					
<p>古代ローマの詩人オウィディウスの『変身物語』を精読し、ラテン語読解能力を高めるとともに、神話や古代ローマの文化の理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>					
[到達目標]					
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの文化や神話を理解する。</p> <p>叙事詩という性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>オウィディウスは恋愛詩人として活躍していたが、叙事詩『変身物語』を創作した。この作品は、様々な神話を内包する叙事詩である。授業では毎回数節ずつ読み進め、履修者相互で議論しながら文学意図や物語の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『変身物語』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>					
[履修要件]					
ラテン語文法を修得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点で評価する。					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- 西洋古典学 (演習) (2)へ続く -----					

西洋古典学 (演習) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学16

科目ナンバリング	G-LET15 73141 SJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学大学院人文学研究科 平山 晃司 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ルーキアーノス『シリアの女神について』を読む				
【授業の概要・目的】					
<p>本作品は、シリア北東部の都市ヒエラーポリスにある女神アタルガティスの神殿およびその祭儀について、関連する伝説を紹介しつつ詳細に記述したものである。</p> <p>この授業は、ヘーロドトスを模してイオーニアー方言で書かれた本作品の原典と注釈を精読することによって、ギリシア語の読解力に磨きをかけるとともに、ローマ帝国支配下の近東における宗教と民俗に関する知識を深めることを目的とする。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ギリシア語の読解力を向上させる ・イオーニアー方言に習熟する ・テキストが内包するさまざまな問題への取り組み方を、注釈を通じて学ぶ 					
【授業計画と内容】					
第1回～第15回 訳読とディスカッション(初回は§4まで)					
【履修要件】					
ギリシア語文法を修得済みであること。					
【成績評価の方法・観点】					
出席状況や学習態度、訳読の出来の良否などを勘案し、平常点によって評価する。					
【教科書】					
J. L. Lightfoot 『Lucian: On the Syrian Goddess』(Oxford University Press, 2003) ISBN:9780199251384 文学研究科図書館(3冊架蔵)から借り出しておくこと。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
<ul style="list-style-type: none"> ・指定された範囲のテキストと注釈を丁寧に読んでおくこと(授業では訳読に加えて、注釈の内容の要約も求められる場合がある)。 ・イオーニアー方言で書かれたテキストを読み慣れていない人は、The Cambridge Grammar of Classical Greek, pp.295-304などを参照して、同方言の概要を把握しておくこと。 					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学17

科目ナンバリング	G-LET15 73141 SJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋古典学 (演習) Greek and Latin Classics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	オウィディウス『変身物語』精読II				
[授業の概要・目的]					
<p>古代ローマの詩人オウィディウスの『変身物語』を精読し、ラテン語読解能力を高めるとともに、神話や古代ローマの文化の理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>					
[到達目標]					
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの文化や神話を理解する。</p> <p>叙事詩という性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>オウィディウスは恋愛詩人として活躍していたが、叙事詩『変身物語』を創作した。この作品は、様々な神話を内包する叙事詩である。授業では毎回数節ずつ読み進め、履修者相互で議論しながら文学意図や物語の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『変身物語』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>					
[履修要件]					
ラテン語文法を修得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点で評価する。					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- 西洋古典学 (演習) (2)へ続く -----					

西洋古典学 (演習) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学18

科目ナンバリング		G-LET16 63231 LJ36			
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学 (特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学人文学研究科 准教授 北井 聡子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ソ連文化研究：V.パペールヌィ『文化2』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>ソ連の全体主義体制における社会・文化的状況を、独裁者による一方的な抑圧と捉える視点に替わり、現在では、革命以前からのインテリゲンツィアの流れや、アヴァンギャルド芸術運動との連続性、あるいはフーコー的な権力のより複雑な構造を読み解く優れた研究が多く存在します。</p> <p>この授業では、全体主義体制の文化の再評価の嚆矢となったV.パペールヌィの『文化2』（1985）を輪読形式で読みます。本書は、ソ連建築を主題としたものですが、建築に限らず、ソ連（さらにはロシア）文化史全体を貫く一つのパースペクティヴを提供した興味深いものです。ソ連文化史においては、水平性や拡散を特徴とする「文化1」と、垂直性と集中を特徴とする「文化2」が、交互に現れることで展開してきたという著者のロジックは、個々の文化・文学作品を考察するうえで、（批判するにせよ）有益な視座となるでしょう。</p> <p>この授業では、本書の精読を通じ、ロシア語/英語の学術書の読解能力を培うとともに、文化・文学を分析するための理論的な枠組みの習得を目指します。</p>					
[到達目標]					
<p>ソ連文化を批判的に読み解く手法を身につける。 ロシア語/英語の学術文献の読解力を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>演習形式（文献購読）とする。</p> <p>1. ガイダンス 2. ソ連文化論入門講義 3 - 14. 文献講読とディスカッション 15. 総括</p>					
[履修要件]					
<p>ロシア語か英語で文献が読めること。 ロシア語の文献を読みますが、英訳での参加も可。</p>					
----- スラブ語学スラブ文学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学 (特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点60%、期末レポート40%とする。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

担当になっていない週も、毎回、文献に目を通してきてください。

(その他(オフィスアワー等))

随時受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学19

科目ナンバリング	G-LET16 63231 LJ36				
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学 (特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシアの文芸批評を読む				
[授業の概要・目的]					
20世紀前半の詩人・批評家オシプ・マンデリシタム () の評論「言葉の本性について」を精読、分析していきます。これは、ロシア文芸の主流だった言語実体論の代表的な言説として、また独自の地政学的文明論としても重要な評論です。時代的・思想的背景にも目を向けつつ、考察も行います。					
[到達目標]					
1) ロシア語の文学論文を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) 20世紀前半のロシア文芸思想に対する知識と理解を深める。					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション テキストとその著者について紹介します。					
第2回～第14回 「言葉の本性について」を講読し、考察します。					
第15回 まとめ フィードバックについては授業中に指示します。					
[履修要件]					
ロシア語の基本文法を習得していること。独習でも構いません。					
[成績評価の方法・観点]					
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。					
[教科書]					
テキストはプリントを配付します。					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に適宜紹介します。					
----- スラブ語学スラブ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学 (特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に下調べをしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学20

科目ナンバリング	G-LET16 63231 LJ36				
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学 (特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア文芸学の論文を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>ユーリー・ロトマン () の論文「後期レールモントフの創造における「東」と「西」の問題」を講読、分析していきます。ロトマンは、日本では文化記号学の理論家として著名でしたが、その本領は精緻なテキスト分析に基づいた文学史的な考察にあります。ロトマンの方法に学ぶとともに、19世紀前半のロシア文学の状況・思潮についても考察します。</p>					
[到達目標]					
<p>1) ロシア語の文学論文を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) 文化記号学とロシア文学に対する史的知見を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション テキストとその著者について紹介します。</p> <p>第2回～第14回 「後期レールモントフの創造における「東」と「西」の問題」を講読し、考察します。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>					
[履修要件]					
ロシア語の基本文法を習得していること。独習でも構いません。					
[成績評価の方法・観点]					
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。					
----- スラブ語学スラブ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学 (特殊講義)(2)

[教科書]

テキストはプリントを配付します。

[参考書等]

(参考書)

授業中に適宜紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に下調べをしてください。

(その他(オフィスアワー等))

詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学21

科目ナンバリング		G-LET16 63231 LJ36			
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学 (特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	白眉センター・特定准教授 Fedorova Anastasia		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア・ソビエト映画史				
[授業の概要・目的]					
<p>1919年に国営化されて以来、映画はソビエト連邦の政治や文化のなかで、絶大な影響力を保持してきた。革命直後にモンタージュ論を唱えてきたセルゲイ・エイゼンシュテインやジガ・ヴェルトフ、1960年代以降に新たな映画言語の可能性を模索してきたアンドレイ・タルコフスキー等による世界映画史への貢献は大きい。この授業では、映画が発明され、ロシア帝国にもたなされた19世紀末から、「映画は我々にとって最も重要な芸術である」とまで唱えられてきたソビエト時代、1990年代のソビエト連邦崩壊に至るまでのロシア映画史を概括し、個々の映画人による作風や、ジャンルの発展、表現様式の変遷について学んでいく。具体的な映像作品や映画理論のテキストを検証することで、ソビエト社会における近代化や民族性の問題、都市と農村の格差、女性の地位、西欧や日本との関係性についても考えていきたい。映画以外の視聴覚メディアの歴史（写真、テレビ、ラジオ）にも注意を向けていく。</p>					
[到達目標]					
<p>映画作品の分析に必要なメディアリテラシーを養い、 作中における社会描写の構築性を理解し、 20世紀のロシア語圏で製作された映画テクストを、 文化的・歴史的な文脈のなかで、 批判的に読み解いていく力が身に付く。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的には以下の授業計画に基づいて講義を進める。ただし講義の進みぐあいや、受講者の理解の状況に応じて変更する場合がある。 フィードバックは、毎回の授業開始時に前回の授業に対するコメントを匿名で紹介する形で行う。</p>					
第1回	イントロダクション、映画の発明、ロシア語圏への伝来				
第2回	帝政ロシアのメロドラマ映画				
第3回	十月革命とモンタージュ映画の台頭				
第4回	十月革命とモンタージュ映画の台頭				
第5回	トーキー映画への移行と社会主義リアリズム				
第6回	トーキー映画への移行と社会主義リアリズム				
第7回	雪解け期とソビエト・ニューウェーブ				
第8回	雪解け期とソビエト・ニューウェーブ				
第9回	ソビエト連邦における多民族、多文化共生				
第10回	ソビエト連邦における多民族、多文化共生				
第11回	記録映画、TVドラマ、アニメーション				
第12回	記録映画、TVドラマ、アニメーション				
第13回	ブレジネフ期における政治的停滞と経済的なゆとり				
第14回	ペレストロイカと撮影所システムの崩壊				
第15回	ロシア・ソビエト映画研究の展望、全体の振り返りとフィードバック				
----- スラブ語学スラブ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

- ・ 平常点40% (各回のコメントペーパー)
- ・ レポート60% (レポートの評価基準は、授業内容を踏まえていることを基準として、到達目標の達成度に基づき評価する)
- ・ 100点満点、60点以上で合格。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業前に前回までの授業内容を復習しておくこと。
授業内で紹介する作品等は、各自で鑑賞することを推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

問い合わせたいことがある場合は、授業終了後に対応します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学22

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36			
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学 (演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 中野 悠希		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア語作文				
【授業の概要・目的】					
<p>この授業では、これまでに身に付けたロシア語の語彙や文法の知識を活用してロシア語で文章を書く力を養う。また毎回構文ごとの訳し方の典型的なパターンを学習し、ただ単語を単語に訳すだけでなく、構文を構文に訳す技術を磨く。さらに追加の課題として新聞、学術書、小説、メール、レシピ等からテーマ別に抜粋した日本語の文章をロシア語に訳すことで、知識の定着を図るとともに語彙力の向上を目指す。こうした練習を積み重ねることで、ロシア語の運用能力を総合的に高めることが授業の狙いである。</p>					
【到達目標】					
<p>(1) ロシア語でよく使われる表現を知り、日本語の表現との対応関係を把握する。 (2) 学んだ表現を活用・応用してロシア語で自己表現をする能力を養う。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 ガイダンス 第2回 自分について 第3回 大学 第4回 住居 第5回 交通 第6回 日常生活 第7回 家族 第8回 食事 第9回 郵便・電話 第10回 日付 第11回 テレビ・映画 第12回 新聞・雑誌 第13回 ハイキング 第14回 料理 第15回 まとめ</p>					
【履修要件】					
<p>中級程度のロシア語の知識があることが望ましい。</p>					
-----スラブ語学スラブ文学 (演習)(2)へ続く-----					

スラブ語学スラブ文学 (演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（出席・毎回の作文課題）30%、期末レポート（和文露訳）70%

[教科書]

米川哲夫、佐藤純一、中村喜和、栗原成郎『ロシア語作文の基礎（第二版）』白水社、2014年。適宜プリントを配布するため、教科書を各自で入手する必要はない。

[参考書等]

（参考書）

木村彰一『ロシア文法の基礎（改訂版）』（白水社、2010年）

[授業外学修（予習・復習）等]

母語であれ外国語であれ、文章力は、能動的・実践的な試行錯誤を経なくては涵養されない。したがって毎回の配布プリントを熟読し、欠かさず和文露訳の予習課題に取り組むことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業時間内および授業後の休憩時間に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学23

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36			
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学 (演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 特定准教授 森谷 理紗	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日露/日ソ比較文化研究				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業では、ロシア (主にソ連時代) の芸術家たちに関する文献を原文で読むことで、実践的なロシア語の表現を身につけていく。また、日本語文献や実際の作品や視聴覚資料等を参照しつつ、日露/日ソの芸術家たちとの相互の関係性などについての理解を深めることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語の文献の精読を通じて、ロシア語の学術的な用語や言い回し、論文の書き方を習得する。 ・演劇、音楽、文学など芸術の諸ジャンルと時代、国を横断的に比較しながら複数の文献に触れることで、分野横断的な広い視野から芸術に対する理解を深める。 ・日本とロシア (ソ連) の芸術における交流や影響について説明できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>授業回数は全14回、その他期末試験、フィードバックの回を設ける。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の中のロシアー日本に流入した最初のロシアの歌 (" ") 2. ロシアの中の日本ープロコフィエフと日本 (" ") 、 絵画・詩におけるジャポニズム 3. スターリンと芸術家たち (" ") 					
<p>アバンギャルド</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. スターリンと芸術家たち 社会主義リアリズム 5. スターリンと芸術家たち 造形芸術家たち 6. スターリンと芸術家たち 演劇 7. スターリンと芸術家たち 詩人たち 8. スターリンと芸術家たち 音楽 9. スターリンと芸術家たち 作家 10. スターリンと芸術家たち 映画 11. グラークと芸術家たち 12. 日本のプロレタリア芸術 文学、美術 13. 日本のプロレタリア芸術 14. シベリア抑留下の外国人捕虜収容所における芸術 15. 試験 16. フィードバック 					
----- スラブ語学スラブ文学 (演習)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学 (演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への参加態度などの平常点（50％）・試験（50％）。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

他は授業中に紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

事前学習：授業で扱う各文献の指定箇所を読んでおくこと

事後学習：授業内容の復習

（その他（オフィスアワー等））

教室定員の枠で受講生を受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学24

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36			
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学 (演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 中野 悠希		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア語作文				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、これまでに身に付けたロシア語の語彙や文法の知識を活用してロシア語で文章を書く力を養う。また毎回構文ごとの訳し方の典型的なパターンを学習し、ただ単語を単語に訳すだけでなく、構文を構文に訳す技術を磨く。さらに追加の課題として新聞、学術書、小説、メール、レシピ等からテーマ別に抜粋した文章をロシア語に訳すことで、知識の定着を図るとともに語彙力の向上を目指す。こうした練習を積み重ねることで、ロシア語の運用能力を総合的に高めることが授業の狙いである。</p>					
[到達目標]					
<p>(1) ロシア語でよく使われる表現を知り、日本語の表現との対応関係を把握する。 (2) 学んだ表現を活用・応用してロシア語で自己表現をする能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 ガイダンス 第2回 生格の用法 第3回 造格の用法 第4回 前置詞の用法(1) 第5回 前置詞の用法(2) 第6回 動詞の格支配 第7回 運動の動詞 第8回 動詞の体(1) 第9回 動詞の体(2) 第10回 受身の表現 第11回 無人称文 第12回 仮定法の用法 第13回 関係詞の用法 第14回 いろいろな型の従属文 第15回 まとめ</p>					
[履修要件]					
<p>中級程度のロシア語の知識があることが望ましい。</p>					
-----スラブ語学スラブ文学 (演習)(2)へ続く-----					

スラブ語学スラブ文学 (演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（出席・毎回の作文課題）30%、期末レポート（和文露訳）70%

[教科書]

米川哲夫、佐藤純一、中村喜和、栗原成郎『ロシア語作文の基礎（第二版）』白水社、2014年。適宜プリントを配布するため、教科書を各自で入手する必要はない。

[参考書等]

（参考書）

木村彰一『ロシア文法の基礎（改訂版）』（白水社、2010年）

[授業外学修（予習・復習）等]

母語であれ外国語であれ、文章力は、能動的・実践的な試行錯誤を経なくては涵養されない。したがって毎回の配布プリントを熟読し、欠かさず和文露訳の予習課題に取り組むことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業時間内および授業後の休憩時間に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学25

科目ナンバリング	G-LET16 73251 LJ36				
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学 (講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	露書講読				
【授業の概要・目的】					
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。					
【到達目標】					
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。					
【授業計画と内容】					
以下の文書をテキストとする。					
<p style="text-align: right;">. (1863)</p> <p>ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点 (予習の精度) によって評価する。					
【教科書】					
使用しない プリントを配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーは、火曜 4 限とする。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学26

科目ナンバリング	G-LET16 73251 LJ36				
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学 (講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	露書講読				
【授業の概要・目的】					
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。					
【到達目標】					
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。					
【授業計画と内容】					
前期に引き続き、以下の文書をテキストとする。					
. (1863)					
初回授業で前期の要約を配布し、後期のみの受講者にも不便のないよう配慮する。 また、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。					
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点 (予習の精度) によって評価する。					
【教科書】					
使用しない プリントを配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーは、火曜4限とする。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学27

科目ナンバリング		G-LET16 73251 LJ36			
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学 (講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア文学の短編を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力を持つ学生を対象として、19世紀前半のロシア語小説の開拓者のひとり、レールモントフの短編『アシク・ケリブ』と、連作小説『現代の英雄』の1編「運命論者」を読んでいます。ロシア語の文法事項を確認しつつ、ロシア語を適切な日本語に翻訳していく訓練を行います。また文学作品の考察や分析を行い、時代背景についての知識も深めます。</p>					
[到達目標]					
<p>1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション ロシア語文学の概要とその研究の基本文献について説明します。</p> <p>第2回～第14回 上記の短編を順次精読していきます。</p> <p>第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>					
[履修要件]					
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。					
[成績評価の方法・観点]					
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。					
[教科書]					
テキストはプリントを配付します。					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に適宜紹介します。					
----- スラブ語学スラブ文学 (講読)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学 (講読)(2)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

次回に授業で読む箇所事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。

(その他 (オフィスアワー等))

詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学28

科目ナンバリング	G-LET16 73251 LJ36				
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学 (講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 帯谷 知可		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金4	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア語論文講読				
[授業の概要・目的]					
ロシア語の読解・運用能力を向上させ、合わせてロシア語による論文の作法・スタイル・表現などに習熟する目的で、人文社会系分野のロシア語学術論文の講読を行う。					
[到達目標]					
ロシア語の人文社会系分野の学術論文を辞書・参考書などを利用しながら読み、その内容を理解し、重要なポイントをまとめられるようになる。					
[授業計画と内容]					
各回とも授業担当教員の指定する論文につき、パートごとに担当者を決め、輪読する形式とする。					
第1回～第5回 ロシア文化に関する論文を講読する 第6回～第10回 歴史学関連の論文を講読する 第11回～第15回 民族学・文化人類学関連の論文を講読する					
[履修要件]					
ロシア語の基本文法を習得済みであること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点50%、期末レポート50%で評価する。					
[教科書]					
使用しない 教材となる論文をプリントで配布する。					
[参考書等]					
(参考書) 各自必要な辞書等を持参・利用すること。					
[授業外学修 (予習・復習) 等]					
当該回に読み進めるパートについて、あらかじめ辞書等を用いて一通り目を通し、内容を理解し、翻訳ができるようにしておくこと。					
(その他 (オフィスアワー等))					
連絡先 obiya[AT]cseas.kyoto-u.ac.jp					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学29

科目ナンバリング	G-LET16 73251 LJ36				
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学 (講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポーランド書講読				
[授業の概要・目的]					
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 ・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 					
[授業計画と内容]					
この授業では、ヤギェウォ王朝の断絶から第3次ポーランド分割に至るまでの時代のポーランド・リトアニア共和国の歴史を記述した次の本のなかから、いくつかの章を講読する。					
Urszula Augustyniak, Historia Polski 1572-1795, Wydawnictwo Naukowe PWN: Warszawa, 2014.					
本書は、ポーランド・リトアニア共和国の歴史を体系的・総合的に記述した、優れたポーランド近世史の概論である。					
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、ポーランド史上の論点についての理解を深めることを目指す。					
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 (授業中の訳読の実績) によって評価する。					
----- スラブ語学スラブ文学 (講読)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学 (講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。なお、後期にも同じ書籍をテキストとする講読の授業が開講されるが、前期の授業では、後期とは異なる箇所を読む予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学30

科目ナンバリング		G-LET16 73251 LJ36			
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学 (講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポーランド書講読				
[授業の概要・目的]					
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 ・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 					
[授業計画と内容]					
この授業では、ヤギェウォ王朝の断絶から第3次ポーランド分割に至るまでの時代のポーランド・リトアニア共和国の歴史を記述した次の本のなかから、いくつかの章を講読する。					
Urszula Augustyniak, Historia Polski 1572-1795, Wydawnictwo Naukowe PWN: Warszawa, 2014.					
本書は、ポーランド・リトアニア共和国の歴史を体系的・総合的に記述した、優れたポーランド近世史の概論である。					
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、ポーランド史上の論点についての理解を深めることを目指す。					
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 (授業中の訳読の実績) によって評価する。					
----- スラブ語学スラブ文学 (講読)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学 (講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。なお、前期にも同じ書籍をテキストとする講読の授業が開講されるが、後期の授業では、前期とは異なる箇所を読む予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学31

科目ナンバリング		G-LET16 73251 LJ36			
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学 (講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学人文学研究科 准教授 北井 聡子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水3	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	1920-30年代のソ連文学における性と身体				
[授業の概要・目的]					
<p>ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力をもつ学生を対象とした授業です。</p> <p>1920年代後半－30年代前半のソ連文学には、革命のユートピア的価値観と、それに対する反動の2つの流れのせめぎあい描かれている作品が数多く存在します。この授業では、アンドレイ・プラトーフの『エーテルの道』など、当該の時代の性や身体をテーマとした作品を輪読形式で、精読を行います。精読を通じ、高度なロシア語の読解能力を培うことを目指すと同時に、また今日的な視点からすると奇妙とも先駆的ともとれるプロット/表象を産出させたロジックや、全体主義体制への連続性を考察します。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1) ロシア語の読解能力を習得する 2) テクストの精読を通じ、批判的に現象を分析できる 3) 革命期と全体主義体制の断絶と連続性について考察できる 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクシヨN 全体計画の説明と作品の選択</p> <p>第2回 第8回 作品の精読とディスカッション</p> <p>アンドレイ・プラトーフ『エーテルの道』(1926) SF小説。家畜のように電子に餌をやり繁殖を試みる科学者の物語。物質と人間との愛の可能性が模索される。</p> <p>第7回 第14回 作品の精読とディスカッション 以下の文献から、受講者の希望に合わせて一つ選択します</p> <p>1) セルゲイ・トレチャコフ『子どもが欲しい』(1926-27) 戯曲。性的欲望を持たないヒロインが、100%共産主義的な子どもを生むために奔走するコメディ。(2024年度の続きからとなりますが、既読の範囲については和訳を配布します。)</p>					
スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く					

スラブ語学スラブ文学 (講読)(2)

2) アレクセイ・トルストイ『クサリヘビ』(1928)
男装のヒロインが、戦場で男性と同等の兵士として戦う物語。

3) プラトーフ 短編 (TBA)

第15回
期末試験

【履修要件】

ロシア語の初級文法を修めていること。独習でもかまわない。

【成績評価の方法・観点】

授業への取り組み80%、期末試験20%

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

事前に必ずテキストに目をおし、日本語に訳せるようにしておいてください。

(その他(オフィスアワー等))

メールで希望の日時を連絡してください

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学 (外国語実習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 Svetlana , Vinogradova	
配当学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木3	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	ロシア語
題目	ロシア語実習				
[授業の概要・目的]					
<p>話すこと、書くことの両面にわたって現代ロシア語の確実な知識の習得を目指します。基本的な日常表現から始めて、よく使われる語彙、熟語、文法形式を身につけ、実際に使いこなせるようになることを目標とします。</p>					
[到達目標]					
<p>1) ロシア語の正しい発音を身につけ、またその聴き取り能力を身につける。2) 基本的な日常表現から始めて、よく使われる語彙、熟語、文法形式を身につける。3) 日常的な対話の場面でのコミュニケーション能力を身につける。4) 日常生活に必要な書かれた文章をすばやく理解し、自分でも作成する能力を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>文法の授業で習ったことを、ロシア語を母語とする教員との対話によってひとつひとつ確認し、確実にロシア語の力を身につけていくことを目指します。出席者の興味に応じて具体的なテーマを設定し、それによって授業を進めます。それぞれのテーマはロシアにおける実際の生活の場を想定したテキストとそれを発展させる対話、さらに練習問題からなります。一定のテーマによって文章を書く訓練も行います。</p> <p>第1回～第2回 ロシア語の正しい発音を身につけます。 第3回～第4回 ロシア語の聴き取りの能力を身につけます。 第5回～第15回 日常の生活におけるコミュニケーション能力を身につけます。日常の生活を題材とする書かれたテキストを読んで理解し、また自分でそのような文章を書く訓練をします。その際、テキストの内容について質疑応答をし、またテキストの内容を要約するといった訓練を通して、ロシア語の力を確実に身につけることを目指します。</p>					
[履修要件]					
ロシア語初級文法を習得していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
授業への参加状況20%、課題の提出状況30%、学期末の試験50%で評価します。					
----- スラブ語学スラブ文学 (外国語実習)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学 (外国語実習)(2)

[教科書]

授業時にプリントの形で配付します。

[参考書等]

(参考書)

必要に応じて映像資料、音声資料、ロシアで発行されている雑誌等を補助教材として用います。

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の授業で出される課題をきちんと行ってください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学 (外国語実習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 Svetlana, Vinogradova	
配当学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木3	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	ロシア語
題目	ロシア語実習				
【授業の概要・目的】					
<p>話すこと、書くことの両面にわたって現代ロシア語の確実な知識の習得を目指します。基本的な日常表現から始めて、よく使われる語彙、熟語、文法形式を身につけ、実際に使いこなせるようになることを目標とします。</p>					
【到達目標】					
<p>1) ロシア語の正しい発音を身につけ、またその聴き取り能力を身につける。2) 基本的な日常表現から始めて、よく使われる語彙、熟語、文法形式を身につける。3) 知的な対話の場面でのコミュニケーション能力を身につける。4) 複雑な、また知的な内容の文章を理解し、自分でも作成する能力を身につける。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>文法の授業で習ったことを、ロシア語を母語とする教員との対話によってひとつひとつ確認し、確実にロシア語の力を身につけていくことを目指します。出席者の興味に応じて具体的なテーマを設定し、それによって授業を進めます。教材とするテキストは、それぞれの学生が興味を持つ分野を考慮にいれ、たとえば文学作品、文化に関するもの、ロシアの歴史に関するものといった形で選びます。日常的会話の場面だけでなく、知的な対話の場面を想定した訓練や一定のテーマによって文章を書く訓練も行います。</p> <p>第1回～第2回 ロシア語の正しい発音を身につける。 第3回～第4回 ロシア語の聴き取りの能力を身につける。 第5回～第14回 学術的・知的な対話の場面でのコミュニケーション能力を身につけます。知的な内容の書かれたテキストを材料に、それを自由に理解し、また自分でそのような文章を書く訓練をします。その際、テキストの内容について質疑応答をし、テキストの内容を要約する、といった訓練を通して、ロシア語の力を確実に身につけることを目指します。また文法の知識を復習し、複雑な構文を実際に使いこなせるように身につけます。 第15回 試験。 第16回 フィードバック。</p>					
【履修要件】					
<p>ロシア語初級文法を習得していることが望ましい。前期の授業から継続して出席することが望ましいが、絶対的条件とはしません。</p>					
----- スラブ語学スラブ文学 (外国語実習)(2)へ続く -----					

スラブ語学スラブ文学 (外国語実習)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への参加状況20%、課題の提出状況30%、学期末の試験50%で評価します。

[教科書]

授業時にプリントの形で配付します。

[参考書等]

(参考書)

必要に応じて映像資料、音声資料、ロシアで発行されている雑誌等を補助教材として用います。

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の授業で与えられる課題を、きちんと行ってください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学34

科目ナンバリング		G-LET49 69646 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ロシア語(初級)(語学) Russian I		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア語の基礎				
[授業の概要・目的]					
<p>ロシア語やロシア文化に関心のある学生を対象として、ロシア語を一から勉強していきます。日本ではあまりなじみのない文字の書き方と発音から始めて、意外に日本語との類推が利く基本的な文法と構文、語彙を学習していきます。</p>					
[到達目標]					
<p>1) ロシア語で使用されているキリル文字とその発音を習得する。 2) ロシア語の基礎的な文法を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>授業は配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ロシア語の文字とその読み方 2. 「これはナターシャです」：肯定文・疑問文 3. 「私はナターシャではありません」：否定文・人称代名詞・挨拶 4. 「これは私のスーツケースです」：所有代名詞・指示代名詞 5. 「あそこに古い写真があります」：名詞・形容詞の性の一致 6. 「雑誌を読んでいます」：動詞の規則変化(1) 7. 「日本語を話します」：動詞の規則変化(2)・複数形 8. 「彼女はどこに住んでいるのですか」：動詞の不規則変化・前置格 9. 「電話を持っていますか」：所有の表現・命令形 10. 「音楽を聞いているのですか」：格の概念・対格 11. 「小包を送りたい」：重要不規則動詞・行先の表現 12. 「日本文学を勉強していました」：動詞の過去形・場所の表現 13. 「家にいました」：状態の過去形 14. 「今晚はお客が来ます」：動詞の未来形・不規則動詞のパターンまとめ 15. 「カサがありません」：生格の諸用法 <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点30%、試験70%で評価します。					
[教科書]					
プリントを配付します。					
----- ロシア語(初級)(語学)(2)へ続く -----					

ロシア語 (初級) (語学)(2)

[参考書等]

(参考書)
開講時および授業中に紹介します。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

配付されたプリントを事前に下調べして、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

(その他 (オフィスアワー等))

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学35

科目ナンバリング		G-LET49 69647 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ロシア語 (中級) Russian II	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア語の基礎				
[授業の概要・目的]					
ロシア語の初級を前年度に履修したか、それと同程度の基礎運用能力を習得している学生を対象として、ロシア語の基本文法の完成をめざします。					
[到達目標]					
1) ロシア語の基礎文法を完成させる。 2) 辞書を引けば、平易なロシア語を読めるようになる。					
[授業計画と内容]					
授業は、前年度初級に引き続き、配付プリントに沿って進みます (第1回～第12回)。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。					
第1課 名詞の複数変化(1) 与格・造格・前置格 第2課 名詞の複数変化(2) 生格・対格 第3課 形容詞の格変化 第4課 形容詞短語尾形と副詞 第5課 関係代名詞(1) 第6課 関係代名詞(2) 第7課 形容詞の比較級・最上級 第8課 動詞 第9課 分詞(1) 能動現在分詞 第10課 分詞(2) 能動過去分詞・分詞(3) 受動現在分詞 第11課 分詞(4) 受動過去分詞 第12課 不定人称文					
文法事項の確認を兼ねて、平易なロシア語の文章を読みます。(第13回～第14回)					
第15回 まとめ					
フィードバックについては授業中に指示します。					
[履修要件]					
ロシア語 (初級) を前年度に履修したか、それと同程度のロシア語能力を有していること。					
----- ロシア語 (中級) (2)へ続く -----					

ロシア語 (中級) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点30%、試験70%で評価します。

[教科書]

プリントを配付します。

[参考書等]

(参考書)

開講時および授業中に紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

(その他(オフィスアワー等))

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学36

科目ナンバリング	G-LET17 6M181 LJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	国際高等教育院 教授 細見 和之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ベンヤミン「暴力批判論」の前半を読む。				
[授業の概要・目的]					
この講義では、ベンヤミンの「暴力批判論」の前半をドイツ語の原文で精読することで、ベンヤミンの考える「法維持的暴力」と「法措定的暴力」について理解することを目的とする。また、ドイツ語の原文を精読することで、受講者が高度なドイツ語の読解能力を身に付けることも目指す。					
[到達目標]					
受講生は、この講義をつうじて、ベンヤミンの「法維持的暴力」と「法措定的暴力」の関係を学ぶとともに、広く20世紀という時代のなかで思想家がどのように生きてきたかについて、ゆたかな知識を得ることができる。また、高度なドイツ語の読解能力を身に付けることができる。					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション ベンヤミンの思想の大枠と、そのなかでの「暴力批判論」の位置、またその内容について、概略を説明する。 第2回から第14回 ドイツ語原文の精読 「暴力批判論」の前半をドイツ語原文で精読する。 第15回 まとめ ベンヤミンの暴力概念をめぐって受講者が討論することを主たる内容とする。					
[履修要件]					
ドイツ語の最低限の読解能力を有すること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 (90点)、討論参加 (10点) を基本にして、総合的に判定する。					
[教科書]					
使用しない プリントを配付します。					
----- ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義) (2)へ続く					

ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

ドイツ語原文の精読が基本になりますので、必ず予習をして臨んでください。背景的な知識がかなり必要になりますが、授業中に指示する参考文献も併読して、ベンヤミンの思想を軸に、ホロコーストをあいだに挟んだ20世紀の思想の展開に対して強い関心をもっていただきたいと思います。

(その他(オフィスアワー等))

毎週、火曜日、水曜日の昼休みには、原則として研究室にいますので、お気軽にお訪ねください。それ以外の時間帯での相談はメールでアポイントを取っていただければと思います。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学37

科目ナンバリング	G-LET17 7M183 SJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (演習) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 籠 碧		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Schnitzler: Flucht in die Finsternis (1)				
【授業の概要・目的】					
世紀末ウィーンを代表する作家アルトゥル・シュニッツラーの中編小説『闇への逃走』（1917/31）を原文で読みます。 狂気をテーマとするこの作品では、「いかに語られているか」も読解の鍵です。体験話法、焦点化等、語りの手法にも着目しつつ精読します。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語の読解力を高める。 ・ドイツ語による語りの手法への理解を深める。 					
【授業計画と内容】					
第1回 はじめに： シュニッツラーの生涯と作品について解説する。 第2回～第14回 テキスト講読： テキストの前半部を精読する。 第15回 まとめ： これまでの授業内容を総括する。					
【履修要件】					
ドイツ語中級以上の語学力があること。					
【成績評価の方法・観点】					
授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席してください。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学38

科目ナンバリング	G-LET17 7M183 SJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (演習) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 籠 碧		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Schnitzler: Flucht in die Finsternis (2)				
【授業の概要・目的】					
<p>前期に引き続き、世紀末ウィーンを代表する作家アルトゥル・シュニッツラーの中編小説『闇への逃走』(1917/31)を原文で読みます。 狂気をテーマとするこの作品では、「いかに語られているか」も読解の鍵です。体験話法、焦点化等、語りの手法にも着目しつつ精読します。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語の読解力を高める。 ・ドイツ語による語りの手法への理解を深める。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回～第14回 テクスト講読： テクストの続きを精読する。 第15回 まとめ： これまでの授業内容を総括する。</p>					
【履修要件】					
ドイツ語中級以上の語学力があること。					
【成績評価の方法・観点】					
授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席してください。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学39

科目ナンバリング	G-LET17 7M183 SJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 川島 隆		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツのリアリズム文学				
【授業の概要・目的】					
ドイツ語圏のリアリズム文学は英仏のそれに比べて広がりには欠け、社会批判的な方向性が弱かったとされる。同時代の文芸評論においても、文学は人間の営みの醜い部分をあばくよりも、美しいものを描くべきだとの主張も数多くなされた。ゆえに、ドイツのリアリズム文学は「詩的リアリズム」と呼ばれる。また、英仏のリアリズム文学がパリやロンドンといった大都市の発展を前提とした都市文学であったのに対し、都市化や市民層の形成が遅れたドイツ語圏にあっては、リアリズム文学はもっぱら農村部に立脚しながら展開した。以上のような差異から実際の文学にどのような特徴が生まれるのかに留意しながら、具体的に個々の作家の事例を見ていく。					
【到達目標】					
当該分野の研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み、自分自身の視点を打ち出すことができるようになる。					
【授業計画と内容】					
基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文を読む予定であるが、必要に応じて個々の文学作品も視野に入れる。授業の進行予定は以下のとおり。					
第1回 授業テーマの解説 第2～14回 テキスト輪読と討論 第15回 まとめ					
【履修要件】					
中級以上のドイツ語の読解能力があること					
【成績評価の方法・観点】					
平常点のみで評価。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学40

科目ナンバリング	G-LET17 7M183 SJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (演習) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 川島 隆		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツのリアリズム文学				
【授業の概要・目的】					
ドイツ語圏のリアリズム文学は英仏のそれに比べて広がりには欠け、社会批判的な方向性が弱かったとされる。同時代の文芸評論においても、文学は人間の営みの醜い部分をあばくよりも、美しいものを描くべきだとの主張も数多くなされた。ゆえに、ドイツのリアリズム文学は「詩的リアリズム」と呼ばれる。また、英仏のリアリズム文学がパリやロンドンといった大都市の発展を前提とした都市文学であったのに対し、都市化や市民層の形成が遅れたドイツ語圏にあっては、リアリズム文学はもっぱら農村部に立脚しながら展開した。以上のような差異から実際の文学にどのような特徴が生まれるのかに留意しながら、具体的に個々の作家の事例を見ていく。					
【到達目標】					
当該分野の研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み、自分自身の視点を打ち出すことができるようになる。					
【授業計画と内容】					
前期に引き続き、基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文を読む。 取り上げるテーマとテキストについては、受講者の希望を考慮しつつ決定する。					
第1回 前期の復習と今期の課題の設定 第2～14回 テキスト輪読と討論 第15回 まとめ					
【履修要件】					
中級以上のドイツ語の読解能力があること					
【成績評価の方法・観点】					
平常点のみで評価					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学41

科目ナンバリング		G-LET17 7M183 SJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	国際高等教育院 教授 細見 和之	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ベンヤミン「暴力批判論」の後半を読む。				
[授業の概要・目的]					
この演習では、ベンヤミンの「暴力批判論」の後半をドイツ語の原文で読み解くことで、ベンヤミンの捉えようとしていた「暴力」について理解するとともに、受講者が高度なドイツ語の読解能力を身に付けることを目指す。あわせて、受講者自身の研究発表の機会を授業のなかに組み込むことで、受講者が研究者として発信する力を身に付けることも目指す。					
[到達目標]					
受講生は、この演習をつうじて、ベンヤミンの「暴力」という概念について学ぶとともに、広く20世紀という時代のなかで思想家がどのように生きてきたかについて、ゆたかな知識を得ることができる。また、高度なドイツ語の読解能力を身に付けることができる。さらに、自分自身の発表の機会をつうじて、研究者として自らの研究内容を発信する力を身に付けることができる。					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション ベンヤミンの思想全体のなかでの「暴力批判論」の位置について、また「暴力批判論」前半の内容について、概略的な解説をくわえる。					
第2回から第14回 ドイツ語テキストの精読と受講者の発表 「暴力批判論」の後半をドイツ語の原文で精読するとともに、受講生による発表の時間を組み込む。					
第15回 まとめ ベンヤミンの考える「暴力」という概念について、受講者で討論することを主たる内容とする。					
[履修要件]					
ドイツ語の最低限の読解能力を有すること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(70点)、発表(20点)、討論参加(10点)を基本にして、総合的に判定する。					
[教科書]					
使用しない プリントを配付します。					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- ドイツ語学ドイツ文学(演習)(2)へ続く -----					

ドイツ語学ドイツ文学 (演習)(2)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

ドイツ語論文の精読が基本になりますので、必ず予習をして臨んでください。背景的な知識がかなり必要になりますが、授業中に指示する参考文献も併読して、ホロコーストをあいだに挟んだ20世紀の思想の展開に対して強い関心をもっていただきたいと思います。また、自分の発表に際しては、それぞれの研究テーマに引き寄せて、積極的に取り組んでください。

(その他 (オフィスアワー等))

毎週、火曜日、水曜日の昼休みには、原則として研究室にいますようにしていますので、お気軽にお訪ねください。それ以外の時間帯の場合、メールでアポイントを取っていただくとありがたいです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET17 63331 LJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 川島 隆		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツの児童文学				
[授業の概要・目的]					
<p>ヨーロッパでは、17世紀から18世紀にかけて「子どもの発見」がなされて以来、子どものあるべき姿やあるべき教育方法をめぐって膨大な言説が積み重ねられてきた。それと同時に、子どもが読むにふさわしい本とはどのようなものか、という問題についても膨大な議論が交わされてきた。児童文学とは、そうした議論を反映して、あるいはそうした議論に応答する形で生まれてきたものである。本授業では、ドイツ語圏の児童文学作品の内容と、作品が生み出された背景を総合的に理解することをめざす。余裕があれば、作品の映像化バージョン（映画やアニメ）の問題も視野に入れる。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1．ドイツの児童文学史について基礎的知識を得る 2．各児童文学作品の背景（政治的・社会的・文化的な時代状況、作者の生い立ちや思想的なバックグラウンド、先行する作品など）を理解する 3．両者の関係を考察することを通じ、文学が社会の中で果たす役割をイメージする 					
[授業計画と内容]					
<p>取り上げる予定のテーマは以下の通り（ただし、授業の進行速度や受講者の興味などを勘案して予定変更する場合がある）。毎回、講師による情報提供のあと、受講者参加型のディスカッションを行う。</p>					
第1回	イントロダクション	「子ども」の理念の形成			
第2回	カンペ『新ロビンソン』	啓蒙主義的な教育と子どもの自主性			
第3回	グリム兄弟『子どもと家庭のメルヘン』	「メルヘン」が「童話」になるまで			
第4回	ホフマン『もじゃもじゃペーター』	恐怖と教訓			
第5回	シュピーリ『ハイジ』	リアリズム児童文学			
第6回	ボンゼルス『みつばちマーヤの冒険』	生物学的世界観がもたらしたもの			
第7回	ザルテン『バンビ』	鹿の成長物語			
第8回	ケストナー（1）『エミールと探偵たち』	都市文学としての児童文学			
第9回	ケストナー（2）『ふたりのロツテ』	児童文学に描かれた家族像			
第10回	フランク『アンネの日記』	ホロコースト児童文学			
第11回	リヒター『あのころはフリードリヒがいた』	ホロコースト児童文学			
第12回	プロイスラ『クラバート』	故郷喪失と郷土文学			
第13回	ヘルトリング『ヒルベルという子がいた』	社会問題を描く児童文学			
第14回	エンデ『モモ』	ファンタジー児童文学			
第15回	パウゼヴァング『みえない雲』	反戦、反核、反原発			
----- ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中の小課題にもとづく平常点（50％）および期末レポート（50％）で評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で扱ったものに限らず、できるだけ多くの文学作品を実際に手に取って読んでみてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学43

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 籠 碧		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	同情とドイツ語文学				
[授業の概要・目的]					
<p>近年「感情史」研究の盛り上がりの中で、同情 (Mitleid) への関心が高まっています。ドイツ語圏においてこの感情は、18世紀末から20世紀初頭へと時代が下るにつれて、社会に益するもの・唯一の救済手段という高い評価から、畜群の道徳・行動を阻害するもの、というように、より複雑な評価を受けるようになったと言えます。</p> <p>この授業では、ドイツ語文学が同情という感情をどのように取り扱ったのか考察することを試みます。おおむね時代順に作品を取り上げ、その歴史を概観したいと思います。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを時代的・文化的背景と結びつけて読む手法を身につけること。 ・同情をキーワードにドイツ語文学を時代順に眺めることで、おおまかな文学史や文化史を把握すること。 					
[授業計画と内容]					
<p>各回のテーマは次の通り。</p> <p>1～2 イントロダクション 3～4 レッティング 5 クライスト 6 シュトルム 7 エーブナー＝エッセンバッハ 8 ニーチェによる同情批判 9～10 シュニツラー 11～12 ツヴァイク 13 デーブリーン 14 プレヒト 15 おわりに</p>					
進捗に応じて、予定変更がなされる可能性が大いにあります。					
[履修要件]					
ドイツ語の知識は必要としない。					
-----ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義)(2)へ続く-----					

ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

コメントペーパー（20％）と期末レポート（80％）によって評価します。

[教科書]

資料はLMSで配布します。分量が多いので、教室にパソコン、タブレット等を持参し、授業中に参照できるようにしておくことをおすすめします。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で取り上げる作家の作品を、できるだけ読んでみることを。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学44

科目ナンバリング	G-LET17 63331 LJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 河崎 靖		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語学・ゲルマン語学 入門				
[授業の概要・目的]					
研究発表 (ゼミ形式) による。ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とする。言語学の諸分野 (音論、形態論、統語論等の諸領域) を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく、通時的考究を進める。言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。					
[到達目標]					
今日の言語学の手法と併せて、言語の史的考察による種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題について考究する力が身に付くようにする。個別言語にとどまらず、言語一般の体系性が把握できることを目指す。					
[授業計画と内容]					
ゲルマン語学の諸分野 (音論・形態論・統語論・意味論などの領域) を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく考究を進める。言語の理論的アプローチによる種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題についても考察する。					
第1回～第10回 研究発表 (ゼミ形式) 院生による。 第11回～第13回 研究発表 (ゼミ形式) 学部生による 第14回～第15回 まとめ					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
主に研究発表の形式をとる。発表など平常点を主に成績評価を行う。					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

河崎 靖 『ゲルマン語学への誘い』 (現代書館)

河崎 靖 『ゲルマン語基礎語彙集』 (大学書林)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

こちらで用意する教材に関し、授業の前後 (予習・復習) に課題を課し、授業時に発表できる準備をしてもらう。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学45

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 BEUTTEL, Bianca		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	ドイツ語
題目	Einführung in die deutsche Designgeschichte				
[授業の概要・目的]					
<p>Dieser Kurs vermittelt einen Einblick in deutsche Kultur und Denkweise am Beispiel von bekannten Produkten der Designgeschichte -- wie beispielsweise Thonet, Werkbund (Peter Behrens und die AEG), Bauhaus, Hochschule für Gestaltung Ulm, Braun und Dieter Rams, "Neues Deutsches Design" und aktuelle Tendenzen/ Designerinnen und Designer -- sowie der Markenwelt.</p>					
[到達目標]					
<p>Design aus Deutschland ist heutzutage international anerkannt. Aber war das schon immer so? Die Studierenden lernen in diesem Kurs deutsches Design kennen, können anhand eines Zeitstrahls, den sie selbst vervollständigen, nachvollziehen, wie die Geschichte das deutsche Design beeinflusst hat, und erstellen eine Präsentation zu einer deutschen Marke. Sie erweitern dabei ihren deutschen Wortschatz und ihre Kommunikationsfähigkeit. Wir beleuchten aber auch, was Design grundsätzlich ist, und warum die Beschäftigung damit lohnenswert ist.</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Woche: Vorstellung des Themas. 2. Woche: Einführung (1): "Was ist Design eigentlich?" 3. Woche: Einführung (2): "Es gibt fast nichts um uns herum, das nicht gestaltet ist." 4. Woche: Thema "Idee, Innovation, Kritik, Zukunft" anhand von Beispielen aus der Designgeschichte und Marken. 5. Woche: Thema "Form" anhand von Beispielen aus der Designgeschichte und Marken. 6. Woche: Thema "Farbe" anhand von Beispielen aus der Designgeschichte und Marken. 7. Woche: Thema "Material" anhand von Beispielen aus der Designgeschichte und Marken. 8. Woche: Exkurs zum Thema "Japanisches Design" 9. Woche: Thema "Muster/Dekor/Ornament" bzw. "Oberfläche/Textur" anhand von Beispielen aus der Designgeschichte und Marken. 10. Woche: Thema "Funktion, Gebrauch, Körper, Verstehen" anhand von Beispielen aus der Designgeschichte und Marken. 11. Woche: Thema "Gefühle, Marke, Logo, Image" anhand von Beispielen aus der Designgeschichte und Marken. 12. Woche: Thema "Verantwortung vs. Manipulation -- Ethik/Gesellschaft, Umwelt, Gesundheit" anhand von Beispielen aus der Designgeschichte. 13. Woche: Übung zur Wahrnehmung und Bewertung von Design. 14. Woche: Schlussbetrachtung und kreative Übung zum Leben in der Zukunft. 15. Woche: "Feedback" -- Zusammenfassung des in diesem Semester Erlernten. 					
----- ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義)(2)へ続く					

ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

Die Studierenden benötigen ausreichende Kenntnisse in der deutschen Sprache, um die Aufgaben des Kurses (Texte lesen und verstehen sowie selbst einfache Texte schreiben) bewältigen zu können.

【成績評価の方法・観点】

Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage

- der Präsentation zu einer deutschen Marke (25%) und deren schriftlichen Ausführung (25%)
- der Ausfertigung eines Zeitstrahls (25%)
- sowie von Arbeitsblättern und der Unterrichtseteiligung. (25%)

【教科書】

Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Es wird zu jedem Unterricht Material ausgeteilt bzw. auf der PandA-Website zur Verfügung gestellt.

【参考書等】

(参考書)

阿部公正 [ほか執筆] 『世界デザイン史 増補新装 カラー版』 (美術出版社、2012年) ISBN: 9784568400847

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Erarbeitung einer Präsentation sowie deren schriftlichen Ausführung,
Vervollständigung eines Zeitstrahls mit Inhalten aus dem Unterricht,
Bearbeitung von Arbeitsblättern.

(その他 (オフィスアワー等))

Für Fragen der Studierenden steht die Dozentin vor und nach dem Unterricht zur Verfügung.
Kontakt: beautyfaul@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学46

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 BEUTTEL, Bianca		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	ドイツ語
題目	Nachhaltigkeit und deutschsprachige Literatur				
[授業の概要・目的]					
In diesem Kurs sprechen wir über verschiedene Aspekte von Nachhaltigkeit (サステナビリティ), über die Rolle, die Umweltschutz in Deutschland spielt, und ob literarische Werke zu ökologischem Verhalten motivieren können.					
[到達目標]					
Deutschland hat ein umweltfreundliches Image, aber wird es dem auch gerecht? Die Studierenden beschäftigen sich mit Auszügen aus verschiedenen Textformen -- Sachtexte sowie literarische Texte (beispielsweise von E.T.A Hoffmann, Erich Kästner, Irmgard Keun, Heinrich Böll, Bernard Schlink, Arno Geiger u. a.) -- und gewinnen einen Einblick in nachhaltige Praktiken der Vergangenheit, historische Entwicklungen im Umweltschutz und Zukunftsszenarien. Sie erweitern dabei ihren deutschen Wortschatz und ihre Kommunikationsfähigkeit.					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Woche: Einführung in das Thema. 2. Woche: Themenfeld Ressourcen und Material. 3. Woche: Themenfeld Klima und Energie. 4. Woche: Themenfeld Wasser. 5. Woche: Themenfeld Müll und Verschmutzung. 6. Woche: Themenfeld Biodiversität. 7. Woche: Themenfeld Gerechtigkeit. 8. Woche: Erster kleiner Test und Empathieübung. 9. Woche: Im Alltag - Mobilität und Reisen 10. Woche: Im Alltag - Essen und Trinken. 11. Woche: Im Alltag - Lernen, Kommunikation und Unterhaltung. 12. Woche: Im Alltag - Hygiene. 13. Woche: Im Alltag - Kleidung und Mode. 14. Woche: Zweiter kleiner Test und Schlussbetrachtung. 15. Woche: "Feedback" -- Zusammenfassung des in diesem Semester Erlernenen. 					
[履修要件]					
Die Studierenden benötigen ausreichende Kenntnisse in der deutschen Sprache, um die Aufgaben des Kurses (Texte lesen und verstehen sowie selbst einfache Texte schreiben) bewältigen zu können.					
[成績評価の方法・観点]					
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage von - zwei Recherche-Aufgaben sowie deren Präsentation und schriftlicher Zusammenfassung (2x 25%)					
----- ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義)(2)へ続く					

ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義)(2)

- zwei kleinen Tests (2x 15%)
- und der Unterrichtsbeteiligung (20%)

[教科書]

Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Es wird zu jedem Unterricht Material ausgeteilt bzw. auf der PandA-Website zur Verfügung gestellt.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Durchführung der zwei Recherche-Aufgaben und die Aufbereitung der Ergebnisse (Präsentation und schriftlicher Zusammenfassung).
Die Studierenden sind aufgefordert, im Zusammenhang mit den Inhalten des Unterrichts eigenen Fragestellungen nachzugehen.

(その他 (オフィスアワー等))

Für Fragen der Studierenden steht die Dozentin vor und nach dem Unterricht zur Verfügung.
Kontakt: beautyfaul@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET17 63331 LJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 浅井 佑太		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	20世紀「新音楽」の道なき道 (1)				
[授業の概要・目的]					
<p>「新音楽」(独)あるいは、「前衛」「現代音楽」(仏・英)と言った標語が示すように、20世紀の芸術音楽の歴史は、「新しい」音楽をめぐる物語として読み替えることができる。しかしながら、進歩主義を時代の信条としていた19世紀とは異なり、20世紀の音楽史における「新しさ」は、必ずしも、作曲技法上の進歩や革新と同一視できるものではない。むしろ、何をもって「新しい」音楽とするかは、作曲家の世代や主義によって大きく異なり、その総体としてのみ「新音楽」の実態は描きうるものなのである。本講義では、新音楽の背景にある美学的・歴史的な要因を明らかにすることで、この「多様な」新しさの核心に迫る。</p>					
[到達目標]					
個別事例を越えて受講者が内容を自身の「問題」として理解することを期待する。					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進度、受講生の事前知識などに応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>1回：「新音楽」とは何か？ 20世紀音楽における「新しさ」の諸問題</p> <p>2-3回：第一次世界大戦と「大きな物語」の終わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造力を失う作曲家たち(エルガー、シベリウス、ラヴェル、ラフマニノフ) ・挫折する前衛？(シェーンベルク、ストラヴィンスキー、バルトーク) <p>4-7回：ヴァイマル共和国誕生と大衆の時代のはじまり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帝政の終わりと民主主義の誕生 ・戦争帰りの若者たち：ヒンデミット、クルシェネク、ヴァイル、アイスラー、そしてヒトラー ・19世紀ロマン派からの脱却：ベートーヴェンとワーグナーへの反発 <p>8-11回：新音楽の栄光と危機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度化される新音楽：私的演奏協会(1918-21) ドナウエッシンゲン音楽祭(1921-)、国際現代音楽協会(1922-) ・一般聴衆の不在 ・解離する「クラシック音楽」と「現代音楽」 ・大衆文化の可能性：映画、ラジオ、レコード <p>12-15回：芸術は大衆のためにありうるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい新音楽？ ・社会的に有用な新音楽(実用音楽・政治参加型の音楽) ・新しいテクノロジーへの適応(映画、自動演奏楽器のための音楽) 					
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----					

ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

片方だけの受講を妨げるものではないが、前・後期で一続きの内容として構想している。

[成績評価の方法・観点]

レポートによる。評価は到達目標の達成度に基づく。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

岡田暁生 『西洋音楽史』(中公新書)

岡田暁生 『「クラシック音楽」はいつ終わったのか?』(人文書院)

浅井佑太 『作曲家・人と作品 シェーンベルク』(音楽之友社)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET17 63331 LJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 浅井 佑太		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	20世紀「新音楽」の道なき道 (2)				
[授業の概要・目的]					
<p>「新音楽」(独)あるいは、「前衛」「現代音楽」(仏・英)と言った標語が示すように、20世紀の芸術音楽の歴史は、「新しい」音楽をめぐる物語として読み替えることができる。しかしながら、進歩主義を時代の信条としていた19世紀とは異なり、20世紀の音楽史における「新しさ」は、必ずしも、作曲技法上の進歩や革新と同一視できるものではない。むしろ、何をもって「新しい」音楽とするかは、作曲家の世代や主義によって大きく異なり、その総体としてのみ「新音楽」の実態は描きうるものなのである。本講義では、新音楽の背景にある美学的・歴史的な要因を明らかにすることで、この「多様な」新しさの核心に迫る。</p>					
[到達目標]					
個別事例を越えて受講者が内容を自身の「問題」として理解することを期待する					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進度、受講生の事前知識などに応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>1回：「新音楽」とは何か？ 20世紀音楽における「新しさ」の諸問題（前期の授業の振り返り）</p> <p>2-5回：フランス音楽の状況とドイツへの影響（1917-1925）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストラヴィンスキーの新古典主義と「歴史との対話」としての音楽 ・ドイツからの脱走：サティ、コクトー、フランス六人組（ミヨー、プーランク、オネゲル、タイユフェール、デュレ、オーリック） ・職人としての作曲家：ストラヴィンスキーと6人組 <p>6-10回：世代間闘争：シェーンベルクと若者たちの争い（1925-1930）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シェーンベルクの十二音技法と進歩の継続 ・若者たちの進んだ道：ヒンデミット、クルシェネク、ヴァイル、アイスラー ・ヒンデミットとアマチュアのための音楽 ・アイスラーの政治参加：労働者合唱団とアジトプロップ ・劇場という可能性：ヴァイル《三文オペラ》とクルシェネク《ジョニーは演奏する》 <p>11-13回：「政治」という物語：ナチス政権の誕生と新音楽の運命</p> <p>14-15回：音楽は国境を越える？ 亡命する作曲家たち（シェーンベルク、ストラヴィンスキー、バルトーク、ヒンデミット、アイスラー、クルシェネク、ヴァイル、ミヨー）</p>					
[履修要件]					
片方だけの受講を妨げるものではないが、前・後期で一続きの内容として構想している。					
[成績評価の方法・観点]					
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。					
ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義)(2)へ続く					

ドイツ語学ドイツ文学 (特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

岡田暁生 『西洋音楽史』 (中公新書)

岡田暁生 『「クラシック音楽」はいつ終わったのか?』 (人文書院)

浅井佑太 『作曲家・人と作品 シェーンベルク』 (音楽之友社)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学49

科目ナンバリング		G-LET17 73345 SJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (演習III) German Language and Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 川島 隆 文学研究科 准教授 籠 碧	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツ語学ドイツ文学の諸問題 (1)				
【授業の概要・目的】					
受講者の研究発表と、それにもとづく出席者全員による討論を中心にして授業を進める。卒業論文、修士論文、博士論文の中間発表の場であると同時に、受講者が互いの研究テーマを共有し、議論を通じて問題意識を広げ、深めてゆくための場となることを期待している。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法にかんする知識と理解を深める。 ・研究発表とディスカッションの技法を身につける。 					
【授業計画と内容】					
受講者の人数や研究の進捗状況によって変更することもあるが、大まかな授業計画は次の通り。					
第1回	はじめに： 研究発表の要領を説明し、前期の発表日程について協議する。				
第2回～第3回	博士後期課程1回生による研究発表： 前年度に提出した修士論文の内容の報告。				
第4回～第6回	修士課程1回生による研究発表： 前年度に提出した卒業論文の内容の報告。				
第7回～第9回	博士後期課程2・3回生による研究発表： 博士論文作成に向けての中間報告。				
第10回～第15回	修士課程2回生による研究発表： 修士論文作成に向けての中間報告。				
【履修要件】					
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、必ず出席すること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。					
【教科書】					
発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
発表者は事前に予告編を作成して受講者に配布し、受講者はそれを読んで討論の準備をしておくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学50

科目ナンバリング		G-LET17 73345 SJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (演習III) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 川島 隆 文学研究科 准教授 籠 碧		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツ語学ドイツ文学の諸問題 (2)				
[授業の概要・目的]					
受講者の研究発表と、それにもとづく出席者全員による討論を中心にして授業を進める。卒業論文、修士論文、博士論文の中間発表の場であると同時に、受講者が互いの研究テーマを共有し、議論を通じて問題意識を広げ、深めてゆくための場となることを期待している。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法にかんする知識と理解を深める。 ・研究発表とディスカッションの技法を身につける。 					
[授業計画と内容]					
<p>受講者の人数や研究の進捗状況によって変更することもあるが、大まかな授業計画は次の通り。</p> <p>第1回～第6回 修士課程2回生による研究発表： 修士論文の中間報告。</p> <p>第7回～第9回 学部4回生による研究発表： 卒業論文の中間報告。</p> <p>第10回～第12回 博士後期課程学生による研究発表： 博士論文作成に向けての中間報告。</p> <p>第13回～第14回 修士課程1回生による研究発表： 修士論文作成に向けての中間報告。</p> <p>第15回 学部3回生による研究発表： 卒業論文作成に向けての中間報告</p>					
[履修要件]					
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、必ず出席すること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。					
[教科書]					
発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。					
[参考書等]					
(参考書) 発表者が、必要に応じて紹介する。					
----- ドイツ語学ドイツ文学 (演習III)(2)へ続く -----					

ドイツ語学ドイツ文学 (演習III)(2)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

発表者は事前に予告編を作成して受講者に配布し、受講者はそれを読んで討論の準備をしておくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学51

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代英国演劇における多文化主義とその問題				
[授業の概要・目的]					
<p>現代英国演劇、とりわけ旧植民地の背景を有する作家による作品の講読を通じて英国(UK)における多文化主義とその問題を考察する。具体的には、ジャマイカを背景に持つ英国出身の劇作家 Winsome PinnockによるRockets and Blue Lights (2018)を取り上げ、そこに見られる英国社会の文化的多様性とその背景を検討し、そこから他者との相互交流の可能性について考察する。主に問題となるのは英国による大西洋奴隷貿易の影響とこれへの批判である。さらに異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する ・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 					
[授業計画と内容]					
<p>本授業は a) 戯曲テキストの講読 b) 指定のトピックに関するプレゼンテーション (担当者を指名する) c) テキスト並びに関連文献の講読を通じて学んだ多文化主義の歴史と現状に基づく異文化体験に関するプレゼンテーション の3つから構成される。下に示すのは扱われる全体像であり、受講者の数、英語力、経験等により毎回の内容は前後することがある。</p>					
<p>第1週 【序論】授業の進め方の解説 / Rockets and Blue Lightsの概略 第2週 講読：scenes 1 & 2 戯曲テキストの構造と読み方の解説 第3週 scenes 3 & 4 / プレゼンテーション：J. M. W. Turner；人物と作品、英国美術史における位置 第4週 scenes 5 & 6 / 欧州諸国による大西洋貿易の歴史 (15世紀末から現在までの概観) 第5週 scenes 7 & 8 / ヴィクトリア朝期の英国における大西洋貿易 第6週 scene 9 / 英国による奴隷貿易の歴史とその意味 第7週 scenes 10 & 11 / 西アフリカ地域における奴隷貿易の意味 第8週 scene 12 / 西アフリカ諸国と英国との関係の現状 第9週 scene 13 / カリブ海地域における奴隷貿易の意味 第10週 scenes 14 & 15 / カリブ海諸国と英国との関係の現状 第11週 scene 16 / 英国の北米植民地 (後のアメリカ合衆国) における奴隷制度の意味と影響 第12週 scene 17 & 18 / 奴隷貿易の歴史に対する批判の現状 第13週 【異文化体験についてのプレゼンテーション】授業で学んできた知見を活かして、自らの異文化体験を英語で述べ、ディスカッションをする</p>					
英語学英米文学 (特殊講義)(2)へ続く					

英語学英米文学 (特殊講義)(2)

第14週【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としての現代英文学を包括的に理解する
第15週 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

a) テクストの講読と解説 40%、b) 指定トピックに関するプレゼンテーション 40%、c) 異文化体験に関するプレゼンテーション 20%により評価する。正当な理由なく2回以上欠席した場合は単位を認めない。

【教科書】

Winsome Pinnock 『Rockets and Blue Lights』 (Nick Hern Books, 2021) ISBN:978-1839040252

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修 (予習・復習) 等】

毎回十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで要点を整理し、異文化理解の観点から戯曲の理解に努めること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学52

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	新しい時代の異文化理解のための「文学研究と生成AI」				
【授業の概要・目的】					
<p>社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。この際、昨今注目を浴びている生成AIのリテラシーと精読・翻訳の作業を言語理解に合流させることで、生成AIの利用が当たり前になる世代に対するコミュニケーションと教育方法を模索する。この目的のため、異文化性や固有の歴史性が埋め込まれた文学テキストの読解を中心に授業を進め、最終的に受講者には、生成AIによってより豊かな解釈可能性をもつAI-Augmented Textを提出してもらう。</p>					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。 2) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。 3) 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。 4) 異文化コミュニケーションにとっての文学の重要性を理解している。 5) 生成AIのリテラシーを習得し、その適正な利用方法を理解している。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 Introduction：新しい時代の異文化理解のための「文学研究と生成AI」</p> <p>第2回 異文化理解の架橋と断絶 生成AIが異文化コミュニケーションにとってもちうる可能性と限界を検討する。</p> <p>第3回 「テキスト共同体」(Brian Stock)と「解釈共同体」(Stanley Fish) 異質な思考や文化的背景をもつ他者とコミュニケーションが可能な場を構想する。</p> <p>第4回 文学作品の原文精読(1) AIによる生成結果を信用しすぎないようにするための方法として、Oxford English Dictionaryを用いて、英語で書かれた短編作品を丹念に読解し、close-readingの方法に習熟する。</p> <p>第5回 文学作品への注釈付け(2) 前回扱った作品に注釈を施し、多様な歴史的、社会的、文化的意味によって織りなされたテキストであることの意味を深める。</p> <p>第6回 文学作品の翻訳(1) 異文化間コミュニケーションにおける翻訳の重要性を理解するために、グループ間で翻訳の実践を行う。</p> <p>第7回 文学作品の翻訳(2) 前回の翻訳に対して既存の複数の翻訳を比較し、翻訳の諸問題を理解する。</p> <p>第8回 ChatGPT, Claude AI, Geminiを用いた文学作品の読解の試み 生成AIを通じて文学作品を読解・翻訳し、解釈や訳語の不自然さや妥当性を検討する。</p> <p>第9回 ChatGPTを用いた文学作品の「続編」作成の試み 生成AIを通じて文学作品を創造的に拡張し、原文テキストに埋め込まれた歴史的、社会的、文化的意味がどのようにして拡張され、ある</p>					
英語学英米文学 (特殊講義) (2)へ続く					

英語学英米文学 (特殊講義) (2)

いは変容を受けるのかを考察する。

第10回 文学作品とテキスト生成、音声生成 提出課題となるAI-Augmented Textの準備作業を行い、生成物に埋め込まれた「異文化性」を理解する。

第11回 文学作品と画像生成 前週と同様にAI-Augmented Textの作成作業を行う。文学作品の情景描写文から生成AIによる挿絵の作成の試みると同時に、AIによるハルシネーションや過剰/過少生成を見破るリテラシーを手に入れる。

第12回 AI-Augmented Text作成の試み(1) 発表グループ1

第13回 AI-Augmented Text作成の試み(2) 発表グループ2

第14回 講評とグループディスカッション 12,13回で発表されたAI-Augmented Textに対して講評を行い、その後グループに分かれて討議を行う。

第15回 まとめと質疑応答

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況・提出物・口頭発表(60%)と学期末に提出するレポート(40%)によって評価する。

【教科書】

授業中に指示する

テキストはこちらで配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に指定する配布物を事前に予習しておくこと。復習としては、当該授業回で扱った範囲や学習内容を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜13:00から14:45までとします。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET20 6M191 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Henry James, The Turn of the Screwを読む				
[授業の概要・目的]					
Henry James (1843-1916)の中編小説The Turn of the Screw (1898)を原文で精読し、文体、語りの形式、時代背景、ジェンダー/セクシュアリティ、階級など、さまざまな見地から作品を検討する。翻訳も多数ある有名作品ではあるが、James中～後期に属する本作の英語は実のところかなり難しい。まずはこの晦渋にして微妙なニュアンスを帯びた英語の語りを粘り強く正確に理解しようと努めることが、本授業の取り組みの第一歩となる。					
[到達目標]					
文学テキストを正確に読み、おもしろい疑問を持てるようになること。小説The Turn of the Screwおよびその作者Henry Jamesについて理解を深めること。文学作品へのさまざまなアプローチの仕方に親しむこと。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。					
[授業計画と内容]					
授業は基本的に発表形式で行う。各回につき1～数名の担当者を指名し、その回の範囲について、レジュメを準備したうえで発表してもらう。その発表をもとに参加者全員でディスカッションを行う。					
進行予定は下記のとおり。					
第1回	イントロダクション				
第2回	プロローグを読む				
第3回	1～2章を読む				
第4回	3～4章を読む				
第5回	5～6章を読む				
第6回	7～8章を読む				
第7回	9～10章を読む				
第8回	11～12章を読む				
第9回	13～14章を読む				
第10回	15～16章を読む				
第11回	17～18章を読む				
第12回	19～20章を読む				
第13回	21～22章を読む				
第14回	23～24賞を読む				
第15回	フィードバック				
----- 英語学英米文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（60％）と期末レポート（40％）を合わせて評価する。平常点は、発表の質やディスカッションへ参加度など、学期を通じた授業への貢献度を評価する。

【教科書】

Henry James 『The Turn of the Screw and Other Stories (Oxford World's Classics)』 (Oxford UP) ISBN: 9780199536177

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

発表担当者以外の者も含め、全員が各回の範囲を原文で徹底的に精読してくることを求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET20 6M191 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代アメリカにおける移民の文学的表象 _The House of Mango Street_を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業はSandra Cisnerosによる小説_The House on Mango_ (1984)を読みます。移民たちが暮らす町に引っ越してきた十代の少女を主役にした本作は、チカーノ/チカーノ文学を世に知らしめた作品であり、現在に至るまで各国で愛読されている作品です。詩人としての側面もあるCisnerosの文章は、シンプルでありながら、含蓄に富んでいます。本作を通じて、20世紀後半の多文化主義の文学的表象を学ぶと共に、フィクションで用いられる英語を精読することの楽しさを味わうことが、本授業の目的です。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・英語で書かれた文学作品の解釈を学ぶ ・現代アメリカ文学における移民の表象を学ぶ ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 					
[授業計画と内容]					
<p>注意：授業スケジュールはあくまでも暫定的なものです。必ず初回授業にて配布するスケジュール表をご参照ください。</p> <p>第1回：【序論】Sandra Cisnerosとチカーノ文学の興隆について 第2回：The House on Mango Street ~ My Nameを読む 第3回：Cathy Queen of Cats ~ Gill's Furniture Bought and Soldを読む 第4回：Meme ~ Those Who Don'tを読む 第5回：There Was an Old Woman She Had So Many ~ Darious and the Cloudsを読む 第6回：And Some More ~ Chanclasを読む 第7回：Hips ~ Born Badを読む 第8回：Elenita, Cards, Palm, Water ~ The Earl of Tennesseeを読む 第9回：Sire ~ Rafaela Who Drinks Coconut and Papaya Juice on Tuesdaysを読む 第10回：Sally ~ Beautiful and Cruelを読む 第11回：A Smart Cookie ~ Red Clownsを読む 第12回：Linoleum Roses ~ Mango Says Goodbye Sometimesを読む 第13回：A House of My Own (1)を読む 第14回：A House of My Own (2)を読む 第15回：レポートワークショップ</p>					
----- 英語学英米文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎授業後のメールでのコメントシートの提出（20％）・発表（40％：予定回数は1回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当するテキストに関するもので、25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

【教科書】

テキストはpdf形式でPandAにアップロードします。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まないと（毎回およそ15ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET20 6M191 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語語法文法研究				
[授業の概要・目的]					
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>					
[到達目標]					
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。					
[授業計画と内容]					
1回：英語語法文法研究とは 2回：英語語法文法研究に資する例文データベースの構築方法 3回：例文データベースに対する分類タグ付けの方法 4回：生成文法と語法文法研究1 5回：生成文法と語法文法研究2 6回：動的な文法理論と語法文法研究1 7回：動的な文法理論と語法文法研究2 8回：認知言語学と語法文法研究1 9回：認知言語学と語法文法研究2 10回：談話の構成と語法文法研究 11回：英語史と語法文法研究1 12回：英語史と語法文法研究2 13回：コーパスと語法文法研究1 14回：コーパスと語法文法研究2 15回：まとめ					
----- 英語学英米文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

日頃の課題提出を含む平常点。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET20 6M191 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語語法文法研究				
[授業の概要・目的]					
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>					
[到達目標]					
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。					
[授業計画と内容]					
1回：英語語法文法研究とは 2回：英語語法文法研究に資する例文データベースの構築方法 3回：例文データベースに対する分類タグ付けの方法 4回：生成文法と語法文法研究1 5回：生成文法と語法文法研究2 6回：動的な文法理論と語法文法研究1 7回：動的な文法理論と語法文法研究2 8回：認知言語学と語法文法研究1 9回：認知言語学と語法文法研究2 10回：談話の構成と語法文法研究 11回：英語史と語法文法研究1 12回：英語史と語法文法研究2 13回：コーパスと語法文法研究1 14回：コーパスと語法文法研究2 15回：まとめ					
----- 英語学英米文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

日頃の課題提出を含む平常点。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET20 6M191 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学外国語学部 教授 宮澤 直美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Edgar Allan PoeとTruman Capoteの作品を読む				
[授業の概要・目的]					
Edgar Allan Poeの "The Fall of the House of Usher" (1839)とTruman Capoteの"Miriam" (1945)を精読する。主に、部屋と登場人物について考察しながら、文化、歴史、視覚芸術などの文学以外のメディアとの関係性の中でテキストを読む。精読はしないものの、両作家の主要作品に言及しながら授業を進めていくため、事前に翻訳で両者の作品をできるだけ多く読んでおいてほしい。					
[到達目標]					
英語の原書を精読する力を養い、自分の読みや解釈をわかりやすく相手に説明できるようになること。両作家作品への理解を深めながら、文学テキストを読む様々なアプローチと視点があることを理解すること。					
[授業計画と内容]					
1.基本的に以下の計画に従って進める。ただし精読の進みぐあいを確認し、回数を変えることがある。 作品を精読する回では、学生の担当者が発表する。発表者は、レジュメを準備したうえで発表し、その発表をもとに参加者全員でディスカッションを行う。					
第1回 イン트로ダクション					
第2回 Poeとその作品について					
第3回 "The Fall of the House of Usher" 1					
第4回 "The Fall of the House of Usher" 2					
第5回 "The Fall of the House of Usher" 3					
第6回 "The Fall of the House of Usher" 4					
第7回 "The Fall of the House of Usher" 5とPoeのまとめ					
第8回 Capoteとその作品について					
第9回 "Miriam" 1					
第10回 "Miriam" 2					
第11回 "Miriam" 3					
第12回 "Miriam" 4					
第13回 "Miriam" 5とCapoteのまとめ					
第14回 総論とまとめ					
第15回 フィードバック					
----- 英語学英米文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価（授業内での発表やディスカッションへなど）：60%
期末レポート：40%

【教科書】

使用しない
データで共有する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・ 授業中に扱う範囲のテキストを、参加者全員が毎回丁寧に精読をした上で授業に臨むこと。
- ・ 発表の担当者は、発表準備をして臨むこと。
- ・ 精読はしないものの、両作家の主要作品に言及しながら授業を進めていくため、ポーの「黒猫」やカポーティの「最後の扉を閉めて」（"Shut a Final Door" 1947）など、翻訳で作品を事前に読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中に伝えます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET20 6M191 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 後藤 篤		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	冷戦期アメリカ小説研究 Ernest HemingwayのThe Old Man and the Seaを読む				
[授業の概要・目的]					
The Old Man and the Sea (1952)を中心に、Ernest Hemingway (1899-1961)の作品およびHemingwayを論じた先行研究・批評等の関連資料を取り上げる。毎回の授業では、冷戦期アメリカ文学・文化に関する解説もまじえながら、受講者による発表とディスカッションをもとに、主として演習形式でテキストを精読する。					
[到達目標]					
比較的難易度の高いテキストの解釈に取り組むことにより、文章の一語一句に込められた微妙なニュアンスが読み取れるような英文解釈のセンスに磨きをかける。同時に、批評理論・文化理論や関連する欧米の文化事象についての知識と理解を深めるなかで、作品のテキスト/コンテキストを読み解く批評眼を養う。					
[授業計画と内容]					
第1回 インTRODクシヨン 第2回 “ Cat in the Rain ” 第3回 “ On the Blue Water: A Gulf Stream Letter ” 第4回 The Old Man and the Sea (1) 第5回 The Old Man and the Sea (2) 第6回 The Old Man and the Sea (3) 第7回 The Old Man and the Sea (4) 第8回 The Old Man and the Sea (5) 第9回 The Old Man and the Sea (6) 第10回 The Old Man and the Sea (7) 第11回 The Old Man and the Sea (8) 第12回 先行研究・批評 (1) 第13回 先行研究・批評 (2) 第14回 先行研究・批評 (3) 第15回 授業のまとめ・フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英米文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート50%と発表課題30%、平常点20%（毎回の授業中の発言やディスカッションへの貢献、授業後のコメント提出）を総合的に判断する。

[教科書]

Ernest Hemingway 『The Old Man and the Sea』 (Scribner, 2003) ISBN:978-0-684-80122-3

[参考書等]

（参考書）

Peter Barry 『Beginning Theory: An Introduction to Literary and Cultural Theory』 (Manchester UP, 2017)

三原芳秋・渡邊英理・鶴戸聡編 『クリティカル・ワード 文学理論 読み方を学び文学と出会いなおす』 (フィルムアート社、2020)

[授業外学修（予習・復習）等]

辞書・辞典類、アメリカ言語文化および批評理論・文化理論、現代思想に関する文献資料あるいはインターネット資料を積極的に参照し、毎回の範囲を丁寧に予習した上で授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学59

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	佛敎大学文学部英米学科 准教授 メドロック 麻弥		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Vladimir Nabokovの短編における女性像 研究				
【授業の概要・目的】					
Vladimir Nabokov (1899-1977)の短編をいくつか精読し、ナボコフの女性の描き方について考察する。授業では、3人称の語りの中で語られる女性 ("Details of a Sunset", "Bachmann")、男性の語り手によって語られる女性 ("The Vane Sisters")、語り手としての女性 ("A Slice of Life") など、様々な立場の女性に注目し、その特徴を見出し、分析することを目的とする。					
【到達目標】					
技巧的な散文を読み解く想像力と論理的思考力を習得する Nabokovの世界観を説明することができる 文学作品の緻密な読み方を習得する					
【授業計画と内容】					
第1回 インTRODクシヨン					
第2回 "Details of a Sunset" 輪読1					
第3回 "Details of a Sunset" 輪読2					
第4回 "Bachmann" 輪読1					
第5回 "Bachmann" 輪読2					
第6回 "Bachmann" 輪読3					
第7回 "A Slice of Life" 輪読1					
第8回 "A Slice of Life" 輪読2					
第9回 "The Vane Sisters" 輪読1					
第10回 "The Vane Sisters" 輪読2					
第11回 "The Vane Sisters" 輪読3					
第12回 "The Vane Sisters" 輪読4					
第13回 "A Russian Beauty" 輪読1					
第14回 "A Russian Beauty" 輪読2					
第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
----- 英語学英米文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (特殊講義)(2)

【成績評価の方法・観点】

平常点70点+学期末レポート30点として評価する。
平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。
レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析しているか、といった点を評価する。

【教科書】

使用しない
はじめに精読する"Details of a Sunset"のテキストのみ、PandAにアップロードします。そのあとの作品については、テキストを授業内で配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

一回の授業で、3ページほど輪読をする予定です。自分なりの日本語訳ができるように、毎回予習して授業にのぞんでください。日本語訳だけでなく、問題点、気になる点などもまとめてきてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学60

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 大学院国際文化学研究科 教授	西谷 拓哉	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19世紀アメリカ文学に見る白人と黒人の交流				
[授業の概要・目的]					
この授業では、19世紀のアメリカ文学における人種表象を読み解きながら、アメリカ合衆国において白人文化と黒人文化の接触によってハイブリッドな文化が生まれてきたプロセスを考察することを目的とする。扱う作品は、ポー、メルヴィル、ストウ、トウェインの小説のほか、奴隷体験記、黒人霊歌等も含む。					
[到達目標]					
1. 19世紀のアメリカにおける白人と黒人の文化的交流について基本的な知識を得る。 2. 文学作品の読解を通して、南北戦争前後における人種関係の多様性と多義性を理解する。					
[授業計画と内容]					
前半では、植民地時代から19世紀前半において白人と黒人が接触し、相互交流してきた歴史を概観するとともに、主として19世紀前半のアメリカ文学において描かれた黒人像をたどる。ここでは、白人と黒人の政治的関係を背景として踏まえつつ、19世紀アメリカ文学における人種観の形成とその変容を検討する。後半では、南北戦争以後の白人と黒人の交流史を概観しながら、アメリカ文学において描かれた黒人像の変遷をたどり、19世紀後半における人種表象のあり方や人種の境界線上にある人々の自己意識を検討する。					
第1回	イントロダクション：アメリカにおける黒人の歴史				
第2回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像（1）：ポーの諸作品(1)				
第3回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像（1）：ポーの諸作品(2)				
第3回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像（3）：メルヴィル『白鯨』				
第4回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像（4）：メルヴィル「ベニート・セレーノ」(1)				
第5回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像（5）：メルヴィル「ベニート・セレーノ」(2)				
第6回	反奴隷制の文学（1）：奴隷体験記、黒人霊歌				
第7回	反奴隷制の文学（2）：ストウ『アンクル・トム的小屋』(1)				
第8回	反奴隷制の文学（3）：ストウ『アンクル・トム的小屋』(2)				
第9回	南北戦争の文学的表象				
第10回	マーク・トウェインの描く黒人像（1）：『トム・ソーヤーの冒険』、				
第11回	マーク・トウェインの描く黒人像（2）：『ハックルベリー・フィンの冒険』ほか(1)				
第12回	マーク・トウェインの描く黒人像（3）：『ハックルベリー・フィンの冒険』ほか(2)				
第13回	パッシング小説と映画の系譜(1)				
第14回	パッシング小説と映画の系譜(2)				
第15回	現代黒人文学への接続				
----- 英語学英米文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

アメリカにおける白人文化と黒人文化の交流の流れを理解できているか、人種関係を理解できているか、アメリカ文学の作品読解がきちんとできているかといった観点から評価する。

平常の活動(40%)、最終レポート(60%)を総合して評価する。

平常の活動は毎回のコメントシート、小レポートによって評価する。

最終レポートは独創性・着眼点(50%)、文章構成(30%)、資料の活用度(20%)により評価する。

【教科書】

KULASISよりプリントを配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

事前に作品からの引用を読んでおくことが求められます。

(その他(オフィスアワー等))

授業前後の相談、メールでの問い合わせを受けつけます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学61

科目ナンバリング	G-LET20 6M191 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イギリス、アイルランドにおけるバラッドの伝統				
[授業の概要・目的]					
<p>「バラッド」とは物語詩を意味する。民衆によって口承で伝えられた作者不詳のいわゆる俗謡が、現在「読む文学」として詩のジャンルの一角を成しているのには、18、19世紀の知識人たちによる蒐集熱に負うところが大きい。Thomas Percyが編纂したReliques of Ancient English Poetry(1765)は、ワーズワースをはじめ、数多くの詩人の詩想に働きかけ、イギリスロマン主義運動の一大要因となった。また、Francis James Childが編纂したThe English and Scottish Popular Ballads 全5巻 (1882-1889)に収められた305篇のバラッドは、通称Child Balladsと呼ばれており、イギリスの伝承バラッドにおける金字塔である。作者不詳の伝承バラッドに対して、近代以降の詩人たちがそれを模して創作した作品は、「バラッド詩」や「文学的バラッド」などと呼ばれる。</p> <p>本講義では、まず伝承バラッドについて学んだうえでバラッド詩を精読し、その伝統が詩人たちによってどのように受け継がれ、再創造されてきたかについて考える。また、アイルランドでは、イギリスからの独立運動の中で「レベル・バラッド」という政治詩が発展を遂げた。そのようなアイルランドにおける伝統を学んだうえで、W. B. イェイツの書いたバラッド作品を読む。</p> <p>授業では、原書のテキストに向き合う姿勢を身に付け、詩を読むために必要な知識を学ぶことによって、作品を読み解く鍛錬を行う。それとともに、適宜、伝記的批評、詩論などの文献を併せて読み、その知識を関連させて作品を考察する。</p> <p>授業は口頭発表とディスカッションを中心に進める。毎回、授業内でコメントシートを作成してもらう。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イギリス、アイルランドにおけるバラッドの伝統についての知識を身に付け、文学史における位置づけを理解する。 2. バラッドの伝統が詩人たちによってどのように受け継がれているか考察する。 3. 英詩を精読することによって、テキストを読み解く力を向上させる。 4. 口頭発表、ディスカッション、コメントシート作成などの作業を通して、論理的思考や表現力を身に付ける。 					
[授業計画と内容]					
第1回 イントロダクション、授業の進め方についての説明、伝承バラッドについて ("Scarborough Fair" " Edward")					
第2回 伝承バラッド1: Child Ballads 1 " The Wife of Usher's Well "					
第3回 伝承バラッド2: Child Ballads 2 " The Two Sisters "					
第4回 伝承バラッド3: Child Ballads 3 " Thomas Rhymer " (John Keatsの " La Belle Dame sans Merci" と比較する)					
第5回 バラッド詩1: William Wordsworth 1					
英語学英米文学 (特殊講義)(2)へ続く					

英語学英米文学 (特殊講義)(2)

- 第6回 バラッド詩2: William Wordsworth 2
第7回 バラッド詩3: Christina Rossetti
第8回 バラッド詩4: Edwin Muir
第9回 バラッド詩5: W. H. Auden 1
第10回 バラッド詩6: W. H. Auden 2
第11回 アイルランドのレベル・バラッド
第12回 バラッド詩7: W. B. Yeats 1
第13回 バラッド詩8: W. B. Yeats 2
第14回 バラッド詩9: W. B. Yeats 3
第15回 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

【教科書】

プリントを配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、一編、あるいは二編の詩を扱う予定です。担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。

口頭発表の担当ではない場合も、作品を読んで十分に準備し、授業内でのディスカッションに備えること。活発な議論を期待しています。

授業で紹介する作品や参考文献を読み、自主的にリサーチを行い、期末レポートの執筆に役立ててください。

【その他(オフィスアワー等)】

連絡先は授業時にお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学62

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	同志社女子大学表象文化学部 木島 菜菜子 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Charles Dickens, *A Tale of Two Cities*を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>ディケンズの『二都物語』は、フランス革命を題材とした歴史小説である。有名な作品のため、あらすじなどは簡単に手に入るが、本授業では改めて原書を丁寧に読み進めながら、自分の感性を出発点に文学作品を論じる楽しさを味わう。出版時の歴史的・文化的背景やこれまでの先行研究で議論されてきた点、他の作家との影響関係、小説を論じる際の基本的な概念もおさえつつ、作品の読みどころの再発見と更なる解釈の可能性を探る。</p>					
[到達目標]					
<p>辞書を引きながら原書を楽しんで読むことができる。 小説読解のための英語力を身につけている。 小説を論じるための基礎的な概念や知識を身につけており、自分の言葉で作品の読みどころを論じることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回 イントロダクション (授業の進め方の説明など)					
第2回 *A Tale of Two Cities* Book 1, Chapter 1~4					
第3回 *A Tale of Two Cities* Book 1, Chapter 5~6					
第4回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 1~3					
第5回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 4~6					
第6回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 7~9					
第7回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 10~13					
第8回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 14~15					
第9回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 16~18					
第10回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 19~21					
第11回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 22~24					
第12回 *A Tale of Two Cities* Book 3, Chapter 1~3					
第13回 *A Tale of Two Cities* Book 3, Chapter 4~9					
第14回 *A Tale of Two Cities* Book 3, Chapter 10~15					
第15回 フィードバック					
[履修要件]					
特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。					
----- 英語学英米文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：50%
期末レポート：50%

[教科書]

Charles Dickens 『A Tale of Two Cities』 (Penguin) ISBN:9780141439600

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、該当する章を読み、コメントペーパーを提出する。

（その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学63

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸学院大学 准教授 WROBETZ, Kevin Reay		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Academic Writing 1: Linguistics, Game Theory, and Social Interaction				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will introduce students to the concepts of linguistics and game theory through the context of social interaction. Specifically, this course will help students understand how the English language underpins social interaction on a global scale and how the rules of social interaction directly affect the use of language. Throughout the course, students will actively participate in games which highlight different contexts of social interaction in the English language as well as discuss how game rules may be modified to achieve different contexts of social interaction in English. As this is a content-focused course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarize in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. Much of the content of the course discussions and course materials will relate how the principles of linguistics and game theory may be applied to achieve a deeper understanding of intercultural communication in specific contexts.</p>					
[到達目標]					
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today, the sociocultural context of intercultural communication, and the inner mechanics of various games which influence how communication plays out. The active participation in games, group discussions, and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the course materials will broaden students' vocabulary skills and general knowledge of the goals of intercultural communication, linguistics, game theory, and the significance of the context of intercultural communication.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. Classroom sessions will involve active participation in various games, short lectures to clarify relevant concepts, and group discussions to help students think critically about the main topics of the course. The course will evaluate students through the use of in-class comprehension activities and comprehension worksheets. Additionally, students will submit and present the content of a research essay to evaluate the students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content.</p> <p>Week 1: Course Introduction Week 2: Competition and the Spread of Disinformation A: Game Introduction Week 3: Competition and the Spread of Disinformation B: Informed Majority Vs. Uninformed Minority Week 4: Competition and the Spread of Disinformation C: Language of Deception Week 5: Competition and the Spread of Disinformation D: Class Discussion of Competitive Games Week 6: Competition and the Spread of Disinformation E: Competition and Conspiracy (Us Vs. Them) Week 7: Competition and the Spread of Disinformation F: The Prisoner's Dilemma and the Erosion of Trust Week 8: Cooperation and Global Climate Change Coalitions A: Game Introduction</p>					
英語学英米文学 (特殊講義)(2)へ続く					

英語学英米文学 (特殊講義)(2)

Week 9: Cooperation and Global Climate Change Coalitions B: From Each According to Their Ability
Week 10: Cooperation and Global Climate Change Coalitions C: Language of Teamwork
Week 11: Cooperation and Global Climate Change Coalitions D: Class Discussion of Cooperative Games
Week 12: Cooperation and Global Climate Change Coalitions E: Climate Change Coalition
Week 13: Cooperation and Global Climate Change Coalitions F: The Shapley Value and the Building of Trust
Week 14: Student Presentations on Essays
Week 15: Make-Up Lesson

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Comprehension Worksheets: 10%
Essay: 20%
Oral Presentation: 20%
Class Participation: 60%

【教科書】

All reading material and instructional media will be provided by the course instructor. Some of the reading material will focus on cooperative and competitive game theory (Von Neumann & Morgenstern).

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Weekly reading preparation for class discussion. Submission of comprehension worksheets based on the content of weekly readings, in-course instructional material, and lecture content. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

【その他(オフィスアワー等)】

If students have any questions regarding this course, they are encouraged to contact the instructor at krwrobotz@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学64

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸学院大学 准教授 WROBETZ, Kevin Reay		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Academic Writing 2: Linguistics, Game Theory, and Social Interaction				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will introduce students to the concepts of linguistics and game theory through the context of social interaction. Specifically, this course will help students understand how the English language underpins social interaction on a global scale and how the rules of social interaction directly affect the use of language. Throughout the course, students will actively participate in games which highlight different contexts of social interaction in the English language as well as discuss how game rules may be modified to achieve different contexts of social interaction in English. As this is a content-focused course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarize in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. Much of the content of the course discussions and course materials will relate how the principles of linguistics and game theory may be applied to achieve a deeper understanding of intercultural communication in specific contexts.</p>					
[到達目標]					
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today, the sociocultural context of intercultural communication, and the inner mechanics of various games which influence how communication plays out. The active participation in games, group discussions, and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the course materials will broaden students' vocabulary skills and general knowledge of the goals of intercultural communication, linguistics, game theory, and the significance of the context of intercultural communication.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. Classroom sessions will involve active participation in various games, short lectures to clarify relevant concepts, and group discussions to help students think critically about the main topics of the course. The course will evaluate students through the use of in-class comprehension activities and comprehension worksheets. Additionally, students will submit and present the content of a research essay to evaluate the students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content.</p> <p>Week 1: Course Introduction Week 2: Intercultural Communication During Disaster A: Game Introduction Week 3: Intercultural Communication During Disaster B: The Interconnectedness of the Globe Week 4: Intercultural Communication During Disaster C: The Role of Communication Week 5: Intercultural Communication During Disaster D: Class Discussion on the Global Response to Pandemics Week 6: Intercultural Communication During Disaster E: Abstraction of Complexity (Learning From Past Mistakes)</p>					
----- 英語学英米文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (特殊講義)(2)

Week 7: Intercultural Communication During Disaster F: Parallels to Real Life
Week 8: What Housing Crisis? Japan Vs. the West A: Game Introduction
Week 9: What Housing Crisis? Japan Vs. the West B: Play by the Rules (Zoning Ordinances)
Week 10: What Housing Crisis? Japan Vs. the West C: Don't Play by the Rules (Changing Zoning Ordinances)
Week 11: What Housing Crisis? Japan Vs. the West D: Class Discussion on the Housing Crisis in the West
Week 12: What Housing Crisis? Japan Vs. the West E: Comparing Japanese and Western Housing Markets
Week 13: What Housing Crisis? Japan Vs. the West F: Different Rules, Different Outcomes
Week 14: Student Presentations on Essays
Week 15: Make-Up Lesson

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Comprehension Worksheets: 10%
Essay: 20%
Oral Presentation: 10%
Class Participation: 60%

【教科書】

All reading material and instructional media will be provided by the course instructor. Some of the reading will focus on group actions in repeated games (Farrell & Maskin) and the cross-cultural legislative implementation of zoning ordinances (Durning).

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Weekly reading preparation for class discussion. Submission of comprehension worksheets based on the content of wweekly readings, in-course instructional material, and lecture contnet. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

(その他(オフィスアワー等))

If students have any questions regarding this course, they are encouraged to contact the instructor at krwrobetz@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET20 6M191 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英詩の精読、および評論の読解				
[授業の概要・目的]					
<p>英詩を読むために必要な知識を身に付け、作品を読み解く鍛錬を行う。併せて詩に関連する評論を読むことによって、個々の作品に対する理解を深め、作品の論じ方を学ぶ。本講義は、主に Terry EagletonのHow to Read a Poem (Blackwell 2007)の第5章"How to Read a Poem"、第6章"Four Nature Poems"を基に構成しており、その中で扱われている"Tone, Mood and Pitch" "Syntax, Grammar and Punctuation" "Ambiguity" "Rhyme"といったテーマに沿って詩と評論を読む。取り上げる作品は、Robert Browning "Porphyria's Lover," W. B. Yeats "A Dialogue of Self and Soul," Christina Rossetti "Remember," Thomas Hardy "The Darkling Thrush," Philip Larkin "Days," Wilfred Owen "Insensibility" John McCrae "In Flanders Fields," William Wordsworth "The Solitary Reaper" など。本書における Eagletonの問題意識や洞察を手掛かりに、詩の精読の方法を学ぶだけでなく、詩を論じること自体についての考えを深めていきたい。</p> <p>授業は口頭発表とディスカッションを中心に進める。毎回、授業内でコメントシートを作成してもらう。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英詩を精読することによって、テキストを読み解く力を向上させる。 2. 口頭発表、ディスカッション、コメントシート作成などの作業を通して、論理的思考や表現力を身に付ける。 3. 詩論を読む力を錬成し、批評との対話を行う。 					
[授業計画と内容]					
第1回 インTRODクシヨ、授業の進め方についての説明、How to Read a Poemが書かれた背景について					
第2回 Is Criticism Just Subjective?					
第3回 Tone, Mood and Pitch					
第4回 Tone, Mood and Pitch					
第5回 Intensity and Pace					
第6回 Texture					
第7回 Syntax, Grammar and Punctuation					
第8回 Syntax, Grammar and Punctuation					
第9回 Ambiguity					
第10回 Ambiguity					
第11回 Rhyme					
第12回 Rhyme					
第13回 Nature Poem1					
第14回 Nature Poem2					
第15回 フィードバック					
英語学英米文学 (特殊講義)(2)へ続く					

英語学英米文学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

[教科書]

プリントを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、一編、あるいは二編の詩を扱う予定です。担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。

口頭発表の担当ではない場合も、作品と批評を読んで十分に準備し、授業内でのディスカッションに備えること。活発な議論を期待しています。

授業で紹介する作品や参考文献を読み、自主的にリサーチを行い、期末レポートの執筆に役立ててください。

(その他(オフィスアワー等))

連絡先は授業時にお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET20 6M191 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 尾崎 俊介		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ自己啓発思想史				
[授業の概要・目的]					
<p>現在、日本でも数多く売れている「自己啓発本」だが、その起源は18世紀末のアメリカで出版されたベンジャミン・フランクリンの『自伝』に遡る。自助努力によって見事なまでの立身出世を遂げたフランクリンの『自伝』が広く読まれたことで、当時のアメリカ人の間に野心が生れ、「アメリカン・ドリーム」がスタートしたと言ってよい。その意味では、アメリカの近代化は、自己啓発本によって促されたのだ。</p> <p>そしてその後、およそ200年が経過する間に「自己啓発本」は様々な発展をし、今日では傍系・亜流を含めて膨大なサブジャンルを従える一大文学ジャンルに成長した。そしてその影響は太平洋を越え、遠く日本にも及んでいる。事実、明治時代に一気に進んだ日本の近代化は、福沢諭吉の『学問のすゝめ』、中村正直の『西国立志編』の二冊の自己啓発本によって成し遂げられたとも言える。</p> <p>本講義では、アメリカ発祥の文学ジャンルである「自己啓発本」の歴史を追いながら、それがアメリカの、そして日本の近/現代思想史・生活史にどのような影響を与えてきたかについて、概説していきたい。</p>					
[到達目標]					
<p>自己啓発本というと、立身出世や金儲けなどを指南するノウハウ集かと誤解されがちだが、自己啓発本の出版史をたどっていくと、この特異な文学ジャンルがアメリカの急速な近代化に大きな影響を与えてきたことがわかる。</p> <p>本講義では、アメリカ発祥の文学である自己啓発本の出版史を概観することで、アメリカという国と自己啓発本が相互依存的に発展していった経緯を理解できるようにしたい。また併せて、アメリカ発の自己啓発本が日本の近代化にいかに甚大な影響を与えてきたかについても、認識を高めていきたい。</p>					
[授業計画と内容]					
以下はあくまでも予定です。受講生の人数などによって適宜調整します。					
1日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回：エマニュエル・スウェーデンボルグのニューソート革命（講義） ・ 2回：ベンジャミン・フランクリンと自助努力系自己啓発思想の誕生（講義） ・ 3回：福沢諭吉『学問のすゝめ』と日本の近代化（講義・小レポート） 					
2日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 4回：精神療法の誕生（講義） ・ 5回：ラルフ・ウォルドー・エマソンの思想と引き寄せの法則（講義） ・ 6回：引き寄せ系自己啓発本の誕生（講義・小レポート） 					
----- 英語学英米文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (特殊講義)(2)

3日目

- ・ 7回：引き寄せ系自己啓発本のインパクト（講義）
- ・ 8回：デール・カーネギーの登場と自己啓発本読者の変容(講義)
- ・ 9回：20世紀半ばのポジティブ思考（講義・小レポート）

4日目

- ・ 10回：1960年代、ベビー・ブーマーと自己啓発本の関係（講義）
- ・ 11回：1970年代、ミーイズムの時代の自己啓発思想（講義）
- ・ 12回：ペティ・フリーダン『女らしさの神話』と女性向け自己啓発本（講義・小レポート）

5日目

- ・ 13回：エリザベス・キューブラー・ロスの死後生研究（講義）
- ・ 14回：生まれ変わり言説と自己啓発思想（講義）
- ・ 15回：21世紀のポジティブ心理学（講義・小レポート）
- ・ 期末試験

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

小レポート5回分（25%）、試験（75%）で総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

尾崎俊介 『14歳からの自己啓発』（トランスビュー、2023）ISBN:978-4-7989-0187-5

尾崎俊介 『アメリカは自己啓発本でできている』（平凡社、2024年）ISBN:978-4-582-83949-4

尾崎俊介 『大学教授が解説 自己啓発の必読ランキング60』（KADOKAWA、2025年）ISBN:978-4041153277

[授業外学修（予習・復習）等]

自己啓発本という文学ジャンルについてのおおよその認識を持つため、スティーブン・R・コヴィーの『7つの習慣』、デール・カーネギーの『人を動かす』、ロンダ・バーンの『ザ・シークレット』のすべて、あるいはいずれかを事前に読んでおいてください。

英語学英米文学 (特殊講義)(3)へ続く

英語学英米文学 (特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

連絡はメールで行います。メールアドレスは、sozaki@aecc.aichi-edu.ac.jpです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学67

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	Stylistic analysis				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will be mostly conducted by Lorenzo Mastropiero, a visiting scholar from the University of Insubria, Italy. The content of the course may be altered if his plan to visit Kyoto University changes.</p> <p>Stylistics is the study of style, the idiosyncratic ways in which language is used by individuals in different contexts and situations. Stylistic analysis builds on linguistic examination to illustrate how texts work: doing stylistics means exploring linguistic features to explain what meanings they convey, what effects they create, and how they are interpreted by readers. This course introduces students to stylistics, with a focus on hands-on stylistic practice. It covers key concepts in stylistics and shows how to study them through a series of practical tasks. During the lessons, students are asked to analyse and discuss a range of different text types to learn how stylistics can be applied flexibly to a wide variety of textual genres. The course combines sessions in which stylistic notions and models are introduced and applied to qualitative analysis to sessions where corpus tools and methods are presented and employed in quantitative investigations. As no prior experience in corpus linguistics is required, particular attention is paid to the acquisition of the technical know-how to carry out corpus-assisted investigations of stylistically relevant features, making the most of freely available online tools. Through this combination of theoretical perspectives and practical guidance, students will be equipped with the skills to engage in effective stylistic analysis and apply it to their own work.</p>					
[到達目標]					
<p>On successfully completing the course, students will learn how to carry out qualitative and quantitative stylistic analysis. More specifically, students will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Apply key stylistic concepts and models to the study of a wide variety of texts; - Build on the description of stylistic features in the process of textual interpretation; - Analyse the interface between form and meaning, evaluating how and to what extent language choices influence readerly perceptions of a text; - Demonstrate their understanding of foundational corpus-linguistics concepts and of the principles of quantitative analysis; - Use a range of corpus tools and methods in stylistic analysis; - Employ quantitative evidence to develop and support lines of argument in the analysis of texts. <p>Moreover, students will be able to design and develop their own stylistic project, learning to apply the technical and analytical skills acquired in this course to other research contexts involving textual analysis.</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to stylistics 2. Deviance and foregrounding 					
----- 英語学英米文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (特殊講義)(2)

3. Corpus methods for stylistic analysis
4. Concordance analysis
5. Keyword analysis
6. Collocation analysis
7. Comparing frequencies
8. Characterisation and representation
9. Clusters
10. Speech and thought presentation;
11. Transitivity
12. Perspective and viewpoint
13. Stylistics and translation I
14. Stylistics and translation II
15. Finding research questions

【履修要件】

Reading assigned texts, active participation in class, final essay

【成績評価の方法・観点】

Attendance & class contribution: 40%

Essay: 60%

【教科書】

授業中に指示する

Readings will be provided throughout the course

【参考書等】

(参考書)

Burke, M. (Ed.) 『The Routledge Handbook of Stylistics (2nd edition)』 (Routledge, 2023)

Jeffries, L., & McIntyre, D. 『Stylistics』 (Cambridge University Press, 2010)

Mastropiero, L. 『Corpus Stylistics in Heart of Darkness and its Italian Translations』 (Bloomsbury, 2017)

McEnery, T., & Hardie, A. 『Corpus Linguistics』 (Cambridge University Press, 2012)

McIntyre, D., & Walker, B. 『Corpus Stylistics: Theory and Practice』 (Edinburgh University Press, 2019)

O'Keeffe, A., & McCarthy, M. (Eds.) 『The Routledge Handbook of Corpus Linguistics (2nd edition)』 (Routledge, 2022)

Simpson, P. 『Stylistics: A Resource Book for Students』 (Routledge, 2014)

Sotirova, V. (Ed.) 『The Bloomsbury Companion to Stylistics』 (Bloomsbury, 2016)

Stockwell, P., & Whitely, S. 『The Cambridge Handbook of Stylistics』 (Cambridge University Press, 2015)

英語学英米文学 (特殊講義)(3)

[授業外学修（予習・復習）等]

Assigned reading

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeyri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語史研究の方法				
[授業の概要・目的]					
具体的な研究を通じて、英語史研究の方法を学びます。また、授業を通して、資料収集の方法、データ整理の方法、論文の作成方法など、研究に必要な手法を習得します。					
[到達目標]					
研究論文の多読を通じて、英語史全般についての体系的な知識を身につけます。同時に、その知識を自らの研究テーマを発展させるために多面的に利用する力を身につけます。					
[授業計画と内容]					
1回目 イン트로ダクション					
2回目～15回目 授業は、以下のような作業の組み合わせにより行います。					
<ul style="list-style-type: none"> ・参考図書として指定したDa Rold, Orietta & Elaine Treharne (eds.), <i>The Cambridge Companion to Medieval British Manuscripts</i> (CUP, 2020) (図書館のものを利用してよい) を講読する。 ・実際に学術雑誌に公刊された研究論文を読み、その問題点を指摘するとともに、学術的にどのような貢献がなされているかを議論する。(否定的な批判をするだけでなく、自分が同じテーマで論文を書く場合を想定した建設的な議論を行う。) ・参考図書や論文の中で取り上げられたテーマの中からトピックを選び、ミニリサーチを行う。 ・それぞれの研究テーマにしたがって、研究計画を作成し、その計画に沿って研究を進める。 ・参加者の専門分野によっては、古英語・中英語の講読を行うこともある。 					
[履修要件]					
最初の授業でガイダンスを行いますので、受講者は必ず出席するようにしてください。出席できない場合は、事前に連絡を取ってください。					
[成績評価の方法・観点]					
授業への貢献度(70%)およびレポート(30%)により総合的に評価します。					
----- 英語学英米文学 (演習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (演習)(2)

【教科書】

Da Rold, Orietta & Elaine Treharne (eds.) 『The Cambridge Companion to Medieval British Manuscripts』
(CUP) ISBN:1107500141 (図書館のものを使用してもよい)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

事前に指定された資料や論文を読み議論を行う際には、予習を行って議論に参加できるようにしておいてください。詳細は、授業中に指示します。

(その他 (オフィスアワー等))

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語史研究の方法				
[授業の概要・目的]					
具体的な研究を通じて、英語史研究の方法を学びます。また、授業を通して、資料収集の方法、データ整理の方法、論文の作成方法など、研究に必要な手法を習得します。					
[到達目標]					
研究論文の多読を通じて、英語史全般についての体系的な知識を身につけます。同時に、その知識を自らの研究テーマを発展させるために多面的に利用する力を身につけます。					
[授業計画と内容]					
1回目 イン트로ダクション					
2回目～15回目 授業は、以下のような作業の組み合わせにより行います。 ・参考図書として指定したDa Rold, Orietta & Elaine Treharne (eds.), <i>The Cambridge Companion to Medieval British Manuscripts</i> (CUP, 2020) (図書館のものを利用してよい) を講読する。 ・実際に学術雑誌に公刊された研究論文を読み、その問題点を指摘するとともに、学術的にどのような貢献がなされているかを議論する。(否定的な批判をするだけでなく、自分が同じテーマで論文を書く場合を想定した建設的な議論を行う。) ・参考図書や論文の中で取り上げられたテーマの中からトピックを選び、ミニリサーチを行う。 ・それぞれの研究テーマにしたがって、研究計画を作成し、その計画に沿って研究を進める。 ・参加者の専門分野によっては、古英語・中英語の講読を行うこともある。					
[履修要件]					
最初の授業でガイダンスを行いますので、受講者は必ず出席するようにしてください。出席できない場合は、事前に連絡を取ってください。					
[成績評価の方法・観点]					
授業への貢献度(70%)およびレポート(30%)により総合的に評価します。					
----- 英語学英米文学 (演習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (演習)(2)

[教科書]

Da Rold, Orietta & Elaine Treharne (eds.) 『The Cambridge Companion to Medieval British Manuscripts』
(CUP) ISBN:1107500141 (図書館のものを使用してもよい)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に指定された資料や論文を読み議論を行う際には、予習を行って議論に参加できるようにしておいてください。詳細は、授業中に指示します。

(その他(オフィスアワー等))

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学70

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	The Merry Wives of Windsor 演習1				
[授業の概要・目的]					
William Shakespeare, The Merry Wives of Windsorの精読を通じて、この作家の文体、語彙に関する基本的な知識を習得し、その内容について考察する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ Oxford English Dictionary等の辞書の使い方を身につけ、これらを参照しながら、初期近代イギリスの戯曲テキストを自力で読めるようになる。 ・ 初期近代イギリス文学に関する基本的知識を身につけ、自ら論文のテーマを見つけられるようになる。 					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション					
第2-15回 テキストの精読 各受講者に予め担当を割り振る方式によってテキストを精読し、内容について討論する。					
場面毎の難易度の違いによって、また、受講者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、概ね一人あたり100行を目途に担当してもらう。					
一学期の授業では読み終わらないと思われるので後期に継続する。					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 (担当箇所の解釈50%、テキスト全体の理解度50%) にて評価する。					
[教科書]					
William Shakespeare 『The Merry Wives of Windsor』 (Arden Shakespeare 3rd Ser., 1999) ISBN:978-1904271123 (Ed. Giorgio Melchiori)					
----- 英語学英米文学 (演習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予めOxford English Dictionary等の辞書を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。授業後は作品中での当該箇所の意味について考察をすること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学71

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	The Merry Wives of Windsor 演習2				
[授業の概要・目的]					
前期の演習1に引き続き、William Shakespeare, The Merry Wives of Windsorの精読を通じて、この作家の文体、語彙に関する基本的な知識を習得し、その内容について考察する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・Oxford English Dictionary等の辞書の使い方を身につけ、これらを参照しながら、初期近代イギリスの戯曲テキストを自力で読めるようになる。 ・初期近代イギリス文学に関する基本的知識を身につけ、自ら論文のテーマを見つけられるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1-15回 テキストの精読 各受講者に予め担当を割り振る方式によってテキストを精読し、内容について討論する。 前期終了箇所から読み始める。</p> <p>場面毎の難易度の違いによって、また、受講者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、概ね一人あたり100行を目途に担当してもらう。</p>					
[履修要件]					
前期の演習1からの継続受講を原則とする。後期からの受講を希望する者は初回に担当者に申し出ること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 (担当箇所の解釈50%、テキスト全体の理解度50%) にて評価する。					
[教科書]					
William Shakespeare 『The Merry Wives of Windsor』 (Arden Shakespeare 3rd Ser., 1999) ISBN:978-1904271123 (Ed. Giorgio Melchiori)					
----- 英語学英米文学 (演習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予めOxford English Dictionary等の辞書を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。授業後は作品中での当該箇所の意味について考察をすること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Walter Pater, Imaginary Portraits (1878) を読む				
[授業の概要・目的]					
本授業ではウォルター・ペイター (1839-1894) の短編シリーズImaginary Portraits (1878) の5作品を精読し、その美学思想や文学的手法について考察する。ペイターの文学は唯美主義の先駆けとして位置付けられ、その独特の美意識や描写に特徴がある。各作品の背景やテーマ、文体を理解し、代表作The Renaissance (1873) と合わせて、その文学史的意義を明らかにすることを目的とする。					
[到達目標]					
ウォルター・ペイターの短編小説5作品を精読し、それぞれのテーマ、構成、文体を理解し説明できることを目指す。あわせて、ペイターの美学思想および唯美主義の特徴を捉え、作品内でそれらがどのように表現されているかを考察する力を養う。さらに、19世紀イギリス文学におけるペイターの位置づけを理解し、他の文学作品や思想との関連性について批判的に議論する能力を身につける。またテキストの分析を通じて批評的思考力を高め、論理的かつ具体的な議論を展開できるようになるとともに、授業内のディスカッションやレポートの作成を通じて、自らの考えを明確に表現し、言語化できる力の向上を図る。					
[授業計画と内容]					
第1回: イントロダクション: ペイターの生涯、唯美主義、瞬間の美学についての紹介					
第2回 "The Child in the House": 幼少期の記憶や感受性がどのように表現されているかを理解する。					
第3回 "The Child in the House": ナラティブの構成や文体的特徴、内面的描写の効果について議論する。					
第4回 "A Prince of Court Painters"; 18世紀フランス美術の時代背景やアントワーヌ・ヴァトーの影響を考察する。					
第5回 "A Prince of Court Painters": 芸術家の内面描写や語りの特徴を分析する。					
第6回 "Denys L'Auxerrois": 中世フランスの文化的背景や作品の神話的要素を考察し、芸術と神秘主義の関係を検討する。					
第7回 "Denys L'Auxerrois": 象徴的表現や狂気と美の関連性を分析し、物語の独自性について議論する。					
第8回 "Sebastian van Storck": 17世紀オランダ文化と哲学の背景を学び、作品の自己探求的要素について考察する。					
第9回 "Sebastian van Storck": 哲学的対話や内省的表現を分析し、ペイターの思想的側面に焦点を当てる。					
第10回 "Duke Carl of Rosenmold": 架空の公国を舞台にした背景を理解し、美と権力の相克というテーマを考察する。					
第11回 "Duke Carl of Rosenmold": 物語の構成や語りの技法、公爵の人物描写を分析する。					
第12回 美学思想の総合的考察: これまで学んだ作品を振り返り、ペイターの美学思想や唯美主義について総括する。					
第13回 文学史的意義の考察: 19世紀イギリス文学におけるペイターの位置付けを理解する。					
英語学英米文学 (演習)(2)へ続く					

英語学英米文学 (演習)(2)

第14回 ディスカッションとまとめ：授業全体を振り返り、ディスカッションを通じて理解を深める。
第15回 最終発表およびレポート指導：最終レポートの指針を示し、各自の考察を発表することで授業の総括を行う。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・口頭発表（60%）とレポート（40%）で総合的に評価する。

【教科書】

授業中に配布する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜13:00から14:45までとします。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学73

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (演習) English and American Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Virginia Woolfのエッセイを読む				
[授業の概要・目的]					
Virginia Woolf (1882-1941)のエッセイ集『The Common Reader』および『The Death of the Moth and Other Essays』から選定した作品を精読し、ウルフの文学観やモダニストとしてのスタイルを学ぶ。各エッセイのテーマや背景を考察し、ウルフの思想や時代背景について理解を深める。					
[到達目標]					
Virginia Woolfのエッセイを精読し、それぞれのテーマ、構成、文体を理解し説明できることを目指す。さらに、20世紀イギリス文学におけるWoolfの位置づけを理解し、他の文学作品や思想との関連性について批判的に議論する能力を身につける。またテキストの分析を通じて批評的思考力を高め、論理的かつ具体的な議論を展開できるようになるとともに、授業内のディスカッションやレポートの作成を通じて、自らの考えを明確に表現し、言語化できる力の向上を図る。					
[授業計画と内容]					
第1回: イントロダクション：授業の概要説明、評価基準の確認。ウルフの生涯と作品、エッセイの特徴について紹介する。					
『The Common Reader』（第2回~10回）					
第2回: "On Not Knowing Greek"					
第3回: "Modern Fiction"					
第4回: "Mr. Bennett and Mrs. Brown"					
第5回: "The Modern Essay"					
第6回: "Middlebrow"					
第7回: "Professions for Women"					
第8回: "The Art of Biography"					
第9回: "Craftsmanship"					
第10回: "Outlines"					
"The Death of the Moth and Other Essays"（第11回~14回）					
第11回: "The Death of the Moth"					
第12回: "Street Haunting"					
第13回: "Evening Over Sussex: Reflections in a Motor Car"					
第14回: "Three Pictures"					
第15回: 総括とディスカッション：これまでのエッセイを総括し、ウルフのエッセイ全体におけるテーマやスタイルについてディスカッションを行う。					
----- 英語学英米文学 (演習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・口頭発表（60％）とレポート（40％）で総合的に評価する。

【教科書】

授業中に配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に興味をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜13:00から14:45までとします。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学74

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Edith Wharton, The House of Mirthを読む (1)				
【授業の概要・目的】					
Edith Wharton (1862-1937) の代表作の一つThe House of Mirth (1905)を精読する。小説の精緻な読解に取り組むことで、文学研究の地力を養う。					
【到達目標】					
文学テキスト読解の精度を高めること。細部をおろそかにせず小説を丁寧に読む姿勢を養うこと。					
【授業計画と内容】					
授業ではテキストを輪読する。訳読による精緻な読解と、担当範囲を決めた発表形式を組み合わせる予定。					
授業スケジュールは以下のとおり。 第1週：イントロダクション 第2～14週：テキスト講読 第15週：まとめとフィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点100%で評価する。					
【教科書】					
Edith Wharton 『The House of Mirth』 (Penguin) ISBN:9780140187298					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
各回の授業で読み進む範囲の綿密な予習は必須。					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学75

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Edith Wharton, The House of Mirthを読む (2)				
【授業の概要・目的】					
Edith Wharton (1862-1937) の代表作の一つThe House of Mirth (1905)を精読する。小説の精緻な読解に取り組むことで、文学研究の地力を養う。					
【到達目標】					
文学テキスト読解の精度を高めること。細部をおろそかにせず小説を丁寧に読む姿勢を養うこと。					
【授業計画と内容】					
授業ではテキストを輪読する。訳読による精緻な読解と、担当範囲を決めた発表形式を組み合わせる予定。					
<p>授業スケジュールは以下のとおり。</p> <p>第1週：イントロダクション</p> <p>第2～14週：テキスト講読</p> <p>第15週：まとめとフィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点100%で評価する。					
【教科書】					
Edith Wharton 『The House of Mirth』 (Penguin) ISBN:9780140187298					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
各回の授業で読み進む範囲の綿密な予習は必須。					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学76

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	_Beloved_を読む(1)				
【授業の概要・目的】					
Toni Morrisonの_Beloved_(1987)を丁寧に読むことで、Morrisonの文体の特徴、小説世界について把握する。					
【到達目標】					
20世紀後半の代表的小説を自分なりに解釈する勇気と胆力を養う。 作品理解に必要な歴史的事象について綿密に調べる。					
【授業計画と内容】					
本授業は受講者による発表・ディスカッションが主体となる。 第1回 イン트로ダクション 第2回から第15回 受講者による発表・ディスカッション					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
発表 (60%) およびディスカッションでの貢献 (40%) によって評価する。 (教科書)					
【教科書】					
Morrison, Toni 『Beloved』 (Vintage) ISBN:978-1400033416 (授業中、常時参照するのでかならずこの版を購入すること)					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
受講者の発表、ディスカッションによって成立する授業なので、綿密な予習が必要となる。 (その他 (オフィスアワー等)) オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学77

科目ナンバリング	G-LET20 7M193 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (演習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	_Beloved_を読む (2)				
【授業の概要・目的】					
Toni Morrisonの_Beloved_(1987)を丁寧に読むことで、Morrisonの文体の特徴、小説世界について把握する。					
【到達目標】					
20世紀後半の代表的小説を自分なりに解釈する勇気と胆力を養う。 作品理解に必要な歴史的事象について綿密に調べる。					
【授業計画と内容】					
本授業は受講者による発表・ディスカッションが主体となる。 第1回 イン트로ダクション 第2回から第15回 受講者による発表・ディスカッション					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
発表 (60%) およびディスカッションでの貢献 (40%) によって評価する。 (教科書)					
【教科書】					
Morrison, Toni 『Beloved』 (Vintage) ISBN:978-1400033416 (授業中、常時参照するのでかならずこの版を購入すること)					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
受講者の発表、ディスカッションによって成立する授業なので、綿密な予習が必要となる。 (その他 (オフィスアワー等)) オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学78

科目ナンバリング		G-LET20 7M197 PE36			
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (外国語実習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学法学部 教授 JACKSON, Lachlan Rigby		
配当学年	全回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Language & Society: Sociolinguistics I				
[授業の概要・目的]					
<p>What is the relationship between language and society? Why do people use languages in the ways that they do? Questions such as these are the concern of sociolinguists. This course is a content-based English course that will provide students with an introduction to fundamental sociolinguistics concepts. This content will be particularly useful to students aspiring to teach English in junior high schools and high schools in Japan.</p>					
[到達目標]					
<p>This is an interactive and communitive-orientated class aimed at developing the four macro skills (listening, speaking, reading, and writing). Students will be required to reflect on short weekly readings, draw on their own language learning experiences, and share their opinions on a range of sociolinguistics-related topics. Course content will challenge students to think about language teaching and learning from sociolinguistics-informed perspectives, and in so doing, help them to develop as future language teachers.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Week Description</p> <p>1 Introduction to the Course: “ What is Sociolinguistics? ” Why do people use language in the ways they do?</p> <p>2 Module 1 #8211 Language Variation: (1) Language & Gender</p> <p>3 (2) Language & Region (Accent and Dialects)</p> <p>4 (3) Language & Social Class</p> <p>5 (4) Language & Age</p> <p>6 Module 2 #8211 Language & Culture: (1) Language & Identity</p> <p>7 (2) The Status of English in Japan</p> <p>8 (3) Is Japan a multilingual society?</p> <p>9 (4) Who/what is a “ native-speaker ” ?</p> <p>10 Module 3 #8211 Language & Change (1) Endangered Languages & Language Death</p> <p>11 (2) Neologisms</p> <p>12 (3) Non-Standard Forms: Swearing, Slang, & Taboo Language</p> <p>13 Final Test</p> <p>14 Student Presentations</p> <p>15 Student Presentations and Feedback</p>					
----- 英語学英米文学 (外国語実習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (外国語実習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Presentation 20%
Short Module Quizzes (3 x 10%) 30%
Final Test 20%
Reflective Journal (3 x 5%) 15%
Classwork 15%

【教科書】

使用しない

There is no set text for this course. The instructor will provide students with worksheets and short weekly readings.

【参考書等】

(参考書)

Edwards, J. 『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 (2013) ISBN:978-0199858613

(関連URL)

languageonthemove.com (A great resource with many very short articles on issues relating to sociolinguistics)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Students are expected to prepare for each class by completing the assigned short weekly reading tasks.

(その他 (オフィスアワー等))

Full participation and interaction with other class members is very important in this course. Students will be required to engage in group and pair work during each class. As a part-time teacher, I do not have a contact hour. I am available just before, during, and after class if you wish to speak to me. You can also email me at this address: lockie@law.ritsumeai.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学79

科目ナンバリング	G-LET20 7M197 PE36				
授業科目名 <英訳>	英語学英米文学 (外国語実習) English and American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学法学部 教授 JACKSON, Lachlan Rigby		
配当学年	全回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Language & Society: Sociolinguistics II				
[授業の概要・目的]					
<p>What is the relationship between language and society? Why do people use languages in the ways that they do? Questions such as these are the concern of sociolinguists. This course is a content-based English course that will provide students with an introduction to fundamental sociolinguistics concepts. This content will be particularly useful to students aspiring to teach English in Junior high schools and high schools in Japan.</p>					
[到達目標]					
<p>This is an interactive and communitive-orientated class aimed at developing the four macro skills (listening, speaking, reading, and writing). Students will be required to reflect on short weekly readings, draw on their own language learning experiences, and share their opinions on a range of sociolinguistics-related topics. Course content will challenge students to think about language teaching and learning from sociolinguistics-informed perspectives, and in so doing, help them develop as future language teachers.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Week Description</p> <p>1 Introduction to the Course: Why Study Sociolinguistics?</p> <p>2 Module 1 #8211 Language, Technology and the Media (1) Language Study and AI</p> <p>3 (2) Social Media, Texting Apps, & Communication</p> <p>4 (3) Echo Chambers, Language Framing, and Agenda Setting</p> <p>5 (4) ' Fake News ' and ' Information Overload '</p> <p>6 Module 2 #8211 Language Policy & Planning: (1) Attitudes and Ideologies</p> <p>7 (2) Language Prejudice</p> <p>8 (3) Language ideologies: Canada as a Case Study</p> <p>9 (4) Language Endangerment and Revitalization</p> <p>10 Module 3 #8211 Language & Education (1) Sociolinguistics in the Language Classroom</p> <p>11 (2) Representations of English Language learning in Japan</p> <p>12 (3) Recent Directions in Language Education</p> <p>13 Final Test & Presentation Workshop</p> <p>14 Student Presentations</p> <p>15 Student Presentations and Feedback</p>					
----- 英語学英米文学 (外国語実習)(2)へ続く -----					

英語学英米文学 (外国語実習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Presentation 20%
Short Module Quizzes (3 x 10%) 30%
Final Test 20%
Reflective Journal (3 x 5%) 15%
Classwork 15%

【教科書】

使用しない

There is no set text for this course. The instructor will provide students with worksheets and short weekly readings.

【参考書等】

(参考書)

Edwards, J. 『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 (2013) ISBN:978-0199858613

(関連URL)

languageonthemove.com (A great resource with many very short articles on issues relating to sociolinguistics)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Students are expected to prepare for each class by completing the assigned short weekly reading tasks.

(その他 (オフィスアワー等))

Full participation and interaction with other class members is very important in this course. Students will be required to engage in group and pair work during each class. As a part-time teacher, I do not have a contact hour. I am available just before, during, and after class if you wish to speak to me. You can also email me at this address: lockie@law.ritsumeai.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学80

科目ナンバリング	G-LET21 7M203 SJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Théories et méthodes académiques dans les études littéraires				
[授業の概要・目的]					
<p>Au premier semestre 2025, ce séminaire visera à initier les étudiants à la méthode académique française de la dissertation. Exercice aussi canonisé que redouté, la dissertation fait en France, dans les études littéraires, l'objet d'un long apprentissage qui commence dès le lycée et se poursuit jusqu'à l'agrégation. D'abord, nous découvrirons les étapes préparatoires qui demandent une connaissance d'extraits de textes. Puis nous verrons comment développer un sujet d'examen avec arguments structurés et exemples. Au cours du semestre, nous commencerons par traiter des sujets simples et progressivement nous étudierons des sujets plus exigeants.</p>					
[到達目標]					
<p>Ce séminaire a pour but d'initier les étudiants aux méthodes académiques dans le champ littéraire en France. Il a également pour objectif d'accompagner les étudiants dans la préparation de leur mémoire de recherche.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Chaque séance commence par un temps de discussion ouverte sur l'avancement des mémoires : les étudiants peuvent librement poser des questions, demander des conseils, faire part des obstacles qu'ils rencontrent.</p> <p>Puis la séance se poursuit par l'examen d'un sujet de dissertation, la lecture de textes préparatoires ou l'entraînement à la rédaction académique en français.</p> <p>Séances 1-2 : Introduction</p> <p>Séances 3-14 : Lecture de textes, puis entraînements à la dissertation</p> <p>Séance 15 : Feedback</p>					
[履修要件]					
<p>Ce cours est ouvert à tous les étudiants et à toutes les étudiantes qui souhaitent trouver un espace pour discuter de leurs recherches et qui souhaitent développer leur connaissance du champ académique français. Le cours sera dispensé intégralement en français.</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>Chaque étudiant rédigera une dissertation, qui pourra être choisie parmi les sujets abordés en classe.</p>					
[教科書]					
<p>使用しない</p> <p>Un livret sera distribué en début de semestre par la professeure.</p>					
----- フランス語学フランス文学 (演習)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学 (演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Le cours s'appuie sur un travail de lecture très régulier et en français d'œuvres théâtrales.

(その他 (オフィスアワー等))

Rendez-vous possible sur demande.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学81

科目ナンバリング		G-LET21 7M203 SJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Théories et méthodes académiques dans les études littéraires. L'écriture dite "féminine" : la littérature a-t-elle un genre ?				
【授業の概要・目的】					
Au second semestre 2025, ce séminaire tentera d'éclairer la question suivante : la notion d'écriture féminine est-elle un concept utile pour éclairer le rapport entre l'œuvre et l'auteur (ou plutôt l'autrice) ou conduit-elle à assigner un genre à certaines formes littéraires, voire à produire une essentialisation vaine, sinon misogynne, de certains éléments stylistiques ou thématiques ?					
【到達目標】					
Ce séminaire a pour but d'initier les étudiants aux méthodes académiques dans le champ littéraire en France. Il a également pour objectif d'accompagner les étudiants dans la préparation de leur mémoire de recherche.					
【授業計画と内容】					
Chaque séance commence par un temps de discussion ouverte sur l'avancement des mémoires : les étudiants peuvent librement poser des questions, demander des conseils, faire part des obstacles qu'ils rencontrent. Le séminaire prend ensuite la forme d'un atelier de lecture de textes théoriques en français. Chaque semaine, les étudiants arrivent en ayant lu un chapitre d'un essai ou un article. L'objectif de la séance est d'en faire émerger les principaux arguments et d'en discuter ensemble la pertinence et les limites. Le séminaire s'appuie sur la discussion collective et bienveillante qui permet à chacun d'apprendre l'un de l'autre. Séance 1 : Introduction Séance 2-14 : Discussions sur les lectures Séance 15 : Feedback					
【履修要件】					
Ce cours est ouvert à tous les étudiants et à toutes les étudiantes qui souhaitent trouver un espace pour discuter de leurs recherches et qui souhaitent développer leur connaissance du champ académique français. Le cours sera dispensé intégralement en français.					
【成績評価の方法・観点】					
Création d'un portfolio destiné à être un outil pour vos propres recherches.					
----- フランス語学フランス文学 (演習)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学 (演習)(2)

[教科書]

使用しない

Un livret sera distribué en début de semestre par la professeure.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Le cours s' appuie sur un travail de lecture très régulier et en français de textes en théorie littéraire. Environ 8 à 15 pages seront données à la lecture chaque semaine.

(その他 (オフィスアワー等))

Rendez-vous possible sur demande.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET21 63631 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 永盛 克也		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フランス古典悲劇の詩学 - ラシーヌを中心に				
[授業の概要・目的]					
フランス古典悲劇 (特にラシーヌの悲劇) の「詩学」 (創作理論と受容理論) について考察する。 フランス17世紀において悲劇を創作するという行為がいかなる前提の下にあり、劇作家にどのような作業を要求したか、という問題とともに悲劇作品がどのように受容され、批評の対象となったか、という問題を考察の対象とすることで、フランス古典悲劇の本質を理解することを目指す。					
[到達目標]					
いわゆる「フランス古典悲劇」の形成過程とその特質を理解すること、および文学作品の分析の具体的な手法を習得することを目標とする。					
[授業計画と内容]					
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいに対応して順序やテーマを変更することがある。 第1回 イン트로ダクション フランス17世紀演劇の流れ 第2回 - 第3回 悲劇の創作理論 (詩学) 第4回 - 第5回 コルネイユの悲劇作品 第6回 - 第7回 コルネイユの悲劇論 第8回 - 第10回 ラシーヌの悲劇作品 第11回 - 第13回 ラシーヌの悲劇論 第14回 フランス古典悲劇の成立 第15回 まとめ フランス古典悲劇の本質					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業での発表 (20%) および期末レポート (80%)					
[教科書]					
プリント等を配布する					
----- フランス語学フランス文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

ラシーヌ 『ラシーヌ戯曲全集』 (人文書院, 1964-1965) (全2巻)

コルネイユ 『コルネイユ名作集』 (白水社, 1975)

スタイナー 『悲劇の死』 (ちくま学芸文庫) ISBN:9784480082251

エイコス 17世紀フランス演劇研究会 『フランス17世紀演劇事典』 (中央公論新社) ISBN:9784120042201

Racine 『Œuvres complètes, t. I, théâtre-poésie, éd. Georges Forestier』 (Gallimard, 1999) ISBN:9782070115617

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET21 63631 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 森本 淳生		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フランス象徴主義と理論				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、19世紀後半に隆盛したフランス象徴主義について具体的なイメージを示しつつ、その理論的な言説を検討し、あわせて、その反響を20世紀の思想や哲学のうちに探る作業を試みます。まず、象徴主義になじみのない方もいると思いますので、代表作であるメーテルリンクの演劇『ペレアスとメリザンド』とマラルメの「半獣神の午後」を実際に繙いてみましょう。前者はドビュッシーによるオペラ、後者にも同じくドビュッシーの音楽とニジンスキー振り付けによる舞台版があるので、あわせて抜粋を映像で鑑賞してみたいと思います。つづいて、1880年代の象徴主義の展開を確認し、モレアスの「宣言」やシャルル・モリスの『近時の文学』の内容を読み解きます。そして、イデアリズムを濃厚にしめすこれらのテキストを念頭においたうえで、ギル、マラルメ、ヴァレリーのより「唯物論」的な詩論をが考えてみます。最後に、以上のような象徴主義をめぐる思索の反響を20世紀の代表的な哲学者や思想家たちのうちに探ってみることにしましょう。なお、一部フランス語のテキストを扱いますが、翻訳をつけますのでフランス語の知識は前提としません。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 象徴主義について、個々の作家や作品の知識を獲得し、具体的なイメージを得る。 ・ 文学に関わる理論や哲学について一定の知識と具体的なイメージを得る。 					
[授業計画と内容]					
<p>イントロダクション：古典主義、ロマン主義、リアリズム、高踏派、象徴主義 象徴主義を体験する(1)：メーテルリンク『ペレアスとメリザンド』を読む/見る 象徴主義を体験する(2)：メーテルリンク『ペレアスとメリザンド』を読む/見る 象徴主義を体験する(3)：マラルメ『半獣神の午後』を読む/見る/聴く 象徴主義小史：1880年代の展開とモレアスの「象徴主義宣言」(1886) 象徴主義の理論(1)：シャルル・モリス『近時の文学』とイデアリズム 象徴主義の理論(2)：ルネ・ギル『言語考』 中間まとめ 象徴主義の理論(3)：マラルメの詩学 象徴主義の理論(4)：ヴァレリーの詩学講義(1937-1945) 象徴主義と構造批評：ボードレール「猫たち」を読むヤコブソン/レヴィ=ストロース マラルメと哲学者たち ヴァレリーと哲学者たち 期末試験 フィードバック</p>					
----- フランス語学フランス文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点 50%、期末試験 50%

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に取り上げる作品については、翻訳で構いませんのでいくつか実際に通読することをお勧めします。

(その他(オフィスアワー等))

KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学84

科目ナンバリング	G-LET21 63631 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Les contes de Perrault et leurs réécritures contemporaines				
[授業の概要・目的]					
<p>Les contes de Charles Perrault constituent un apport majeur à l'histoire littéraire, tant les personnages, les récits et les discours moraux contenus dans cette œuvre nourrissent l'imaginaire et les représentations contemporaines. Une analyse fine des textes permettra de dégager les enjeux esthétiques et éthiques de cette écriture à la fois naïve, jouée et cruelle. Le cours veillera également à situer cette œuvre dans son contexte socio-historique de parution, notamment en montrant sa place dans la Querelle des Anciens et des Modernes, et en mettant en visibilité l'importance de la production contemporaine de contes par les auteurs et autrices des XVIIe et XVIIIe siècles. De plus, une grande part du cours sera consacrée aux enjeux de réception des contes, à travers ses illustrations et mises en scène, ses interprétations dans différentes disciplines des sciences humaines et sociales (anthropologie, psychanalyse et études de genre) et ses réécritures à travers les siècles, avec un intérêt particulier pour la réception de ces contes en Asie.</p>					
[到達目標]					
<p>Ce cours permettra aux étudiants d'enrichir leur connaissance de la littérature, de la pensée et de la culture françaises du XVIIe siècle et du XXe siècle, tout en se familiarisant avec différentes méthodes d'analyse littéraire.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Séance 1 : Introduction Séance 2 à 8 : Contexte historique et analyse des contes Séance 9 à 14 : Etude de la réception Séance 15 : Feedback</p>					
[履修要件]					
<p>Ce cours est ouvert à tous les étudiants et étudiantes désireuses d'approfondir leur connaissance de la culture française. Le cours sera dispensé intégralement en français.</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>Chaque étudiant aura la charge un dossier visant à étudier la réception des contes. Les instructions précises seront données en cours. La note finale tiendra compte de l'assiduité des étudiants et de leur participation lors des séances.</p>					
----- フランス語学フランス文学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学 (特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Le cours requiert un travail de lecture attentive de l'œuvre de Perrault.

(その他 (オフィスアワー等))

Les étudiants sont invités à prendre directement contact avec l'enseignante pour fixer un rendez-vous.
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学85

科目ナンバリング	G-LET21 63631 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Le matrimoine littéraire du XVIIe siècle				
[授業の概要・目的]					
<p>En France, les préoccupations en faveur de l' égalité de genre se traduisent à l' université par un effort pour relire les autrices oubliée du passé, et tenter de le faire une place dans le canon académique. Les contes de Madame d' Aulnoy, les romans de Madame de Villegieu et la poésie d' Antoinette Des Houlières bénéficient directement de cette recherche collective et sont ainsi édités dans des volumes modernes et accessibles. L' objet de ce séminaire sera de questionner les enjeux et les limites de ces tentatives de mettre au jour un matrimoine aux côtés du patrimoine. Ce séminaire sur les conversations morales de Madeleine de Scudéry visera donc à la fois à mettre en évidence une anthropologie chrétienne et mondaine représentative du XVIIe siècle et à questionner la capacité de son œuvre à enrichir la philosophie antique et moderne par un point de vue féminin.</p>					
[到達目標]					
<p>Ce cours permettra aux étudiants d' enrichir leur connaissance de la littérature, de la pensée et de la culture françaises du XVIIe siècle et du XXIe siècle, tout en se familiarisant avec différentes méthodes d' analyse littéraire.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Séance 1-3 : Introduction et contexte (la notion de matrimoine et ses enjeux, l'accès des femmes à la culture, références historiques) Séance 4-14 : Lectures et analyse de textes variés Séance 15 : Feedback</p>					
[履修要件]					
<p>Ce cours est ouvert à tous les étudiants et à toutes les étudiantes qui désirent approfondir leur connaissance de la culture française. Le cours sera dispensé intégralement en français.</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>Un dossier sera à rédiger en français. La note finale tiendra compte de l' assiduité des étudiants et de leur participation lors des séances.</p>					
----- フランス語学フランス文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学 (特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

L'enseignante fournira tous les textes étudiés.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Le cours s'appuie sur un travail de lecture très régulier et en français d'œuvres du XVII^e siècle (Marie-Catherine d'Aulnoy, Marie-Catherine de Villedieu, etc.).

(その他 (オフィスアワー等))

Les étudiants sont invités à prendre directement contact avec l'enseignante pour fixer un rendez-vous.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET21 63631 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 鳥山 定嗣		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポール・ヴァレリー『若きパルク』研究				
[授業の概要・目的]					
<p>19-20世紀フランスの詩人・批評家ポール・ヴァレリー (Paul Valéry, 1871-1945) の代表的な詩篇『若きパルク La Jeune Parque』を取り上げる。「パルク」とは人間の運命・生死をつかさどる女神 (ローマ神話のパルカ、ギリシア神話のモイラ) であるが、ヴァレリーの詩では「若きパルク」というひとりの女性が一人称で語る設定である。この詩の主題は「一夜の持続のうちにおける意識の変化」 (心理と生理の交錯する意識の変化) であり、詩人はそれを音楽の「転調」をモデルとして表現しようとした。</p> <p>本授業では、全512行・16断章からなる『若きパルク』の全体像を把握し、しばしば晦渋と評されるその詩句を丁寧に読み解きながら、この詩を次のような多角的な観点から検討する。すなわち、主題と形式の関係、詩の構成と音楽モデル (グルック、ワーグナー)、長い歳月 (1912~1917) にわたる詩の生成過程、世界史 (第一次世界大戦) と個人史 (文学放棄から詩作回帰へ、親しい人の死、子どもの誕生など) との関係、ジェンダー的視点 (男性作家が女性の「私 je」で語る) といった観点から検討し、ヴァレリーの詩および詩論・芸術論の特徴、作家の人生と作品制作の関係について考察する。</p>					
[到達目標]					
フランス詩におけるヴァレリーおよび『若きパルク』の位置を把握する。また『若きパルク』の読解を通して、ヴァレリーの詩および詩論・芸術論の特徴について知識と理解を深める。					
[授業計画と内容]					
以下のように進める予定である (各断章のテーマに即して、上述の諸観点から考察する)					
第1回	イントロダクション				
第2回	『若きパルク』第1断章 深夜の目覚め: 「涙と星」のテーマ				
第3回	『若きパルク』第2-3断章 「蛇と欲望」のテーマ				
第4回	『若きパルク』第4-5断章 ありし日の幸福: 「太陽」から「影」への転調				
第5回	『若きパルク』第6-7断章 「虚無」と「倦怠」のテーマ				
第6回	『若きパルク』第8断章 「思い出」のテーマ				
第7回	『若きパルク』第9断章 死の希求: 「死」から「春」への転調				
第8回	『若きパルク』第10断章 深夜の海辺における死: 「涙」のテーマ再び				
第9回	『若きパルク』第11断章 夜明けの海辺における蘇生 (第二幕の幕あけ)				
第10回	『若きパルク』第12-13断章 陽光の予感から死の回想へ				
第11回	『若きパルク』第14断章 挫折した死を愛惜する				
第12回	『若きパルク』第15断章 蘇生の謎を問う: 「眠り」のテーマ				
第13回	『若きパルク』第16断章 昨夜の死から朝の海辺へ				
第14回	まとめ				
第15回	フィードバック 授業中に指示				
----- フランス語学フランス文学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学 (特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業での発表 (40%) および期末レポート (60%)

[教科書]

プリント等を配布する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET21 63631 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 鳥山 定嗣		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヴァレリーの詩集『魅惑』研究				
[授業の概要・目的]					
<p>フランス19-20世紀の作家ポール・ヴァレリー (Paul Valéry, 1871-1945) の詩集『魅惑 Charmes』を取り上げ、詩人自身がこの詩集の特徴として挙げている3点、すなわち「形式の多様性」「主題の多様性」「慣習的規則の遵守」に注目しつつ、『魅惑』所収詩篇を考察する。形式面では、19世紀末から20世紀にかけて詩の定型が崩れて自由詩が隆盛するなかで、ヴァレリーの詩はともすれば時代遅れとみなされがちだが、実際には古典的な詩の風格を備えながらも、単に伝統的詩法の遵守にとどまらない斬新な試みが認められる。主題の面では、下記のような主題 (授業計画と内容参照が見られるが、とりわけ「詩の生成」についての詩、巫女のテーマ (靈感と狂気)、「創世記」の「蛇」を語り手とするなどの特徴がある。</p> <p>本授業では、詩集『魅惑』の構造を概観したうえで、所収詩篇について形式と主題の両面から考察する。また手書き草稿に基づいて詩の生成過程を探るとともに、ヴァレリーが詩作体験に基づいて導き出した詩論を参照し、詩作の実践と理論的考察の関係についても検討する。</p>					
[到達目標]					
ヴァレリーの詩集『魅惑』とその詩論について知識と理解を深めるとともに、定型詩から自由詩へと移りゆくフランス詩の歴史における本詩集の位置を把握する。					
[授業計画と内容]					
第1回 イントロダクション 第2回 詩集『魅惑』の構造 第3回 "L'Abeille", "Poésie" : 詩の生成についての詩 第4回 "Les Pas", "La Ceinture" : 虚実の境をうたう 第5回 "Fragments du Narcisse" : 「ナルシス」と「純粹詩」 第6~7回 "La Pythie" : 巫女のテーマ (靈感・狂気・詩作) 第8回 "Le Sylphe", "L'Insinuant" : 短詩の対照 第9~11回 "Ébauche d'un serpent" : イヴを誘惑する「蛇」を演じる 第12回 "Les Grenades", "Le Vin perdu" : 戦争の記憶 第13回 "Le Cimetière marin" : 海と墓 (「風立ちぬ.....」) 第14回 まとめ 第15回 フィードバック 授業中に指示					
[履修要件]					
特になし					
----- フランス語学フランス文学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学 (特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

授業での発表（40％）および期末レポート（60％）

[教科書]

プリント等を配布する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET21 63631 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 村上 祐二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	プルースト『ソドムとゴモラⅡ』(1922)を読む				
【授業の概要・目的】					
<p>マルセル・プルースト(1871-1922)の代表作『失われた時を求めて』(1913-1927)第4篇『ソドムとゴモラ』第二部(1922)より、ゲルマント大公夫妻邸での夜会の場面を取り上げる。構想当初、前篇『ゲルマントのほう』の末尾に置かれていたこの長大な社交界の場面は、主人公の一連の社会的上昇の到達点をなすのと同時に、前年刊行された『ソドムとゴモラ』第一部で理論的に提示された同性愛とユダヤ性のパラレルを登場人物を通して具体的に展開する点において、これ以降の物語の下降的性格を象徴している。本授業ではこの場面の成り立ち、『失われた時を求めて』全体における位置等を解説したあと、着想源、生成過程、文体等に注目しながら多角的に読解することで、プルーストに特有の小説技法を浮かび上がらせる。</p>					
【到達目標】					
<p>文学作品を、草稿資料にさかのぼったうえで、複数の文脈に即して読み解くことにより、文学研究に必要な批判的読解能力を身につける。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>授業は以下のプランに即して進められる。 第1回 『ソドムとゴモラⅡ』のゲルマント大公夫妻邸での夜会の場面の概要、生成過程を解説。 第2回～第15回 同場面を講読形式でフランス語原典により精読し、適宜プルーストの他作品や書簡、草稿資料、同時代の他の作品や新聞雑誌等の文献と照合しながら解説を加える。</p>					
【履修要件】					
フランス語文献を読む能力が必要とされる。					
【成績評価の方法・観点】					
<p>レポート(一回、100点満点、60点以上で合格) 到達目標の達成度に基づき評価するが、独自の見解が見られるものについては、高い点を与える。</p>					
【教科書】					
授業中にプリント等を配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業中に別途指示する。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-LET21 63631 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 村上 祐二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	プルースト『失われた時を求めて』におけるドレフュス事件				
【授業の概要・目的】					
フランス第三共和政を揺るがしたドレフュス事件 (1894-1906) は、フランス文学においても、第一次世界大戦に先立ち20世紀の起点になった出来事として今日にいたるまで活発な議論・研究の対象になっている。本授業ではこの事件に政治参加したマルセル・プルーストの代表作『失われた時を求めて』 (1913-1927) を取り上げ、そこに現れたドレフュス事件およびその爪痕を、政治参加、歴史記述、ユダヤ問題および反ユダヤ主義、ナショナリズム、記憶、ジェンダー等の観点から分析する。必要に応じて草稿資料も参照しながら、作品の生成過程と構成、文体等に注目しながらプルーストのテキストを多角的に読解することで、文学作品と社会・歴史との関係を考察する。					
【到達目標】					
文学作品を、複数の歴史的文脈にしたがって読み解くことにより、文学研究に必要な批判的読解能力を身につける。					
【授業計画と内容】					
第1回 イン트로ダクション (ドレフュス事件の歴史、プルーストの人生と作品について解説) 第2回～第15回 Marcel Proust, A la recherche du temps perdu (Paris, Gallimard, 1913-1922)のうちドレフュス事件が描かれた場面を講読形式でフランス語原典により精読し、適宜プルーストの他の作品や書簡、草稿資料、同時代の他の作品や新聞雑誌等の文献と照合しながら解説を加える。					
【履修要件】					
フランス語文献を読む能力が必要とされる。					
【成績評価の方法・観点】					
レポート(一回、100点満点、60点以上で合格) 到達目標の達成度に基づき評価するが、独自の見解が見られるものについては、高い点を与える。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業中に別途指示する。					
(その他(オフィスアワー等))					
KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	同志社大学グローバル地域文化学部 伊藤 玄吾 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フランス16世紀詩研究				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義はフランス16世紀の詩を専門的に扱うものであるが、同時に広くフランス語詩に関心をもつ人、そしてまたフランス語による宗教文学に関心を持つ人にも開かれている。</p> <p>16世紀はフランス詩の大きな変革の時代であり、sonnet (ソネ) やode (オード) といった、イタリアや古代ギリシア・ローマの詩から導入された形式や題材を用いて多くの作品が作られた。その一方で、この時代が聖書を中心とした宗教テキストの原典からの翻訳が最も盛んに行われた時代であり、とりわけ旧約聖書の詩篇Psaumesのテキストの翻訳・翻案の黄金時代であったことも忘れてはならない。宗教改革が進展する中で、改革派側そしてカトリック側の優れた詩人たちが詩篇の翻訳や翻案に取り組んだ。その多くは、当時の古典語学や聖書文献学の研究の最新の知見を取り入れながら、また当時の神学的潮流に配慮しながら、フランス語詩が作り上げてきた叙情性・音楽性と旧約聖書世界の聖性を可能な限り融合させようとする試みであった。こうした詩篇翻訳がフランス近代初期叙情詩の形成において果たした役割は実は極めて大きいものであったが、もっぱら世俗詩のみに焦点を当ててきた旧来のフランス詩研究において、その重要性や深みは見落とされることが多かった。</p> <p>16世紀の前期から中期にかけて詩人クレマン・マロとテオドール・ド・ベーズによってなされた詩篇訳は、カルヴァン派を代表する詩篇集としてしばしば楽譜を付して出版され広く歌われたし、中期以降はジャン＝アントワーヌ・ド・バイフ、フィリップ・デポルト、ブレイズ・ド・ヴィジュネールといった詩人たちによって多彩な韻律形式が試みられて独自の翻訳・翻案が進められただけでなく、作曲家たちとの共同制作も盛んに行われた。本講義では、この16世紀フランス詩篇翻訳・翻案の豊かな世界を、具体的なテキストを精読しながら、詩篇をめぐる文献学的・神学的論争、さらには詩論・音楽論に関する当時の資料を適宜参照しつつ論じていきたい。</p>					
[到達目標]					
<p>16世紀フランス詩についての知見を深め、その文学史的意義を理解するとともに、それを後の時代のフランス詩、また同時代の他のヨーロッパ諸語の詩と比較して考察することができるようになる。フランス詩法の基礎的な知識、現代フランス語とは異なる16世紀のフランス語の語彙と文法に関する基礎知識、さらにテキストをより正確に読み解く上で有用な各種参考文献の活用の仕方を学び、個々の詩作品をより正確にそしてより深く読み込む力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回 16世紀フランス詩概観					
第2回 16世紀フランスにおける旧約聖書詩篇の翻訳：古典学と聖書文献学					
第3回 詩篇注釈の世界 (古代、中世、宗教改革)					
第4回 クレマン・マロの詩篇訳 (1)					
第5回 クレマン・マロの詩篇訳 (2)					
第6回 クレマン・マロの詩篇訳 (3)					
フランス語学フランス文学 (特殊講義) (2)へ続く					

フランス語学フランス文学 (特殊講義) (2)

- 第7回 改革派の詩篇と音楽
第8回 ジャン＝アントワーヌ・ド・バイフの詩篇訳(1)
第9回 ジャン＝アントワーヌ・ド・バイフの詩篇訳(2)
第10回 ジャン＝アントワーヌ・ド・バイフの詩篇訳(3)
第11回 フィリップ・デポルトの詩篇訳
第12回 ブレーズ・ド・ヴィジュネールの詩篇訳
第13回 ニコラ・ラパンの詩篇訳
第14回 アグリッパ・ドービニエの詩篇訳
第15回 フランス近代初期叙情詩形成期における詩篇翻訳の意義について

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点(40%)と学期末のレポート(60%)で、成績を評価する。
授業で学ぶテキスト読解上の基本事項を踏まえているか、またその上で自分なりの解釈を説得的に示しているかを評価する。

【教科書】

教材プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

学習対象のテキストについて予習し、あらかじめ各自が解釈についての見解を準備すること

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学91

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 菅原 百合絵		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ハーレムと専制 (1) モンテスキュー 『ペルシア人の手紙』を読む				
【授業の概要・目的】					
<p>ヨーロッパ世界において、オリエントは未知の異邦としてさまざまなイメージを付与されてきた。フランス文学においては、とくに旅行記等によってペルシャ・トルコなどの情報が伝わるようになってきた17世紀頃から「オリエント」は特権的なトposとなってゆき、ロマン主義を経て、ユゴアの『東方詩集』やネルヴァル・フローベールなどの『東方紀行』へと結実するような一大潮流をなすにいたる。本講義ではこうした「オリエントもの」のひとつであるモンテスキューの『ペルシア人の手紙』を精読する。</p> <p>『ペルシア人の手紙』は書簡体小説であり、それ自体としてひとつの構造と流れをもつが、このなかには彼がのちに『法の精神』で展開することになる(オリエント的)専制の問題系がすでに示されている。『法の精神』における専制の問題と『ペルシア人の手紙』におけるハーレムの構造の類似性に着目しながらテキストを読んでいきたい。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 18世紀のフランス語、および当時の社会的・政治的背景に馴染む。 ・ モンテスキューの「専制」概念と、それが当時のコンテクストにおいてもつ意味を学ぶ。 ・ 書簡体小説について理解を深める。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 イントロダクション(1) : 授業の概要、『ペルシア人の手紙』および『法の精神』の説明、今後の進め方</p> <p>第2回 イントロダクション(2) : モンテスキューについて</p> <p>第3-4回 『法の精神』読解</p> <p>第5-14回 『ペルシア人の手紙』読解</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
【履修要件】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ フランス語文法をひと通り習得していること。 ・ 中級程度のフランス語読解力があることが望ましい。 					
【成績評価の方法・観点】					
講義での発表(40%)および期末レポート(60%)によって評価する。					
----- フランス語学フランス文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学 (特殊講義)(2)

[教科書]

資料類を配布する。定本は定めるが、それ以外のエディションを使用することを妨げない。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

* 第3回以降の精読パートからは、事前に訳読担当者を決めておき、講義の前に1 - 2頁の訳稿を提出してもらうという方式になります。講義では受講者の皆さんと全員でその訳稿を検討しながら、随時解説などを加えていきます。

(その他(オフィスアワー等))

不明な点や要望などがあれば、メール等でご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学92

科目ナンバリング	G-LET21 63631 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 菅原 百合絵		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ハーレムと専制 (2) アラン・グロリシャル 『後宮の構造』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>前期のモンテスキュー読解を踏まえて、後期はハーレムと専制の問題について論じたアラン・グロリシャルの『後宮の構造(Structure du serail. La fiction du despotisme asiatique dans l'occident classique)』を読んでいく。</p> <p>この本でグロリシャルは、『ペルシア人の手紙』や『法の精神』に描かれた専制や後宮に触れつつ、モンテスキューが参照したシャルダンのペルシャ旅行記や、ときにはアリストテレスやピエール・ベイルといった哲学者たちの文章、あるいはラシーヌなどの古典主義作家にも言及して、ヨーロッパの人々がオリエントの後宮や専制の表象に何を見ようとしていたのかを丁寧に検討している。テキストを精読しつつ、文学・哲学の両面からこの二つのモチーフの絡み合いについてあらためて考えていきたい。</p> <p>なお、本講義は前期の講義で読んだ『ペルシア人の手紙』や『法の精神』を前提とするが、後期だけの履修を妨げるものではない。ただし、後期から参加する場合は、『ペルシア人の手紙』を事前に読んでおくことが望ましい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀のフランス語、および当時の社会的・政治的背景に馴染む。 ・理論的なテキストと文学作品とを接合することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクシヨン(1) : 授業の概要、『後宮の構造』の説明、今後の進め方 第2-14回 『後宮の構造』読解 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語文法をひと通り習得していること。 ・中級程度のフランス語読解力があることが望ましい。 					
[成績評価の方法・観点]					
講義での発表(40%)および期末レポート(60%)によって評価する。					
[教科書]					
<p>資料類を配布する。なお、本講義の定本は Alain Grosrichard, Structure du serail. La fiction du despotisme asiatique dans l'Occident classique, Edition du Seuil, Paris, 1979. とする。</p>					
----- フランス語学フランス文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

* 第3回以降の精読パートからは、事前に訳読担当者を決めておき、講義の前に1 - 2頁の訳稿を提出してもらおうという方式になります。講義では受講者の皆さんと全員でその訳稿を検討しながら、随時解説などを加えていきます。

(その他 (オフィスアワー等))

不明な点や要望などがあれば、メール等でご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学93

科目ナンバリング	G-LET21 63631 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 鷓戸 聡		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	マグレブ文学入門				
【授業の概要・目的】					
この講義はアルジェリアを中心にマグレブのフランス語文学について、基礎的な知識を提示することにある。特にKateb Yacineを中心に、1950年代にどのように独自の文学が興隆したか、後続の作家たちがどのようにそれを引き継いだかに注目し、具体的なテキスト分析を行う。					
【到達目標】					
アルジェリア・モロッコ・チュニジアの近現代史と文学について基礎的な知識を習得し、文学テキストの特徴を理解する。					
【授業計画と内容】					
一日3コマ、五日間の集中講義とする。					
1日目(1~3回): マグレブ諸国の歴史と近代文学の成立。Feraoun, Chraïbi, Memmi.					
2日目(4~6回): 1950年世代とKateb Yacine。『ネジュマ』を読む。					
3日目(7~9回): Mohammed Dib, Assia Djebar, Rachid Boudjedra, Tahar Ben Jelloun.					
4日目(10~12回): アルジェリア戦争から「暗黒の10年」へ。					
5日目(13~15回): 体制批判の文学 Boualem Sansal, Kamel Daoud.					
* 具体的なイメージを掴むため、いくつか映画も観る予定です。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点およびレポートを半々で評価します。					
【教科書】					
作品の抜粋を適宜配布します。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
(関連URL)					
https://researchmap.jp/udosatoshi (講師の研究業績です。)					
【授業外学修(予習・復習)等】					
フランス語のテキストの予習をしていくこと。一部英語の資料も配布する。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学94

科目ナンバリング	G-LET21 73645 SJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Expression, culture and society in French				
[授業の概要・目的]					
<p>(1) This course aims to introduce students to French contemporary society and culture while increasing their conversation ability. It will address cultural, social and political issues. Various documents will be used, such as articles, movies, documentaries, etc. Particular emphasis will be placed on interactional skills and class time will be spent engaging in debates and other speaking exercises.</p> <p>(2) This course is partially built on project-based pedagogy.</p>					
[到達目標]					
<p>This course is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> - develop a deeper understanding of French contemporary society and culture - explore intercultural issues - engage in critical thinking and debate with others - improve their argumentative skills - gain confidence and experience in public speaking 					
[授業計画と内容]					
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the course, we will debate on various themes (i.e. social and political issues in French culture and society, French cinema, French contemporary literature), through a series of talks with French-speakers living in Kansai area (weeks 2-14). This class requires active oral participation. Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)</p>					
[履修要件]					
<p>The course is open to all students as soon as they can speak and understand enough French to read the documents and participate in a discussion.</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>Students are expected to fully and actively participate by expressing their own thoughts, but also listening carefully to others and asking questions. The final grade mostly depends on this active participation during class and personal investment in class-projects. A brief, written and personal report of the semester will be requested as a final assignment.</p>					
[教科書]					
<p>使用しない The instructor will provide all the reading material.</p>					
----- フランス語学フランス文学 (演習) (2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学 (演習) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Occasionally, some homework may be required, such as preparing a reading or watching a movie.

(その他 (オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学95

科目ナンバリング	G-LET21 73645 SJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Expression, culture and society in French				
[授業の概要・目的]					
<p>(1) This course aims to introduce students to French contemporary society and culture while increasing their conversation ability. It will address cultural, social and political issues. Various documents will be used, such as articles, movies, documentaries, etc. Particular emphasis will be placed on interactional skills and class time will be spent engaging in debates and other speaking exercises.</p> <p>(2) This course is partially built on project-based pedagogy.</p>					
[到達目標]					
<p>This course is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> - develop a deeper understanding of French contemporary society and culture - explore intercultural issues - engage in critical thinking and debate with others - improve their argumentative skills - gain confidence and experience in public speaking 					
[授業計画と内容]					
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the course, we will debate on various themes (i.e. social and political issues in French culture and society, French cinema, French contemporary literature), through a series of talks with French-speakers living in Kansai area (weeks 2-14). This class requires active oral participation. Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)</p>					
[履修要件]					
<p>The course is open to all students as soon as they can speak and understand enough French to read the documents and participate in a discussion.</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>Students are expected to fully and actively participate by expressing their own thoughts, but also listening carefully to others and asking questions. The final grade mostly depends on this active participation during class and personal investment in class-projects. A brief, written and personal report of the semester will be requested as a final assignment.</p>					
[教科書]					
<p>使用しない The instructor will provide all the reading material.</p>					
----- フランス語学フランス文学 (演習)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学 (演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Occasionally, some homework may be required, such as preparing a reading or watching a movie.

(その他 (オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学96

科目ナンバリング	G-LET22 63731 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学 (特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Torquato Tassoの “ Dialoghi ”				
【授業の概要・目的】					
<p>16世紀のイタリアを代表する詩人トルクアート・タッソは、愛や美や徳や友情、あるいはアルテやインプレーザといったさまざまなトピックを対話形式で論じています。この授業では、前年度にひきつづいて “ Il messaggiero ” を精読しながら、16世紀のイタリアにおけるオーソドックスな世界観・宗教観とタッソの散文の論理性を検証します。</p> <p>この作品を読了した後は、同じくタッソの対話篇から比較的短い “ Dialogo ” を読む予定です。</p>					
【到達目標】					
<p>ルネサンス期のイタリア語散文を正確に読解する力を身につける。 16世紀のイタリア文化について理解を深める。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回：イントロダクション（詩人と作品の紹介、内容の確認など）</p> <p>第2回～14回：“ Il messaggiero ” の読解と考察</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
【履修要件】					
イタリア語文法を学んでいること。					
【成績評価の方法・観点】					
毎回提示する簡単な和訳の課題をもとに評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
<p>（参考書） 授業中に紹介します。</p>					
【授業外学修（予習・復習）等】					
<p>原典の精読に基づく授業なので、自分なりにテキストの内容を把握できるまで予習をしましょう。</p> <p>（その他（オフィスアワー等））</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>					

西洋文献文化学97

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36			
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学 (特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Ida Duretto		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	イタリア語
題目	Letteratura italiana. Nel castello di Atlante: percorsi attraverso l'"Orlando furioso"				
[授業の概要・目的]					
Nel corso di Letteratura italiana di quest'anno proseguiremo l'analisi del poema epico di Ludovico Ariosto: l'"Orlando furioso". Dopo una introduzione e una contestualizzazione storica e biografica, il seminario prenderà in esame alcuni passi significativi, che verranno letti e commentati in classe. Una parte del corso sarà dedicata alla fortuna, letteraria e iconografica, del "Furioso" attraverso i secoli.					
[到達目標]					
Gli studenti leggeranno e commenteranno alcuni dei passi più memorabili dell'"Orlando furioso". Acquisiranno un' autonoma capacità di analisi del testo poetico italiano, con particolare attenzione agli aspetti metrico-stilistici. Rifletteranno sulla fortuna del poema in un' ottica transnazionale e interdisciplinare.					
[授業計画と内容]					
Letteratura italiana (I semestre). Nel castello di Atlante: percorsi attraverso l'"Orlando furioso". 1-2: Introduzione e contestualizzazione. 3-10: L'"Orlando furioso". Analisi e commento di testi rappresentativi. 11-15: Sulla fortuna, letteraria e artistica, del poema ariostesco. Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.					
[履修要件]					
E' richiesto un buon livello di italiano.					
[成績評価の方法・観点]					
La valutazione sarà basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalità seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.					
[教科書]					
La bibliografia indicata in "References" costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.					
----- イタリア語学イタリア文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

L. Ariosto, Orlando furioso, a cura di C. Segre, Milano, Mondadori, 2022.

Galassia Ariosto. Il modello editoriale dell'Orlando furioso dal libro illustrato al web, a cura di L. Bolzoni, Roma, Donzelli, 2017.

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Dopo ogni lezione potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

(その他 (オフィスアワー等))

L ' orario di ricevimento verra' comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET22 63731 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学 (特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Ida Duretto		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	イタリア語
題目	Letteratura italiana (II semestre). Giacomo Leopardi e il "pensiero poetante"				
[授業の概要・目的]					
<p>Il corso di storia della letteratura italiana del secondo semestre sara' dedicato a Giacomo Leopardi. Dopo una breve introduzione al contesto storico-culturale ottocentesco, il seminario prendera' in esame la biografia e l' opera dell' autore. Leggeremo e commenteremo alcuni dei piu' importanti Canti, con una particolare attenzione alle fonti, antiche e moderne, della poesia leopardiana. Esamineremo inoltre passi particolarmente significativi delle Operette morali e dello Zibaldone. Sara' cosi' possibile indagare il rapporto tra poesia e filosofia, studiando uno dei grandi classici della letteratura italiana e quello che, con una felice definizione critica, e' stato descritto come un "pensiero poetante".</p>					
[到達目標]					
<p>Gli studenti analizzeranno la biografia e le opere di uno dei maggiori poeti italiani, Giacomo Leopardi, e sapranno contestualizzarle nell' ambito della letteratura dell' Ottocento. Leggeranno e studieranno i Canti, mettendo a confronto i diversi commenti editi. Conosceranno gli elementi centrali del pensiero leopardiano e della sua speculazione filosofica. Dimostreranno queste competenze con una loro presentazione orale durante il corso. Maggiori dettagli su questa presentazione verranno forniti a lezione.</p>					
[授業計画と内容]					
Letteratura italiana (II semestre). Giacomo Leopardi e il "pensiero poetante".					
1: Introduzione e contesto storico-culturale.					
2-15: Giacomo Leopardi: i Canti, le Operette morali e lo Zibaldone. Analisi dei testi e presentazioni orali preparate dagli studenti.					
Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.					
[履修要件]					
E' richiesto un buon livello di italiano.					
[成績評価の方法・観点]					
La valutazione sara' basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalita' seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.					
[教科書]					
La bibliografia indicata in "References" costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.					
----- イタリア語学イタリア文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

G. Leopardi, Poesie e Prose, a cura di R. Damiani e M. A. Rigoni, Milano, Mondadori, 2003.

G. Leopardi, Zibaldone di pensieri, a cura di R. Damiani, Milano, Mondadori, 2014.

Lessico leopardiano, a cura di N. Bellucci, F. D ' Intino, S. Gensini, Roma, Sapienza Universit#224 Editrice, 2014-2020 (consultabile online).

L. Blasucci, Leopardi e i segnali dell ' infinito, Bologna, Il Mulino, 2001.

A. Prete, Il pensiero poetante: saggio su Leopardi, Milano, Feltrinelli, 2006.

[授業外学修 (予習 ・ 復習) 等]

Dopo ogni lezione potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

(その他 (オフィスアワー 等))

L ' orario di ricevimento verra' comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET22 63731 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学 (特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Ida Duretto		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	イタリア語
題目	Letteratura italiana contemporanea. La poesia italiana del Novecento				
[授業の概要・目的]					
<p>Il corso prendera' in esame le opere di alcuni dei piu' importanti poeti italiani del Novecento. Dopo una contestualizzazione storica e un' introduzione sui caratteri distintivi e i modelli della poesia del XX secolo, si procedera' a una lettura dei testi tratti dalla antologia mondadoriana di riferimento: Poeti italiani del Novecento. Di ciascun autore verra' fornito un essenziale profilo biografico, preliminare all' analisi dell' opera. Verranno dunque commentati alcuni dei componimenti piu' significativi, con un' attenzione rivolta tanto al riconoscimento dei riferimenti culturali e delle fonti, quanto agli usi lessicali, alle figure retoriche e metriche. Ascoltando alcune delle voci piu' intense della letteratura italiana contemporanea, sara' possibile comprendere a fondo una stagione cruciale come quella novecentesca e acquisire gli strumenti per una autonoma lettura e analisi tematico-stilistica dei testi poetici. Seguira', nel secondo semestre, un approfondimento su Pasolini.</p>					
[到達目標]					
<p>Gli studenti impareranno a conoscere la letteratura italiana contemporanea e il suo contesto storico-culturale. Leggeranno e commenteranno le opere di alcuni degli autori fondamentali di questa stagione letteraria. Acquisiranno una buona capacita' di analisi del testo poetico, padroneggiando le piu' importanti figure metriche e retoriche.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Letteratura italiana contemporanea. La poesia italiana del Novecento.</p> <p>1-2: La poesia italiana del Novecento: introduzione.</p> <p>3-15: Lettura e commento di testi poetici rappresentativi.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>					
[履修要件]					
<p>E' richiesto un buon livello di italiano.</p>					
----- イタリア語学イタリア文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

La valutazione sarà basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalità seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.

[教科書]

La bibliografia indicata in “References” costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

[参考書等]

(参考書)

Poeti italiani del Novecento, a cura di P.V. Mengaldo, Milano, Mondadori, 2021.

Dopo la lirica, Poeti italiani 1960-2000, a cura di E. Testa, Torino, Einaudi, 2013.

P.G. Beltrami, Gli strumenti della poesia. Guida alla metrica italiana, Bologna, Il Mulino, 2012.

G. Mazzoni, Sulla poesia moderna, Bologna, Il Mulino, 2021.

[授業外学修（予習・復習）等]

Dopo ogni lezione potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

(その他（オフィスアワー等）)

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学100

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36			
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学 (特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Ida Duretto		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	イタリア語
題目	Letteratura italiana contemporanea (II semestre). Letteratura e potere nell' opera di Pier Paolo Pasolini				
【授業の概要・目的】					
<p>Inaugurato da un primo semestre sulla poesia italiana del Novecento, il corso di letteratura italiana contemporanea si conclude con un modulo monografico dedicato a uno dei piu' importanti autori italiani dell' epoca: Pier Paolo Pasolini. Dopo una contestualizzazione storica e un' introduzione sulla biografia di Pasolini, si procedera' alla lettura e all'analisi di alcuni dei suoi piu' significativi testi poetici, narrativi e saggistici. Due lezioni saranno dedicate alla proiezione e al commento di un film di Pasolini.</p>					
【到達目標】					
<p>Gli studenti analizzeranno la biografia e le opere di uno dei maggiori scrittori italiani, Pier Paolo Pasolini, e sapranno contestualizzarle nell' ambito della letteratura del Novecento. Leggeranno e studieranno una selezione di suoi testi poetici, narrativi e saggistici. Conosceranno gli elementi centrali del pensiero e dell' opera di Pasolini, con particolare attenzione al tema del rapporto tra letteratura e potere. Assisteranno alla proiezione di un film di Pasolini e lo commenteranno in classe.</p>					
【授業計画と内容】					
<p>Letteratura italiana contemporanea (II semestre). Letteratura e potere nell' opera di Pier Paolo Pasolini. 1-2: Introduzione e contesto storico-culturale. 3-13: Letteratura e potere nell' opera di Pier Paolo Pasolini. Lettura e commento dei testi. 14-15: Proiezione e commento di un film di Pasolini.</p>					
【履修要件】					
E' richiesto un buon livello di italiano.					
【成績評価の方法・観点】					
La valutazione sara' basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalita' seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.					
----- イタリア語学イタリア文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学 (特殊講義)(2)

【教科書】

授業中に指示する

La bibliografia indicata in “ References ” costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

【参考書等】

(参考書)

- P.P. Pasolini, Opere. Romanzi e racconti, a cura di W. Siti e S. De Laude, Mondadori, 2010.
P.P. Pasolini, Opere. Saggi sulla Letteratura e sull'arte, a cura di W. Siti e S. De Laude, Mondadori, 2008.
P.P. Pasolini, Opere. Saggi sulla Politica e sulla societa', a cura di W. Siti e S. De Laude, Mondadori, 2012.
P.P. Pasolini, Opere. Per il cinema, a cura di W. Siti e F. Zabagli, Mondadori, 2001.
P.P. Pasolini, Opere. Teatro, a cura di W. Siti e S. De Laude, Mondadori, 2001.
P.P. Pasolini, Opere. Tutte le poesie, a cura di W. Siti, Mondadori, 2015.

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Dopo le lezioni potranno essere assegnate delle letture da svolgere a casa.

(その他 (オフィスアワー等))

L ' orario di ricevimento verra' comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学101

科目ナンバリング	G-LET22 73741 SJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学 (演習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ペトラルカの抒情詩				
【授業の概要・目的】					
イタリアの抒情詩の源泉であるフランチェスコ・ペトラルカの詩集を精読します。個々の作品の内容だけではなく形式的な特色にも注意を向けながら、トスカーナ語抒情詩の伝統について理解を深めることが授業の目的となります。					
【到達目標】					
詩文を正確に読解する力を身につける。 韻文の形式美について理解を深める。					
【授業計画と内容】					
以下の予定で授業を進めます。					
初回：イントロダクション					
第2回～第14回：『カンツォニエーレ』の読解と考察 脚韻や詩行内のアクセントの位置といった形式的特徴を音読によって確認したうえで、作品の内容を検討していきます。					
第15回：フィードバック					
【履修要件】					
イタリア語文法を修得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
毎回提示する簡単な和訳の課題をもとに評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介します。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
原文を音読してイタリア語の韻文のリズムに親しみましょう。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学102

科目ナンバリング	G-LET22 73741 SJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学 (演習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ペトラルカの抒情詩				
【授業の概要・目的】					
前期につづいて、フランチェスコ・ペトラルカの抒情詩を精読します。個々の作品の内容だけではなく形式的な特色にも注意を向けながら、トスカーナ語抒情詩の伝統について理解を深めることが授業の目的となります。					
【到達目標】					
詩文を正確に読解する力を身につける。 韻文の形式美について理解を深める。					
【授業計画と内容】					
以下の予定で授業を進めます。					
初回：イントロダクション					
第2回～第14回：『カンツォニエーレ』の読解と考察。 脚韻や詩行内のアクセントの位置といった形式的特徴を音読によって確認しながら、作品の内容を検討していきます。必要に応じてヴァチカン収蔵写本の表記を確かめながらテキストの異同について検証します。					
第15回：フィードバック					
【履修要件】					
イタリア語文法を修得していること。					
【成績評価の方法・観点】					
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介します。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
原文を音読してイタリア語の韻文のリズムに親しみましょう。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学103

科目ナンバリング	G-LET22 73741 SJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学 (演習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学 外国語学部 准教授 内田 健一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19-20世紀のイタリア詩				
【授業の概要・目的】					
20世紀のイタリア詩の方向性を決めた2人の詩人、パスコリとダンヌンツィオの作品を中心に読みます。彼らが参照した19世紀の詩人 (例えばレオパルディやカルドゥッチなど) の影響を確認しながら、19-20世紀のイタリア詩の大きな流れを把握します。					
【到達目標】					
19-20世紀のイタリア詩を正確に読み、文学史の中に位置づけながら学術的に評価できるようになること。					
【授業計画と内容】					
第1回：イントロダクション					
第2-14回：前期は叙情詩的な、パスコリ『カステルヴェッキオの歌』(1903年)、ダンヌンツィオ『アルキュオネー』(1903年)を中心に、19-20世紀のイタリア詩を読みます。					
第15回：フィードバック					
【履修要件】					
イタリア語の文法を一通り理解していること。					
【成績評価の方法・観点】					
授業への参加度75%、期末レポート25%					
【教科書】					
プリントを配布します。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介します。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
自分なりの解釈や分析を準備して、授業に臨んでください。					
(その他(オフィスアワー等))					
質問は授業の前後に受け付けます。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学104

科目ナンバリング	G-LET22 73741 SJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学 (演習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学 外国語学部 准教授 内田 健一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19-20世紀のイタリア詩				
【授業の概要・目的】					
20世紀のイタリア詩の方向性を決めた2人の詩人、パスコリとダンヌンツィオの作品を中心に読みます。彼らが参照した19世紀の詩人 (例えばレオパルディやカルドゥッチなど) の影響を確認しながら、19-20世紀のイタリア詩の大きな流れを把握します。					
【到達目標】					
19-20世紀のイタリア詩を正確に読み、文学史の中に位置づけながら学術的に評価できるようになること。					
【授業計画と内容】					
第1回：イントロダクション					
第2-14回：後期は叙事詩的な、パスコリ『饗宴詩篇集』(1904年)、ダンヌンツィオ『マイア』(1903年)を中心に、19-20世紀のイタリア詩を読みます。					
第15回：フィードバック					
【履修要件】					
イタリア語の文法を一通り理解していること。					
【成績評価の方法・観点】					
授業への参加度75%、期末レポート25%					
【教科書】					
プリントを配布します。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介します。					
【授業外学修(予習・復習)等】					
自分なりの解釈や分析を準備して、授業に臨んでください。					
(その他(オフィスアワー等))					
質問は授業の前後に受け付けます。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学105

科目ナンバリング		G-LET22 73741 SJ36			
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学 (演習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 文学研究科	准教授 村瀬 有司 特定准教授 Ida Duretto	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	木2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語およびイタリア語
題目	論文演習				
[授業の概要・目的]					
研究論文作成をサポートする授業です。問題の設定、論証の進め方、論述の方法、また参考文献リストや註の表記、引用の仕方まで、実際の作業に即して学术论文の書き方を学びます。					
[到達目標]					
修士論文提出年度に当たる参加者にとっては、これを完成させることが授業の目標となります。修士1回生は、この授業を通じて修士論文のテーマを絞り込むことが課題となります。また博士後期課程の参加者は、研究テーマの考察を深めて一年に一本のペースで論文にまとめること、博士論文の構想を固めること、これを完成に導くことが目標となります。					
[授業計画と内容]					
初回 ガイダンス：研究発表の手順について説明を行い、おおよそのスケジュールを確認します。					
2-3回 前年度の修士論文・卒業論文提出者の報告。					
4-14回 大学院生及び卒業論文提出予定者の研究報告。 論文の計画段階から各自の研究テーマについて順次発表をします。他の参加者には、積極的に意見を述べることで発表者の論文作成を支援することが求められます。発表の合間に、註・参考文献・引用方法など学术论文の形式・体裁についても再確認します。また必要に応じて学術雑誌に掲載された論文を講読しながら、論文執筆の技術と注意事項を紹介する予定です。学会発表などを予定している参加者は、その予行演習として授業の場を活用することもできます。					
15回 フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点：発表の内容、授業内での発言などに基づく。					
----- イタリア語学イタリア文学 (演習)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学 (演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

発表者は、レジュメ・資料などを研究室メンバー宛てに事前にメール送信しておきましょう。

(その他(オフィスアワー等))

原則的には隔週開講の授業ですが、希望があればこれに限定されることなく発表の場を設定します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学106

科目ナンバリング	G-LET22 73764 PO36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学 (外国語実習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Ida Duretto		
配当学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	イタリア語
題目	Laboratorio di scrittura creativa: Nel castello dei destini incrociati				
[授業の概要・目的]					
<p>Il corso prendera' in esame "Il castello dei destini incrociati" di Italo Calvino. L' affascinante meccanismo narrativo ideato dall' autore si rivelerà particolarmente indicato per le nostre esercitazioni di lingua italiana. Seguendo la logica combinatoria dei tarocchi, quasi giocando a carte, lo studente imparerà a leggere e a comporre, in italiano, differenti tipologie di testo.</p>					
[到達目標]					
<p>Gli studenti leggeranno e commenteranno un classico della letteratura italiana: "Il castello dei destini incrociati". Acquisiranno una maggiore dimestichezza con l' italiano scritto: impareranno a orientarsi attraverso tipologie testuali e generi letterari diversi. A questa lettura verranno associati specifici esercizi di scrittura, per consentire di mettere in pratica le competenze acquisite e perfezionare così la conoscenza del lessico, della morfologia e della sintassi dell' italiano.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Seminario di Lingua e letteratura italiana. Laboratorio di scrittura creativa: Nel castello dei destini incrociati</p> <p>1. Introduzione</p> <p>2-15. Esercitazioni di scrittura creativa</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>					
[履修要件]					
Corso destinato a studenti di italiano elementare o intermedio.					
[成績評価の方法・観点]					
La valutazione sarà basata sulla partecipazione alle lezioni. Il seminario presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.					
[教科書]					
Handouts					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- イタリア語学イタリア文学 (外国語実習)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学(外国語実習)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo le lezioni potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verra' comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学107

科目ナンバリング		G-LET22 73764 PO36			
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学 (外国語実習) Italian Language and Literature	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Ida Duretto		
配当学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	イタリア語
題目	Laboratorio di scrittura creativa: Nel castello dei destini incrociati II				
[授業の概要・目的]					
Dopo il primo semestre, il corso prosegue affrontando la seconda parte de "Il castello dei destini incrociati". L' affascinante meccanismo narrativo ideato dall' autore si rivelerà particolarmente indicato per le nostre esercitazioni di lingua italiana. Seguendo la logica combinatoria dei tarocchi, quasi giocando a carte, lo studente imparerà a leggere e a comporre, in italiano, differenti tipologie di testo.					
[到達目標]					
Gli studenti leggeranno e commenteranno un classico della letteratura italiana: "Il castello dei destini incrociati". Acquisiranno una maggiore dimestichezza con l' italiano scritto: impareranno a orientarsi attraverso tipologie testuali e generi letterari diversi. A questa lettura verranno associati specifici esercizi di scrittura, per consentire di mettere in pratica le competenze acquisite e perfezionare così la conoscenza del lessico, della morfologia e della sintassi dell' italiano.					
[授業計画と内容]					
Seminario di Lingua e letteratura italiana. Laboratorio di scrittura creativa: Nel castello dei destini incrociati II					
1. Introduzione					
2-15. Esercitazioni di scrittura creativa					
Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.					
[履修要件]					
Corso destinato a studenti di italiano elementare o intermedio.					
[成績評価の方法・観点]					
La valutazione sarà basata sulla partecipazione alle lezioni. Il seminario presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.					
[教科書]					
Handouts					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- イタリア語学イタリア文学 (外国語実習)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学(外国語実習)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo le lezioni potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verra' comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学108

科目ナンバリング		U-LET15 13100 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (西洋古典学) (講義) Greek and Latin Classics (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金4	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ギリシア・ローマ神話：神話が息づく文化				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義は、ヨーロッパの基礎である古代ギリシア・ローマの文化における神話を学ぶことを目的としています。神話はたんなる過去の御伽噺ではなく、時代や地域を超えて、現代の我々にまで影響を及ぼすものです。とりわけヨーロッパ文化のなかでは深く根付き、様々な形で用いられてきました。文学、美術、彫刻、哲学、天文学など、多様な媒体のなかで神話は表現され、比喩として用いられ、教養として継承されています。</p> <p>毎回の授業では、ギリシア・ローマ神話の主要な題材を扱いながら、神話の見方を学びます。それぞれの題材が意味するポイントを解説し、それと関連する美術や社会などについて確認します。この授業では神話を通して、古代の文化を知るとともに、神話とは何か、ということを考えていきます。</p>					
[到達目標]					
<p>この講義は、古代ギリシア・ローマの神話を多様な観点から知るとともに、古代の社会・文化を理解することを目標としている。具体的な全体の到達目標は以下の通り。</p> <p>(1) 神話を描く文学作品や美術作品を正確に読解することができる。</p> <p>(2) 社会的・文化的な意味を分析することができる。</p> <p>(3) 古代の知識をもとに、現代について考えることができる。</p> <p>(4) 古代ギリシア・ローマの文化を理解できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>おおむね以下のスケジュールにしたがって授業を進める。ただし授業内で提示された疑問や議論の方向性などによっては、順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 イントロダクション：神話とは何か</p> <p>第2回 神話について考えるために</p> <p>第3回 世界の始まり：創造神話(1)</p> <p>第4回 世界の始まり：創造神話(2)</p> <p>第5回 神々の系譜(1)</p> <p>第6回 神々の系譜(2)</p> <p>第7回 神話と信仰</p> <p>第8回 プロメテウス神話(1)</p> <p>第9回 プロメテウス神話(2)</p> <p>第10回 オリュンポスの神々(1)</p> <p>第11回 オリュンポスの神々(2)</p> <p>第12回 オリュンポスの神々(3)</p> <p>第13回 変身の神話・ローマの信仰</p> <p>第14回 全体のまとめ</p>					
系共通科目 (西洋古典学) (講義)(2)へ続く					

系共通科目 (西洋古典学) (講義)(2)

第15回 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

- ・授業内で毎回課すコメントペーパーで授業の理解度を確認するとともに、自らの考えを表現する(40%)
- ・学期終盤にレポートを課す(60%)

【教科書】

パワーポイント使用。プリント配布。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回の授業前に指定された参考文献や文学作品を読み、基礎知識を得ておく必要がある。また、授業後にコメントペーパーを課し、授業で扱った事柄についての考えをまとめる。また知識の体系化をはかるために、全体の復習を必要とする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET15 13102 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (西洋古典学) (講義) Greek and Latin Classics (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水5	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ギリシア・ローマの教訓詩を読む				
【授業の概要・目的】					
西洋古典文学 (ギリシア・ラテン文学) における「教訓詩」と呼ばれる作品群に焦点を当てた講義です。西洋古代の文学には、農耕や哲学、占星術・天文学といった専門的な知識を韻文で綴る「教訓詩」(didactic poetry) と呼ばれる作品群が存在します。学問と詩という一見したところ相反するよう見える二つのものを調和させようとした彼らの創作の背景にはどのような伝統が存在するのか、といった問題を、それぞれの作品の翻訳を読みながら考えていきます。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・「教訓詩」と呼ばれる一群の詩作品の概要を知り記述できるようになる ・個々の作品の背景にある知的伝統についての理解を深める 					
【授業計画と内容】					
講義はおおむね以下のプログラムにしたがって進めますが、テーマや回数配分を状況に応じて変える場合があります。					
第1回 イントロダクション：「教訓詩」とは何か					
第2回 ヘーシオドス『仕事と日』					
第3回 ヘレニズム期の教訓詩人たち：アラートスとニーカンドロス					
第4回 ルクレティウス『事物の本性について』：作品の背景					
第5回 ルクレティウス『事物の本性について』：苦い薬と甘い蜜 哲学と詩					
第6回 ルクレティウス『事物の本性について』：文字とアトム、詩と世界					
第7回 ウェルギリウス『農耕詩』：作品の背景					
第8回 ウェルギリウス『農耕詩』：ローマ世界と農業					
第9回 ウェルギリウス『農耕詩』：内戦と小さな市民たち					
第10回 オウィディウス『恋の技術』：作品の背景					
第11回 オウィディウス『恋の技術』：恋愛と雄弁					
第12回 マーニーリウス『アストロノミカ』：作品の背景					
第13回 マーニーリウス『アストロノミカ』：数学と詩					
第14回 マーニーリウス『アストロノミカ』：占星術と「人間喜劇」					
第15回 全体のまとめ					
【履修要件】					
特になし					
----- 系共通科目 (西洋古典学) (講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (西洋古典学) (講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点 (40%)
学期末レポート (60%)

[教科書]

授業内で資料を配布

[参考書等]

(参考書)

逸身喜一郎 『ギリシャ・ラテン文学 韻文の系譜をたどる15章』 (研究社, 2018年)
松本仁助, 岡道男, 中務哲郎編 『ラテン文学を学ぶ人のために』 (世界思想社, 1992年)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

- ・ 配布資料を読んで授業の復習を行うこと
- ・ 授業内では原典の翻訳をはじめとして色々な文献を紹介するので, それらを実際に手に取って読んでみる

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については, KULASISで確認してください。

西洋文献文化学110

科目ナンバリング		U-LET49 29615 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ギリシア語(4時間コース)(語学) Greek (4H)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 広川 直幸		
配当学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	月1,木1	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ギリシア語(4時間コース)				
[授業の概要・目的]					
<p>ギリシア語(正確にはギリシャ語)はヨーロッパで最も歴史の長い言語である。線文字B文書を別にすれば、紀元前8世紀後半から現在に至るまで文献が残っている。その長い歴史の中で便宜上「古典ギリシア語」と呼ばれる期間のギリシア語の基礎を習得するのがこの授業の目的である。教科書では紀元前5~4世紀頃のアッティカ方言を中心に学ぶ。アッティカ方言は、標準語を持たなかった古典ギリシア語の中で最も豊富に文献を残しており、比較的よく実態が解明されている方言である。それゆえ、アッティカ方言の学習は、同時代の他の方言で書かれた文献を読むためにも、またそれ以前の文献(例えばホメロス)やそれ以後の文献(例えば『新約』)を読むためにも必須である。この授業では、教科書により基礎的文法と最小限の語彙を習得することを目指すのはもちろんのこと、教科書終了後、平易なテキストを講読することにより、教科書で得られる知識と本格的な原典講読のために必要な知識との間にある非常に大きな隔たりをできるだけ小さくし、スムーズに原典講読に移行できるようになることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>古典ギリシア語アッティカ方言の基礎を習得することにより、辞書、文法書等を活用して各自が望むギリシア語原典(紀元前8世紀の叙事詩から紀元後4世紀頃の擬古文まで)の読解に取りかかることができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>まずは全36課の教科書を原則として一回に一課ずつ学習する。授業は教科書の構成に添って進めるが、それだけでは習得に必要な反復練習や知識のネットワーク化ができないので、必要に応じて何度でも既習事項の確認・復習や関連付けを行いながら進める。特に文法に関して、何よりもまず習得すべきは屈折(いわゆる語形変化)なので、毎回授業開始時に前回学習した屈折を覚えているかを確認し、さらに教科書の練習問題を解いてもらう度にランダムに屈折の口頭練習を行うことにより知識の早期定着を図る。</p> <p>教科書終了後は、できるだけ受講者の希望を考慮に入れてテキストを決定し講読を行う。</p> <p>前期</p> <p>第1回 イントロダクション、第1課「文字と発音」の解説 第2回 第1課の練習問題、第2課「アクセント」の解説 第3回 第1課と第2課の復習 第4回 第3課の解説 第5回 第3課の屈折表の暗記の確認および練習問題、第4課の解説 第6回~第30回 第5回と同様に授業の前半に前回指定した屈折表の暗記の確認と練習問題を行い、後半に次の課の解説を行う。</p> <p>後期</p>					
ギリシア語(4時間コース)(語学)(2)へ続く					

ギリシア語 (4 時間コース) (語学)(2)

第 3 1 回 ~ 第 3 8 回 前期と同様に教科書の続きを学ぶ。
第 3 9 回 ~ 第 6 0 回 平易なテキストを講読する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（課題遂行状況、疑問点を積極的に質問する受講態度）に基づいて評価する。必要な場合、年度末に試験を行う。
出席数が全授業数の 4 分の 3 に満たない者には、理由の如何を問わず、単位を認定しない。

【教科書】

水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）ISBN:4000008293

【参考書等】

（参考書）

夏季休暇の前に後期の講読までに揃えるべき辞書類を記した文献表を配布し詳しく解説する。

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、十分に復習と予習をしたうえで出席すること。一コマにつき1時間や2時間程度の予習復習では到底受講継続はできないと心得よ。また、他人から入手した練習問題の解答を写すことは手直しを加えていようと予習ではない。必ず自力で予習を行わなければならない。予習・復習の具体的な方法は、授業中に詳しく指示する。

（その他（オフィスアワー等））

分からないことについては、授業中であれば授業後であれば遠慮をせずに積極的に質問することを期待する。

授業の初めに前回学習したパラダイムの暗記の確認を行うので遅刻をしないこと。

遅刻は3回につき欠席1回とみなす。また、30分以上の遅刻は欠席とみなす。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学111

科目ナンバリング	U-LET49 29645 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ラテン語(4時間コース)(語学) Latin (4H)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 佐藤 義尚		
配当学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	月2,金2	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語(4時間コース)				
[授業の概要・目的]					
<p>ラテン語の初歩を学ぶことを目的とする。一年間、週に二回の授業を行う。 古代ローマから近世にいたるまで哲学、文学は言うに及ばず、法律、自然科学の書物もラテン語で書かれている。ラテン語は長期にわたって西欧文化の表現手段であった。西欧の諸言語、文化はラテン語という母胎から産み落とされてきたという事実はもう少し知られてもいいたろう。ラテン語を知らずして西欧の理解はありえない。</p>					
[到達目標]					
<p>古代、中世、近世にラテン語で書かれた文献が読解できるようになることを目標とする。 フランス語、イタリア語などの近代語を生み出した言語を学ぶことで、これらの言語の仕組みがより深く理解できるようになることを目標とする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>授業は教科書にそってすすむ。各課の文法事項を説明し、ラテン語和訳の練習問題を読む。動詞、名詞、形容詞の語形変化は資料を配布して詳述する。一回の授業で二課ぐらいの進度ですすむ。ラテン語は単語の変化がすべてとも言える言語なので、変化の練習を繰り返し行い習熟を目指す。前期は文字、発音、アクセントから始まって、動詞、名詞の基本的な変化を中心に学び、後期は分詞、接続法などを学習する。後期のなかばで教科書を終え、簡単なラテン語を読んでいく。</p> <p>前期 第1回；ラテン語の仕組み。関連ウェブサイトの紹介。 第2回～第29回；一回に二課ぐらいの進度ですすむ。 第30回；学習到達度の評価</p> <p>後期 第1回～第15回；教科書を二課ずつすすみ、学習し終える。 第16回～第30回；平易なラテン語作品を文法事項を確認しながら読む。 後期定期試験。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- ラテン語(4時間コース)(語学)(2)へ続く -----					

ラテン語 (4時間コース) (語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点60点，試験40点で評価する．

[教科書]

松平千秋・国原吉之助 『新ラテン文法』（東洋出版）ISBN:4-8096-4301-8

教科書だけではわかりにくいので，解説資料を配布する．

教科書巻末に語彙集がついているので、最初の段階では辞書不要．

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で次回にやる練習問題を指示するのでそれを予習してくること．

（その他（オフィスアワー等））

ギリシア語既習であればラテン語学習はかなり容易．逆にラテン語を勉強すれば将来のギリシア語学習は容易になる．

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学112

科目ナンバリング	U-LET49 29664 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ギリシア語 (初級I) (語学) Greek	担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金3	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語を学ぶ				
[授業の概要・目的]					
<p>古典ギリシア語 (アッティカ方言) の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>					
[到達目標]					
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション、ギリシア文字の読み方・書き方 第2回から第14回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第3課から第17課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また活用・変化を覚えてもらうために小テストを2・3回実施する。 期末試験 第15回 フィードバック (試験の解説、前期の復習)</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
練習問題への取り組み (30%)、小テスト (20%)、試験 (50%) で評価する。					
[教科書]					
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』 (岩波書店)					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- ギリシア語 (初級I) (語学) (2)へ続く -----					

ギリシア語 (初級I) (語学) (2)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回課される練習問題に取り組み、活用・変化を覚えるために繰り返し自習することが求められる。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29665 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ギリシア語(初級II)(語学) Greek	担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語を学ぶ				
[授業の概要・目的]					
<p>古典ギリシア語(アッティカ方言)の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>					
[到達目標]					
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション 第2回から第15回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第18課から第36課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また最後の3回は哲学・文学・歴史など履修者の関心に合わせて、短いテキストを講読する。</p>					
[履修要件]					
<p>前期の「ギリシア語(初級I)」を履修しているか、それに相当する文法知識を持っていること。 詳しくは初回のイントロダクションの際に相談すること。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>練習問題・講読への取り組みで評価する。また履修者数や学習状況によっては、授業内試験を実施する。</p>					
[教科書]					
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』(岩波書店)					
----- ギリシア語(初級II)(語学)(2)へ続く -----					

ギリシア語 (初級II) (語学)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回課される練習問題に取り組み、語形変化・活用を覚えるための自習を行い、講読のために予習してこること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学114

科目ナンバリング	U-LET49 29666 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ラテン語 (初級I) (語学) Latin	担当者所属・ 職名・氏名	京都大学文学部 非常勤講師 勝又 泰洋		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語文法				
[授業の概要・目的]					
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語・スペイン語・フランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。					
[到達目標]					
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。					
[授業計画と内容]					
下記教科書 (全19課・82節 (+ 付録分の2節)) の前半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。					
第1回～第14回：教科書第1節～第42節 定期試験 第15回：試験フィードバック					
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう (この練習問題は、宿題とすることもある)。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。					
[履修要件]					
後期開講の「ラテン語 (初級II)」とセットで受講することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 (30%) ・毎回の小テストの得点 (30%) ・定期試験の得点 (40%) の合算による。5回以上欠席した場合、もしくは定期試験不受験の場合、いかなる理由があろうとも「不可」とする。					
----- ラテン語 (初級I) (語学)(2)へ続く -----					

ラテン語 (初級I) (語学)(2)

[教科書]

中山恒夫 『標準ラテン文法』 (白水社、1987年) ISBN:9784560017616

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

(その他 (オフィスアワー等))

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション (上記内容の詳細と成績評価について) を行うので、履修者は必ず出席すること。また、同じく第1回から具体的な学習を進めるので、事前に必ず教科書を用意しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学115

科目ナンバリング	U-LET49 29667 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ラテン語(初級II)(語学) Latin	担当者所属・ 職名・氏名	京都大学文学部 非常勤講師 勝又 泰洋		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語文法				
[授業の概要・目的]					
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語・スペイン語・フランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。					
[到達目標]					
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。					
[授業計画と内容]					
下記教科書(全19課・82節(+付録分の2節))の後半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。					
第1回～第14回：教科書第43節～第82節 定期試験 第15回：試験フィードバック					
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう(この練習問題は、宿題とすることもある)。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。					
[履修要件]					
前期開講の「ラテン語(初級I)」とセットで受講することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(30%)・毎回の小テストの得点(30%)・定期試験の得点(40%)の合算による。5回以上欠席した場合、もしくは定期試験不受験の場合、いかなる理由があろうとも「不可」とする。					
----- ラテン語(初級II)(語学)(2)へ続く -----					

ラテン語 (初級II) (語学)(2)

[教科書]

中山恒夫 『標準ラテン文法』 (白水社、1987年) ISBN:9784560017616

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

(その他 (オフィスアワー等))

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション (上記内容の詳細と成績評価について) を行うので、履修者は必ず出席すること。また、同じく第1回から具体的な学習を進めるので、事前に必ず教科書を用意しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学116

科目ナンバリング		U-LET16 13202 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (スラブ語学スラブ文学) (講義) Slavic Languages and Literatures (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水5	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近現代ロシア文化概説				
[授業の概要・目的]					
<p>ロシアの文学・思想は、近代日本の文学や思想に多大な影響を与えてきました。チェーホフの戯曲の上演回数は、ロシア本国に次いで世界第二位であり、トルストイやドストエフスキーは大正から昭和にかけて、もっとも読まれた作家に属していました。その人気は現代にまで続いています。しかし、ロシアの文学や思想が、どのような文化伝統の中で形成され、どのような状況の中で発展してきたのかについては、必ずしも十分に理解されてきたわけではありません。</p> <p>概説と主要作家の紹介・代表作の分析を往還しながら、18世紀末の近代ロシア文学の形成から1880年頃までのロシア文学・思想・絵画の流れを、できるだけ体系的に概観していきます。</p>					
[到達目標]					
<p>1) 近代ロシアの文学・思想・絵画についての知識と理解を得る。</p> <p>2) 欧米文化共通の特徴である作品・ジャンル・国の枠を超えた交差を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1. オリエンテーション：ロシア史の概説・ロシア文学の普遍性と特殊性</p> <p>2. 近代以前のロシア文化の流れ：東方正教、コサック・古儀式派の発生、ペテルブルグ建設</p> <p>3. プーシキン</p> <p>1) 物語詩『コーカサスの虜』：ロシア文学におけるオリエンタリズム</p> <p>2) 物語詩『青銅の騎士』：首都喪失神話の創出</p> <p>3) 叙情詩『秋』ほか：「ロシア的自然」の端緒</p> <p>4. レールモントフ</p> <p>1) エッセイ『モスクワのパノラマ』：ロシア思想の「西欧派」と「スラヴ派」</p> <p>2) 物語詩『ヴァレリク』：ロシア文学における「他者の声」</p> <p>3) 叙情詩『故郷』：「ロシア的自然」の確立</p> <p>5. ゴーゴリ</p> <p>1) 『ディカーニカ近郷夜話』：躍動する魑魅魍魎</p> <p>2) 『外套』：「ペテルブルグ神話」の確立</p> <p>6. ツルゲーネフ</p> <p>1) ロシア文学における「語り」の問題</p> <p>2) 連作短編集『獵人日記』：散文における「ロシア的自然」と「民衆」の形象</p> <p>7. ドストエフスキー</p> <p>1) ジャーナリズムと作家の問題</p> <p>2) 『罪と罰』：空間論の観点から</p> <p>8. トルストイ</p> <p>1) 中編小説『コサック』：自然への回帰の幻想と立ち現れる境界</p> <p>2) 長編小説『戦争と平和』：崇高としての「歴史」と「自然」</p> <p>9. 移動派絵画運動</p> <p>1) その時代的・思潮的背景</p>					
系共通科目 (スラブ語学スラブ文学) (講義)(2)へ続く					

系共通科目 (スラブ語学スラブ文学) (講義)(2)

2) 代表作の考察：クラムスコイ、ペローフ、レーピンほか

授業の進度が予定と若干ずれる可能性があります。
フィードバックの方法は授業の中で指示します。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

質問・感想票への記入30%、期末レポート70%で評価します。

【教科書】

適宜プリントを配付します。

【参考書等】

(参考書)

中村唯史・坂庭淳史・小椋彩 (編著) 『ロシア文学からの旅：交錯する人と言葉』 (ミネルヴァ書房、2022年) ISBN:978-4-623-09400-4

その他にも、開講時ほか授業中に適宜指示します。

【授業外学修 (予習・復習) 等】

授業中に紹介する本や論考を、できるだけ自分でも読んでみてください。

(その他 (オフィスアワー等))

ロシア語の知識はかならずしも必要としません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学117

科目ナンバリング	U-LET16 13204 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (スラブ語学スラブ文学) (講義) Slavic Languages and Literatures (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水5	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近現代ロシア文化概説				
[授業の概要・目的]					
<p>ロシアの文学・思想は、近代日本の文学や思想に多大な影響を与えてきました。チェーホフの戯曲の上演回数は、ロシア本国に次いで世界第二位であり、トルストイやドストエフスキーは大正から昭和にかけて、もっとも読まれた作家に属していました。その人気は現代にまで続いています。しかし、そのようなロシア文学への関心は、おおむね19世紀末までに留まり、20世紀の文学や文化がどのように展開してきたのかは、日本ではほとんど知られていないと言っても過言ではありません。</p> <p>この講義では、19世紀末から20世紀に入り、ソ連期を経て、その崩壊後の文化状況までを概観します。扱うジャンルは文学、思想、絵画、映画など多岐に渡ります。</p>					
[到達目標]					
<p>1) 19世紀末から20世紀のロシア (ソ連) の文学・思想・映画・絵画についての知識と理解を深める。</p> <p>2) 芸術作品や文化現象を分析・考察するための枠組みと方法を身に付ける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1. 1880年頃までのロシア文学・文化の展開の概観</p> <p>2. 「銀の時代」の考察：象徴主義の時代の文学と絵画 (1880 1900年代)</p> <p>1) 象徴主義の詩、小説、評論： フェート晩年の詩、ソログープの短編『光と影』『白い母』、イワノフの批評『象徴主義の戒律』ほか</p> <p>2) 象徴主義絵画： クインジ『ドニエプルの月夜』、レヴィタン『静かな僧院』、ヴルーベリ『真珠』、ボリーソフ・ムサートフ『幽霊たち』他</p> <p>3) 象徴主義時代のリアリズム文学： チェーホフの短編『犬を連れた奥さん』、戯曲『三人姉妹』。ゴーリキーの短篇『チェルカッシ』他</p> <p>4) 象徴主義の現実回帰：ベールイ『ペテルブルグ』</p> <p>3. アヴァンギャルドの季節 (1910 1920年代前半)</p> <p>1) 未来派の文学と絵画：超意味言語詩、マレーヴィチの無対象絵画、カンディンスキーの抽象画、シャガールほか</p> <p>2) ロシア・フォルマリズム：「異化」とその通時的展開</p> <p>3) フロレンスキーの評論『逆遠近法』：「近代の超克」の試み</p> <p>4. アヴァンギャルドから社会主義リアリズムへ (1920年代後半-1940年代)</p> <p>1) 文学：アフマトワの長編詩『レクイエム』、ザミャーチンの中編『われら』、バーベリの連</p>					
系共通科目 (スラブ語学スラブ文学) (講義) (2)へ続く					

系共通科目 (スラブ語学スラブ文学) (講義)(2)

作短編『騎兵隊』、グロスマンの短編『生』『アヴェル』ほか
2) ソヴィエト映画の展開 モンタージュから劇映画へ：エイゼンシテイン『ストライキ』『イワン雷帝』、ジガ・ヴェルトフ『カメラを持った男』、シューブ『ロマノフ王朝の最期』ほか

5. 20世紀後半のソ連文化の特徴

- 1) 多民族・多言語性：アヴァル語詩人ガムザートフの詩『鶴』をめぐって
- 2) 全一的世界の夢とほころび：ベルギーリツの詩的自伝『昼の星』

6. ソ連崩壊後の文化状況：ペレーヴィン、ソローキン、ウリツカヤほか

授業の進度が予定と若干ずれる可能性があります。
フィードバックの方法は授業の中で指示します。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

質問・感想票への記入30%、期末レポート70%で評価します。

[教科書]

適宜プリントを配付します。

[参考書等]

(参考書)

中村唯史・坂庭淳史・小椋彩(編著)『ロシア文学からの旅：交錯する人と言葉』(ミネルヴァ書房、2022年) ISBN:978-4-623-09400-4
その他にも、開講時ほか授業中に適宜指示します。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する本や論考を、できるだけ自分でも読んでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

ロシア語の知識はかならずしも必要としません。
後期からの履修に問題ありません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET17 13302 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義) German Language and Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 籠 碧		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金2	授業形態	講義(メディア授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツ語文学入門				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、ドイツ語文学でメジャーと思われる作家・作品を紹介しながら、その文学史(主に18世紀末から第二次世界大戦期まで)を概観します。 作家・作品ごとにテーマをひとつ決め、その観点から解説します。そのことを通して、特定の観点から作品を読解する手法もご紹介できればと思います。</p> <p>なおこの講義は全回メディア授業の形式で実施します。PandAによって大量の資料・文献を提供します。受講生はそれらの資料をPCやタブレット等それぞれの端末を使って閲覧しながら講義を聴きます。</p>					
[到達目標]					
<p>ドイツ語文学の作家や作品に関する知識を身につける。 特定の観点から作品を読解する力を身につける。 文学作品について、論理的に構成されたレポートを書く力を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>各回のテーマは次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション：なぜドイツ「語」文学か【メディア授業：同時双方向型】 2 レッシング【メディア授業：同時双方向型】 3 ゲーテ【メディア授業：同時双方向型】 4 E. T. A. ホフマン【メディア授業：同時双方向型】 5 クライスト【メディア授業：同時双方向型】 6 シュティフター【メディア授業：同時双方向型】 7 エーブナー＝エッセンバッハ【メディア授業：同時双方向型】 8 シュニツラー【メディア授業：同時双方向型】 9 トーマス・マン【メディア授業：同時双方向型】 10 デーブリン【メディア授業：同時双方向型】 11 ヴァルザー【メディア授業：同時双方向型】 12 プレヒト【メディア授業：同時双方向型】 13 ハインリッヒ・ベル【メディア授業：同時双方向型】 14 多和田葉子【メディア授業：同時双方向型】 15 おわりに【メディア授業：同時双方向型】 <p>進捗に応じて変更される可能性が大いにあります。</p>					
----- 系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (ドイツ語学ドイツ文学) (講義)(2)

[履修要件]

ドイツ語の知識は必要としない。

[成績評価の方法・観点]

授業時のコメントペーパー（20％）と期末レポート（80％）によって評価します。

[教科書]

資料はPandAから配布します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で取り上げる作品をできるだけ自分で読んでみてください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学119

科目ナンバリング		U-LET17 13304 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義) German Language and Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 川島 隆		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	カフカ文学の諸相				
[授業の概要・目的]					
<p>2024年に没後100周年を迎えたフランツ・カフカ(1883-1924)は、いわゆる不条理文学の代表者として、今なお世界の文学・文化に影響を与えつづけている。ある朝、得体の知れない「虫けら」に変身した姿で目覚めたサラリーマンの運命を描いた『変身』をはじめ、難解なカフカ文学に関しては、宗教的解釈・実存主義的解釈・マルクス主義的解釈・精神分析的解釈・ポストモダンの解釈など、非常に多くの解釈アプローチが乱立しているが、この授業では、カフカの「正しい解釈」を行うのをめざすのではなく、文化史・社会史・政治史などの文脈中にカフカ文学を位置づけ、そこから浮かび上がってくるものに目を向ける。そのことを通じて、文学と社会の相互作用のメカニズムを実感として把握できるようになることが授業の目標である。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. カフカ文学について基本的な知識を得る 2. カフカ文学の多様性がどのような文化的・社会的・政治的な文脈から生まれているかを理解し、文学とその背後にあるものの関係をイメージできるようになる 					
[授業計画と内容]					
第1回	イントロダクション カフカとは誰か?				
第2回	『変身』 サラリーマン文学として読む				
第3回	『変身』 ひきこもり文学として読む				
第4回	『変身』 人間と動物の境界線				
第5回	カフカの公文書				
第6回	長編『失踪者(アメリカ)』 アメリカ移民とドイツ文学				
第7回	長編『失踪者(アメリカ)』 文学と映画				
第8回	長編『訴訟(審判)』 原稿の編集をめぐる問題				
第9回	長編『訴訟(審判)』 法と正義				
第10回	長編『城』 到達不可能性というテーマ				
第11回	長編『城』 難民文学として読む				
第12回	カフカの短編 『判決』『田舎医者』				
第13回	カフカの短編 『ジャッカルとアラブ人』『あるアカデミーへの報告』				
第14回	カフカの短編 『断食芸人』『巣穴』				
第15回	まとめ				
[履修要件]					
特になし					
-----系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目 (ドイツ語学ドイツ文学) (講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中の小課題にもとづく平常点 (50%) および期末レポート (50%) で評価する。

[教科書]

多和田葉子(編) 『ポケットマスターピース01 カフカ』 (集英社, 2015年) ISBN:9784087610345

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業で扱った作品を可能なかぎり実際に手に取って読んでみてほしい。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET17 33341 SJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅰ) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 川島 隆		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツのホロコースト文学				
[授業の概要・目的]					
<p>ナチスのユダヤ人虐殺を題材とした文学作品は数多く、それは「ホロコースト/ショア」のイメージを作るうえで重要な役割を果たし、結果的に、ドイツのみならず世界の人々の歴史観に強く作用している。しかし、ハンス・ペーター・リヒターの『あのころはフリードリヒがいた』(1961)や、ベルンハルト・シュリンクの『朗読者』のように、多くの読者を獲得して学校の教材に用いられることも少なくない有名作品に関しても、ユダヤ人迫害の歴史に関して偏ったイメージを作り出す危険性が指摘されるようになってきている。たとえば、「ナチス=悪いドイツ人」に対して批判的な「いいドイツ人」を登場させることで、実際にそうであったよりも多くの「いいドイツ人」がいたかのように錯覚させ、一般のドイツ人のナチス加担の罪を見えづらくさせたり、加害者の「人間的な側面を描くことで罪の相対化がなされたり、いった点である。そのような問題を意識しながら、ホロコースト文学の現状を考える。</p>					
[到達目標]					
ドイツ語で学術論文を読むことに慣れ、当該分野の研究動向とその問題点を的確に把握することができるようになる。					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文または作品を読む。 取り上げるテーマとテキストについては、受講者の希望を考慮しつつ決定する。</p> <p>第1回 前期の復習と今期の課題の設定 第2~14回 テキスト輪読と討論 第15回 まとめ</p>					
[履修要件]					
中級以上のドイツ語の読解能力があること					
[成績評価の方法・観点]					
平常点のみで評価。					
-----ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く-----					

ドイツ語学ドイツ文学 (演習 I)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET17 33341 SJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅰ) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 川島 隆		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツのホロコースト文学				
[授業の概要・目的]					
<p>ナチスのユダヤ人虐殺を題材とした文学作品は数多く、それは「ホロコースト/ショア」のイメージを作るうえで重要な役割を果たし、結果的に、ドイツのみならず世界の人々の歴史観に強く作用している。しかし、ハンス・ペーター・リヒターの『あのころはフリードリヒがいた』(1961)や、ベルンハルト・シュリンクの『朗読者』のように、多くの読者を獲得して学校の教材に用いられることも少なくない有名作品に関しても、ユダヤ人迫害の歴史に関して偏ったイメージを作り出す危険性が指摘されるようになってきている。たとえば、「ナチス=悪いドイツ人」に対して批判的な「いいドイツ人」を登場させることで、実際にそうであったよりも多くの「いいドイツ人」がいたかのように錯覚させ、一般のドイツ人のナチス加担の罪を見えづらくさせたり、加害者の「人間的な側面を描くことで罪の相対化がなされたり、いった点である。そのような問題を意識しながら、ホロコースト文学の現状を考える。</p>					
[到達目標]					
ドイツ語で学術論文を読むことに慣れ、当該分野の研究動向とその問題点を的確に把握することができるようになる。					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文または作品を読む。 取り上げるテーマとテキストについては、受講者の希望を考慮しつつ決定する。</p> <p>第1回 前期の復習と今期の課題の設定 第2~14回 テキスト輪読と討論 第15回 まとめ</p>					
[履修要件]					
中級以上のドイツ語の読解能力があること					
[成績評価の方法・観点]					
平常点のみで評価。欠席5回で不可とする。					
-----ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く-----					

ドイツ語学ドイツ文学 (演習 I)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学122

科目ナンバリング	U-LET17 33343 SJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (演習II) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 籠 碧		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Stefan Zweig: Buchmendel (1)				
[授業の概要・目的]					
<p>オーストリアの作家シュテファン・ツヴァイクの小説『本のメンデル』(1929)を原文で読みます。舞台は第一次世界大戦前後のウィーンです。崩壊寸前のハプスブルク帝国下で、カフェを転々としつつ書物に異様な執着を示す貧しい移民メンデルが、戦争を機に運命を狂わされていくさまが描かれています。</p> <p>世界的ベストセラー作家だったツヴァイクのこの作品の特徴は、スリリングなストーリー展開にあります。それだけでなく、ツヴァイクや同時代の作家たちの歴史観を垣間見ることでもあります。文芸評論家クラウディオ・マグリスの提唱した「ハプスブルク神話」ー帝国崩壊後、作家たちが過去を美化したーを念頭に置きつつ、さまざまな角度から精読しましょう。</p>					
[到達目標]					
・ドイツ語で書かれた文学作品を読解する力を身につける。					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 はじめに： ツヴァイクについて解説する。</p> <p>第2回～第14回 テクスト講読： 作品の前半部を精読する。</p> <p>第15回：まとめ： これまでの授業内容を総括する。</p>					
[履修要件]					
ドイツ語中級程度の語学力があることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 (授業への積極的な参加、および到達目標の達成度) にもとづいて評価します。					
[教科書]					
プリント配布。					
[参考書等]					
<p>(参考書)</p> <p>次の文法書をおすすめします。 中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ 改訂版』白水社、2003年。</p>					
[授業外学修 (予習・復習) 等]					
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席してください。					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学123

科目ナンバリング	U-LET17 33343 SJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (演習II) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 籠 碧		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Stefan Zweig: Buchmendel (2)				
【授業の概要・目的】					
<p>前期に続いて、オーストリアの作家シュテファン・ツヴァイクの小説『本のメンデル』(1929)を原文で読みます。舞台は第一次世界大戦前後のウィーンです。崩壊寸前のハプスブルク帝国下で、カフェを転々としつつ書物に異様な執着を示す貧しい移民メンデルが、戦争を機に運命を狂わされていくさまが描かれています。</p> <p>世界的ベストセラー作家だったツヴァイクのこの作品の特徴は、スリリングなストーリー展開にあります。それだけでなく、ツヴァイクや同時代の作家たちの歴史観を垣間見ることができます。文芸評論家クラウディオ・マグリスの提唱した「ハプスブルク神話」ー帝国崩壊後、作家たちが過去を美化したーを念頭に置きつつ、さまざまな角度から精読しましょう。</p>					
【到達目標】					
・ドイツ語で書かれた文学作品を読解する力を身につける。					
【授業計画と内容】					
<p>第1回～第14回 テキスト講読： 作品の後半部を精読する。</p> <p>第15回：まとめ： これまでの授業内容を総括する。</p>					
【履修要件】					
ドイツ語中級程度の語学力があることが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点 (授業への積極的な参加、および到達目標の達成度) にもとづいて評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
<p>(参考書)</p> <p>次の文法書をおすすめします。 中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ 改訂版』白水社、2003年。</p>					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席してください。					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学124

科目ナンバリング		U-LET17 23351 LJ36			
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (講読) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 浅井 知代		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Arthur Schnitzlerの短編を読む				
[授業の概要・目的]					
世紀末ウィーンの作家アルトゥル・シュニッツラー (1862-1931) の短編3編、『花』 (Blumen、1894年)、『独り者の死』 (Der Tod des Junggesellen、1907年)、『レデゴンダの日記』 (Das Tagebuch der Redegonda、1909年) を精読し、彼の作品が扱う人間心理、愛、死といったテーマを考察する。また、シュニッツラーの作品に表れるアイロニーや心理描写の手法についても触れ、文学作品を批判的かつ多角的に分析する力を養う。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語で書かれた小説の基礎的な読解力を身につける。 ・文法知識を定着させる。 					
[授業計画と内容]					
さしあたり以下の内容を予定している (ただし、授業の進行状況に応じて変更する場合がある)。					
第1回 オリエンテーション					
第2回 『花』を読む					
第3回 『花』を読む					
第4回 『花』を読む					
第5回 『花』を読む					
第6回 『独り者の死』を読む					
第7回 『独り者の死』を読む					
第8回 『独り者の死』を読む					
第9回 『独り者の死』を読む					
第10回 『独り者の死』を読む					
第11回 『レデゴンダの日記』を読む					
第12回 『レデゴンダの日記』を読む					
第13回 『レデゴンダの日記』を読む					
第14回 『レデゴンダの日記』を読む					
第15回 まとめ					
[履修要件]					
初級程度のドイツ語の語学力があること					
-----ドイツ語学ドイツ文学 (講読)(2)へ続く-----					

ドイツ語学ドイツ文学 (講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点のみで評価。欠席5回で不可とする。

[教科書]

プリント配布

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業は輪読形式で進めるので、毎回丁寧に辞書を引きながら予習すること。
復習としては、学んだ単語・表現や文法事項を覚えることが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学125

科目ナンバリング	U-LET17 23351 LJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (講読) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 ボルドウニャク エドワルド		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木5	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	C. M. ヴィーラント『ジンニスタン』の読解				
【授業の概要・目的】					
<p>本授業においては、C. M. ヴィーラント (1733-1813) による後期メルヒェン集である『ジンニスタン』 (1786-89) の原文をドイツ語で読む。</p> <p>『ジンニスタン』の中にはヴィーラント自身によるメルヒェン作品や、ヴィーラントがフランス妖精物語を少なからず手を加えながら翻訳したメルヒェン作品など、多種多様な作品がある。これらの作品の中には、ヴィーラントがその作家としてのキャリアの中で一貫して追求してきたテーマの下で書かれたメルヒェンや、フランス革命前夜の空気を感じさせるメルヒェンなどがあり、作品解釈に一定の知識を要求するものがある。これらの知識を把握していくことで文学作品の解釈に必要な技術を習得することを、本授業の目標とする。</p>					
【到達目標】					
ドイツ語の基礎的な読解能力を身につけること。					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 導入 第2～14回 テキスト読解 第15回 まとめ</p>					
【履修要件】					
ドイツ語初級の授業を履修済みであるか、あるいは同程度の語学力を有すること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点 (予習の有無、授業への積極的参加) によって評価する。					
【教科書】					
使用しない プリントを配布する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
輪読形式で授業を進めるため、毎回予習のうえ出席すること。					
(その他 (オフィスアワー等))					
担当教員への連絡はメールでお願いします (オフィスアワー参照)。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学126

科目ナンバリング	U-LET17 23351 LJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (講読) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 藤田 隼風		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フランツ・カフカの実用文を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>フランツ・カフカが著した実用文をドイツ語で読みます。ここでの実用文とは、彼の文学作品以外の文章を指しています。作品との関わりは勿論、普通とは異なった角度からこの有名作家を眺めてみましょう。</p> <p>序ながらに言えば、文学研究を志す方はカフカへの関心の有無に関わらず、この手の資料に慣れ親しんでおいて損はありません。特にプライベートな手紙や日記の読解は、文学作品の場合とは違った「コツ」が要ります。授業ではその点の解説も交えながらテキストを読み進める方針です。</p> <p>具体的には以下の種類の文章を扱う予定です。 レビュー (書評) エッセイ (紀行文) ダイアリー (日記) メッセージ (手紙) プレゼン (講演原稿) ピーアール (宣伝文) レポート (社内報告書)</p> <p>授業の進行度合、参加者の関心に応じて調整します。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ語の基礎的な読解能力を身に着ける 2. 文献学の方法として文学作品以外の資料の扱いを心得る 					
[授業計画と内容]					
第1回 導入 (授業の概要説明、資料の配布) 第2-14回 テキストの読解 第15回 フィードバック (必要に応じて質問や相談を受付ける)					
[履修要件]					
ドイツ語初級程度の語学力を要する。					
[成績評価の方法・観点]					
以下二つの基準に従う。					
----- ドイツ語学ドイツ文学 (講読)(2)へ続く -----					

ドイツ語学ドイツ文学 (講読)(2)

1. 平常点 (予習の出来、発言等の積極性) 60%
2. 日本語A4一枚の期末レポート 40%

2に関しては、上記の種類資料をもとに人物評を作成してもらおう。対象人物は完全に任意である。例えば自分の友人であっても差し支えない。

[教科書]

プリント資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

翻訳でも構わないから、多少なりともカフカの作品に目を通しておくのが望ましい。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業は参加者による輪読形式。毎週3-4ページ程度の予習を見込んでおくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学127

科目ナンバリング	U-LET17 23351 LJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (講読) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 杉山 東洋		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火2	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Adalbert Stifter: Bergkristall				
[授業の概要・目的]					
<p>19世紀オーストリアを代表する作家の一人アーダルベルト・シュティフター (1805-1868) による短編小説『水晶』 (Bergkristall, 1853) をドイツ語で読みます。</p> <p>この作品では、反目し合う二つの村の一方に生まれた幼い兄妹が、冬の雪山で思いがけず災難に遭う様子が描かれます。そこでは、作品執筆当時の宗教的、科学的自然観に加え、歴史的、あるいは作家に特徴的な子ども像も読み取られ得るでしょう。そうした点に限らない物語の細部にも注目しながら、この作品を原文で丁寧に読み進めることを目指します。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語で書かれた文学作品の基礎的な読解力を身につける。 ・文法知識を定着させる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 はじめに： シュティフターと『水晶』について解説をする。</p> <p>第2～14回 テキスト講読： 作品を精読する。</p> <p>第15回 まとめ： これまでの授業内容を総括する。</p>					
[履修要件]					
ドイツ語初級程度の語学力があること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点により、授業への積極的な参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価します。					
[教科書]					
プリント配布。					
----- ドイツ語学ドイツ文学 (講読)(2)へ続く -----					

ドイツ語学ドイツ文学 (講読)(2)

[参考書等]

(参考書)

必ず辞書を持ってきてください。

文法書では

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ 改訂版』(白水社、2003年)
をおすすめします。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席してください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET17 23362 PJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (外国語実習) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 Franz Edgar		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金4	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	ドイツ語
題目	映画で学ぶドイツ語				
[授業の概要・目的]					
ドイツ劇映画史の学習に加え、グループワークでビデオ映像を制作する予定です。目的は、ドイツ劇映画に関連するドイツ語の対話文を作成することで、ドイツ語能力を強化することです。					
[到達目標]					
これまで勉強した語彙と文法、また授業中に指示する表現の仕方に基づいて、あるテーマについて創造的にドイツ劇映画に関連するドイツ語の対話文を作成することが到達目標です。					
[授業計画と内容]					
授業では、空欄式のワークシートを使って映画の内容を確認し、議論します。ドイツ劇映画の抜粋を視聴した後、グループワークでその映画に関連するドイツ語の対話文を作成し、映像を制作します。					
第1回 ヴィム・ヴェンダース監督の劇映画『ベルリンのリュミエール』(1995)					
第2回 ある発明について議論し、それがすでに存在する類似の発明よりも優れていると分かる対話文の作成。					
第3回 ロベルト・ヴィーネ監督の無声映画『カリガリ博士』(1920)					
第4回 夢遊病者が未来についての質問に答える対話文の作成。					
第5回 ファスビンダーの劇映画『不安は魂を食いつくす』(1973)					
第6回 ドイツのことわざや慣用句をテーマとした対話文の作成。					
第7回 ミハエル・ハネケの劇映画『白いリボン』(2009)					
第8回 ある人物が不法行為によって罰せられる対話文の作成。					
第9回 クリスチャン・ディッター監督の劇映画『初心者向けのフランス語』(2006)					
第10回 日本人留学生がドイツ人との会話でどのようにぎこちない態度をとるかを示す対話文の作成。					
第11回 ドーリス・デリエ監督の劇映画『もんぜん』(1999)					
第12回 ある人がパートナーに見捨てられる対話文の作成。					
第13回 ロッテ・ライニガー監督の短編アニメ映画『ヘンゼルとグレーテル』(1953)					
第14回 グリム童話に登場する場面を扱った対話文の作成。					
第15回 フィードバック					
[履修要件]					
ドイツ語の語彙と文法に関して、約1年間の学習に相当する前提知識を必要とします。授業前にそれぞれ課題を行い、十分に準備を整えることが期待されています。					
-----ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)へ続く-----					

ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)

[成績評価の方法・観点]

積極的な参加と毎回のドイツ語ダイアログ作成における言語力および内容の質に基づいて成績を評価します。成績評価基準の詳細については授業中に説明します。

[教科書]

教科書は使用せず、代わりに自作教材をGoogle Driveにアップロードします。

[参考書等]

(参考書)

授業中に役立つオンラインのドイツ語辞典や文法辞典などを紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

2週間ごとに、自宅課題として空欄式のワークシートを記入することが必要です。

(その他(オフィスアワー等))

何か質問があれば、いつでも聞いて下さい。相談はメールやZoomでも可能です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET17 23362 PJ36				
授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学 (外国語実習) German Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 Franz Edgar		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金4	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	ドイツ語
題目	映画で学ぶドイツ語				
[授業の概要・目的]					
ドイツ劇映画史の学習に加え、グループワークでビデオ映像を制作する予定です。目的は、ドイツ劇映画に関連するドイツ語の対話文を作成することで、ドイツ語能力を強化することです。					
[到達目標]					
これまで勉強した語彙と文法、また授業中に指示する表現の仕方に基づいて、あるテーマについて創造的にドイツ劇映画に関連するドイツ語の対話文を作成することが到達目標です。					
[授業計画と内容]					
授業では、空欄式のワークシートを使って映画の内容を確認し、議論します。ドイツ劇映画の抜粋を視聴した後、グループワークでその映画に関連するドイツ語の対話文を作成し、映像を制作します。					
第1回 ヤン・オーレ・ゲルスター監督の劇映画『コーヒーをめぐる冒険』(2012)					
第2回 父と息子、あるいは母と娘を登場人物として、親が子どもの学費を払うのをやめようとしている対話文の作成。					
第3回 ファティ・アキン監督の劇映画『50年後のボクたちは』(2016)					
第4回 ある生徒が休暇中の体験についてクラスで発表し、その後教師からその内容を批判される対話文の作成。					
第5回 アラン・グスポーナー監督の劇映画『ハイジ アルプスの物語』(2015)					
第6回 ホームシックを扱った対話文の作成。					
第7回 サイモン・バーホーベン監督の劇映画『はじめてのおもてなし』(2016)					
第8回 何人かの難民がドイツでの生活について話す対話文の作成。					
第9回 マーレン・アデ監督の劇映画『ありがとう、トニ・エルドマン』(2016)					
第10回 会話中に、一方が話し相手に対して有名人のふりをする対話文の作成。					
第11回 ゼバスティアン・シッパーの劇映画『ヴィクトリア』(2015)					
第12回 日本人がドイツ人に架空の禁止事項を伝える対話文の作成。					
第13回 ダーヴィト・ヴネント監督の劇映画『帰ってきたヒトラー』(2016)					
第14回 長い間死んでいた人格が2025年に復活するという対話文の作成。					
第15回 フィードバック					
[履修要件]					
ドイツ語の語彙と文法に関して、約1年間の学習に相当する前提知識を必要とします。授業前にそれぞれ課題を行い、十分に準備を整えることが期待されています。					
-----ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)へ続く-----					

ドイツ語学ドイツ文学 (外国語実習)(2)

[成績評価の方法・観点]

積極的な参加と毎回のドイツ語ダイアログ作成における言語力および内容の質に基づいて成績を評価します。成績評価基準の詳細については授業中に説明します。

[教科書]

教科書は使用せず、代わりに自作教材をGoogle Driveにアップロードします。

[参考書等]

(参考書)

授業中に役立つオンラインのドイツ語辞典や文法辞典などを紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

2週間ごとに、自宅課題として空欄式のワークシートを記入することが必要です。

(その他(オフィスアワー等))

何か質問があれば、いつでも聞いて下さい。相談はメールやZoomでも可能です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学130

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (講読) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水1	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Sonnets 講読				
[授業の概要・目的]					
<p>ペトラルカ (1304-74)によって大成されたsonnet (十四行詩)は16世紀に英国に導入された後、英語による多くの作品が書かれ、今日に至るまで英詩の主要なジャンルの一つとなっている。この授業ではDon Patersonによるアンソロジー 101 Sonnets に所収された、その幾つかの精読を通じて、英語の詩の読み方の基本を身につけるとともに英詩とその背景についての理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語による韻文テキストの特徴を理解し、自力で読めるようになる。 ・ 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1週 インTRODクシヨン あわせて今後の授業の進め方について説明する。</p> <p>第2週 Thomas Wyatt 'Whoso list to hunt'を担当教員が解説する。</p> <p>第3 - 13週は予め指名した毎回一人の受講者が一つのソネットを担当して解説する。扱う作品の作者と順番は以下の通りであるが若干の調整をすることがある。</p> <p>3 Thomas Hardy 4 Wilfred Owen 5 Edward Thomas 6 John Keats 7 W. B. Yeats 8 Ezra Pound 9 Emily Dickinson 10 Catherine Dyer 11 Edmund Spenser 12 John Donne 13 William Shakespeare</p> <p>第14週 全体のまとめ 第15週 フィードバック</p>					
----- 英語学英文学 (講読)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (講読)(2)

[履修要件]

2-4回生を対象とした講読の授業

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づく平常点により評価する。具体的には、担当した詩の解説85%、その他授業中のコメントなど授業全体への貢献15%。正当な理由なく2回欠席した場合は以後の出席を認めない。遅刻は欠席とみなす。

[教科書]

Don Patterson, ed 『101 Sonnets』 (Faber, 2012) ISBN:978-0571278732

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予め辞書(特に英英辞典)を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学131

科目ナンバリング	U-LET18 23451 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (講読) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	George Orwellのエッセイを読む				
[授業の概要・目的]					
<p>鋭い洞察力と簡潔で明快な文体で知られているGeorge Orwell (1903-1950)のエッセイの読解を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。植民地主義から権力の問題、拝金主義や商業主義の問題、貧困や低賃金労働、知的階級や中産階級、下層中流階級等がキーワードになる。各エッセイの内容と密接に関連しているオーウェルの小説作品についても紹介する。</p>					
[到達目標]					
<p>(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。</p> <p>(2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。</p> <p>(3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 Introduction: ジョージ・オーウェルの生涯と思想</p> <p>第2回 "The Spike" (1931)</p> <p>第3回 "A Hanging" (1931)</p> <p>第4回 "Shooting an Elephant" (1936)</p> <p>第5回 "Down the Mine" (1937)</p> <p>第6回 "Marrakech" (1939)</p> <p>第7回 "Inside the Whale" (1940)</p> <p>第8回 "The Lion and the Unicorn: Socialism and the English Genius" (1941)</p> <p>第9回 "Raffles and Miss Blandish" (1944)</p> <p>第10回 "Notes on Nationalism" (1945)</p> <p>第11回 "Why I Write" (1946)</p> <p>第12回 "Politics and the English Language" (1946)</p> <p>第13回 "The Prevention of Literature" (1946)</p> <p>第14回 "Such, Such Were the Joys" (1947)</p> <p>第15回 まとめと質疑応答</p>					
----- 英語学英文学 (講読)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (講読)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況・口頭発表（60％）と学期末レポート（40％）によって評価する。

【教科書】

授業中に指示する
テキストはこちらで配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜13：00～14：45。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学132

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (講読) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火5	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Breakfast at Tiffany'sを読む				
[授業の概要・目的]					
戦後アメリカ文学の重要作家の一人Truman Capote (1924-84)の傑作中編小説Breakfast at Tiffany's (1958)を読む。Capoteの、また小説というものの魅力が詰まった手頃なサイズの作品を原文で丁寧に読むことを通じて、英語で小説を読む楽しさを知ると同時に、読めるという自信を身につけてほしい。					
[到達目標]					
丁寧に辞書を引きながら一語一句にこだわって文学作品を読む姿勢を身につけ、英語小説読解の基礎力を養うことを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。					
[授業計画と内容]					
授業は英語テキストの丁寧な訳読と、輪番制による担当箇所についての発表+ディスカッションとを組み合わせる予定。					
第1回	イントロダクション				
第2回	Breakfast at Tiffany's講読				
第3回	Breakfast at Tiffany's講読				
第4回	Breakfast at Tiffany's講読				
第5回	Breakfast at Tiffany's講読				
第6回	Breakfast at Tiffany's講読				
第7回	Breakfast at Tiffany's講読				
第8回	Breakfast at Tiffany's講読				
第9回	Breakfast at Tiffany's講読				
第10回	Breakfast at Tiffany's講読				
第11回	Breakfast at Tiffany's講読				
第12回	Breakfast at Tiffany's講読				
第13回	Breakfast at Tiffany's講読				
第14回	Breakfast at Tiffany's講読				
第15回	フィードバック				
学期末には、各自の視点から作品を英語または日本語で論じるレポートを提出してもらう。					
----- 英語学英文学 (講読)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (講読)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点（60％）と期末レポート（40％）で評価する。

[教科書]

Truman Capote 『Breakfast at Tiffany's』 (Penguin) ISBN:978-0241951453

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各回の授業で読むテキストの綿密な予習は必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学133

科目ナンバリング	U-LET18 23451 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (講読) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	_My Name Is Aram_を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業はWilliam Saroyanの連作短編集_My Name Is Aram_ (1940)を精読します。カリフォルニアに暮らすアルメニア系の大家族の日々を少年時代の追憶として描かれる本作には、印象深いキャラクターが次々登場します。本授業では、家族やコミュニティを描くSaroyanの世界を通じて、英語の小説を読むことの楽しさと豊かさを体感することを目的とします。</p>					
[到達目標]					
<p>英語で書かれた小説の読解法を学ぶ。 連作短編集というフォーマットについて理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のスケジュールはあくまでも予定です。必ず初回授業で配布されるスケジュールをご参照ください。</p> <p>第1回：Introduction: 作者紹介 第2回：My Name Is Aramを読む(1) 第3回：My Name Is Aramを読む(2) 第4回：My Name Is Aramを読む(3) 第5回：My Name Is Aramを読む(4) 第6回：My Name Is Aramを読む(5) 第7回：My Name Is Aramを読む(6) 第8回：My Name Is Aramを読む(7) 第9回：My Name Is Aramを読む(8) 第10回：My Name Is Aramを読む(9) 第11回：My Name Is Aramを読む(10) 第12回：My Name Is Aramを読む(11) 第13回：My Name Is Aramを読む(12) 第14回：My Name Is Aramを読む(13) 第15回：まとめ+フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英文学 (講読)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎回の授業後にメールにてコメント提出（20％）・発表（40％：予定回数は1回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。

[教科書]

テキストはPandAにてpdf形式で配布します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まないと（毎回およそ15ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学134

科目ナンバリング	U-LET18 23462 PJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (外国語実習) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 LUDVIK, Catherine		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水1	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Kyoto's Cultural Heritage, in English Part I				
[授業の概要・目的]					
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.					
[到達目標]					
Through class discussions, written assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.					
[授業計画と内容]					
1. Preserving History: Universities and Museums Kyoto University Museum Reading: Kyoto Museums Guidebook (Kyoto City Board of Education, 1992), pp. 239-240.					
2. Shinto Shrines: Yoshida Jinja Reading: John Breen and Mark Teeuwen, A New History of Shinto (Wiley&Blackwell, 2010), pp. 1-23.					
3. (a) Shinto Spring Festivals: Aoi Matsuri; (b) Discussion on Shinto in Contemporary Japan Reading: Kansai Cool, pp. 43-48; Kyoto Lives, p. 24 “ Inui Mitsutaka, Shrine Priest. ”					
4. Introduction to Buddhism: Commemorating the Life and Passing of the Buddha Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Three “ City of Buddhism ” pp. 37-59.					
5. Mt. Hiei, “ Mother Mountain of Japanese Buddhism, ” and its Circumambulating Monks Reading: Kyoto Lives, p. 64 “ Kate Connell--Mt. Hiei, Guardian Mountain. ” Assigned Viewing: “ The Monks Risking Death On An Extraordinary Journey, ” Journeyman Pictures (http://www.youtube.com/watch?v=S06oMxdt40A).					
6. Group/Individual Presentations on Sects of Buddhism and Kyoto Temples Readings: Kyoto: A Cultural History, Chapter Five “ City of Zen ” pp. 76-95; Kyoto Lives, pp. 70-71 “ Matsuyama Daiko, Deputy Chief Priest, Taizo ’ in Temple. ”					
7. Discussion on Sects of Buddhism and Kyoto Temples					
8. Zen Temples and Visual Arts: Daitokuji ’ s annual airing of its hanging-scroll paintings; Taizoin ’ s sliding screen painting project Reading: Gregory P. A. Levine, Daitokuji: The Visual Cultures of a Zen Monastery, pp. 83-87. Assigned Viewing: “ Taizoin Hojo; Fusuma-e Painting Project ” (https://www.youtube.com/watch?v=x7JEA658doc).					
9. Pure Land Faith and Monthly Markets: Chionji					
					英語学英文学 (外国語実習)(2)へ続く

英語学英文学 (外国語実習)(2)

Reading: “ Chionji ” (handout)

10. "Micro Temples": discussion on temple activities and economy in contemporary Japan
Readings: Kansai Cool, pp. 189-193; Kyoto Lives, pp. 34-35 “ Kajita Shinsho, the Path to Honen-in. ”

11. Group/Individual Presentations on Heian-Period Historical and Literary Figures
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter One “ City of Kanmu ” pp. 1-19.

12. Discussion on Heian-Period Historical and Literary Figures
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Two “ City of Genji ” pp. 20-36; Kyoto Lives, p. 78 “ Setouchi Jakucho--The Tale of Genji. ”

13. Summer Festivals: Gion Matsuri history and traditions
Reading: World Heritage document on “ Yamahoko, the float ceremony of the Kyoto Gion festival. ”

14. Summer Festivals: Gion Matsuri visual arts

15. Course Review

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)
Written assignments (25%)
Class presentations (30%)
Review assignment (25%)

【教科書】

All readings will posted on Panda.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修（予習・復習）等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters of the textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

英語学英文学 (外国語実習)(3)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学135

科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (外国語実習) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 LUDVIK, Catherine		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木1	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Kyoto's Cultural Heritage, in English Part II				
[授業の概要・目的]					
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.					
[到達目標]					
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.					
[授業計画と内容]					
<p>1. Kyoto's Water Culture: function and impact of water in the lives, culture, and religion of Kyoto people Reading: Kansai Cool, pp. 39-42. Assigned Viewing: Documentary Film “ Water, the Lifeblood of Kyoto ” (http://fod.infobase.com/p_ViewPlaylist.aspx?AssignmentID=83NZ6P).</p> <p>2. Kyoto Gardens: history, features, and aesthetics Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 91-95 “ Dry Landscapes ” ; pp. 133-138 “ Tea Garden ” “ Tea Room ” .</p> <p>3. Kyoto Machiya Townhouses: architectural features, functions Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 164-165; Jurgenhake, Birgit, “ The qualities of the Machiya: An Architectural Research of a Traditional House in Japan ” (2011, http://repository.tudelft.nl/islandora/object/uuid:a9f98f2a-6be7-4693-92ad-26507e69666e?collection=research)</p> <p>4. Kyoto Machiya Townhouses: contemporary preservation measures Readings: World Monuments Fund, “ Machiya Townhouses ” (https://www.wmf.org/project/machiya-townhouses); Kyoto Machiya Revitalization Project (http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project/).</p> <p>5. Individual/Group Presentations on Kyoto Architecture</p> <p>6. Discussion on Kyoto Architecture</p> <p>7. Kyoto Imperial Palace: architectural features and gardens Reading: Judith Clancy, Exploring Kyoto: On Foot in the Ancient Capital (Stone Bridge Press, 2008), pp. 29-36.</p> <p>8. Kyoto State Guesthouse and traditional artisanry In-class Viewing: Documentary Film “ Traditional Skills in the Kyoto State Guest House ” (Kyoto Convention Bureau, 1990).</p>					
----- 英語学英文学 (外国語実習)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (外国語実習)(2)

9. Imperial Convents and Cultural Preservation: Hokyoji and Dolls

Readings: Kansai Cool, pp. 77-81; Amamonzeki: A Hidden Heritage, Treasures of the Japanese Imperial Convents (The Sankei Shinbun, 2009), pp. 120-123; Hokyoji restoration handout.

10. Autumn Festivals: Festival of the Ages (Jidai Matsuri) and Kurama Fire Festival (Hi Matsuri)

Reading: Kyoto Lives, pp. 10-12 “ Festival of the Ages ” by John Dougill; additional handouts.

11. Kyoto Cuisine: types, features

Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 223-225; Donald Richie, “ A Taste of Japan, Introduction ” (Kodansha, 1993), pp. 8-12.

12. Kyoto Cuisine: aesthetics

Readings: Kansai Cool, “ The Still Point: Authenticity Within an Evolving Cuisine, ” pp. 93-105.
Assignment: Cuisine worksheet.

13. Individual/Group Presentations Based on Kyoto Lives Interviews

14. Discussion Based on Kyoto Lives Interviews

15. Course Review

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)

Written assignments (25%)

Class presentations (30%)

Review assignment (25%)

【教科書】

All readings will be posted on Panda.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters from textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

英語学英文学 (外国語実習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学136

科目ナンバリング	U-LET18 23462 PJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (外国語実習) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学法学部 教授 JACKSON, Lachlan Rigby		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Language & Society: Sociolinguistics I				
[授業の概要・目的]					
<p>What is the relationship between language and society? Why do people use languages in the ways that they do? Questions such as these are the concern of sociolinguists. This course is a content-based English course that will provide students with an introduction to fundamental sociolinguistics concepts. This content will be particularly useful to students aspiring to teach English in Junior high schools and high schools in Japan.</p>					
[到達目標]					
<p>This is an interactive and communitive-orientated class aimed at developing the four macro skills (listening, speaking, reading, and writing). Students will be required to reflect on short weekly readings, draw on their own language learning experiences, and share their opinions on a range of sociolinguistics-related topics. Course content will challenge students to think about language teaching and learning from sociolinguistics-informed perspectives, and in so doing, help them develop as future language teachers.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Week Description</p> <p>1 Introduction to the Course: “ What is Sociolinguistics? ” Why do people use language in the ways they do?</p> <p>2 Module 1 #8211 Language Variation: (1) Language & Gender</p> <p>3 (2) Language & Region (Accent and Dialects)</p> <p>4 (3) Language & Social Class</p> <p>5 (4) Language & Age</p> <p>6 Module 2 #8211 Language & Culture: (1) Language & Identity</p> <p>7 (2) The Status of English in Japan</p> <p>8 (3) Is Japan a multilingual society?</p> <p>9 (4) Who/what is a “ native-speaker ” ?</p> <p>10 Module 3 #8211 Language & Change (1) Endangered Languages & Language Death</p> <p>11 (2) Neologisms</p> <p>12 (3) Non-Standard Forms: Swearing, Slang, and Taboo Language</p> <p>13 Final Test</p> <p>14 Student presentations</p> <p>15 Student Presentations and Feedback</p>					
----- 英語学英文学 (外国語実習)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (外国語実習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Presentation 20%
Short Module Quizzes (3 x 10%) 30%
Final Test 20%
Reflective Journal (3 x 5%) 15%
Classwork 15%

【教科書】

使用しない

There is no set text for this course. The instructor will provide students with worksheets and short weekly readings.

【参考書等】

(参考書)

Edwards, J. 『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 (2013) ISBN:978-0199858613
『 』

(関連URL)

languageonthemove.com (A great resource with many very short articles on issues relating to sociolinguistics)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Students are expected to prepare for each class by completing the assigned short weekly reading tasks.

(その他 (オフィスアワー等))

Full participation and interaction with other class members is very important in this course. Students will be required to engage in group and pair work during each class. As a part-time teacher, I do not have a contact hour. I am available just before, during, and after class if you wish to speak to me. You can also email me at this address: lockie@law.ritsumei.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学137

科目ナンバリング	U-LET18 23462 PJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (外国語実習) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学法学部 教授 JACKSON, Lachlan Rigby		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Language & Society: Sociolinguistics II				
[授業の概要・目的]					
<p>What is the relationship between language and society? Why do people use languages in the ways that they do? Questions such as these are the concern of sociolinguists. This course is a content-based English course that will provide students with an introduction to fundamental sociolinguistics concepts. This content will be particularly useful to students aspiring to teach English in Junior high schools and high schools in Japan.</p>					
[到達目標]					
<p>This is an interactive and communitive-orientated class aimed at developing the four macro skills (listening, speaking, reading, and writing). Students will be required to reflect on short weekly readings, draw on their own language learning experiences, and share their opinions on a range of sociolinguistics-related topics. Course content will challenge students to think about language teaching and learning from sociolinguistics-informed perspectives, and in so doing, help them develop as future language teachers.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1 Introduction to the Course: Why Study Sociolinguistics? 2 Module 1: Language, Technology and the Media (1) Language Study and AI 3 (2) Social Media, Texting Apps, & Communication 4 (3) Echo Chambers, Language Framing, and Agenda Setting 5 (4) ' Fake News ' and ' Information Overload ' 6 Module 2: Language Policy & Planning: (1) Attitudes and Ideologies 7 (2) Linguistic Prejudice 8 (3) Language Ideologies: Canada as a Case Study 9 (4) Language Endangerment and Revitalization 10 Module 3: Language & Education (1) Sociolinguistics in the Language Classroom 11 (2) Representations of English Language learning in Japan 12 (3) Recent Directions in Language Education 13 Final test and orientation Workshop 14 Student Presentations 15 Student Presentations and Feedback</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英文学 (外国語実習)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (外国語実習)(2)

[成績評価の方法・観点]

Presentation 20%
Short Module Quizzes (3 x 10%) 30%;
Final Test 20%
Reflective Journal (3 x 5%) 15%
Classwork 15%

[教科書]

使用しない

There is no set text for this course. The instructor will provide students with worksheets and short weekly readings.

[参考書等]

(参考書)

Edwards, J. 『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 (2013) ISBN:978-0199858613

(関連URL)

languageonthemove.com (A great resource with many very short articles on issues relating to sociolinguistics)

[授業外学修(予習・復習)等]

Students are expected to prepare for each class by completing the assigned short weekly reading tasks.

(その他(オフィスアワー等))

Full participation and interaction with other class members is very important in this course. Students will be required to engage in group and pair work during each class. As a part-time teacher, I do not have a contact hour. I am available just before, during, and after class if you wish to speak to me. You can also email me at this address: lockie@law.ritsumei.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学138

科目ナンバリング		U-LET19 13502 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (アメリカ文学) (講義A) American Literature (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金3	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ文学史 I				
[授業の概要・目的]					
植民地時代から19世紀末までのアメリカ文学の流れを振り返る。全15回の授業のうち、前半部はピューリタニズム・理神論・アメリカ啓蒙思想といった宗教・思想的話題が中心となる。後半部は、アメリカという歴史の浅い国において独自の「文学」を確立せんとさまざまな作家が苦闘した様子を追うことが主眼となる。本授業を通じて、アメリカ文学が近代性を獲得するまでの道程を包括的に把握することを目的とする。					
[到達目標]					
19世紀末までのアメリカ文学および思潮の流れを概覧し、文学における英文解釈法を学ぶ。					
[授業計画と内容]					
<p>授業計画</p> <p>第1回：序論--新大陸の発見</p> <p>第2回：Jonathan Edwards/ Anne Bradstreet--ピューリタニズムの文学</p> <p>第3回：Benjamin Franklin--アメリカ啓蒙主義と理神論</p> <p>第4回：Ralph Waldo Emerson--超越主義：思想編</p> <p>第5回：Henry David Thoreau--超越主義：実践編</p> <p>第6回：Nathaniel Hawthorne--ロマンスとノヴェル</p> <p>第7回：Herman Melville--小説と世界</p> <p>第8回：Edgar Allan Poe--象徴主義</p> <p>第9回：Walt Whitman--詩と民主主義</p> <p>第10回：Emily Dickinson--詩と観念</p> <p>第11回：奴隷制度と文学--Harriet Beecher Stoweを中心に</p> <p>第12回：アメリカ家庭小説の系譜</p> <p>第13回：Mark Twain--口承文学と小説</p> <p>第14回：Henry James--近代小説</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>					
[履修要件]					
アメリカ文学 (講義B) と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。					
----- 系共通科目 (アメリカ文学) (講義A)(2)へ続く -----					

系共通科目 (アメリカ文学) (講義A)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎授業後にメールにて提出するコメント（30％）と期末試験（70％）により評価する。優れたコメントは次回の授業において紹介する。持ち込み不可の期末試験では、授業で触れた事項の理解度を確認する。

[教科書]

使用しない
資料はプリントにて配布する。

[参考書等]

（参考書）

諏訪部浩一・編 『アメリカ文学入門』（三修社）ISBN:9784384057485（初期から現代に至るまでの主要作家の紹介。各作家に付されている参考文献が有用。）

[授業外学修（予習・復習）等]

期末試験では授業内で取りあげたテキストから出題される。問題は講義内容を踏まえたものなので、試験対策として念入りな復習が求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学139

科目ナンバリング	U-LET19 13503 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (アメリカ文学) (講義B) American Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火5	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ文学史				
[授業の概要・目的]					
19～20世紀転換期から現在にいたるまでのアメリカ文学史のおおまかな流れをたどる。各時代を代表する作家、作品を紹介するとともに、できるだけ具体的に個々の作家の文章に触れてもらうことを心がけたい。					
[到達目標]					
アメリカの文学ならびにその背景となる文化に関する包括的な知識を習得すること、文学的な英語表現に親しむこと、アメリカ文学を本格的に学んでいくための土台を築くことを目的とする。					
[授業計画と内容]					
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：自然主義 (Crane, Norris, Dreiserなど)</p> <p>第3回：Wharton, Cather, Anderson</p> <p>第4回：モダニズムと詩 (Pound, Eliot, Steinなど)</p> <p>第5回：Hemingwayと失われた世代</p> <p>第6回：Fitzgeraldと1920年代</p> <p>第7回：1930年代の文学 (Wolfe, Steinbeck, Westなど)</p> <p>第8回：Faulknerと南部文学</p> <p>第9回：演劇 (O'Neill, Williams, Millerなど)</p> <p>第10回：アフリカ系文学 (Wright, Ellison, Morrisonなど)</p> <p>第11回：ユダヤ系文学 (Bellow, Malamud, Rothなど)</p> <p>第12回：その他戦後文学 (Nabokov, Updikeなど)</p> <p>第13回：ポストモダン (Barth, Pynchonなど)</p> <p>第14回：その後の文学</p> <p>第15回：フィードバック</p> <p>(以上はあくまで予定であり、前期の講義A (アメリカ文学史I) との兼ね合いや、各回の話の進み具合によっては、上記のトピックをすべて扱いきれない場合もあります)</p>					
[履修要件]					
アメリカ文学 (講義A) と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。					
----- 系共通科目 (アメリカ文学) (講義B)(2)へ続く -----					

系共通科目 (アメリカ文学) (講義B)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末試験（50％）とレポート（50％）により評価する。期末試験では、アメリカ文学・文化に関する基礎知識の習得度を評価する。レポートは、授業で紹介したアメリカ文学作品（長篇小説）について自由に論じるというもので、読解力、思考力、論述力、とりわけ小説を独創的におもしろく読む能力を評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

亀井俊介 『アメリカ文学史講義 1～3』（南雲堂）ISBN:978-4523292432

諏訪部浩一・編 『アメリカ文学入門』（三修社）ISBN:9784384057485

竹内理矢・山本洋平編 『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』（ミネルヴァ書房）ISBN:9784623090778

[授業外学修（予習・復習）等]

アメリカ文学の世界への導入を目的とした授業なので、予習、復習等は特に求めない（必要のある場合は授業中に指示する）。ただしその分の時間を使って、授業で紹介するアメリカ文学作品をなるべく多く読んでみることを。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学140

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Henry James, The Turn of the Screwを読む				
[授業の概要・目的]					
Henry James (1843-1916)の中編小説The Turn of the Screw (1898)を原文で精読し、文体、語りの形式、時代背景、ジェンダー/セクシュアリティ、階級など、さまざまな見地から作品を検討する。翻訳も多数ある有名作品ではあるが、James中～後期に属する本作の英語は実のところかなり難しい。まずはこの晦渋にして微妙なニュアンスを帯びた英語の語りを粘り強く正確に理解しようと努めることが、本授業の取り組みの第一歩となる。					
[到達目標]					
文学テキストを正確に読み、おもしろい疑問を持てるようになること。小説The Turn of the Screwおよびその作者Henry Jamesについて理解を深めること。文学作品へのさまざまなアプローチの仕方に親しむこと。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。					
[授業計画と内容]					
授業は基本的に発表形式で行う。各回につき1～数名の担当者を指名し、その回の範囲について、レジュメを準備したうえで発表してもらう。その発表をもとに参加者全員でディスカッションを行う。					
進行予定は下記のとおり。					
第1回	イントロダクション				
第2回	プロローグを読む				
第3回	1～2章を読む				
第4回	3～4章を読む				
第5回	5～6章を読む				
第6回	7～8章を読む				
第7回	9～10章を読む				
第8回	11～12章を読む				
第9回	13～14章を読む				
第10回	15～16章を読む				
第11回	17～18章を読む				
第12回	19～20章を読む				
第13回	21～22章を読む				
第14回	23～24賞を読む				
第15回	フィードバック				
----- アメリカ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（60％）と期末レポート（40％）を合わせて評価する。平常点は、発表の質やディスカッションへ参加度など、学期を通じた授業への貢献度を評価する。

【教科書】

Henry James 『The Turn of the Screw and Other Stories (Oxford World's Classics)』 (Oxford UP) ISBN: 9780199536177

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

発表担当者以外の者も含め、全員が各回の範囲を原文で徹底的に精読してくることを求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代アメリカにおける移民の文学的表象 _The House of Mango Street_を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業はSandra Cisnerosによる小説_The House on Mango_ (1984)を読みます。移民たちが暮らす町に引っ越してきた十代の少女を主役にした本作は、チカーナ/チカーノ文学を世に知らしめた作品であり、現在に至るまで各国で愛読されている作品です。詩人としての側面もあるCisnerosの文章は、シンプルでありながら、含蓄に富んでいます。本作を通じて、20世紀後半の多文化主義の文学的表象を学ぶと共に、フィクションで用いられる英語を精読することの楽しさを味わうことが、本授業の目的です。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・英語で書かれた文学作品の解釈を学ぶ ・現代アメリカ文学における移民の表象を学ぶ ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 					
[授業計画と内容]					
<p>注意：授業スケジュールはあくまでも暫定的なものです。必ず初回授業にて配布するスケジュール表をご参照ください。</p> <p>第1回：【序論】Sandra Cisnerosとチカーノ文学の興隆について 第2回：The House on Mango Street ~ My Nameを読む 第3回：Cathy Queen of Cats ~ Gill's Furniture Bought and Soldを読む 第4回：Meme ~ Those Who Don'tを読む 第5回：There Was an Old Woman She Had So Many ~ Darious and the Cloudsを読む 第6回：And Some More ~ Chanclasを読む 第7回：Hips ~ Born Badを読む 第8回：Elenita, Cards, Palm, Water ~ The Earl of Tennesseeを読む 第9回：Sire ~ Rafaela Who Drinks Coconut and Papaya Juice on Tuesdaysを読む 第10回：Sally ~ Beautiful and Cruelを読む 第11回：A Smart Cookie ~ Red Clownsを読む 第12回：Linoleum Roses ~ Mango Says Goodbye Sometimesを読む 第13回：A House of My Own (1)を読む 第14回：A House of My Own (2)を読む 第15回：レポートワークショップ</p>					
----- アメリカ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎授業後のメールでのコメントシートの提出（20％）・発表（40％：予定回数は1回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当するテキストに関するもので、25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

【教科書】

テキストはpdf形式でPandAにアップロードします。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まない（毎回およそ15ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学142

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代英国演劇における多文化主義とその問題				
[授業の概要・目的]					
<p>現代英国演劇、とりわけ旧植民地の背景を有する作家による作品の講読を通じて英国(UK)における多文化主義とその問題を考察する。具体的には、ジャマイカを背景に持つ英国出身の劇作家 Winsome PinnockによるRockets and Blue Lights (2018)を取り上げ、そこに見られる英国社会の文化的多様性とその背景を検討し、そこから他者との相互交流の可能性について考察する。主に問題となるのは英国による大西洋奴隷貿易の影響とこれへの批判である。さらに異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する ・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 					
[授業計画と内容]					
<p>本授業は</p> <p>a) 戯曲テキストの講読</p> <p>b) 指定のトピックに関するプレゼンテーション (担当者を指名する)</p> <p>c) テキスト並びに関連文献の講読を通じて学んだ多文化主義の歴史と現状に基づく異文化体験に関するプレゼンテーション</p> <p>の3つから構成される。下に示すのは扱われる全体像であり、受講者の数、英語力、経験等により毎回の内容は前後することがある。</p> <p>第1週 【序論】授業の進め方の解説 / Rockets and Blue Lightsの概略</p> <p>第2週 講読：scenes 1 & 2 戯曲テキストの構造と読み方の解説</p> <p>第3週 scenes 3 & 4 / プレゼンテーション：J. M. W. Turner；人物と作品、英国美術史における位置</p> <p>第4週 scenes 5 & 6 / 欧州諸国による大西洋貿易の歴史 (15世紀末から現在までの概観)</p> <p>第5週 scenes 7 & 8 / ヴィクトリア朝期の英国における大西洋貿易</p> <p>第6週 scene 9 / 英国による奴隷貿易の歴史とその意味</p> <p>第7週 scenes 10 & 11 / 西アフリカ地域における奴隷貿易の意味</p> <p>第8週 scene 12 / 西アフリカ諸国と英国との関係の現状</p> <p>第9週 scene 13 / カリブ海地域における奴隷貿易の意味</p> <p>第10週 scenes 14 & 15 / カリブ海諸国と英国との関係の現状</p> <p>第11週 scene 16 / 英国の北米植民地 (後のアメリカ合衆国) における奴隷制度の意味と影響</p> <p>第12週 scene 17 & 18 / 奴隷貿易の歴史に対する批判の現状</p> <p>第13週 【異文化体験についてのプレゼンテーション】授業で学んできた知見を活かして、自らの異文化体験を英語で述べ、ディスカッションをする</p>					
----- アメリカ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (特殊講義)(2)

第14週【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としての現代英文学を包括的に理解する
第15週 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

a) テクストの講読と解説 40%、b) 指定トピックに関するプレゼンテーション 40%、c) 異文化体験に関するプレゼンテーション 20%により評価する。正当な理由なく2回以上欠席した場合は単位を認めない。

【教科書】

Winsome Pinnock 『Rockets and Blue Lights』 (Nick Hern Books, 2021) ISBN:978-1839040252

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修 (予習・復習) 等】

毎回十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで要点を整理し、異文化理解の観点から戯曲の理解に努めること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学143

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	新しい時代の異文化理解のための「文学研究と生成AI」				
【授業の概要・目的】					
<p>社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。この際、昨今注目を浴びている生成AIのリテラシーと精読・翻訳の作業を言語理解に合流させることで、生成AIの利用が当たり前になる世代に対するコミュニケーションと教育方法を模索する。この目的のため、異文化性や固有の歴史性が埋め込まれた文学テキストの読解を中心に授業を進め、最終的に受講者には、生成AIによってより豊かな解釈可能性をもつAI-Augmented Textを提出してもらう。</p>					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。 2) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。 3) 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。 4) 異文化コミュニケーションにとっての文学の重要性を理解している。 5) 生成AIのリテラシーを習得し、その適正な利用方法を理解している。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 Introduction：新しい時代の異文化理解のための「文学研究と生成AI」</p> <p>第2回 異文化理解の架橋と断絶 生成AIが異文化コミュニケーションにとってもちうる可能性と限界を検討する。</p> <p>第3回 「テキスト共同体」(Brian Stock)と「解釈共同体」(Stanley Fish) 異質な思考や文化的背景をもつ他者とコミュニケーションが可能な場を構想する。</p> <p>第4回 文学作品の原文精読(1) AIによる生成結果を信用しすぎないようするための方法として、Oxford English Dictionaryを用いて、英語で書かれた短編作品を丹念に読解し、close-readingの方法に習熟する。</p> <p>第5回 文学作品への注釈付け(2) 前回扱った作品に注釈を施し、多様な歴史的、社会的、文化的意味によって織りなされたテキストであることの意味を深める。</p> <p>第6回 文学作品の翻訳(1) 異文化間コミュニケーションにおける翻訳の重要性を理解するために、グループ間で翻訳の実践を行う。</p> <p>第7回 文学作品の翻訳(2) 前回の翻訳に対して既存の複数の翻訳を比較し、翻訳の諸問題を理解する。</p> <p>第8回 ChatGPT, Claude AI, Gemini等の生成AIサービスを用いた文学作品の読解の試み 生成AIを通じて文学作品を読解・翻訳し、解釈や訳語の不自然さや妥当性を検討する。</p> <p>第9回 ChatGPTを用いた文学作品の「続編」作成の試み 生成AIを通じて文学作品を創造的に拡張し、原文テキストに埋め込まれた歴史的、社会的、文化的意味がどのようにして拡張され、ある</p>					
アメリカ文学 (特殊講義)(2)へ続く					

アメリカ文学 (特殊講義)(2)

いは変容を受けるのかを考察する。

第10回 文学作品とテキスト生成、音声生成 提出課題となるAI-Augmented Textの準備作業を行い、生成物に埋め込まれた「異文化性」を理解する。

第11回 文学作品と画像生成 前週と同様にAI-Augmented Textの作成作業を行う。文学作品の情景描写文から生成AIによる挿絵の作成の試みると同時に、AIによるハルシネーションや過剰/過少生成を見破るリテラシーを手に入れる。

第12回 AI-Augmented Text作成の試み(1) 発表グループ1

第13回 AI-Augmented Text作成の試み(2) 発表グループ2

第14回 講評とグループディスカッション 12,13回で発表されたAI-Augmented Textに対して講評を行い、その後グループに分かれて討議を行う。

第15回 まとめと質疑応答

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況・提出物・口頭発表(60%)と学期末に提出するレポート(40%)によって評価する。

【教科書】

授業中に指示する

テキストはこちらで配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に指定する配布物を事前に予習しておくこと。復習としては、当該授業回で扱った範囲や学習内容を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜13:00~14:45。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学外国語学部 教授 宮澤 直美		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Edgar Allan PoeとTruman Capoteの作品を読む				
[授業の概要・目的]					
Edgar Allan Poeの "The Fall of the House of Usher" (1839)とTruman Capoteの"Miriam" (1945)を精読する。主に、部屋と登場人物について考察しながら、文化、歴史、視覚芸術などの文学以外のメディアとの関係性の中でテキストを読む。精読はしないものの、両作家の主要作品に言及しながら授業を進めていくため事前に翻訳で両者の作品をできるだけ多く読んでおくことを強くお勧めする。					
[到達目標]					
英語の原書を精読する力を養い、自分の読みや解釈をわかりやすく相手に説明できるようになること。両作家作品への理解を深めながら、文学テキストを読む様々なアプローチと視点があることを理解すること。					
[授業計画と内容]					
1.基本的に以下の計画に従って進める。ただし精読の進みぐあいを確認し、回数を変えることがある。 作品を精読する回では、学生の担当者が発表する。発表者は、レジュメを準備したうえで発表し、その発表をもとに参加者全員でディスカッションを行う。					
第1回 イン트로ダクション					
第2回 Poeとその作品について					
第3回 "The Fall of the House of Usher" 1					
第4回 "The Fall of the House of Usher" 2					
第5回 "The Fall of the House of Usher" 3					
第6回 "The Fall of the House of Usher" 4					
第7回 "The Fall of the House of Usher" 5とPoeのまとめ					
第8回 Capoteとその作品について					
第9回 "Miriam" 1					
第10回 "Miriam" 2					
第11回 "Miriam" 3					
第12回 "Miriam" 4					
第13回 "Miriam" 5とCapoteのまとめ					
第14回 総論とまとめ					
第15回 フィードバック					
----- アメリカ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価（授業内での発表やディスカッションへなど）：60%
期末レポート：40%

【教科書】

使用しない
データで共有する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・ 授業中に扱う範囲のテキストを、参加者全員が毎回丁寧に精読をした上で授業に臨むこと。
- ・ 発表の担当者は、発表準備をして臨むこと。
- ・ 精読はしないものの、両作家の主要作品に言及しながら授業を進めていくため、ポーの「黒猫」やカポーティの「最後の扉を閉めて」（"Shut a Final Door" 1947）など、翻訳で作品を事前に読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中に伝えます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学145

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 後藤 篤		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	冷戦期アメリカ小説研究 Ernest HemingwayのThe Old Man and the Seaを読む				
[授業の概要・目的]					
The Old Man and the Sea (1952) を中心に、Ernest Hemingway (1899-1961) の作品およびHemingwayを論じた先行研究・批評等の関連資料を取り上げる。毎回の授業では、冷戦期アメリカ文学・文化に関する解説もまじえながら、受講者による発表とディスカッションをもとに、主として演習形式でテキストを精読する。					
[到達目標]					
比較的難易度の高いテキストの解釈に取り組むことにより、文章の一語一句に込められた微妙なニュアンスが読み取れるような英文解釈のセンスに磨きをかける。同時に、批評理論・文化理論や関連する欧米の文化事象についての知識と理解を深めるなかで、作品のテキスト/コンテキストを読み解く批評眼を養う。					
[授業計画と内容]					
第1回 インTRODクシヨN 第2回 “ Cat in the Rain ” 第3回 “ On the Blue Water: A Gulf Stream Letter ” 第4回 The Old Man and the Sea (1) 第5回 The Old Man and the Sea (2) 第6回 The Old Man and the Sea (3) 第7回 The Old Man and the Sea (4) 第8回 The Old Man and the Sea (5) 第9回 The Old Man and the Sea (6) 第10回 The Old Man and the Sea (7) 第11回 The Old Man and the Sea (8) 第12回 先行研究・批評 (1) 第13回 先行研究・批評 (2) 第14回 先行研究・批評 (3) 第15回 授業のまとめ・フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
----- アメリカ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート50%と発表課題30%、平常点20%（毎回の授業中の発言やディスカッションへの貢献、授業後のコメント提出）を総合的に判断する。

[教科書]

Ernest Hemingway 『The Old Man and the Sea』 (Scribner, 2003) ISBN:978-0-684-80122-3

[参考書等]

（参考書）

Peter Barry 『Beginning Theory: An Introduction to Literary and Cultural Theory』 (Manchester UP, 2017)

三原芳秋・渡邊英理・鶴戸聡編 『クリティカル・ワード 文学理論 読み方を学び文学と出会いなおす』 (フィルムアート社、2020)

[授業外学修（予習・復習）等]

辞書・辞典類、アメリカ言語文化および批評理論・文化理論、現代思想に関する文献資料あるいはインターネット資料を積極的に参照し、毎回の範囲を丁寧に予習した上で授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学146

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	佛教大学文学部英米学科 准教授 メドロック 麻弥	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Vladimir Nabokovの短編における女性像 研究				
【授業の概要・目的】					
Vladimir Nabokov (1899-1977)の短編をいくつか精読し、ナボコフの女性の描き方について考察する。授業では、3人称の語りの中で語られる女性 ("Details of a Sunset", "Bachmann")、男性の語り手によって語られる女性 ("The Vane Sisters")、語り手としての女性 ("A Slice of Life") など、様々な立場の女性に注目し、その特徴を見出し、分析することを目的とする。					
【到達目標】					
技巧的な散文を読み解く想像力と論理的思考力を習得する Nabokovの世界観を説明することができる 文学作品の緻密な読み方を習得する					
【授業計画と内容】					
第1回 イン트로ダクション					
第2回 "Details of a Sunset" 輪読1					
第3回 "Details of a Sunset" 輪読2					
第4回 "Bachmann" 輪読1					
第5回 "Bachmann" 輪読2					
第6回 "Bachmann" 輪読3					
第7回 "A Slice of Life" 輪読1					
第8回 "A Slice of Life" 輪読2					
第9回 "The Vane Sisters" 輪読1					
第10回 "The Vane Sisters" 輪読2					
第11回 "The Vane Sisters" 輪読3					
第12回 "The Vane Sisters" 輪読4					
第13回 "A Russian Beauty" 輪読1					
第14回 "A Russian Beauty" 輪読2					
第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
----- アメリカ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (特殊講義)(2)

【成績評価の方法・観点】

平常点70点+学期末レポート30点として評価する。
平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。
レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析しているか、といった点を評価する。

【教科書】

使用しない
はじめに精読する"Details of a Sunset"のテキストのみ、PandAにアップロードします。そのあとの作品については、テキストを授業内で配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

一回の授業で、3ページほど輪読をする予定です。自分なりの日本語訳ができるように、毎回予習して授業にのぞんでください。日本語訳だけでなく、問題点、気になる点などもまとめてきてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学147

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 大学院国際文化学研究科 教授 西谷 拓哉	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19世紀アメリカ文学に見る白人と黒人の交流				
[授業の概要・目的]					
この授業では、19世紀のアメリカ文学における人種表象を読み解きながら、アメリカ合衆国において白人文化と黒人文化の接触によってハイブリッドな文化が生まれてきたプロセスを考察することを目的とする。扱う作品は、ポー、メルヴィル、ストウ、トウェインの小説のほか、奴隷体験記、黒人霊歌等も含む。					
[到達目標]					
1. 19世紀のアメリカにおける白人と黒人の文化的交流について基本的な知識を得る。 2. 文学作品の読解を通して、南北戦争前後における人種関係の多様性と多義性を理解する。					
[授業計画と内容]					
前半では、植民地時代から19世紀前半において白人と黒人が接触し、相互交流してきた歴史を概観するとともに、主として19世紀前半のアメリカ文学において描かれた黒人像をたどる。ここでは、白人と黒人の政治的関係を背景として踏まえつつ、19世紀アメリカ文学における人種観の形成とその変容を検討する。後半では、南北戦争以後の白人と黒人の交流史を概観しながら、アメリカ文学において描かれた黒人像の変遷をたどり、19世紀後半における人種表象のあり方や人種の境界線上にある人々の自己意識を検討する。					
第1回	イントロダクション：アメリカにおける黒人の歴史				
第2回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像 (1)：ポーの諸作品(1)				
第3回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像 (1)：ポーの諸作品(2)				
第3回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像 (3)：メルヴィル『白鯨』				
第4回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像 (4)：メルヴィル「ベニート・セレーノ」(1)				
第5回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像 (5)：メルヴィル「ベニート・セレーノ」(2)				
第6回	反奴隷制の文学 (1)：奴隷体験記、黒人霊歌				
第7回	反奴隷制の文学 (2)：ストウ『アンクル・トム的小屋』(1)				
第8回	反奴隷制の文学 (3)：ストウ『アンクル・トム的小屋』(2)				
第9回	南北戦争の文学的表象				
第10回	マーク・トウェインの描く黒人像 (1)：『トム・ソーヤーの冒険』、				
第11回	マーク・トウェインの描く黒人像 (2)：『ハックルベリー・フィンの冒険』ほか(1)				
第12回	マーク・トウェインの描く黒人像 (3)：『ハックルベリー・フィンの冒険』ほか(2)				
第13回	パッシング小説と映画の系譜(1)				
第14回	パッシング小説と映画の系譜(2)				
第15回	現代黒人文学への接続				
----- アメリカ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

アメリカにおける白人文化と黒人文化の交流の流れを理解できているか、人種関係を理解できているか、アメリカ文学の作品読解がきちんとできているかといった観点から評価する。

平常の活動(40%)、最終レポート(60%)を総合して評価する。

平常の活動は毎回のコメントシート、小レポートによって評価する。

最終レポートは独創性・着眼点(50%)、文章構成(30%)、資料の活用度(20%)により評価する。

【教科書】

KULASISよりプリントを配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

事前に作品からの引用を読んでおくことが求められます。

(その他(オフィスアワー等))

授業前後の相談、メールでの問い合わせを受けつけます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語語法文法研究				
[授業の概要・目的]					
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>					
[到達目標]					
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。					
[授業計画と内容]					
1回：英語語法文法研究とは 2回：英語語法文法研究に資する例文データベースの構築方法 3回：例文データベースに対する分類タグ付けの方法 4回：生成文法と語法文法研究の関係 5回：生成文法の視点から見た語法文法研究 6回：動的文法理論と語法文法研究の関係 7回：動的文法理論の視点から見た語法文法研究 8回：認知言語学と語法文法研究の関係 9回：認知言語学の視点から見た語法文法研究 10回：談話の構成と語法文法研究 11回：英語史と語法文法研究の関係 12回：英語史の視点からの語法文法研究 13回：コーパスと語法文法研究の関係 14回：コーパスを用いた語法文法研究 15回：まとめ					
----- アメリカ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

日頃の課題提出を含む平常点。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語語法文法研究				
[授業の概要・目的]					
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>					
[到達目標]					
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。					
[授業計画と内容]					
1回：英語語法文法研究とは 2回：英語語法文法研究に資する例文データベースの構築方法 3回：例文データベースに対する分類タグ付けの方法 4回：生成文法と語法文法研究1 5回：生成文法と語法文法研究2 6回：動的な文法理論と語法文法研究1 7回：動的な文法理論と語法文法研究2 8回：認知言語学と語法文法研究1 9回：認知言語学と語法文法研究2 10回：談話の構成と語法文法研究 11回：英語史と語法文法研究1 12回：英語史と語法文法研究2 13回：コーパスと語法文法研究1 14回：コーパスと語法文法研究2 15回：まとめ					
----- アメリカ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

日頃の課題提出を含む平常点。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イギリス、アイルランドにおけるバラッドの伝統				
[授業の概要・目的]					
<p>「バラッド」とは物語詩を意味する。民衆によって口承で伝えられた作者不詳のいわゆる俗謡が、現在「読む文学」として詩のジャンルの一角を成しているのには、18、19世紀の知識人たちによる蒐集熱に負うところが大きい。Thomas Percyが編纂したReliques of Ancient English Poetry(1765)は、ワーズワースをはじめ、数多くの詩人の詩想に働きかけ、イギリスロマン主義運動の一大要因となった。また、Francis James Childが編纂したThe English and Scottish Popular Ballads 全5巻 (1882-1889)に収められた305篇のバラッドは、通称Child Balladsと呼ばれており、イギリスの伝承バラッドにおける金字塔である。作者不詳の伝承バラッドに対して、近代以降の詩人たちがそれを模して創作した作品は、「バラッド詩」や「文学的バラッド」などと呼ばれる。</p> <p>本講義では、まず伝承バラッドについて学んだうえでバラッド詩を精読し、その伝統が詩人たちによってどのように受け継がれ、再創造されてきたかについて考える。また、アイルランドでは、イギリスからの独立運動の中で「レベル・バラッド」という政治詩が発展を遂げた。そのようなアイルランドにおける伝統を学んだうえで、W. B. イェイツの書いたバラッド作品を読む。</p> <p>授業では、原書のテキストに向き合う姿勢を身に付け、詩を読むために必要な知識を学ぶことによって、作品を読み解く鍛錬を行う。それとともに、適宜、伝記的批評、詩論などの文献を併せて読み、その知識を関連させて作品を考察する。</p> <p>授業は口頭発表とディスカッションを中心に進める。毎回、授業内でコメントシートを作成してもらう。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イギリス、アイルランドにおけるバラッドの伝統についての知識を身に付け、文学史における位置づけを理解する。 2. バラッドの伝統が詩人たちによってどのように受け継がれているか考察する。 3. 英詩を精読することによって、テキストを読み解く力を向上させる。 4. 口頭発表、ディスカッション、コメントシート作成などの作業を通して、論理的思考や表現力を身に付ける。 					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション、授業の進め方についての説明、伝承バラッドについて ("Scarborough Fair" " Edward")					
第2回 伝承バラッド1: Child Ballads 1 " The Wife of Usher's Well "					
第3回 伝承バラッド2: Child Ballads 2 " The Two Sisters "					
第4回 伝承バラッド3: Child Ballads 3 " Thomas Rhymer " (John Keatsの " La Belle Dame sans Merci" と比較する)					
第5回 バラッド詩1: William Wordsworth 1					
アメリカ文学 (特殊講義)(2)へ続く					

アメリカ文学 (特殊講義)(2)

- 第6回 バラッド詩2: William Wordsworth 2
第7回 バラッド詩3: Christina Rossetti
第8回 バラッド詩4: Edwin Muir
第9回 バラッド詩5: W. H. Auden 1
第10回 バラッド詩6: W. H. Auden 2
第11回 アイルランドのレベル・バラッド
第12回 バラッド詩7: W. B. Yeats 1
第13回 バラッド詩8: W. B. Yeats 2
第14回 バラッド詩9: W. B. Yeats 3
第15回 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

【教科書】

プリントを配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、一編、あるいは二編の詩を扱う予定です。担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。

口頭発表の担当ではない場合も、作品を読んで十分に準備し、授業内でのディスカッションに備えること。活発な議論を期待しています。

授業で紹介する作品や参考文献を読み、自主的にリサーチを行い、期末レポートの執筆に役立ててください。

【その他(オフィスアワー等)】

連絡先は授業時にお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学151

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	同志社女子大学表象文化学部 木島 菜菜子 准教授		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Charles Dickens, *A Tale of Two Cities*を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>ディケンズの『二都物語』は、フランス革命を題材とした歴史小説である。有名な作品のため、あらすじなどは簡単に手に入るが、本授業では改めて原書を丁寧に読み進めながら、自分の感性を出発点に文学作品を論じる楽しさを味わう。出版時の歴史的・文化的背景やこれまでの先行研究で議論されてきた点、他の作家との影響関係、小説を論じる際の基本的な概念もおさえつつ、作品の読みどころの再発見と更なる解釈の可能性を探る。</p>					
[到達目標]					
<p>辞書を引きながら原書を楽しんで読むことができる。 小説読解のための英語力を身につけている。 小説を論じるための基礎的な概念や知識を身につけており、自分の言葉で作品の読みどころを論じることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション (授業の進め方の説明など) 第2回 *A Tale of Two Cities* Book 1, Chapter 1~4 第3回 *A Tale of Two Cities* Book 1, Chapter 5~6 第4回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 1~3 第5回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 4~6 第6回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 7~9 第7回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 10~13 第8回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 14~15 第9回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 16~18 第10回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 19~21 第11回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 22~24 第12回 *A Tale of Two Cities* Book 3, Chapter 1~3 第13回 *A Tale of Two Cities* Book 3, Chapter 4~9 第14回 *A Tale of Two Cities* Book 3, Chapter 10~15 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
<p>特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。</p>					
----- アメリカ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：50%
期末レポート：50%

[教科書]

Charles Dickens 『A Tale of Two Cities』 (Penguin) ISBN:9780141439600

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、該当する章を読み、コメントペーパーを提出する。

（その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学152

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	神戸学院大学 准教授 WROBETZ, Kevin Reay	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Academic Writing 1: Linguistics, Game Theory, and Social Interaction				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will introduce students to the concepts of linguistics and game theory through the context of social interaction. Specifically, this course will help students understand how the English language underpins social interaction on a global scale and how the rules of social interaction directly affect the use of language. Throughout the course, students will actively participate in games which highlight different contexts of social interaction in the English language as well as discuss how game rules may be modified to achieve different contexts of social interaction in English. As this is a content-focused course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarize in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. Much of the content of the course discussions and course materials will relate how the principles of linguistics and game theory may be applied to achieve a deeper understanding of intercultural communication in specific contexts.</p>					
[到達目標]					
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today, the sociocultural context of intercultural communication, and the inner mechanics of various games which influence how communication plays out. The active participation in games, group discussions, and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the course materials will broaden students' vocabulary skills and general knowledge of the goals of intercultural communication, linguistics, game theory, and the significance of the context of intercultural communication.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. Classroom sessions will involve active participation in various games, short lectures to clarify relevant concepts, and group discussions to help students think critically about the main topics of the course. The course will evaluate students through the use of in-class comprehension activities and comprehension worksheets. Additionally, students will submit and present the content of a research essay to evaluate the students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content.</p>					
<p>Week 1: Course Introduction Week 2: Competition and the Spread of Disinformation A: Game Introduction Week 3: Competition and the Spread of Disinformation B: Informed Majority Vs. Uninformed Minority Week 4: Competition and the Spread of Disinformation C: Language of Deception Week 5: Competition and the Spread of Disinformation D: Class Discussion of Competitive Games Week 6: Competition and the Spread of Disinformation E: Competition and Conspiracy (Us Vs. Them) Week 7: Competition and the Spread of Disinformation F: The Prisoner's Dilemma and the Erosion of Trust Week 8: Cooperation and Global Climate Change Coalitions A: Game Introduction</p>					
<p>アメリカ文学 (特殊講義)(2)へ続く</p>					

アメリカ文学 (特殊講義)(2)

Week 9: Cooperation and Global Climate Change Coalitions B: From Each According to Their Ability
Week 10: Cooperation and Global Climate Change Coalitions C: Language of Teamwork
Week 11: Cooperation and Global Climate Change Coalitions D: Class Discussion of Cooperative Games
Week 12: Cooperation and Global Climate Change Coalitions E: Climate Change Coalition
Week 13: Cooperation and Global Climate Change Coalitions F: The Shapley Value and the Building of Trust
Week 14: Student Presentations on Essays
Week 15: Make-Up Lesson

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Comprehension Worksheets: 10%
Essay: 20%
Oral Presentation: 20%
Class Participation: 60%

【教科書】

All reading material and instructional media will be provided by the course instructor. Some of the reading material will focus on cooperative and competitive game theory (Von Neumann & Morgenstern).

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Weekly reading preparation for class discussion. Submission of comprehension worksheets based on the content of weekly readings, in-course instructional material, and lecture content. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

【その他(オフィスアワー等)】

If students have any questions regarding this course, they are encouraged to contact the instructor at krwrobetz@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学153

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸学院大学 准教授 WROBETZ, Kevin Reay		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Academic Writing 2: Linguistics, Game Theory, and Social Interaction				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will introduce students to the concepts of linguistics and game theory through the context of social interaction. Specifically, this course will help students understand how the English language underpins social interaction on a global scale and how the rules of social interaction directly affect the use of language. Throughout the course, students will actively participate in games which highlight different contexts of social interaction in the English language as well as discuss how game rules may be modified to achieve different contexts of social interaction in English. As this is a content-focused course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarize in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. Much of the content of the course discussions and course materials will relate how the principles of linguistics and game theory may be applied to achieve a deeper understanding of intercultural communication in specific contexts.</p>					
[到達目標]					
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today, the sociocultural context of intercultural communication, and the inner mechanics of various games which influence how communication plays out. The active participation in games, group discussions, and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the course materials will broaden students' vocabulary skills and general knowledge of the goals of intercultural communication, linguistics, game theory, and the significance of the context of intercultural communication.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. Classroom sessions will involve active participation in various games, short lectures to clarify relevant concepts, and group discussions to help students think critically about the main topics of the course. The course will evaluate students through the use of in-class comprehension activities and comprehension worksheets. Additionally, students will submit and present the content of a research essay to evaluate the students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content.</p> <p>Week 1: Course Introduction Week 2: Intercultural Communication During Disaster A: Game Introduction Week 3: Intercultural Communication During Disaster B: The Interconnectedness of the Globe Week 4: Intercultural Communication During Disaster C: The Role of Communication Week 5: Intercultural Communication During Disaster D: Class Discussion on the Global Response to Pandemics Week 6: Intercultural Communication During Disaster E: Abstraction of Complexity (Learning From Past Mistakes)</p>					
----- アメリカ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (特殊講義)(2)

Week 7: Intercultural Communication During Disaster F: Parallels to Real Life

Week 8: What Housing Crisis? Japan Vs. the West A: Game Introduction

Week 9: What Housing Crisis? Japan Vs. the West B: Play by the Rules (Zoning Ordinances)

Week 10: What Housing Crisis? Japan Vs. the West C: Don't Play by the Rules (Changing Zoning Ordinances)

Week 11: What Housing Crisis? Japan Vs. the West D: Class Discussion on the Housing Crisis in the West

Week 12: What Housing Crisis? Japan Vs. the West E: Comparing Japanese and Western Housing Markets

Week 13: What Housing Crisis? Japan Vs. the West F: Different Rules, Different Outcomes

Week 14: Student Presentations on Essays

Week 15: Make-Up Lesson

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Comprehension Worksheets: 10%

Essay: 20%

Oral Presentation: 10%

Class Participation: 60%

【教科書】

All reading material and instructional media will be provided by the course instructor. Some of the reading will focus on group actions in repeated games (Farrell & Maskin) and the cross-cultural legislative implementation of zoning ordinances (Durning).

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修（予習・復習）等】

Weekly reading preparation for class discussion. Submission of comprehension worksheets based on the content of wweekly readings, in-course instructional material, and lecture contnet. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

（その他（オフィスアワー等））

If students have any questions regarding this course, they are encouraged to contact the instructor at krwrobetz@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学154

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英詩の精読、および評論の読解				
[授業の概要・目的]					
<p>英詩を読むために必要な知識を身に付け、作品を読み解く鍛錬を行う。併せて詩に関連する評論を読むことによって、個々の作品に対する理解を深め、作品の論じ方を学ぶ。本講義は、主に Terry EagletonのHow to Read a Poem (Blackwell 2007)の第5章"How to Read a Poem"、第6章"Four Nature Poems"を基に構成しており、その中で扱われている"Tone, Mood and Pitch" "Syntax, Grammar and Punctuation" "Ambiguity" "Rhyme"といったテーマに沿って詩と評論を読む。取り上げる作品は、Robert Browning "Porphyria's Lover," W. B. Yeats "A Dialogue of Self and Soul," Christina Rossetti "Remember," Thomas Hardy "The Darkling Thrush," Philip Larkin "Days," Wilfred Owen "Insensibility" John McCrae "In Flanders Fields," William Wordsworth "The Solitary Reaper" など。本書における Eagletonの問題意識や洞察を手掛かりに、詩の精読の方法を学ぶだけでなく、詩を論じること自体についての考えを深めていきたい。</p> <p>授業は口頭発表とディスカッションを中心に進める。毎回、授業内でコメントシートを作成してもらう。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英詩を精読することによって、テキストを読み解く力を向上させる。 2. 口頭発表、ディスカッション、コメントシート作成などの作業を通して、論理的思考や表現力を身に付ける。 3. 詩論を読む力を錬成し、批評との対話を行う。 					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション、授業の進め方についての説明、How to Read a Poemが書かれた背景について					
第2回 Is Criticism Just Subjective?					
第3回 Tone, Mood and Pitch					
第4回 Tone, Mood and Pitch					
第5回 Intensity and Pace					
第6回 Texture					
第7回 Syntax, Grammar and Punctuation					
第8回 Syntax, Grammar and Punctuation					
第9回 Ambiguity					
第10回 Ambiguity					
第11回 Rhyme					
第12回 Rhyme					
第13回 Nature Poem1					
第14回 Nature Poem2					
第15回 フィードバック					
----- アメリカ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

[教科書]

プリントを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、一編、あるいは二編の詩を扱う予定です。担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。

口頭発表の担当ではない場合も、作品と批評を読んで十分に準備し、授業内でのディスカッションに備えること。活発な議論を期待しています。

授業で紹介する作品や参考文献を読み、自主的にリサーチを行い、期末レポートの執筆に役立ててください。

(その他(オフィスアワー等))

連絡先は授業時にお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (特殊講義) American Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 尾崎 俊介		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ自己啓発思想史				
[授業の概要・目的]					
<p>現在、日本でも数多く売られている「自己啓発本」だが、その起源は18世紀末のアメリカで出版されたベンジャミン・フランクリンの『自伝』に遡る。自助努力によって見事なまでの立身出世を遂げたフランクリンの『自伝』が広く読まれたことで、当時のアメリカ人の間に野心が生れ、「アメリカン・ドリーム」がスタートしたと言ってよい。その意味では、アメリカの近代化は、自己啓発本によって促されたのだ。</p> <p>そしてその後、およそ200年が経過する間に「自己啓発本」は様々な発展をし、今日では傍系・亜流を含めて膨大なサブジャンルを従える一大文学ジャンルに成長した。そしてその影響は太平洋を越え、遠く日本にも及んでいる。事実、明治時代に一気に進んだ日本の近代化は、福沢諭吉の『学問のすゝめ』、中村正直の『西国立志編』の二冊の自己啓発本によって成し遂げられたとも言える。</p> <p>本講義では、アメリカ発祥の文学ジャンルである「自己啓発本」の歴史を追いながら、それがアメリカの、そして日本の近/現代思想史・生活史にどのような影響を与えてきたかについて、概説していきたい。</p>					
[到達目標]					
<p>自己啓発本というと、立身出世や金儲けなどを指南するノウハウ集かと誤解されがちだが、自己啓発本の出版史をたどっていくと、この特異な文学ジャンルがアメリカの急速な近代化に大きな影響を与えてきたことがわかる。</p> <p>本講義では、アメリカ発祥の文学である自己啓発本の出版史を概観することで、アメリカという国と自己啓発本が相互依存的に発展していった経緯を理解できるようにしたい。また併せて、アメリカ発の自己啓発本が日本の近代化にいかに甚大な影響を与えてきたかについても、認識を高めていきたい。</p>					
[授業計画と内容]					
以下はあくまでも予定です。受講生の人数などによって適宜調整します。					
1日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回：エマニュエル・スウェーデンボルグのニューソート革命（講義） ・ 2回：ベンジャミン・フランクリンと自助努力系自己啓発思想の誕生（講義） ・ 3回：福沢諭吉『学問のすゝめ』と日本の近代化（講義・小レポート） 					
2日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 4回：精神療法の誕生（講義） ・ 5回：ラルフ・ウォルドー・エマソンの思想と引き寄せの法則（講義） ・ 6回：引き寄せ系自己啓発本の誕生（講義・小レポート） 					
----- アメリカ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (特殊講義)(2)

3日目

- ・ 7回：引き寄せ系自己啓発本のインパクト（講義）
- ・ 8回：デール・カーネギーの登場と自己啓発本読者の変容(講義)
- ・ 9回：20世紀半ばのポジティブ思考（講義・小レポート）

4日目

- ・ 10回：1960年代、ベビー・ブーマーと自己啓発本の関係（講義）
- ・ 11回：1970年代、ミーイズムの時代の自己啓発思想（講義）
- ・ 12回：ベティ・フリーダン『女らしさの神話』と女性向け自己啓発本（講義・小レポート）

5日目

- ・ 13回：エリザベス・キューブラー・ロスの死後生研究（講義）
- ・ 14回：生まれ変わり言説と自己啓発思想（講義）
- ・ 15回：21世紀のポジティブ心理学（講義・小レポート）

期末試験

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

小レポート5回分（25%）、試験（75%）で総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

尾崎俊介 『14歳からの自己啓発』（トランスビュー、2023年）ISBN:978-4-7989-0187-5

尾崎俊介 『アメリカは自己啓発本でできている』（平凡社、2024年）ISBN:978-4-582-83949-4

尾崎俊介 『大学教授が解説 自己啓発の必読ランキング60』（KADOKAWA、2025年）ISBN:978-4041153277

[授業外学修（予習・復習）等]

自己啓発本という文学ジャンルについてのおおよその認識を持つため、スティーブン・R・コヴィーの『7つの習慣』、デール・カーネギーの『人を動かす』、ロンダ・バーンの『ザ・シークレット』のすべて、あるいはいずれかを事前に読んでおいてください。

（その他（オフィスアワー等））

連絡はメールで行います。メールアドレスは、sozaki@aecc.aichi-edu.ac.jpです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学156

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (特殊講義) American Literature (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	Stylistic analysis				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業は、主に客員教授のLorenzo Mastropiero先生(イタリア、インスブリア大学)が担当しますが家入が補助します。Mastropiero先生の来日スケジュールに変更が生じた場合は、講義内容および使用言語等に変更が生じることがあります。</p> <p>Stylistics is the study of style, the idiosyncratic ways in which language is used by individuals in different contexts and situations. Stylistic analysis builds on linguistic examination to illustrate how texts work: doing stylistics means exploring linguistic features to explain what meanings they convey, what effects they create, and how they are interpreted by readers. This course introduces students to stylistics, with a focus on hands-on stylistic practice. It covers key concepts in stylistics and shows how to study them through a series of practical tasks. During the lessons, students are asked to analyse and discuss a range of different text types to learn how stylistics can be applied flexibly to a wide variety of textual genres. The course combines sessions in which stylistic notions and models are introduced and applied to qualitative analysis to sessions where corpus tools and methods are presented and employed in quantitative investigations. As no prior experience in corpus linguistics is required, particular attention is paid to the acquisition of the technical know-how to carry out corpus-assisted investigations of stylistically relevant features, making the most of freely available online tools. Through this combination of theoretical perspectives and practical guidance, students will be equipped with the skills to engage in effective stylistic analysis and apply it to their own work.</p>					
[到達目標]					
<p>On successfully completing the course, students will learn how to carry out qualitative and quantitative stylistic analysis. More specifically, students will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Apply key stylistic concepts and models to the study of a wide variety of texts; - Build on the description of stylistic features in the process of textual interpretation; - Analyse the interface between form and meaning, evaluating how and to what extent language choices influence readerly perceptions of a text; - Demonstrate their understanding of foundational corpus-linguistics concepts and of the principles of quantitative analysis; - Use a range of corpus tools and methods in stylistic analysis; - Employ quantitative evidence to develop and support lines of argument in the analysis of texts. <p>Moreover, students will be able to design and develop their own stylistic project, learning to apply the technical and analytical skills acquired in this course to other research contexts involving textual analysis.</p>					
----- アメリカ文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (特殊講義)(2)

【授業計画と内容】

1. Introduction to stylistics
2. Deviance and foregrounding
3. Corpus methods for stylistic analysis
4. Concordance analysis
5. Keyword analysis
6. Collocation analysis
7. Comparing frequencies
8. Characterisation and representation
9. Clusters
10. Speech and thought presentation;
11. Transitivity
12. Perspective and viewpoint
13. Stylistics and translation I
14. Stylistics and translation II
15. Finding research questions

【履修要件】

Reading assigned texts, active participation in class, final essay

【成績評価の方法・観点】

Attendance & class contribution: 40%
Essay: 60%

【教科書】

授業中に指示する

Readings will be provided throughout the course

【参考書等】

(参考書)

Burke, M. (Ed.) 『The Routledge Handbook of Stylistics (2nd edition)』 (Routledge, 2023)

Jeffries, L., & McIntyre, D. 『Stylistics』 (Cambridge University Press, 2010)

Mastropierro, L. 『Corpus Stylistics in Heart of Darkness and its Italian Translations』 (Bloomsbury, 2017)

McEnery, T., & Hardie, A. 『Corpus Linguistics』 (Cambridge University Press, 2012)

McIntyre, D., & Walker, B. 『Corpus Stylistics: Theory and Practice』 (Edinburgh University Press, 2019)

O'Keeffe, A., & McCarthy, M. (Eds.) 『The Routledge Handbook of Corpus Linguistics (2nd edition)』 (Routledge, 2022)

Simpson, P. 『Stylistics: A Resource Book for Students』 (Routledge, 2014)

Sotirova, V. (Ed.) 『The Bloomsbury Companion to Stylistics』 (Bloomsbury, 2016)

Stockwell, P., & Whitely, S. 『The Cambridge Handbook of Stylistics』 (Cambridge University Press, 2015)

アメリカ文学 (特殊講義)(3)へ続く

アメリカ文学 (特殊講義)(3)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Assigned reading

(その他 (オフィスアワー等))

必要な場合は、<https://iyeyri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学157

科目ナンバリング	U-LET19 23541 SJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (演習 I) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ文学の代表的戯曲を読む (1) _The Glass Menagerie_ 精読				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業はTennessee Williamsの戯曲_The Glass Menagerie_ (1945) を精読します。セントルイスの小さなアパートを舞台に、母と子供たちの葛藤、切実な願望と挫折が、息詰まるような臨場感をもって描かれています。本授業では、本作のテーマを探究するだけでなく、「戯曲」というジャンルの特性とその表現の意味に着目し、演劇作品を「読む」ことの意義を共に考えます。</p>					
[到達目標]					
<p>英語で書かれたフィクションの読み方を学習する。 アメリカ文学における代表的戯曲を読む。 戯曲というジャンルについて理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のスケジュールはあくまでも予定です。必ず初回授業で配布されるスケジュールをご参照ください。</p> <p>第1回：Introduction: 作者紹介および戯曲を読むことについての説明 第2回：Scene Oneを読む 第3回：Scene Twoを読む 第4回：Scene Threeを読む 第5回：Scene Four (1)を読む 第6回：Scene Four (2)を読む 第7回：Scene Fiveを読む 第8回：Scene Six (1)を読む 第9回：Scene Six (2)を読む 第10回：Scene Seven (1)を読む 第11回：Scene Seven (2)を読む 第12回：Scene Seven (3)を読む 第13回：レポートワークショップ 第14回：本授業全体の総括 第15回：フィードバック</p>					
----- アメリカ文学 (演習 I)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (演習 I)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回の授業後にメールにてコメント提出（20％）・発表（40％：予定回数は1回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。

【教科書】

テキストはPandAにてpdf形式で配布します。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まない（毎回およそ15ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学158

科目ナンバリング	U-LET19 23541 SJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (演習 I) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ文学の代表的戯曲を読む (2) _Death of a Salesman_ 精読				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業はArthur Millerの戯曲_Death of a Salesman_ (1949) を精読します。本作は、家族の葛藤や夢の挫折を描いた20世紀を代表する家庭劇であり、発表から四半世紀以上経った現代においても、切実に感じられる作品です。本授業では、本作のテーマを探究するだけでなく、「戯曲」というジャンルの特性とその表現の意味に着目し、演劇作品を「読む」ことの意義を共に考えます。</p>					
[到達目標]					
<p>英語で書かれたフィクションの読み方を学習する。 アメリカ文学における代表的戯曲を読む。 戯曲というジャンルについて理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のスケジュールはあくまでも予定です。必ず初回授業で配布されるスケジュールをご参照ください。</p> <p>第1回：Introduction: 作者紹介および戯曲を読むことについての説明 第2回：Act One (1)を読む 第3回：Act One (2)を読む 第4回：Act One (3)を読む 第5回：Act One (4)を読む 第6回：Act One (5)を読む 第7回：Act Two (1)を読む 第8回：Act Two (2)を読む 第9回：Act Two (3)を読む 第10回：Act Two (4)を読む 第11回：Act Two (5)を読む 第12回：Act Two (6)を読む 第13回：レポートワークショップ 第14回：本授業全体の総括 第15回：フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>毎回の授業後にメールにてコメントシートを提出 (20%) ・発表 (40% : 予定回数は1回) ・期末レポート (40%) にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分</p>					
----- アメリカ文学 (演習 I)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (演習 I)(2)

どの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。

【教科書】

テキストはすべてPandA経由で配布します。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まない（毎回およそ15ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学159

科目ナンバリング	U-LET19 23541 SJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (演習 I) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英文法の面白さと英語の多様性、変化				
[授業の概要・目的]					
<p>Merja Kyto & Paivi Pahta (ed.), The Cambridge Handbook of English Historical Linguistics (CUP, 2016) (図書館のものを利用)の中から指定する章を読むとともに、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、そのテーマについて授業中に議論を行い、学期末にはレポートを作成します。今年度は、少し英語史の視点に重点を置いた授業となります。</p>					
[到達目標]					
<p>Merja Kyto & Paivi Pahta (ed.), The Cambridge Handbook of English Historical Linguistics (CUP, 2016)の中から指定する章を講読し、英文法を多様な視点から再確認します。合わせて英語学関係の論文を講読し、英語の多様性、変化への理解を深めるとともに、コーパス言語学の手法や談話分析の手法を習得することを目標とします。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回： イントロダクション 第2回： コーパス言語学のアプローチによる英語の分析 (1) 第3回： コーパス言語学のアプローチによる英語の分析 (2) 第4回： 文法化と語彙化の視点から (1) 第5回： 文法化と語彙化の視点から (2) 第6回： 談話分析の手法を用いたアプローチ (1) 第7回： 談話分析の手法を用いたアプローチ (2) 第8回： 歴史社会言語学と英語研究 (1) 第9回： 歴史社会言語学と英語研究 (2) 第10回： 歴史語用論的なアプローチ (1) 第11回： 歴史語用論的なアプローチ (2) 第12回： 英語の標準化と規範文法 第13回： 英語の地域性 第14回： 言語接触と英語 第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括</p>					
<p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。 なお必要な場合には、レポートの作成に有用なオンラインツールや辞書の使い方等を習得するためのワークショップ・セミナー等を行うことがあります。</p>					
----- アメリカ文学 (演習 I)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (演習 I)(2)

【履修要件】

英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、特殊講義（家入葉子・Lorenzo Matropierro）、特殊講義（Kevin Wrobetz）、特殊講義（滝沢直宏）、外国語実習（Lachlan Rigby Jackson）も提供（予定）しています。英語の多様性への理解には、英語の歴史についての知識とともに、現代英語の実際に触れることも欠かせませんので、要件ではありませんが、余裕がある人はこれらの授業の受講もご検討ください。

【成績評価の方法・観点】

授業への貢献度（40%）およびレポート（60%）によって評価を行います。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

Andreea S. Calude & Laurie Bauer 『Mysteries of English Grammar: A Guide to Complexities of the English Language』（Routledge）

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の予習（全員）及び、論文の講読（担当者）をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET19 23541 SJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (演習 I) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中英語入門				
[授業の概要・目的]					
指定した中英語文献を講読するほか、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、中英語テキストを題材に英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、学期末にはレポートを作成します。					
[到達目標]					
中世頭韻詩『真珠』の講読を通じて中英語についての理解を深めます。また、中英語と現代英語の違いに着目し、言語を变化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。					
[授業計画と内容]					
中世頭韻詩『真珠』の講読を通じて中英語についての理解を深めます。また、中英語と現代英語の違いに着目し、言語を变化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。					
授業計画と内容					
第1回： イントロダクション、データベース利用の方法					
第2回： 中英語の発音および基本的な文法事項					
第3回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中世頭韻詩全般について					
第4回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中英語の綴り字					
第5回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論					
第6回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中英語の語順					
第7回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中英語の名詞・形容詞					
第8回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中英語の代名詞全般					
第9回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中英語の語彙					
第10回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論					
第11回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中英語の前置詞					
第12回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中英語の副詞					
第13回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中英語の助動詞					
第14回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中英語の動詞					
第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括					
授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。					
なお必要な場合には、レポートの作成に有用なオンラインツールや辞書の使い方等を説明するためのワークショップ等を行うことがあります。					
[履修要件]					
英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、特殊講義（家入葉子・Lorenzo Matropierro）、特殊講義（Kevin Wrobetz）、特殊講義（滝沢直宏）、外国語実習（Lachlan Rigby					
----- アメリカ文学 (演習 I)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (演習 I)(2)

Jackson)も提供(予定)しています。英語の多様性への理解には、英語の歴史についての知識とともに、現代英語の実際に触れることも欠かせませんので、要件ではありませんが、余裕がある人はこれらの授業の受講もご検討ください。

[成績評価の方法・観点]

授業への貢献度(40%)およびレポート(60%)によって評価を行います。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Gordon, E. V. (ed.) 『Pearl』 (Clarendon Press)

(関連URL)

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修(予習・復習)等]

中英語テキストの予習(全員)及び、論文の講読(担当者)をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します

(その他(オフィスアワー等))

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET19 23541 SJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (演習 I) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Claire Keeganの『Small Things Like These』(2021)を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>Claire Keeganの『Small Things Like These』は、2022年にオーウェル賞を受賞し、同年のブッカー賞候補にも選出されるなど、高い評価を受けている。2024年にはティム・ミーランツ監督、キリアン・マーフィー主演で映画化され、ベルリン国際映画祭でエミリー・ワトソンが最優秀助演俳優賞(銀熊賞)を受賞するなど、映像作品としても注目を集めている。授業では、マグダレン洗濯場という大きな社会問題になった事実をもとにした本作品の精読を通じて、アイルランドの社会背景や宗教的要素、倫理的テーマについて考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。</p> <p>(2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。</p> <p>(3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回: イントロダクション: 授業の概要説明、評価基準の確認。Claire Keeganの作家紹介と『Small Things Like These』の概要を紹介する。</p> <p>第2回: pp. 1-13</p> <p>第3回: pp. 14-26</p> <p>第4回: pp. 27-38</p> <p>第5回: pp. 39-50</p> <p>第6回: pp. 51-63</p> <p>第7回: pp. 64-76</p> <p>第8回: pp. 77-89</p> <p>第9回: pp. 90-102</p> <p>第10回: pp. 103-115</p> <p>第11回: pp. 116-128</p> <p>第12回: James Joyce, "Clay"の精読: Dublin by Lamplightの洗濯場について</p> <p>第13回: 映画『マグダレンの祈り』の鑑賞と分析</p> <p>第14回: 総括とディスカッション: これまでの学習内容を総括し、作品のテーマやメッセージについてディスカッションを行う。</p> <p>第15回: 最終レポート発表: 各自が作成した最終レポートの発表とフィードバックを行う。</p>					
----- アメリカ文学 (演習 I)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (演習 I)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・担当者発表60% + 学期末レポート40%にて評価する。

【教科書】

Claire Keegan 『Small Things Like These』 (2021, Faber & Faber) ISBN:978-0571368686 (<https://www.amazon.co.jp/Small-Things-These-Claire-Keegan/dp/0571368689>)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜13:00から14:45までとします。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学162

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (演習 I) American Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Kevin Barryの『Dark Lies the Island』(2012)を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>アイルランドの現代作家Kevin Barry (1969-)の『Dark Lies the Island』(2012)はユーモアと暗さが交錯する独特な作風で高く評価された短編集である。アイルランド文学ルーニー賞を受賞した前作の短編集There Are Little Kingdomsに続く本作は、2012年にフランク・オコナー国際短編賞の最終候補に選ばれた。本授業では、日常の小さな瞬間や些細な出来事に焦点を当てながら、初恋の記憶、田舎と都市の風景、暴力、孤立、父権主義、知的障害、誘拐、極限状態、アルコール中毒、郷愁といった諸テーマを通じて、アイルランド社会のリアリティと暗部を歴史的・文化史的側面から考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。</p> <p>(2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。</p> <p>(3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 Introduction : Kevin Barry (1969-)の主要作品と生涯、作風について</p> <p>第2回 Across the Rooftops (pp.1-6)</p> <p>第3回 Wifey Redux (pp.7-26)</p> <p>第4回 Fjord of Killary (pp.27-45)</p> <p>第5回 A Cruelty (pp.46-55)</p> <p>第6回 Beer Trip to Llandudno (pp.56-76)</p> <p>第7回 Ernestine and Kit (pp.77-89)</p> <p>第8回 The Mainland Campaign (pp.90-101)</p> <p>第9回 Wistful England (pp.102-112)</p> <p>第10回 Doctor Sot (pp.113-130)</p> <p>第11回 The Girls and the Dogs (pp.131-143)</p> <p>第12回 White Hitachi (pp.144-158)</p> <p>第13回 Dark Lies the Island (pp.159-171)</p> <p>第14回 Berlin Arkonaplatz-My Lesbian Summer (pp.172-189)</p> <p>第15回 まとめ・質疑応答</p>					
----- アメリカ文学 (演習 I)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (演習 I)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・担当者発表60% + 学期末レポート40%にて評価する。

【教科書】

Kevin Barry 『Dark Lies the Island』 (Vintage Books, 2013) ISBN:978-0099575078 (<https://www.amazon.co.jp/Dark-Lies-Island-Kevin-Barry/dp/0099575078>)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修 (予習・復習) 等】

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜13:00から14:45までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学163

科目ナンバリング	U-LET19 23551 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (講読) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火5	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Breakfast at Tiffany'sを読む				
[授業の概要・目的]					
戦後アメリカ文学の重要作家の一人Truman Capote (1924-84)の傑作中編小説Breakfast at Tiffany's (1958)を読む。Capoteの、また小説というものの魅力が詰まった手頃なサイズの作品を原文で丁寧に読むことを通じて、英語で小説を読む楽しさを知ると同時に、読めるという自信を身につけてほしい。					
[到達目標]					
丁寧に辞書を引きながら一語一句にこだわって文学作品を読む姿勢を身につけ、英語小説読解の基礎力を養うことを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。					
[授業計画と内容]					
授業は英語テキストの丁寧な訳読と、輪番制による担当箇所についての発表+ディスカッションとを組み合わせる予定。					
第1回	イントロダクション				
第2回	Breakfast at Tiffany's講読				
第3回	Breakfast at Tiffany's講読				
第4回	Breakfast at Tiffany's講読				
第5回	Breakfast at Tiffany's講読				
第6回	Breakfast at Tiffany's講読				
第7回	Breakfast at Tiffany's講読				
第8回	Breakfast at Tiffany's講読				
第9回	Breakfast at Tiffany's講読				
第10回	Breakfast at Tiffany's講読				
第11回	Breakfast at Tiffany's講読				
第12回	Breakfast at Tiffany's講読				
第13回	Breakfast at Tiffany's講読				
第14回	Breakfast at Tiffany's講読				
第15回	フィードバック				
学期末には、各自の視点から作品を英語または日本語で論じるレポートを提出してもらう。					
----- アメリカ文学 (講読)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (講読)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点（60％）と期末レポート（40％）で評価する。

[教科書]

Truman Capote 『Breakfast at Tiffany's』 (Penguin) ISBN:978-0241951453

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各回の授業で読むテキストの綿密な予習は必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学164

科目ナンバリング	U-LET19 23551 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (講読) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	_My Name Is Aram_を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業はWilliam Saroyanの連作短編集_My Name Is Aram_ (1940)を精読します。カリフォルニアに暮らすアルメニア系の大家族の日々を少年時代の追憶として描かれる本作には、印象深いキャラクターが次々登場します。本授業では、家族やコミュニティを描くSaroyanの世界を通じて、英語の小説を読むことの楽しさと豊かさを体感することを目的とします。</p>					
[到達目標]					
<p>英語で書かれた小説の読解法を学ぶ。 連作短編集というフォーマットについて理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のスケジュールはあくまでも予定です。必ず初回授業で配布されるスケジュールをご参照ください。</p> <p>第1回：Introduction: 作者紹介 第2回：My Name Is Aramを読む(1) 第3回：My Name Is Aramを読む(2) 第4回：My Name Is Aramを読む(3) 第5回：My Name Is Aramを読む(4) 第6回：My Name Is Aramを読む(5) 第7回：My Name Is Aramを読む(6) 第8回：My Name Is Aramを読む(7) 第9回：My Name Is Aramを読む(8) 第10回：My Name Is Aramを読む(9) 第11回：My Name Is Aramを読む(10) 第12回：My Name Is Aramを読む(11) 第13回：My Name Is Aramを読む(12) 第14回：My Name Is Aramを読む(13) 第15回：まとめ+フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- アメリカ文学 (講読)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎回の授業後にメールにてコメント提出（20％）・発表（40％：予定回数は1回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。

[教科書]

テキストはPandAにてpdf形式で配布します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まない（毎回およそ15ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学165

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (講読) American Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水1	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Sonnets 講読				
[授業の概要・目的]					
<p>ペトラルカ (1304-74)によって大成されたsonnet (十四行詩)は16世紀に英国に導入された後、英語による多くの作品が書かれ、今日に至るまで英詩の主要なジャンルの一つとなっている。この授業ではDon Patersonによるアンソロジー 101 Sonnets に所収された、その幾つかの精読を通じて、英語の詩の読み方の基本を身につけるとともに英詩とその背景についての理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語による韻文テキストの特徴を理解し、自力で読めるようになる。 ・ 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1週 インTRODクション あわせて今後の授業の進め方について説明する。</p> <p>第2週 Thomas Wyatt 'Whoso list to hunt'を担当教員が解説する。</p> <p>第3 - 13週は予め指名した毎回一人の受講者が一つのソネットを担当して解説する。扱う作品の作者と順番は以下の通りであるが若干の調整をすることがある。</p> <p>3 Thomas Hardy 4 Wilfred Owen 5 Edward Thomas 6 John Keats 7 W. B. Yeats 8 Ezra Pound 9 Emily Dickinson 10 Catherine Dyer 11 Edmund Spenser 12 John Donne 13 William Shakespeare</p> <p>第14週 全体のまとめ 第15週 フィードバック</p>					
----- アメリカ文学 (講読)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (講読)(2)

[履修要件]

2-4回生を対象とした講読の授業

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づく平常点により評価する。具体的には、担当した詩の解説85%、その他授業中のコメントなど授業全体への貢献15%。正当な理由なく2回欠席した場合は以後の出席を認めない。遅刻は欠席とみなす。

[教科書]

Don Patterson, ed 『101 Sonnets』 (Faber, 2012) ISBN:978-0571278732

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予め辞書(特に英英辞典)を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET19 23551 LJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (講読) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	George Orwellのエッセイを読む				
[授業の概要・目的]					
鋭い洞察力と簡潔で明快な文体で知られているGeorge Orwell (1903-1950)のエッセイの読解を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。植民地主義から権力の問題、拝金主義や商業主義の問題、貧困や低賃金労働、知的階級や中産階級、下層中流階級等がキーワードになる。各エッセイの内容と密接に関連しているオーウェルの小説作品についても紹介する。					
[到達目標]					
(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。					
[授業計画と内容]					
第1回 Introduction: ジョージ・オーウェルの生涯と思想 第2回 "The Spike" (1931) 第3回 "A Hanging" (1931) 第4回 "Shooting an Elephant" (1936) 第5回 "Down the Mine" (1937) 第6回 "Marrakech" (1939) 第7回 "Inside the Whale" (1940) 第8回 "The Lion and the Unicorn: Socialism and the English Genius" (1941) 第9回 "Raffles and Miss Blandish" (1944) 第10回 "Notes on Nationalism" (1945) 第11回 "Why I Write" (1946) 第12回 "Politics and the English Language" (1946) 第13回 "The Prevention of Literature" (1946) 第14回 "Such, Such Were the Joys" (1947) 第15回 まとめと質疑応答					
----- アメリカ文学 (講読)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (講読)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況・口頭発表（60％）と学期末レポート（40％）によって評価する。

【教科書】

授業中に指示する
テキストはこちらで配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜13：00～14：45。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学167

科目ナンバリング	U-LET19 23562 PJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (外国語実習) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 LUDVIK, Catherine		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水1	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Kyoto's Cultural Heritage, in English Part I				
[授業の概要・目的]					
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.					
[到達目標]					
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.					
[授業計画と内容]					
1. Preserving History: Universities and Museums Kyoto University Museum Reading: Kyoto Museums Guidebook (Kyoto City Board of Education, 1992), pp. 239-240.					
2. Shinto Shrines: Yoshida Jinja Reading: John Breen and Mark Teeuwen, A New History of Shinto (Wiley&Blackwell, 2010), pp. 1-23.					
3. (a) Shinto Spring Festivals: Aoi Matsuri; (b) Discussion on Shinto in Contemporary Japan Reading: Kansai Cool, pp. 43-48; Kyoto Lives, p. 24 “ Inui Mitsutaka, Shrine Priest. ”					
4. Introduction to Buddhism: Commemorating the Life and Passing of the Buddha Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Three “ City of Buddhism ” pp. 37-59.					
5. Mt. Hiei, “ Mother Mountain of Japanese Buddhism, ” and its Circumambulating Monks Reading: Kyoto Lives, p. 64 “ Kate Connell--Mt. Hiei, Guardian Mountain. ” Assigned Viewing: “ The Monks Risking Death On An Extraordinary Journey, ” Journeyman Pictures (http://www.youtube.com/watch?v=S06oMxdt40A).					
6. Group/Individual Presentations on Sects of Buddhism and Kyoto Temples Readings: Kyoto: A Cultural History, Chapter Five “ City of Zen ” pp. 76-95; Kyoto Lives, pp. 70-71 “ Matsuyama Daiko, Deputy Chief Priest, Taizo ’ in Temple. ”					
7. Discussion on Sects of Buddhism and Kyoto Temples					
8. Zen Temples and Visual Arts: Daitokuji ’ s annual airing of its hanging-scroll paintings; Taizoin ’ s sliding screen painting project Reading: Gregory P. A. Levine, Daitokuji: The Visual Cultures of a Zen Monastery, pp. 83-87. Assigned Viewing: “ Taizoin Hojo; Fusuma-e Painting Project ” (https://www.youtube.com/watch?v=x7JEA658doc).					
9. Pure Land Faith and Monthly Markets: Chionji					
					アメリカ文学 (外国語実習)(2)へ続く

アメリカ文学 (外国語実習)(2)

Reading: “ Chionji ” (handout)

10. "Micro Temples": discussion on temple activities and economy in contemporary Japan

Readings: Kansai Cool, pp. 189-193; Kyoto Lives, pp. 34-35 “ Kajita Shinsho, the Path to Honen-in. ”

11. Group/Individual Presentations on Heian-Period Historical and Literary Figures

Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter One “ City of Kanmu ” pp. 1-19.

12. Discussion on Heian-Period Historical and Literary Figures

Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Two “ City of Genji ” pp. 20-36; Kyoto Lives, p. 78 “ Setouchi Jakucho--The Tale of Genji. ”

13. Summer Festivals: Gion Matsuri history and traditions

Reading: World Heritage document on “ Yamahoko, the float ceremony of the Kyoto Gion festival. ”

14. Summer Festivals: Gion Matsuri visual arts

15. Course Review

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)

Written assignments (25%)

Class presentations (30%)

Review assignment (25%)

【教科書】

All readings will be posted on Panda.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters of the textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

アメリカ文学 (外国語実習)(3)へ続く

アメリカ文学 (外国語実習)(3)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学168

科目ナンバリング	U-LET19 23562 PJ36				
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (外国語実習) American Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 LUDVIK, Catherine		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木1	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Kyoto's Cultural Heritage, in English Part II				
[授業の概要・目的]					
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.					
[到達目標]					
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.					
[授業計画と内容]					
<p>1. Kyoto's Water Culture: function and impact of water in the lives, culture, and religion of Kyoto people Reading: Kansai Cool, pp. 39-42. Assigned Viewing: Documentary Film " Water, the Lifeblood of Kyoto " (http://fod.infobase.com/p_ViewPlaylist.aspx?AssignmentID=83NZ6P).</p> <p>2. Kyoto Gardens: history, features, and aesthetics Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 91-95 " Dry Landscapes "; pp. 133-138 " Tea Garden " " Tea Room " .</p> <p>3. Kyoto Machiya Townhouses: architectural features, functions Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 164-165; Jurgenhake, Birgit, " The qualities of the Machiya: An Architectural Research of a Traditional House in Japan " (2011, http://repository.tudelft.nl/islandora/object/uuid:a9f98f2a-6be7-4693-92ad-26507e69666e?collection=research)</p> <p>4. Kyoto Machiya Townhouses: contemporary preservation measures Readings: World Monuments Fund, " Machiya Townhouses " (https://www.wmf.org/project/machiya-townhouses); Kyoto Machiya Revitalization Project (http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project/).</p> <p>5. Individual/Group Presentations on Kyoto Architecture</p> <p>6. Discussion on Kyoto Architecture</p> <p>7. Kyoto Imperial Palace: architectural features and gardens Reading: Judith Clancy, Exploring Kyoto: On Foot in the Ancient Capital (Stone Bridge Press, 2008), pp. 29-36.</p> <p>8. Kyoto State Guesthouse and traditional artisanry In-class Viewing: Documentary Film " Traditional Skills in the Kyoto State Guest House " (Kyoto Convention Bureau, 1990).</p>					
----- アメリカ文学 (外国語実習)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (外国語実習)(2)

9. Imperial Convents and Cultural Preservation: Hokyoji and Dolls

Readings: Kansai Cool, pp. 77-81; Amamonzeki: A Hidden Heritage, Treasures of the Japanese Imperial Convents (The Sankei Shinbun, 2009), pp. 120-123; Hokyoji restoration handout.

10. Autumn Festivals: Festival of the Ages (Jidai Matsuri) and Kurama Fire Festival (Hi Matsuri)

Reading: Kyoto Lives, pp. 10-12 “ Festival of the Ages ” by John Dougill; additional handouts.

11. Kyoto Cuisine: types, features

Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 223-225; Donald Richie, “ A Taste of Japan, Introduction ” (Kodansha, 1993), pp. 8-12.

12. Kyoto Cuisine: aesthetics

Readings: Kansai Cool, “ The Still Point: Authenticity Within an Evolving Cuisine, ” pp. 93-105.
Assignment: Cuisine worksheet.

13. Individual/Group Presentations Based on Kyoto Lives Interviews

14. Discussion Based on Kyoto Lives Interviews

15. Course Review

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)

Written assignments (25%)

Class presentations (30%)

Review assignment (25%)

【教科書】

All readings will be posted on Panda.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Readings and discussion questions will be assigned for each class.

アメリカ文学 (外国語実習)(3)へ続く

アメリカ文学 (外国語実習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23562 PJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (外国語実習) American Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学法学部 教授 JACKSON, Lachlan Rigby	
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Language & Society : Sociolinguistics I				
[授業の概要・目的]					
<p>What is the relationship between language and society? Why do people use languages in the ways that they do? Questions such as these are the concern of sociolinguists. This course is a content-based English course that will provide students with an introduction to fundamental sociolinguistics concepts. This content will be particularly useful to students aspiring to teach English in Junior high schools and high schools in Japan.</p>					
[到達目標]					
<p>This is an interactive and communitive-orientated class aimed at developing the four macro skills (listening, speaking, reading, and writing). Students will be required to reflect on short weekly readings, draw on their own language learning experiences, and share their opinions on a range of sociolinguistics-related topics. Course content will challenge students to think about language teaching and learning from sociolinguistics-informed perspectives, and in so doing, help them develop as future language teachers.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Week Description</p> <p>1 Introduction to the Course: “ What is Sociolinguistics? ” Why do people use language in the ways they do?</p> <p>2 Module 1 - Language Variation: (1) Language & Gender</p> <p>3 (2) Language & Region (Accent and Dialects)</p> <p>4 (3) Language & Social Class</p> <p>5 (4) Language & Age</p> <p>6 Module 2 - Language & Culture: (1) Language & Identity</p> <p>7 (2) The Status of English in Japan</p> <p>8 (3) Is Japan a multilingual society?</p> <p>9 (4) Who/what is a “ native-speaker ” ?</p> <p>10 Module 3 - Language & Change (1) Endangered Languages & language Death</p> <p>11 (2) Neologisms</p> <p>12 (3) Language and Globalization</p> <p>13 (4) Non-Standard Forms: Swearing, Slang, and Taboo Language</p> <p>14 Student Presentations</p> <p>15 Student Presentations and Feedback</p>					
----- アメリカ文学 (外国語実習)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (外国語実習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Presentation 20%
Short Module Quizzes (3 x 10%) 30%
Final Test 20%
Reflective Journal (3 x 5%) 15%
Classwork 15%

【教科書】

使用しない

There is no set text for this course. The instructor will provide students with worksheets and short weekly readings.

【参考書等】

(参考書)

Edwards, J. 『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 (2013) ISBN:978-0199858613

(関連URL)

languageonthemove.com (A great resource with many very short articles on issues relating to sociolinguistics)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Students are expected to prepare for each class by completing the assigned short weekly reading tasks.

(その他 (オフィスアワー等))

Full participation and interaction with other class members is very important in this course. Students will be required to engage in group and pair work during each class. As a part-time teacher, I do not have a contact hour. I am available just before, during, and after class if you wish to speak to me. You can also email me at this address: lockie@law.ritsumeai.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学170

科目ナンバリング		U-LET19 23562 PJ36			
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学 (外国語実習) American Literature (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学法学部 教授 JACKSON, Lachlan Rigby	
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Language and Society: Sociolinguistics II				
[授業の概要・目的]					
<p>What is the relationship between language and society? Why do people use languages in the ways that they do? Questions such as these are the concern of sociolinguists. This course is a content-based English course that will provide students with an introduction to fundamental sociolinguistics concepts. This content will be particularly useful to students aspiring to teach English in Junior high schools and high schools in Japan.</p>					
[到達目標]					
<p>This is an interactive and communitive-orientated class aimed at developing the four macro skills (listening, speaking, reading, and writing). Students will be required to reflect on short weekly readings, draw on their own language learning experiences, and share their opinions on a range of sociolinguistics-related topics. Course content will challenge students to think about language teaching and learning from sociolinguistics-informed perspectives, and in so doing, help them develop as future language teachers.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1 Introduction to the Course: Why Study Sociolinguistics? 2 Module 1: Language, Technology and the Media (1) Language Study and AI 3 (2) Social Media, Texting Apps, & Communication 4 (3) Echo Chambers, Language Framing, and Agenda Setting 5 (4) ' Fake News ' and ' Information Overload ' 6 Module 2: Language Policy & Planning: (1) Attitudes and Ideologies 7 (2) Linguistic Prejudice 8 (3) Language Ideologies: Canada as a Case Study 9 (4) Language Endangerment and Revitalization 10 Module 3: Language & Education (1) Sociolinguistics in the Language Classroom 11 (2) Representations of English Language Learning in Japan 12 (3) Recent Directions in Language Education 13 (4) Final Test and Presentation Workshop 14 Student Presentations 15 Student Presentations and Feedback</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- アメリカ文学 (外国語実習)(2)へ続く -----					

アメリカ文学 (外国語実習)(2)

[成績評価の方法・観点]

Presentation 20%
Short Module Quizzes (3 x 10%) 30%
Final Test 20%
Reflective Journal (3 x 5%) 15%
Classwork 15%

[教科書]

使用しない

There is no set text for this course. The instructor will provide students with worksheets and short weekly readings.

[参考書等]

(参考書)

Edwards, J. 『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 (2013) ISBN:978-0199858613

(関連URL)

languageonthemove.com (A great resource with many very short articles on issues relating to sociolinguistics)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Students are expected to prepare for each class by completing the assigned short weekly reading tasks.

(その他 (オフィスアワー等))

Full participation and interaction with other class members is very important in this course. Students will be required to engage in group and pair work during each class. As a part-time teacher, I do not have a contact hour. I am available just before, during, and after class if you wish to speak to me. You can also email me at this address: lockie@law.ritsumei.ac.jp.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学171

科目ナンバリング		U-LET18 13402 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(英語学)(講義A) English Language (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語史A				
[授業の概要・目的]					
<p>アングロ・サクソン人がブリテン島に移住してから現在に至るまでの英語の歴史の変遷を包括的に学びます。また、古英語・中英語等の文献を講読し、過去の英語を具体的に体験しながら、国際共通語としての現代英語の背景について学びます。</p>					
[到達目標]					
<p>英語の史的变化への一般的な理解を深め、時代の異なる英語を、翻訳等の助けを借りながら読む力を身につけることを目標とします。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回： 授業についての説明ほか 第2回： インド・ヨーロッパ語としての英語 第3回： 英語の外面史と内面史(導入) 第4回： 借用語(ラテン語を中心に) 第5回： 借用語(スカンディナヴィア語を中心に) 第6回： 借用語(フランス語を中心に) 第7回： 語形成、およびその歴史の変遷 第8回： 意味の歴史の変遷 第9回： ルーン文字とアルファベット、および綴り字の歴史の変遷 第10回： 発音の歴史の変遷 第11回： 人称代名詞の形態全般 第12回： 人称代名詞の数と格、およびその歴史の変遷 第13回： 指示代名詞の歴史の変遷 第14回： 関係代名詞の歴史の変遷 第15回： 総括、国際共通語としての英語の実態とその理解</p> <p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、授業の最初または終わりに、古英語・中英語等の講読の時間を取ります。また、授業の進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p>					
----- 系共通科目(英語学)(講義A)(2)へ続く -----					

系共通科目 (英語学) (講義A)(2)

[履修要件]

英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、英語学第1演習（家入葉子）、特殊講義（家入葉子・Lorenzo Mastropiero）、特殊講義（Kevin Wrobetz）、特殊講義（滝沢直宏）、外国語実習（Lachlan Rigby Jackson）も提供（予定）しています。英語の多様性への理解には、英語の歴史についての知識とともに、現代英語の実際に触れることも欠かせません。要件ではありませんが、余裕がある人はこれらの授業の受講もご検討ください。

[成績評価の方法・観点]

授業への貢献度（30%）およびレポート（70%）によって評価を行います。

[教科書]

家入葉子 『ベーシック英語史』（ひつじ書房）

[参考書等]

（参考書）

堀田隆一 『英語史で解きほぐす英語の誤解』（中央大学出版）

R. Hogg & D. Denison 『A History of the English Language』（CUP）

寺澤盾 『英語の歴史 過去から未来への物語』（中公新書）

<https://iyeiri.com/569>にも参考情報あります。

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修（予習・復習）等]

指定された教科書に目を通しておいてください。授業中に指定する課題の担当をお願いすることがあります。

（その他（オフィスアワー等））

<https://iyeiri.com/contact>に連絡フォームがあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学172

科目ナンバリング		U-LET18 13404 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(英語学)(講義B) English Language (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語史B				
[授業の概要・目的]					
<p>アングロ・サクソン人がブリテン島に移住してから現在に至るまでの英語の歴史の変遷を包括的に学びます。また、古英語・中英語等の文献を講読し、過去の英語を具体的に体験しながら、国際共通語としての現代英語との実践的な比較を行います。</p>					
[到達目標]					
<p>英語の史的变化への一般的な理解を深め、時代の異なる英語を、翻訳等の助けを借りながら読む力を身につけることを目標とします。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回： 授業についての説明ほか 第2回： 語形変化の実際 第3回： 語順の歴史の変遷と前置詞の使用の拡大 第4回： 主節と従属節の歴史の変遷 第5回： 不規則変化動詞とその歴史の変遷 第6回： 直説法と仮定法の歴史の変遷 第7回： 非人称動詞および過去現在動詞の歴史の変遷 第8回： 法助動詞の歴史の変遷 第9回： be動詞の歴史の変遷 第10回： 進行形と受動態の歴史の変遷 第11回： 完了形の歴史の変遷 第12回： 不定詞と動名詞の歴史の変遷 第13回： 否定構文の歴史の変遷 第14回： 助動詞doの歴史の変遷 第15回： 総括、国際共通語としての英語の実態とその理解(言語の揺れを中心に)</p> <p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、授業の最初または終わりに、古英語・中英語等の講読の時間を取ります。また、授業の進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p>					
[履修要件]					
<p>内容が英語史Aの続きとなっていますので、できるだけ英語史Aを受講した上で、本講義を受講するようにしてください。やむを得ない事情で英語史Bからの受講になる場合は、『ベーシック英語史』の前半部分を自習してから受講してください。</p> <p>英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、英語学第1演習(家入葉子)、特殊講義(家入葉子・Lorenzo Mastropiero)、特殊講義(Kevin Wrobetz)、特殊講義(滝沢直宏)、</p>					
----- 系共通科目(英語学)(講義B)(2)へ続く -----					

系共通科目 (英語学) (講義B)(2)

外国語実習 (Lachlan Rigby Jackson) も提供 (予定) しています。英語の多様性への理解には、英語の歴史についての知識とともに、現代英語の実際に触れることも欠かせません。要件ではありませんが、余裕がある人はこれらの授業の受講もご検討ください。

[成績評価の方法・観点]

授業への貢献度 (30%) およびレポート (70%) によって評価を行います。

[教科書]

家入葉子 『ベーシック英語史』 (ひつじ書房)

[参考書等]

(参考書)

堀田隆一 『英語史で解きほぐす英語の誤解』 (中央大学出版)

R. Hogg & D. Denison 『A History of the English Language』 (CUP)

寺澤盾 『英語の歴史 過去から未来への物語』 (中公新書)

<https://iyeiri.com/569>にも参考情報があります。

(関連URL)

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

指定された教科書に目を通しておいてください。授業中に指定する課題の担当をお願いすることがあります。

(その他 (オフィスアワー等))

<https://iyeiri.com/contact>に連絡フォームがあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学173

科目ナンバリング	U-LET18 13406 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (英文学) (講義A) English Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火2	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英文学史概説 (中世 18世紀の叙事詩の伝統)				
[授業の概要・目的]					
<p>英文学史上の代表的な作品を紹介しながら、英文学の歴史的変遷について包括的に考える。前期は中世から18世紀前半までを扱う。叙事詩を取り上げ、代表的なテキストの一部を読みながらその変遷を概観し、そこから見えてくる各時代の英文学全体、また、英国社会の一般的な状況を考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>中世から18世紀の風刺文学を代表的なテキストに即しながら概観することを通じて、以下についての理解が深まることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中世から18世紀の英文学に使われている様々な英語表現の変遷 2. 形式と内容の関係 3. 中世から近代にいたる、イングランドの社会と文学との関係 					
[授業計画と内容]					
<p>第1週 Introduction 1: Historical outline 第2週 Introduction 2: Tradition of Epic in Western Literature 第3週 Old English Epic: Beowulf 第4週 Middle English Romance and Epic: Le Morte Darthur 第5週 English Translations of Classical Epics 1 (The Renaissance) 第6週 Italian Romance Epic & English Translations: Orlando Furioso 第7週 English Epic 1: The Faerie Queene Bk.1 第8週 Epic and Theatre: Henry V 第9週 English Epic 2: Paradise Lost Canto 1 第10週 English Translations of Classical Epics 2 (The Neo-Classical Period 1): John Dryden, The Aeneid 第11週 English Translations of Classical Epics 3 (The Neo-Classical Period 2): Alexander Pope, The Iliad 第12週 Mock Epic: The Rape of the Lock 第13週 'Comic Epic in Prose': Henry Fielding, Joseph Andrews 第14週 全体のまとめと以後の時代の展望 第15週 フィードバック</p>					
[履修要件]					
後期に開講される英文学講義Bと今年度中に合わせて履修することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
<p>中間、学期末レポート各50%、両方が提出されていることを成績評価の必要条件とする。それぞれの題目、長さ、提出期限等詳細については授業中に口頭で指示をする。レポートの提出はPandAに</p>					
系共通科目 (英文学) (講義A)(2)へ続く					

系共通科目 (英文学) (講義A)(2)

よるものとする。

[教科書]

授業資料は予めPandA上に掲載する。終了後一定時間が経った時点で消去するので注意すること。

[参考書等]

(参考書)

Dinah Birch, Katy Hooper 『The Concise Oxford Companion to English Literature』 (Oxford UP) ISBN: 978-0199608218

[授業外学修(予習・復習)等]

辞書を丹念に引いて扱うテキストの内容を理解した上で授業に臨むこと。授業後は扱われた作品の文学史における位置づけについて考察すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学174

科目ナンバリング		U-LET18 13408 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (英文学) (講義B) English Literature (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金1	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英文学史概説 (小説・散文)				
[授業の概要・目的]					
<p>英文学史上の著名な小説・散文を紹介しながら、英文学における主題と文体の歴史的変遷を学ぶ。文学史は古いところから説き起こすのが常だが、この講義では新しい時代から遡る形で講義を進行し、「現代」ではなくなっていく変化を、個々の作品が生まれた時代背景とともに考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>英国小説についての一般的な基礎知識を身につけ、時代的な背景とともに特定の作家がどのような特性をもつかを理解できるようになる。また、作家の言葉に対する態度と「表現すること」、「物語ること」の変化を考察しながら、自らが関心をもった作家についてリサーチを進めることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 Introduction 第2回 Ian McEwan(1948-) 第3回 Kazuo Ishiguro(1954-) 第4回 Samuel Beckett(1906-1989) 第5回 George Orwell(1903-1950), E.M.Forster(1879-1970) 第6回 James Joyce (1882-1941), Virginia Woolf(1882-1941) 第7回 D.H.Lawrence(1885-1930), Joseph Conrad(1857-1924) 第8回 Thomas Hardy(1840-1928), George Eliot(1819-1880) 第9回 Charles Dickens(1812-1870), Elizabeth Gaskell (1810-1865) 第10回 Emily Bronte; (1818-1848) 第11回 Jane Austen(1775-1817) 第12回 Mary Wollstonecraft Godwin Shelley(1797-1851) 第13回 Laurence Sterne (1713-1768) 第14回 イギリス文学史総覧 + レポートの書き方 第15回 フィードバック (研究室にて授業内容に関連する質問に答える)</p>					
[履修要件]					
<p>前期の英文学講義と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。</p>					
----- 系共通科目 (英文学) (講義B)(2)へ続く -----					

系共通科目 (英文学) (講義B)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、リアクションペーパー（60%）および学期末に提出してもらうレポート（40%）によって評価する。

[教科書]

使用しない
プリントを適宜配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習として、授業中に指定する資料を読んでおくこと。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜13：00～14：45。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学175

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 廣田 篤彦		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代英国演劇における多文化主義とその問題				
[授業の概要・目的]					
<p>現代英国演劇、とりわけ旧植民地の背景を有する作家による作品の講読を通じて英国(UK)における多文化主義とその問題を考察する。具体的には、ジャマイカを背景に持つ英国出身の劇作家 Winsome PinnockによるRockets and Blue Lights (2018)を取り上げ、そこに見られる英国社会の文化的多様性とその背景を検討し、そこから他者との相互交流の可能性について考察する。主に問題となるのは英国による大西洋奴隷貿易の影響とこれへの批判である。さらに異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する ・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 					
[授業計画と内容]					
<p>本授業は a) 戯曲テキストの講読 b) 指定のトピックに関するプレゼンテーション (担当者を指名する) c) テキスト並びに関連文献の講読を通じて学んだ多文化主義の歴史と現状に基づく異文化体験に関するプレゼンテーション の3つから構成される。下に示すのは扱われる全体像であり、受講者の数、英語力、経験等により毎回の内容は前後することがある。</p>					
<p>第1週 【序論】授業の進め方の解説 / Rockets and Blue Lightsの概略 第2週 講読：scenes 1 & 2 戯曲テキストの構造と読み方の解説 第3週 scenes 3 & 4 / プレゼンテーション：J. M. W. Turner；人物と作品、英国美術史における位置 第4週 scenes 5 & 6 / 欧州諸国による大西洋貿易の歴史 (15世紀末から現在までの概観) 第5週 scenes 7 & 8 / ヴィクトリア朝期の英国における大西洋貿易 第6週 scene 9 / 英国による奴隷貿易の歴史とその意味 第7週 scenes 10 & 11 / 西アフリカ地域における奴隷貿易の意味 第8週 scene 12 / 西アフリカ諸国と英国との関係の現状 第9週 scene 13 / カリブ海地域における奴隷貿易の意味 第10週 scenes 14 & 15 / カリブ海諸国と英国との関係の現状 第11週 scene 16 / 英国の北米植民地 (後のアメリカ合衆国) における奴隷制度の意味と影響 第12週 scene 17 & 18 / 奴隷貿易の歴史に対する批判の現状 第13週 【異文化体験についてのプレゼンテーション】授業で学んできた知見を活かして、自らの異文化体験を英語で述べ、ディスカッションをする</p>					
英語学英文学 (特殊講義)(2)へ続く					

英語学英文学 (特殊講義)(2)

第14週【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としての現代英文学を包括的に理解する

第15週 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

a) テクストの講読と解説 40%、b) 指定トピックに関するプレゼンテーション 40%、c) 異文化体験に関するプレゼンテーション 20%により評価する。正当な理由なく2回以上欠席した場合は単位を認めない。

【教科書】

Winsome Pinnock 『Rockets and Blue Lights』 (Nick Hern Books, 2021) ISBN:978-1839040252

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで要点を整理し、異文化理解の観点から戯曲の理解に努めること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET18 23431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	新しい時代の異文化理解のための「文学研究と生成AI」				
【授業の概要・目的】					
<p>社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。この際、昨今注目を浴びている生成AIのリテラシーと精読・翻訳の作業を言語理解に合流させることで、生成AIの利用が当たり前になる世代に対するコミュニケーションと教育方法を模索する。この目的のため、異文化性や固有の歴史性が埋め込まれた文学テキストの読解を中心に授業を進め、最終的に受講者には、生成AIによってより豊かな解釈可能性をもつAI-Augmented Textを提出してもらう。</p>					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。 2) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。 3) 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。 4) 異文化コミュニケーションにとっての文学の重要性を理解している。 5) 生成AIのリテラシーを習得し、その適正な利用方法を理解している。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 Introduction：新しい時代の異文化理解のための「文学研究と生成AI」</p> <p>第2回 異文化理解の架橋と断絶 生成AIが異文化コミュニケーションにとってもちうる可能性と限界を検討する。</p> <p>第3回 「テキスト共同体」(Brian Stock)と「解釈共同体」(Stanley Fish) 異質な思考や文化的背景をもつ他者とコミュニケーションが可能な場を構想する。</p> <p>第4回 文学作品の原文精読(1) AIによる生成結果を信用しすぎないようにするための方法として、Oxford English Dictionaryを用いて、英語で書かれた短編作品を丹念に読解し、close-readingの方法に習熟する。</p> <p>第5回 文学作品への注釈付け(2) 前回扱った作品に注釈を施し、多様な歴史的、社会的、文化的意味によって織りなされたテキストであることの意味を深める。</p> <p>第6回 文学作品の翻訳(1) 異文化間コミュニケーションにおける翻訳の重要性を理解するために、グループ間で翻訳の実践を行う。</p> <p>第7回 文学作品の翻訳(2) 前回の翻訳に対して既存の複数の翻訳を比較し、翻訳の諸問題を理解する。</p> <p>第8回 ChatGPT, Claude AI, Gemini等の生成AIサービスを用いた文学作品の読解の試み 生成AIを通じて文学作品を読解・翻訳し、解釈や訳語の不自然さや妥当性を検討する。</p> <p>第9回 ChatGPTを用いた文学作品の「続編」作成の試み 生成AIを通じて文学作品を創造的に拡張し、原文テキストに埋め込まれた歴史的、社会的、文化的意味がどのようにして拡張され、ある</p>					
英語学英文学 (特殊講義)(2)へ続く					

英語学英文学 (特殊講義)(2)

いは変容を受けるのかを考察する。

第10回 文学作品とテキスト生成、音声生成 提出課題となるAI-Augmented Textの準備作業を行い、生成物に埋め込まれた「異文化性」を理解する。

第11回 文学作品と画像生成 前週と同様にAI-Augmented Textの作成作業を行う。文学作品の情景描写文から生成AIによる挿絵の作成の試みると同時に、AIによるハルシネーションや過剰/過少生成を見破るリテラシーを手に入れる。

第12回 AI-Augmented Text作成の試み(1) 発表グループ1

第13回 AI-Augmented Text作成の試み(2) 発表グループ2

第14回 講評とグループディスカッション 12,13回で発表されたAI-Augmented Textに対して講評を行い、その後グループに分かれて討議を行う。

第15回 まとめと質疑応答

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況・提出物・口頭発表(60%)と学期末に提出するレポート(40%)によって評価する。

【教科書】

授業中に指示する

テキストはこちらで配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に指定する配布物を事前に予習しておくこと。復習としては、当該授業回で扱った範囲や学習内容を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜13:00~14:45。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学177

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 森 慎一郎		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Henry James, The Turn of the Screwを読む				
[授業の概要・目的]					
Henry James (1843-1916)の中編小説The Turn of the Screw (1898)を原文で精読し、文体、語りの形式、時代背景、ジェンダー/セクシュアリティ、階級など、さまざまな見地から作品を検討する。翻訳も多数ある有名作品ではあるが、James中～後期に属する本作の英語は実のところかなり難しい。まずはこの晦渋にして微妙なニュアンスを帯びた英語の語りを粘り強く正確に理解しようと努めることが、本授業の取り組みの第一歩となる。					
[到達目標]					
文学テキストを正確に読み、おもしろい疑問を持てるようになること。小説The Turn of the Screwおよびその作者Henry Jamesについて理解を深めること。文学作品へのさまざまなアプローチの仕方に親しむこと。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。					
[授業計画と内容]					
授業は基本的に発表形式で行う。各回につき1～数名の担当者を指名し、その回の範囲について、レジュメを準備したうえで発表してもらう。その発表をもとに参加者全員でディスカッションを行う。					
進行予定は下記のとおり。					
第1回	イントロダクション				
第2回	プロローグを読む				
第3回	1～2章を読む				
第4回	3～4章を読む				
第5回	5～6章を読む				
第6回	7～8章を読む				
第7回	9～10章を読む				
第8回	11～12章を読む				
第9回	13～14章を読む				
第10回	15～16章を読む				
第11回	17～18章を読む				
第12回	19～20章を読む				
第13回	21～22章を読む				
第14回	23～24賞を読む				
第15回	フィードバック				
----- 英語学英文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（60％）と期末レポート（40％）を合わせて評価する。平常点は、発表の質やディスカッションへ参加度など、学期を通じた授業への貢献度を評価する。

【教科書】

Henry James 『The Turn of the Screw and Other Stories (Oxford World's Classics)』 (Oxford UP) ISBN: 9780199536177

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

発表担当者以外の者も含め、全員が各回の範囲を原文で徹底的に精読してくることを求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET18 23431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代アメリカにおける移民の文学的表象 _The House of Mango Street_を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業はSandra Cisnerosによる小説_The House on Mango_ (1984)を読みます。移民たちが暮らす町に引っ越してきた十代の少女を主役にした本作は、チカーノ/チカーノ文学を世に知らしめた作品であり、現在に至るまで各国で愛読されている作品です。詩人としての側面もあるCisnerosの文章は、シンプルでありながら、含蓄に富んでいます。本作を通じて、20世紀後半の多文化主義の文学的表象を学ぶと共に、フィクションで用いられる英語を精読することの楽しさを味わうことが、本授業の目的です。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・英語で書かれた文学作品の解釈を学ぶ ・現代アメリカ文学における移民の表象を学ぶ ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 					
[授業計画と内容]					
<p>注意：授業スケジュールはあくまでも暫定的なものです。必ず初回授業にて配布するスケジュール表をご参照ください。</p> <p>第1回：【序論】Sandra Cisnerosとチカーノ文学の興隆について 第2回：The House on Mango Street ~ My Nameを読む 第3回：Cathy Queen of Cats ~ Gill's Furniture Bought and Soldを読む 第4回：Meme ~ Those Who Don'tを読む 第5回：There Was an Old Waman She Had So Many ~ Darious and the Cloudsを読む 第6回：And Some More ~ Chanclasを読む 第7回：Hips ~ Born Badを読む 第8回：Elenita, Cards, Palm, Water ~ The Earl of Tennesseeを読む 第9回：Sire ~ Rafaela Who Drinks Coconut and Papaya Juice on Tuesdaysを読む 第10回：Sally ~ Beautiful and Cruelを読む 第11回：A Smart Cookie ~ Red Clownsを読む 第12回：Linoleum Roses ~ Mango Says Goodbye Sometimesを読む 第13回：A House of My Own (1)を読む 第14回：A House of My Own (2)を読む 第15回：レポートワークショップ</p>					
----- 英語学英文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎授業後のメールでのコメントシートの提出（20％）・発表（40％：予定回数は1回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当するテキストに関するもので、25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

【教科書】

テキストはpdf形式でPandAにアップロードします。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まないと（毎回およそ15ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET18 23431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語語法文法研究				
[授業の概要・目的]					
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>					
[到達目標]					
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。					
[授業計画と内容]					
1回：英語語法文法研究とは 2回：英語語法文法研究に資する例文データベースの構築方法 3回：例文データベースに対する分類タグ付けの方法 4回：生成文法と語法文法研究の関係 5回：生成文法の視点から見た語法文法研究 6回：動的文法理論と語法文法研究の関係 7回：動的文法理論の視点から見た語法文法研究 8回：認知言語学と語法文法研究の関係 9回：認知言語学の視点から見た語法文法研究 10回：談話の構成と語法文法研究 11回：英語史と語法文法研究の関係 12回：英語史の視点からの語法文法研究 13回：コーパスと語法文法研究の関係 14回：コーパスを用いた語法文法研究 15回：まとめ					
----- 英語学英文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

日頃の課題提出を含む平常点。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET18 23431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語語法文法研究				
[授業の概要・目的]					
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>					
[到達目標]					
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。					
[授業計画と内容]					
1回：英語語法文法研究とは 2回：英語語法文法研究に資する例文データベースの構築方法 3回：例文データベースに対する分類タグ付けの方法 4回：生成文法と語法文法研究1 5回：生成文法と語法文法研究2 6回：動的な文法理論と語法文法研究1 7回：動的な文法理論と語法文法研究2 8回：認知言語学と語法文法研究1 9回：認知言語学と語法文法研究2 10回：談話の構成と語法文法研究 11回：英語史と語法文法研究1 12回：英語史と語法文法研究2 13回：コーパスと語法文法研究1 14回：コーパスと語法文法研究2 15回：まとめ					
----- 英語学英文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

日頃の課題提出を含む平常点。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET18 23431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学外国語学部 教授 宮澤 直美		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Edgar Allan PoeとTruman Capoteの作品を読む				
[授業の概要・目的]					
Edgar Allan Poeの "The Fall of the House of Usher" (1839)とTruman Capoteの"Miriam" (1945)を精読する。主に、部屋と登場人物について考察しながら、文化、歴史、視覚芸術などの文学以外のメディアとの関係性の中でテキストを読む。精読はしないものの、両作家の主要作品に言及しながら授業を進めていくため事前に翻訳で両者の作品をできるだけ多く読んでおくことを強くお勧めする。					
[到達目標]					
英語の原書を精読する力を養い、自分の読みや解釈をわかりやすく相手に説明できるようになること。両作家作品への理解を深めながら、文学テキストを読む様々なアプローチと視点があることを理解すること。					
[授業計画と内容]					
1.基本的に以下の計画に従って進める。ただし精読の進みぐあいを確認し、回数を変えることがある。 作品を精読する回では、学生の担当者が発表する。発表者は、レジュメを準備したうえで発表し、その発表をもとに参加者全員でディスカッションを行う。					
第1回 イン트로ダクション					
第2回 Poeとその作品について					
第3回 "The Fall of the House of Usher" 1					
第4回 "The Fall of the House of Usher" 2					
第5回 "The Fall of the House of Usher" 3					
第6回 "The Fall of the House of Usher" 4					
第7回 "The Fall of the House of Usher" 5とPoeのまとめ					
第8回 Capoteとその作品について					
第9回 "Miriam" 1					
第10回 "Miriam" 2					
第11回 "Miriam" 3					
第12回 "Miriam" 4					
第13回 "Miriam" 5とCapoteのまとめ					
第14回 総論とまとめ					
第15回 フィードバック					
----- 英語学英文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価（授業内での発表やディスカッションへなど）：60%
期末レポート：40%

【教科書】

使用しない
データで共有する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・ 授業中に扱う範囲のテキストを、参加者全員が毎回丁寧に精読をした上で授業に臨むこと。
- ・ 発表の担当者は、発表準備をして臨むこと。
- ・ 精読はしないものの、両作家の主要作品に言及しながら授業を進めていくため、ポーの「黒猫」やカポーティの「最後の扉を閉めて」（"Shut a Final Door" 1947）など、翻訳で作品を事前に読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中に伝えます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学182

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 後藤 篤		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	冷戦期アメリカ小説研究 Ernest HemingwayのThe Old Man and the Seaを読む				
[授業の概要・目的]					
The Old Man and the Sea (1952)を中心に、Ernest Hemingway (1899-1961)の作品およびHemingwayを論じた先行研究・批評等の関連資料を取り上げる。毎回の授業では、冷戦期アメリカ文学・文化に関する解説もまじえながら、受講者による発表とディスカッションをもとに、主として演習形式でテキストを精読する。					
[到達目標]					
比較的難易度の高いテキストの解釈に取り組むことにより、文章の一語一句に込められた微妙なニュアンスが読み取れるような英文解釈のセンスに磨きをかける。同時に、批評理論・文化理論や関連する欧米の文化事象についての知識と理解を深めるなかで、作品のテキスト/コンテキストを読み解く批評眼を養う。					
[授業計画と内容]					
第1回 インTRODクシヨン 第2回 “ Cat in the Rain ” 第3回 “ On the Blue Water: A Gulf Stream Letter ” 第4回 The Old Man and the Sea (1) 第5回 The Old Man and the Sea (2) 第6回 The Old Man and the Sea (3) 第7回 The Old Man and the Sea (4) 第8回 The Old Man and the Sea (5) 第9回 The Old Man and the Sea (6) 第10回 The Old Man and the Sea (7) 第11回 The Old Man and the Sea (8) 第12回 先行研究・批評 (1) 第13回 先行研究・批評 (2) 第14回 先行研究・批評 (3) 第15回 授業のまとめ・フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
----- 英語学英文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート50%と発表課題30%、平常点20%（毎回の授業中の発言やディスカッションへの貢献、授業後のコメント提出）を総合的に判断する。

[教科書]

Ernest Hemingway 『The Old Man and the Sea』 (Scribner, 2003) ISBN:978-0-684-80122-3

[参考書等]

（参考書）

Peter Barry 『Beginning Theory: An Introduction to Literary and Cultural Theory』 (Manchester UP, 2017)

三原芳秋・渡邊英理・鶴戸聡編 『クリティカル・ワード 文学理論 読み方を学び文学と出会いなおす』 (フィルムアート社、2020)

[授業外学修（予習・復習）等]

辞書・辞典類、アメリカ言語文化および批評理論・文化理論、現代思想に関する文献資料あるいはインターネット資料を積極的に参照し、毎回の範囲を丁寧に予習した上で授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学183

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	佛教大学文学部英米学科 准教授 メドロック 麻弥		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Vladimir Nabokovの短編における女性像 研究				
【授業の概要・目的】					
Vladimir Nabokov (1899-1977)の短編をいくつか精読し、ナボコフの女性の描き方について考察する。授業では、3人称の語りの中で語られる女性 ("Details of a Sunset", "Bachmann")、男性の語り手によって語られる女性 ("The Vane Sisters")、語り手としての女性 ("A Slice of Life") など、様々な立場の女性に注目し、その特徴を見出し、分析することを目的とする。					
【到達目標】					
技巧的な散文を読み解く想像力と論理的思考力を習得する Nabokovの世界観を説明することができる 文学作品の緻密な読み方を習得する					
【授業計画と内容】					
第1回 イントロダクション					
第2回 "Details of a Sunset" 輪読1					
第3回 "Details of a Sunset" 輪読2					
第4回 "Bachmann" 輪読1					
第5回 "Bachmann" 輪読2					
第6回 "Bachmann" 輪読3					
第7回 "A Slice of Life" 輪読1					
第8回 "A Slice of Life" 輪読2					
第9回 "The Vane Sisters" 輪読1					
第10回 "The Vane Sisters" 輪読2					
第11回 "The Vane Sisters" 輪読3					
第12回 "The Vane Sisters" 輪読4					
第13回 "A Russian Beauty" 輪読1					
第14回 "A Russian Beauty" 輪読2					
第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
----- 英語学英文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (特殊講義)(2)

【成績評価の方法・観点】

平常点70点+学期末レポート30点として評価する。
平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。
レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析しているか、といった点を評価する。

【教科書】

使用しない
はじめに精読する"Details of a Sunset"のテキストのみ、PandAにアップロードします。そのあとの作品については、テキストを授業内で配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

一回の授業で、3ページほど輪読をする予定です。自分なりの日本語訳ができるように、毎回予習して授業にのぞんでください。日本語訳だけでなく、問題点、気になる点などもまとめてきてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学184

科目ナンバリング	U-LET18 23431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 大学院国際文化学研究科 教授 西谷 拓哉		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19世紀アメリカ文学に見る白人と黒人の交流				
[授業の概要・目的]					
この授業では、19世紀のアメリカ文学における人種表象を読み解きながら、アメリカ合衆国において白人文化と黒人文化の接触によってハイブリッドな文化が生まれてきたプロセスを考察することを目的とする。扱う作品は、ポー、メルヴィル、ストウ、トウェインの小説のほか、奴隷体験記、黒人霊歌等も含む。					
[到達目標]					
1. 19世紀のアメリカにおける白人と黒人の文化的交流について基本的な知識を得る。 2. 文学作品の読解を通して、南北戦争前後における人種関係の多様性と多義性を理解する。					
[授業計画と内容]					
前半では、植民地時代から19世紀前半において白人と黒人が接触し、相互交流してきた歴史を概観するとともに、主として19世紀前半のアメリカ文学において描かれた黒人像をたどる。ここでは、白人と黒人の政治的関係を背景として踏まえつつ、19世紀アメリカ文学における人種観の形成とその変容を検討する。後半では、南北戦争以後の白人と黒人の交流史を概観しながら、アメリカ文学において描かれた黒人像の変遷をたどり、19世紀後半における人種表象のあり方や人種の境界線上にある人々の自己意識を検討する。					
第1回	イントロダクション：アメリカにおける黒人の歴史				
第2回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像 (1)：ポーの諸作品(1)				
第3回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像 (1)：ポーの諸作品(2)				
第3回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像 (3)：メルヴィル『白鯨』				
第4回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像 (4)：メルヴィル「ベニート・セレーノ」(1)				
第5回	アメリカン・ルネサンス文学における黒人像 (5)：メルヴィル「ベニート・セレーノ」(2)				
第6回	反奴隷制の文学 (1)：奴隷体験記、黒人霊歌				
第7回	反奴隷制の文学 (2)：ストウ『アンクル・トム的小屋』(1)				
第8回	反奴隷制の文学 (3)：ストウ『アンクル・トム的小屋』(2)				
第9回	南北戦争の文学的表象				
第10回	マーク・トウェインの描く黒人像 (1)：『トム・ソーヤーの冒険』、				
第11回	マーク・トウェインの描く黒人像 (2)：『ハックルベリー・フィンの冒険』ほか(1)				
第12回	マーク・トウェインの描く黒人像 (3)：『ハックルベリー・フィンの冒険』ほか(2)				
第13回	パッシング小説と映画の系譜(1)				
第14回	パッシング小説と映画の系譜(2)				
第15回	現代黒人文学への接続				
----- 英語学英文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

アメリカにおける白人文化と黒人文化の交流の流れを理解できているか、人種関係を理解できているか、アメリカ文学の作品読解がきちんとできているかといった観点から評価する。

平常の活動(40%)、最終レポート(60%)を総合して評価する。

平常の活動は毎回のコメントシート、小レポートによって評価する。

最終レポートは独創性・着眼点(50%)、文章構成(30%)、資料の活用度(20%)により評価する。

【教科書】

KULASISよりプリントを配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

事前に作品からの引用を読んでおくことが求められます。

(その他(オフィスアワー等))

授業前後の相談、メールでの問い合わせを受けつけます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET18 23431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イギリス、アイルランドにおけるバラッドの伝統				
[授業の概要・目的]					
<p>「バラッド」とは物語詩を意味する。民衆によって口承で伝えられた作者不詳のいわゆる俗謡が、現在「読む文学」として詩のジャンルの一角を成しているのには、18、19世紀の知識人たちによる蒐集熱に負うところが大きい。Thomas Percyが編纂したReliques of Ancient English Poetry(1765)は、ワーズワースをはじめ、数多くの詩人の詩想に働きかけ、イギリスロマン主義運動の一大要因となった。また、Francis James Childが編纂したThe English and Scottish Popular Ballads 全5巻 (1882-1889)に収められた305篇のバラッドは、通称Child Balladsと呼ばれており、イギリスの伝承バラッドにおける金字塔である。作者不詳の伝承バラッドに対して、近代以降の詩人たちがそれを模して創作した作品は、「バラッド詩」や「文学的バラッド」などと呼ばれる。</p> <p>本講義では、まず伝承バラッドについて学んだうえでバラッド詩を精読し、その伝統が詩人たちによってどのように受け継がれ、再創造されてきたかについて考える。また、アイルランドでは、イギリスからの独立運動の中で「レベル・バラッド」という政治詩が発展を遂げた。そのようなアイルランドにおける伝統を学んだうえで、W. B. イェイツの書いたバラッド作品を読む。</p> <p>授業では、原書のテキストに向き合う姿勢を身に付け、詩を読むために必要な知識を学ぶことによって、作品を読み解く鍛錬を行う。それとともに、適宜、伝記的批評、詩論などの文献を併せて読み、その知識を関連させて作品を考察する。</p> <p>授業は口頭発表とディスカッションを中心に進める。毎回、授業内でコメントシートを作成してもらう。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イギリス、アイルランドにおけるバラッドの伝統についての知識を身に付け、文学史における位置づけを理解する。 2. バラッドの伝統が詩人たちによってどのように受け継がれているか考察する。 3. 英詩を精読することによって、テキストを読み解く力を向上させる。 4. 口頭発表、ディスカッション、コメントシート作成などの作業を通して、論理的思考や表現力を身に付ける。 					
[授業計画と内容]					
第1回 イントロダクション、授業の進め方についての説明、伝承バラッドについて ("Scarborough Fair" " Edward")					
第2回 伝承バラッド1: Child Ballads 1 " The Wife of Usher's Well "					
第3回 伝承バラッド2: Child Ballads 2 " The Two Sisters "					
第4回 伝承バラッド3: Child Ballads 3 " Thomas Rhymer " (John Keatsの " La Belle Dame sans Merci" と比較する)					
第5回 バラッド詩1: William Wordsworth 1					
英語学英文学 (特殊講義) (2)へ続く					

英語学英文学 (特殊講義) (2)

- 第6回 バラッド詩2: William Wordsworth 2
第7回 バラッド詩3: Christina Rossetti
第8回 バラッド詩4: Edwin Muir
第9回 バラッド詩5: W. H. Auden 1
第10回 バラッド詩6: W. H. Auden 2
第11回 アイルランドのレベル・バラッド
第12回 バラッド詩7: W. B. Yeats 1
第13回 バラッド詩8: W. B. Yeats 2
第14回 バラッド詩9: W. B. Yeats 3
第15回 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

【教科書】

プリントを配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、一編、あるいは二編の詩を扱う予定です。担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。

口頭発表の担当ではない場合も、作品を読んで十分に準備し、授業内でのディスカッションに備えること。活発な議論を期待しています。

授業で紹介する作品や参考文献を読み、自主的にリサーチを行い、期末レポートの執筆に役立ててください。

【その他(オフィスアワー等)】

連絡先は授業時にお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET18 23431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	同志社女子大学表象文化学部 木島 菜菜子 准教授		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Charles Dickens, *A Tale of Two Cities*を読む				
[授業の概要・目的]					
ディケンズの『二都物語』は、フランス革命を題材とした歴史小説である。有名な作品のため、あらすじなどは簡単に手に入るが、本授業では改めて原書を丁寧に読み進めながら、自分の感性を出発点に文学作品を論じる楽しさを味わう。出版時の歴史的・文化的背景やこれまでの先行研究で議論されてきた点、他の作家との影響関係、小説を論じる際の基本的な概念もおさえつつ、作品の読みどころの再発見と更なる解釈の可能性を探る。					
[到達目標]					
辞書を引きながら原書を楽しんで読むことができる。 小説読解のための英語力を身につけている。 小説を論じるための基礎的な概念や知識を身につけており、自分の言葉で作品の読みどころを論じることができる。					
[授業計画と内容]					
第1回 イントロダクション (授業の進め方の説明など)					
第2回 *A Tale of Two Cities* Book 1, Chapter 1~4					
第3回 *A Tale of Two Cities* Book 1, Chapter 5~6					
第4回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 1~3					
第5回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 4~6					
第6回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 7~9					
第7回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 10~13					
第8回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 14~15					
第9回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 16~18					
第10回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 19~21					
第11回 *A Tale of Two Cities* Book 2, Chapter 22~24					
第12回 *A Tale of Two Cities* Book 3, Chapter 1~3					
第13回 *A Tale of Two Cities* Book 3, Chapter 4~9					
第14回 *A Tale of Two Cities* Book 3, Chapter 10~15					
第15回 フィードバック					
[履修要件]					
特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。					
----- 英語学英文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：50%
期末レポート：50%

[教科書]

Charles Dickens 『A Tale of Two Cities』（Penguin）ISBN:9780141439600

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、該当する章を読み、コメントペーパーを提出する。

（その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸学院大学 准教授 WROBETZ, Kevin Reay		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Academic Writing 1: Linguistics, Game Theory, and Social Interaction				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will introduce students to the concepts of linguistics and game theory through the context of social interaction. Specifically, this course will help students understand how the English language underpins social interaction on a global scale and how the rules of social interaction directly affect the use of language. Throughout the course, students will actively participate in games which highlight different contexts of social interaction in the English language as well as discuss how game rules may be modified to achieve different contexts of social interaction in English. As this is a content-focused course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarize in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. Much of the content of the course discussions and course materials will relate how the principles of linguistics and game theory may be applied to achieve a deeper understanding of intercultural communication in specific contexts.</p>					
[到達目標]					
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today, the sociocultural context of intercultural communication, and the inner mechanics of various games which influence how communication plays out. The active participation in games, group discussions, and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the course materials will broaden students' vocabulary skills and general knowledge of the goals of intercultural communication, linguistics, game theory, and the significance of the context of intercultural communication.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. Classroom sessions will involve active participation in various games, short lectures to clarify relevant concepts, and group discussions to help students think critically about the main topics of the course. The course will evaluate students through the use of in-class comprehension activities and comprehension worksheets. Additionally, students will submit and present the content of a research essay to evaluate the students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content.</p> <p>Week 1: Course Introduction Week 2: Competition and the Spread of Disinformation A: Game Introduction Week 3: Competition and the Spread of Disinformation B: Informed Majority Vs. Uninformed Minority Week 4: Competition and the Spread of Disinformation C: Language of Deception Week 5: Competition and the Spread of Disinformation D: Class Discussion of Competitive Games Week 6: Competition and the Spread of Disinformation E: Competition and Conspiracy (Us Vs. Them) Week 7: Competition and the Spread of Disinformation F: The Prisoner's Dilemma and the Erosion of Trust Week 8: Cooperation and Global Climate Change Coalitions A: Game Introduction</p>					
英語学英文学 (特殊講義)(2)へ続く					

英語学英文学 (特殊講義)(2)

Week 9: Cooperation and Global Climate Change Coalitions B: From Each According to Their Ability
Week 10: Cooperation and Global Climate Change Coalitions C: Language of Teamwork
Week 11: Cooperation and Global Climate Change Coalitions D: Class Discussion of Cooperative Games
Week 12: Cooperation and Global Climate Change Coalitions E: Climate Change Coalition
Week 13: Cooperation and Global Climate Change Coalitions F: The Shapley Value and the Building of Trust
Week 14: Student Presentations on Essays
Week 15: Make-Up Lesson

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Comprehension Worksheets: 10%
Essay: 20%
Oral Presentation: 20%
Class Participation: 60%

【教科書】

All reading material and instructional media will be provided by the course instructor. Some of the reading material will focus on cooperative and competitive game theory (Von Neumann & Morgenstern).

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Weekly reading preparation for class discussion. Submission of comprehension worksheets based on the content of weekly readings, in-course instructional material, and lecture content. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

【その他(オフィスアワー等)】

If students have any questions regarding this course, they are encouraged to contact the instructor at krwrobotz@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET18 23431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸学院大学 准教授 WROBETZ, Kevin Reay		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Academic Writing 2: Linguistics, Game Theory, and Social Interaction				
[授業の概要・目的]					
<p>This course will introduce students to the concepts of linguistics and game theory through the context of social interaction. Specifically, this course will help students understand how the English language underpins social interaction on a global scale and how the rules of social interaction directly affect the use of language. Throughout the course, students will actively participate in games which highlight different contexts of social interaction in the English language as well as discuss how game rules may be modified to achieve different contexts of social interaction in English. As this is a content-focused course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarize in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. Much of the content of the course discussions and course materials will relate how the principles of linguistics and game theory may be applied to achieve a deeper understanding of intercultural communication in specific contexts.</p>					
[到達目標]					
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today, the sociocultural context of intercultural communication, and the inner mechanics of various games which influence how communication plays out. The active participation in games, group discussions, and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the course materials will broaden students' vocabulary skills and general knowledge of the goals of intercultural communication, linguistics, game theory, and the significance of the context of intercultural communication.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. Classroom sessions will involve active participation in various games, short lectures to clarify relevant concepts, and group discussions to help students think critically about the main topics of the course. The course will evaluate students through the use of in-class comprehension activities and comprehension worksheets. Additionally, students will submit and present the content of a research essay to evaluate the students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content.</p> <p>Week 1: Course Introduction Week 2: Intercultural Communication During Disaster A: Game Introduction Week 3: Intercultural Communication During Disaster B: The Interconnectedness of the Globe Week 4: Intercultural Communication During Disaster C: The Role of Communication Week 5: Intercultural Communication During Disaster D: Class Discussion on the Global Response to Pandemics Week 6: Intercultural Communication During Disaster E: Abstraction of Complexity (Learning From Past Mistakes)</p>					
----- 英語学英文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (特殊講義)(2)

Week 7: Intercultural Communication During Disaster F: Parallels to Real Life
Week 8: What Housing Crisis? Japan Vs. the West A: Game Introduction
Week 9: What Housing Crisis? Japan Vs. the West B: Play by the Rules (Zoning Ordinances)
Week 10: What Housing Crisis? Japan Vs. the West C: Don't Play by the Rules (Changing Zoning Ordinances)
Week 11: What Housing Crisis? Japan Vs. the West D: Class Discussion on the Housing Crisis in the West
Week 12: What Housing Crisis? Japan Vs. the West E: Comparing Japanese and Western Housing Markets
Week 13: What Housing Crisis? Japan Vs. the West F: Different Rules, Different Outcomes
Week 14: Student Presentations on Essays
Week 15: Make-Up Lesson

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Comprehension Worksheets: 10%
Essay: 20%
Oral Presentation: 10%
Class Participation: 60%

【教科書】

All reading material and instructional media will be provided by the course instructor. Some of the reading will focus on group actions in repeated games (Farrell & Maskin) and the cross-cultural legislative implementation of zoning ordinances (Durning).

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Weekly reading preparation for class discussion. Submission of comprehension worksheets based on the content of wweekly readings, in-course instructional material, and lecture contnet. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

(その他(オフィスアワー等))

If students have any questions regarding this course, they are encouraged to contact the instructor at krwrobetz@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET18 23431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英詩の精読、および評論の読解				
[授業の概要・目的]					
<p>英詩を読むために必要な知識を身に付け、作品を読み解く鍛錬を行う。併せて詩に関連する評論を読むことによって、個々の作品に対する理解を深め、作品の論じ方を学ぶ。本講義は、主に Terry EagletonのHow to Read a Poem (Blackwell 2007)の第5章"How to Read a Poem"、第6章"Four Nature Poems"を基に構成しており、その中で扱われている"Tone, Mood and Pitch" "Syntax, Grammar and Punctuation" "Ambiguity" "Rhyme"といったテーマに沿って詩と評論を読む。取り上げる作品は、Robert Browning "Porphyria's Lover," W. B. Yeats "A Dialogue of Self and Soul," Christina Rossetti "Remember," Thomas Hardy "The Darkling Thrush," Philip Larkin "Days," Wilfred Owen "Insensibility" John McCrae "In Flanders Fields," William Wordsworth "The Solitary Reaper" など。本書における Eagletonの問題意識や洞察を手掛かりに、詩の精読の方法を学ぶだけでなく、詩を論じること自体についての考えを深めていきたい。</p> <p>授業は口頭発表とディスカッションを中心に進める。毎回、授業内でコメントシートを作成してもらう。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英詩を精読することによって、テキストを読み解く力を向上させる。 2. 口頭発表、ディスカッション、コメントシート作成などの作業を通して、論理的思考や表現力を身に付ける。 3. 詩論を読む力を錬成し、批評との対話を行う。 					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション、授業の進め方についての説明、How to Read a Poemが書かれた背景について					
第2回 Is Criticism Just Subjective?					
第3回 Tone, Mood and Pitch					
第4回 Tone, Mood and Pitch					
第5回 Intensity and Pace					
第6回 Texture					
第7回 Syntax, Grammar and Punctuation					
第8回 Syntax, Grammar and Punctuation					
第9回 Ambiguity					
第10回 Ambiguity					
第11回 Rhyme					
第12回 Rhyme					
第13回 Nature Poem1					
第14回 Nature Poem2					
第15回 フィードバック					
----- 英語学英文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

[教科書]

プリントを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、一編、あるいは二編の詩を扱う予定です。担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。

口頭発表の担当ではない場合も、作品と批評を読んで十分に準備し、授業内でのディスカッションに備えること。活発な議論を期待しています。

授業で紹介する作品や参考文献を読み、自主的にリサーチを行い、期末レポートの執筆に役立ててください。

(その他(オフィスアワー等))

連絡先は授業時にお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET18 23431 LJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 尾崎 俊介		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ自己啓発思想史				
[授業の概要・目的]					
<p>現在、日本でも数多く売れている「自己啓発本」だが、その起源は18世紀末のアメリカで出版されたベンジャミン・フランクリンの『自伝』に遡る。自助努力によって見事なまでの立身出世を遂げたフランクリンの『自伝』が広く読まれたことで、当時のアメリカ人の間に野心が生れ、「アメリカン・ドリーム」がスタートしたと言ってよい。その意味では、アメリカの近代化は、自己啓発本によって促されたのだ。</p> <p>そしてその後、およそ200年が経過する間に「自己啓発本」は様々な発展をし、今日では傍系・亜流を含めて膨大なサブジャンルを従える一大文学ジャンルに成長した。そしてその影響は太平洋を越え、遠く日本にも及んでいる。事実、明治時代に一気に進んだ日本の近代化は、福沢諭吉の『学問のすゝめ』、中村正直の『西国立志編』の二冊の自己啓発本によって成し遂げられたとも言える。</p> <p>本講義では、アメリカ発祥の文学ジャンルである「自己啓発本」の歴史を追いながら、それがアメリカの、そして日本の近/現代思想史・生活史にどのような影響を与えてきたかについて、概説していきたい。</p>					
[到達目標]					
<p>自己啓発本というと、立身出世や金儲けなどを指南するノウハウ集かと誤解されがちだが、自己啓発本の出版史をたどっていくと、この特異な文学ジャンルがアメリカの急速な近代化に大きな影響を与えてきたことがわかる。</p> <p>本講義では、アメリカ発祥の文学である自己啓発本の出版史を概観することで、アメリカという国と自己啓発本が相互依存的に発展していった経緯を理解できるようにしたい。また併せて、アメリカ発の自己啓発本が日本の近代化にいかに甚大な影響を与えてきたかについても、認識を高めていきたい。</p>					
[授業計画と内容]					
以下はあくまでも予定です。受講生の人数などによって適宜調整します。					
1日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回：エマニュエル・スウェーデンボルグのニューソート革命 (講義) ・ 2回：ベンジャミン・フランクリンと自助努力系自己啓発思想の誕生 (講義) ・ 3回：福沢諭吉『学問のすゝめ』と日本の近代化 (講義・小レポート) 					
2日目					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 4回：精神療法の誕生 (講義) ・ 5回：ラルフ・ウォルドー・エマソンの思想と引き寄せの法則 (講義) ・ 6回：引き寄せ系自己啓発本の誕生 (講義・小レポート) 					
3日目					
英語学英文学 (特殊講義)(2)へ続く					

英語学英文学 (特殊講義)(2)

- ・ 7回：引き寄せ系自己啓発本のインパクト（講義）
- ・ 8回：デール・カーネギーの登場と自己啓発本読者の変容(講義)
- ・ 9回：20世紀半ばのポジティブ思考（講義・小レポート）

4日目

- ・ 10回：1960年代、ベビー・ブーマーと自己啓発本の関係（講義）
- ・ 11回：1970年代、ミーイズムの時代の自己啓発思想（講義）
- ・ 12回：ペティ・フリーダン『女らしさの神話』と女性向け自己啓発本（講義・小レポート）

5日目

- ・ 13回：エリザベス・キューブラー・ロスの死後生研究（講義）
- ・ 14回：生まれ変わり言説と自己啓発思想（講義）
- ・ 15回：21世紀のポジティブ心理学（講義・小レポート）

期末試験

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

小レポート5回分（25%）、試験（75%）で総合的に評価する

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

尾崎俊介 『14歳からの自己啓発』（トランスビュー、2023）ISBN:978-4-7989-0187-5

尾崎俊介 『アメリカは自己啓発本でできている』（平凡社、2024年）ISBN:978-4-582-83949-4

尾崎俊介 『大学教授が解説 自己啓発の必読ランキング60』（KADOKAWA、2025年）ISBN:978-4041153277

【授業外学修（予習・復習）等】

自己啓発本という文学ジャンルについてのおおよその認識を持つため、スティーブン・R・コヴィーの『7つの習慣』、デール・カーネギーの『人を動かす』、ロンダ・バーンの『ザ・シークレット』のすべて、あるいはいずれかを事前に読んでおいてください。

（その他（オフィスアワー等））

連絡はメールで行います。メールアドレスは、sozaki@aecc.aichi-edu.ac.jpです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学191

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36			
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	Stylistic analysis				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業は、主に客員教授のLorenzo Mastropiero先生(イタリア、インスブリア大学)が担当しますが家入が補助します。Mastropiero先生の来日スケジュールに変更が生じた場合は、講義内容および使用言語等に変更が生じることがあります。</p> <p>Stylistics is the study of style, the idiosyncratic ways in which language is used by individuals in different contexts and situations. Stylistic analysis builds on linguistic examination to illustrate how texts work: doing stylistics means exploring linguistic features to explain what meanings they convey, what effects they create, and how they are interpreted by readers. This course introduces students to stylistics, with a focus on hands-on stylistic practice. It covers key concepts in stylistics and shows how to study them through a series of practical tasks. During the lessons, students are asked to analyse and discuss a range of different text types to learn how stylistics can be applied flexibly to a wide variety of textual genres. The course combines sessions in which stylistic notions and models are introduced and applied to qualitative analysis to sessions where corpus tools and methods are presented and employed in quantitative investigations. As no prior experience in corpus linguistics is required, particular attention is paid to the acquisition of the technical know-how to carry out corpus-assisted investigations of stylistically relevant features, making the most of freely available online tools. Through this combination of theoretical perspectives and practical guidance, students will be equipped with the skills to engage in effective stylistic analysis and apply it to their own work.</p>					
[到達目標]					
<p>On successfully completing the course, students will learn how to carry out qualitative and quantitative stylistic analysis. More specifically, students will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Apply key stylistic concepts and models to the study of a wide variety of texts; - Build on the description of stylistic features in the process of textual interpretation; - Analyse the interface between form and meaning, evaluating how and to what extent language choices influence readerly perceptions of a text; - Demonstrate their understanding of foundational corpus-linguistics concepts and of the principles of quantitative analysis; - Use a range of corpus tools and methods in stylistic analysis; - Employ quantitative evidence to develop and support lines of argument in the analysis of texts. <p>Moreover, students will be able to design and develop their own stylistic project, learning to apply the technical and analytical skills acquired in this course to other research contexts involving textual analysis.</p>					
----- 英語学英文学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (特殊講義)(2)

【授業計画と内容】

1. Introduction to stylistics
2. Deviance and foregrounding
3. Corpus methods for stylistic analysis
4. Concordance analysis
5. Keyword analysis
6. Collocation analysis
7. Comparing frequencies
8. Characterisation and representation
9. Clusters
10. Speech and thought presentation;
11. Transitivity
12. Perspective and viewpoint
13. Stylistics and translation I
14. Stylistics and translation II
15. Finding research questions

【履修要件】

Reading assigned texts, active participation in class, final essay

【成績評価の方法・観点】

Attendance & class contribution: 40%
Essay: 60%

【教科書】

授業中に指示する

Readings will be provided throughout the course

【参考書等】

(参考書)

- Burke, M. (Ed.) 『The Routledge Handbook of Stylistics (2nd edition)』 (Routledge, 2023)
Jeffries, L., & McIntyre, D. 『Stylistics』 (Cambridge University Press, 2010)
Mastropierro, L. 『Corpus Stylistics in Heart of Darkness and its Italian Translations』 (Bloomsbury, 2017)
McEnery, T., & Hardie, A. 『Corpus Linguistics』 (Cambridge University Press, 2012)
McIntyre, D., & Walker, B. 『Corpus Stylistics: Theory and Practice』 (Edinburgh University Press, 2019)
O'Keeffe, A., & McCarthy, M. (Eds.) 『The Routledge Handbook of Corpus Linguistics (2nd edition)』 (Routledge, 2022)
Simpson, P. 『Stylistics: A Resource Book for Students』 (Routledge, 2014)
Sotirova, V. (Ed.) 『The Bloomsbury Companion to Stylistics』 (Bloomsbury, 2016)
Stockwell, P., & Whitely, S. 『The Cambridge Handbook of Stylistics』 (Cambridge University Press, 2015)

英語学英文学 (特殊講義)(3)へ続く

英語学英文学 (特殊講義)(3)

[授業外学修（予習・復習）等]

Assigned reading

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeyri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET18 23441 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (演習 I) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英文法の面白さと英語の多様性、変化				
[授業の概要・目的]					
Merja Kyto & Paivi Pahta (ed.), The Cambridge Handbook of English Historical Linguistics (CUP, 2016) (図書館のものを利用)の中から指定する章を読むとともに、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、そのテーマについて授業中に議論を行い、学期末にはレポートを作成します。今年度は、少し英語史の視点に重点を置いた授業となります。					
[到達目標]					
Merja Kyto & Paivi Pahta (ed.), The Cambridge Handbook of English Historical Linguistics (CUP, 2016)の中から指定する章を講読し、英文法を多様な視点から再確認します。合わせて英語学関係の論文を講読し、英語の多様性、変化への理解を深めるとともに、コーパス言語学の手法や談話分析の手法を習得することを目標とします。					
[授業計画と内容]					
第1回： イントロダクション					
第2回： コーパス言語学のアプローチによる英語の分析 (1)					
第3回： コーパス言語学のアプローチによる英語の分析 (2)					
第4回： 文法化と語彙化の視点から (1)					
第5回： 文法化と語彙化の視点から (2)					
第6回： 談話分析の手法を用いたアプローチ (1)					
第7回： 談話分析の手法を用いたアプローチ (2)					
第8回： 歴史社会言語学と英語研究 (1)					
第9回： 歴史社会言語学と英語研究 (2)					
第10回： 歴史語用論的なアプローチ (1)					
第11回： 歴史語用論的なアプローチ (2)					
第12回： 英語の標準化と規範文法					
第13回： 英語の地域性					
第14回： 言語接触と英語					
第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括					
<p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p> <p>なお必要な場合には、レポートの作成に有用なオンラインツールや辞書の使い方等を習得するためのワークショップ・セミナー等を行うことがあります。</p>					
----- 英語学英文学 (演習 I)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (演習 I)(2)

【履修要件】

英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、特殊講義（家入葉子・Lorenzo Matropierro）、特殊講義（Kevin Wrobetz）、特殊講義（滝沢直宏）、外国語実習（Lachlan Rigby Jackson）も提供（予定）しています。英語の多様性への理解には、英語の歴史についての知識とともに、現代英語の実際に触れることも欠かせませんので、要件ではありませんが、余裕がある人はこれらの授業の受講もご検討ください。

【成績評価の方法・観点】

授業への貢献度（40%）およびレポート（60%）によって評価を行います。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

Andreea S. Calude & Laurie Bauer 『Mysteries of English Grammar: A Guide to Complexities of the English Language』（Routledge）

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の予習（全員）及び、論文の講読（担当者）をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET18 23441 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (演習 I) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中英語入門				
[授業の概要・目的]					
指定した中英語文献を講読するほか、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、中英語テキストを題材に英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、学期末にはレポートを作成します。					
[到達目標]					
中世頭韻詩『真珠』の講読を通じて中英語についての理解を深めます。また、中英語と現代英語の違いに着目し、言語を变化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。					
[授業計画と内容]					
中世頭韻詩『真珠』の講読を通じて中英語についての理解を深めます。また、中英語と現代英語の違いに着目し、言語を变化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。					
授業計画と内容					
第1回： イントロダクション、データベース利用の方法					
第2回： 中英語の発音および基本的な文法事項					
第3回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中世頭韻詩全般について					
第4回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中英語の綴り字					
第5回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論					
第6回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中英語の語順					
第7回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中英語の名詞・形容詞					
第8回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中英語の代名詞全般					
第9回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中英語の語彙					
第10回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論					
第11回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中英語の前置詞					
第12回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中英語の副詞					
第13回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中英語の助動詞					
第14回： 中世頭韻詩『真珠』の講読および中英語の動詞					
第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括					
授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。					
なお必要な場合には、レポートの作成に有用なオンラインツールや辞書の使い方等を説明するためのワークショップ等を行うことがあります。					
[履修要件]					
英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、特殊講義（家入葉子・Lorenzo Matropierro）、特殊講義（Kevin Wrobetz）、特殊講義（滝沢直宏）、外国語実習（Lachlan Rigby					
----- 英語学英文学 (演習 I)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (演習 I)(2)

Jackson)も提供(予定)しています。英語の多様性への理解には、英語の歴史についての知識とともに、現代英語の実際に触れることも欠かせませんので、要件ではありませんが、余裕がある人はこれらの授業の受講もご検討ください。

[成績評価の方法・観点]

授業への貢献度(40%)およびレポート(60%)によって評価を行います。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Gordon, E. V. (ed.) 『Pearl』 (Clarendon Press)

(関連URL)

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修(予習・復習)等]

中英語テキストの予習(全員)及び、論文の講読(担当者)をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します

(その他(オフィスアワー等))

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET18 23441 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (演習 I) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Claire Keeganの『Small Things Like These』(2021)を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>Claire Keeganの『Small Things Like These』は、2022年にオーウェル賞を受賞し、同年のブッカー賞候補にも選出されるなど、高い評価を受けている。2024年にはティム・ミーランツ監督、キリアン・マーフィー主演で映画化され、ベルリン国際映画祭でエミリー・ワトソンが最優秀助演俳優賞(銀熊賞)を受賞するなど、映像作品としても注目を集めている。授業では、マグダレン洗濯場という大きな社会問題になった事実をもとにした本作品の精読を通じて、アイルランドの社会背景や宗教的要素、倫理的テーマについて考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。</p> <p>(2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。</p> <p>(3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回: イントロダクション: 授業の概要説明、評価基準の確認。Claire Keeganの作家紹介と『Small Things Like These』の概要を紹介する。</p> <p>第2回: pp. 1-13</p> <p>第3回: pp. 14-26</p> <p>第4回: pp. 27-38</p> <p>第5回: pp. 39-50</p> <p>第6回: pp. 51-63</p> <p>第7回: pp. 64-76</p> <p>第8回: pp. 77-89</p> <p>第9回: pp. 90-102</p> <p>第10回: pp. 103-115</p> <p>第11回: pp. 116-128</p> <p>第12回: James Joyce, "Clay"の精読: Dublin by Lamplightの洗濯場について</p> <p>第13回: 映画『マグダレンの祈り』の鑑賞と分析</p> <p>第14回: 総括とディスカッション: これまでの学習内容を総括し、作品のテーマやメッセージについてディスカッションを行う。</p> <p>第15回: 最終レポート発表: 各自が作成した最終レポートの発表とフィードバックを行う。</p>					
----- 英語学英文学 (演習 I)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (演習 I)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・担当者発表60% + 学期末レポート40%にて評価する。

[教科書]

Claire Keegan 『Small Things Like These』 (2021, Faber & Faber) ISBN:978-0571368686 (<https://www.amazon.co.jp/Small-Things-These-Claire-Keegan/dp/0571368689>)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜13:00から14:45までとします。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学195

科目ナンバリング	U-LET18 23441 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (演習 I) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 南谷 奉良		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Kevin Barryの『Dark Lies the Island』(2012)を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>アイルランドの現代作家Kevin Barry (1969-)の『Dark Lies the Island』(2012)はユーモアと暗さが交錯する独特な作風で高く評価された短編集である。アイルランド文学ルーニー賞を受賞した前作の短編集There Are Little Kingdomsに続く本作は、2012年にフランク・オコナー国際短編賞の最終候補に選ばれた。本授業では、日常の小さな瞬間や些細な出来事に焦点を当てながら、初恋の記憶、田舎と都市の風景、暴力、孤立、父権主義、知的障害、誘拐、極限状態、アルコール中毒、郷愁といった諸テーマを通じて、アイルランド社会のリアリティと暗部を歴史的・文化史的側面から考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。</p> <p>(2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。</p> <p>(3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回	Introduction : Kevin Barry (1969-)の主要作品と生涯、作風について				
第2回	Across the Rooftops (pp.1-6)				
第3回	Wifey Redux (pp.7-26)				
第4回	Fjord of Killary (pp.27-45)				
第5回	A Cruelty (pp.46-55)				
第6回	Beer Trip to Llandudno (pp.56-76)				
第7回	Ernestine and Kit (pp.77-89)				
第8回	The Mainland Campaign (pp.90-101)				
第9回	Wistful England (pp.102-112)				
第10回	Doctor Sot (pp.113-130)				
第11回	The Girls and the Dogs (pp.131-143)				
第12回	White Hitachi (pp.144-158)				
第13回	Dark Lies the Island (pp.159-171)				
第14回	Berlin Arkonaplatz-My Lesbian Summer (pp.172-189)				
第15回	まとめ・質疑応答				
----- 英語学英文学 (演習 I)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (演習 I)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・担当者発表60% + 学期末レポート40%にて評価する。

[教科書]

Kevin Barry 『Dark Lies the Island』 (Vintage Books, 2013) ISBN:978-0099575078 (<https://www.amazon.co.jp/Dark-Lies-Island-Kevin-Barry/dp/0099575078>)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜13:00から14:45までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET18 23441 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (演習 I) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ文学の代表的戯曲を読む (1) _The Glass Menagerie_ 精読				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業はTennessee Williamsの戯曲_The Glass Menagerie_ (1945) を精読します。セントルイスの小さなアパートを舞台に、母と子供たちの葛藤、切実な願望と挫折が、息詰まるような臨場感をもって描かれています。本授業では、本作のテーマを探究するだけでなく、「戯曲」というジャンルの特性とその表現の意味に着目し、演劇作品を「読む」ことの意義を共に考えます。</p>					
[到達目標]					
<p>英語で書かれたフィクションの読み方を学習する。 アメリカ文学における代表的戯曲を読む。 戯曲というジャンルについて理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のスケジュールはあくまでも予定です。必ず初回授業で配布されるスケジュールをご参照ください。</p> <p>第1回：Introduction: 作者紹介および戯曲を読むことについての説明 第2回：Scene Oneを読む 第3回：Scene Twoを読む 第4回：Scene Threeを読む 第5回：Scene Four (1)を読む 第6回：Scene Four (2)を読む 第7回：Scene Fiveを読む 第8回：Scene Six (1)を読む 第9回：Scene Six (2)を読む 第10回：Scene Seven (1)を読む 第11回：Scene Seven (2)を読む 第12回：Scene Seven (3)を読む 第13回：レポートワークショップ 第14回：本授業全体の総括 第15回：フィードバック</p>					
----- 英語学英文学 (演習 I)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (演習 I)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回の授業後にメールにてコメント提出（20％）・発表（40％：予定回数は1回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。

【教科書】

テキストはPandAにてpdf形式で配布します。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まないと（毎回およそ15ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学197

科目ナンバリング	U-LET18 23441 SJ36				
授業科目名 <英訳>	英語学英文学 (演習 I) English Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アメリカ文学の代表的戯曲を読む (2) _Death of a Salesman_ 精読				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業はArthur Millerの戯曲_Death of a Salesman_ (1949) を精読します。本作は、家族の葛藤や夢の挫折を描いた20世紀を代表する家庭劇であり、発表から四半世紀以上経った現代においても、切実に感じられる作品です。本授業では、本作のテーマを探究するだけでなく、「戯曲」というジャンルの特性とその表現の意味に着目し、演劇作品を「読む」ことの意義を共に考えます。</p>					
[到達目標]					
<p>英語で書かれたフィクションの読み方を学習する。 アメリカ文学における代表的戯曲を読む。 戯曲というジャンルについて理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のスケジュールはあくまでも予定です。必ず初回授業で配布されるスケジュールをご参照ください。</p> <p>第1回：Introduction: 作者紹介および戯曲を読むことについての説明 第2回：Act One (1)を読む 第3回：Act One (2)を読む 第4回：Act One (3)を読む 第5回：Act One (4)を読む 第6回：Act One (5)を読む 第7回：Act Two (1)を読む 第8回：Act Two (2)を読む 第9回：Act Two (3)を読む 第10回：Act Two (4)を読む 第11回：Act Two (5)を読む 第12回：Act Two (6)を読む 第13回：レポートワークショップ 第14回：本授業全体の総括 第15回：フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>毎回の授業後にメールにてコメントシートを提出 (20%) ・発表 (40% : 予定回数は1回) ・期末レポート (40%) にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分</p>					
----- 英語学英文学 (演習 I)(2)へ続く -----					

英語学英文学 (演習 I)(2)

どの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。

[教科書]

テキストはすべてPandA経由で配布します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

本授業はディスカッション主体の授業です。扱う作品を読まない（毎回およそ15ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んで授業に臨んでください。発表やレポートの形式については初回授業で説明します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学198

科目ナンバリング		U-LET21 13604 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(フランス文学)(講義) French Literature (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 永盛 克也	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フランス文学 - ジャンル論からのアプローチ				
[授業の概要・目的]					
<p>「ジャンル」概念は文学において創作と受容の双方に関わる重要な役割をもっている。ジャンルの要請する形式や主題の選択は創作理論の根本であると同時に受容のあり方をも規定しているのである。ジャンルに特有の規則が作家に過度の制約を与えてしまう場合もあれば、作家の独創性がジャンルの枠組みを超越してしまう場合もある。さらに、ジャンルの下位分類としてのサブジャンルはより豊かな可能性を作家に与えると同時に、読者との間に暗黙の協定を必要とするものでもある。</p> <p>この講義では、ジャンル論を手掛かりとしてフランス文学を理論と実践の両面から理解することを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>「ジャンル」概念の役割をフランス文学史の流れの中で理解すること、また「ジャンル」の観点をふまえた文学作品の分析の手法を修得することを目標とする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進みぐあいに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 「ジャンル」とは何か 第2回 ジャンル概念の起源 第3回 ジャンルの詩学 第4回 近代のジャンル論 第5回～第6回 演劇とジャンル論 第7回～第8回 詩とジャンル論 第9回～第10回 種々のジャンル - 「エッセー」、「パンセ」、「箴言」 第11回～第14回 小説の諸ジャンル - 書簡体小説、歴史小説、自伝体小説 第15回 まとめ ジャンルの美学 受容理論</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
期末レポート(100%)					
[教科書]					
プリント等を配布する					
----- 系共通科目(フランス文学)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (フランス文学) (講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

コンパニオン 『文学をめぐる理論と常識』 (岩波書店) ISBN:9784000246392

スタイナー 『悲劇の死』 (ちくま学芸文庫) ISBN:9784480082251

ヤウス 『挑発としての文学史』 (岩波現代文庫) ISBN:9784006000660

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業で抜粋を読んだ作品を通して読んでみる。授業で紹介する関連図書を参照すること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET21 13606 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(フランス文学)(講義) French Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 森本 淳生		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フランス研究入門 文学・思想・映画				
[授業の概要・目的]					
<p>17世紀から現代にいたるフランスの文学と思想を、いくつかの代表的な作品を具体的に読み解き、ときに関連する映画を鑑賞しながら、概観する授業です(フランス語の知識は前提としません)。</p> <p>フランスは17世紀前半、リシュリュー枢機卿が宰相であった時代に中央集権的な王権の基礎を固め、世紀後半、ルイ14世の親政とともに絶対王政を確立します。この時代に、ラシーヌやモリエールといった作家たちが現在まで読み継がれる古典的な文学作品を生み出しました。授業では時代の背景を押さえつつ、映画『王は躍る』(2000年、ジェラルド・コルビオ監督)を鑑賞し、関連するモリエールの諸作品 とくに『タルチュフ』(1664) について考えます。</p> <p>つづく18世紀はいわゆる啓蒙主義が花開き、モンテスキュー、ヴォルテール、ディドロ、ルソーといった錚々たる思想家・文学者が現れた時代です。授業では、こうした時代の思潮をふまえて、パリを訪れたペルシア人による文明批評の手紙という体裁で書かれた『ペルシア人の手紙』(1721)を具体的に読み解いていきます。</p> <p>フランス革命を経た19世紀については、まず、ユゴーの有名な『レ・ミゼラブル』(1862)を映画版(1957年、ジャン=ポール・ル・シャノワ監督)およびテキストの抜粋を使いながら考えてみたいと思います。ユゴーはフランス革命の成果を「ヒューマンイズム」として捉え、それが実際には必ずしも十全に実現されていない現実の世界を生きる「惨めな人々」を描き出しています。19世紀はまた、そうした赤裸々な「現実」が、バルザック、フロベール、ゾラといった作家によって小説作品に描かれた、リアリズム、自然主義の時代でもありました。授業ではその記念碑的な作品のひとつであるフロベールの『ボヴァリー夫人』(1857)について映画版(1933年、ジャン・ルノワール監督)も見ながら考えてみます。</p> <p>以上のような産業主義の発展とともに爛熟するブルジョワ社会と悲惨を強いられ貧窮する庶民の生活を特徴とする「現実世界」への強い批判として、世紀後半には象徴主義と呼ばれるある手の理想主義的な思潮が生まれてきます。授業ではその代表的な詩人であるステファヌ・マラルメの作品を、同時代の美術作品なども参照しながら紹介したいと思います。</p> <p>20世紀については、いわゆる実存主義で著名なカミュの『異邦人』(1942)を映画版(1967年、ルキノ・ヴィスコンティ監督)も見ながら考えてみましょう。これは「神が死んでしまった」現代世界において生きるとはいかなることなのかを考えるうえできわめて重要な作品です。そして最後に、現代に特徴的な、記憶と世界の迷宮的なあり方を、ほとんど呪文的とも言える言葉と息をのむほどに美しい映像によって見事に表現した、レネ・ロブ=グリエの『去年マリエンバードで』(1961)を鑑賞して終えることにしたいと思います。</p>					
系共通科目(フランス文学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目 (フランス文学) (講義)(2)

【到達目標】

- フランス文学について、17世紀から現代にいたる流れの概略を理解し、いくつかの代表的作品について具体的なイメージを獲得する。
- 作品分析の基本的な作業について、具体的なイメージを獲得する。

【授業計画と内容】

イントロダクション：授業の概要と進め方

17世紀(1)：ルイ14世と絶対王政の確立 『王は踊る』とモリエール(1)

17世紀(2)：ルイ14世と絶対王政の確立 『王は踊る』とモリエール(2)

18世紀(1)：啓蒙の世紀 モンテスキュー 『ペルシア人の手紙』を読む(1)

18世紀(2)：啓蒙の世紀 モンテスキュー 『ペルシア人の手紙』を読む(1)

19世紀(1)：ヒューマニズムの行方 ユゴー 『レ・ミゼラブル』を読む／見る(1)

19世紀(2)：ヒューマニズムの行方 ユゴー 『レ・ミゼラブル』を読む／見る(2)

19世紀(3)：リアリズムと近代小説 フロベール 『ボヴァリー夫人』を読む／見る

19世紀(4)：世紀末と象徴主義 マラルメを読む

20世紀前半(1)：カミュ 『異邦人』を読む／見る(1)

20世紀前半(2)：カミュ 『異邦人』を読む／見る(2)

20世紀後半(1)：レネ／ロブ＝グリエ 『去年マリエンバード』を読む／見る(1)

20世紀後半(2)：レネ／ロブ＝グリエ 『去年マリエンバード』を読む／見る(2)

まとめ

期末試験

フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点50パーセント、期末試験50パーセント

【教科書】

プリント配布

【参考書等】

(参考書)

横山安由美、朝比奈美知子編著 『はじめて学ぶフランス文学史』(ミネルヴァ書房、2002年)

ISBN:4-623-03490-9(コンパクトかつ充実した概説書)

永井敦子、畠山達、黒岩卓編著 『フランス文学の楽しみかた』(ミネルヴァ書房、2021) ISBN:

978-4-623-09076-1(代表的作品の解説と、興味深い数々のコラム)

モリエール(鈴木力衛訳) 『タルチュフ』(岩波文庫) ISBN:978-4003251225(たぐいまれな名訳)

モンテスキュー(田口卓臣訳) 『ペルシア人の手紙』(講談社学術文庫) ISBN:978-4065193419(解説も充実した最新訳)

ユゴー(西永良成訳) 『レ・ミゼラブル(全五冊)』(平凡社ライブラリー)

フロベール(芳川泰久訳) 『ボヴァリー夫人』(新潮文庫) ISBN:978-4102085028(読みやすい新

系共通科目(フランス文学)(講義)(3)へ続く

系共通科目 (フランス文学) (講義)(3)

訳)
マラルメ (渡辺守章訳) 『マラルメ詩集』 (岩波文庫) ISBN:978-4003750865
カミュ (窪田啓作訳) 『異邦人』 (新潮文庫) ISBN:978-4102114018
ロブ=グリエ (天沢退二郎・蓮実重彦訳) 『去年マリエンバートで・不滅の女』 (筑摩書房、1969年)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業でとりあげる作品については、「参考書等」の欄でしめした翻訳をひとつでもよいので実際に手にとり読んでみてください。

(その他 (オフィスアワー等))

KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。
この授業は、2023年度後期、2024年度前期と同一の内容です。ご注意ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学200

科目ナンバリング	U-LET21 23607 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(フランス語学)(講義) French Language (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	関西学院大学文学部 教授 小田 涼		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フランス語学概論				
[授業の概要・目的]					
この講義の目的は、フランス語の語彙や構文の分析方法を学び、言語学としてフランス語を研究するための入門的な知識を身につけることである。ときに日本語や英語と比較しながらフランス語のさまざまな表現の違いについて考え、フランス語を学問として研究するための基本的な知識を学ぶ。					
[到達目標]					
フランス語とはどういう言語であるか、語彙論、意味論、統語論、語用論などの観点からアプローチしてその全体像を把握できるようになる。フランス語学についての基礎的知識と分析方法を習得する。					
[授業計画と内容]					
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進み具合やその他の事情によりテーマの順序やテーマの一部を変更することがある。また、1つのテーマを2回の授業で扱うこともある。					
<p>第1回：ソシュールと言語学の基本概念、言語学・フランス語学とは何か</p> <p>第2回：「持つ(avoir)」的言語と「ある(#234tre)」的言語 (Have languageとBe language)</p> <p>第3回：フランス語の名詞の性は何のために存在するのか</p> <p>第4回：カテゴリー化(=範疇化)について(1)</p> <p>第5回：カテゴリー化(=範疇化)について(2)</p> <p>第6回：冠詞と意味の切り分け(英語の可算名詞と非可算名詞の区別はフランス語ではどのように現れるのか)</p> <p>第7回：総称(ものごと一般)をあらわす名詞と冠詞</p> <p>第8回：名詞を修飾する形容詞の位置：un po#232te heureuxとun heureux po#232teはそれぞれどういう意味か</p> <p>第9回：否定：分離的否定、否定の作用域</p> <p>第10回：叙法(mode)について(直説法、条件法、接続法、命令法)</p> <p>第11回：情報構造と語順：フランス語の補語人称代名詞はなぜ動詞の前に出るのか</p> <p>第12回：不定代名詞のonとBenvenisteの人称論(1)</p> <p>第13回：不定代名詞のonとBenvenisteの人称論(2)</p> <p>第14回：BenvenisteによるHistoireとDiscoursの区別</p> <p>第15回：まとめ(フィードバック)</p>					
----- 系共通科目(フランス語学)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (フランス語学) (講義)(2)

[履修要件]

フランス語初級を習得しているか、あるいは基本的なフランス語の文法知識があること。

[成績評価の方法・観点]

授業の後に取り組んでもらう6回から9回の課題（オンライン提出）の達成度により評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

常日頃から外国語や日本語のさまざまな現象を観察して、言葉に関する直感を磨くよう心がけること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学201

科目ナンバリング	U-LET21 33648 SJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (演習I) French Language and Literature	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 鳥山 定嗣		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Introduction à la versification française				
[授業の概要・目的]					
フランス詩の古典的規則 (詩法) の習得を主眼とし、テキスト読解と分析、さらに詩作の演習を通してフランス詩の基礎と研究方法を学ぶ。					
[到達目標]					
フランス詩法の基礎を理解し、フランス詩の分析方法を身につける。					
[授業計画と内容]					
第1回	イントロダクション フランス詩の特徴について				
第2回	音節数と脚韻 (1)				
第3回	音節数と脚韻 (2)				
第4回	音節数と脚韻 (3)				
第5回	詩作演習のフィードバック				
第6回	韻律と句切り (1)				
第7回	韻律と句切り (2)				
第8回	脚韻の種類 (1)				
第9回	脚韻の種類 (2)				
第10回	詩作演習のフィードバック				
第11回	音と意味 (1)				
第12回	音と意味 (2)				
第13回	定型詩 (1)				
第14回	定型詩 (2)				
第15回	詩作演習のフィードバック				
[履修要件]					
中級程度のフランス語の語学力が必要。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 (授業での発表と課題の提出) が重視される (70%) 。そのほかに学期末レポートが課される (30%) 。					
----- フランス語学フランス文学 (演習I)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学 (演習I)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

平常点が重視されるので、次回授業分の予習を全員がすることが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

フランス語学フランス文学専修の3回生にとっては必修科目である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学202

科目ナンバリング		U-LET21 33648 SJ36			
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (演習I) French Language and Literature	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 村上 祐二		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Introduction à l'analyse des textes littéraires				
[授業の概要・目的]					
フランス語読解力の養成を主眼としつつ、批評的文章の和訳・要約を通じてフランス文学の研究手法の入門指導をする。 フランス語学フランス文学専修の3回生にとっては必修の授業。					
[到達目標]					
文学的テキストの分析手法を身につけること、中級程度のフランス語で書かれたフランス文学に関する研究文献を読めるようになること。					
[授業計画と内容]					
批評的文章や研究書・研究論文の読解への入門を行う。文学研究において重要となる概念や理論、あるいは文学史に関する論文を読解の対象とし、和訳や要約のプロセスを通して内容の理解を目指すとともに、アカデミックな文体のフランス語の読み方を学ぶ。卒業論文準備の過程でフランス語の研究文献を参照する際に、内容を正確に理解するための訓練ともなる。授業は以下のプランに沿って進める。					
第1回 イン트로ダクション					
第2回 文学批評テキストの抜粋を和訳 (1)					
第3回 文学批評テキストの抜粋を和訳 (2)					
第4回 文学批評テキストの抜粋を和訳 (3)					
第5回 文学批評テキストの抜粋を和訳 (4)					
第6回 文学批評テキストの抜粋を和訳 (5)					
第7回 文学批評テキストの抜粋を要約 (1)					
第8回 文学批評テキストの抜粋を要約 (2)					
第9回 文学批評テキストの抜粋を要約 (3)					
第10回 文学批評テキストの抜粋を要約 (4)					
第11回 受講者による発表 (1)					
第12回 受講者による発表 (2)					
第13回 受講者による発表 (3)					
第14回 受講者による発表 (4)					
第15回 受講者による発表 (5)					
[履修要件]					
中級程度のフランス語の語学力が必要。					
----- フランス語学フランス文学 (演習I) (2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学 (演習I) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価

[教科書]

授業中にプリント等を配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

平常点が重視されるので、次回授業分の訳読の予習を全員がすることが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学203

科目ナンバリング	U-LET21 23651 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (講読) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 鳥山 定嗣		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ボードレール『悪の花』および『パリの憂鬱』を読む				
【授業の概要・目的】					
<p>シャルル・ボードレール (Charles Baudelaire, 1821-1867) はフランス近代詩の起点として位置づけられる詩人であり、現代性 (モデルニテ) の感覚と破格の詩法により韻文詩に新たな風をもたらす一方、散文詩 (poème en prose) というジャンルを切り拓いた先駆者でもある。</p> <p>本授業では、ボードレールの韻文詩集『悪の花』 (Les Fleurs du Mal) および散文詩詩集『パリの憂鬱』 (Le Spleen de Paris) の代表的詩篇を精読する。両詩集のなかには同じテーマを扱った作品もあり、詩人が韻文詩と散文詩をどのように書き分けているかという点も考慮に入れて鑑賞する。</p>					
【到達目標】					
<p>フランス語文法の正確な知識を身につける。 正しい音読の仕方を身につける。 文学作品の読解の方法を身につける。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 イントロダクション 作家と作品の紹介 第2回～第14回 毎回、受講者が音読および訳読を担当するかたちで進める。文法事項や修辞技法のほか、フランス詩の歴史や詩法に関する補足説明を加える。 第15回 フィードバック 授業中に指示</p>					
【履修要件】					
受講者には毎回授業の予習と積極的な参加が求められる。					
【成績評価の方法・観点】					
授業での発表 (100%)					
【教科書】					
プリントを配布する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
テキストの音読、構文の把握、未習の語彙・表現を辞書で調べておくこと。					
(その他 (オフィスアワー等))					
授業内での積極的な質問を歓迎する。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学204

科目ナンバリング	U-LET21 23651 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (講読) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 村上 祐二		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	スタンダール 『パルムの僧院』を読む				
【授業の概要・目的】					
フランス近代小説の傑作の一つに数えられるスタンダールの『パルムの僧院』(1839)をフランス語原典で精読する。必要に応じてスタンダールの他の作品も参照する。					
【到達目標】					
フランス語文法の正確な知識を身につける。 正しい音読の仕方を身につける。 文学作品の読解の方法を身につける。					
【授業計画と内容】					
該当場面をフランス語原文で、音読も重視しつつ丁寧に読み進める。文法的な説明の他、文体の分析も行う。授業は以下のプランに沿って進める。					
第1回 イントロダクション(作者と作品の紹介。授業の進め方の説明) 第2回~第14回 Stendhal, La Chartreuse de Parme (Paris, 1839)の抜粋をフランス語原典で精読 第15回 総括					
【履修要件】					
受講者には丁寧な予習が求められる。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点評価					
【教科書】					
プリントを配布する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
単語の発音および構文の把握。また未習の語彙、表現、固有名を辞書等で調べておくこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学205

科目ナンバリング	U-LET21 23651 LJ36				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (講読) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 藤野 志織		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アンドレ・ブルトン『ナジャ』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>フランス語の読解能力の向上と、20世紀の前衛文学に対する理解を深めることを目的として、詩人アンドレ・ブルトン (1896-1966) の代表作『ナジャ』改訂版 (1963) をフランス語原典で精読する。ブルトンが自身の実体験について報告した本書は、写真や精神医学の書記法を導入したという点で、自らについて書き綴る試みの画期をなす作品であり、「ありのまま」に書くとはどういうことか、今なおアクチュアルな問題を提起している。</p> <p>この授業では毎週、輪読形式で読解を進める。出席者はテキストを各自用意し、割り当てられた担当部分について訳稿を準備すること。その他の出席者も必ず予習をして臨み、意見や質問を出すことが求められる。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語文法の正確な知識を身につける。 ・正しい音読の仕方を身につける。 ・シュルレアリスムを中心とする文学実践に関する知識を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>フランス語原文で、音読も重視しつつ丁寧に読み進める。文法に関する解説のほか、理解を深めるために必要なコンテキスト、他作品との関連についても適宜説明を行う。</p> <p>第1回 イン트로ダクション (作者と作品の紹介。授業の進め方についての説明) 第2回～第14回 André Breton, Nadja, Édition entièrement revue par l' auteur (Gallimard, 1963) の抜粋をフランス語原典で精読 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
<p>フランス語の基礎的な文法を一通り学習済みであること。 担当回に関わらず毎回丁寧な予習を行うこと。</p>					
----- フランス語学フランス文学 (講読)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学 (講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（翻訳およびコメント）70%
レポート（1回）30%

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：割り当てられた箇所を訳出し、適宜コメントを加えたレジюмеを作成する。担当者ではない出席者も、必ず一読して授業に臨むこと。

復習：授業で扱った範囲の内容や文法上重要な箇所を再確認する。

（その他（オフィスアワー等））

授業中に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学206

科目ナンバリング	U-LET21 23663 PO48				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (外国語実習) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Literary analyzis				
[授業の概要・目的]					
<p>This course offers an introduction and a reinforcement to methods of literary analyzis known as close-reading. Students will learn how to identify, analyze and interpret stylistic phenomena and linguistic techniques in French literary texts while reinforcing their grammatical and lexical knowledge. They will also practise academic writing in French.</p>					
[到達目標]					
<p>This class is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> - identify and analyze specific formal features in French literary texts - improve their academic writting skills in French <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and the exercices of the class, we will work on various excerpts from French literary classics, and practice exercices on grammatical structures, lexical fields, stylistical, linguistical and rhetorical features (weeks 2-14). Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)</p>					
[履修要件]					
<p>This course is meant for third year students who are specializing in French Literature, but every student who wants or must use French literature in their research can find an interest in it.</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>The students will be evaluated through continuous assessment : two written essays (40% + 40%), but also active participation in class (20%).</p>					
----- フランス語学フランス文学 (外国語実習)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学 (外国語実習)(2)

【教科書】

使用しない

The instructor will provide all the reading material. However, students are expected to bring a notebook to take notes during each lecture.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

It is necessary to prepare the texts before the class.

（その他（オフィスアワー等））

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学207

科目ナンバリング	U-LET21 23663 PO48				
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学 (外国語実習) French Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Literary analyzis				
[授業の概要・目的]					
<p>This course offers an introduction and a reinforcement to methods of literary analyzis known as close-reading. Students will learn how to identify, analyze and interpret stylistic phenomena and linguistic techniques in French literary texts while reinforcing their grammatical and lexical knowledge. They will also practise academic writing in French.</p>					
[到達目標]					
<p>This class is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> - identify and analyze specific formal features in French literary texts - improve their academic writting skills in French <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and the exercices of the class, we will work on various excerpts from French literary classics, and practice exercices on grammatical structures, lexical fields, stylistical, linguistical and rhetorical features (weeks 2-14). Important notice: due to a research mission in France, classes in October will be held online. Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)</p>					
[履修要件]					
<p>This course is meant for third year students who are specializing in French Literature, but every student who wants or must use French literature in their research can find an interest in it.</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>The students will be evaluated through continuous assessment : two written essays (40% + 40%), but also active participation in class (20%).</p>					
----- フランス語学フランス文学 (外国語実習)(2)へ続く -----					

フランス語学フランス文学 (外国語実習)(2)

【教科書】

使用しない

The instructor will provide all the reading material. However, students are expected to bring a notebook to take notes during each lecture.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

It is necessary to prepare the texts before the class.

（その他（オフィスアワー等））

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学208

科目ナンバリング	U-LET49 29635 LJ48				
授業科目名 <英訳>	フランス語 (中級) (語学) French	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Intermediate French				
[授業の概要・目的]					
<p>This course is for students who have already studied French for one year or more. It will provide them with the opportunity to systematize and reinforce their knowledge of French vocabulary, grammar, pronunciation and culture, and allow them to work further on their command of written and spoken French.</p> <p>At the end of the year, students should be able to pass the intermediate French proficiency test (DELF A2 or B1).</p> <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> - converse with ease when dealing with routine tasks and social situations - read and interpret narratives - present, orally and in writing, discourse on a variety of familiar topics - identify and discuss fundamental elements of French culture 					
[授業計画と内容]					
<ul style="list-style-type: none"> - Week 1-2: introduction and identification of the needs and expectations of the students - Week 3-14: Oral and written comprehension and production. - Week 15: Feedback. 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
The students will be evaluated through continuous assessment (2 tests during the semester, oral and written class activities, and also attendance and participation).					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- フランス語 (中級) (語学)(2)へ続く -----					

フランス語 (中級) (語学)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Short assignments will occasionally be given.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学209

科目ナンバリング	U-LET49 29635 LJ48				
授業科目名 <英訳>	フランス語 (中級) (語学) French	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Intermediate French				
[授業の概要・目的]					
<p>This course is for students who have already studied French for one year or more. It will provide them with the opportunity to systematize and reinforce their knowledge of French vocabulary, grammar, pronunciation and culture, and allow them to work further on their command of written and spoken French.</p> <p>At the end of the year, students should be able to pass the intermediate French proficiency test (DELF A2 or B1).</p> <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> - converse with ease when dealing with routine tasks and social situations - read and interpret narratives - present, orally and in writing, discourse on a variety of familiar topics - identify and discuss fundamental elements of French culture 					
[授業計画と内容]					
<ul style="list-style-type: none"> - Week 1-2: introduction and identification of the needs and expectations of the students - Week 3-14: Oral and written comprehension and production. - Week 15: Feedback. 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
The students will be evaluated through continuous assessment (2 tests during the semester, oral and written class activities, and also attendance and participation).					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- フランス語 (中級) (語学)(2)へ続く -----					

フランス語 (中級) (語学)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Short assignments will occasionally be given.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学210

科目ナンバリング	U-LET49 39636 LJ48				
授業科目名 <英訳>	フランス語(上級)(語学) French	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Advanced French				
【授業の概要・目的】					
Ce cours s'adresse aux étudiants et aux étudiantes qui ont déjà une expérience du français et qui souhaitent renforcer leurs compétences orales et écrites, ainsi que leur connaissance de la culture française. Le cours se déroule entièrement en français.					
【到達目標】					
Ce cours vise à travailler les compétences associées au DELF B2 et du DALF C1.					
【授業計画と内容】					
Semaines 1 et 2 : introduction Semaines 3-14 : exercices divers Semaine 15 : bilan					
【履修要件】					
Etre capable de comprendre et s'exprimer en francais (niveau B1 acquis)					
【成績評価の方法・観点】					
Contrôle continu (deux tests dans le semestre).					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
Des exercices ponctuels de production écrite seront demandés.					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学211

科目ナンバリング	U-LET49 39636 LJ48				
授業科目名 <英訳>	フランス語(上級)(語学) French	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	フランス語
題目	Advanced French				
【授業の概要・目的】					
Ce cours s'adresse aux étudiants et aux étudiantes qui ont déjà une expérience du français et qui souhaitent renforcer leurs compétences orales et écrites, ainsi que leur connaissance de la culture française. Le cours se déroule entièrement en français.					
【到達目標】					
Ce cours vise à travailler les compétences associées au DELF B2 et du DALF C1.					
【授業計画と内容】					
Semaines 1 et 2 : introduction Semaines 3-14 : exercices divers Semaine 15 : bilan					
【履修要件】					
Etre capable de comprendre et s'exprimer en francais (niveau B1 acquis)					
【成績評価の方法・観点】					
Contrôle continu (deux tests dans le semestre).					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
Des exercices ponctuels de production écrite seront demandés.					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学212

科目ナンバリング	U-LET22 13702 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(イタリア語学イタリア文学)(講義) Italian Language and Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア文学史(前期)				
[授業の概要・目的]					
<p>イタリア文学は、中世から現代に至るまで多数の傑作を擁しています。特に13世紀から16世紀の俗語作品は、イタリア半島のみならずヨーロッパ各国の文化に大きな影響を及ぼしました。前期の講義では13世紀から14世紀の主要な詩人と作品を紹介しながら、イタリア語とイタリア文学の歴史を概観します。宮廷風恋愛やアレゴリーといった西洋文化の重要概念についても言及する予定です。</p>					
[到達目標]					
<p>イタリア語とイタリア文学についての基礎的な知識を身につける。 西洋文化の重要なトピックについて理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回：イントロダクション</p> <p>第2-14回：(1つの項目につき1-3回の授業を予定)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イタリア語(俗語)の成立とイタリア語の特徴 ・イタリア文学の元祖、シチリア派の詩人たち(ソネットの誕生) ・聖フランチェスコと『被造物の賛歌』 ・シチリアからトスカーナへ：清新体派の詩人たち ・ダンテと『神曲』について(数字の神秘・アレゴリー、比喩の魅力と語りの技法) ・ペトラルカと『カンツォニエーレ』(西欧の抒情詩の源泉) ・西洋における虚しさの感覚について ・ボッカッチョと『デカメロン』(笑いと教えるの百物語) ・人文主義の始まり <p>(レポートの註と参考文献の表記、引用の仕方についても授業のなかで紹介する予定)</p> <p>第15回：フィードバック</p>					
[履修要件]					
<p>イタリア語の知識は必要ありません。</p>					
系共通科目(イタリア語学イタリア文学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目 (イタリア語学イタリア文学) (講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点 (授業中に時々実施する簡単なクイズ : 35%)
期末のレポート (65%)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介します。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

PandAの「授業資料」に掲載するプリントにできるだけ目を通しておきましょう。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学213

科目ナンバリング		U-LET22 13703 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(イタリア語学イタリア文学)(講義) Italian Language and Literature (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア文学史(後期)				
[授業の概要・目的]					
<p>イタリア文学は中世から現代に至るまで多数の傑作を擁しています。特に13世紀から16世紀の俗語作品は、イタリアのみならずヨーロッパ各国の文化に深甚な影響を及ぼしています。後期の講義では15-16世紀の主要な詩人・文人ならびに文化現象を紹介しながら、イタリア語とイタリア文学の歴史を概観します。</p>					
[到達目標]					
<p>イタリア語とイタリア文学についての基礎的な知識を身につける。 西洋文学の重要概念について理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回：イントロダクション</p> <p>2回～14回：(1つの項目につき1～3回の授業を予定)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人文主義について ・フィレンツェの新プラトン主義 ・騎士物語(ポイアルドとアリオスト) ・16世紀の言語論争 ・arte(技・技術)とnatura(自然)について ・マキアヴェッリと『君主論』 ・インプレーサーとメタファーについて ・創作理論の探求(トルクアート・タツソの詩論) <p>第15回：フィードバック</p>					
[履修要件]					
<p>イタリア語の知識は必要ありません。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点(数回行う簡単なクイズをもとに評価：35%) 期末のレポート(65%)</p>					
[教科書]					
<p>プリント配布。</p>					
-----系共通科目(イタリア語学イタリア文学)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目 (イタリア語学イタリア文学) (講義) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介します。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

PandAに掲示する関連プリントにできるだけ目を通しておきましょう。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学214

科目ナンバリング	U-LET22 23751 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学 (講読) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア史講読 (前期)				
[授業の概要・目的]					
<p>100枚の写真に即してイタリア近現代史のトピックを紹介した "Storia d'Italia in 100 foto" (V. Vidotto, E. Gentile, S. Colarizi, G. De Luna 著) を講読します。</p> <p>1860年から2017年までのイタリアを対象に、写真1枚につき1頁の解説をコンパクトに組み合わせた本書は、比較的平易なイタリア語散文で書かれており、伊語テキストの読解力を効率よく身につけることができます。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえ、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずです。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア語文献を自力で読み解くことができるようになること。 ・イタリア史の基礎知識を習得すること。 					
[授業計画と内容]					
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回 (イントロダクション) 授業の進め方について確認します。あわせて講読テキストについて簡単に説明します。</p> <p>2回～14回 (講読) 必要に応じて文法事項を確認しながらテキストを読み進めます。重要な専門用語や固有名詞についても適宜解説します。</p> <p>15回 (フィードバック)</p>					
----- イタリア語学イタリア文学 (講読)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学 (講読)(2)

[履修要件]

イタリア語文法について知識があること。

[成績評価の方法・観点]

毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習にあたっては、文法に即して文意をつかむことを心がけましょう。分からないところを教室で確認できるように準備しましょう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学215

科目ナンバリング	U-LET22 23751 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学 (講読) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア史講読 (後期)				
[授業の概要・目的]					
<p>ヨーロッパ・地中海世界の歴史を取り上げた “Storia d'Europa e del Mediterraneo” (a cura di Roberto Bizzocchi)から16～18世紀の環境・社会について論じた章を講読します。平易なイタリア語で書かれた論考を読みながら読解力を養成することが授業の目的となります。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえ、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずです。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア語文献を自力で読み解くことができるようになること。 ・イタリア史の基礎知識を習得すること。 					
[授業計画と内容]					
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回 (イントロダクション) 授業の進め方、評価方法について確認します。あわせてテキストについて簡単に説明します。</p> <p>2回～14回 (講読) 必要に応じて文法事項を確認しながらテキストを読み進めます。</p> <p>15回 (フィードバック)</p>					
[履修要件]					
イタリア語文法の知識があること。					
[成績評価の方法・観点]					
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。					
----- イタリア語学イタリア文学 (講読)(2)へ続く -----					

イタリア語学イタリア文学 (講読)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習にあたっては、文法に即して文意をつかむことを心がけましょう。分からないところを教室で確認できるように準備しましょう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学216

科目ナンバリング	U-LET22 23751 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学 (講読) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 グローバル教育センター 教授 河合 成雄		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア語講読 (前期)				
【授業の概要・目的】					
比較的平易な文章を精読します。イタリア語の読解力を養成することが授業の目的となります。					
【到達目標】					
平易なイタリア語の文章を自力で読解できるようになるとともに、イタリア文学の背景になる知識を身に着けます。					
【授業計画と内容】					
初回 (ガイダンス) にごく平易な文章を読み、個々の参加者のイタリア語の読解力や興味の範囲を確認しながら、第2回以降の読み物を考えます。					
2回~14回 必要に応じて文法事項を確認しながらイタリア語の文章を精読します。授業の前半は新聞記事を、後半はごく平易な文学作品を読む予定ですが、受講者の希望に沿って、内容や文章の難易度についても変化をつけていく予定です。					
15回 フィードバック					
期末試験を実施します。					
【履修要件】					
イタリア語文法の基礎知識を備えていること。					
【成績評価の方法・観点】					
授業中の発表を50%、期末試験を50%として、評価します。					
【教科書】					
プリント配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介します。					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
毎回必ず課題の文章を読んでください。単に読むだけでなく、文章の内容をしっかりと把握し、背景となる知識についても前もって調べてきてください。					
(その他 (オフィスアワー等))					
質問は授業の前後に受け付けます。質問や相談が多い場合には、適宜Zoomで予約制により、受け付けます (月曜日10:30-12:00)。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学217

科目ナンバリング	U-LET22 23751 LJ36				
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学 (講読) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 グローバル教育センター 教授 河合 成雄		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア語講読 (後期)				
【授業の概要・目的】					
イタリア文学について、なるべく平易な文章を読みながら基礎的な素養を身につける。同時に、個々の学生の専門性に応じて読む題材を絞り込みつつイタリア語の読解力も身につける。					
【到達目標】					
自力でイタリア語の原文を読み解く力をつけます。また、様々なイタリア語に慣れるとともに、文学史上必須の知識を学びます。学生個々の専門性に応じて、イタリア文学、あるいはイタリア文化の背景について考察ができるようになります。					
【授業計画と内容】					
初回 (ガイダンス)					
2回～4回 ごく平易なイタリア語の文章を読みながら、本格的に読む題材を探します。					
5回～14回 2, 3回ずつテーマや文章を決めつつ、イタリア語を精読するとともに、学生個々の専門の背景に合わせて、場合によっては、古典を読んだり、現代文を読んだり、なるべく自力では読みこなすことのできない分に挑戦していきます。					
15回 期末試験・フィードバックを実施します。					
【履修要件】					
イタリア語文法の基礎知識を備え、イタリア語の文章を読んだ経験があること。					
【成績評価の方法・観点】					
授業中の発表を50%、期末試験を50%として、評価します。					
【教科書】					
プリント配布。場合によっては、PandAに前もってテキストをアップします。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
毎回必ず課題の文章を読んでください。単に読むだけでなく、文章の内容をしっかりと把握し背景となる知識についても前もって調べてきてください。					
(その他 (オフィスアワー等))					
質問は授業の前後に受け付けます。質問や相談が多い場合には、適宜オンライン相談を予約制により、受け付けます (基本的に月曜日10:30-12:00)。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

西洋文献文化学218

科目ナンバリング	U-LET49 29663 LJ48				
授業科目名 <英訳>	イタリア語(会話) Spoken Italian	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Ida Duretto		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火5	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	イタリア語
題目	Lingua italiana e cinema. Corso di conversazione in italiano				
[授業の概要・目的]					
Attraverso un percorso alla scoperta del cinema italiano, il corso si propone di fornire gli strumenti per la conversazione su un' ampia varieta' di argomenti, che includono l' arte e la musica, la letteratura, la storia, lo sport e il tempo libero. Grazie al cinema, gli studenti impareranno a conoscere gli aspetti piu' affascinanti della cultura italiana e acquisiranno una piu' sicura padronanza della lingua, in particolare nella sua produzione orale, ampliando il loro vocabolario, migliorando la pronuncia, e rafforzando le competenze grammaticali e sintattiche.					
[到達目標]					
Gli studenti perfezioneranno la propria competenza della lingua italiana. Impareranno a gestire al meglio le funzioni comunicative fondamentali e acquisiranno familiarita' con la conversazione su argomenti essenziali della vita quotidiana; dimostreranno buona conoscenza delle strutture grammaticali e del vocabolario di base. Saranno in grado di guardare e discutere un film in lingua.					
[授業計画と内容]					
Lingua italiana e cinema. Corso di conversazione in italiano (I semestre)					
1: Introduzione					
2-15: Lingua italiana e cinema					
Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.					
[履修要件]					
Questo corso e' rivolto agli studenti di italiano elementare e intermedio di tutte le facolta'.					
[成績評価の方法・観点]					
La valutazione sara' basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalita' seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.					
[教科書]					
Handouts					
----- イタリア語(会話)(2)へ続く -----					

イタリア語 (会話)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Maggiori dettagli verranno forniti durante la prima lezione

(その他 (オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学219

科目ナンバリング	U-LET49 29663 LJ48				
授業科目名 <英訳>	イタリア語(会話) Spoken Italian	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Ida Duretto		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火5	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	イタリア語
題目	Lingua italiana e cinema. Corso di conversazione in italiano				
[授業の概要・目的]					
Attraverso un percorso alla scoperta del cinema italiano, il corso si propone di fornire gli strumenti per la conversazione su un' ampia varieta' di argomenti, che includono l' arte e la musica, la letteratura, la storia, lo sport e il tempo libero. Grazie al cinema, gli studenti impareranno a conoscere gli aspetti piu' affascinanti della cultura italiana e acquisiranno una piu' sicura padronanza della lingua, in particolare nella sua produzione orale, ampliando il loro vocabolario, migliorando la pronuncia, e rafforzando le competenze grammaticali e sintattiche.					
[到達目標]					
Gli studenti perfezioneranno la propria competenza della lingua italiana. Impareranno a gestire al meglio le funzioni comunicative fondamentali e acquisiranno familiarita' con la conversazione su argomenti essenziali della vita quotidiana; dimostreranno buona conoscenza delle strutture grammaticali e del vocabolario di base. Saranno in grado di guardare e discutere un film in lingua.					
[授業計画と内容]					
Lingua italiana e cinema. Corso di conversazione in italiano (II semestre)					
1: Introduzione					
2-15: Lingua italiana e cinema					
Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.					
[履修要件]					
Questo corso e' rivolto agli studenti di italiano elementare e intermedio di tutte le facolta'.					
[成績評価の方法・観点]					
La valutazione sara' basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalita' seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.					
[教科書]					
Handouts					
----- イタリア語(会話)(2)へ続く -----					

イタリア語 (会話)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Maggiori dettagli verranno forniti durante la prima lezione

(その他 (オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29668 LJ48			
授業科目名 <英訳>	スペイン語 (中級I) (語学) Spanish	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 小西 咲子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火5	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	スペイン語 (中級I)				
[授業の概要・目的]					
教科書に沿ってスペイン語の基礎文法を復習しながら講読と会話に取り組む。					
文法では詳説を避け練習問題の解答を通して既習事項を確認する。 講読と会話では、スペイン語圏諸国のスポーツ、音楽、旅行、ファッション、言語など多様なトピックに触れ、語彙や表現の幅を広げながら同地域の社会文化事象に関する知識を深める。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ CEFRのA2からB1程度のレベルを修得する。 ・ 辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の記事や簡単な文芸作品を読解することができる。 ・ 定型文を発展させて自らで文章を作ることができる。 ・ 自ら口頭でも発信することができる。 ・ スペイン語に関する知識と併せてスペイン語圏諸国の文化に関する理解を深める。 ・ 中級 II (より難易度の高い文法事項の復習と発展) の学習に繋げる。 					
[授業計画と内容]					
各課の文法事項と会話・講読のトピックは以下の通りである。 文法では詳説を避け練習問題の解答を通して既習事項を確認する。					
第1回	ガイダンス				
	第1課【文法項目】音韻法則の確認 【トピック】あいさつ文				
	第2課【文法項目】ser・estar・hay / 形容詞・所有形容詞 【トピック】スペインの都市 / 出身地の説明				
第2回	第3課【文法項目】直説法現在規則活用 / 目的格人称代名詞 / gustar型動詞 【トピック】メキシコ料理				
第3回	第4課【文法項目】直説法現在不規則活用 / 関係詞 / 比較級 / 無主語分 【トピック】世界遺産				
第4回	第5課【文法項目】不定詞・現在分詞・過去分詞 / 現在完了 / 再帰動詞の基本用法 【トピック】人気のスポーツ				
第5-6回	第6課【文法項目】直説法点過去規則活用・不規則活用 / 再帰動詞の3人称用法 【トピック】サルサの歴史				
----- スペイン語 (中級I) (語学)(2)へ続く -----					

スペイン語 (中級I) (語学)(2)

第7-8回 第7課【文法項目】直説法線過去 / 過去完了 / 序数
【トピック】アメリカのインディオの言語とスペイン語

第9-10回 第8課【文法項目】直説法未来 / 未来完了 / 過去未来 / 過去未来完了
【トピック】スパングリッシュ

第11-12回 第9課【文法項目】直説法と接続法 / 接続法現在の活用と用法 / 接続法現在完了
【トピック】日本におけるスペインモード

第13-14回 第10課【文法項目】命令文 / 接続法過去 / 接続法過去完了 / 願望文 / 条件文
【トピック】日本の旅行者

期末試験

第15回 フィードバック

- ・受講者の理解度を確認しながら進度を調節することもある。
- ・必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。

【履修要件】

スペイン語の初級文法（少なくとも接続法現在まで）が修得済みであること。

【成績評価の方法・観点】

平常点：20% [発音など口頭パフォーマンスを中心に評価する]

期末試験：80% [リスニングを含む試験を実施し、既習事項を理解・習得しているか判定する]

5回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

東京大学教養学部スペイン語部会 『スペイン語学習の羅針盤』（朝日出版社,2020）ISBN:978-4-255-55111-1（スペイン語書名『Brújula Primer paso de español』）

【参考書等】

（参考書）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2

辞書は初修時に使っていたものを引き続き活用すること。

（関連URL）

<https://text.asahipress.com/free/spanish/brujula/index.html>(教科書音声ページ)

スペイン語 (中級I) (語学)(3)へ続く

スペイン語 (中級I) (語学)(3)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の復習 (既習事項の定着)、予習 (語彙調べ、練習問題の解答、テキストの音声確認や下訳) のうえ授業に参加すること。

(その他 (オフィスアワー等))

教員メール [konishi.sakiko.45s](mailto:konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp) アットマーク st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学221

科目ナンバリング	U-LET49 29669 LJ48				
授業科目名 <英訳>	スペイン語 (中級II) (語学) Spanish	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 小西 咲子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火5	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	スペイン語 (中級II)				
[授業の概要・目的]					
時事問題など現代的なトピックを扱った教科書を用い、聴解力、語彙力、読解力を高める。					
文法項目については重要項目を除き詳説を避け、練習問題の解答と解説を中心とし、トピックに即した実践的語彙を確認した上で空所補充リスニング、長文読解に取り組みながらスペイン語圏諸国の文化的、社会的事象に触れる。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ CEFRのA2～B1程度のレベルを修得する。 ・ 辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の記事や簡単な文芸作品を読解することができる。 ・ 定型文を発展させて自らで文章を作ることができる。 ・ 自ら口頭でも発信することができる。 ・ スペイン語に関する知識と併せてスペイン語圏諸国の文化に関する理解を深める。 					
[授業計画と内容]					
各課のトピックと確認すべき文法事項は以下の通りである。					
第1回	ガイダンス / 第1課 【トピック】SNSと余暇 【文法事項】現在形と再帰動詞				
第2回	第3課 【トピック】世界最古のレストラン ボティン 【文法項目】過去時制の使い分け (現在完了・点過去)				
第3回	第4課 【トピック】ファッション 【文法項目】過去時制の使い分け (線過去)				
第4回	第5課 【トピック】養子縁組 【文法項目】過去時制の使い分け (点過去・線過去・過去完了)				
第5回	第6課 【トピック】風力発電 【文法項目】未来と過去未来				
----- スペイン語 (中級II) (語学)(2)へ続く -----					

スペイン語 (中級II) (語学)(2)

第6回 第7課

【トピック】美味しいコーヒーの淹れ方

【文法項目】不定詞を伴う助動詞的表現

第7回 第8課

【トピック】エラスムス留学制度

【文法項目】比較級

第8回 第9課

【トピック】ホンジュラスの交番

【文法項目】接続法現在（形容詞節・目的を表す副詞節）

第9回 第10課

【トピック】育休取得～家庭と職場での男女同権

【文法項目】接続法現在（感情・願望・予測を表す名詞節）

第10回 第11課

【トピック】アポロフォビア

【文法項目】接続法現在（否定的思考を表す名詞節・時を表す副詞節）

第11回 第12課

【トピック】日本語学習のアドバイス

【文法項目】接続法現在（価値判断を表す名詞節）

第12回 第13課

【トピック】スペインの安楽死

【文法項目】接続過去（名詞節）

第13回 第14課

【トピック】チュッパチャップスの歴史

【文法項目】接続法過去（形容詞節・副詞節）

第14回 第15課

【トピック】地中海に沈んだ夢

【文法項目】条件文

期末試験

第15回 フィードバック

- ・受講者の理解度を確認しながら進度を調節することもある。
- ・必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。

[履修要件]

スペイン語の初級文法（少なくとも接続法現在まで）が修得済みであること。

スペイン語 (中級II) (語学)(3)へ続く

スペイン語 (中級II) (語学)(3)

[成績評価の方法・観点]

平常点：20% [発音など口頭パフォーマンスを中心に評価する]

期末試験：80% [リスニングを含む試験を実施し、既習事項を理解・習得しているか判定する]

4 回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

中島聡子,佐藤佐知,David Tarranco 『ニュースで学ぶ中級スペイン語 [改訂版] 』 (三修社, 2022)
ISBN:978-4-384-42021-0 (スペイン語書名 『La noticia de hoy』)

[参考書等]

(参考書)

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』 (研究社) ISBN:978-4-327-39420-2

辞書は初修時に使っていたものを引き続き活用すること。

(関連 URL)

<https://www.sanshusha.co.jp/text/onsei/isbn/9784384420210>(教科書音声ページ)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の復習 (既習事項の定着)、予習 (語彙調べ、練習問題の解答、テキストの音声確認や下訳) のうえ授業に参加すること。

(その他 (オフィスアワー等))

教員メール [konishi.sakiko.45s](mailto:konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp) アットマーク st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学222

科目ナンバリング	U-LET49 29673 LJ48				
授業科目名 <英訳>	スペイン語 (初級)I Spanish	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 小西 咲子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	スペイン語 (初級I)				
[授業の概要・目的]					
<p>スペイン語の発音および基礎文法 (直説法過去時制まで) を教科書に沿って学習する。</p> <p>授業は文法事項の解説と例文訳読、練習問題、簡単な会話文の読解からなる。初級文法のうち直説法の過去時制までを一通り学習するので進度が速く、そのため予習と復習は必須である。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の発音のルールを理解し正しく発音できるようになる。 ・スペイン語の基本的な構造を理解し、直説法を用いた平易な文章を読解しまた作文できるようになる。 ・初級Ⅱ (接続法、命令法、初級文法発展) の学習に繋げる。 					
[授業計画と内容]					
<p>教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、必要であれば補助的にプリント教材等を挿入する。</p> <p>各回の主たる学習項目は以下の通りである。</p> <p>第1回：ガイダンス、スペイン語の歴史と地理について略説、第0課導入 第2回：第0課 [アルファベット、発音、音節の分け方] 第3回：第1課 [名詞の性数、冠詞、形容詞、主格人称代名詞と動詞ser] 第4回：第2課 [動詞estar、存在のhay、指示詞、所有形容詞] 第5回：第3課 [直説法現在：規則動詞と不規則動詞] 第6回：復習(1) 第1課～第3課の作文および応用問題 第7回：第4課 [直説法現在：その他の不規則動詞、接続詞] 第8回：第5課 [目的格人称代名詞、動詞gustar、時刻・日付の表現] 第9回：第6課 [前置詞、過去分詞、直説法現在完了] 第10回：復習(2) 第4課～第6課の作文および応用問題 第11回：第7課 [再帰動詞、不定主語文、現在分詞] 第12回：第8課 [直説法点過去、天候の表現] 第13回：第9課 [直説法線過去、時間表現のhacer、直説法過去完了] 第14回：復習(3) 第7課～第9課の作文および応用問題 期末試験 第15回：フィードバック</p>					
----- ス페인語 (初級)I (2)へ続く -----					

スペイン語 (初級)I (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点 10%：発音を中心に評価する。

期末試験 90%：筆記試験により既習の文法事項および基本語彙を理解・習得しているか判定する。

5回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

川口正道 『文法からいくスペイン語』（朝日出版社,2020）ISBN:978-4-255-55113-5 C1087（スペイン語書名『Mi gramatica』）

必要であれば補助的にプリント教材等を挿入する。

【参考書等】

（参考書）

辞書 『現代スペイン語辞典』（白水社）

辞書 『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級まで対応した文法解説書）

（関連URL）

<https://text.asahipress.com/free/player/index.html?bookcode=255113>(学習用音声配信ページ)

【授業外学修（予習・復習）等】

進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）と予習（語彙調査、例文等の下訳、練習問題の解答、等）をした上で出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29674 LJ48			
授業科目名 <英訳>	スペイン語 (初級)II Spanish		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 小西 咲子	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	スペイン語 (初級 II)				
[授業の概要・目的]					
<p>前期開講の「スペイン語 初級I」と同じ教科書を用い、引き続きスペイン語の初級文法を学習する。</p> <p>授業は文法事項の解説と例文訳読、練習問題、簡単な会話文の読解からなる。初級文法のうち接続法、命令文、条件文までを学習する。</p>					
[到達目標]					
<p>CEFRのA 1程度のレベルを修得する。</p> <p>辞書を用いて時間をかけて調べれば、日常生活にかかわるごく簡単なテキストなら意味を把握することができる。母語話者の補助があれば、挨拶など日常生活に最低限必要なコミュニケーションをとることができる。トイレ・出口といった市民生活に不可欠な街頭指示なら理解できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。</p> <p>各回の主たる学習項目は以下の通りである。</p> <p>第1回：ガイダンス [教科書第0課～9課の振り返り、第10課導入]</p> <p>第2回：第10課 [関係詞]</p> <p>第3回：第11課 [比較級、最上級]</p> <p>第4回：復習(1) 第10課・第11課の作文および応用問題</p> <p>第5回：第12課 [不定語・否定語、受身文]</p> <p>第6回：第13課 [直説法の未来・過去未来・未来完了・過去未来完了]</p> <p>第7回：復習(2) 第12課・13課の作文および応用問題</p> <p>第8回：第14課 [接続法現在：名詞節における用法]</p> <p>第9回：第15課 [接続法現在：関係詞節・副詞節における用法、命令文]</p> <p>第10回：復習(3) 第14課・第15課の作文および応用問題</p> <p>第11回：第16課 [接続法現在完了、接続法過去、接続法過去完了]</p> <p>第12回：第17課 [条件文、譲歩文、話法]</p> <p>第13回：復習(4) 第16課～第17課の作文および応用問題</p> <p>第14回：文法発展 [平易なテキスト講読または中級文法練習問題]</p> <p>期末試験</p> <p>第15回：フィードバック</p>					
----- ス페인語 (初級)II (2)へ続く -----					

スペイン語 (初級)II (2)

【履修要件】

前期開講の「スペイン語 初級I」を学修していること、もしくは同等（教科書第9課まで）の文法知識を有していることが望まれる。

【成績評価の方法・観点】

平常点 10%：発音を中心に評価する。

期末試験 90%：筆記試験により既習の文法事項および基本語彙を理解・習得しているか判定する。

5回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

川口正道 『文法からいくスペイン語』（朝日出版社,2020）ISBN:978-4-255-55113-5 C1087（スペイン語書名『Mi gramatica』）

【参考書等】

（参考書）

辞書 『現代スペイン語辞典』（白水社）

辞書 『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級まで対応した文法解説書）

上記のものでなくとも初修時に使用していた辞書、参考書があれば引き続き活用すること。

（関連URL）

<https://text.asahipress.com/free/player/index.html?bookcode=255113>(学習用音声配信ページ)

【授業外学修（予習・復習）等】

進度に沿って教科書各課および配布される教材の復習（既習事項の定着）と予習（語彙調査、例文等の下訳、練習問題の解答、等）をした上で出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学224

科目ナンバリング	U-LET49 29675 LJ48				
授業科目名 <英訳>	イタリア語 (初級 4 時間コース)I Italian (4H)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 田中 真美		
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金4,5	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア語 (初級I)				
[授業の概要・目的]					
<p>イタリア語文法の基礎を学習し、読み書きに必要な知識の習得を目指す。 授業の進め方としては、文法解説の後で練習問題を解いてもらい、知識の定着を図るというオーソドックスなものを想定している。 イタリア語やロマンス諸語に興味のある初学者を対象とする。</p>					
[到達目標]					
<p>現在・過去・未来の各時制と代名詞の使い方を学習し、簡単な読み書きとコミュニケーションができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1週：オリエンテーションと発音 第2週：Lezione 1 [名詞、冠詞] 第3週：Lezione 2 [動詞 essere と avere] 第4週：Lezione 3 [形容詞] 第5週：Lezione 4 [直説法現在・規則動詞] 第6週：Lezione 5 [直説法現在・不規則動詞] 第7週：Lezione 6 [人称代名詞] 第8週：Lezione 7 [再帰動詞] 第9週：Lezione 1~7のまとめテストと解説 第10週：Lezione 8 [命令法] 第11週：Lezione 9 [直説法近過去] 第12週：Lezione 10 [直説法半過去・大過去] 第13週：Lezione 11 [直説法未来・先立未来] 第14週：Lezione 12 [受動態] 第15週：Lezione 8~12のまとめテストと解説</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- イタリア語 (初級 4 時間コース)I (2)へ続く -----					

イタリア語 (初級 4 時間コース)I (2)

[成績評価の方法・観点]

各課の締めくくりで行う小テスト (30%)
前期中 2 回行うまとめのテスト(70%)

[教科書]

杉本 裕之 『基礎イタリア語講座 - CD付き改訂版 - 』 (朝日出版社) ISBN:978-4-255-55311-5

[参考書等]

(参考書)

『伊和中辞典』 (小学館) ISBN:4095154020

『フリーモ伊和辞典』 (白水社) ISBN:4560000859

『伊和中辞典』は、上記の書籍版のほか、電子辞書版やアプリ版(iOS)もある。

必ず、いずれかの辞書を授業に持参すること。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

各授業の前に60分前後の予習が求められる。

(その他 (オフィスアワー等))

- ・ 授業内容でわからないことは、授業中に積極的に質問し、授業内で解決するよう努めること。
- ・ 質問等は基本的に授業内で受付け、必要に応じてメール対応もおこなう。なお、連絡先メールアドレスは初回授業にて周知する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学225

科目ナンバリング	U-LET49 29676 LJ48				
授業科目名 <英訳>	イタリア語 (初級 4 時間コース)II Italian (4H)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 田中 真美		
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金4,5	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イタリア語 (初級II)				
[授業の概要・目的]					
イタリア語文法の基礎を学習済みの学生を対象に、イタリア語で書かれたテキストを読むために必要な知識や技術を習得する。					
[到達目標]					
条件法や接続法といった動詞の性質を理解し、現代イタリアの短編小説やWeb上の情報を自立的に読めるようになる。					
[授業計画と内容]					
第1週： Lezione 13 [比較級・最上級] 第2週： Lezione 14 [関係詞] 第3週： Lezione 15 [ジェルンディオ] 第4週： Lezione 16 [条件法] 第5週： 文法補足 1 ciとne 第6週： Lezione 17 [接続法] 第7週： Lezione 17 [接続法・仮定文] 第8週： Lezione 13~17のまとめテストと解説 第9 - 14週： 遠過去および講読 第15週： まとめテストとフィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
各課終了ごとの小テスト(30%) 後期に2回行われるまとめのテスト(70%)					
[教科書]					
杉本 裕之 『基礎イタリア語講座 - CD付き改訂版 - 』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55311-5 講読用のテキストは適宜講師が用意し、授業中に配布する。					
[参考書等]					
（参考書） 『伊和中辞典』（小学館）ISBN:4095154020 『フリーモ伊和辞典』（白水社）ISBN:4560000859 『伊和中辞典』は、電子辞書版やアプリ版(iOS)もある。					

イタリア語 (初級 4 時間コース)II (2)へ続く

イタリア語 (初級4時間コース)II (2)

必ず、いずれかの辞書を授業に持参すること。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

各授業前に60分前後の予習が求められる。
講読回では90分程度。

(その他 (オフィスアワー等))

- ・ 授業内容でわからないことは、授業中に積極的に質問し、授業内で解決するよう努めること。
- ・ 質問等は基本的に授業内で受付け、必要に応じてメール対応もおこなう。なお、連絡先メールアドレスは初回授業にて周知する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文献文化学226

科目ナンバリング		U-LET42 13902 LJ36					
授業科目名 <英訳>	西洋文学入門 (講義) Introduction to Western Literature (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科	准教授	河島	思朗
				文学研究科	准教授	村瀬	有司
				文学研究科	准教授	鳥山	定嗣
				文学研究科	教授	川島	隆
				文学研究科	教授	中村	唯史
				文学研究科	教授	廣田	篤彦
				文学研究科	准教授	小林	久美子
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期		
曜時限	木5	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語		
題目	西洋文学入門						
【授業の概要・目的】							
西洋文化学系の専任教員7名によるリレー講義です。西洋古典文学、イタリア文学、英文学、ロシア文学、ドイツ文学、フランス文学、アメリカ文学の作品とその受容や語りの技法などをトピックとして、各担当者がその魅力を語ります。西洋文学に関する全般的な理解を深めることを目的としますが、それと同時に、さらに深く学びたい人を西洋文化の世界へといざなう起点となることも期待しています。							
【到達目標】							
西洋文学のさまざまな作家や作品にかんする知識と理解を深めるとともに、文学作品を読み解くための基本的な技法を身につける。							
【授業計画と内容】							
西洋古典文学 (河島)							
第1週 (4月10日) ホメロス『イリアス』:ギリシア文学のはじまり							
第2週 (4月17日) オウィディウス『変身物語』:ラテン文学における受容と変容							
イタリア文学 (村瀬)							
第3週 (4月24日) ダンテ『神曲』概説							
第4週 (5月1日) マキアヴェッリ『君主論』概説							
英文学 (廣田)							
第5週 (5月8日) シェイクスピアとその作品の解説							
第6週 (5月15日) 『ハムレット』の冒頭を英語で読む							
ロシア文学 (中村)							
第7週 (5月22日) 虚構の作者ベールキンとは何者か プーシキン『ベールキン物語』序文を読み解く							
第8週 (5月29日) 現実と小説のあわいで プーシキン『ベールキン物語』中の1編「吹雪」を読み解く							
アメリカ文学 (小林)							
第9週 (6月5日) アメリカ詩の鑑賞法 ホイットマンとディキンソンを中心に							
第10週 (6月12日) アメリカ小説の鑑賞法 フォークナー『響きと怒り』の冒頭部を読む							
----- 西洋文学入門 (講義)(2)へ続く							

西洋文学入門 (講義)(2)

フランス文学 (鳥山)

第11週 (6月19日) フランス近代詩とボードレー

第12週 (6月26日) フランス現代詩とアポリネール

ドイツ文学 (川島)

第13週 (7月3日) ドイツ文学はナチスをどう描いたか (1) リヒター 『あのころはフリードリヒがいた』

第14週 (7月10日) ドイツ文学はナチスをどう描いたか (2) シュリンク 『朗読者』

第15週 (7月17日) まとめ・フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートにより、到達目標の達成度にもとづいて評価する。レポートについては、KULASISの「レポート情報」によって周知する。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

授業で取り上げる作品の多くは、下記のサイトでも紹介されている。

(関連URL)

http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/210188/1/seiyobungaku_hyakunen.pdf#page=2 (「西洋文学この百冊」)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

授業で取り上げた作品、紹介された本や論文を、できるだけ自分でも読んでみることを。

(その他 (オフィスアワー等))

特定の国や作家に偏るのではなく、未知の国や作家の文学にも触れ、西洋文学の多様性の一端を実感してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学

(2025.3.14)更新

講義コード	専修コード	担当専修別	講義名	講義形態	授業時間数	単位	開講期	曜日1	時限1	曜日2	時限2	担当教員名	使用言語	(院) 聴講生	シラバス連番	備考
M228001	12	哲学	哲学(演習I)	演習	60	2	前期	金	4	金	5	出口 康夫・五十嵐 涼介	日本語	○	思想文化学1	大学院科目
M228002	12	哲学	哲学(演習I)	演習	60	2	後期	金	4	金	5	出口 康夫・五十嵐 涼介	日本語	○	思想文化学2	大学院科目
M450001	12	哲学	哲学(語学)	語学	30	2	前期	金	3			西村 洋平	日本語	○	思想文化学3	大学院科目
M451001	12	哲学	哲学(語学)	語学	30	2	後期	金	3			西村 洋平	日本語	○	思想文化学4	大学院科目
M452001	12	哲学	哲学(語学)	語学	30	2	前期	水	2			勝又 泰洋	日本語	○	思想文化学5	大学院科目
M453001	12	哲学	哲学(語学)	語学	30	2	後期	水	2			勝又 泰洋	日本語	○	思想文化学6	大学院科目
5143011	12	哲学	哲学(演習I)	演習	30	2	前期	月	5			朱 喜哲	日本語	○	思想文化学7	学部・大学院科目
5143012	12	哲学	哲学(演習I)	演習	30	2	後期	水	4			山口 尚	日本語	○	思想文化学8	学部・大学院科目
5131001	12	哲学	哲学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			久木田 水生	日本語	○	思想文化学9	学部・大学院科目
5131003	12	哲学	哲学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	3			武田 裕紀	日本語	○	思想文化学10	学部・大学院科目
5131009	12	哲学	哲学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			澤田 和範	日本語	○	思想文化学11	学部・大学院科目
5131010	12	哲学	哲学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			森元 良太	日本語	○	思想文化学12	学部・大学院科目
5143005	12	哲学	哲学(演習I)	演習	30	2	後期	木	4			大塚 淳	日本語	○	思想文化学13	学部・大学院科目
5143006	12	哲学	哲学(演習I)	演習	30	2	前期	月	5			大西 琢朗	日本語	○	思想文化学14	学部・大学院科目
5143010	12	哲学	哲学(演習I)	演習	30	2	前期	月	1			五十嵐 涼介	英語	○	思想文化学15	学部・大学院科目
5230001	13	西洋哲学史(古代)	西洋哲学史(特殊講義)	特殊講義	60	4	通年	月	5			早瀬 篤	日本語	○	思想文化学16	学部・大学院科目
5231002	13	西洋哲学史(古代)	西洋哲学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			荻原 理	日本語	○	思想文化学17	学部・大学院科目
5241001	13	西洋哲学史(古代)	西洋哲学史(演習)	演習	30	2	前期	火	5			早瀬 篤	日本語	○	思想文化学18	学部・大学院科目
5241002	13	西洋哲学史(古代)	西洋哲学史(演習)	演習	30	2	後期	火	5			早瀬 篤	日本語	○	思想文化学19	学部・大学院科目
5241003	13	西洋哲学史(古代)	西洋哲学史(演習)	演習	30	2	前期	金	4			西村 洋平	日本語	○	思想文化学20	学部・大学院科目
5241004	13	西洋哲学史(古代)	西洋哲学史(演習)	演習	30	2	後期	金	4			西村 洋平	日本語	○	思想文化学21	学部・大学院科目
5234001	14	西洋哲学史(中世)	西洋哲学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期集中	その他	その他			関沢 和泉	日本語	○	思想文化学22	学部・大学院科目
5234004	14	西洋哲学史(中世)	西洋哲学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期不定		5			Jeffrey Brower	英語	○	思想文化学23	学部・大学院科目
5242001	14	西洋哲学史(中世)	西洋哲学史(演習)	演習	60	4	通年	木	4	木	5	周藤 多紀	日本語	○	思想文化学24	学部・大学院科目
5243001	14	西洋哲学史(中世)	西洋哲学史(演習)	演習	30	2	前期	水	1			山口 雅広	日本語	○	思想文化学25	学部・大学院科目
5243002	14	西洋哲学史(中世)	西洋哲学史(演習)	演習	30	2	後期	水	1			山口 雅広	日本語	○	思想文化学26	学部・大学院科目
5236001	15	西洋哲学史(近世)	西洋哲学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	金	3			大河内 泰樹	日本語	○	思想文化学27	学部・大学院科目
5236002	15	西洋哲学史(近世)	西洋哲学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	金	3			大河内 泰樹	日本語	○	思想文化学28	学部・大学院科目
5236005	15	西洋哲学史(近世)	西洋哲学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	3			林 拓也	日本語	○	思想文化学29	学部・大学院科目
5236003	15	西洋哲学史(近世)	西洋哲学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	3			林 拓也	日本語	○	思想文化学30	学部・大学院科目
5236006	15	西洋哲学史(近世)	西洋哲学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			城戸 淳	日本語	○	思想文化学31	学部・大学院科目
5245007	15	西洋哲学史(近世)	西洋哲学史[近世](演習)	演習	30	2	前期	月	5			林 拓也	日本語	○	思想文化学32	学部・大学院科目
5245002	15	西洋哲学史(近世)	西洋哲学史[近世](演習)	演習	30	2	後期	月	5			林 拓也	日本語	○	思想文化学33	学部・大学院科目
5331001	16	日本哲学史	日本哲学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	4			上原 麻有子	日本語	○	思想文化学34	学部・大学院科目
5331002	16	日本哲学史	日本哲学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	4			上原 麻有子	日本語	○	思想文化学35	学部・大学院科目
5331004	16	日本哲学史	日本哲学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			Bret Davis	日本語	○	思想文化学36	学部・大学院科目
5331005	16	日本哲学史	日本哲学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			城戸 淳	日本語	○	思想文化学37	学部・大学院科目
5341003	16	日本哲学史	日本哲学史(演習)	演習	30	2	後期	木	3			満原 健	日本語	○	思想文化学38	学部・大学院科目
5431002	17	倫理学	倫理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	2			児玉 聡	日本語	○	思想文化学39	学部・大学院科目
5431003	17	倫理学	倫理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	2			児玉 聡	日本語	○	思想文化学40	学部・大学院科目
5431005	17	倫理学	倫理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	木	2			Campbell, Michael	英語	○	思想文化学41	学部・大学院科目
5440001	17	倫理学	倫理学(演習)	演習	60	4	通年	火	4			児玉 聡	日本語	○	思想文化学42	学部・大学院科目
5440002	17	倫理学	倫理学(演習)	演習	60	4	通年	金	4			児玉 聡	日本語	○	思想文化学43	学部・大学院科目
5443003	17	倫理学	倫理学(演習)	演習	30	2	前期	金	5			永守 伸年	日本語	○	思想文化学44	学部・大学院科目
5443004	17	倫理学	倫理学(演習)	演習	30	2	後期	金	5			永守 伸年	日本語	○	思想文化学45	学部・大学院科目
5531001	18	宗教学	宗教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			Bret Davis	日本語	○	思想文化学46	学部・大学院科目
5531002	18	宗教学	宗教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			城戸 淳	日本語	○	思想文化学47	学部・大学院科目
5531003	18	宗教学	宗教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	2			津田 謙治	日本語	○	思想文化学48	学部・大学院科目
5531004	18	宗教学	宗教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	4			杉村 靖彦	日本語	○	思想文化学49	学部・大学院科目
5531005	18	宗教学	宗教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	5			伊原木 大祐	日本語	○	思想文化学50	学部・大学院科目
5531006	18	宗教学	宗教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	5			伊原木 大祐	日本語	○	思想文化学51	学部・大学院科目
5541001	18	宗教学	宗教学(演習)	演習	30	2	前期	水	5			杉村 靖彦	日本語	○	思想文化学52	学部・大学院科目
5541002	18	宗教学	宗教学(演習)	演習	30	2	後期	水	5			杉村 靖彦	日本語	○	思想文化学53	学部・大学院科目
5541003	18	宗教学	宗教学(演習)	演習	30	2	後期	木	2			安部 浩	日本語	○	思想文化学54	学部・大学院科目
5541004	18	宗教学	宗教学(演習)	演習	30	2	前期	火	4			伊原木 大祐	日本語	○	思想文化学55	学部・大学院科目
5541005	18	宗教学	宗教学(演習)	演習	30	2	後期	火	4			伊原木 大祐	日本語	○	思想文化学56	学部・大学院科目
5551001	18	宗教学	宗教学(講読)	講読	30	2	前期	水	2			笠木 丈	日本語	○	思想文化学57	学部・大学院科目
5551002	18	宗教学	宗教学(講読)	講読	30	2	後期	水	2			笠木 丈	日本語	○	思想文化学58	学部・大学院科目
5631001	19	キリスト教学	キリスト教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	3			村上 みか	日本語	○	思想文化学59	学部・大学院科目
5631002	19	キリスト教学	キリスト教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	2			津田 謙治	日本語	○	思想文化学60	学部・大学院科目
5631007	19	キリスト教学	キリスト教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	2			津田 謙治	日本語	○	思想文化学61	学部・大学院科目
5631004	19	キリスト教学	キリスト教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	4			杉村 靖彦	日本語	○	思想文化学62	学部・大学院科目
5631005	19	キリスト教学	キリスト教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	木	3			三輪 地塩	日本語	○	思想文化学63	学部・大学院科目
5631006	19	キリスト教学	キリスト教学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			西脇 純	日本語	○	思想文化学64	学部・大学院科目
5641001	19	キリスト教学	キリスト教学(演習)	演習	30	2	後期	金	3			西村 一輝	日本語	○	思想文化学65	学部・大学院科目

5641004	19	キリスト教学	キリスト教学(演習)	演習	30	2	前期	火	5		谷塚 巖	日本語	○	思想文化学66	学部・大学院科目
5641006	19	キリスト教学	キリスト教学(演習)	演習	30	2	前期	月	4		津田 謙治	日本語	○	思想文化学67	学部・大学院科目
5641007	19	キリスト教学	キリスト教学(演習)	演習	30	2	後期	月	4		津田 謙治	日本語	○	思想文化学68	学部・大学院科目
5641002	19	キリスト教学	キリスト教学(演習)	演習	30	2	前期	水	4		岡崎 龍	日本語	○	思想文化学69	学部・大学院科目
5641003	19	キリスト教学	キリスト教学(演習)	演習	30	2	後期	水	4		岡崎 龍	日本語	○	思想文化学70	学部・大学院科目
5731010	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	金	2		稲本 泰生	日本語	○	思想文化学71	学部・大学院科目
5731011	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	5		浅井 佑太	日本語	○	思想文化学72	学部・大学院科目
5731012	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	5		浅井 佑太	日本語	○	思想文化学73	学部・大学院科目
5731013	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	2		加須屋 明子	日本語	○	思想文化学74	学部・大学院科目
5731014	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他		増記 隆介	日本語	○	思想文化学75	学部・大学院科目
5731015	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	3		武田 宙也	日本語	○	思想文化学76	学部・大学院科目
5731016	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	3		武田 宙也	日本語	○	思想文化学77	学部・大学院科目
5731018	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	5		筒井 忠仁	日本語	○	思想文化学78	学部・大学院科目
5731019	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	5		筒井 忠仁	日本語	○	思想文化学79	学部・大学院科目
5731020	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	4		松永 伸司	日本語	○	思想文化学80	学部・大学院科目
5745003	20	美学美術史学	美学美術史学(演習II)	演習	30	2	前期	木	2		杉山 卓史	日本語	○	思想文化学81	学部・大学院科目
5745004	20	美学美術史学	美学美術史学(演習II)	演習	30	2	後期	金	3		平川 佳世	日本語	○	思想文化学82	学部・大学院科目
5745005	20	美学美術史学	美学美術史学(演習II)	演習	30	2	前期	月	5		天王寺谷 千裕	日本語	○	思想文化学83	学部・大学院科目
5745006	20	美学美術史学	美学美術史学(演習II)	演習	30	2	後期	火	2		天王寺谷 千裕	日本語	○	思想文化学84	学部・大学院科目
5745007	20	美学美術史学	美学美術史学(演習II)	演習	30	2	前期	金	3		平川 佳世	日本語	○	思想文化学85	学部・大学院科目
5731001	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	4		呉 孟晋	日本語	○	思想文化学86	学部・大学院科目
5731002	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	4		呉 孟晋	日本語	○	思想文化学87	学部・大学院科目
5731003	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	3		田中 健一	日本語	○	思想文化学88	学部・大学院科目
5731004	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	3		田中 健一	日本語	○	思想文化学89	学部・大学院科目
5731005	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	木	1		平川 佳世	日本語	○	思想文化学90	学部・大学院科目
5731006	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	木	1		平川 佳世	日本語	○	思想文化学91	学部・大学院科目
5731007	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	2		杉山 卓史	日本語	○	思想文化学92	学部・大学院科目
5731008	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	2		杉山 卓史	日本語	○	思想文化学93	学部・大学院科目
5731009	20	美学美術史学	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	金	2		稲本 泰生	日本語	○	思想文化学94	学部・大学院科目
5102001	12	哲学	系共通科目(哲学)(講義)	講義	30	2	前期	金	3		出口 康夫	日本語	○	思想文化学95	学部科目
5104001	12	哲学	系共通科目(哲学)(講義)	講義	30	2	後期	金	3		出口 康夫	日本語	○	思想文化学96	学部科目
5204001	14	西洋哲学史(中世)	系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)	講義	30	2	前期	水	2		石田 隆太	日本語	○	思想文化学97	学部科目
5206001	14	西洋哲学史(中世)	系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)	講義	30	2	後期	水	2		石田 隆太	日本語	○	思想文化学98	学部科目
5302001	16	日本哲学史	系共通科目(日本哲学史)(講義)	講義	30	2	前期	火	5		上原 麻有子	日本語	○	思想文化学99	学部科目
5304001	16	日本哲学史	系共通科目(日本哲学史)(講義)	講義	30	2	後期	火	5		上原 麻有子	日本語	○	思想文化学100	学部科目
5343001	16	日本哲学史	日本哲学史(基礎演習)	基礎演習	30	2	後期	金	2		山本 舜	日本語	○	思想文化学101	学部科目
5343002	16	日本哲学史	日本哲学史(基礎演習)	基礎演習	30	2	前期	木	4		上原 麻有子	日本語	○	思想文化学102	学部科目
5402001	17	倫理学	系共通科目(倫理学)(講義A)	講義	30	2	前期	金	2		児玉 聡	日本語	○	思想文化学103	学部科目
5403001	17	倫理学	系共通科目(倫理学)(講義B)	講義	30	2	後期	金	2		児玉 聡	日本語	○	思想文化学104	学部科目
5502001	18	宗教学	系共通科目(宗教学A)(講義)	講義	30	2	前期	月	1		杉村 靖彦	日本語	○	思想文化学105	学部科目
5503001	18	宗教学	系共通科目(宗教学B)(講義)	講義	30	2	後期	月	1		杉村 靖彦	日本語	○	思想文化学106	学部科目
5543001	18	宗教学	宗教学(基礎演習)	演習	30	2	前期	金	4	金 5	杉村 靖彦・伊原木 大祐	日本語	○	思想文化学107	学部科目
5543002	18	宗教学	宗教学(基礎演習)	演習	30	2	後期	金	4	金 5	杉村 靖彦・伊原木 大祐	日本語	○	思想文化学108	学部科目
5602001	19	キリスト教学	系共通科目(キリスト教学)(講義)	講義	30	2	前期	火	2		津田 謙治	日本語	○	思想文化学109	学部科目
5604001	19	キリスト教学	系共通科目(キリスト教学)(講義)	講義	30	2	後期	火	2		津田 謙治	日本語	○	思想文化学110	学部科目
5745001	20	美学美術史学	美学美術史学(演習II)	演習	30	2	後期	木	3		足立 恵理子	日本語	○	思想文化学111	学部科目
5745002	20	美学美術史学	美学美術史学(演習II)	演習	30	2	前期	木	5		山形 美有紀	日本語	○	思想文化学112	学部科目
5753001	20	美学美術史学	美学美術史学(講義)	講義	30	2	前期	木	2		高井 たかね	日本語	○	思想文化学113	学部科目
5753002	20	美学美術史学	美学美術史学(講義)	講義	30	2	後期	木	2		田中 健一	日本語	○	思想文化学114	学部科目
5705001	20	美学美術史学	系共通科目(美学)(講義)	講義	30	2	前期	水	4		杉山 卓史	日本語	○	思想文化学115	学部科目
5707001	20	美学美術史学	系共通科目(美学)(講義)	講義	30	2	後期	水	4		杉山 卓史	日本語	○	思想文化学116	学部科目
5708001	20	美学美術史学	系共通科目(日本・東洋美術史)(講義)	講義	30	2	後期	金	1		筒井 忠仁	日本語	○	思想文化学117	学部科目
5709001	20	美学美術史学	系共通科目(西洋美術史)(講義)	講義	30	2	前期	金	1		平川 佳世	日本語	○	思想文化学118	学部科目
0012001	39	哲学基礎文化学系	哲学基礎文化学系(ゼミナール)	ゼミナール	30	2	前期	木	2		津田 謙治・真田 萌依・鈴木 英仁・佐野 寛明・大島 弘・西	日本語	○	思想文化学119	学部科目

思想文化学1

科目ナンバリング	G-LET01 7M228 SB34				
授業科目名 <英訳>	哲学 (演習I) Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 出口 康夫 文学研究科 特定准教授 五十嵐 涼介		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金4,5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	Graduate Students Seminar II				
[授業の概要・目的]					
At each session, two graduate students will give presentations on their research subjects basically in English. Each presentation will be followed by a Q & A session among students, then by tutorial comments from their supervisors and finally by face-to-face tutorial meeting of each student with his/her supervisors. The seminar is considered essential for master and doctor thesis writing of all graduate students.					
[到達目標]					
Students can acquire skills to make clear, well structured, and easy-to-follow presentations on philosophical topics, to raise incisive and productive questions even for the topics that are not familiar to them, and to give honest, definite and appropriate answers to those questions. They can also be given valuable advices from their fellow students and supervisors for their master and doctor theses.					
[授業計画と内容]					
1 Guidance for philosophical presentations and discussions 2 Presentation by students 3 Presentation by students 4 Presentation by students 5 Presentation by students 6 Presentation by students 7 Presentation by students 8 Presentation by students 9 Presentation by students 10 Presentation by students 11 Presentation by students 12 Presentation by students 13 Presentation by students 14 Presentation by students 15 Presentation by students					
[履修要件]					
特になし					
----- 哲学 (演習I) (2)へ続く -----					

哲学 (演習I) (2)

[成績評価の方法・観点]

Presentation 70%. Active participation to discussions 30%.

Students are required to upload their papers and presentation materials to a shared on-file file box until a week before their presentations. Any delay in their uploading reduces their remarks.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Each presenter is required to upload their presentation material and/or paper and important references (chapters of books, journal papers and so on) to a drop box for the seminar until a week before his/her presentation. The paper should accord with an official format of published paper including proper references to citations.

All students are required to prepare power-point materials written in English.

All doctor students are also required to prepare their presentations in English.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学2

科目ナンバリング	G-LET01 7M228 SB34				
授業科目名 <英訳>	哲学 (演習I) Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 出口 康夫 文学研究科 特定准教授 五十嵐 涼介		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金4,5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
題目	Graduate Students Seminar II				
[授業の概要・目的]					
At each session, two graduate students will give presentations on their research subjects basically in English. Each presentation will be followed by a session of Q & A among students, then by tutorial comments from his/her supervisors and finally by face-to-face tutorial meeting of him/her with his/her supervisors. The seminar is considered essential for master and doctor thesis writing of all graduate students.					
[到達目標]					
Students can acquire skills to make clear, well structured, and easy-to-follow presentations on philosophical topics, to raise incisive and productive questions even for the topics that are not familiar to them, and to give honest, definite and appropriate answers to those questions. They can also be given valuable advices from their fellow students and supervisors for their master and doctor theses.					
[授業計画と内容]					
1 to 15 Presentation by students					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
Presentation 70%. Active Participation to discussions 30%. Students are required to upload their papers and presentation materials to a shared on-file file box until a week before their presentations. Any delay in their uploading reduces their remarks.					
[教科書]					
使用しない					
----- 哲学 (演習I) (2)へ続く -----					

哲学 (演習I) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Each presenter is required to upload their presentation material and/or paper and important references (chapters of books, journal papers and so on) to a drop box for the seminar a week before his/her presentation. The paper should accord with an official format of published paper including proper references to citations. All students are required to prepare power-point materials written in English. All doctor students are also required to prepare their presentations in English.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学3

科目ナンバリング	G-LET01 8M450 LJ48				
授業科目名 <英訳>	哲学(語学) Greek	担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金3	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語を学ぶ				
[授業の概要・目的]					
<p>古典ギリシア語(アッティカ方言)の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>					
[到達目標]					
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション、ギリシア文字の読み方・書き方 第2回から第14回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第3課から第17課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また活用・変化を覚えてもらうために小テストを2・3回実施する。 期末試験 第15回 フィードバック(試験の解説、前期の復習)</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
練習問題への取り組み(30%)、小テスト(20%)、試験(50%)で評価する。					
[教科書]					
水谷智洋『古典ギリシア語初歩』(岩波書店)					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- 哲学(語学)(2)へ続く -----					

哲学 (語学)(2)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回課される練習問題に取り組み、活用・変化を覚えるために繰り返し自習することが求められる。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学4

科目ナンバリング		G-LET01 8M451 LJ48			
授業科目名 <英訳>	哲学(語学) Greek	担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語を学ぶ				
[授業の概要・目的]					
<p>古典ギリシア語(アッティカ方言)の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>					
[到達目標]					
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回から第15回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第18課から第36課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また最後の3回は哲学・文学・歴史など履修者の関心に合わせて、短いテキストを講読する。</p>					
[履修要件]					
<p>前期の「ギリシア語(初級I)」を履修しているか、それに相当する文法知識を持っていること。 詳しくは初回のイントロダクションの際に相談すること。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>練習問題・講読への取り組みで評価する。また履修者数や学習状況によっては、授業内試験を実施する。</p>					
[教科書]					
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』(岩波書店)					
----- 哲学(語学)(2)へ続く -----					

哲学 (語学)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回課される練習問題に取り組み、語形変化・活用を覚えるための自習を行い、講読のために予習しておくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学5

科目ナンバリング		G-LET01 8M452 LJ48			
授業科目名 <英訳>	哲学(語学) Latin	担当者所属・ 職名・氏名	京都大学文学部 非常勤講師 勝又 泰洋		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語文法				
【授業の概要・目的】					
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語・スペイン語・フランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。					
【到達目標】					
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。					
【授業計画と内容】					
下記教科書(全19課・82節(+付録分の2節))の前半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。					
第1回～第14回：教科書第1節～第42節 定期試験 第15回：試験フィードバック					
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう(この練習問題は、宿題とすることもある)。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。					
【履修要件】					
後期開講の「哲学(語学)」(ラテン語文法)とセットで受講することが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(30%)・毎回の小テストの得点(30%)・定期試験の得点(40%)の合算による。5回以上欠席した場合、もしくは定期試験不受験の場合、いかなる理由があろうとも「不可」とする。					
----- 哲学(語学)(2)へ続く -----					

哲学 (語学)(2)

[教科書]

中山恒夫 『標準ラテン文法』 (白水社、1987年) ISBN:9784560017616

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

(その他 (オフィスアワー等))

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション (上記内容の詳細と成績評価について) を行うので、履修者は必ず出席すること。また、同じく第1回から具体的な学習を進めるので、事前に必ず教科書を用意しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学6

科目ナンバリング		G-LET01 8M453 LJ48			
授業科目名 <英訳>	哲学(語学) Latin	担当者所属・ 職名・氏名	京都大学文学部 非常勤講師 勝又 泰洋		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語文法				
[授業の概要・目的]					
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語・スペイン語・フランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。					
[到達目標]					
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。					
[授業計画と内容]					
下記教科書(全19課・82節(+付録分の2節))の後半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。					
第1回～第14回：教科書第43節～第82節 定期試験 第15回：試験フィードバック					
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう(この練習問題は、宿題とすることもある)。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。					
[履修要件]					
前期開講の「哲学(語学)」(ラテン語文法)とセットで受講することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(30%)・毎回の小テストの得点(30%)・定期試験の得点(40%)の合算による。5回以上欠席した場合、もしくは定期試験不受験の場合、いかなる理由があろうとも「不可」とする。					
----- 哲学(語学)(2)へ続く -----					

哲学 (語学)(2)

[教科書]

中山恒夫 『標準ラテン文法』 (白水社、1987年) ISBN:9784560017616

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

(その他 (オフィスアワー等))

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション (上記内容の詳細と成績評価について) を行うので、履修者は必ず出席すること。また、同じく第1回から具体的な学習を進めるので、事前に必ず教科書を用意しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学7

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34			
授業科目名 <英訳>	哲学(演習 I) Philosophy	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 朱 喜哲		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代プラグマティズム言語哲学				
[授業の概要・目的]					
<p>プラグマティズムとは、19世紀末のアメリカ合衆国で誕生した思想潮流である。実践や現実への相互作用から思想や理念のあり方を問うことを特徴とし、「実用主義」的な誤解もあるが、同時に南北戦争というアメリカ史上もっとも多くの死者を出した内戦を受けた「戦後の思想」でもある。パース、ジェームズ、デューイの古典的プラグマティスト三銃士が牽引し、しかし20世紀なかばにはヨーロッパの戦災を逃れて北米にやってきた論理実証主義のグループによって「駆逐」され、北米には現在に至るまで主流となっている「分析哲学(言語哲学)」が定着する。以上が20年ほどまで前での「標準的」な北米哲学史理解だった。ところが、現在ではこの史観はほぼ否定され、プラグマティズムはむしろ分析哲学(言語哲学)の歴史の中核で息づき続けていたのだとされる。この新史観を打ち出すシェリル・ミサックは、こうしたプラグマティズム言語哲学の代表例として、ロバート・ブランダム<small>Robert Brandom</small>の推論主義をとりあげる。他方で、ミサックが舌鋒鋭く批判するのが、従来史観では衰退するプラグマティズムを再生させた「中興の祖」リチャード・ローティである。ミサックはローティこそが、むしろプラグマティズムを過度に反-分析哲学なものとして歪めた張本人であり、プラグマティズムの本流はむしろ分析哲学(言語哲学)にこそある、と主張する。本講義では、このミサックの新史観をおおむね受け入れて紹介しつつ、そこで「斬られ役」となっているローティを正當に再評価、復権することをめざす。その際に着目するのが、(ミサック同様ブランダム推論主義である。この「プラグマティズム言語哲学」というべき構想が、ほかでもないローティと等しいモチベーションから打ち立てられていることを示し、さらにその政治哲学的な帰結をローティを参照しながら検討する。受講者は、現代北米哲学史の最先端の姿を学ぶとともに、その背景をなすプラグマティズム言語哲学の理論枠組と課題についても学ぶことになる。</p>					
[到達目標]					
<p>北米の哲学史について、プラグマティズムをめぐる従来史観と新史観を比較し、その差分と論点について理解する。 また、プラグマティズム言語哲学というべき理論体系とその論点について理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 従来の北米哲学史 3. ミサックによる新たな哲学史観とローティ批判 4. ミサックvsローティとその調停 5. プラグマティズム言語哲学の系譜(1) カルナップからセラーズ 6. プラグマティズム言語哲学の系譜(2) セラーズからブランダム 7. プラグマティズム言語哲学の展開(1) ブランダム<small>Brandom</small>の推論主義 8. プラグマティズム言語哲学の展開(2) ブランダム<small>Brandom</small>以降の推論主義 9. プラグマティズム言語哲学の応用(1) ヘイトスピーチ、陰謀論 10. プラグマティズム言語哲学の応用(2) ローティ<small>Robert Nozick</small>の人権基礎づけ主義批判 					
哲学(演習 I)(2)へ続く					

哲学 (演習 I)(2)

11. プラグマティズム政治哲学(1) ローティとロールズ
12. プラグマティズム政治哲学(2) ロールズ『正義論』のプラグマティズム的解釈
13. プラグマティズム政治哲学(3) リベラリズムの擁護
14. プラグマティズム政治哲学(4) 推論主義の政治哲学-1
15. プラグマティズム政治哲学(5) 推論主義の政治哲学-2

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（20点）とレポート（80点）により評価する。
平常点は授業への参加状況から評価することを予定している（ただし、登録者数によっては課題などに変更する可能性があります）。
平常点とレポートについては到達目標の達成度に基づき評価します。

【教科書】

朱喜哲『人間の会話のための哲学』（よはく舎、2024年）ISBN:4910327142（必須ではありませんが、講義前半の議論は本書を下敷きにします。）
朱喜哲『公正を乗り越なす』（太郎次郎社エディタス、2023年）ISBN:4811808606（必須ではありませんが、講義後半の議論は本書を下敷きにします。）
その他の資料ならびに講義のハンドアウトについては、授業時に配布する。

【参考書等】

（参考書）

朱喜哲『バザールとクラブ』（よはく舎、2024年）ISBN:4910327134（後半のプラグマティズム政治哲学の議論の際に参照する論文の邦訳と解説からなります。）
朱喜哲『100分de名著 ローティ『偶然性・アイロニー・連帯』』（NHK出版、2024年）ISBN:414223160X（ローティ哲学の全体像を概括するために参考になるはずですが。）
ロバート・ブランダム『プラグマティズムはどこから来て、どこへ行くのか』（勁草書房、2020年）ISBN:4326199814（ブランドムのプラグマティズム論集の邦訳。とくに下巻を参照します。）
シェリル・ミサック『プラグマティズムの歩き方』（勁草書房、2019年）ISBN:4326199784（ミサックの新史観を把握するのに適切な邦訳書です。）
伊藤邦武『プラグマティズム入門』（ちくま新書、2016年）ISBN:4480068708（ミサックの新史観を紹介した入門書として現状で最良な一冊です。）
飯田隆『哲学の歴史 11 20世紀 2』（中央公論新社、2007年）ISBN:4124035284（「従来史観」を知るには本書の「クワインとクワイン以後」等を参照してください。）
その他の参考書は授業中に紹介します。

【授業外学修（予習・復習）等】

原則として授業内で完結させますが、哲学的な予備知識がないと課題設定や議論のモチベーションが呑み込みづらい可能性があります。参考書に指示したもののうち、もっとも平易な伊藤邦武『プラグマティズム入門』などを事前に読んでおくことは予備知識を得る上での効率的な予習になるでしょう。また「標準的な北米史観」については、例えば『哲学の歴史 11』の該当章などに目を通

哲学 (演習 I)(3)へ続く

哲学 (演習 I)(3)

しておくことが理解の助けになるはずです。

(その他 (オフィスアワー等))

教員との連絡はメールで行ってください。メールアドレスは以下です。
juheechul1985@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学8

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34			
授業科目名 <英訳>	哲学(演習Ⅰ) Philosophy	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山口 尚		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本哲学へ英語のテキストを通じてアプローチする				
[授業の概要・目的]					
<p>この演習は日本哲学をテーマとするが、そのさいハイジック、カスーリスそしてマラルドが編集した Japanese Philosophy: A Sourcebook (2011, University of Hawaii Press: Honolulu) に収録される英訳のテキストを取り上げる。</p> <p>具体的には 授業全体を通じて複数の論者が読まれる予定だが とくに(1)中世の仏教系のテキスト、(2)近世の古学系のテキスト、(3)近代の京都学派系のテキストを読んでいきたい。より具体的には(受講者と相談しつつ決めていこうとも思うが)道元や親鸞、伊藤仁斎や荻生徂徠、西田幾多郎や九鬼周造などの英訳テキストを読む予定である。</p> <p>なお本演習においては、各テキストはその内的な論理に即して読まれるので、予備知識等はそれほど必要ない(適宜教員が補いたい)。むしろ本演習を受ける者においては 英語を正確に読解すること および 書かれていることを論理的に理解すること に尽力する心構えこそが求められる。演習の形としては、読んで、訳して、内容を議論する、というスタンダードな仕方で行なわれるだろう(議論は日本語で行なわれる)。</p>					
[到達目標]					
<p>日本哲学の英訳テキストを読み解く本演習の到達目標は以下である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語のテキストを正確に読み解く技能を鍛え上げる。 ・テキストに書かれた内容を論理的にまとめる力を身につける。 ・日本哲学にかんする基礎的そして発展的な知識をまなぶ。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 本授業の進め方を説明し、読むテキストを指示する。</p> <p>第2回～第5回 親鸞や道元などのテキストを読み、議論する。</p> <p>第6回～第9回 伊藤仁斎や荻生徂徠などのテキストを読み、議論する。</p> <p>第10回～第14回 西田幾多郎や九鬼周造などのテキストを読み、議論する。</p> <p>第15回 フィードバック 読み解いてきたことをまとめ、課題レポートの説明をする。</p>					
----- 哲学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

哲学 (演習 I) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点 (テキストの読解や議論への貢献度) 60点
レポート40点

【教科書】

読むテキストは授業中に指示する (上述の Japanese Philosophy: Source Bookを購入して演習に望む必要はない)。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修 (予習・復習) 等】

第2回から第14回においては、その回に取り上げられるテキストを予習してくるとともに、前回の演習の内容を復習のうえ授業に臨むこと。

(その他 (オフィスアワー等))

質問その他は授業の前後に行なわれたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学9

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34			
授業科目名 <英訳>	哲学 (特殊講義) Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 久木田 水生		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	情報技術の哲学				
[授業の概要・目的]					
<p>現在、情報技術は急激に発達しており、それは私たちの生活と社会的環境を大きく変化させている。情報技術はコミュニケーションの基盤であり、それゆえに私たちがどのように情報を伝え、どのように他者とつながるかということの規定する。人間は社会的な生物であるがゆえに、他者とのつながり方が変化すれば、「私たちは何者であるのか」、「私たちはいかなる世界に生きているのか」という問いに対する答えもまた変化する。そこで本講義では急速に発達する情報技術が、自己と環境（物理的世界、社会、他者）についての私たちの認識をどのように変容させているか考え、議論する。その際にはコミュニケーションは人間にとってどのような意味を持つかという問題についても議論する。またより一般的に技術と人間がどのような関係にあるのかという問題も扱う。</p>					
[到達目標]					
<p>情報技術のこれまでの発展が人間や社会に与えてきた影響について基本的な知識を身に付け、現在と将来の情報技術の影響と課題について理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>本講義ではコンピュータ、インターネット、スマートフォン、ソーシャルメディア、ビッグデータ、人工知能、ロボティクス、VRなどの情報技術が社会と人間に与えるインパクトを、倫理的哲学的観点から考察する。授業は以下の内容を含む予定であるが、変更する場合もある。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：なぜ情報技術を論じるのか 2. 情報技術によるコミュニケーションの変容 3. 情報技術に関する楽観論と悲観論 4. 技術と人間の関係(1)：技術による変容的経験 5. 技術と人間の関係(2)：技術と「共生」ということの意味 6. コミュニケーションとは何か(1)：情報通信と意思疎通 7. コミュニケーションとは何か(2)：相互同期と協調 8. インターネットと情報のコモンズ 9. インターネットの問題(1)：「勝者総取り」の構造 10. インターネットの問題(2)：エンゲージメント至上主義 11. インターネットの問題(3)：インターネットのイドラ 12. 人工知能略史：階差機関からChatGPTまで 13. 人工知能というメディア 14. コミュニケーションの未来(1)：メタバースとアバター 15. コミュニケーションの未来(2)：ソーシャルロボット 					
----- 哲学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

哲学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中に実施する小テスト 100%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

指定された参考資料、参考文献を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

質問やコメント等は授業の後に直接、あるいは下記のメールアドレス宛に問い合わせてください。

kukita.minao.p7@f.mail.nagoya-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学10

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34			
授業科目名 <英訳>	哲学 (特殊講義) Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 武田 裕紀		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	科学哲学科学史 (特殊講義) : 科学革命の諸問題				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義の内容と目的は、一般的に科学革命と呼ばれる変革の時期を4つの個別問題の展開を通して検討し、科学革命という歴史上の出来事を、その呼称の妥当性をも含めて、各人が根拠をもって評価できるようになる軸を提供することである。焦点を当てる人物はデカルトとパスカルであり、デカルトについては、数学 (解析幾何学) および学問的方法論、パスカルについては、自然学 (静水圧) および学問的論証を扱う。直接的なテーマとして扱う時代は1620年代から1650年代であるが、その先駆として16世紀後半、後裔としてニュートン力学成立前夜までを視野に入れて考察していく。</p>					
[到達目標]					
<p>* 17世紀前半における科学の転換について、複数の視点から説明できる。 * デカルトおよびパスカルの思考を、歴史的文脈において適切に理解できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の視座と目的 (1回目) 2. デカルト・人と思想【1週】 3. デカルトの解析幾何学 (『幾何学』など)【2週】 4. デカルトの学問的方法論 (『精神指導の規則』など)【4週】 5. パスカル・人と思想【1週】 6. パスカルの自然学 (『真空に関する新実験』『流体の平衡と大気の重さ』など)【2週】 7. パスカルの学問的論証 (『幾何学的精神について』など)【2週】 8. まとめ (14回目) 9. 期末レポート・フィードバック1回 (15回目) 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>授業内のミニツツペーパー4回 (うち2回は必須) : 30% / 科学革命期に関する自由レポート1回70%</p> <p>評価基準は、論旨の一貫性、術語の正確さ、日本語の論理性などを重視する。</p>					
[教科書]					
使用しない					
----- 哲学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

哲学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

- * 西洋史の基本知識のない受講生は、高校の教科書で16～17世紀を読んでおくこと。
- * 一次資料を事前に配布するので、該当箇所を授業の前後に熟読すること。

(その他 (オフィスアワー等))

- * 授業中、わからないことについては積極的な質問を期待する。
- * オンライン対応は不可。
- * メール：molier@yd5.so-net.ne.jp (成績に関する陳情は受けつけない)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学11

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34			
授業科目名 <英訳>	哲学 (特殊講義) Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 澤田 和範		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヒューム哲学の多面性と統一性				
【授業の概要・目的】					
ヒューム哲学研究は近年急速に進展しており、哲学的名著の『人間本性論』だけでなく、従来は社会政治思想史などで扱われてきた『道徳政治文学論集 (エッセイ集)』なども視野に入れた包括的な理解が求められるようになってきた。本講義では、そうした研究状況も踏まえながら、ヒューム哲学に見られる多様な要素を統合的に把握する視座を改めて懐疑主義に求めてみたい。また、重要な諸研究を紹介するとともに、ヒューム哲学と現代哲学との関連についても積極的に議論する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒューム哲学の代表的な諸論点を懐疑主義の観点から統合的に説明できるようになる。 ・ ヒューム哲学の意義をより広い哲学史的パースペクティブから説明できるようになる。 ・ 哲学史研究の基本的な心構えを理解し、陥りがちな罠を避けることができるようになる。 					
【授業計画と内容】					
<p>基本的には以下の計画で進行しますが、講義の進行度合いや受講者の興味関心によって、あるテーマに関する議論の内容を増減したり、扱う順番を変更したりすることがあり得ます。</p> <p>第1回 イントロダクション：ヒューム哲学を理解することの難しさと面白さ 第2回 道徳感情論と「狡猾な悪人」問題 第3回 自然的徳と道徳的価値の相対性 第4回 正義とその人為性 第5回 決定論と道徳的責任 第6回 道徳懐疑論と道徳の実在性 第7回 懐疑主義と自然主義さまざま、質疑応答 第8回 観念説と時空論 第9回 因果論と神の存在証明 第10回 懐疑主義と経験主義 第11回 感覚能力に関する懐疑論と近代観念説批判 第12回 ヒュームの懐疑主義の意義1：自然宗教と政治論から 第13回 ヒュームの懐疑主義の意義2：自然主義的人間像 第14回 ヒュームの懐疑主義の限界：セラーズ的観点から 第15回 質疑応答</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 哲学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

哲学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

・ 期末レポートで評価する (100%)。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

ジェームズ・A・ハリス 『ヒューム入門』 (丸善出版, 2024) ISBN:978-4-621-30977-3 (Oxford Very Short Introductions の一冊。ヒューム思想の全体像が平易にバランスよく描かれており、この授業を理解するのに役立ちます。)

(関連URL)

<https://davidhume.org/notes/>(ヒュームが出版した全著作の信頼できるテキスト (英語)。)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

事前の予習は必須ではありませんが、ヒュームについて予備知識がない人は、参考書に挙げた入門書を事前に読んで、人柄や時代の雰囲気をつかんでおくと、授業の内容を理解する助けになると思います。また、たくさんの論点を扱う授業なので、その日その日の授業内容をその都度復習することを心がけてください。

(その他 (オフィスアワー等))

授業中に質問を受け付けるほか、適宜メールでの問い合わせにも対応します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学12

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34			
授業科目名 <英訳>	哲学 (特殊講義) Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	北海道医療大学リハビリテーション科学部 森元 良太 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	概念の哲学				
[授業の概要・目的]					
現代において、確率と統計は科学を含むさまざまな分野に重要な役割を担っている。この講義では、確率論と統計学に関する哲学的問題を取り上げる。確率概念の出現の経緯を概説し、現代につながる主観的解釈と客観的解釈の二元性について検討する。また、科学哲学の観点から統計学の背後にある思考の枠組みを掘り下げる。さらに、各論として、哲学の問題に統計学の手法を用いた事例を紹介する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 確率概念の主観的解釈と客観的解釈が出現した経緯を理解する。 ・ 統計学が帰納推論であることと、分布の捉え方が変化した経緯を学び、統計学の思考の枠組みを理解する。 ・ 有意性検定と仮説検定の考え方の違いを理解する。 ・ 哲学の問題を解くのに統計学を援用した議論を理解する。 					
[授業計画と内容]					
基本的に以下のように講義を進める。ただし、受講者の反応および進捗に応じて順序や内容などを変えることがある。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 確率とは何か 2. 確率の二元性：主観的解釈と客観的解釈 3. 統計学と帰納推論 4. ベイズ論文を読み解く 5. 誤差論的思考 6. 集団的思考 7. フィッシャー流の有意性検定の考え方 8. ネイマン - ピアソン流の仮説検定の考え方 9. フィッシャーとネイマン - ピアソンの考え方の違い 10. ベイズ主義 11. 尤度主義 12. 頻度主義、ベイズ主義、尤度主義のまとめ 13. 各論 (1) : 進化論 vs. 創造論 14. 各論 (2) : 擬人主義 vs. 反擬人主義 15. フィードバック 					
----- 哲学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

哲学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポートの内容（100％）によって評価する。

[教科書]

森元良太 『統計学再入門 科学哲学から探る統計思考の原点』（近代科学社, 2024）ISBN:978-4764907072（統計学を使うときのモヤモヤ感や後ろめたさの正体を突き止めるとともに、科学哲学の観点から統計思考の原点を探る本。）

講義資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）

（1）イアン・ハッキング 『確率の出現』（慶應義塾大学出版会, 2013）ISBN:978-4766421033（確率概念がどのように出現し、主観的解釈と客観的解釈の二元性が生じたかが解説されている。）

（2）エリオット・ソーバー 『オッカムのかみそり』（勁草書房, 2021）ISBN:978-4326102945（科学における単純性の原理を概説するとともに、単純性を正当化する統計学の考え方も掘り下げている。）

その他の参考書は授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

事前の予習はとくに不要だが、授業後に教科書や講義資料を見直して復習することを勧める。

（その他（オフィスアワー等））

質問などがあれば、メールで連絡してください。

ryota@hoku-iryo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学13

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34			
授業科目名 <英訳>	哲学(演習Ⅰ) Philosophy	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 大塚 淳		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	哲学者のための数学				
[授業の概要・目的]					
<p>古くプラトンの時代から、数学は哲学者の基礎的教養とされてきた。また20世紀以降の哲学議論においては、論理学や集合論などといった数学的道具立てが陰に陽に用いられてきた。実際、数学的思考は、高度に抽象的で一見「捉えどころのない」問題をモデル化し、思考に秩序と型を与えるという点で、哲学的思索にとって有益である。そこで本授業では、哲学に益すると目される限りでの抽象数学の基礎的な部分を概観し、それを用いて具体的な哲学的問題をモデル化することを学ぶ。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> - 集合、代数、位相、群など、現代数学の基本的な概念に慣れ親しむ - 数学的概念で哲学的問題をモデル化する方法を学ぶ - 注：本授業は取り扱われる数学理論に習熟することを目的とするのではなく、あくまでそれらの哲学的問題との関連性/使い所を知ることが主眼である。それぞれの理論をしっかりと理解するためには、別途専門の授業を受けられたい。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 導入と準備 3. 集合 4. 関係と関数 5. 順序 6. 束 7. トポロジー 8. モノイド 9. 群 10. 圏 11. 数理モデリング方法論 12-14. 予備およびプロジェクトのフィードバック 15. フィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
----- 哲学(演習Ⅰ) (2)へ続く -----					

哲学 (演習 I) (2)

[成績評価の方法・観点]

- 単元毎の演習課題 30%
- 事前構想レポート 10%
- 期末レポート 60%

[教科書]

授業中に指示する

「哲学者のための数学」(オリジナル教材、初回授業時に配布)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

(関連URL)

<https://grey-mall-db5.notion.site/Formal-methods-for-Philosophy-2025S-Syllabus-16688bced13080e599d3c993d4aba528>(オンラインシラバス)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、指定された教科書の範囲を読み、演習問題を解いておくこと

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学14

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34			
授業科目名 <英訳>	哲学(演習Ⅰ) Philosophy	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 大西 琢朗		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	哲学的論理学入門				
【授業の概要・目的】					
古典命題論理から出発していくつかの論理体系について学び、現代哲学の論文を読んだり書いたりするために必要とされる論理学の基礎を習得する。					
【到達目標】					
哲学の論文で用いられる論理を扱うための基礎的な知識とスキルを習得する。論理学の基本的な枠組み、その哲学的背景、用いられるテクニックについて習熟する。					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：論理学とはなにか 2. 古典命題論理(1) 言語 3. 古典命題論理(2) モデル論 4. 古典命題論理(3) 妥当性 5. 様相論理(1) 可能世界 6. 様相論理(2) モデル論 7. 様相論理(3) 妥当性 8. 様相論理(4) 対応理論 9. 直観主義論理(1) 数学的構成 10. 直観主義論理(2) モデル論 11. 直観主義論理(3) 2つの埋め込み 12. 多値論理 13. 関連性論理(1) 3項関係 14. 関連性論理(2) 否定 15. まとめ 					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
宿題と学期末のレポートにより評価する。					
----- 哲学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----					

哲学 (演習 I)(2)

[教科書]

使用しない。レジュメを配布する。

[参考書等]

(参考書)

大西琢朗 『3STEPシリーズ 論理学』 (昭和堂、2021年)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎週、宿題を出題する。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学15

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34			
授業科目名 <英訳>	哲学 (演習 I) Philosophy	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 五十嵐 涼介		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月1	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Philosophical Clarity				
[授業の概要・目的]					
<p>The topic of our study broadly speaking is the identity of physical objects--including human beings--over time and over modal space (realm of possible worlds). By “ identity ” we mean numerical identity, which is so called because for any x and for any y, if x is identical with y, then x and y are one, not two. The most famous principles governing identity are due to Gottfried Wilhelm Leibniz (1646-1716): (1) the principle of the indiscernibility of identicals (“ If $x=y$, then Fx and Fy are equivalent for every F ”), and (2) the principle of the identity of indiscernibles (“ If Fx and Fy are equivalent for every F, then $x=y$ ”). Taken together, the two principles equate identity with indiscernibility. Herein lies the trouble. The two principles seem unassailable (under a certain idealizing linguistic assumption), yet they appear to give rise to seemingly intractable philosophical problems concerning persistence and change and counterfactual possibility. We will examine these problems and some suggested solutions along the lines of three-dimensionalism, four-dimensionalism, and five-dimensionalism.</p>					
[到達目標]					
<p>As we discuss the philosophical topics on our agenda, we will acquire accurate understanding not only of the discussed topics but also of the analytic philosophical method in general and cultivate philosophical and linguistic abilities to enable us to engage in intellectual discussion of the highest degree of sophistication in English.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>*This class will be conducted with Prof. Takashi Yagisawa of California State University, Northridge as a guest lecturer online.*</p> <p>We will discuss the following articles critically and in depth. All articles will be provided electronically free of charge:</p> <p>(1) Gibbard, Allan, 1975, ‘ Contingent Identity ’ , Journal of Philosophical Logic 4: 187 - 221. (2) Lewis, David 1976. ‘ Survival and Identity ’ , in The Identities of Persons, ed. Amelie Oksenberg Rorty, Berkeley: University of California Press: 17 - 40. (3) Heller, Mark, 1984, ‘ Temporal Parts of Four Dimensional Objects ’ , Philosophical Studies: An International Journal for Philosophy in the Analytic Tradition 46: 323 - 34. (4) Yagisawa, Takashi, 2010, Worlds and Individuals, Possible and Otherwise, Oxford: Oxford University Press, Ch. 5 ‘ Transworld Individuals and Their Identity ’ : 209 - 321.</p> <p>Here is a provisional class schedule, subject to change at any time:</p> <p>Day 1 : article (1) Gibbard Day 2 : article (1) Gibbard</p>					
----- 哲学 (演習 I)(2)へ続く -----					

哲学 (演習 I)(2)

Day 3 : article (1) Gibbard
Day 4 : article (2) Lewis
Day 5 : article (2) Lewis
Day 6 : article (2) Lewis
Day 7 : article (2) Lewis
Day 8 : article (3) Heller
Day 9 : article (3) Heller
Day 10: article (3) Heller
Day 11: article (4) Yagisawa
Day 12: article (4) Yagisawa
Day 13: article (4) Yagisawa
Day 14: article (4) Yagisawa
Day 15: article (4) Yagisawa

If we have time left after discussing these four articles, we will discuss the fifth article:
(5) Yagisawa, Takashi, 2017, ' S4 to 5D ' , Argumenta 2.2: 241-61.

【履修要件】

Ability to use English in listening, speaking, reading, and writing.

【成績評価の方法・観点】

Active participation in class discussion throughout the semester (50%) and a term paper at the end of the semester (50%).

【教科書】

The articles specified in (授業計画と内容) above.

【参考書等】

(参考書)

Katherine Hawley, ' Temporal Parts ' in Stanford Encyclopedia of Philosophy:

<https://plato.stanford.edu/entries/temporal-parts/>

Eric T. Olsen, ' Personal Identity ' in Stanford Encyclopedia of Philosophy:

<https://plato.stanford.edu/entries/identity-personal/>

Takashi Yagisawa, ' Possible Objects ' in Stanford Encyclopedia of Philosophy:

<https://plato.stanford.edu/entries/possible-objects/>

(関連URL)

<https://www.jimpryor.net/teaching/vocab/glossary.html>(A Philosophical Glossary for Beginners)

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>(James Pryor ' s Guidelines on Reading and Writing Philosophy)

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html>(James Pryor ' s Guidelines on Reading and Writing Philosophy)

https://prezi.com/z4h1_fwilbxj/a-sample-philosophy-paper/(Angela Mendelovici ' s Sample Philosophy Paper (online))

哲学 (演習 I)(3)へ続く

哲学 (演習 I)(3)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Read the articles, and be prepared to ask questions and express opinions in class discussion throughout the semester.

(その他 (オフィスアワー等))

You are strongly encouraged to ask the instructor questions in class and via email outside class. Office hours are held by appointment; email the instructor to make an appointment. All discussion in class and other communication concerning this class should be conducted in English. Do not be afraid to make a mistake (linguistic or philosophical). Keep a positive attitude about participation and speak up! Silence is NOT golden.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学16

科目ナンバリング		G-LET02 65230 LJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史 (特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 早瀬 篤		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	月5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	プラトンの技術哲学				
[授業の概要・目的]					
<p>科学技術に関わる諸問題は、近現代社会のなかで多様な仕方で表面化してきました。そしてそれに 応じて、私たちが科学技術に関してもつ認識や理解というものも重大な関心事になっており、例え ば「科学技術のもつ倫理性」や「科学と技術の関係」といった主題は、現代哲学においてきわめて ポピュラーなものになっています。そしてこのような主題を論じるときに用いられる現代の概念的 枠組みは、古代ギリシアを代表する哲学者であるプラトン（前424/423-前347）とアリストテレス（ 前384-前322）の影響をきわめて大きく受けています。</p> <p>本講義では、このうちプラトンの「技術哲学」、すなわち「専門知識」（エピステーメー）およ び「技術」（テクネー）をめぐる考察全般を主題とします。プラトンは、これらについて単一の著 作で詳しく論じてはいないので、その内実を理解するためには、複数の著作から関連する議論を取 り出して慎重に整理・検討する必要があります。この主題をめぐることは、従来の研究において例え ば次のようなことが問題とされてきました。「プラトンは、技術というものがどのような構造をも つと考えたのか？」「プラトンは技術がその対象を善いものにする」と述べているが、このことは個 別的な技術に関して具体的にどのように説明できるのか？」「プラトンは道具製作者と道具使用者 の関係をどのように考えていたのか？」「専門知識・技術に関するプラトンのいくつかの分類はど のように統合できるのか？」</p> <p>本講義では、最初にプラトンの技術哲学をめぐる議論を概観した後、その解釈においてどんなこ とが問題になるのかをもう一度丁寧に確認することからはじめて、それぞれの問題ごとに関連する 箇所を検討していくという手順をとります。なお、そのさいに、プラトン以前の技術に対する評価 やアリストテレスの技術哲学についても触れたいと思います。</p>					
[到達目標]					
西洋の学問の体系化に深刻な影響を与えたプラトンの技術哲学を基本から考え直すことを通じて、 基礎的な技術哲学のあり方を理解し、自分でも検討できるようになること。					
[授業計画と内容]					
基本的に以下の計画に従って講義を進めます。ただし受講者の理解の程度を考慮して、必要に応じ た変更を加えながら話を進めたいと思います。					
前期					
第1回 イン트로ダクション					
第2回~第3回 プラトンの技術哲学概観					
第4回~第6回 プラトンの技術哲学に含まれる諸問題					
第7回~第9回 技術の基本構造					
第10回~第14回 諸技術の分類					
第15回 これまでのまとめ					
後期					
----- 西洋哲学史 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋哲学史 (特殊講義)(2)

第16回~第18回	道具製作者と形相
第19回~第20回	道具製作者と道具使用者の関係
第21回~第24回	技術の倫理性の問題 (1) : 製作技術と管理技術
第25回~第26回	技術の倫理性の問題 (2) : 医術や操舵術の不適切な使用をめぐる議論
第27回~第28回	宇宙製作者と製作された宇宙
第29回	まとめ
第30回	フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートによって評価します。レポートの課題、書き方などは授業中に指示します。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業内で参考書目を指示し、必要な資料を配付しますので、必要に応じて予習をして講義に臨んでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学17

科目ナンバリング		G-LET02 65231 LJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史 (特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	東北大学 文学研究科 准教授 荻原 理	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋古代の目的論				
[授業の概要・目的]					
<p>西洋古代、とくにプラトンとアリストテレスによって展開された目的論的諸理論を、関連する事柄とともに理解する。</p> <p>教員の講義を聴き、積極的に質問やコメントをして頂く。質問・コメントは、授業時にたくさんして頂きたいし、数回毎に記入し提出するリアクション・ペーパーでして下さってもよい。</p> <p>古代哲学の予備知識や古代ギリシャ語の知識は必要ない。</p>					
[到達目標]					
<p>プラトン、アリストテレスの目的論的諸理論を、その根拠や強み・弱みも含め、正確に理解し、ひとに説明したり、それをめぐって論じたりできるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>質疑応答の成り行き等によって多少変更するかもしれない。</p> <p>1. アリストテレスの、目的の概念を概観する〔2回〕 「テロス」、過程の終着点 "よい(と思われる)もの"としての目的 行為の目的と、若干の自然現象の目的 形相因、目的因、始動因の「一致」</p> <p>2. アリストテレスの、行為の目的論 『ニコマコス倫理学』第1巻、第10巻第6章以降を中心に〔4回〕 同じ行為が複数の目的をもちうるはず 行為の産物が目的である行為と、行為自身が目的である行為 "行為の目的、その目的、その目的・・・"という連鎖 人生の究極目的としての幸福 アンスコムのアリストテレス的行為論</p> <p>3. アリストテレスの、自然の目的論――『自然学』第2巻を中心に〔6回〕 アリストテレスの、自然の概念 世界は永遠の昔からあり続けてきた ある目的のために生じる自然現象 エンペドクレス(機械論的自然観、偶然、適者生存)への批判 だれのものでもない目的? アリストテレスの、自然の目的論の奇妙さ キリスト教徒トマス・アクィナスによるアリストテレス自然学の取り込み (余談: 神による人間創造の目的) 打倒アリストテレスとしての近代科学革命(機械論ふたたび) ダーウィン進化論(偶然・適者生存ふたたび)</p>					
----- 西洋哲学史 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋哲学史 (特殊講義)(2)

4. プラトンの目的論〔2.7回〕

『パイドン』95e-102a

原因・根拠の探究における、アナクサゴラスのヌースへの期待

『ティマイオス』第1部・第3部

デーミウールゴスによる宇宙そのものの創造

宇宙のなかの物事のしつらえ

5. 余談：歴史の目的論（カント、ヘーゲル、マルクス、フクヤマ）〔0.3回〕

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

リアクション・ペーパー（数回ごとに、質問や意見を記して提出してもらう紙）：80% .

授業時の発言等：20% .

1/3 以上欠席した場合は単位を認めない。

【教科書】

随時資料をアップする。プリントを配布するかもしれない。

【参考書等】

（参考書）

プラトン 『パイドン』（：西洋古典叢書（京都大学学術出版会）に『饗宴』と併せて収められた朴一功訳（2007年 9784876981724）、光文社古典新訳文庫の納富信留訳（2019年 9784334754020）、プラトン全集（岩波書店）1（1975年 9784000904117）所収の松永雄二訳、世界古典文学全集（筑摩書房）14（1964年 978-4-480-20314-4）所収の藤沢令夫訳、など。）

プラトン 『ティマイオス』（：『プラトン全集 12 テイマイオス・クリティアス』（岩波書店、1975年 9784000904223）所収の種山恭子訳）

アリストテレス 『ニコマコス倫理学』（：西洋古典叢書（京都大学学術出版会）所収の朴一功訳（2002年 9784876981380）、新版アリストテレス全集（岩波書店）第15巻（2014年 9784000927857）の神崎繁訳、光文社古典新訳文庫の渡辺邦夫・立花幸司訳（2015年 上 9784334753221, 下

9784334753245）、旧版アリストテレス全集所収の加藤信朗訳（1973年 9784000912938）、など）

アリストテレス 『自然学』（：新版アリストテレス全集（岩波書店）第4巻（2017年、9784000927741）、内山勝利訳）

【授業外学修（予習・復習）等】

集中講義の開始前に、アリストテレス 『ニコマコス倫理学』第1巻、第10巻第6章以降、『自然学』第2巻、プラトン 『パイドン』95e-102a、『ティマイオス』第1部・第3部（「部」についてはプラトン全集所収の邦訳を参照）をざっとでも目を通しておく。

授業時に気になった点を、授業後さらに考える。（そのようにして考えたことは、次の授業時に、または次回提出するリアクション・ペーパーで紹介して頂きたい。）

西洋哲学史 (特殊講義)(3)へ続く

西洋哲学史 (特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

連絡先： satoshi.ogihara.e7@tohoku.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学18

科目ナンバリング		G-LET02 75241 SJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史 (演習) History of Western Philosophy (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 早瀬 篤	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アリストテレス『自然学』を読む(1)				
[授業の概要・目的]					
<p>古代ギリシアを代表する哲学者のひとり、アリストテレス（前384-前322）の『自然学』の原典を精読します。『自然学』は、自然的物事を成立させる原理を究明することによって、自然的物事を最も一般的な水準で考察する著作です。この書は全8巻からなり、有名な「素材形態論」（ハイロモルフィズム）と四原因説を提示した後で（1-2巻）、自然的物事を「運動変化の内的原理をもつもの」として捉え、その解明の鍵となる「運動変化」「無限」「場所」「空虚」「時間」の詳しい論究へと進みます（3巻以降）。この著作には、近代に至るまで、自然哲学の領野で圧倒的影響力をもったという歴史的意義があるだけでなく、現代でも、近代科学とはまったく異なる仕方で時間や空間や変化を考察しているところに関心が集まっています。しかし非常に難解な著作であり、自然学の諸問題に対するアリストテレスの思考の道筋はいまだ十分に明らかにされていません。本授業では、現代における諸研究とシンプリキオスに代表される古代の註釈家たちの書物を参考にしながら、この難解な著作の核心的思考を捉えることを目指します。</p> <p>今期は『自然学』の第1巻6章と7章を読む予定です。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。 ・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。 ・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。 					
[授業計画と内容]					
<p>本授業は参加者による発表形式をとります。ひとりの参加者が『自然学』の標準的なテキストの2-3ページを担当して、その翻訳と注釈からなるレジュメを作成して授業で発表し、参加者全員でそれを検討するという手続きをとります。レジュメの作成に当たっては、関連する注釈書や研究書を調べた上で、分かりにくい箇所や問題を含む箇所について、学者たちがどのように理解してきたのか、そして担当者自身はどのように理解すべきだと考えるのかを説明することが期待されます。授業は以下のように進めます。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回-第14回 アリストテレス『自然学』第1巻の講読・検討 第15回 まとめ</p>					
----- 西洋哲学史 (演習)(2)へ続く -----					

西洋哲学史 (演習)(2)

【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。

【成績評価の方法・観点】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業での発表が60点、それ以外での積極的な参加が40点とします。

【教科書】

W. D. Ross. 『/Aristotelis Physica/ (Oxford Classical Text). 』 (Oxford: Oxford University Press, 1901)
使用するテキストのコピーは授業で配布します。

【参考書等】

(参考書)

W. D. Ross. 『/Aristotle's Physics/. 』 (Oxford: Oxford University Press, 1936)

Katerina Ierodiakonou, Paul Kalligas, and Vassilis Karasmanis. eds. 『/Aristotle's Physics Alpha/. 』 (Oxford: Oxford University Press, 2019)

Diana Quarantotto. ed. 『/Aristotle's Physics Book I: A Systematic Exploration/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2018)

授業の資料は、参加者で情報を共有した上で、各自で必要な部分をコピーしてください。

【授業外学修(予習・復習)等】

発表担当者は、事前にレジュメ(ギリシア語テキストの翻訳および研究書・注釈書にもとづく注解)を作成するために、相当な時間が必要になります。またその他の参加者も、その回に講読する箇所の予習にかなりの時間がかかります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学19

科目ナンバリング		G-LET02 75241 SJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 早瀬 篤		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アリストテレス『自然学』を読む(2)				
[授業の概要・目的]					
<p>古代ギリシアを代表する哲学者のひとり、アリストテレス(前384-前322)の『自然学』の原典を精読します。『自然学』は、自然的事物を成立させる原理を究明することによって、自然的事物を最も一般的な水準で考察する著作です。この書は全8巻からなり、有名な「素材形態論」(ハイロモルフィズム)と四原因説を提示した後で(1-2巻)、自然的事物を「運動変化の内的原理をもつもの」として捉え、その解明の鍵となる「運動変化」「無限」「場所」「空虚」「時間」の詳しい論究へと進みます(3巻以降)。この著作には、近代に至るまで、自然哲学の領野で圧倒的影響力をもったという歴史的意義があるだけでなく、現代でも、近代科学とはまったく異なる仕方で時間や空間や変化を考察しているところに関心が集まっています。しかし非常に難解な著作であり、自然学の諸問題に対するアリストテレスの思考の道筋はいまだ十分に明らかにされていません。本授業では、現代における諸研究とシンプリキオスに代表される古代の註釈家たちの書物を参考にしながら、この難解な著作の核心的思考を捉えることを目指します。</p> <p>今期は『自然学』の第1巻8章から読み始め、第2巻1章まで進む予定です。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。 ・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。 ・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。 					
[授業計画と内容]					
<p>本授業は参加者による発表形式をとります。ひとりの参加者が『自然学』の標準的なテキストの2-3ページを担当して、その翻訳と注釈からなるレジュメを作成して授業で発表し、参加者全員でそれを検討するという手続きをとります。レジュメの作成に当たっては、関連する注釈書や研究書を調べた上で、分かりにくい箇所や問題を含む箇所について、学者たちがどのように理解してきたのか、そして担当者自身はどのように理解すべきだと考えるのかを説明することが期待されます。授業は以下のように進めます。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回-第14回 アリストテレス『自然学』第1,2巻の講読・検討 第15回 まとめ</p>					
----- 西洋哲学史(演習)(2)へ続く -----					

西洋哲学史 (演習)(2)

【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。

【成績評価の方法・観点】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業での発表が60点、それ以外での積極的な参加が40点とします。

【教科書】

W. D. Ross. 『/Aristotelis Physica/ (Oxford Classical Text). 』 (Oxford: Oxford University Press, 1901)
使用するテキストのコピーは授業で配布します。

【参考書等】

(参考書)

W. D. Ross. 『/Aristotle's Physics/. 』 (Oxford: Oxford University Press, 1936)

Katerina Ierodiakonou, Paul Kalligas, and Vassilis Karasmanis. eds. 『/Aristotle's Physics Alpha/. 』 (Oxford: Oxford University Press, 2019)

Diana Quarantotto. ed. 『/Aristotle's Physics Book I: A Systematic Exploration/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2018)

授業の資料は、参加者で情報を共有した上で、各自で必要な部分をコピーしてください。

【授業外学修(予習・復習)等】

発表担当者は、事前にレジュメ(ギリシア語テキストの翻訳および研究書・注釈書にもとづく注解)を作成するために、相当な時間が必要になります。またその他の参加者も、その回に講読する箇所の予習にかなりの時間がかかります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学20

科目ナンバリング		G-LET02 75241 SJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史 (演習) History of Western Philosophy (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	プラトン『エウテュデモス』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、プラトン（前424/423-前347）の『エウテュデモス』を原典から精読する。この対話篇は、ソクラテスがソフィストであるエウテュデモスとディオニュソドロスと議論を交わしながら、知識や徳についての深い考察を行うものである。本対話篇では特に、ソフィスト術や弁論術といった当時の知的風潮に対する批判が中心的なテーマとなり、ソクラテスの哲学的アプローチが浮き彫りとなる。</p> <p>『エウテュデモス』は一見、単なるソフィストへの風刺にとどまらず、哲学そのものを吟味にかけ、知識、真理、教育の本質について問われる。本授業では、テキストを精読する中で以下の問いに取り組む：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソクラテスはどのようにしてソフィストの議論を批判しているのか。 ・知識や教育の本質について、プラトンはどのような見解を提示しているのか。 <p>授業では、本対話篇の歴史的背景や政治的文脈を考慮しつつ、現代の哲学との関連についても議論を行う。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語で書かれた文献を正確に読むことができるようになる。 ・注釈書・研究書を批判的に読み、また自らの訳・注を作成することによって、文献学的研究の基礎能力を身につけることができる。 ・文献解釈に関わる論文作成において、テキストにもとづいた議論を展開することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 最初に『エウテュデモス』の内容および思想史的位置づけについて説明を行う。次に演習参加に当たって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行う。</p> <p>第2回～第14回 プラトン『エウテュデモス』精読 『エウテュデモス』を冒頭から精読していく。毎回参加者全員が少しずつ訳読する形式を採用し、教科書として挙げた Oxford Classical Text の2ページを目安に読み進める。</p> <p>第15回 まとめ 前期に読んだテキストの内容および授業期間中に提起された議論を振り返りながら、参加者全員で議論を行う。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがある。</p>					
----- 西洋哲学史 (演習) (2)へ続く -----					

西洋哲学史 (演習) (2)

【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を習得していること。

【成績評価の方法・観点】

成績は、授業での取り組み（80点）と、議論への積極的な参加（20点）によって算出する。「授業での取り組み」は、毎回範囲となる箇所訳のために、注釈書や文法書にあたって準備できているか、また哲学的な議論の理解のために注釈等に参照して予習ができているのかを評価する。

【教科書】

J. Burnet 『Platonis Opera III (Oxford Classical Text)』 (Oxford, 1903)
使用するテキストのコピーは授業で配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

資料については授業で紹介するので、初回のガイダンスに出席してください。

毎回読んでくるコメンタリーや参照すべき諸外国語訳等の資料のコピーは授業で配布します。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前に古典ギリシア語で書かれたテキストを読んで準備する必要がある。授業中にその場で訳読できるように準備する必要があり、能力によって個人差はあるが5時間程度かかるだろう。どのような準備を具体的にすべきかについては、初回のイントロダクションで説明する。

（その他（オフィスアワー等））

演習の課題の都合上、きりのよいところまで読み進めるために、授業時間を延長することがある。延長時間における参加は成績評価にさいして考慮せず、正規の授業終了時間に退席しても問題ないが、授業でなされる議論の詳細を知るためには延長時間も参加する必要がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学21

科目ナンバリング		G-LET02 75241 SJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史 (演習) History of Western Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学研究所 西村 洋平 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	プラトン『エウテュデモス』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、プラトン（前424/423-前347）の『エウテュデモス』を原典から精読する。この対話篇は、ソクラテスがソフィストであるエウテュデモスとディオニュソドロスと議論を交わしながら、知識や徳についての深い考察を行うものである。本対話篇では特に、ソフィスト術や弁論術といった当時の知的風潮に対する批判が中心的なテーマとなり、ソクラテスの哲学的アプローチが浮き彫りとなる。</p> <p>『エウテュデモス』は一見、単なるソフィストへの風刺にとどまらず、哲学そのものを吟味にかけ、知識、真理、教育の本質について問われる。本授業では、テキストを精読する中で以下の問いに取り組む：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソクラテスはどのようにしてソフィストの議論を批判しているのか。 ・知識や教育の本質について、プラトンはどのような見解を提示しているのか。 <p>授業では、本対話篇の歴史的背景や政治的文脈を考慮しつつ、現代の哲学との関連についても議論を行う。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・古典ギリシア語で書かれた文献を正確に読むことができるようになる。 ・注釈書・研究書を批判的に読み、また自らの訳・注を作成することによって、文献学的研究の基礎能力を身につけることができる。 ・文献解釈に関わる論文作成において、テキストにもとづいた議論を展開することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 最初に前期まで読んだ『エウテュデモス』の内容について復習・おさらい、論点の整理などを行う。次に演習参加に当たって参照すべき注釈書や研究書を再度紹介し、授業形式について詳しい説明を行う。</p> <p>第2回～第14回 プラトン『エウテュデモス』精読 『エウテュデモス』を前期に続けて精読していく。毎回参加者全員が少しずつ訳読する形式を採用し、教科書として挙げた Oxford Classical Text の2ページを目安に読み進める。</p> <p>第15回 まとめ 後期に読んだテキストの内容および授業期間中に提起された議論を振り返りながら、参加者全員で議論を行う。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがある。</p>					
----- 西洋哲学史 (演習) (2)へ続く -----					

西洋哲学史 (演習) (2)

【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を習得していること。

【成績評価の方法・観点】

成績は、授業での取り組み（80点）と、議論への積極的な参加（20点）によって算出する。「授業での取り組み」は、毎回範囲となる箇所訳のために、注釈書や文法書にあたって準備できているか、また哲学的な議論の理解のために注釈等に参照して予習ができているのかを評価する。

【教科書】

J. Burnet 『Platonis Opera III (Oxford Classical Text)』 (Oxford, 1903)
使用するテキストのコピーは授業で配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

資料については授業で紹介するので、初回のガイダンスに出席してください。

毎回読んでくるコメンタリーや参照すべき諸外国語訳等の資料のコピーは授業で配布します。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前に古典ギリシア語で書かれたテキストを読んで準備する必要がある。授業中にその場で訳読できるように準備する必要があり、能力によって個人差はあるが5時間程度かかるだろう。どのような準備を具体的にすべきかについては、初回のイントロダクションで説明する。

（その他（オフィスアワー等））

演習の課題の都合上、きりのよいところまで読み進めるために、授業時間を延長することがある。延長時間における参加は成績評価にさいして考慮せず、正規の授業終了時間に退席しても問題ないが、授業でなされる議論の詳細を知るためには延長時間も参加する必要がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学22

科目ナンバリング		G-LET03 65234 LJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史 (特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 関沢 和泉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヨーロッパ中世におけるラテン語文法学と言語 (哲) 学				
[授業の概要・目的]					
<p>ヨーロッパ中世において、文法学は自由七科の一つとして重要な位置を占めていた。こうした文法学が織りなした伝統について、言語学史的な関心からは、とりわけチョムスキーの『デカルト派言語学』以降における普遍文法学の源流探しという動機により、「思弁文法学」と形容される「実用的」よりも「理論的」と考えられた言語 (哲) 学的アプローチへの注目へと繋がっていった。実際、当時文法学にかかわった人たちは、慣習によって成立し諸権威 auctoritates によって担保されるような言語のありかたに対し、そこに潜在する構造を理性的に探求しようという流れを形作っていく。また、こうした思弁文法学はダンテの『俗語詩論』へと繋がっているとの仮説により、研究が活性化した時期も存在した。他方で、中世哲学史の文脈においては、論理学に比べ、やや研究者が少ない状況が続いている。</p> <p>本特殊講義においては、そうした研究状況が背景としてあるため、予備的作業としてヨーロッパ中世における言語 (哲) 学としてのラテン語文法学の展開のパノラマを大まかに描いたのち、主に13世紀における大学の時代における様態論学派周辺の転換を、前後の12世紀と14世紀の状況と対比しつつ扱う。なおそれらを行う際の主な軸は、文法学と学問性・科学性 (当時の意味での学知性)、個別言語と普遍文法 (その関係をどのように説明するか)、文法学と論理学 (論理学の前で普遍文法の試みは消去されないのか) である。</p>					
[到達目標]					
<p>この授業の到達目標は以下の三つである。</p> <p>(1) ヨーロッパ中世におけるラテン語文法学の展開について、主要な登場人物や項目を列挙することができる。</p> <p>(2) ヨーロッパ中世におけるラテン語文法学の展開について、異なった段階において、どのような課題意識や分析枠が存在していたかを対比して述べることができる。</p> <p>(3) 自身の言語 (哲) 学への関心と、ヨーロッパ中世における展開を結び付けて、一定の考察を展開することができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>各回の内容はおおよそ以下のとおりである。</p> <p>なお進捗に応じて、とくに同テーマの中で一部内容が前後し、また変更を行うことがある。</p> <p>テーマ1「研究史と背景」</p> <p>第01回 言語学史における西洋中世 (研究史)</p> <p>第02回 文法学のはじまりとひろがり</p> <p>第03回 ドナトゥスとプリスキアヌス (実用的 対 理論的?)</p> <p>テーマ2「理論的探究と権威」</p>					
西洋哲学史 (特殊講義)(2)へ続く					

西洋哲学史 (特殊講義)(2)

第04回 カロリングルネサンスにおける文法学（権威と理論的探究）

第05回 12世紀の文法学とその周辺

第06回 13世紀へ受け継がれたもの（受け継がれなかったもの）

テーマ3「大学の時代の言語と文法」

第07回 文法学におけるアラブ・イスラム世界からのインパクト

第08回 大学における学問と文法学（翻訳可能性の担保）

第09回 実用文法と思弁文法

テーマ4「自然（科）学としての言語学？」

第10回 13世紀の生物言語学？

第11回 音楽（学）との対比

第12回 ロジャーベーコンの選択肢

テーマ5「祭ノ後ニ」

第13回 ダンテの問い

第14回 その後の様態論

第15回 論理学の側から

【履修要件】

授業内で扱う対象テキストは基本的にラテン語で書かれたものであるが、可能な限り日本語訳等を付すため、ラテン語既習であることを必ずしも要しない。

【成績評価の方法・観点】

以下の二項目で評価する。

PandA等を活用したもの（20%）、最終レポート（80%）

【教科書】

使用しない

テキストの抜粋を中心とした資料を配付する。

【参考書等】

（参考書）

詳細については授業内で適宜紹介する。

もし事前に関心がある場合、日本語で読めるものとしてR. H. ロウビンズ『言語学史』（第三版からの邦訳だが現在入手できないため図書館等で参照されたい。英語原著は第四版が最終）、中世思想原典集成19『中世末期の言語・自然哲学』には後半で触れるテキストの邦訳がある。また講談社選書メチエ512の『西洋哲学史II』に「中世の言語哲学」という章が存在する。

英語での比較的完結かつ導入として初期中世の文法学の展開についての研究をバックグラウンドとする Vivien Law による The History of Linguistics in Europe: From Plato to 1600 もある（大学の時代については比較的少な目）。

西洋哲学史 (特殊講義)(3)へ続く

西洋哲学史 (特殊講義)(3)

[授業外学修（予習・復習）等]

PandAを通じて案内の予定。

（その他（オフィスアワー等））

集中講義のため、授業日の関係で成績報告が他の科目より遅くなります。そのため、修士2回生（卒業年次の学生）は卒業に必要な単位として登録しないよう注意してください。
また、集中講義での授業となるため、面談などについては、原則として授業期間中のみの対応となることをご了承ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学23

科目ナンバリング		G-LET03 65234 LJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史 (特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 BROWER, Jeffrey Evan		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期不定
曜時限	その他	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Aquinas's Metaphysics and Natural Phillosophy				
【授業の概要・目的】					
Thomas Aquinas (1225-1275) is one of the most original and influential thinkers of the Middle Ages. The aim of this special lecture is to provide a systematic introduction to his metaphysics and natural philosophy, including his views about change, hylomorphism, causation, universals, individuation, modes of being, place, and time.					
【到達目標】					
To become familiar with central features of Aquinas ' s metaphysics and natural philosophy, and to critically engage with the main arguments and positions that he develops in these areas.					
【授業計画と内容】					
1. Introduction to Aquinas and his Metaphysics and Natural Philosophy 2-4. Change, Hylomorphism, and Causation 5-7. Human Beings 8-10. Being and Essence, Universals, and Individuation 11-14. Local Motion, Modes of Being, Place, and Time 15. Feedback: Questions and Answers					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
Students are required to write an essay on a specific problem/text discussed in class (100%).					
【教科書】					
使用しない					
----- 西洋哲学史 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋哲学史 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<http://aequivocum.net/class.html>

[授業外学修(予習・復習)等]

Students are expected to read relevant materials assigned by the lecturer before each class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学24

科目ナンバリング	G-LET03 75242 SJ34				
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史 (演習) History of Western Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 周藤 多紀		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	木4,5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中世哲学の諸問題				
[授業の概要・目的]					
<p>中世哲学史を専攻している学生を中心とした参加者が自分の関心あるテーマについて発表を行う。発表及び発表内容についての議論を通じて、中世哲学史のさまざまな時代・領域の論点についての知識を深め、哲学・哲学史的分析力を高めることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋中世哲学の諸問題について広く学び、歴史的連関と哲学的重要性について説明できるようになる。 ・ 自身の哲学的関心を原典テキストに基づいて明快に論じることができるようになる。 ・ 他者の批判的吟味を理解し、それを自分の議論展開や論文作成に活かすことができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>隔週の開講とし、1回あたり参加者1名が発表を行い、その後担当教員や他の参加者との討論を行うこととする。発表の内容は参加者が自分で自由に選ぶことができるが、発表内容の梗概を事前に他の参加者に配布することが求められる。</p> <p>第1回 打ち合わせ、発表順の決定 第2-14回 各自の研究発表と質疑応答 第15回 まとめ、質問受付</p> <p>なお、本年は、研究特別期間中に海外研究機関での研究を予定しているため、開講日と授業形態（対面ないしはオンライン）が変則的になる。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点による。発表の内容、討論への参加などにより評価するが、最低1回の発表を行うことが前提となる。</p>					
----- 西洋哲学史 (演習)(2)へ続く -----					

西洋哲学史 (演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

東郷雄二 『新版 文科系必修研究生活術』 (ちくま学芸文庫、2009年)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業の特性上、発表担当者は授業外にその準備をすることが必要である。また、その他の出席者も担当者の予告した発表内容について、あらかじめ予習することが求められる。

(その他 (オフィスアワー等))

中世哲学史を専攻している学生は必修とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学25

科目ナンバリング		G-LET03 75243 SJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史 (演習) History of Western Philosophy (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山口 雅広	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水1	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	トマス・アクィナス『王制論 (De regno)』精読I				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習では、西欧中世を代表する「君主の鑑」の一つであるトマス・アクィナスの『王制論』(邦訳『君主の統治について』岩波文庫)を精読する。この精読を通じて、彼の政治思想における重要な主題について理解を深めることを目指す。具体的には、王の定義、王制の正当性、王制の危険性、そしてその防止策に関するトマスの議論を段階的に検討する。</p> <p>受講者には原則としてラテン語テキスト(レオ版)の使用を求めるが、希望があれば外国語訳(英訳・独訳・仏訳)を使用することも可能である。</p>					
[到達目標]					
<p>外国語(特にラテン語)で書かれた思想系のテキストを読むことができるようになる。</p> <p>トマス・アクィナスの政治思想を批判的に吟味できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>本演習では、基本的に以下の計画に従って『王制論』を読み進める。ただし進み具合に応じて、受講者に説明の上、計画に変更を加えることがある。</p> <p>(第1回)イントロダクション、『王制論』序言 (第2回-第4回)「王とは何であるのか?」(『王制論』第一巻第一章) (第5回)「王制の利点」(『王制論』第一巻第二章) (第6回-第8回)「僭主制はもろもろの政治体制のなかで最悪であること」(『王制論』第一巻第三章) (第9回-第10回)「王制の危険」(『王制論』第一巻第四章 - 第五章) (第11回-第13回)「僭主制の危険にどう備えるか」「僭主への抵抗」(第一巻第六章) (第14回-第15回)「善き王への報酬(部分)」(第一巻第七章)</p>					
[履修要件]					
ラテン語の初級文法を習得していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点によって評価する。					
----- 西洋哲学史 (演習)(2)へ続く -----					

西洋哲学史 (演習)(2)

[教科書]

原則として、ラテン語テキスト(レオ版)を使用する。希望者には、2回目の授業までに、このテキストと代表的な外国語訳(英訳・独訳・仏訳)それぞれを印刷したものを配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の授業で扱う『王制論』の分量は限られているが、その分、予習段階で緻密な読解を行うことが求められる。特に重要なことの一つは、『王制論』に反映されたアリストテレスやアヴィセンナの著作の章句、およびトマスの主著(『神学大全』など)や注解(『アリストテレス「政治学」注解』など)に見られる並行論述箇所を事前に参照し、『王制論』の議論と比較・検討することである。

(その他(オフィスアワー等))

質問や相談を教員にしやすくするために、教員のメールアドレスを、2回目の授業までに教室で伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学26

科目ナンバリング		G-LET03 75243 SJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史 (演習) History of Western Philosophy (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山口 雅広	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水1	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	トマス・アキナス 『王制論 (De regno)』 精読				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習では、西欧中世を代表する「君主の鑑」の一つであるトマス・アキナスの『王制論』(邦訳『君主の統治について』岩波文庫)を精読する。この精読を通じて、彼の政治思想における重要な主題について理解を深めることを目指す。具体的には、善き王への報酬、王の職務、そして王と教皇の関係を段階的に検討する。</p> <p>受講者には原則としてラテン語テキスト(レオ版)の使用を求めるが、希望があれば外国語訳(英訳・独訳・仏訳)を使用することも可能である。</p> <p>(注)本演習は前期開講の「トマス・アキナス『王制論(De regno)』精読I」と内容的に連続するが、前期のこの演習を受講していない者にも配慮して授業を運営する。</p>					
[到達目標]					
<p>外国語(特にラテン語)で書かれた思想系のテキストを読むことができるようになる。</p> <p>トマス・アキナスの政治思想を批判的に吟味できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>本演習では、基本的に以下の計画に従って『王制論』を読み進める。ただし進み具合に応じて、受講者に説明の上、計画に変更を加えることがある。</p> <p>(第1回-第4回)イントロダクション、「善き王への報酬(部分)」(第一巻第八章-第九章)</p> <p>(第5回-第7回)「僭主への懲罰」(第一巻第一〇章-第十一章)、「第一巻の要約」(第一巻第一二章)</p> <p>(第8回-第12回)「王の職務」(第二巻第一章-第四章)</p> <p>(第13回-第15回)「王の職務の詳細(部分)」(第二巻第五章-第七章)</p>					
[履修要件]					
ラテン語の初級文法を習得していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点によって評価する。					
[教科書]					
原則として、ラテン語テキスト(レオ版)を使用する。希望者には、2回目の授業までに、このテキストと代表的な外国語訳(英訳・独訳・仏訳)それぞれを印刷したものを配付する。					
----- 西洋哲学史 (演習)(2)へ続く -----					

西洋哲学史 (演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の授業で扱う『王制論』の分量は限られているが、その分、予習段階で緻密な読解を行うことが求められる。特に重要なことの一つは、『王制論』に反映されたアリストテレスやアウグスティヌスの著作の章句、およびトマスの主著(『神学大全』など)や注解(『アリストテレス「政治学注解』など)に見られる並行論述箇所を事前に参照し、『王制論』の議論と比較・検討することである。

(その他(オフィスアワー等))

質問や相談を教員にしやすくするために、教員のメールアドレスを、2回目の授業までに教室で伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学27

科目ナンバリング		G-LET04 65236 LJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史 (特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 大河内 泰樹		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近代哲学古典講読				
【授業の概要・目的】					
<p>この授業では、講義担当者の翻訳にもとづいて、ヘーゲルの『精神の現象学』（1807）について講義する。扱うのは「宗教章C」「啓示宗教」および「絶対知」である。「啓示宗教」において、『精神現象学』のそれまでのプロセスを「想起＝内化」という宗教章の課題は完成し、「絶対知へと接続することになる。それは、キリスト教を最高の宗教として位置づけると同時に、最後の宗教として宗教的表象を解体し、宗教という形式そのものを乗り越えるプロセスでもある。こうしたヘーゲルの宗教観、キリスト教観の問題点も含めて議論を進めていく。それはそれによって到達される「絶対知」そのものの検証ともつながるはずである。</p>					
【到達目標】					
<p>古典的テキストに取りくむことを通じて、テキスト研究としての哲学史研究の基本的な姿勢を身に付ける。 ヘーゲルの哲学的主張を理解した上で、それを関連する哲学史的・現代的問題の文脈において捉え返し、論じることができる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 ガイダンス 第2回 『精神現象学』および宗教章の構造と「啓示宗教」の課題 第3回 それまでのプロセスのヘーゲルによる振り返り 第4回 自己意識の宗教 第5回 主体としての実体 第6回 イエスと教団 第7回 三位一体 第8回 創造された世界 第9回 善と悪 第10回 表象の死 第11回 自己自身を知る精神 第12回 絶対知1 第13回 絶対知2 第14回 絶対知3 第15回 まとめ</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 西洋哲学史 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋哲学史 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点とレポートにより評価する。フィードバックはレポートの返却により行う。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

『精神現象学』の翻訳については大河内の訳を配布するが、以下の翻訳も手元に置いておくとよいだろう。

櫻山欽四郎訳『精神現象学上/下』平凡社ライブラリー、1997年

熊野純彦訳『精神現象学上/下』ちくま学芸文庫、2018年

以下の翻訳は詳細な解説も含んでおり参考になる。

金子武蔵訳『ヘーゲル全集5 精神の現象学 上/下』岩波書店、1979年

また、『精神現象学』の概要について知りたい人には以下をお勧めする。

加藤尚武編『ヘーゲル「精神現象学」入門』講談社学術文庫、2012年

[授業外学修(予習・復習)等]

各時間の前および後に適宜資料を読み、問題を見いだす。

(その他(オフィスアワー等))

授業で検討するテキストを配布するので、自分で事前に検討しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学28

科目ナンバリング		G-LET04 65236 LJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史 (特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 大河内 泰樹		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近代哲学古典講読				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、講義担当者の翻訳にもとづいて、ヘーゲルの『精神の現象学』（1807）について講義する。扱うのは「宗教章B」「芸術宗教」である。ヘーゲルは、宗教章において意識・自己意識・理性という『精神現象学』のそれまでのプロセスそのものを宗教という形態において辿り直しながら、それまで断裂していた意識の諸形態を「想起＝内化」を通じて、一つの歴史として描き直すとするプロセスである。その中でも「芸術宗教」は、古代ギリシアの宗教を主題とすることで、制作を通じての自己意識の形成を問題とする。それは宗教の一形態として芸術を扱いながらも、のちに美学講義で展開されることになるヘーゲルの芸術論・美学の出発点でもあることから、ヘーゲルの美学についても適宜論じてゆく。</p>					
[到達目標]					
<p>古典的テキストに取りくむことを通じて、テキスト研究としての哲学史研究の基本的な姿勢を身に付ける。 ヘーゲルの哲学的主張を理解した上で、それを関連する哲学史的・現代的問題の文脈において捉え返し、論じることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 ガイダンス 第2回 『精神現象学』および宗教章の構造と課題 第3回 「A. 自然宗教」の概要 第4回 「B. 芸術宗教」導入部 第5回 抽象的芸術作品 第6回 賛歌 第7回 祭祀 第8回 生きた芸術作品と秘儀 第9回 精神的芸術作品 第10回 叙事詩 第11回 悲劇1 第12回 悲劇2 第13回 喜劇 第14回 啓示宗教の意味 第15回 まとめ</p>					
----- 西洋哲学史 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋哲学史 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点とレポートにより評価する。フィードバックはレポートの返却により行う。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

『精神現象学』の翻訳については大河内の訳を配布するが、以下の翻訳も手元に置いておくとよいだろう。

樫山欽四郎訳『精神現象学上/下』平凡社ライブラリー、1997年

熊野純彦訳『精神現象学上/下』ちくま学芸文庫、2018年

以下の翻訳は詳細な解説も含んでおり参考になる。

金子武蔵訳『ヘーゲル全集5 精神の現象学 上/下』岩波書店、1979年

また、『精神現象学』の概要について知りたい人には以下をお勧めする。

加藤尚武編『ヘーゲル「精神現象学」入門』講談社学術文庫、2012年

【授業外学修(予習・復習)等】

各時間の前および後に適宜資料を読み、問題を見いだす。

(その他(オフィスアワー等))

授業で検討するテキストを配布するので、自分で事前に検討しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学29

科目ナンバリング	G-LET04 65236 LJ34				
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史 (特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 林 拓也		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ライブニッツ哲学 (1)				
[授業の概要・目的]					
この授業では、ライブニッツ (1646-1716) 哲学の諸問題について講義する。『形而上学叙説』 (1685/86) を中心に、広範なテキスト抜粋を読みながらライブニッツ哲学についての理解を深めたい。彼の哲学は過去や同時代の様々な思想潮流を批判的に検討し、それらを調停しようとする試みの中で形成された。それゆえ本講義では、ライブニッツの思想史的背景の検討を通して、諸問題の歴史についても考察を深めることを目指す。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ライブニッツが直面した問題および彼の哲学的主張を正確に理解する。 ・諸問題の連関を把握する。 ・問題の歴史を探究することの重要性を理解する。 					
[授業計画と内容]					
概ね、以下のような展開を考えているが、進捗や出席者の関心によって順序や同一テーマの回数を変更する可能性もある。					
第1回 ガイダンス 第2回 イントロダクション 第3回 生涯、主要著作、当時の思想状況 第4回～第7回 神 (存在と作用) 第8回～第9回 実体 第10回～第13回 必然真理と偶然真理、自由 第14回まとめ 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
諸外国語 (特にフランス語) の文献や資料等を授業で取り上げるが、それらの読解能力は履修要件ではない。原則教員が予めあるいは授業中に和訳するので、外国語に触れる機会と考えてもらいたい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点とレポートにより評価する。					
[教科書]					
使用しない					
----- 西洋哲学史 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋哲学史 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

テキストの抜粋を授業前後に丁寧に読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学30

科目ナンバリング		G-LET04 65236 LJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史〔近世〕(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 林 拓也		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ライプニッツ哲学(2)				
【授業の概要・目的】					
この授業では、ライプニッツ(1646-1716)哲学の諸問題について講義する。『形而上学叙説』(1685/86)を中心に、広範なテキスト抜粋を読みながらライプニッツ哲学についての理解を深めたい。彼の哲学は過去や同時代の様々な思想潮流を批判的に検討し、それらを調停しようとする試みの中で形成された。それゆえ本講義では、ライプニッツの思想史的背景の検討を通して、諸問題の歴史についても考察を深めることを目指す。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ライプニッツが直面した問題および彼の哲学的主張を正確に理解する。 ・諸問題の連関を把握する。 ・問題の歴史を探究することの重要性を理解する。 					
【授業計画と内容】					
概ね、以下のような展開を考えているが、進捗や出席者の関心によって順序や同一テーマの回数を変更する可能性もある。					
第1回 ガイダンス、前期の振り返り 第2回～第3回 形而上学の概念 第4回～第5回 自然学 第6回～第7回 表出、調和 第8回～第9回 精神と認識 第10回～第12回 道徳、理性と信仰 第13回 ライプニッツの研究史 第14回 まとめ 第15回 フィードバック					
【履修要件】					
諸外国語(特にフランス語)の文献や資料等を授業で取り上げるが、それらの読解能力は履修要件ではない。原則教員が予めあるいは授業中に和訳するので、外国語に触れる機会と考えてもらいたい。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点とレポートにより評価する。					
【教科書】					
使用しない					
----- 西洋哲学史〔近世〕(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋哲学史〔近世〕(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

テキストの抜粋を授業前後に丁寧に読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学31

科目ナンバリング		G-LET04 65236 LJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史 (特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	東北大学文学部 教授 城戸 淳		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ライプニッツとカント				
[授業の概要・目的]					
<p>ドイツのバロック期を代表する哲学者であるライプニッツは、近代では最大規模といえる形而上学を構想したが、その思想的遺産はヴォルフやバウムガルテンによって通俗化されて、18世紀の啓蒙期のドイツ講壇哲学へと受け継がれ普及した。カントは、このライプニッツ=ヴォルフ哲学の伝統に育まれて、しかしついにはそれを超克する哲学的努力のなかで、みずからの批判哲学を構築したのである。</p> <p>この講義では、ライプニッツ哲学の骨格を把握するとともに、その継承と超克という比較哲学史の観点からカント哲学を考察する。なお以下の授業計画は論点を列挙したもので、実際の授業では進捗に応じて論点を絞って講ずる予定である。</p>					
[到達目標]					
ライプニッツとカントの学説を学ぶとともに、両者の哲学的な対立構造を理解する。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ライプニッツからカントへ ドイツ哲学史瞥見 2 感性と知性との区別 判明性から起源へ 3 空間と時間 関係か形式か 4 不可識別者同一の原理と不一致対称物 5 モナドと内的なもの 6 述語の主語内在説と総合的判断 7 単純者と無限分割の問題 8 充足理由律とアプリアリな総合判断 9 意識知覚 (aperception) と統覚 (Apperzeption) 10 予定調和と認識の客観的実在性 11 人間の自由をめぐる 可能世界論と絶対的自発性 12 神の存在証明 必然性の問題 13 完全性と自律 ドイツ啓蒙の倫理学 14 ライプニッツ派のカント批判 15 カント=エーバーハルト論争 					
[履修要件]					
特になし					
----- 西洋哲学史 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋哲学史 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

数回のコメントと期末レポートによる。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

引用資料を電子的に掲載する。その他の参考文献等は授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で紹介した哲学書をみずから読むことを試みてください。
事前に自分で読むなら、ライプニッツは『モナドロジー・形而上学叙説』(中公クラシックス、2005年)あるいは『モナドロジー 他2編』(谷川・岡部訳、岩波文庫、2018年)から、カントは『純粋理性批判』(訳は各種あるので入手可能なものでよい)の「反省概念の二義性」から始めるとよいでしょう。

(その他(オフィスアワー等))

メールアドレス atsushi.kido.e3@tohoku.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学32

科目ナンバリング		G-LET04 75245 SJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史〔近世〕(演習) History of Western Philosophy		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 林 拓也	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋哲学史古典精読				
[授業の概要・目的]					
2024年度後期に引き続き、ライプニッツの短い形而上学論考である、『事物の根本的起源について』(1697年)を取り上げ、近年の研究成果も踏まえて、ライプニッツ形而上学の核心に迫りたい。この授業では、ラテン語の当該テキストを原典で丁寧に読み進めることを通して、ライプニッツが何を問題としていたのかを明らかにする。今年度前期は著作の前半部を再確認したうえで、道徳が焦点となる後半部を読解する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・哲学史研究に必要なテキスト精読の手法を身につける。 ・ラテン語で書かれた近世哲学のテキストを読むことができるようになる。 ・哲学史の課題としてライプニッツの理解を深めるとともに、世界や神についての形而上学的諸問題を考察する力を培う。 					
[授業計画と内容]					
第1回:イントロダクション:前年度の成果の再確認、文献案内、テキストのコピー配布、授業の進め方の確認 第2-14回:テキストの読解 第15回:フィードバック:まとめ、質問受付					
[履修要件]					
ラテン語の初級文法を一通り学習済みであるか、あるいは少なくとも学習中であることが望ましいが、必須とはしない。ただし、近代語訳も参照しつつ諸論点と議論の構造を整理することが受講者には求められる。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(担当箇所の発表、および質疑や議論への参加)による。					
[教科書]					
G. W. Leibniz 『De rerum originatione radicali (Die philosophischen Schriften, hg. v. K. I. Gerhardt Band 7)』 初回にテキストのコピーを配布する予定。					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- 西洋哲学史〔近世〕(演習)(2)へ続く -----					

西洋哲学史〔近世〕(演習)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

該当箇所の訳読ができるように予習をすること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学33

科目ナンバリング		G-LET04 75245 SJ34			
授業科目名 <英訳>	西洋哲学史〔近世〕(演習) History of Western Philosophy (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 林 拓也	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋哲学史古典精読				
[授業の概要・目的]					
2025年度後期は、ライプニッツの『24の命題』を精読する。この著作は、前期に扱った『事物の根本的起源について』と類似するものではあるが、両著作の間には構成や概念に関して重要な相違が認められる。本演習では適宜草稿や関連するテキストを参照しつつ当該著作を読解することを通して、ライプニッツ形而上学についての考察を深めたい。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・哲学史研究に必要なテキスト精読の手法を身につける。 ・ラテン語で書かれた近世哲学のテキストを読むことができるようになる。 ・類似する諸テキストを比較し、テキスト間の相違点を見出し、各テキストに固有な点に着眼することができるようになる。 ・哲学史の課題としてライプニッツの理解を深めるとともに、世界や神についての形而上学的諸問題を考察する力を培う。 					
[授業計画と内容]					
第1回:イントロダクション:文献案内、テキストのコピー配布、授業の進め方の確認 第2回:『事物の根本的起源について』の再確認 第3-14回:テキストの読解 第15回:フィードバック:まとめ、質問受付					
[履修要件]					
ラテン語の初級文法を一通り学習済みであるか、あるいは少なくとも学習中であることが望ましいが、必須とはしない。ただし、近代語訳も参照しつつ諸論点と議論の構造を整理することが受講者には求められる。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(担当箇所の発表、および質疑や議論への参加)による。					
----- 西洋哲学史〔近世〕(演習)(2)へ続く -----					

西洋哲学史〔近世〕(演習)(2)

[教科書]

G. W. Leibniz, Die philosophischen Schriften, hg. v. K. I. Gerhardt Band 7, S. 289-291 (初回にテキストのコピーを配布する予定。)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

該当箇所の訳読ができるように予習をすること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学34

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34			
授業科目名 <英訳>	日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 上原 麻有子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「下村寅太郎の哲学 精神史から掘り起こす科学と芸術の交差」				
【授業の概要・目的】					
<p>西田幾多郎や田辺元の弟子として、かつて京都大学文学部で哲学を学んだ下村寅太郎の哲学は、精神史からさまざまな学問を掘り起こし明確化するという方法をとるものであった。数学哲学、科学哲学から出発した下村は、その後、日本におけるライプニッツ研究の第一人者となり、さらにイタリア旅行を機にルネサンス研究、ダビンチ研究、モナリザ研究へと哲学研究の幅を深めつつ広げ、晩年にはブルクハルトの研究をおさめた。また西田幾多郎の哲学の編集、全集出版にも多大な尽力をそそいだ。講義では、このような下村のダイナミックに展開した哲学の全体をつかみ、その上で、モナリザ研究を取り上げ科学と芸術が交差する彼の哲学的研究手法を明らかにする。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・未だ研究の進んでいない下村の哲学の思想の主要な部分を学ぶ。 ・日本における科学哲学、ライプニッツ哲学のパイオニアである下村の哲学を、日本の哲学史の中に位置づけ、検討する。 ・モナリザの表情の哲学的分析を、下村に従って学ぶ。 					
【授業計画と内容】					
<p>以下のような課題を通して考察を深めてゆく。</p> <p>1 ガイダンス 趣旨説明と授業計画 2-4 下村寅太郎の哲学の萌芽と展開－概要を知る 5-6 下村の西田研究 7-8 下村と京都学派 9-14 下村のダビンチ研究 15 フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点50%と期末のレポート試験50%による。					
【教科書】					
<p>使用しない 毎回の授業で、講義の資料(要旨・参考文献)を配付する。</p>					
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本哲学史 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義を参考とし、自らの研究課題について思索を深める。

(その他(オフィスアワー等))

要予約

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学35

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34			
授業科目名 <英訳>	日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 上原 麻有子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「大正期の日本哲学の展開 社会との関係」				
[授業の概要・目的]					
<p>大正時代(1912-1926年)は、日本哲学の一つの重要な展開があった時期と見ることができる。西洋哲学の受容の観点からは、カント哲学、新カント学派の哲学の摂取が大変盛んに行われた。研究の関心は自我、自己という内面の問題に向けられた。一方で大正デモクラシーと呼ばれる民衆による社会運動の広がりも、この時期の特徴である。一般には、哲学者は社会へ関心を向けることなく内省に没頭したと言われている。しかし、社会運動の担い手、あるいは社会問題を指摘するジャーナリズムは、哲学を無視していたのではなく、むしろそこから概念・用語を借用していたのではないか。さらに講義では、尊厳、および関連する人権、民権、自由という語に焦点を当て、哲学と社会の関連、交渉を探ることとする。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・大正期という限定された時期の日本哲学の展開がどのようなものであったかを学ぶ。 ・この時期の哲学と社会の関係という、新しい視点の問題に取り組み検討する。 ・尊厳、人権、民権、自由という用語・概念の観点から日本哲学の当時の状況を探る。 					
[授業計画と内容]					
<p>以下のような課題を通して考察を深めてゆく。</p> <p>1 ガイダンス 趣旨説明と授業計画 2-5 大正期の哲学と社会運動の概要 6-7 カント哲学の受容 8-9 新カント学派の受容 10-11 自我・自己の内省的研究 12-14 用語・概念 大正デモクラシーと尊厳、人権、民権、自由 15 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点50%と後期末のレポート試験50%による。					
[教科書]					
<p>使用しない 毎回の授業で、講義の資料(要旨・参考文献)を配付する。</p>					
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本哲学史 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義を参考とし、自らの研究課題について思索を深める。

(その他(オフィスアワー等))

要予約

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学36

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34			
授業科目名 <英訳>	日本哲学史 (特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 DAVIS, Bret Wingfield		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本哲学とは何か				
[授業の概要・目的]					
<p>前近代及び近代の日本思想・哲学のいくつかの代表的テキストを取り上げ、日本思想・哲学の特徴及びその多元性を吟味する、また「日本哲学」の定義と範囲そのものを問い直すことが本講義の目的である。「西洋独占的哲学観」とでもいうべき前提が、現在どのように問われているのかをみたうえで、前近代の「日本思想」と近代の「日本哲学」の対立はどのように問いなおされるべきかを検討する。また、「日本哲学」が民族中心的な「日本人論」ではなく、「世界哲学への貢献」としてどのように理解されうるかについても検討する予定である。</p>					
[到達目標]					
<p>本講義の第一の目標は、日本思想・哲学史を概観し、その主要ないくつかの理論と議論を理解することはである。第二の目標は、「日本哲学とは何か」という問いの複雑さと、その今日的な重要性を吟味することである。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>本集中講義は、2025年9月前半に開講する予定である。以下のような課題を取り上げて進んでゆく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の趣旨説明 2 日本思想・哲学史の概観 3-4 日本思想・哲学の総合性質 聖徳太子と西田幾多郎 5-6 禅仏教の思想・哲学 道元と西谷啓治 7 浄土系仏教とその哲学的影響 親鸞と田辺元 8 儒教とその哲学的影響 伊藤仁斎と和辻哲郎 9 国学と国家主義 本居宣長と井上哲次郎 10 戦後日本哲学の多様性 丸山眞男、大森荘蔵、池田晶子 11 西洋独占的哲学観を脱する動向 12 日本哲学の定義を問い直す 13 日本哲学の内容を問い直す 14 世界哲学への貢献としての日本哲学 15 まとめ及びフィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
----- 日本哲学史 (特殊講義)(2)へ続く -----					

日本哲学史 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点50%と期末のレポート試験50%による

[教科書]

授業中に配布されるプリントもしくは電子システムによって提供される電子版資料、またブレット・デービス著『日本哲学 世界哲学への貢献として問い直す』（筑摩書店、2025年）の指定される章を読んでおくこと。予習すべきテキストは予め授業中に説明する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

指定されるテキストを次の授業の前に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学37

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34			
授業科目名 <英訳>	日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	東北大学文学部 教授 城戸 淳		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ライプニッツとカント				
[授業の概要・目的]					
<p>ドイツのバロック期を代表する哲学者であるライプニッツは、近代では最大規模といえる形而上学を構想したが、その思想的遺産はヴォルフやバウムガルテンによって通俗化されて、18世紀の啓蒙期のドイツ講壇哲学へと受け継がれ普及した。カントは、このライプニッツ=ヴォルフ哲学の伝統に育まれて、しかしついにはそれを超克する哲学的努力のなかで、みずからの批判哲学を構築したのである。</p> <p>この講義では、ライプニッツ哲学の骨格を把握するとともに、その継承と超克という比較哲学史の観点からカント哲学を考察する。なお以下の授業計画は論点を列挙したもので、実際の授業では進捗に応じて論点を絞って講ずる予定である。</p>					
[到達目標]					
ライプニッツとカントの学説を学ぶとともに、両者の哲学的な対立構造を理解する。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ライプニッツからカントへ ドイツ哲学史瞥見 2 感性と知性との区別 判明性から起源へ 3 空間と時間 関係か形式か 4 不可識別者同一の原理と不一致対称物 5 モナドと内的なもの 6 述語の主語内在説と総合的判断 7 単純者と無限分割の問題 8 充足理由律とアプリアリな総合判断 9 意識知覚(aperception)と統覚(Apperzeption) 10 予定調和と認識の客観的実在性 11 人間の自由をめぐる 可能世界論と絶対的自発性 12 神の存在証明 必然性の問題 13 完全性と自律 ドイツ啓蒙の倫理学 14 ライプニッツ派のカント批判 15 カント=エーバーハルト論争 					
[履修要件]					
特になし					
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本哲学史 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

数回のコメントと期末レポートによる。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

引用資料を電子的に掲載する。その他の参考文献等は授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で紹介した哲学書をみずから読むことを試みてください。
事前に自分で読むなら、ライプニッツは『モナドロジー・形而上学叙説』(中公クラシックス、2005年)あるいは『モナドロジー 他2編』(谷川・岡部訳、岩波文庫、2018年)から、カントは『純粋理性批判』(訳は各種あるので入手可能なものでよい)の「反省概念の二義性」から始めるとよいでしょう。

(その他(オフィスアワー等))

メールアドレス atsushi.kido.e3@tohoku.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET05 75341 SJ34			
授業科目名 <英訳>	日本哲学史 (演習) Japanese Philosophy (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 満原 健	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西田幾多郎『自覚に於ける直観と反省』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>新カント派やフッサールら数多くの人物の哲学が頻繁に援用される『自覚に於ける直観と反省』は、彼らに対する西田幾多郎の立ち位置を知るには格好の論文と言える。しかし、問題の解決への見通しが立たないままに、さまよいながら執筆が続けられたこの著作は、難解で知られる西田の著作群のなかでも特に理解が難しい。この演習では、混沌とした西田の記述を整理し、参照される哲学者の主張を押さえながら読解を進めることで、当時の現代哲学に対して西田が樹立しようとした哲学の独自性と意義を見定めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 西田幾多郎のテキストの読解作業を通して、哲学書を理解するための考え方や方法、技術を身につける。 2. 演習での報告・発表を通して、自分の考えを他の人に明確に伝えるための方法、技術を身につける。 3. 参加者と講師による議論を通して、生産的で建設的な議論をするための方法を身につける。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 導入 『自覚に於ける直観と反省』を読み進める上で必要な予備知識の解説を行う。 また、出席者の担当部分を決める。</p> <p>第2回 第15回 『自覚に於ける直観と反省』の精読をする。参照されている哲学者の論文を読む場合もある。毎回、出席者に担当部分の内容について発表・報告をしてもらい、それをもとに全員で議論をする。 以下のように読み進める予定だが、参加者の関心や理解度に合わせて進度を調節する。</p> <p>第2回 1-3節 自覚概念と問題提起 第3回 4-6節 自覚概念と問題提起 第4回 7-10節 自覚概念にもとづく問題解決の構想 第5回 11-13節 思惟の体系と経験の体系の性質 第6回 14-16節 自覚的体系としての経験 (コーヘンを手掛かりに) 第7回 17-20節 意識とはどういうものか・連続としての実在 第8回 21-23節 連続的直線についての意識 第9回 24-26節 意識作用 (フッサールを手掛かりに)・コーヘンの極限概念</p>					
日本哲学史 (演習)(2)へ続く					

日本哲学史 (演習)(2)

第10回	27-29節	コーヘンの極限概念による問題解決の構想
第11回	30-32節	数と空間の関係
第12回	33-35節	直線についての意識
第13回	36-38節	精神と物体
第14回	39-40節	意志による体系の統一
第15回	41-42節	意志による体系の統一

* フィードバックの方法は授業中に指示する。

【履修要件】

特定の科目の事前履修や予備知識は求めない。ただし、演習なので、継続的に出席すること、遠慮なく質問すること、議論に積極的に関わることを求める。

【成績評価の方法・観点】

平常点(担当箇所の訳読・議論への参加)に基づき評価する。

【教科書】

西田幾多郎 『西田幾多郎全集第二巻 自覚に於ける直観と反省』（岩波書店、2004年）ISBN: 9784000925229（使用範囲をコピーして配布する。）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前にテキストを読みこみ、質問したい点、議論したい点を考えてきてほしい。
また、複雑な内容の著作なので、授業後に自分で既読部分の整理をしておくことを勧める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学39

科目ナンバリング	G-LET06 65431 LJ34				
授業科目名 <英訳>	倫理学 (特殊講義) Ethics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 児玉 聡		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	功利主義の擁護と批判				
【授業の概要・目的】					
本講義の目的は、伝記の哲学的な重要性に着目しつつ、J.J.C.スマートとB.ウィリアムズによる Utilitarianism: For and Against (1973)を中心に功利主義の検討を行う。本講義を通じて、現代倫理学に対する一つの視座が得られるだろう。					
【到達目標】					
哲学理解における伝記・自伝の重要性を理解し、功利主義の内容と主な批判について概要を説明できるようになること。					
【授業計画と内容】					
第1回 イントロダクション 第2回 J.J.C.スマートの生涯 第3回-第7回 An Outline of a System of Utilitarian Ethics 前半の検討 第8回 中間のまとめ 第9回-第14回 An Outline of a System of Utilitarian Ethics 後半の検討 第15回 まとめ					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
授業中の報告または課題回答(7割)と期末レポート(3割)。					
【教科書】					
J.J.C. Smart and Bernard Williams 『Utilitarianism: For and Against』 (Cambridge University Press, 1973) ISBN:052109822X (Kindle等でも入手可能。)					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
前の週に指定した文献を読んでくること。					
(その他 (オフィスアワー等))					
特になし。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

思想文化学40

科目ナンバリング	G-LET06 65431 LJ34				
授業科目名 <英訳>	倫理学 (特殊講義) Ethics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 児玉 聡		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	功利主義の擁護と批判				
[授業の概要・目的]					
本講義の目的は、伝記の哲学的な重要性に着目しつつ、J.J.C.スマートとB.ウィリアムズによる Utilitarianism: For and Against (1973)を中心に功利主義の検討を行う。本講義を通じて、現代倫理学に対する一つの視座が得られるだろう。					
[到達目標]					
哲学理解における伝記・自伝の重要性を理解し、功利主義の内容と主な批判について概要を説明できるようになること。					
[授業計画と内容]					
第1回 イントロダクション 第2回 Bernard Williamsの生涯 第3回-第7回 A Critique of Utilitarian Ethics 前半の検討 第8回 中間のまとめ 第9回-第14回 A Critique of Utilitarian Ethics 後半の検討 第15回 まとめ					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業中の報告または課題回答(7割)と期末レポート(3割)。					
[教科書]					
J.J.C. Smart and Bernard Williams 『Utilitarianism: For and Against』 (Cambridge University Press, 1973) ISBN:052109822X (Kindle等でも入手可能。)					
[参考書等]					
(参考書) 児玉聡 『オックスフォード哲学者奇行』 (明石書店, 2022) ISBN:4750354813 (ウィリアムズに関するところを中心に参考にしてもらいたい。)					
[授業外学修 (予習・復習) 等]					
前の週に指定した文献を読んでくること。					
(その他 (オフィスアワー等))					
特になし。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

思想文化学41

科目ナンバリング	G-LET06 65431 LJ34				
授業科目名 <英訳>	倫理学 (特殊講義) Ethics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 講師	Campbell, Michael	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Transformative Experience				
[授業の概要・目的]					
<p>Significant life events often have a transformative character, being such that a person emerges from them changed in far-reaching ways. Religious conversion, becoming a parent, losing a loved one, suffering violence, being culturally displaced: these and similar experiences may deeply alter the fabric of an individual's way of being in the world. Such events pose a challenge to individualist models of deliberation and self-understanding. After all, how can we have confidence in our decision making capabilities if we cannot be certain that our values will persist into the future? At the same time, the ease with which we identify transformative experiences shows the power of culturally ingrained narratives of transformation, as well as their importance for our sense of the potentialities inherent in human life. We go through life expecting to be changed - sometimes avoiding it, sometimes actively seeking it out. What are the cultural and institutional contexts which make this possible, and what happens when social conditions threaten the cogency of these narratives?</p> <p>In this course we will approach these issues through a range of texts blending philosophy and anthropology. Classes will include both lectures and small group discussion. We will look at a range of different existentially salient moments which people may go through, and consider the ethical challenges that they pose, utilizing a variety of theoretical lenses to show the complexities of the issues. Students will develop the ability to think critically about difficult topics, to view issues from multiple perspectives, and to approach ethical problems with an awareness of the range and complexity of human experience.</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> - To introduce students to key problems in contemporary ethics and philosophy, especially concerning issues at the interrelation of everyday ethics and rational decision theory. - To develop students' abilities to read philosophical texts and critique philosophical arguments. - To improve students' ability to express themselves, both in writing and in conversation. 					
[授業計画と内容]					
<p>Weeks 1: Orientation Weeks 2-3: Choosing to Become Someone New? Weeks 4-5: Owning and Disowning Responsibility Weeks 6-7: Making an Impossible Choice Weeks 8-9: Virtue in an Unjust World Weeks 10-11: Trauma and Recovery Weeks 12-13: Ethical Perfectionism Week 14: Conclusion Week 15: Feedback Class</p>					
----- 倫理学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

倫理学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Students will be evaluated by a final paper of up to 1500 words, written in English.

【教科書】

Students will be distributed with relevant reading ahead of time via PandA.

【参考書等】

(参考書)

Campbell, Michael 『The Philosophy of Transformative Experience』 (Routledge) ISBN:9781032723105

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Students will be provided with texts in English to read in preparation for the class. Periodically there will be optional short quizzes or writing exercises to test students comprehension of the material.

(その他 (オフィスアワー等))

Communication will be via email and PandA

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学42

科目ナンバリング	G-LET06 75440 SJ34				
授業科目名 <英訳>	倫理学 (演習) Ethics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 児玉 聡		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	火4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	倫理学の諸問題				
[授業の概要・目的]					
倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のためのトレーニングを行う。					
[到達目標]					
倫理学に関する論文執筆とプレゼンテーションの能力を身につける。					
[授業計画と内容]					
出席者が自分の研究内容について報告し、討論を行う。報告者は、発表の一週間前にレジюмеを提出し、当日は発表スライドを用いて報告すること。他専修の参加も歓迎するが、倫理学専修の大学院生は必修。なお、報告者は必ず報告の一週間前に完全原稿を配布すること。					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
報告と討論への参加によって評価する。					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
[授業外学修 (予習・復習) 等]					
事前配布レジюмеを熟読のこと。					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

思想文化学43

科目ナンバリング	G-LET06 75440 SJ34				
授業科目名 <英訳>	倫理学 (演習) Ethics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 児玉 聡		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	金4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	応用倫理学演習				
【授業の概要・目的】					
応用倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のためのトレーニングを行う。					
【到達目標】					
応用倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のための能力を養う。					
【授業計画と内容】					
生命倫理・環境倫理・情報倫理・ビジネス倫理・工学倫理など、広く応用倫理学に関する諸問題を検討する。若干の予備的講義の後、毎週出席者による発表と討論を行う。報告者は、発表の一週間前にレジュメを提出し、当日は発表スライドを用いて報告すること。他学部、倫理学専修以外の出席者も歓迎する。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
報告の評価と出席などの平常点による。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書)					
【授業外学修(予習・復習)等】					
事前配布レジュメを熟読のこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

思想文化学44

科目ナンバリング		G-LET06 75443 SJ34			
授業科目名 <英訳>	倫理学 (演習) Ethics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学文学部 准教授 永守 伸年	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	カント『純粋理性批判』の研究				
[授業の概要・目的]					
カントの『純粋理性批判』("Kritik der reinen Vernunft")のドイツ語テキストを精読する。昨年度までは『判断力批判』を講読してきたが、本年度は『純粋理性批判』第一版の超越論的演繹論を読み進めていく。カントの倫理学や美学を含め、批判哲学全体の構想を射程におさめつつ、演繹論の論証構造を明らかにすることが本授業の目的である。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀ヨーロッパ哲学の状況を踏まえつつ、『純粋理性批判』の方法と構造を理解する。 ・『純粋理性批判』の記述における論証を抽出し、その内容を批判的に考察する。 					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション：カントの批判哲学の成り立ち 第2回 イン트로ダクション：『純粋理性批判』の位置 第3回 超越論的演繹論の精読 第4回 超越論的演繹論の精読 第5回 超越論的演繹論の精読 第6回 超越論的演繹論の精読 第7回 超越論的演繹論の精読 第8回 超越論的演繹論の精読 第9回 超越論的演繹論の精読 第10回 超越論的演繹論の精読 第11回 超越論的演繹論の精読 第12回 超越論的演繹論の精読 第13回 超越論的演繹論の精読 第14回 超越論的演繹論の精読 第15回 フィードバック：演繹論の論証構造の概観					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(100%)					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- 倫理学 (演習)(2)へ続く -----					

倫理学 (演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

イマヌエル・カント 『純粹理性批判 上』 (岩波書店, 1961) ISBN:4003362535

[授業外学修 (予習・復習) 等]

精読はグーグルドキュメントの共有ファイルを用いて進められる。参加者はドキュメントに積極的にコメントし、授業時間の内外を問わずテキストを検討してほしい。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学45

科目ナンバリング		G-LET06 75443 SJ34			
授業科目名 <英訳>	倫理学 (演習) Ethics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学文学部 准教授 永守 伸年	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	カント『純粋理性批判』の研究				
[授業の概要・目的]					
カントの『純粋理性批判』("Kritik der reinen Vernunft")のドイツ語テキストを精読する。昨年度までは『判断力批判』を講読してきたが、本年度は『純粋理性批判』第一版の超越論的演繹論を読み進めていく。カントの倫理学や美学を含め、批判哲学全体の構想を射程におさめつつ、演繹論の論証構造を明らかにすることが本授業の目的である。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 18世紀ヨーロッパ哲学の状況を踏まえつつ、『純粋理性批判』の方法と構造を理解する。 ・ 『純粋理性批判』の記述における論証を抽出し、その内容を批判的に考察する。 					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション：カントの批判哲学の成り立ち 第2回 イン트로ダクション：『純粋理性批判』の位置 第3回 超越論的演繹論の精読 第4回 超越論的演繹論の精読 第5回 超越論的演繹論の精読 第6回 超越論的演繹論の精読 第7回 超越論的演繹論の精読 第8回 超越論的演繹論の精読 第9回 超越論的演繹論の精読 第10回 超越論的演繹論の精読 第11回 超越論的演繹論の精読 第12回 超越論的演繹論の精読 第13回 超越論的演繹論の精読 第14回 超越論的演繹論の精読 第15回 フィードバック：演繹論の論証構造の概観					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(100%)					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- 倫理学 (演習)(2)へ続く -----					

倫理学 (演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

イマヌエル・カント 『純粹理性批判 上』 (岩波書店, 1961) ISBN:4003362535

[授業外学修 (予習・復習) 等]

精読はグーグルドキュメントの共有ファイルを用いて進められる。参加者はドキュメントに積極的にコメントし、授業時間の内外を問わずテキストを検討してほしい。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学46

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学 (特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 DAVIS, Bret Wingfield		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本哲学とは何か				
[授業の概要・目的]					
<p>前近代及び近代の日本思想・哲学のいくつかの代表的テキストを取り上げ、日本思想・哲学の特徴及びその多元性を吟味する、また「日本哲学」の定義と範囲そのものを問い直すことが本講義の目的である。「西洋独占的哲学観」とでもいうべき前提が、現在どのように問われているのかをみたうえで、前近代の「日本思想」と近代の「日本哲学」の対立はどのように問いなおされるべきかを検討する。また、「日本哲学」が民族中心的な「日本人論」ではなく、「世界哲学への貢献」としてどのように理解されうるかについても検討する予定である。</p>					
[到達目標]					
<p>本講義の第一の目標は、日本思想・哲学史を概観し、その主要ないくつかの理論と議論を理解することはである。第二の目標は、「日本哲学とは何か」という問いの複雑さと、その今日的な重要性を吟味することである。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>本集中講義は、2025年9月前半に開講する予定である。以下のような課題を取り上げて進んでゆく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の趣旨説明 2 日本思想・哲学史の概観 3-4 日本思想・哲学の総合性質 聖徳太子と西田幾多郎 5-6 禅仏教の思想・哲学 道元と西谷啓治 7 浄土系仏教とその哲学的影響 親鸞と田辺元 8 儒教とその哲学的影響 伊藤仁斎と和辻哲郎 9 国学と国家主義 本居宣長と井上哲次郎 10 戦後日本哲学の多様性 丸山眞男、大森荘蔵、池田晶子 11 西洋独占的哲学観を脱する動向 12 日本哲学の定義を問い直す 13 日本哲学の内容を問い直す 14 世界哲学への貢献としての日本哲学 15 まとめ及びフィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
----- 宗教学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

宗教学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点50%と期末のレポート試験50%による。

[教科書]

授業中に配布されるプリントもしくは電子システムによって提供される電子版資料、またブレット・デービス著『日本哲学 世界哲学への貢献として問い直す』（筑摩書店、2025年）の指定される章を読んでおくこと。予習すべきテキストは予め授業中に説明する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

指定されるテキストを次の授業の前に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学47

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学 (特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	東北大学文学部 教授 城戸 淳		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ライプニッツとカント				
[授業の概要・目的]					
<p>ドイツのバロック期を代表する哲学者であるライプニッツは、近代では最大規模といえる形而上学を構想したが、その思想的遺産はヴォルフやバウムガルテンによって通俗化されて、18世紀の啓蒙期のドイツ講壇哲学へと受け継がれ普及した。カントは、このライプニッツ=ヴォルフ哲学の伝統に育まれて、しかしついにはそれを超克する哲学的努力のなかで、みずからの批判哲学を構築したのである。</p> <p>この講義では、ライプニッツ哲学の骨格を把握するとともに、その継承と超克という比較哲学史の観点からカント哲学を考察する。なお以下の授業計画は論点を列挙したもので、実際の授業では進捗に応じて論点を絞って講ずる予定である。</p>					
[到達目標]					
ライプニッツとカントの学説を学ぶとともに、両者の哲学的な対立構造を理解する。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ライプニッツからカントへ ドイツ哲学史瞥見 2 感性と知性との区別 判明性から起源へ 3 空間と時間 関係か形式か 4 不可識別者同一の原理と不一致対称物 5 モナドと内的なもの 6 述語の主語内在説と総合的判断 7 単純者と無限分割の問題 8 充足理由律とアプリアリな総合判断 9 意識知覚 (aperception) と統覚 (Apperzeption) 10 予定調和と認識の客観的実在性 11 人間の自由をめぐる 可能世界論と絶対的自発性 12 神の存在証明 必然性の問題 13 完全性と自律 ドイツ啓蒙の倫理学 14 ライプニッツ派のカント批判 15 カント=エーバーハルト論争 					
[履修要件]					
特になし					
----- 宗教学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

宗教学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

数回のコメントと期末レポートによる。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

引用資料を電子的に掲載する。その他の参考文献等は授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で紹介した哲学書をみずから読むことを試みてください。
事前に自分で読むなら、ライプニッツは『モナドロジー・形而上学叙説』(中公クラシックス、2005年)あるいは『モナドロジー 他2編』(谷川・岡部訳、岩波文庫、2018年)から、カントは『純粋理性批判』(訳は各種あるので入手可能なものでよい)の「反省概念の二義性」から始めるとよいでしょう。

(その他(オフィスアワー等))

メールアドレス atsushi.kido.e3@tohoku.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学48

科目ナンバリング	G-LET07 65531 LJ34				
授業科目名 <英訳>	宗教学 (特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 津田 謙治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「キリスト教異端思想史A」				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義の目的は、およそ3世紀までの初期キリスト教における異端思想の発展の歴史を、個々の思想家や主題に沿って提示することにある。異端とは、教会の中で正統教理とは別の議論を展開した集団であるが、最初期のキリスト教においては正統教会の教説そのものに流動的な側面があり、部分的には異説と対峙する中で正統的な議論が形成されてきた。本講義では、正統教会と異端との間にあった緊張関係に目を向けつつ、古代のキリスト教思想家たちが展開した教説や諸概念を分析する。</p>					
[到達目標]					
<p>主として3世紀くらいまでの教理形成の中心的な問題点に関する基本的な知識を身に付け、当時の主要な文献を分析しながら、初期キリスト教における異端思想と教理を歴史的に位置づけ、吟味することができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>本年度前期のテーマは、「キリスト教異端思想史」である。初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1．オリエンテーション 2．異端思想概論 3．魔術師シモン 4．グノーシス思想概論 5．グノーシス福音書 6．ヴァレンティノス派 7．バシレイデス派 8．エンクラティス派と禁欲主義 9．マルキオン 10．ヘルモゲネス 11．モンタノス運動 12．マニ教 13．モナルキア主義 (養子論) 14．モナルキア主義 (様態論) 15．まとめと総括およびレポート等に関する解説 					
----- 宗教学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

宗教学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートによる（3回程度の小レポートと学期末レポートを含み、講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う）。

レポート内容についての相談は、個別に行う。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に取り上げる事典類や参考文献などを用いての復習を中心とするが、詳細については授業内にて説明する。

（その他（オフィスアワー等））

・受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。

・質問は、基本的にメール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学 (特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西谷宗教哲学の研究 (5)				
[授業の概要・目的]					
<p>西谷啓治(1900-1990)は、西田、田辺の後の京都学派の第三世代を代表する哲学者であり、大乘仏教の伝統を換骨奪胎した「空の立場」から、「ニヒリズム以後」の現代の思索の可能性を追究したその仕事は、没後30年を経て国内外で多方面からの関心を引きつつある。しかし、その全体を組織的に考察した本格的な研究は、まだほとんどないと言ってよい。</p> <p>本講義は、この西谷宗教哲学の全体を通時的かつ網羅的に研究し、今後の土台となりうるような組織的な理解を形成しようとするものである。それによって、今日の宗教哲学がそこから何を受けついでいけるかを、批判的に考究していくための拠点を手に入れることを目指す。</p> <p>この研究は、4年前から各年度の後期の特殊講義として進めてきたものであり、昨年度は、前期西谷の到達点としての「根源的主体性」の立場における自然哲学と歴史哲学の交錯の独自性と問題性を浮き彫りにした上で、1940年代前半の時局的な政治的論考を批判的に検討した。今年度は、これとの連続と非連続を浮き彫りにしつつ、戦後のニヒリズム論から主著『宗教とは何か』で提示される宗教哲学の完成へと至る道程を逐一検討し、西谷の代名詞となる「空の立場」の形成過程を解き明かしていきたい。</p>					
[到達目標]					
<p>1. 西谷宗教哲学の生成と展開を詳細にたどることによって、難解な西谷のテキストを正確に理解し、その思想の特質を把握できるようになる。</p> <p>2. 一人の哲学者の思索の展開を多面的な連関の中でとらえ、重層的に理解していくための方法論と視座を身につける。</p> <p>3. 宗教哲学や日本哲学についての研究を、他のさまざまなアプローチと拙速に切り離さず、問題連関や時代連関を意識しつつ多様な絡み合いの中で遂行していくことの意義と必要性を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の諸テーマについて、一つのテーマ当たり1～4回の授業をあてて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展をダイレクトに反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマにしても、細部については変更の可能性はある。)</p>					
<p>1. 導入 西谷宗教哲学の受け取り直しのために (1回)</p> <p>2. 昨年度までの授業の要約 (2回)</p> <p>3. 歴史哲学から宗教哲学へ? 戦後の西谷哲学の転回/展開 (4回)</p> <p>4. 「虚無」と「無」の交錯 『ニヒリズム』と『神と絶対無』 (4回)</p> <p>5. 「空の立場」の形成 1950年代の西谷の道程の通時的解明 (4回)</p>					
----- 宗教学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

宗教学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

初回の授業で、今学期に扱う西谷の主要テキストと参考・関連文献を指示するので、自分の関心を引くものに目を通し、自分なりの問いを携えて授業に臨んでほしい。各回の授業の後は、その際に扱った内容を自分の言葉でまとめ直し、必要に応じて参考文献も参照しつつ、自分の関心事との接点を組織的に探ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

本講義は西谷宗教哲学の研究という体裁をとるが、必ずしも西谷のみを扱うわけではない。むしろ、西谷が自らの思索を形成していく過程で取り組んだ哲学史・宗教思想史の研究、同時代の国内外の諸思想との対論などを意識的に拾い上げ、西谷の思索を通してそれらがどのように賦活されていったかも浮かび上がらせていく。その意味で、京都学派の哲学に関心をもつ人だけでなく、同時期の西洋哲学や哲学史・思想史に関心をもつ人にも受講してもらえればと考えている。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学50

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学 (特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊原木 大祐	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	コスモスからアンチコスモスへ (宗教-哲学の視点から)				
[授業の概要・目的]					
<p>古代ギリシアのコスモス概念は価値中立的な「世界 (宇宙)」概念と等価なものではない。秩序と規則を備えた調和的な組織体として、コスモスという語には比類なき肯定的価値が付与されていた。ユダヤー神教においてもまた、神の創造という視点からではあるが、世界はそれ自体として聖化され、やはり「良い」ものとして肯定されている。これに対してカオス (混沌) は、ときに忌むべき「否定的・破壊的エネルギー」へと変貌することがあり、その場合はコスモスを解体する「敵意にみちた力」と考えられてきた (井筒俊彦「コスモスとアンチコスモス」)。</p> <p>いわゆる「宗教」は、カオスの脅威からコスモスを保護するための防波堤として機能することもある。他方でこの同じコスモスの統制に抗う「アンチコスモス」的運動の相貌を帯びる場合もある。本講義では、宗教学や哲学の成果を踏まえてコスモスの意味の拡がりを探究しつつも、最終的には「アンチコスモス」の異端哲学的な潜在力を掘り起こすことを目的としている。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の宗教哲学における基本トピックのいくつかを理解する。 2. 哲学と宗教学が交差する場でコスモス / アンチコスモスの意味を深く考察することができる。 3. 複数の立場に関する学習や研究を通して、各人が自らの考えを展開できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>初回は導入に当てる。第2回から本格的な議論に入ってゆくが、講義の性質上、各トピックに対して【 】で指示した週数を充てる。各々を論じるのに時間が足りない場合は、問題を深く掘り下げてゆく目的で、週数を調整・変更する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入的概説【1週】 2. 宗教学によるコスモスの規定【3週】 3. ヘレニズムにおけるコスモスの把握【3週】 4. 新約聖書におけるコスモスの意味【1週】 5. コスモスへの反逆と価値の転倒【2週】 6. 現代哲学への反響【4週】 7. フィードバック【1週】 <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 宗教学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

宗教学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

初回授業時に主要参考文献を紹介しておくので、予習として少しでも目を通しておくことで授業の理解が深まるだろう。授業後は、その回の講義内容を復習することで、自らの学習や研究に生かせるよう心がけてもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学51

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学 (特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊原木 大祐		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代フランス現象学の身体論ーミシェル・アンリを中心に				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、20世紀から21世紀にかけてフランス現象学を牽引した三人の哲学者たち エマニュエル・レヴィナス (1906-1995)、ミシェル・アンリ (1922-2002)、ジャン＝リュック・マリオン (1946-) の身体思想を集中的に扱う。これらの哲学者はそれぞれ異なる見方を提示しているとはいえ、いずれも (1) 主体的受動性 (感情性) の重視、(2) 他者論との接続、(3) 一定の宗教的背景による理論の屈折、といった点で深い共通性を有している。</p> <p>本講義の中軸となるのは、副題に示したように、上記のなかでもひとときワディカルな様相を帯びているアンリ現象学の身体論 (「肉の現象学」) である。それとの偏差を考慮しつつ、現代フランス現象学の身体論ないしエロス論の全体像を取り出すことが、授業全体をとおしての目標となる。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代フランス現象学の基本思想を正確に理解し、その特性を把握する。 2. 現象学と身体論との関係を踏まえて、前者を後者に応用して思考することができる。 3. 複数の相互に関連する哲学的諸概念の学習や研究を通して、各人が自らの考えを展開できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>初回は導入に当てる。講義の性質上、各トピックに対して【 】で指示した週数を充てる。各々を論じるのに時間が足りない場合は、問題を深く掘り下げてゆく目的で、週数を調整・変更する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション【1週】 2. レヴィナス (1) : 身体の基本構成【2週】 3. レヴィナス (2) : エロスの身体とその可能性【2週】 4. アンリ (1) : 「生の現象学」の基本理解【2週】 5. アンリ (2) : 肉の現象学へ向けて【2週】 6. アンリ (3) : 欲望の理論【2週】 7. マリオン : 肉とエロスの考察【3週】 8. フィードバック【1週】 <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 宗教学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

宗教学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

レヴィナス協会編 『レヴィナス読本』 (法政大学出版局, 2022年) ISBN:978-4588151286

川瀬・米虫・村松・伊原木編 『ミシェル・アンリ読本』 (法政大学出版局, 2022年) ISBN:978-4588151279

[授業外学修(予習・復習)等]

授業時に必要な基本文献を紹介するので、その中から各人の関心に基づいてテキストを選び、少しでも目を通しておくと授業の理解が深まるだろう。授業後は、その講義内容を復習することで、自らの学習や研究に生かせるよう心がけてもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学52

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学 (演習) Philosophy of Religion (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポール・リクルの政治哲学関係諸論文を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>ポール・リクル (Paul Ricoeur,1913-2005)は、20世紀後半の現代フランス哲学を代表する人物のひとりであるが、現象学や解釈学を始めとして同時代の主要な思想潮流のほぼすべてに関わりつつ、それらを丁寧に論じながらみずからの思索を錬成していくそのスタイルによって、アカデミズムの哲学者という印象が強い。だが、60年以上にわたるその長い思索活動には、政治哲学的な関心がつねに随伴しており、時局的な発言も数多い。</p> <p>この演習では、リクルのこうした側面を伝える論考を読んでいくことで、哲学ないしは宗教哲学と現実の歴史的出来事や政治的問題との接点において思索するための糧としたい。具体的には、第二次大戦後から1950年代にかけての状況との密接な連関のもとで書かれた基礎的論考「政治的なものの逆説 (Le paradoxe du politique) 」(1957)を軸にして、植民地主義 (「植民地の問題(La question coloniale)」(1947)) とイスラエル (「イスラエルをめぐる困惑 (Perplexités sur Israël)」(1951)) という、今日にもつながる問題に関する論考を題材とする予定である。</p>					
[到達目標]					
<p>1．演習での訳読作業を通して、フランス語の哲学・宗教哲学のテクストを読みこなすための基本的な語学力を身につける。</p> <p>2．演習での教員による指導を通して、哲学。宗教哲学のテクストの精密な読解方法、およびそれを自分の思索に活用するための基本的な方法を身につける。</p> <p>3．リクルの政治哲学関係の複数の論考を通読することによって、リクル思想の根本問題とその哲学的・宗教哲学的意義に新たな角度から接近するための手がかりとする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回-第2回 導入 テクストを読み進める上で必要な予備知識の解説を行う。</p> <p>第3回 第15回 「概要・目的」欄に記したリクルの三つのテクストを、1回当たり2 - 3頁程度のペースで精読していく。出席者による訳出や内容要約に教員が詳細なコメントを加えた後、それを元に全員でさまざまな角度からの検討や考察を行っていく。</p> <p>*フィードバックの方法は授業中に指示する。</p>					
----- 宗教学 (演習)(2)へ続く -----					

宗教学 (演習)(2)

【履修要件】

受講の絶対要件として特定の科目の履修や予備知識を求めることはないが、演習なので、継続的に出席し、授業に主体的かつ積極的に関わることを求めたい。
フランス語を中級まで履修済みであることが望ましいが、それを絶対条件にはしない。内容への強い関心を前提として、さまざまな形で参加を認める用意はあるので、必要に応じて相談してもらいたい。

【成績評価の方法・観点】

平常点(担当箇所の訳読・議論への参加)に基づき評価する。

【教科書】

使用テキストは初回時にコピーを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業前にはテキストを時間をかけて読みこみ、語学的・内容的な検討を済ませておくことが求められる。また、自らの問題関心との関連で、深く掘り下げてみたい事柄については、問いを用意してくる。
授業後には、自らの理解の不正確であった箇所を修正するとともに、既読部の内容を自分の言葉でまとめ直したり、関連文献を読み進めたりすることを通して、自らの学習に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学53

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学 (演習) Philosophy of Religion (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ベルクソンと九鬼周造の交差的読解				
[授業の概要・目的]					
<p>九鬼周造が京都学派の哲学へのフランス哲学の導入において多大な貢献を果たしたことはよく知られているが、なかでもベルクソンとの関係は、滞欧中の直接の交流も含めて重要な意味をもつ。12年にわたる京都大学での演習(「西洋哲学史講読」)でも、ベルクソンのテキストが再三取り上げられており、授業の準備ノートが複数残されている。この演習では、それらのなかでももっとも内容豊富な『思想と動くもの(La pensée et le mouvant)』の演習用ノートを手引きとして、ベルクソンのこの論集に収録されたいずれかの論文をフランス語で読み、そこから得られた理解をもとに、九鬼自身の関連論考を読んでいく。こうしたかたちでの両者の交差的読解を通して、とくに「時間と永遠」という宗教哲学的主題をめぐる考察を深めていきたい。</p>					
[到達目標]					
<p>1. ベルクソンのテキストの訳読作業を通して、フランス語の哲学・宗教哲学のテキストを研究していくために不可欠な水準の語学力を身につける。 2. 九鬼周造の哲学の研究において、そこで参照され取り込まれた西洋哲学の諸要素との関係を明確にしながら複眼的に理解していく手法を学んでいく。 3. 演習での教員による指導を通して、哲学・宗教哲学のテキストの精密な読解方法、およびそれを自分の思索に活用するための基本的な方法を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回-第2回 導入 テキストを読み進める上で必要な予備知識の解説を行う。 第3回 第15回 「授業の概要・目的」欄で記した要領で、(1)九鬼の『思想と動くもの』授業ノート、(2)ベルクソンの『思想と動くもの』の収録論文のいずれか、(3)九鬼のベルクソン関連論考を順次読み進める。ベルクソンのテキストは複数の邦訳があるので、授業はフランス語テキストの訳出よりも内容理解や議論の方に重心を置き、1回5-10頁の速度で進める。出席者による訳出や内容要約に教員が詳細なコメントを加えた後、それを元に全員でさまざまな角度からの検討や考察を行っていく。</p> <p>* フィードバックの方法は授業中に指示する。</p>					
----- 宗教学 (演習)(2)へ続く -----					

宗教学 (演習)(2)

[履修要件]

受講の絶対要件として特定の科目の履修や予備知識を求めることはないが、演習なので、継続的に出席し、授業に主体的かつ積極的に関わることを求めたい。
フランス語を中級まで履修済みであることが望ましいが、それを絶対条件にはしない。内容への強い関心を前提として、さまざまな形での参加を認める用意はあるので、必要に応じて相談してもらいたい。

[成績評価の方法・観点]

平常点(担当箇所の訳読・議論への参加)に基づき評価する。

[教科書]

九鬼周造 『九鬼周造全集第十巻』 (岩波書店 1982年) ISBN: 978-4000905701 (使用範囲をコピーして配布する。)
九鬼周造 『人間と実存』 (岩波文庫 2016年) ISBN:9784003314654 (使用範囲をコピーして配布する。)
Henri Bergson 『La pens#233e et le mouvant』 (PUF, 2013) ISBN:978-2130618997 (使用範囲をコピーして配布する。)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前にはテキストを時間をかけて読みこみ、語学的・内容的な検討を済ませておくことが求められる。また、自らの問題関心との連関で、深く掘り下げてみたい事柄については、問いを用意してくる。
授業後には、自らの理解の不正確であった箇所を修正するとともに、既読部の内容を自分の言葉でまとめ直したり、関連文献を読み進めたりすることを通して、自らの学習に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学54

科目ナンバリング	G-LET07 75541 SJ34				
授業科目名 <英訳>	宗教学 (演習) Philosophy of Religion (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	国際高等教育院 教授 安部 浩		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ガダマーの有限性の解釈学				
[授業の概要・目的]					
<p>二〇世紀哲学の巨人にして哲学的解釈学の鼻祖、ハンス＝ゲオルク・ガダマー。彼が遺した著述の中でも『真理と方法』こそは蓋し最重要作の一つである。同書を始め、ガダマーの思想を本邦に紹介した竹市明弘は嘗てそれを「人間知性の有限性の深い自覚に立って知識と行為との哲学的根拠づけを行おうとする[...]本質的に相対的な根拠づけの努力」と評した。だがこの有限性の自覚とは一体全体、如何なる経験の謂であるのか。『真理と方法』の「体系の鍵となる位置」を占めているとガダマーその人が述べる「経験に関する章」の一部を精読し、議論を戦わせていくことで、我々は「有限性」をめぐる問題系の考察に努めることにしよう。そしてそれにより、語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくことが、本演習の目的である。</p>					
[到達目標]					
<p>語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくこと。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>原則的には毎回、予め指名した二名の方にそれぞれ、報告と演習の記録を担当して頂くことにする。</p> <p>1. ガイダンスと講読文献の説明 2-14. 『真理と方法』第二部第二章第三節の講読 15. フィードバック</p>					
[履修要件]					
ドイツ語を既修していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点で評価する。					
----- 宗教学 (演習)(2)へ続く -----					

宗教学 (演習)(2)

[教科書]

Hans-Georg Gadamer 『Wahrheit und Methode. Grundzuege einer philosophischen Hermeneutik』 (J. C. B. Mohr (Paul Siebeck)) ISBN:3-16-145613-5 (Zweiter Teil, Kapitel , Abschnitt 3: Analyse des wirkungsgeschichtlichen Bewusstseins (S. 346-384))

[参考書等]

(参考書)

H.-G. ガダマー 『真理と方法』 (法政大学出版局) ISBN:978-4-588-14018-1 C1310

[授業外学修 (予習・復習) 等]

教科書の毎回の所定の範囲を予習し、各回の報告資料や演習記録等を基に復習すること。

(その他 (オフィスアワー等))

受講者には、自分の担当箇所や各回に扱う部分に限らず、テキストを遍く熟読した上で出席することが求められる故、その点には十分留意されたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学55

科目ナンバリング	G-LET07 75541 SJ34				
授業科目名 <英訳>	宗教学 (演習) Philosophy of Religion (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊原木 大祐		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Jean-Paul Sartre, Esquisse d'une théorie des émotionsを読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習では、ジャン＝ポール・サルトルが1939年に発表した論考『情動論素描』を扱う。本書は、サルトルが現象学に強い関心を示していた時期の哲学的論考であり、フッサールとハイデガーの影響下でありつつも、のちの『存在と無』(1943)に結実するような独自の思想世界を垣間見せている小著である。今年度は最後の章にあたる「3. 現象学的理論の素描」を読んでいく。これはフランス語圏における「感情の現象学」の試みの嚆矢にあたるものであり、その道具立ての古さは否めないものの、サルトルらしい才気に満ち溢れており、よく読めば今でも刺激的なアイデアが見いだされる。授業では、ディスカッションを重視したうえでの精読を目指す。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語で書かれた哲学書を読み通すために必要な語学力を習得する。 2. 哲学書の内容を理解し、その注釈を通じて自らの思索に生かしていく手法を身に付ける。 3. 感情に関する諸問題を哲学的思考にもとづいて把握できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 本演習で扱う著作およびその著者について知っておくべき最低限の事柄を説明する。</p> <p>第2～14回 『情動論素描』(原書38頁以下)を読み進めてゆく。進度は出席者の語学力に合わせて調整する。</p> <p>第15回 フィードバック フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
訳読・議論への参加度(50%)と学期末のレポート(50%)により評価する。					
[教科書]					
J.-P. Sartre 『Esquisse d' une théorie des émotions』 (Hermann, 1965) ISBN:2705651780					
----- 宗教学 (演習)(2)へ続く -----					

宗教学 (演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

J P・サルトル著；竹内芳郎訳・解説 『自我の超越；情動論粗描』（人文書院、2000年）ISBN: 4409030558

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前には、予定された箇所を必ず読み通し、未知の単語や文章の意味をきちんと調べて訳出できるようにしておくこと。授業後には読み終えた箇所の内容を自分なりに咀嚼し、それを自分自身の思索に連結するよう努めてほしい。

(その他（オフィスアワー等）)

初回授業時に、受講する上での注意事項を伝えますので、必ず出席してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学56

科目ナンバリング	G-LET07 75541 SJ34				
授業科目名 <英訳>	宗教学 (演習) Philosophy of Religion (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊原木 大祐		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	Viktor E. Frankl, . . . Trotzdem Ja zum Leben sagen を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習では、ヴィクトール・E・フランクルの著作『... Trotzdem Ja zum Leben sagen』を扱う。この書物は、本邦でも『夜と霧 (原題: 強制収容所におけるある心理学者の体験)』で知られるフランクルが、強制収容所での体験を経て解放された翌年に行った3つの講演を収めたものである。主要なテーマは「生きる意味と価値」であり、20世紀前半の「生の哲学」や「実存哲学」の観点から、また昨今議論されることの多い「人生の意味」論といった観点から、あるいは「神の死」以後の現代宗教哲学という観点からも有益な示唆に富んでおり、論じるに値する多くの問題が伏在している。テキストの精読を通じて、参加者一人一人が自身の思索を深めていくことが期待される。今年度は、フランクル思想の要点が詰まった第一講演の後半から読解を再開する。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ語で書かれた思想書を読み通すために必要な語学力を習得する。 2. 思想書の内容を理解し、その注釈を通じて自らの思索に生かしていく手法を身に付ける。 3. フランクルの実存思想を踏まえつつ、生の意味に関わる宗教哲学的課題に取り組むことで、その意義を把握できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション 本演習で扱うテキストおよびその著者フランクルについて知っておくべき最低限の事柄を紹介する。また、第一講演の既読部分についてその内容を概説する。</p> <p>第2～14回 「... Trotzdem Ja zum Leben sagen」の途中から1回2頁程度のペースで読み進めてゆく。</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
訳読・議論への参加度 (50%) と学期末のレポート (50%) により評価する。					
[教科書]					
Viktor E. Frankl 『Trotzdem Ja zum Leben sagen : drei Vorträge gehalten an der Volkshochschule Wien-Ottakring』 (Deuticke, 1947)					
----- 宗教学 (演習)(2)へ続く -----					

宗教学 (演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

V・E・ فرانクル著 ; 山田邦男, 松田美佳訳 『それでも人生にイエスと言う』 (春秋社, 1993年)

ISBN:4393363604

ヴィクトール・E・フランクル著 ; 赤坂桃子訳 『精神療法における意味の問題 : ログセラピー 魂の癒し』 (北大路書房, 2016年) ISBN:9784762829468

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業前には、予定された箇所を必ず読み通し、未知の単語や文章の意味をきちんと調べて訳出できるようにしておくこと。授業後には読み終えた箇所の内容を自分なりに咀嚼し、それを自分自身の思索に連結するよう努めてほしい。

(その他 (オフィスアワー等))

初回の授業時に、受講する上での注意事項を伝えますので、必ず出席してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学57

科目ナンバリング		G-LET07 75551 LJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学 (講読) Religion (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 笠木 丈	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	スピノザ入門：A Companion to Spinozaを読む 1				
[授業の概要・目的]					
<p>スピノザの名著『エチカ』は、定義と公理から出発して次々に定理を証明していくという「幾何学的秩序」によって書かれている。こうした独特のスタイルに加えて、『エチカ』の核心をなすスピノザの形而上学 すなわち、唯一の実体である神のうちあらゆるものが存在し、またあらゆるものは神に依拠して存在しているという理説 は、この書を手にする者に近寄りやすい印象を与えうるだろう。</p> <p>だが、その外観にとらわれずに『エチカ』のなかに分け入ってみるならば、人間の捉え方をラディカルに更新し、それによってわれわれ人間に解放へと至るための道を指し示そうとするスピノザの姿に出会うことができるだろう。</p> <p>精緻な論理展開と人間解放の希求という両側面を不可分のものとして備えたスピノザ哲学への入門として、本講読では英語で書かれたスピノザの概説的な論集であるA Companion to Spinozaを読んでいく。スピノザの存在論、心身関係、道徳論などをテーマとした短い論文をいくつか取りあげる予定である。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語で書かれた宗教哲学に関する議論を正確に理解できるようになる。 2. 宗教哲学的な議論を理解し、それを自分自身の思索に活かすことができるようになる。 3. スピノザ哲学において鍵となる論点について理解できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 導入 本講読の進め方を確認し、テキストに関する基本的な事柄の説明などを行う。</p> <p>第2～14回 テキストの読解と議論など。</p> <p>第15回 まとめ * フィードバックについては授業内で周知する。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点による (訳読の担当・議論への参加)。					
[教科書]					
授業中にA Companion to Spinoza (YitzhakY. Melamed (ed.), Hoboken: Wiley Blackwell, 2021) のコピーを配布する。					
----- 宗教学 (講読)(2)へ続く -----					

宗教学 (講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

訳読中心の授業であるため、テキストの指定された範囲をしっかりと読んでおくこと。訳読担当者は担当箇所の訳稿を作成すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 75551 LJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学 (講読) Religion (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 笠木 丈		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	スピノザ入門：A Companion to Spinozaを読む 2				
[授業の概要・目的]					
<p>スピノザの名著『エチカ』は、定義と公理から出発して次々に定理を証明していくという「幾何学的秩序」によって書かれている。こうした独特のスタイルに加えて、『エチカ』の核心をなすスピノザの形而上学 すなわち、唯一の実体である神のうちあらゆるものが存在し、またあらゆるものは神に依拠して存在しているという理説 は、この書を手にする者に近寄りやすい印象を与えうるだろう。</p> <p>だが、その外観にとらわれずに『エチカ』のなかに分け入ってみるならば、人間の捉え方をラディカルに更新し、それによってわれわれ人間に解放へと至るための道を指し示そうとするスピノザの姿に出会うことができるだろう。</p> <p>精緻な論理展開と人間解放の希求という両側面を不可分のものとして備えたスピノザ哲学への入門として、本講読では英語で書かれたスピノザの概説的な論集であるA Companion to Spinozaを読んでいく。スピノザの存在論、心身関係、道徳論などをテーマとした短い論文をいくつか取りあげる予定である。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語で書かれた宗教哲学に関する議論を正確に理解できるようになる。 2. 宗教哲学的な議論を理解し、それを自分自身の思索に活かすことができるようになる。 3. スピノザ哲学において鍵となる論点について理解できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 導入 本講読の進め方を確認し、テキストに関する基本的な事柄の説明などを行う。</p> <p>第2～14回 テキストの読解と議論など。</p> <p>第15回 まとめ * フィードバックについては授業内で周知する。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 宗教学 (講読)(2)へ続く -----					

宗教学 (講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点による（訳読の担当・議論への参加）。

[教科書]

授業中にA Companion to Spinoza (YitzhakY. Melamed (ed.), Hoboken: Wiley Blackwell, 2021) のコピーを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

訳読中心の授業であるため、テキストの指定された範囲をしっかりと読んでおくこと。訳読担当者は担当箇所の記事を作成すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学59

科目ナンバリング	G-LET08 65631 LJ34				
授業科目名 <英訳>	キリスト教学 (特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	同志社大学 神学部 教授 村上 みか		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	スイスの宗教改革ーツヴィングリとカルヴァンー				
[授業の概要・目的]					
<p>ドイツに起こった宗教改革は隣国のスイスに広がり、ここで宗教改革は独自のあり方を取って大きく展開する。本講は、このスイス宗教改革の成立と展開のプロセスを、教会史、神学史のみならず政治史、経済史、社会史の視点より考察する。具体的には、最初に宗教改革を導入したチューリヒとその改革者ツヴィングリ、また世界的影響力をもったジュネーヴとその改革者カルヴァンを取り上げ、ここに形成された教会制度や神学を学び、改革派教会の基礎とその世界的影響力について考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>スイス宗教改革の展開を多様な歴史的錯綜のもとに理解することができるようになる。 改革運動の中で新たに形成された教会や神学を、歴史的文脈の中で理解し、考察する力を身につける。 資料を正確に理解し、まとめる力を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の計画にしたがって講義を進める。ただし講義の進み具合、参加者の関心に応じて、実施回が変更になる場合がある。</p>					
第1回	授業概要の説明				
第2回	<チューリヒの宗教改革：ツヴィングリ>				
	前史：政治，経済，社会，教会				
第3回	ツヴィングリ（1）その生涯				
第4回	ツヴィングリ（2）人文主義と神学				
第5回	ツヴィングリ（3）教会改革				
第6回	改革運動の拡大と急進派の形成				
第7回	<ジュネーヴの宗教改革：カルヴァン>				
	前史：政治，経済，社会，教会				
第8回	宗教改革の導入				
第8回	カルヴァン（1）その生涯と活動				
第9回	カルヴァン（2）神学：『キリスト教綱要』				
第10回	カルヴァン（3）神学：創造論				
第11回	カルヴァン（4）神学：墮落論				
第12回	カルヴァン（5）神学：救済論				
第13回	カルヴァン（6）神学：倫理				
第14回	カルヴァン（7）神学：教会論				
第15回	総括				
----- キリスト教学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

キリスト教学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

キリスト教に関する基本的な知識があることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

平常点（議論への参加）：30点

レポート：70点（レポートの評価は、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の考察や優れた表現については、高く評価する。）

【教科書】

授業時にテキストを配布する。

【参考書等】

（参考書）

土井、久松、村上、芦名、落合 『1冊でわかるキリスト教史』（日本キリスト教団出版局、2018年）
ISBN:9784818409989

A.E.マクグラス（高柳俊一訳）『宗教改革の思想』（教文館、2000年）ISBN:9784764271944

【授業外学修（予習・復習）等】

テキストや参考書をもとに復習し、事象や神学について歴史的な視点から考察を行う。

（その他（オフィスアワー等））

連絡はメールを通じて行う。

メールアドレスは授業時に伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学60

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34			
授業科目名 <英訳>	キリスト教学 (特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 津田 謙治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「初期キリスト教教理史I/B」				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義の目的は、ニカイア公会議（325年）以前までの初期キリスト教の中で形づくられた教理の発展の歴史を、個々の主題に沿って提示することにある。教理とは、教会の中で唱えられたキリスト教の教えであるが、最初期のキリスト教の時代から教説の正統性をめぐって様々な問題が生じ（例えば、一神教やキリスト論の問題など）、その都度それらに対処することによって教理が形成されてきた。本講義では、キリスト教とユダヤ思想や諸哲学との間にあった緊張関係に目を向けつつ、教父たちが形成した教理や諸概念を分析する。</p>					
[到達目標]					
<p>主として4世紀くらいまでの教理形成の中心的な問題点に関する基本的な知識を身に付け、当時の主要な文献を分析しながら、初期キリスト教における教父思想と教理を歴史的に位置づけ、吟味することができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>本年度後期のテーマは、「初期キリスト教教理史」である。初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1．オリエンテーション 2．オイコノミアと三位一体 3．反モナルキア主義 4．東方教父における三位一体論 5．キリスト論のはじまり 6．アレクサンドリアのキリスト論 7．人間本性と罪 8．魂と贖罪 9．教会論とキリスト教共同体 10．三つのサクラメント 11．アレイオスの問題 12．ニカイア神学とアタナシオス 13．反ニカイア派とニカイアの余波 14．公会議の歴史的な位置付け 15．まとめと総括およびレポート等に関する解説 					
----- キリスト教学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

キリスト教学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートによる（3回程度の小レポートと学期末レポートを含み、講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う）。

レポート内容についての相談は、個別に行う。

【教科書】

J.N.D. ケリー 『初期キリスト教教理史 上 使徒教父からニカイア公会議まで』（一麦出版社、2010年）ISBN:978-4863250185

【参考書等】

（参考書）

J.N.D. ケリー 『初期キリスト教教理史 下 ニカイア以後と東方世界』（一麦出版社、2010年）ISBN:978-4863250192

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に取り上げる事典類や参考文献などを用いての復習を中心とするが、詳細については授業内にて説明する。

（その他（オフィスアワー等））

・受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。

・質問は、基本的にメール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学61

科目ナンバリング	G-LET08 65631 LJ34				
授業科目名 <英訳>	キリスト教学 (特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 津田 謙治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「キリスト教異端思想史A」				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義の目的は、およそ3世紀までの初期キリスト教における異端思想の発展の歴史を、個々の思想家や主題に沿って提示することにある。異端とは、教会の中で正統教理とは別の議論を展開した集団であるが、最初期のキリスト教においては正統教会の教説そのものに流動的な側面があり、部分的には異説と対峙する中で正統的な議論が形成されてきた。本講義では、正統教会と異端との間にあった緊張関係に目を向けつつ、古代のキリスト教思想家たちが展開した教説や諸概念を分析する。</p>					
[到達目標]					
<p>主として3世紀くらいまでの教理形成の中心的な問題点に関する基本的な知識を身に付け、当時の主要な文献を分析しながら、初期キリスト教における異端思想と教理を歴史的に位置づけ、吟味することができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>本年度前期のテーマは、「キリスト教異端思想史」である。初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1．オリエンテーション 2．異端思想概論 3．魔術師シモン 4．グノーシス思想概論 5．グノーシス福音書 6．ヴァレンティノス派 7．バシレイデス派 8．エンクラティス派と禁欲主義 9．マルキオン 10．ヘルモゲネス 11．モンタノス運動 12．マニ教 13．モナルキア主義 (養子論) 14．モナルキア主義 (様態論) 15．まとめと総括およびレポート等に関する解説 					
----- キリスト教学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

キリスト教学 (特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートによる（3回程度の小レポートと学期末レポートを含み、講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う）。

レポート内容についての相談は、個別に行う。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に取り上げる事典類や参考文献などを用いての復習を中心とするが、詳細については授業内にて説明する。

（その他（オフィスアワー等））

・受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。

・質問は、基本的にメール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34			
授業科目名 <英訳>	キリスト教学 (特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西谷宗教哲学の研究 (5)				
[授業の概要・目的]					
<p>西谷啓治(1900-1990)は、西田、田辺の後の京都学派の第三世代を代表する哲学者であり、大乘仏教の伝統を換骨奪胎した「空の立場」から、「ニヒリズム以後」の現代の思索の可能性を追究したその仕事は、没後30年を経て国内外で多方面からの関心を引きつつある。しかし、その全体を組織的に考察した本格的な研究は、まだほとんどないと言ってよい。</p> <p>本講義は、この西谷宗教哲学の全体を通時的かつ網羅的に研究し、今後の土台となりうるような組織的な理解を形成しようとするものである。それによって、今日の宗教哲学がそこから何を受けついでいけるかを、批判的に考究していくための拠点を手に入れることを目指す。</p> <p>この研究は、4年前から各年度の後期の特殊講義として進めてきたものであり、昨年度は、前期西谷の到達点としての「根源的主体性」の立場における自然哲学と歴史哲学の交錯の独自性と問題性を浮き彫りにした上で、1940年代前半の時局的な政治的論考を批判的に検討した。今年度は、これとの連続と非連続を浮き彫りにしつつ、戦後のニヒリズム論から主著『宗教とは何か』で提示される宗教哲学の完成へと至る道程を逐一検討し、西谷の代名詞となる「空の立場」の形成過程を解き明かしていきたい。</p>					
[到達目標]					
<p>1. 西谷宗教哲学の生成と展開を詳細にたどることによって、難解な西谷のテキストを正確に理解し、その思想の特質を把握できるようになる。</p> <p>2. 一人の哲学者の思索の展開を多面的な連関の中でとらえ、重層的に理解していくための方法論と視座を身につける。</p> <p>3. 宗教哲学や日本哲学についての研究を、他のさまざまなアプローチと拙速に切り離さず、問題連関や時代連関を意識しつつ多様な絡み合いの中で遂行していくことの意義と必要性を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の諸テーマについて、一つのテーマ当たり1～4回の授業をあてて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展をダイレクトに反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマにしても、細部については変更の可能性はある。)</p>					
<p>1. 導入 西谷宗教哲学の受け取り直しのために (1回)</p> <p>2. 昨年度までの授業の要約 (2回)</p> <p>3. 歴史哲学から宗教哲学へ? 戦後の西谷哲学の転回/展開 (4回)</p> <p>4. 「虚無」と「無」の交錯 『ニヒリズム』と『神と絶対無』 (4回)</p> <p>5. 「空の立場」の形成 1950年代の西谷の道程の通時的解明 (4回)</p>					
----- キリスト教学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

キリスト教学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

初回の授業で、今学期に扱う西谷の主要テキストと参考・関連文献を指示するので、自分の関心を引くものに目を通し、自分なりの問いを携えて授業に臨んでほしい。各回の授業の後は、その際に扱った内容を自分の言葉でまとめ直し、必要に応じて参考文献も参照しつつ、自分の関心事との接点を組織的に探ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

本講義は西谷宗教哲学の研究という体裁をとるが、必ずしも西谷のみを扱うわけではない。むしろ、西谷が自らの思索を形成していく過程で取り組んだ哲学史・宗教思想史の研究、同時代の国内外の諸思想との対論などを意識的に拾い上げ、西谷の思索を通してそれらがどのように賦活されていったかも浮かび上がらせていく。その意味で、京都学派の哲学に関心をもつ人だけでなく、同時期の西洋哲学や哲学史・思想史に関心をもつ人にも受講してもらえればと考えている。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学63

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34			
授業科目名 <英訳>	キリスト教学 (特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	同志社大学神学部 准教授 三輪 地塩		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	キリシタン史の記憶・虚構・イメージ形成				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義はキリシタン史をテーマとする。授業の前半は、キリスト教布教（1549）から禁制政策、潜伏期を経て明治初期に至るまでの大まかなキリシタン史を概説的に学ぶ。それを踏まえた上で、キリシタン史として広く記憶されている事象の中に、多くの虚構やそれによって形成された「イメージ」が含まれていることを各論的に示していく。講義の目的は、世界的にも特殊な形態で文化適応したキリスト教である「キリシタン」について多面的な考察を行うことにある。</p>					
[到達目標]					
<p>受講者はこの授業を履修することによって以下のことを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリシタン史について、基礎的・概説的な知識を得る。 ・キリシタンという宗教事象における特色教派の歴史と神学的特徴の概要を説明することが出来る。 					
[授業計画と内容]					
<p>以下のテーマを中心として進める予定であるが、受講者の興味関心によって適宜順序や内容を変更する場合がある。</p>					
1	概論	対抗宗教改革とイエズス会の成立			
2	概論	大航海時代と日本の宣教			
3	概論	「キリシタンの世紀」における宣教の伸展			
4	概論	禁教期の迫害と殉教			
5	概論	島原・天草一揆			
6	概論	潜伏キリシタンの諸系統			
7	概論	幕末明治期におけるキリシタンの動向			
8	概論	浦上四番崩れと西日本各藩への流配			
9	各論	九州地域各藩の踏絵の実行			
10	各論	「切支丹」に込められたイメージ			
11	各論	排耶書・キリシタンの排斥			
12	各論	「マリア観音」と呼ばれた像と虚構			
13	各論	キリシタン遺物の虚構品			
14	各論	長崎天草の世界遺産制定と諸問題			
15	各論	キリシタン・イメージ形成とツーリズム			
----- キリスト教学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

キリスト教学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業毎のコメント提出・70点）と学期末レポート（30点）により評価する。
なお、レポートについては到達目標の達成度に基づき評価を行なう。

【教科書】

教科書は使用しない。別途、資料を配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業内で適宜紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・予習：特になし。
- ・復習：授業内で紹介する参考文献等を用いて授業内容の理解を深めること。

（その他（オフィスアワー等））

講義形式で行なう。授業終了時には毎回コメントシートを提出してもらい、翌週以降の授業内で紹介・応答する。質問については授業内もしくはメールなどで受け付け、翌週以降の授業内で回答する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学64

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34			
授業科目名 <英訳>	キリスト教学 (特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 西脇 純		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	礼拝音楽にみられるキリスト教思想				
[授業の概要・目的]					
<p>本科目は、キリスト教、わけても西方教会の礼拝史（典礼史）を辿りつつ、特に典礼における音楽実践に焦点をあて、作品にあらわれるキリスト教思想を概観することに努める。その際、古代から中世にかけて漸次的に展開していったグレゴリオ聖歌を中心に講じ、これと関連させるかたちで宗教改革期の礼拝（典礼）音楽、また、日本のいわゆる「典礼聖歌」にも触れることにしたい。キリスト教思想への音楽からのアプローチは、キリスト教を学ぶ者に新しい気づきをもたらしてくれるであろう。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教礼拝（典礼）の歴史についての知識を習得している ・キリスト教の礼拝（典礼）音楽の主だった特徴を、グレゴリオ聖歌を中心に理解している ・キリスト教礼拝（典礼）音楽の現代における課題について論ずることができる 					
[授業計画と内容]					
<p>本科目は集中講義であり、開講日程は8月下旬を予定している。詳細については5月以降にKULASISを通して連絡する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．イントロダクション：イエスの「復活」と原始教団の形成 2．礼拝（典礼）の歴史（1）古代におけるミサ 3．礼拝（典礼）の歴史（2）古代末期から中世にかけてのミサ 4．礼拝（典礼）の歴史（3）典礼暦年 5．礼拝（典礼）の歴史（4）聖務日課 6．詩編を歌う伝統 7．賛歌を歌う伝統 8．聖務日課の音楽 9．ミサの音楽 10．レクイエムの音楽 11．宗教改革期の礼拝（典礼）音楽（1）マルティン・ルター 12．（対抗）宗教改革期の礼拝（典礼）音楽（2）パレストリーナ 13．典礼刷新運動とグレゴリオ聖歌復興運動 14．第二バチカン公会議と典礼刷新の試み 15．日本語典礼聖歌の試み 					
----- キリスト教学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

キリスト教学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

・講義への積極的な取り組み25% , 全15回の小レポート75%。

【教科書】

講義で取り上げる内容に関連したプリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

その他の文献については授業中に紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

集中講義のため、後日、KULASISにて指定するテキストを通読しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

この集中講義は採点報告日(前期8月中旬頃)以降の8月下旬に実施するため、他の科目に比べ、成績報告が遅れる見込みである。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学65

科目ナンバリング	G-LET08 75641 SJ34				
授業科目名 <英訳>	キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 西村 一輝		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	神学における「歴史」の解釈				
[授業の概要・目的]					
この演習の目的は、歴史上の神学者の種々のテキストを読み、「歴史」の概念史的展開をたどることを通して、神学において同概念にどのような(思想的/体系叙述的)役割が当てられているのかについて考察することである。					
[到達目標]					
この演習を終えた際、受講者には以下のことが期待される。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の外国語の文法的知識を用いて、原典となる文献を読解することができる。 2. 神学における「歴史」の理解について、その諸範型を説明することができる。 3. 神学者らにおける「歴史」についての異なる態度決定の背後に存している、各々の神学的見解について考察することができる。 					
[授業計画と内容]					
一定の週間で、重要な神学者の典型的なテキストが紹介され、その読解が試みられる。					
第1-2週: オリエンテーション(テーマ紹介およびテキスト読解のための講義)					
第3-14週: テキストの紹介と読解					
第15週: フィードバック					
[履修要件]					
英語以外に、初級程度のドイツ語を既習していることが望まれる。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点による。受講者には、テキストの訳読や内容についての質問、議論への参加が課される。それらに基づいて総合的に判断される。					
[教科書]					
使用するテキストについては、コピーを配布する。					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
[授業外学修(予習・復習)等]					
受講者は、各人が毎回テキストを精読し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。					
(その他(オフィスアワー等))					
基本的にメールで対応するが、演習後にも対応可。					
Mail: kzk.n0823h7@gmail.com					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-LET08 75641 SJ34			
授業科目名 <英訳>	キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 谷塚 巖		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	キルケゴールの『あとがき』とヘーゲル批判				
[授業の概要・目的]					
<p>キルケゴールの思想は、著述家として最初に公けにされた『あれか - これか』(1843)の序文でも示唆されているように、「ヘーゲル主義」との対決という旗印のもとに展開されている。「ヘーゲル主義」は、19世紀中葉にかけて、デンマークの知識人たちがヘーゲル哲学を受容したことによって形成された思想的潮流であった。『哲学的断片への非学問的あとがき』(1846)は、そうした潮流に抗ってキルケゴールが取り組んだ著述活動の総決算として位置づけられる哲学的名著である。この授業では、その第2部第2編第3章の「実存すること、現実性」(第1節)を精読し、キルケゴールのヘーゲル批判が何を問題にしているのかを、キルケゴールのキリスト教理解との関連で考えていく。テキストはドイツ語訳ヒルシュ版を用い、輪読形式で読み進めていく。また必要に応じて、デンマーク語原典を参照する。出席者は、毎回必ず予習し、事前に、文法事項や概念に関する疑問点を洗い出しておく。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・キルケゴールのヘーゲル批判が、どのような点に向けられているのかについて説明することができる。 ・19世紀に書かれた欧文の文体を読みこなす能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション キルケゴールの著作群の全容と『あとがき』の位置づけ・概要を説明する。また、参照すべきその他の訳書や注釈書、先行研究についても周知し、そのうえで、各回の授業の進め方を確認する。</p> <p>第2回～第14回 「実存すること、現実性」の精読 毎回、輪読形式でテキストを読み進めていく。適宜、デンマーク語原典にあたり、基本的な用語や鍵概念を確認し、理解を深めていく。また、必要に応じてレジユメを用意し、議論する。読み進める進捗については、1頁から1頁半程度を予定している。</p> <p>第15回 まとめ 精読した範囲のまとめを行ない、疑問点や課題などについて議論する。</p>					
[履修要件]					
ドイツ語の初級文法を習得していることが望ましい。					
----- キリスト教学(演習)(2)へ続く -----					

キリスト教学 (演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

基本的には平常点による。必要に応じて、レジュメも評価の対象に含める場合がある。

[教科書]

授業中に指示する
使用するテキストは初回の授業で配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、必ず読む範囲の予習をし、疑問点を明瞭にしてから授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

質問や連絡などは随時メール (i.tanizuka@gmail.com) で受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学67

科目ナンバリング	G-LET08 75641 SJ34				
授業科目名 <英訳>	キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 津田 謙治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	教父学の基本的研究を読むIV/A				
[授業の概要・目的]					
この演習の目的は、初期キリスト教における教義史に関する古典的研究を読み、膨大な古代史料の中から教理的主題や歴史的背景、教父の特徴などを網羅的に概観するとともに、教義がどのような歴史的展開を示しているかを学ぶことである。この演習では、ドイツ語で書かれた後、英語や仏語に訳され、幅広く受容された教父研究のテキストを精読することによって、初期キリスト教思想研究に必要な文献読解力の向上を目指す。					
[到達目標]					
教父たちの文献からの引用や、デジタルアーカイブなどへのアクセス情報などを含むドイツ語テキストを精読することによって、古代のキリスト教思想を研究する上で必要な基礎的な学力を養うことができる。					
[授業計画と内容]					
今年度の前期では、H.R.ドロブナーの主要著作の一つである『教父学教本』を取り上げ、演習を行う。					
Hubertus R. Drobner, Lehrbuch der Patrologie, 3te Auflage, Frankfurt am Main, 2011.					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テルトゥリアヌス 3. 『異教徒へ』と『護教論』 4. 『魂』 5. 『異端者たちへの異議申立て』 6. 『マルキオン反駁』 7. 『プラクセアス反駁』 8. ミヌキウス・フェリクス 9. カルタゴのキュプリアヌス 10. 『棄教者』 11. 『カトリック教会の一致』 12. 『書簡』 13. 補論2「古代世界およびキリスト教における書簡」 14. 「日常的な手紙」 15. まとめと総括およびレポート等に関する解説 					
-----キリスト教学(演習)(2)へ続く-----					

キリスト教学 (演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による。受講者には、毎回の翻訳のほか、テキスト上の個別の主題に沿って数回の発表を課し、それらを総合的に判断する。

【教科書】

使用するテキストについては、コピーを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

受講者は、各人が毎回テキストを精読して訳し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。その上で、発表を担当する者は、関連文献などに目を通して、主題に沿った課題の準備をして報告を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

・受講生には、毎時間のテキストの予習と演習に積極的に参加することが求められる。質問は、オフィスアワーを利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 75641 SJ34			
授業科目名 <英訳>	キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 津田 謙治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	教父学の基本的研究を読むIV/B				
[授業の概要・目的]					
この演習の目的は、初期キリスト教における教義史に関する古典的研究を読み、膨大な古代史料の中から教理的主題や歴史的背景、教父の特徴などを網羅的に概観するとともに、教義がどのような歴史的展開を示しているかを学ぶことである。この演習では、ドイツ語で書かれた後、英語や仏語に訳され、幅広く受容された教父研究のテキストを精読することによって、初期キリスト教思想研究に必要な文献読解力の向上を目指す。					
[到達目標]					
教父たちの文献からの引用や、デジタルアーカイブなどへのアクセス情報などを含むドイツ語テキストを精読することによって、古代のキリスト教思想を研究する上で必要な基礎的な学力を養うことができる。					
[授業計画と内容]					
前期に引き続き、H.R.ドロブナーの主要著作の一つである『教父学教本』を取り上げ、演習を行う。					
Hubertus R. Drobner, Lehrbuch der Patrologie, 3te Auflage, Frankfurt am Main, 2011.					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「文学的書簡」 3. 「キリスト教における書簡」 4. 「古代の書簡論」 5. ノヴァティアヌス 6. 『三位一体』 7. ラクタンティウス 8. 『神的綱要』と『エピトメー』 9. 4世紀の歴史的概要 10. 政治史 11. 宗教国家概念 12. コンスタンティヌス大帝 13. コンスタンティヌスの息子たち 14. 共同統治時代 15. まとめと総括およびレポート等に関する解説 					
-----キリスト教学(演習)(2)へ続く-----					

キリスト教学 (演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による。受講者には、毎回の翻訳のほか、テキスト上の個別の主題に沿って数回の発表を課し、それらを総合的に判断する。

【教科書】

使用するテキストについては、コピーを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

受講者は、各人が毎回テキストを精読して訳し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。その上で、発表を担当する者は、関連文献などに目を通して、主題に沿った課題の準備をして報告を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

・受講生には、毎時間のテキストの予習と演習に積極的に参加することが求められる。質問は、オフィスアワーを利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学69

科目ナンバリング		G-LET08 75641 SJ34			
授業科目名 <英訳>	キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	獨協大学外国語学部 非常勤講師 岡崎 龍		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目					
[授業の概要・目的]					
<p>シュライアマハーの初期の主著、『宗教論』の第二講義「宗教の本質について」の講読を行う。本書は、初期ロマン主義と呼ばれる、カント以降のドイツ古典哲学のなかの一潮流に属するシュライアマハーが宗教を論じたテキストであるが、必ずしも(特定の)宗教についての関心を前提するものではない。むしろシュライアマハーは同書において、宗教を嫌悪する者に対して宗教への誤解を解くことを目指しているため、宗教に対してネガティブな先入見をもっている読者にも開かれたテキストであると考えられるからである。</p> <p>この授業では毎回、決められたテキストの範囲を講読する。出席者は必ず予習をしておくことが求められる。一人一文ずつ訳読をしてもらい、一段落が終わるごとに(長大な段落については適当なところで区切ることがある)内容についての議論を行う。</p>					
[到達目標]					
<p>シュライアマハーが対決対象としているカントの宗教についての考え方を念頭に置きながら、シュライアマハーにとって宗教は何でなく、何であるかをテキストに即して理解し、自分なりにパラフレーズできるようになることが目標である。また、テキストそのものの理解に加えて、参加者との議論を通じて、自身の解釈を深めるための技法を身に着けることを目標とする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 オリエンテーション シュライアマハーの人物と授業方針について改めて簡単に説明し、講読に入る。</p> <p>第2回 『宗教論』講読(1) シュライアマハーが読者に求めるもの</p> <p>第3回 『宗教論』講読(2) 宗教と道德・形而上学(1)</p> <p>第4回 『宗教論』講読(3) 宗教と道德・形而上学(2)</p> <p>第5回 『宗教論』講読(4) 宗教と語り</p>					
-----キリスト教学(演習)(2)へ続く-----					

キリスト教学 (演習)(2)

第6回 『宗教論』 講読 (5)
宗教と人間

第7回 『宗教論』 講読 (6)
宗教の定義：宇宙の直観

第8回 『宗教論』 講読 (7)
宗教の原理的多元性

第9回 『宗教論』 講読 (8)
聖書との向き合い方

第10回 『宗教論』 講読 (9)
宗教と迷信

第11回 『宗教論』 講読 (1 0)
宗教における直観と感情

第12回 『宗教論』 講読 (1 1)
宗教と陶冶

第13回 『宗教論』 講読 (1 2)
宗教と芸術

第14回 『宗教論』 講読 (1 3)
ファンタジーとしての宗教

第15回 『宗教論』 講読 (1 4)
宗教と歴史

講読の進度は各回概ね 1 ~ 2 ページ程度を予定している。

【履修要件】

ドイツ語の基礎を修得しておくこと。

キリスト教学 (演習)(3)へ続く

キリスト教学 (演習)(3)

[成績評価の方法・観点]

訳読発表により評価する。

[教科書]

Friedrich Daniel Ernst Schleiermacher 『Ueber die Religion. Reden an die Gebildeten unter ihren Veraechtern』 (Felix Meiner, 2004) ISBN:978-3-7873-1690-6 (他の版の使用を妨げるものではありません。議論がしやすいように、事前に段落番号をふっておいてください。)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回、時間をかけて講読箇所を文法構造に注意して予習してください。
可能であれば、授業が始まる前に同書第一講義「Apologie」を邦訳などで読んでおくことで講読内容の理解が深まります。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学70

科目ナンバリング		G-LET08 75641 SJ34			
授業科目名 <英訳>	キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	獨協大学外国語学部 非常勤講師 岡崎 龍		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目					
[授業の概要・目的]					
<p>シュライアマハーの初期の主著、『宗教論』の第五講義「諸宗教について」の講読を行う。前期の講読で扱われる同書第二講義では、個々人の主体性や内面性を重んじた、多元主義的な宗教観が展開されるのに対して、後期に扱う第五講義は、一転してキリスト教中心主義的な議論に終始しているように見え、既に同時代にもゲーテの不興を買ったテキストである。実際にそのアクチュアリティを強調する現代の同書の受容においても、第五講義に言及されることはまれである。本授業では、テキストに沿って読み進めることで「諸宗教について」の意義を考えてみたい。</p> <p>この授業では毎回、決められたテキストの範囲を講読する。出席者は必ず予習をしておくことが求められる。一人一文ずつ訳読をしてもらい、一段落が終わるごとに(長大な段落については適当なところで区切ることがある)内容についての議論を行う。</p>					
[到達目標]					
<p>「宗教の宗教」と規定されるキリスト教についてのシュライアマハーの考え方や、宗教の歴史的展開という彼の思想の意義を自分なりにパラフレーズできるようになることを目標とする。また、テキストそのものの理解に加えて、参加者との議論を通じて、自身の解釈を深めるための技法を身に付けることを目標とする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 オリエンテーション シュライアマハーの人物と授業方針、前期に扱った内容について簡単に復習し、講読に入る。</p> <p>第2回 『宗教論』講読(1) 宗教の多元性再考</p> <p>第3回 『宗教論』講読(2) 教会の多元性と宗教の多元性</p> <p>第4回 『宗教論』講読(3) 実定宗教への憎悪</p> <p>第5回 『宗教論』講読(4) 自然宗教の批判</p>					
----- キリスト教学(演習)(2)へ続く -----					

キリスト教学 (演習)(2)

第6回 『宗教論』 講読 (5)
宗教の形式と内容

第7回 『宗教論』 講読 (6)
宗教における個体化

第8回 『宗教論』 講読 (7)
自然主義 - 汎神論 - 理神論

第9回 『宗教論』 講読 (8)
宗教と歴史

第10回 『宗教論』 講読 (9)
ユダヤ教

第11回 『宗教論』 講読 (10)
キリスト教 (1) 宗教を対象とする宗教

第12回 『宗教論』 講読 (11)
キリスト教 (2) キリスト教における仲保者

第13回 『宗教論』 講読 (12)
キリスト教 (3) キリスト教と宗教の多元性

第14回 『宗教論』 講読 (13)
キリスト教 (4) キリスト教における宇宙の直観

第15回 『宗教論』 講読 (14)
キリスト教 (5) 宗教が不要になるとき

講読の進度は各回概ね 1 ~ 2 ページ程度を予定している。

[履修要件]

ドイツ語の基礎を修得しておくこと。

キリスト教学 (演習)(3)へ続く

キリスト教学 (演習)(3)

[成績評価の方法・観点]

訳読発表により評価する。

[教科書]

Friedrich Daniel Ernst Schleiermacher 『Ueber die Religion. Reden an die Gebildeten unter ihren Veraechtern』 (Felix Meiner, 2004) ISBN:978-3-7873-1690-6 (他の版の使用を妨げるものではありません。議論がしやすいように、事前に段落番号をふっておいてください。)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回、時間をかけて講読箇所を文法構造に注意して予習してください。
可能であれば、授業が始まる前に同書第四講義までを邦訳などで目を通しておくことで講読内容の理解が深まります。また、上述のように前期には同書第二講義を扱いますので、連続して履修することで学習効果の向上が見込まれます。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学71

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 稲本 泰生		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東アジア仏教美術研究				
【授業の概要・目的】					
<p>東アジアで制作された仏教美術の遺品から重要な作例を取り上げて、関連する諸資料を参照しつつ意味内容を読み解き、派生する問題に検討を加える。考察にあたっては「仏教美術が宗教美術であること」「東アジアにとって仏教が外来宗教であること」に特に留意し、最新の研究成果を反映して、造形作品や視覚イメージの生成・伝播等の実態を構造的に把握することをめざす。</p>					
【到達目標】					
<p>近年の東アジア仏教美術研究における主要な論点について理解を深め、考察を行うための足がかりを得る。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>本年度後期は中国北宋時代の仏教美術を取り上げ、近年注目を集めているいくつかの論点に即してその史的意義を検討するとともに、研究動向の把握と展望を行う。ただし担当者の方針と受講者の背景や理解の状況に応じ、各区分の回数や順序は変更する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．本講義の視点と問題意識【1～2週】 2．北宋仏教美術の形成・展開に関する諸問題【4～5週】 3．北宋時代における中国・インド間の文化交流と仏教美術の関係性【4～5週】 4．北宋仏教美術の東アジア諸地域への波及【3～4週】 5．フィードバック【1週】 					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>期末のレポートにより評価する。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。</p>					
【教科書】					
使用しない					
----- 美学美術史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する
必要な資料を配付する。

[授業外学修(予習・復習)等]

仏教美術鑑賞の基礎知識を得ておくこと。授業の前後を問わず、美術全集や各種図録を通して、また博物館や社寺において、作品に親しむ機会を積極的に作ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学72

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 浅井 佑太		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	20世紀「新音楽」の道なき道 (1)				
[授業の概要・目的]					
<p>「新音楽」(独)あるいは、「前衛」「現代音楽」(仏・英)と言った標語が示すように、20世紀の芸術音楽の歴史は、「新しい」音楽をめぐる物語として読み替えることができる。しかしながら、進歩主義を時代の信条としていた19世紀とは異なり、20世紀の音楽史における「新しさ」は、必ずしも、作曲技法上の進歩や革新と同一視できるものではない。むしろ、何をもって「新しい」音楽とするかは、作曲家の世代や主義によって大きく異なり、その総体としてのみ「新音楽」の実態は描きうるものなのである。本講義では、新音楽の背景にある美学的・歴史的な要因を明らかにすることで、この「多様な」新しさの核心に迫る。</p>					
[到達目標]					
個別事例を越えて受講者が内容を自身の「問題」として理解することを期待する。					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進度、受講生の事前知識などに応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>1回：「新音楽」とは何か？ 20世紀音楽における「新しさ」の諸問題</p> <p>2-3回：第一次世界大戦と「大きな物語」の終わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造力を失う作曲家たち(エルガー、シベリウス、ラヴェル、ラフマニノフ) ・挫折する前衛？(シェーンベルク、ストラヴィンスキー、バルトーク) <p>4-7回：ヴァイマル共和国誕生と大衆の時代のはじまり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帝政の終わりと民主主義の誕生 ・戦争帰りの若者たち：ヒンデミット、クルシェネク、ヴァイル、アイスラー、そしてヒトラー ・19世紀ロマン派からの脱却：ベートーヴェンとワーグナーへの反発 <p>8-11回：新音楽の栄光と危機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度化される新音楽：私的演奏協会(1918-21) ドナウエッシンゲン音楽祭(1921-)、国際現代音楽協会(1922-) ・一般聴衆の不在 ・解離する「クラシック音楽」と「現代音楽」 ・大衆文化の可能性：映画、ラジオ、レコード <p>12-15回：芸術は大衆のためにありうるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい新音楽？ ・社会的に有用な新音楽(実用音楽・政治参加型の音楽) ・新しいテクノロジーへの適応(映画、自動演奏楽器のための音楽) 					
----- 美学美術史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

片方だけの受講を妨げるものではないが、前・後期で一続きの内容として構想している。

[成績評価の方法・観点]

レポートによる。評価は到達目標の達成度に基づく。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

岡田暁生 『西洋音楽史』(中公新書)

岡田暁生 『「クラシック音楽」はいつ終わったのか?』(人文書院)

浅井佑太 『作曲家・人と作品 シェーンベルク』(音楽之友社)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学73

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 浅井 佑太		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	20世紀「新音楽」の道なき道 (2)				
【授業の概要・目的】					
<p>「新音楽」(独)あるいは、「前衛」「現代音楽」(仏・英)と言った標語が示すように、20世紀の芸術音楽の歴史は、「新しい」音楽をめぐる物語として読み替えることができる。しかしながら、進歩主義を時代の信条としていた19世紀とは異なり、20世紀の音楽史における「新しさ」は、必ずしも、作曲技法上の進歩や革新と同一視できるものではない。むしろ、何をもって「新しい」音楽とするかは、作曲家の世代や主義によって大きく異なり、その総体としてのみ「新音楽」の実態は描きうるものなのである。本講義では、新音楽の背景にある美学的・歴史的な要因を明らかにすることで、この「多様な」新しさの核心に迫る。</p>					
【到達目標】					
個別事例を越えて受講者が内容を自身の「問題」として理解することを期待する					
【授業計画と内容】					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進度、受講生の事前知識などに応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>1回：「新音楽」とは何か？ 20世紀音楽における「新しさ」の諸問題（前期の授業の振り返り）</p> <p>2-5回：フランス音楽の状況とドイツへの影響（1917-1925）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストラヴィンスキーの新古典主義と「歴史との対話」としての音楽 ・ドイツからの脱走：サティ、コクトー、フランス六人組（ミヨー、プーランク、オネゲル、タイユフェール、デュレ、オーリック） ・職人としての作曲家：ストラヴィンスキーと六人組 <p>6-10回：世代間闘争：シェーンベルクと若者たちの争い（1925-1930）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シェーンベルクの十二音技法と進歩の継続 ・若者たちの進んだ道：ヒンデミット、クルシェネク、ヴァイル、アイスラー ・ヒンデミットとアマチュアのための音楽 ・アイスラーの政治参加：労働者合唱団とアジトプロップ ・劇場という可能性：ヴァイル《三文オペラ》とクルシェネク《ジョニーは演奏する》 <p>11-13回：「政治」という物語：ナチス政権の誕生と新音楽の運命</p> <p>14-15回：音楽は国境を越える？ 亡命する作曲家たち（シェーンベルク、ストラヴィンスキー、バルトーク、ヒンデミット、アイスラー、クルシェネク、ヴァイル、ミヨー）</p>					
【履修要件】					
片方だけの受講を妨げるものではないが、前・後期で一続きの内容として構想している。					
【成績評価の方法・観点】					
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。					
----- 美学美術史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

岡田暁生 『西洋音楽史』 (中公新書)

岡田暁生 『「クラシック音楽」はいつ終わったのか?』 (人文書院)

浅井佑太 『作曲家・人と作品 シェーンベルク』 (音楽之友社)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学74

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都市立芸術大学美術学部 教授 加須屋 明子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代美術研究				
[授業の概要・目的]					
<p>多様化する同時代における、現代美術の様々なありかたを考察する。具体的には、60年代以降のいわゆる現代美術の諸様相を検討しつつ、とりわけ近年顕著になった社会的関与芸術の成り立ち、それがどのように社会状況と関わりながら美術が変容してきたのかを考える。</p>					
[到達目標]					
<p>現代美術の成り立ちについて理解し、西欧諸国のみならず、旧東欧地域における美術の様相について基本的事項を知り、同時代の芸術表現について積極的に関わり、論述する姿勢を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業概要, ガイダンス 1 2 ガイダンス 2 3 参加のアクション 4 社会主義の内側 1 5 社会主義の内側 2 6 プラハ 7 スロヴァキア 8 公共空間 9 モスクワ 10 反体制 11 芸術家斡旋グループ 12 イノ70展 13 斡旋、70年代とその後 14 コミュニティー・アート 15 まとめ 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
評価方法： レポート					
[教科書]					
使用しない 適宜、プリント資料等を共有する。					
----- 美学美術史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

クレア・ビショップ 『人工地獄』 (フィルムアート)

加須屋明子 『現代美術の場としてのポーランド』 (創元社)

山本浩貴 『現代美術史』 (中央公論新社)

アーサー・C. ダントー他 『アートとは何か: 芸術の存在論と目的論』 (人文書院)

加須屋明子 (編著) 『芸術と社会』

[授業外学修 (予習・復習) 等]

積極的な予習復習を歓迎します

(その他 (オフィスアワー等))

質問等はメールで kasuya@kcuu.ac.jp まで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学75

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 増記 隆介		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	平安仏画の諸問題				
[授業の概要・目的]					
<p>平安時代に制作された仏画は、その後の日本美術史の展開において「古典」としての位置を占めた。その歴史的展開、及び特質を理解することは、日本美術史の流れを把握するための重要な視点を提供する。本講義では、平安時代における仏画製作の実態を唐宋美術の展開をも視野に納めながら概観する。具体的には、平安時代前期、中期、後期、それぞれの時期を代表する作例を取り上げながら、それらの様式的位置、図像検討を通じた宗教史的な意義について考察し、平安仏画の歴史の概要を把握し、日本美術史展望の足場を築くことを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>仏教絵画史の基本的な知識を得るとともに、仏典（言葉）と画像との関係を分析する方法、また、時代様式を検討する具体的な方法について、特に東アジア美術史の視点から、中国・唐宋時代のそれとの比較の方法を学びながら、より広い視野から日本美術史を考える視点を養うことを目的とする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 ガイダンス 第2回 参考文献と文献史料の取り扱い 第3回 平安仏画の流れ1 第4回 平安仏画の流れ2 第5回 平安時代の仏画製作 第6回 平安時代の仏画修理 第7回 「高雄曼荼羅」と9世紀初期の絵画 第8回 「伝真言院曼荼羅」と9世紀後期の絵画 第9回 10世紀における転換 第10回 裔然が見た唐宋絵画 第11回 青不動と11世紀初期の絵画 第12回 応徳涅槃図と11世紀後期の絵画 第13回 十二天像と12世紀初期の絵画 第14回 孔雀明王像の唐と宋 第15回 普賢菩薩像と12世紀の絵画</p>					
----- 美学美術史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポート課題(100%)。
評価にあたっては、授業で獲得したいいずれかの視点を各自自由に選んだ具体的な作例やテーマに応用し、実証と先行研究に基づいて自らの見方で論じる。

【教科書】

授業中に指示する
第2回の講義において、平安絵画史全般に関する主要な参考文献を指示するとともに、講義時にレジュメを配布し、各テーマに関する参考文献を提示する。

【参考書等】

(参考書)

奈良国立博物館 『平安仏画 日本美の創成』(奈良国立博物館,1986)
有賀祥隆 『仏画の鑑賞基礎知識』(至文堂,1991)
増記隆介 『院政期仏画と唐宋絵画』(中央公論美術出版,2015)

【授業外学修(予習・復習)等】

展覧会等を通じてできるだけ多くの仏画作品を実見すること。
講義の前に平安時代の歴史に関する基本的な概説書等を読み、平安時代史の基礎的な知識を持つておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

メールアドレス、連絡手段など初回授業で伝達する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学76

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 武田 宙也		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	芸術生成論				
【授業の概要・目的】					
芸術の存在あるいは生成という主題をめぐって、とりわけ現代美術や現代思想におけるアクチュアルな議論を参照しつつ探究する。					
【到達目標】					
各自の研究テーマとのかかわりの中で、広義の芸術あるいは創造行為が果たす役割について知見・洞察を深めること。					
【授業計画と内容】					
<p>1. 現代の芸術あるいは美学にかかわる問題を象徴的に表している議論や事例を取り上げ、論述する。</p> <p>2. 受講者が各自の研究テーマとの関連においてこれを引き受け、考察を行う。</p> <p>3. それぞれの考察に対して、上の議論とのかかわりから、あるいはより広い美学・芸術学の見地からコメント・論評を行う。</p> <p>4. 講義で扱われたテーマで論文を書くとしたらどのような形が可能であるか、各自の研究の進展状況を踏まえつつ指導する。</p> <p>授業では以下のような項目を取り扱うことを予定している。1) 狂気と創造性の歴史、2) 神的狂気、3) 「阿呆船」、4) 舞台に登場する道化、5) 理性と狂気、6) 狂気と文学、7) 狂気と規律化、8) 狂気と異常、9) 天才と狂気、10) アル・ブリュット、11) 草間彌生と芸術の境界、12) 前衛/アウトサイダー、13) アートワールドにおける内外の問い直し、14) 「病を生きる」こと。具体的な講義の進め方については適宜指示を行う。15週目はフィードバックとする。</p>					
【履修要件】					
後期の連続的な履修が望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。平常点には、授業への参加状況、授業内での報告および議論の内容を含む。					
【教科書】					
使用しない 適宜、資料を配付する。					
----- 美学美術史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内で紹介した文献を読んでくること。また、授業後はノートや配布物を読み直して論点整理を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学77

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 武田 宙也		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	芸術生成論				
[授業の概要・目的]					
芸術の存在あるいは生成という主題をめぐって、とりわけ現代美術や現代思想におけるアクチュアルな議論を参照しつつ探究する。					
[到達目標]					
各自の研究テーマとのかかわりの中で、広義の芸術あるいは創造行為が果たす役割について知見・洞察を深めること。					
[授業計画と内容]					
<p>1. 現代の芸術あるいは美学にかかわる問題を象徴的に表している議論や事例を取り上げ、論述する。</p> <p>2. 受講者が各自の研究テーマとの関連においてこれを引き受け、考察を行う。</p> <p>3. それぞれの考察に対して、上の議論とのかかわりから、あるいはより広い美学・芸術学の見地からコメント・論評を行う。</p> <p>4. 講義で扱われたテーマで論文を書くとしたらどのような形が可能であるか、各自の研究の進展状況を踏まえつつ指導する。</p> <p>授業では以下のような項目を取り扱うことを予定している。1) ロマン主義美学の基本形、2) 崇高、3) 芸術と真理、4) ロマン主義美術、5) 20世紀美術における反ロマン主義、6) デュシャン、7) 「作者の死」、8) 20世紀美術におけるロマン主義の残存、9) 「不可視なもの」の可視化、10) リオータルと前衛的崇高、11) 抽象の宗教性、12) 現代美学におけるロマン主義批判、13) バディウと「非美学」、14) 「試作品」としての芸術。具体的な講義の進め方については適宜指示を行う。15週目はフィードバックとする。</p>					
[履修要件]					
前期の連続的な履修が望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。平常点には、授業への参加状況、授業内での報告および議論の内容を含む。					
----- 美学美術史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
適宜、資料を配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内で紹介した文献を読んでくること。また、授業後はノートや配布物を読み直して論点整理を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学78

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 筒井 忠仁		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	新・学芸員論				
[授業の概要・目的]					
<p>2022年、ICOM (国際博物館会議) プラハ大会において、新しい博物館の定義が採択された。これは、博物館の新時代の到来を予感させるものであった。</p> <p>新しい博物館には新しい学芸員の在り方が求められる。ただしそれは、過去の学芸員の活動を否定するものではなく、これまでの博物館活動を踏まえた上で、次の時代を形作るものではない。</p> <p>本講義は、21世紀の博物館の在り方を見据えながら、次世代の学芸員が何を知り、何をを行い、何を社会にもたらすべきかについて考察するものである。</p>					
[到達目標]					
学芸員の具体的な業務について理解を深め、業務遂行に必要な基礎 (予備) 知識を修得する。					
[授業計画と内容]					
<p>1 序論 2 1世紀の博物館 2 学芸員とは何か 3~5 展覧会はいかにあるべきか 6~8 コレクションはどう管理するべきか 9~11 コレクションの収集は可能か 12~14 社会への還元はいかに行うべきか 15 まとめ</p> <p>各テーマの回数は流動的で、受講生の理解度に応じて変更する。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>授業中の発言内容 (70%) と期末のレポート (30%) により評価する。</p> <p>授業中の発言は、簡潔で鋭い指摘のもの、重要な論点を提示したものを評価する。</p> <p>レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。</p>					
[教科書]					
使用しない					
----- 美学美術史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する展覧会等を各自観覧し、実作品に触れる機会を作ること。

(その他(オフィスアワー等))

・授業は毎回双方向的に行うため、受講者には授業中の積極的な発言が求められます(必ずしも口頭ではなく主にPandA等を通じたコメント)。グループワークや作業が求められる場合もあります。

・授業中にPandAを使用するつもりなので、パソコンやスマホでPandAにアクセスできる状態で受講してください。

・学芸員資格取得のための単位とは無関係です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学79

科目ナンバリング	G-LET09 65731 LJ34				
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 筒井 忠仁		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世絵画研究 長澤蘆雪を視る				
[授業の概要・目的]					
<p>絵画を視る方法に決まりはない。しかし、ただ漠然と見るだけでは、作品の理解を深めることはできない。この授業は、「視る」という行為に焦点を当て、作品を視ることにより何が理解でき、何が理解できないのかを、実践を通じて考えるものである。</p> <p>具体的に扱うのは、江戸時代の画家長澤蘆雪の作品である。長澤蘆雪の代表作を視て、様々な情報を読み取り、それに基づいて議論し、視るという行為の意味について問いなおすことが本授業の目的である。</p> <p>この授業で目指すのは、既存の解釈の再確認ではない。これまで提起されていなかった論点を見出すことが、本授業の最終的な目標地点となるだろう。</p>					
[到達目標]					
近世絵画に関する基礎知識を身に付けるとともに、美術作品を注意深く視ることで、どのような情報を読み解くことが出来るかを理解する。					
[授業計画と内容]					
以下の作品を取り上げ、スライドで作品を視ながら議論を行う。なお、講義の内容や順序は固定したのではなく、受講者の背景や理解の状況に応じて変更することがある。					
<ol style="list-style-type: none"> 1 序論 2 長澤蘆雪の概要 3 無量寺障壁画 4 草堂寺・群猿図屏風 5 高山寺障壁画 6 白象黒牛図屏風 7 海浜奇勝図屏風 8 唐美人図 9 巖上猿図 10 山姥図 11 月夜山水図 12 大仏殿炎上図 13 踏図 14 方寸五百羅漢図 15 まとめ 					
----- 美学美術史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中の発言（50％）および期末のレポート（50％）により評価する。
発言は、鋭い指摘をしたもの、興味深い論点を示したものを評価する。
レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介する展覧会等を各自観覧し、実作品に触れる機会を作ること。

（その他（オフィスアワー等））

・授業は毎回双方向的に行うため、受講者には授業中の積極的な発言（必ずしも口頭ではなく主にPandA等を通じてのコメント）が求められます。

・授業中にPandAを使用するつもりなので、パソコンやスマホでPandAにアクセスできる状態で受講してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学80

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 松永 伸司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代文化と芸術存在論				
[授業の概要・目的]					
<p>芸術存在論 (ontology of art) は、現代英語圏の芸術哲学 (いわゆる分析美学) の一分野である。芸術存在論では、芸術作品や芸術的パフォーマンスがどのようなあり方で存在しているのか (それらはどんな種類の存在者なのか)、芸術形式ごとに作品の存在のあり方はどのように異なるのか、作品の同一性は何によって決まるのか、といった問題が論じられる。</p> <p>従来の芸術存在論で扱われてきたのは、主に音楽 (クラシック音楽) や文学や絵画・彫刻のようなオーソドックスな芸術形式だった。一方で、現代の文化 (とりわけポピュラーカルチャー) の中には、きわめて多様な文化形式のアイテムがある (「芸術」と呼びづらいようなものも含め)。</p> <p>この講義では、そうした現代の諸文化形式のアイテムがそれぞれどのようなあり方で存在しているのかについて、芸術存在論の観点と道具立てを使って考えてみたい。</p> <p>芸術存在論は、それ自体としては純粋に哲学的な関心でなされるものだが、作品の批評、作品の修復や保存、贋作と真作の区別、さらには著作権のような作品の法律上の取り扱いといった実践的な諸問題にも直結する。</p> <p>授業の目的は、一方では芸術存在論を通して現代文化の一面を明らかにすることにあるが、もう一方では現代文化にそれを適用することを通して芸術存在論の有用さと不十分さをはっきりさせることにもある。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術存在論の基本的な考え方と概念を理解する。 ・ 諸々の芸術形式の存在論的な違いを理解する。 ・ 現代文化を存在論の枠組みから眺める視点を得る。 ・ 芸術存在論の実践的な意義や応用可能性を理解する。 					
[授業計画と内容]					
第1回	ガイダンス				
第2回	芸術存在論の問いとモチベーション				
第3回	芸術存在論の基本概念				
第4回	音楽の存在論				
第5回	ポピュラー音楽の存在論				
第6回	ピエール・メナールのケース				
第7回	贋作について				
第8回	「未完の作品」について				
第9回	デジタル画像の存在論				
第10回	ビデオゲームの存在論				
美学美術史学 (特殊講義)(2)へ続く					

美学美術史学 (特殊講義)(2)

- 第11回 フィクショナルキャラクターの存在論
- 第12回 VTuberの存在論
- 第13回 生成AIと芸術存在論
- 第14回 「アウラ」とブロックチェーン
- 第15回 フィードバック

授業の進み具合によって各回の順番や内容が変わる可能性がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点：50%

期末レポート：50%

・平常点は、毎回授業後に求めるリアクションペーパーの提出とその内容によってカウントする。リアクションペーパーによるやりとりも授業の重要なパートとして考えるので、疑問や気になることがあれば積極的に書いてください。

・期末レポートは、「独特の存在のあり方をしていると思われるアイテムを挙げ、それを授業内で示された考え方と関係づけながら説明しなさい(字数自由)」のような課題になる予定。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

参考文献はできるだけ示すので、関心のあるトピックは自分で文献を読んで学習してください。

(その他(オフィスアワー等))

わからないことなどがあれば気軽に質問してください。いろいろ聞いてもらえたほうが授業をする側としてはありがたいです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学81

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 杉山 卓史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	美学史研究・講読編ーベーム兄弟『理性の他者』を読むー				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業では、哲学的美学にかんするドイツ語文献の講読を通じて、ドイツ語の実践的読解力を養うとともに、美学の諸問題について理解を深めることを目指す。今学期は、ベーム兄弟(Gernot Böhme, 1937-2022; Hartmut Böhme, 1944-)の『理性の他者』(1983年)を講読し、カントをはじめとする18世紀の思想家たちの「他者」観を探る。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語で書かれた美学の古典を的確に読解する能力を習得する。 ・美学/美術史学史についての知見を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回導入 (講読予定のテキストおよび参考文献を紹介・解説し、授業の進め方と準備の方法を周知する)</p> <p>第2~13回講読 (テキストを輪読し、その内容について議論する。受講者の人数およびドイツ語読解能力によって進度は大きく異なるため、毎回の予定を示すことはできないが、最初は一人一段落くらいのペースで進める。慣れてきたら、担当者を決めて一定範囲の翻訳と注解をまとめて提示してもらう形式に切り替えることもある)</p> <p>第14回まとめと補足</p> <p>第15回フィードバック</p>					
[履修要件]					
ドイツ語の初級文法を習得していること (程度に差はあれ、辞書があればドイツ語の文章が読解できること)。					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点 (毎回の訳読および議論への参加状況) 60% + 期末レポート (未読箇所全訳または講読内容に関連する独文エッセイ) 40%によって評価する。</p> <p>理由のいかんを問わず総授業回数の1/3以上を欠席した者には、単位認定を行わない。</p>					
----- 美学美術史学 (演習II)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (演習II)(2)

[教科書]

Gernot und Hartmut Böhme 『Das Andere der Vernunft』 (Suhrkamp, 1985) ISBN:3518281429 (1985年刊のstw版より、講読箇所のコピーを配布する。)

[参考書等]

(参考書)

相原博 『カントと啓蒙のプロジェクト』 (法政大学出版局、2017年) ISBN:9784588150845
その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

講読箇所を翻訳して授業に臨むこと。単に日本語に置き換えるだけでなく「なぜそう訳したのか」と問われて答えられるようにしておくこと。不明点はどこか (文法なのか語意なのか内容なのか) を可能な限り明確にし、授業中にその疑問を解消するよう努めること。

(その他 (オフィスアワー等))

ラジオやテレビ、インターネット、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のドイツ語能力の向上にも努めてほしい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学82

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 平川 佳世		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	絵画作品の解釈について				
[授業の概要・目的]					
本演習では、美術史に関するドイツ語文献の講読を通じて、ドイツ語の実践的読解力を養うとともに、美術史の諸問題について理解を深めることを目指す。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語で執筆された美術史に関する専門的な文献を読解する能力を習得する。 ・美術史学における基礎的な思考法についての知見を得る。 ・基礎的な思考方法を発展させて、実際に絵画解釈を行う能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>本年度も、引き続き、Oskar Baetschmann, Einfuehrung in die kunstgeschichtliche Hermeneutik(Darmstadt, 1986; 2001)の精読を通じて、「絵画作品の解釈」をめぐる諸問題について理解を深めることをめざす。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 講読テキストの概要について説明するとともに、参考文献や自習に役立つ学術サイトなどを紹介し、授業の進め方と準備の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第14回 テキストの精読 イントロダクションで示した方式によって、上記テキストを精読し、内容についても討議する。担当者の習熟度によって進度は大きく異なるため毎回の予定を示すことはできないが、少なくとも1回の授業につき1度は各受講生に精読発表の機会を与えられるよう、適宜調整を行う。理解が困難な専門用語や歴史的事象については、補足説明を行う。なお、おおよその講読内容は次の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図像学と図像解釈学の成果と問題点 ・絵画構造の分析 ・造形作品の「意味」の多層性 <p>等々</p> <p>《期末試験》</p> <p>第15回 フィードバック (詳細は授業中に説明します)</p>					
[履修要件]					
ドイツ語の初級文法を独学でもよいので習得していること。					
----- 美学美術史学 (演習II)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (演習II)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（毎回の訳読および議論への参加状況）50% + 期末試験50%。
授業を4回以上欠席した場合には、原則として、単位認定を行わない。

[教科書]

授業中に指示する
初回の授業時に、講読テキストを配布します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業には十分な予習をもって臨むこと。また、テレビ、ラジオ、インターネット、映画などを通じて、ドイツ語に親しむよう心がけること。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業の前後、またはメールやPandAを用いたZOOM面談などにより、随時受付ます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 天王寺谷 千裕		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19世紀フランスの美術批評を読む				
【授業の概要・目的】					
<p>本演習では、西洋美術史に関するフランス語文献の講読をおこないます。講義を通じて、フランス語の実践的読解力を高めると同時に、西洋美術史の諸問題について考察することを目指します。</p> <p>講読する文献は以下です。 Théophile Gautier, Christine Sagnier(ed.), Courbet, le Watteau du laid, Paris, Séguier, 2000. 19世紀に執筆された美術批評を精読し、当時の美術界の様相や構造、批評システムに関する知見を深めます。また、一次文献に触れることで、当該時期の批評にみられる独特な表現にも慣れていきましょう。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋美術史に関するフランス語の専門書を読むために必要な読解力を習得する。 ・ 19世紀フランスの美術システムについて知見を深める。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 ガイダンス テキストの概要、参考文献、予習方法、評価方法などの授業の基本方針を説明します。テキストのコピーを配布するので、受講を希望する人は必ず初回に出席してください。</p> <p>第2～14回 指定書籍を受講者で一文ずつ輪読します。進み具合は受講者の習熟度により異なりますが、適宜、画像を使いながら作品解説を行うほか、文法事項や専門用語に関して説明を加えます。</p> <p>第15回 フィードバック (授業内で詳細をお伝えします。)</p>					
【履修要件】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中級以上のフランス語知識を身につけていることが望ましい。 					
【成績評価の方法・観点】					
<p>平常点 (授業での訳読および議論への参加度) 50点、期末レポート (自分の専門分野に関わる論文の翻訳) 50点</p> <p>原則として、4回以上欠席した場合は単位を認めません。</p>					
----- 美学美術史学 (演習II)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (演習II)(2)

遅刻・早退は欠席扱いとします。

【教科書】

初回にテキストのコピーを配布します。

Théophile Gautier, Christine Sagnier(ed.), Courbet, le Watteau du laid, Paris, Séguier, 2000.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

授業中に随時参考文献を紹介します。

【授業外学修(予習・復習)等】

各授業内にて、次回の講読箇所をお伝えします。

授業参加の前に各自でテキストを精読し、単語や文法事項を調べ、適切な日本語訳文をつかった上で参加してください。

本文中で参照する固有名詞や図版に関しても事前に調べてください。

(その他(オフィスアワー等))

質問等は授業中およびその前後、またはメールでも受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学84

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 天王寺谷 千裕		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	19世紀フランスの美術批評を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習では、西洋美術史に関するフランス語文献の講読をおこないます。講義を通じて、フランス語の実践的読解力を高めると同時に、西洋美術史の諸問題について考察することを目指します。</p> <p>講読する文献は以下です。 Théophile Gautier, Christine Sagnier(ed.), Courbet, le Watteau du laid, Paris, Séguier, 2000. 19世紀に執筆された美術批評を精読し、当時の美術界の様相や構造、批評システムに関する知見を深めます。また、一次文献に触れることで、当該時期の批評にみられる独特な表現にも慣れていきましょう。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋美術史に関するフランス語の専門書を読むために必要な読解力を習得する。 ・ 19世紀フランスの美術システムについて知見を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 ガイダンス テキストの概要、参考文献、予習方法、評価方法などの授業の基本方針を説明します。テキストのコピーを配布するので、受講を希望する人は必ず初回に出席してください。</p> <p>第2～14回 指定書籍を受講者で一文ずつ輪読します。進み具合は受講者の習熟度により異なりますが、適宜、画像を使いながら作品解説を行うほか、文法事項や専門用語に関して説明を加えます。</p> <p>第15回 フィードバック (授業内で詳細をお伝えします。)</p>					
[履修要件]					
フランス語の中級以上の知識を習得していること。					
----- 美学美術史学 (演習II)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (演習II)(2)

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業での訳読および議論への参加度）50点、期末レポート（自分の専門分野に関わる論文の翻訳）50点

原則として、4回以上欠席した場合は単位を認めません。
遅刻・早退は欠席扱いとします

【教科書】

初回にテキストのコピーを配布します。
Théophile Gautier, Christine Sagnier(ed.), Courbet, le Watteau du laid, Paris, Séguier, 2000.

【参考書等】

（参考書）
適宜授業中に紹介します。

【授業外学修（予習・復習）等】

各授業内にて、次回の講読箇所をお伝えします。
授業参加の前に各自でテキストを精読し、単語や文法事項を調べ、適切な日本語訳文をつかった上で参加してください。
本文中で参照する固有名詞や図版に関しても事前に調べてください。

（その他（オフィスアワー等））

- ・質問や相談は、授業前や授業中に、あるいはメールでも受け付けます。
- ・ラジオやオンライン教材、講演会などを活用し、実践的なフランス語運用能力を養う機会を積極的に設けてください

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学85

科目ナンバリング	G-LET09 75745 SJ34				
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 平川 佳世		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	肖像画の諸問題：15世紀のイタリアを中心にして				
[授業の概要・目的]					
本演習では、美術史に関するイタリア語文献の講読を通じて、イタリア語の実践的読解力を養うとともに、美術史の諸問題について理解を一層深めることを目指す。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・美術史に関するイタリア語専門文献を的確に読解する能力を養う。 ・テキストの内容を吟味し、問題意識を持って批判的に専門文献を読む力を身につける。 ・西洋美術史の専門用語・基礎的知識を習得し、それらを応用して他の事象についても考察する能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
本年度も昨年度に引き続き、Enrico Castelnuovo, <i>Ritratto e Societa in Italia</i> , curato da F. Crivello e M. Tomasi, Torino, 2015などの講読を通じて、肖像画について多角的に理解することを目指す。本年度は特に初期ルネサンス期の肖像画について、テキストを読解しつつ考察する。					
<p>第1回 イン트로ダクション 講読テキストの概要について説明する。参考文献や自習に役立つ学術サイトなどを紹介し、授業の進め方と準備の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第14回 肖像画に関する諸論文の精読 イントロダクションで示した方式によって、上記テキストを精読し、内容についても討議する。担当者の習熟度によって進度は大きく異なるため毎回の予定を示すことはできないが、少なくとも1週ないし2週に1度は各受講生に精読発表の機会を与えられるよう、適宜調整を行う。理解が困難な専門用語や歴史的事象については、補足説明を行う。</p> <p>定期試験</p> <p>第15回 フィードバック (フードバックの方法は授業中に説明します)</p>					
[履修要件]					
<ul style="list-style-type: none"> ・初級のイタリア語を習得していること。 ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識を持ち、未知の用語は事前に調べるなどして、積極的に授業に参加してほしい。 					
----- 美学美術史学 (演習II)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (演習II)(2)

【成績評価の方法・観点】

平常点（出席状況および担当箇所の精読の発表、50％）と期末試験（50％）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。

- ・授業を欠席した場合は、減点の対象となる可能性がある。
- ・原則として、授業を4回以上欠席した場合には、単位を認めない。
- ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

【教科書】

講読テキストは授業中に配付する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の準備として、各自テキストを精読し、不明な単語は調べておくこと。また、文法構造を正しく理解するよう努め、適切な日本語に翻訳する作業を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

ラジオやテレビ、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のイタリア語能力の向上にも努めましょう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 呉 孟晋		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国・清時代の絵画の諸相				
[授業の概要・目的]					
<p>前期の講義の続きとして、中国・清時代後半の絵画を中心とする美術の諸相を概観する。個性的な文人画家たちのあつまりである「揚州八怪」や、清末上海の新興富裕層に人気を博した近代的な海上派など、おもに乾隆期から光緒期までに制作された特徴的な絵画を紹介する。各回とも講義レジュメを配布し、それにもとづいて関連する作品を紹介する。受講者の関心にそって、適宜、内容を追加したり討議も交えたりすることで、日本もふくめた東アジア美術史にたいする理解を深めてもらうことをめざす。</p>					
[到達目標]					
<p>中国・清時代に展開した絵画を中心とする視覚芸術の様相について多面的な理解を深めることで、中国のみならず日本をふくめた東アジア美術史など、関連分野での研究にもその知見を活かすことができるようにする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の計画にそって講義をすすめる。ただし前期からの講義のすすみぐあいや受講者の関心などに応じて、順序や同一主題の回数を変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに (講義のすすめ方など) 2. 沈南蘋と日本の南蘋派 3. 来舶清人の書画 (1) 4. 同 (2) 5. 揚州八怪について (1) 6. 同 (2) 7. 同 (3) 8. 嘉慶・道光期の絵画 (1) 9. 同 (2) 10. 清時代後期の書跡 11. 清末海上派について (1) 12. 同 (2) 13. 同 (3) 14. 清末の来日文人について 15. まとめ 					
[履修要件]					
特になし					
----- 美学美術史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート：7割、授業参加状況（討議への積極的な参加を評価）と小課題（レポート1回）：3割として評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
前期と同じ。

[授業外学修（予習・復習）等]

博物館や美術館などで美術作品に親しんでもらいたい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学87

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 呉 孟晋		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国・清時代の絵画の諸相				
[授業の概要・目的]					
<p>中国の清時代は、今日、「中国文化」として知られる文化・芸術の規範や様式が定まった時代であった。とくに絵画では、「四王呉惲」とよばれる画家たちによる「正統」的な山水画が確立し、乾隆期を頂点として治世の安寧を表わす宮廷画も多く描かれた。この講義では、黄檗の書画や「南画」とよばれる文人画といった江戸時代の日本絵画が受けた影響にも注意しながら、清時代前半の絵画の様相をみてゆきたい。各回とも講義レジュメを配布し、それにもとづいて関連する作品を紹介する。受講者の関心にそって、適宜、内容を追加したり討議も交えたりすることで、東アジア美術史にたいする理解を深めてもらうことをめざす。</p>					
[到達目標]					
<p>中国・清時代に展開した絵画を中心とする視覚芸術の様相について多面的な理解を深めることで、中国のみならず日本をふくめた東アジア美術史など、関連分野での研究にもその知見を活かすことができるようにする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の計画にそって講義をすすめる。ただし講義のすすみぐあいや受講者の関心などに応じて、順序や同一主題の回数を変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに (講義のすすめ方など) 2. 明末清初の書画 3. 石濤と八大山人 4. 四王呉惲について (1) 5. 同 (2) 6. 同 (3) 7. 黄檗の書画 (1) 8. 同 (2) 9. 江戸の文人画と中国 10. 画譜・著録について 11. 南京と揚州の絵画 12. 郎世寧について 13. 宮廷画について 14. 清時代前期の書跡 15. まとめ 					
----- 美学美術史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポート：7割、授業参加状況（討議への積極的な参加を評価）と小課題（レポート1回）：3割として評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

宇佐美文理 『中国絵画入門』（岩波書店、2014年）ISBN:978-4004314905

古田真一ほか編 『中国の美術：見かた・考えかた』（昭和堂、2003年）ISBN:978-4812201237

【授業外学修（予習・復習）等】

博物館や美術館などで美術作品に親しんでもらいたい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 健一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東アジアにおける仏伝美術の変容				
[授業の概要・目的]					
<p>主に東アジアにおける仏伝美術を対象として、代表作例に検討を加え、その変遷を概観する。仏教の祖である釈迦の約八十年の生涯のうち苦行は六年間にすぎず、釈迦の成道の階梯や理由、意義については古来様々な解釈が行われ、それに応じてまことに多様な造形作品が生まれた。その多様性を追い、その変化の相互関係を理解することは、当該期の宗教や社会の造形に向けられた関心の在り方を問うことに他ならない。</p> <p>授業では主題毎の基本文献を読解したうえで個別作例に図像学的な分析を加えることで、文献・イメージの分析能力を涵養するとともに、仏教美術史研究の研究動向の把握を目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>当該期の代表的な遺品について、正しく観察および記述ができること。 仏教美術史の研究動向を理解し説明できること。 当該期の宗教や社会について洞察を深めること。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>取り上げる主な課題は以下の通り。講義の順序や進捗は固定したものではなく、受講者の背景や理解の状況に応じ、適宜講義担当者が調整する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 仏教彫刻の基礎知識 2 本生図の機能と変容 (1) 3 本生図の機能と変容 (2) 4 本生図の機能と変容 (3) 5 本生図の機能と変容 (4) 6 釈迦誕生像の機能と変容 (1) 7 釈迦誕生像の機能と変容 (2) 8 釈迦誕生像の機能と変容 (3) 9 釈迦誕生像の機能と変容 (4) 10 涅槃図の機能と変容 (1) 11 涅槃図の機能と変容 (2) 12 涅槃図の機能と変容 (3) 13 涅槃図の機能と変容 (4) 14 涅槃図の機能と変容 (5) 15 まとめ 					
----- 美学美術史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常時に提出する小課題（50％）：作品を観察・記述する。
まとめのテスト（50％）：対象作品について関連する学問領域に言及しつつ、彫刻史の展開上の位置を論じる。

【教科書】

使用しない
授業資料を配付する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で配付する資料に基づき予習・復習を行うこと。
可能な作品については博物館・寺社で実物を観察すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 健一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本古代仏教彫刻史における阿弥陀造像の研究				
[授業の概要・目的]					
<p>日本彫刻史における阿弥陀像の重要作例を取り上げる。近年、国土観（辺土意識・中華意識とのせめぎ合い）、王権思想との相互依存関係、舍利信仰といった、東アジアの仏教国に顕著な心性が、東アジアの仏教美術史を理解する上での重要な鍵として注目を集めている。</p> <p>こうした研究動向を踏まえて、本講では阿弥陀造像に際して求められた心性を探ることを目的とする。阿弥陀は大乗仏教の代表的な如来であり、その居処とされる極楽浄土への往生を可能とする条件や像の在り方は多様である。さらに「来迎」する阿弥陀の在り方は古代・中世における仏像観の変遷を考えるうえで示唆に富む。</p> <p>毎回の講義では対象作品の「形状」「造像技法」等の基本情報を確認し、教学や実践、社会史的背景、海流交流史などを視野に入れつつ、造形的・思想的変遷を検討する。また、近年の注目すべき研究成果を取り上げて研究動向の理解を得ることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>阿弥陀像の代表的な遺品について、正しく観察および記述ができること。</p> <p>日本彫刻史の研究動向を理解し説明できること。</p> <p>当該期の宗教や社会について洞察を深めること。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>観音像を主な対象として、主要な作品について考察する。取り上げる課題は下記のとおりである。なお、対象作品や進捗は固定したのではなく、受講者の背景や理解の状況に応じ、適宜講義担当者が調整する。</p> <p>第1回 イントロダクション 仏教美術の基礎知識 第2回 中国南北朝時代の阿弥陀造像 第3回 中国南北朝時代の阿弥陀造像 (2) 第4回 中国隋唐期の阿弥陀造像 (1) 第5回 中国隋唐期の阿弥陀造像 (2) 第6回 飛鳥時代の阿弥陀造像 (1) 第7回 飛鳥時代の阿弥陀造像 (2) 第8回 奈良時代の阿弥陀造像 (1) 第9回 奈良時代の阿弥陀造像 (2) 第10回 奈良時代の阿弥陀造像 (3) 第11回 平安時代前期の阿弥陀造像 (1) 第12回 平安時代前期の阿弥陀造像 (2) 第13回 平安時代前期の阿弥陀造像 (3) 第14回 阿弥陀造像の変容 第15回 まとめ</p>					
----- 美学美術史学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

美学美術史学 (特殊講義) (2)

フィードバック方法は授業中に説明する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常時に提出する小課題（50％）：作品を観察・記述する。
まとめのテスト（50％）：対象作品を選定し、関連する学問領域に言及しつつ、彫刻史の展開上の位置を論じる。

【教科書】

使用しない
参考資料を配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介する展覧会等を各自観覧し、実作品に触れる機会を作ること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学90

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 平川 佳世		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	宗教改革と美術				
[授業の概要・目的]					
この講義の目的は、西洋美術史の特定の事象を取り上げて、多角的な視点から深く考察することで、美術史学の思考法や研究法を習得することにある。加えて、習得した思考法を各自の研究領域に応用して新しい視座を獲得することを目指す。本年度前期は、宗教改革と美術について、関連する諸作例の具体的な分析を行いつつ、考察する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・様式分析、図像分析、同時代の美術理論や古文書読解などの美術史学の方法論について、理解する。 ・キリスト教における信仰と美術の関係性について、理解を深める。 ・習得した知識や思考方法を応用して、自身の研究対象を新しい視座から分析する応用力を醸成する。 					
[授業計画と内容]					
<p>16世紀のドイツに端を発した宗教改革を機に、キリスト教における画像の使用について深淵な議論が交わされるようになった。そもそも、キリスト教は偶像崇拝を禁止しており、宗教実践における絵画や彫刻といったイメージの利用は、潜在的な問題をはらんでいる。本講義では、宗教実践における画像の使用に対するプロテスタントの批判とそれが美術の在り方に及ぼした影響について、多角的に考察する。授業は、講義形式と受講生による討論を織り交ぜながら行う。基本的にプランに従って講義を進めるが、講義の進み具合、受講生の理解度等に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 イントロダクションと問題意識の共有 第3回～5回 プロテスタント諸派の言動における聖画像の位置づけ 第6回～10回 ルーカス・クラナハ(父)とプロテスタント美術 第11～14回 デューラーの未完の祭壇画構想</p> <p>定期試験 第15回 まとめ</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点 (出席状況および議論への参加など、30点) と期末レポートまたは試験 (70点) に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。 					
----- 美学美術史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (特殊講義)(2)

- ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

[教科書]

教科書は使用しない。必要に応じて、関連資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業外学修の一環として、各自、授業中に指示する美術館や展覧会等を訪れて、芸術作品を直接鑑賞し、その造形的特徴を美術史的な観点から分析する能力を養うことが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

- ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって、熱心に授業に参加してほしい。
- ・美術史研究の初心者でも意欲のある者には議論への参加やレポート作成が行えるよう、基本文献の紹介や資料の作成指導も、必要に応じて行う。
- ・日ごろから美術一般について幅広い関心を持ち、展覧会や美術館等を訪れて実作品を鑑賞するように心がけること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学91

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 平川 佳世		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	17世紀の花の静物画 - 対抗宗教改革からの視点				
[授業の概要・目的]					
この講義の目的は、西洋美術史の特定の事象を取り上げて、多角的な視点から深く考察することで、美術史学の思考法や研究法を習得することにある。さらには、習得した思考法を各自の研究対象に応用する能力を醸成することをめざす。本年度は、近世ヨーロッパ絵画における花の静物画の制作と受容に注目して、関連する諸作例の具体的な分析を行いつつ、考察する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・様式分析、図像分析、同時代の美術理論や古文書読解などの美術史学の方法論について、理解する。 ・絵画制作と受容の関係について、見識を深める。 ・講義で理解した思考法を各自の研究対象に適用し、新しい視座から論考を行う応用力を身に着ける。 					
[授業計画と内容]					
<p>ヨーロッパにおける花の静物画の絵画ジャンルとしての成立は17世紀初頭にさかのぼる。本年度前期は、花の静物画成立当初の制作と受容の在り方について、主として対抗宗教改革の文脈に照らして考察する。授業は、講義形式と受講生による討論を織り交ぜながら行う。基本的にプランに従って講義を進めるが、講義の進み具合、受講生の理解度等に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2～4回 イントロダクション 花の静物画の成立 第5～10回 花の静物画の受容の諸様態 フェデリーコ・ボッローメオの芸術観 第11～14回 花の静物画の受容の諸様態 ダニエル・セーヘルスとイエズス会 定期試験 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 美学美術史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（出席状況および議論への参加など、30点）と期末レポートまたは試験（70点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。

- ・原則として、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。
- ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

[教科書]

教科書は使用しない。必要に応じて、関連資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業外学修の一環として、各自、授業中に指示する美術館や展覧会等を訪れて、芸術作品を直接鑑賞し、その造形的特徴を美術史的な観点から分析する能力を養うことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

- ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって、熱心に授業に参加してほしい。
- ・美術史研究の初心者でも意欲のある者には議論への参加やレポート作成が行えるよう、基本文献の紹介や資料の作成指導も、必要に応じて行う。
- ・日ごろから美術一般について幅広い関心をもち、展覧会や美術館等を訪れて実作品を鑑賞するように心がけること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学92

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 杉山 卓史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	美学史研究I 啓蒙期ヨーロッパの芸術における「他者」の研究				
[授業の概要・目的]					
本授業の目的は、美学史の再構築を通じて美学研究の(一つの)ありようを示すことにある。今学期は、啓蒙期ヨーロッパの芸術における「他者」表象をさまざまな角度から検討する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・一次文献に基づく広義の美学(史)研究の方法に習熟する。 ・啓蒙期ヨーロッパの芸術における「他者」表象について、見識を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>以下の計画に基づいて進めるが、特殊講義という性格上、順序や回数を変更する可能性が多分にあることを了承されたい。</p> <p>第1回イントロダクション 第2回ユダヤ人 第3回農奴 第4回ムスリム 第5回イロクオイ族 第6回オリエント 第7回北欧 第8回女性 第9回子供 第10回「理性の他者」としての自然 第11回「理性の他者」としての感性 第12回「理性の他者」としての無意識 第13回異世界論 この頃レポート締切 第14回レポート合評・総括・補足 第15回フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 美学美術史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業中の発言・議論への貢献度）20点＋期末レポート80点により評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。一部、相互評価方式を取り入れる。詳細は初回授業時または／およびレポート課題提示時に説明する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

日本18世紀学会 『啓蒙思想の百科事典』（丸善出版、2023年）ISBN:9784621307854
その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

特殊講義は、教員による研究の「実演」である。講義内容を基に、自分ならどう考えるか、を常に意識して授業に臨むこと。そのためにも、授業で紹介する文献を閲読すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学93

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 杉山 卓史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	美学史研究II ドイツ・ロマン主義の「数学的詩学」				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業の目的は、美学史の再構築を通じて美学研究の(一つの)ありようを示すことにある。今学期は、ドイツ・ロマン主義を代表するノヴァーリス(Novalis [Georg Philipp Friedrich von Hardenberg] 1772~1801)の断章群を読み解きながら、その数学的発想に裏打ちされた美学(ないし詩学)の内実を検討する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・一次文献に基づく広義の美学(史)研究の方法に習熟する。 ・ドイツ・ロマン主義美学について、見識を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>以下の計画に基づいて進めるが、特殊講義という性格上、順序や回数を変更する可能性が多分にあることを了承されたい。</p> <p>第1回イントロダクション 第2回 1795/96年の哲学研究(フィヒテ研究)前半 第3回 1795/96年の哲学研究(フィヒテ研究)後半 第4回 179年の哲学研究(ヘムステルホイスおよびカント研究)前半 第5回 179年の哲学研究(ヘムステルホイスおよびカント研究)後半 第6回「花粉」(1798年) 第7回「雑録集」(1798年) 第8回さまざまな断章集への準備稿(1798年)前半 第9回さまざまな断章集への準備稿(1798年)後半 第10回 1798/99年のフライベルク自然学研究前半 第11回 1798/99年のフライベルク自然学研究後半 第12回一般草稿(百科全書学のための資料集1798/99年)前半 第13回一般草稿(百科全書学のための資料集1798/99年)後半 この頃レポート締切 第14回レポート合評・総括・補足 第15回フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 美学美術史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (特殊講義)(2)

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業中の発言・議論への貢献度）20点＋期末レポート80点により評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。一部、相互評価方式を取り入れる。詳細は初回授業時または／およびレポート課題提示時に説明する。

【教科書】

必要な資料（当該テキストの原文と翻訳）をコピーして配布する。

【参考書等】

（参考書）

伊坂青司・原田哲史（編）『ドイツ・ロマン主義研究』（御茶の水書房、2007年）ISBN: 9784275005137

その他、授業中に適宜紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

特殊講義は、教員による研究の「実演」である。講義内容を基に、自分ならどう考えるか、を常に意識して授業に臨むこと。そのためにも、授業で紹介する文献を閲読すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学94

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 稲本 泰生		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東アジア仏教美術研究				
【授業の概要・目的】					
<p>東アジアで制作された仏教美術の遺品から重要な作例を取り上げて、関連する諸資料を参照しつつ意味内容を読み解き、派生する問題に検討を加える。考察にあたっては「仏教美術が宗教美術であること」「東アジアにとって仏教が外来宗教であること」に特に留意し、最新の研究成果を反映して、造形作品や視覚イメージの生成・伝播等の実態を構造的に把握することをめざす。</p>					
【到達目標】					
<p>近年の東アジア仏教美術研究における主要な論点について理解を深め、考察を行うための足がかりを得る。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>本年度前期は仏教造像の中で、特別な靈驗を現すなどの理由で崇敬され、像容の継承・伝播が行われたいわゆる「瑞像」に関する信仰と造形に注目し、いくつかの事例検討を通して論点を共有するとともに、研究動向の把握と展望を行う。ただし担当者の方針と受講者の背景や理解の状況に応じ、各区分の回数や順序は変更する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の視点と問題意識【1～2週】 2. 釈迦信仰の瑞像（主に優填王思慕像）をめぐる問題点【4～5週】 3. 釈迦信仰の瑞像（主に阿育王像）をめぐる問題点【4～5週】 4. 観音信仰の瑞像をめぐる問題点【3～4週】 5. フィードバック【1週】 					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>期末のレポートにより評価する。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。</p>					
【教科書】					
使用しない					
----- 美学美術史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する
必要な資料を配付する。

[授業外学修(予習・復習)等]

仏教美術鑑賞の基礎知識を得ておくこと。授業の前後を問わず、美術全集や各種図録を通して、また博物館や社寺において、作品に親しむ機会を積極的に作ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学95

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (哲学) (講義) Philosophy (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 出口 康夫	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金3	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代哲学入門 I				
【授業の概要・目的】					
西洋哲学は、神との本格的な決別を果たすことで「現代哲学」へと変貌を遂げました。本授業では、西洋近世哲学の一つの完成形態であるカントやヘーゲルの哲学から説き起こし、哲学の東西交流にも目を配りつつ、現代哲学がいかに離陸を遂げたのかをあとづけます。					
【到達目標】					
分析哲学や大陸哲学といった個々の学派の内部に閉じ籠ることなく、現代哲学の流れに関する包括的な俯瞰図を得ることができる。					
【授業計画と内容】					
前期					
1 カント I: 啓蒙の光の影					
2 カント II: 事実と価値の両立					
3 ヘーゲル I: 「動」と「矛盾」の哲学					
5 ヘーゲル II: 議会的自己					
6 ショーペンハウワー: 「生の領域」の発見					
7 東西思想交流史 I: 東から西へ					
9 フォイエルバッハ: 愛と二人称の哲学					
10 ニーチェ: 現状肯定の実存哲学					
11 東西思想交流史 II: ZEN、シカゴへ行く					
12 東西思想交流史 III: 京都学派の哲学					
13 ブーバー: 「私とあなた」と老荘的コミュニケーション					
14 ハイデガー I: 現存在と共存在					
15 ハイデガー II: 「我々」は開いているのか?					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
授業中の小レポート (50%) + 全授業終了後のレポート (50%)					
----- 系共通科目 (哲学) (講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (哲学) (講義)(2)

[教科書]

出口康夫 『AI親友論』 (徳間書店, 2023)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

特になし

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学96

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	系共通科目(哲学)(講義) Philosophy (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 出口 康夫	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代哲学入門 II				
【授業の概要・目的】					
「現代哲学入門I」の続編です。大陸哲学と分析哲学という20世紀の現代哲学の二つの流れを追いながら、講師自身が展開している哲学も含めた21世紀の哲学動向も紹介します。					
【到達目標】					
分析哲学や大陸哲学といった個々の学派の内部に閉じ籠ることなく、現代哲学の流れに関する包括的な俯瞰図を得ることができる。また現在進行中の新たな哲学動向に触れることもできる。					
【授業計画と内容】					
1 リオータルI: ポストモダンディストピア 2 リオータルII: 「ゆきずりの我々」へ 3 分析哲学とは何か/論理学革命 4 ラッセルの確定記述理論 5 ウィーン学団とカルナップの実証主義 6 クワインのホーリズム 7 ポスト分析哲学/科学的存在論 8 心の哲学/分析形而上学 9 分析アジア哲学 10 WEターンの哲学 I: できなさターンからWEターンへ 11 WEターンの哲学 II: 自己と「わたし」 12 WEターンの哲学 III: WEターンの倫理 13 WEターンの哲学 IV: 自由・権利・ウェルゴーイング 14 環境の哲学 15 AI/ロボットの哲学					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
授業中の小レポート(50%) + 全授業終了後のレポート(50%)					
----- 系共通科目(哲学)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (哲学) (講義)(2)

[教科書]

出口康夫 『できなさターンからWEターンへ』 (ナカニシヤ書店, 2025 出版予定)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

特になし

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学97

科目ナンバリング	U-LET03 15204 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (西洋中世哲学史) (講義) History of Western Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 石田 隆太		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋中世哲学史講義 I				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、12世紀までの西洋中世哲学史を概観する。時代としては古代に属するアウグスティヌスから始めて、最初のスコラ学者とされるボエティウスから本格的に中世に入り、エリウゲナ、アンセルムス、アベラール、シャルトル学派、ドミニクス・グンディサリヌスの思想を詳しく検討する。西洋中世哲学という専門的な内容を対象としながらも、事柄としては同じことを繰り返し異なる角度から考え続けることになる。特に、人間とは何かという根本問題について考え続けることになる。その結果として、哲学そのものの魅力や重要性が理解できるようになることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋中世哲学の概要を説明できる。 ・本講義で出てくる存在論、認識論、倫理学における基本的な考えや学説を、他の場面でも応用することができる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第 1回:導入 第 2回:アウグスティヌス :私とは何者か 第 3回:アウグスティヌス :悪とは何であり、どのようにして生じるか 第 4回:アウグスティヌス :自由とは何を意味するか 第 5回:ボエティウス :幸福とは何か 第 6回:ボエティウス :中世哲学はどのようにして始まったか 第 7回:エリウゲナ:自然とは何か 第 8回:アンセルムス :神の存在はいかにして証明されるか 第 9回:アンセルムス :悪魔はいかにして墮落したか 第 10回:アベラール :論理学はどのような意味で哲学か 第 11回:アベラール :倫理学はどのようにして可能か 第 12回:シャルトル学派 :この世界は善か 第 13回:シャルトル学派 :12世紀にルネサンスはあったか 第 14回:ドミニクス・グンディサリヌス:イスラームやユダヤの思想はラテン中世の思想とどう関わるか 第 15回:フィードバック</p> <p>以上の計画はあくまで予定であり、授業の進行に応じて適宜修正される可能性がある。</p>					
-----系共通科目 (西洋中世哲学史) (講義)(2)へ続く-----					

系共通科目 (西洋中世哲学史) (講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末試験（持ち込み不可、論述式、試験期間に実施、の予定）

【教科書】

授業資料を適宜、配布する。

【参考書等】

（参考書）

ジョン・マレンボン（周藤多紀 訳）『哲学がわかる 中世哲学』（岩波書店, 2023）ISBN: 9784000615945（主要参考書）

中川純男『哲学の歴史 第3巻 - 神との対話【中世】 -』（中央公論新社, 2008）ISBN: 9784124035209（主要参考書）

F・コプルストン（箕輪秀二、柏木英彦 訳）『中世哲学史』（創文社, 1970）ISBN:9784423100820（主要参考書）

S. Van der Meeren『Entrer en philosophie. La fonction psychagogique des premiers “ Dialogues ” d ’ Augustin』（Brepols, 2023）ISBN:9782851213235

N. Polloni『The Twelfth-Century Renewal of Latin Metaphysics: Gundissalinus ’ s Ontology of Matter and Form』（Pontifical Institute of Mediaeval Studies, 2020）ISBN:9780888448651

L. Catalani, R. de Filippis (eds)『Anselmo d ’ Aosta e il pensiero monastico medievale』（Brepols, 2018）ISBN:9782503548401

S. N. Sushkov『Being and Creation in the Theology of John Scottus Eriugena: An Approach to a New Way of Thinking』（Pickwick Publications, 2017）ISBN:9781498248518

C. Giraud『Spiritualite et histoire des textes entre Moyen Age et epoque moderne. Genese et fortune d ’ un corpus pseudepigraphique de meditations』（Brepols, 2016）ISBN:9782851212818

G. Dahan『Nicolas de Lyre, franciscain du XIVE siecle, exegete et theologien』（Brepols, 2011）ISBN: 9782851212498

J.-P. Batut『Pantocrator. “ Dieu le Pere tout-puissant ” dans la theologie preniceenne』（Brepols, 2009）ISBN:9782851212351

K. Mitalaite『Philosophie et theologie de l ’ image dans les 'libri carolini'』（Brepols, 2007）ISBN: 9782851212184

P. Ellard『The Sacred Cosmos: Theological, Philosophical, and Scientific Conversations in the Twelfth Century School of Chartres』（University of Scranton Press, 2007）ISBN:9781589661332

L ’ Ecole de Chartres『Theologie et cosmologie au XIIeme siecle』（Belles lettres, 2004）

S. Ernst『Petrus Abaelardus』（Aschendorff, 2003）ISBN:9783402046319

K. Kienzler『International Bibliography: Anselm of Canterbury』（Edwin Mellen Press, 1999）ISBN: 9780773480216

また他の文献についても授業内で必要に応じて言及する。

【授業外学修（予習・復習）等】

配布する資料を読んでおく。また各自の関心に応じて参考書を読んでみるのが望ましい。

系共通科目 (西洋中世哲学史) (講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET03 15206 LJ34			
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (西洋中世哲学史) (講義) History of Western Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 石田 隆太		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋中世哲学史講義 II				
[授業の概要・目的]					
<p>前期「西洋中世哲学史講義 I」の続きとして本講義では、13世紀から14世紀にかけての西洋中世哲学史を概観する。アルベルトゥス・マグヌスから始めて、トマス・アキナス、ボナヴェントゥラ、プラバンティアのシゲルスとダキアのボエティウス、エックハルト、ドゥンス・スコトゥス、ウィリアム・オッカムの思想を詳しく検討する。特にアキナス、スコトゥス、オッカムについては重点的に扱う。西洋中世哲学という専門的な内容を対象としながらも、事柄としては同じことを繰り返し異なる角度から考え続けることになる。特に、人間とは何かという根本問題について考え続けることになる。その結果として、哲学そのものの魅力や重要性が理解できるようになることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋中世哲学の概要を説明できる。 ・本講義で出てくる存在論、認識論、倫理学における基本的な考えや学説を、他の場面でも応用することができる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：導入 第2回：アルベルトゥス・マグヌス：13世紀における中世哲学は何を対象とするか 第3回：トマス・アキナス：神、天使、人間はどのように異なる存在か 第4回：トマス・アキナス：認識はどこまで可能でどこから不可能か 第5回：トマス・アキナス：至福になるためにはどうすればいいか 第6回：ボナヴェントゥラ：熾天使博士と天使博士はどう違うか 第7回：プラバンティアのシゲルスとダキアのボエティウス：なぜ彼らは弾劾されたか 第8回：エックハルト：ラテン語著作とドイツ語著作はどう違うか 第9回：ドゥンス・スコトゥス：神と被造物は同じ意味で存在すると言えるか 第10回：ドゥンス・スコトゥス：抽象と直観とは何か 第11回：ドゥンス・スコトゥス：人間の自由はどのようにして見出されるか 第12回：ウィリアム・オッカム：個体以外のものが存在するか 第13回：ウィリアム・オッカム：認識に媒介は必要か 第14回：ウィリアム・オッカム：道徳の究極的な基準は何か 第15回：フィードバック</p> <p>以上の計画はあくまで予定であり、授業の進行に応じて適宜修正される可能性がある。</p>					
系共通科目 (西洋中世哲学史) (講義)(2)へ続く					

系共通科目 (西洋中世哲学史) (講義)(2)

【履修要件】

西洋中世哲学史Iを先に履修していることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

期末試験（持ち込み不可、論述式、試験期間に実施、の予定）

【教科書】

授業資料を適宜、配布する。

【参考書等】

（参考書）

ジョン・マレンボン（周藤多紀 訳）『哲学がわかる 中世哲学』（岩波書店, 2023）ISBN: 9784000615945（主要参考書）

中川純男『哲学の歴史 第3巻 - 神との対話【中世】 -』（中央公論新社, 2008）ISBN: 9784124035209（主要参考書）

F・コプルストン（箕輪秀二、柏木英彦 訳）『中世哲学史』（創文社, 1970）ISBN:9784423100820（主要参考書）

M. Gorman『Thomistische Metaphysik. Eine zeitgenoessische Einfuehrung』（Editiones Scholasticae, 2024）ISBN:9783868382990

R. Berquist『Von der Menschenwuerde zum Naturrecht. Eine Einfuehrung』（Editiones Scholasticae, 2024）ISBN:9783868382983

D. Svoboda, P. Sousedik, L. Novak (eds)『Second Scholasticism, Analytical Metaphysics, Christian Apologetics』（Editiones Scholasticae, 2024）ISBN:9783868382969

J. E. Carreno Pavez『Thomistic Philosophy in the Face of Evolutionary Fact: Methodological and Conceptual Insights for an Integration』（Editiones Scholasticae, 2024）ISBN:9783868382952

Edward Feser『Immortal Souls: A Treatise on Human Nature』（Editiones Scholasticae, 2024）ISBN: 9783868386059

R. Huentelmann『Change, Substance, and Cause: An Introduction to Natural Philosophy』（Editiones Scholasticae, 2024）ISBN:9783868386035

H. Grenier『Thomistic Philosophy: Metaphysics』（Editiones Scholasticae, 2024）ISBN:9783868382907

H.-L. Barth『Solidaritaet und Subsidiaritaet. Zwei Grundprinzipien der katholischen Gesellschaftslehre』（Editiones Scholasticae, 2024）ISBN:9783868382921

H. M. Robben『Naturrecht und Menschenrecht』（Editiones Scholasticae, 2024）ISBN:9783868382891

S. Ostritsch『Ewigkeit und das Leiden an der Zeit』（Editiones Scholasticae, 2023）ISBN:9783868382853

G. P. Klubertanz, M. R. Holloway『Being and God: An Introduction to the Philosophy of Being and to Natural Theology』（Editiones Scholasticae, 2023）ISBN:9783868382792

H. Schneider『Gott und Mensch in Liebe』（Kuehlen Verlag, 2019）ISBN:9783874485135

H. Schneider『Der franziskanische Weg zur Innerlichkeit』（Kuehlen Verlag, 2019）ISBN: 9783874485067

H. Schneider『Die Franziskaner und die Reformation』（Kuehlen Verlag, 2017）ISBN:9783874484817

H. Schneider『Mensch in Mit-Liebe』（Kuehlen Verlag, 2013）ISBN:9783874483759

L. Honnefelder『Albertus Magnus und der Ursprung der Universitaetsidee』（Velbrueck Wissenschaft, 2011）ISBN:9783958321090

H. Schneider『Was ist der Mensch?』（Kuehlen Verlag, 2011）ISBN:9783874483568

系共通科目 (西洋中世哲学史) (講義)(3)

- H. Schneider 『Einzigkeit und Liebe nach Johannes Duns Scotus』 (Kuehlen Verlag, 2010) ISBN: 9783874483247
- J. Neitzert 『Jean-Mohammed Ben Abd-el Jalil OFM』 (Kuehlen Verlag, 2009) ISBN:9783874483117
- A. Schmucki 『Selbstbesitz und Hingabe』 (Kuehlen Verlag, 2009) ISBN:9783874483100
- H. Schneider, M. Schlosser, P. Zahner (hrsg) 『Duns Scotus-Lesebuch』 (Kuehlen Verlag, 2008) ISBN: 9783874482981
- F. Finkenbergr 『Ancilla theologiae? Theologie und Wissenschaften bei Roger Bacon』 (Kuehlen Verlag, 2007) ISBN:9783874482837
- H. Schneider 『Primat der Liebe nach Johannes Duns Scotus』 (Kuehlen Verlag, 2006) ISBN: 9783874482806
- H. Schneider 『Das franziskanische Verstaendnis des Wirkens des Heiligen Geistes in Kirche und Welt』 (Kuehlen Verlag, 2006) ISBN:9783874482639
- S. Staudinger 『Das Problem der Analyse des Glaubensaktes bei Johannes Duns Scotus』 (Kuehlen Verlag, 2005) ISBN:9783874482691
- M. Chabada 『Cognito intuitiva et abstractiva』 (Kuehlen Verlag, 2005) ISBN:9783874482509
- R. Jauch 『Das Ordensrecht im Dienste der Spiritualitaet』 (Kuehlen Verlag, 2005) ISBN:9783766605139
- F. Forschner 『Plato Metaphysicus - Aristoteles und die Folgen』 (Kuehlen Verlag, 2005) ISBN: 9783766606327
- F. Forschner 『Prolegomena zu einer zeitgemaessen Metaphysik』 (Kuehlen Verlag, 2005) ISBN: 9783874482516
- V. Stadler 『"Ich kenne Christus, den Armen, den Gekreuzigten"』 (Kuehlen Verlag, 2005) ISBN: 9783874482615
- H. Schneider 『Wie beeinflusst die Christusoffenbarung das franziskanische Verstaendnis der Person』 (Kuehlen Verlag, 2004) ISBN:9783766605948
- C. R. Cezar 『Das natuerliche Gesetz und das konkrete praktische Urteil』 (Kuehlen Verlag, 2004) ISBN: 9783766605627
- H. Schneider 『Fons Salutis Trinitas - Quell des Heils Dreifaltigkeit』 (Kuehlen Verlag, 2002) ISBN: 9783766604583
- J.-B. Freyer 『Homo Viator: Der Mensch im Lichte der Heilsgeschichte』 (Kuehlen Verlag, 2001) ISBN: 9783766604378
- R. Jauch 『Franziskanische Frauengestalten』 (Kuehlen Verlag, 2001) ISBN:9783766699893
- H. Schneider 『Seine Spiritualitaet und Ethik』 (Kuehlen Verlag, 2000) ISBN:9783766602930
- R. Breil 『Der kosmologische Gottesbeweis und die Einheit der Natur』 (Kuehlen Verlag, 2000) ISBN: 9783766603203
- H. Schneider 『Menschwerdung Gottes - Hoffnung der Menschen』 (Kuehlen Verlag, 2000) ISBN: 9783766603470
- G. Pizzo 『Intellectus und memoria nach der Lehre des Jonnaes Duns Scotus』 (Kuehlen Verlag, 1998) ISBN:9783766601865
- F. Peters 『Aus Liebe zur Liebe』 (Kuehlen Verlag, 1995) ISBN:9783766699473
- N. Hartmann 『Person und Sittlichkeit』 (Kuehlen Verlag, 1994) ISBN:9783766698988
- J.-B. Freyer 『Mystik in den franziskanischen Orden』 (Kuehlen Verlag, 1993) ISBN:9783766698018
- G. Papa, R. Zavalloni 『Dokumente zur Seligsprechung des Johannes Duns Scotus』 (Kuehlen Verlag, 1992) ISBN:9783766697875

また他の文献についても授業内で必要に応じて言及する。

系共通科目 (西洋中世哲学史) (講義)(4)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

配布する資料を読んでおく。また各自の関心に応じて参考書を読んでもらうことが望ましい。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学99

科目ナンバリング	U-LET05 25302 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(日本哲学史)(講義) Japanese Philosophy (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 上原 麻有子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本哲学史講義 1				
[授業の概要・目的]					
日本哲学史を 西田幾多郎、近代日本哲学の発展から京都学派の哲学への二部に分けて日本哲学の形成過程を概観し、さらに、これまで論じられてきた主要問題を通して日本哲学のあり方、意義について検討する。このようにして日本哲学史についての理解を深めることが、授業の目的である。					
[到達目標]					
日本哲学における近代初頭から京都学派(第二次世界大戦まで)の主要テーマ、主要問題を理解し、さらにそれを自ら批評することを目標とする。					
[授業計画と内容]					
以下のような課題に基づき、授業を進める予定である。					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：「日本哲学」の現状 2 西田幾多郎の哲学 1 3 西田幾多郎の哲学 2 4 西田幾多郎の哲学 3 5 西田幾多郎の哲学 4 6 明治期から西田幾多郎までの日本哲学史概要 7 明治期から西田幾多郎までの日本哲学史概要 8 東京帝国大学の哲学講義 9 清沢満之の仏教的哲学 10 第一次フェミニズム運動とその思想 11 京都学派の哲学－概要 12 三木清の哲学 13 戸坂潤の哲学 14 総括 15 フィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点50%と前期末のレポート試験50%による。					
[教科書]					
使用しない					
----- 系共通科目(日本哲学史)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (日本哲学史) (講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回の授業で配付する資料、および授業中紹介する図書を参考に、学んだ内容について理解を深める。

(その他 (オフィスアワー等))

要予約

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学100

科目ナンバリング		U-LET05 25304 LJ34			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(日本哲学史)(講義) Japanese Philosophy (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 上原 麻有子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本哲学史講義2				
【授業の概要・目的】					
京都学派とその周辺の哲学者の思想を、いくつかのテーマを追う形で考察することが、この授業の目的である。さらに、講義で考察する日本哲学の問題が、私たち各自の経験においてどのような意義をもつのか、その経験とどのように結びつき得るのかについても検討する。					
【到達目標】					
テーマについて理解を深め、さらにそれを自ら批評することを目標とする。					
【授業計画と内容】					
以下のような日本哲学史上の主要問題を課題とし、授業を進める予定である。					
1 ガイダンス					
2 翻訳と言語：翻訳から見る哲学と近代日本の問題－和辻哲郎					
3 翻訳と言語：翻訳から見る哲学と近代日本の問題－下村寅太郎					
4 偶然性と文芸論：九鬼周造－1					
5 偶然性の文芸論：九鬼周造－2					
6 科学と哲学：下村寅太郎－1					
7 科学と哲学：田辺元－2					
8 実存協同：田辺元－2					
10 自他論：西田幾多郎と田辺元－1					
11 自他論：西田幾多郎と田辺元－2					
12 風土と芸術：和辻哲郎					
13 表現の哲学：西田幾多郎－1					
14 表現の哲学：木村素衛、三木清－2					
15 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点50%と後期末のレポート試験50%による。					
----- 系共通科目(日本哲学史)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (日本哲学史) (講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回の授業で紹介する参考書を手がかりとし、学んだ内容について理解を深める。

(その他 (オフィスアワー等))

要予約

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET05 25343 SJ34				
授業科目名 <英訳>	日本哲学史(基礎演習) Japanese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山本 舜		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	基礎演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	前期西田哲学の展開(講読)				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習では、西田幾多郎の『善の研究』(1911年)および、その後の『自覚に於ける直観と反省』(1917年)に至る手前までの諸々のテクストを講読し、根本概念である「純粹経験」から「自覚」の着想に至る基本的な思索の推移を検討する。西田哲学にアプローチしようと思う場合には、どういう関心を端緒とするのであれ、『善の研究』をまず通っておくことが望ましい。そこで提唱される「純粹経験」は、根本方針としては晩年に至るまで一貫して存し続けるからである。だがまた西田哲学全体を見通したときには、同時にそこに留まらない概念の変遷があることも考慮しておかなくてはならない。このような観点から、基礎文献である『善の研究』と、その後同時代の西洋哲学を急速に吸収していく時期の論文を併せて講読することで、西田哲学の基本像と、その後の変遷を同時に視野に入れて理解することを本演習の到達目標とする。</p>					
[到達目標]					
<p>(1) テクストに関する基礎知識とその周辺の関連知識を習得する。 (2) 資料作成や議論を通じて内容の理解を深めると共に、日本哲学史の基礎文献を読み解く上での技能を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 ガイダンス ・第2回 『善の研究』第二篇 第一章-第二章 ・第3回 『善の研究』第二篇 第三章-第四章 ・第4回 『善の研究』第二篇 第五章-第六章 ・第5回 『善の研究』第二篇 第七章-第八章 ・第6回 『善の研究』第二篇 第九章-第十章 ・第7回 『善の研究』第一篇 第一章-第二章 ・第8回 『善の研究』第一篇 第三章-第四章 ・第9回 『善の研究』第四篇 第一章-第二章 ・第10回 『善の研究』第四篇 第三章-第四章 ・第11回 「認識論に於ける純論理派の主張に就て」(一) ・第12回 「認識論に於ける純論理派の主張に就て」(二) ・第13回 「論理の理解と数理の理解」(一) ・第14回 「論理の理解と数理の理解」(二) ・第15回 フィードバック 					
<p>以上はあくまで予定であって、受講者の状況や理解等を鑑みて変更する可能性がある。</p>					
----- 日本哲学史(基礎演習)(2)へ続く -----					

日本哲学史 (基礎演習)(2)

【履修要件】

特別な予備知識は必要ないが、演習であるため、継続的な出席と主体的・積極的な議論への参加を求める。

【成績評価の方法・観点】

平常点（発表内容、議論への参加等）50%、学期末レポート50%

【教科書】

西田幾多郎 『善の研究』（岩波文庫, 2012年）ISBN:978-4-00-331241-4
授業後半で扱う諸論文については、新版『西田幾多郎全集』（第一巻、岩波書店、2003年）から該当箇所をコピーして配布する予定である。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

発表担当者は、講読する該当箇所のレジюме（要約および問題提起）を作成する。その他の受講者は、各授業前に講読範囲に目を通し、議論に向けた準備を行なうこと。また、各回で発表とは別に議論の内容を記録するプロトコル担当者を指名する。プロトコル担当者は、当該授業回の内容をまとめたプロトコルを作成し、次の授業の冒頭で全体に共有すること。

（その他（オフィスアワー等））

特定の回で休講措置をとる可能性がある（その場合、補講を実施する）。質問・連絡等はメール等に対応する（詳細は初回授業でアナウンスを予定）。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET05 25343 SJ34			
授業科目名 <英訳>	日本哲学史(基礎演習) Japanese Philosophy (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 上原 麻有子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木4	授業形態	基礎演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「東京学派」の哲学				
[授業の概要・目的]					
<p>「京都学派」に対して、「東京学派」は存在するのか、あるいはしたのか。日本哲学の研究者の間で、近年この問題は取り上げられ議論されるが、明確な答えはない。この授業ではその議論の概要を踏まえた上で、廣松渉、大森荘蔵、坂部恵という現代の代表的な哲学者の思想に焦点を当てて、その特徴を明確にすることを目的とする。先行研究によると、この哲学者らには「京都学派」の思想が摂取され、それが反映されてもいるという。それが実質的に京都から東京へと継承されていたのかを確認すると共に、日本の近現代の哲学史の展開という観点から、三人の哲学者の思想の意義を探ることとする。また「東京学派」は形成されたのか、についても検討する。この授業は、ゲストスピーカー2名が加わり、3名の講師が担当する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 廣松渉、大森荘蔵、坂部恵の哲学のテキストを読み、どのような思想が展開されたのかを理解する。 ・ 「東京学派」という集団を仮に想定し、「京都学派」が存在したことの意義を確認し、また日本の哲学における、これまでの研究の哲学的意義を確認する。 					
[授業計画と内容]					
<p>以下のような日本哲学史上の主要問題を課題とし、授業を進める予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 坂部恵『仮面の解釈学』を読む1(上原麻有子) 3 坂部恵『仮面の解釈学』を読む2(上原麻有子) 4 坂部恵『仮面の解釈学』を読む3(上原麻有子) 5 坂部恵の「ペルソナ」論1(佐野寛明、日本哲学史専修OD) 6 坂部恵の「ペルソナ」論2(佐野寛明、日本哲学史専修OD) 7 坂部恵の「ペルソナ」論3(佐野寛明、日本哲学史専修OD) 8 廣松渉の「役割」論1(佐野寛明、日本哲学史専修OD) 9 廣松渉の「役割」論2(佐野寛明、日本哲学史専修OD) 10 廣松渉の「役割」論3(佐野寛明、日本哲学史専修OD) 11 廣松渉の「役割」論4(佐野寛明、日本哲学史専修OD) 12 大森正蔵の哲学 坂本龍一との対話をもとに1(岡田勝明、姫路獨協大学名誉教) 13 大森正蔵の哲学 坂本龍一との対話をもとに2(岡田勝明、姫路獨協大学名誉教) 14 大森正蔵の哲学 坂本龍一との対話をもとに3(岡田勝明、姫路獨協大学名誉教授) 15 フィードバック 					
----- 日本哲学史(基礎演習)(2)へ続く -----					

日本哲学史 (基礎演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点50%と後期末のレポート試験50%による。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回の授業で紹介する参考書を手がかりとし、学んだ内容について理解を深める。

(その他(オフィスアワー等))

要予約

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学103

科目ナンバリング	U-LET06 15402 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(倫理学)(講義A) Ethics (Lectures A)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 児玉 聡		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	倫理学概論				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義の目的は、現代社会における倫理的問題について哲学的に考える仕方を受講者に身につけてもらうことである。本講義では、哲学的に考えるために重要な概念や理論をある程度は紹介しているが、それは知識を身につけるためではなく、倫理的な問題を哲学的に考える仕方を学ぶためである。本講義は『実践・倫理学』を主たるテキストとして、死刑や安楽死といった問題を取り上げて、講義とディスカッションを行う。</p>					
[到達目標]					
<p>規範倫理学における諸理論や重要な諸概念について基本的な知識を習得する。また、それを基に、現代社会の問題について批判的に検討する力を身に付ける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第一回 倫理学について 第二回 死刑の是非(1)賛成論 第三回 死刑の是非(2)反対論 第四回 嘘をつくこと 第五回 自殺と安楽死(1)賛成論 第六回 自殺と安楽死(2)反対論 第七回 喫煙 第八回 ベジタリアニズム(1)賛成論 第九回 ベジタリアニズム(2)反対論 第十回 善いことをする義務(1)許容と義務 第十一回 善いことをする義務(2)超義務 第十二回 善い行いをする動機 第十三回 津波てんでんこ 第十四回 法と道徳 第十五回 全体のまとめとディスカッション</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業中のグループディスカッション参加と課題回答(7割)と期末レポート(3割)。					
[教科書]					
児玉聡 『実践・倫理学』(勁草書房, 2020) ISBN:9784326154630 (毎回、講義で扱う章を事前に読んでくることが求められる。)					
----- 系共通科目(倫理学)(講義A)(2)へ続く -----					

系共通科目 (倫理学) (講義A)(2)

指定した教科書について、授業中に指示した章を読んてくること。また、授業でわからないことについては授業中、あるいはPandAなどを利用して積極的に質問することを期待する。

[参考書等]

(参考書)

赤林朗・児玉聡 『入門・倫理学』 (勁草書房, 2018) ISBN:4326102659 (倫理学の全体像を知りたい受講生に勧める。)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

前の週に指定した文献を読んてくること。

(その他 (オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学104

科目ナンバリング		U-LET06 15403 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(倫理学)(講義B) Ethics (Lectures B)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 児玉 聡	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	倫理学概論				
[授業の概要・目的]					
本講義の目的は、倫理学という学問分野について、その基本的な知見を獲得することである。とくに、西洋倫理学の基本文献について詳しく知ることを目的とする。					
[到達目標]					
倫理学という学問の基本的な知見を獲得し、倫理的な課題に関して自分の頭で考えることができるようになることを目指す。					
[授業計画と内容]					
<p>第一回 導入</p> <p>第二回 プラトン『ゴルギアス』(1)利己主義の主張</p> <p>第三回 プラトン『ゴルギアス』(2)利己主義と正義</p> <p>第四回 アリストテレス『ニコマコス倫理学』(1)快樂説</p> <p>第五回 アリストテレス『ニコマコス倫理学』(2)友情</p> <p>第六回 アリストテレス『ニコマコス倫理学』(3)正義</p> <p>第七回 ミル『功利主義論』(1)功利主義と快樂説</p> <p>第八回 ミル『功利主義論』(2)功利主義の動機と証明</p> <p>第九回 ミル『功利主義論』(3)功利主義と正義</p> <p>第十回 カント『人倫の形而上学の基礎付け』(1)導入</p> <p>第十一回 カント『人倫の形而上学の基礎付け』(2)完全義務の事例</p> <p>第十二回 カント『人倫の形而上学の基礎付け』(3)不完全義務の事例</p> <p>第十三回 ミル『自由論』(1)言論の自由</p> <p>第十四回 ミル『自由論』(2)行為の自由</p> <p>第十五回 全体のまとめとディスカッション</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業中のグループディスカッション参加と課題回答(7割)と期末レポート(3割)。					
[教科書]					
<p>プラトン『ゴルギアス』(岩波書店, 1967) ISBN:4003360125 (光文社新訳文庫など他にも翻訳があるので、どれを参照してもよい。)</p> <p>アリストテレス『ニコマコス倫理学』(岩波書店, 1971) ISBN:4003360419 (光文社新訳文庫など他にも翻訳があるので、どれを参照してもよい。)</p> <p>カント『プロレゴメナ・人倫の形而上学の基礎づけ』(中央公論新社) ISBN:4121600762 (野田</p>					
系共通科目(倫理学)(講義B)(2)へ続く					

系共通科目 (倫理学) (講義B)(2)

又夫訳がよいと思うが、光文社新訳文庫など他の翻訳を参照してもよい。)ミル『自由論』(岩波文庫, 2020) ISBN:4003900022 (光文社新訳文庫など他にも翻訳があるので、どれを参照してもよい。)ミル『功利主義』(岩波文庫, 2021) ISBN:4003900049 (他にも翻訳があるので、どれを参照してもよい。)

指定したテキストについて、授業中に指示した章を読んでくること。

[参考書等]

(参考書)
J.O. アームソン『アリストテレス倫理学入門』(岩波書店, 2004) ISBN:4006001258 (絶版のため、図書館などで借りることを勧める。)
児玉聡『ミル『自由論』の歩き方』(光文社, 2024) ISBN:4334105084 (ミルの『自由論』を読むさいの参考にしてもらいたい。)

[授業外学修(予習・復習)等]

前の週に指定した文献を読んでくること。授業でわからないことについては授業中、あるいはPandAなどを利用して積極的に質問することを期待する。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学105

科目ナンバリング		U-LET07 25502 LJ34			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(宗教学A)(講義) Philosophy of Religion A (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月1	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	宗教哲学概論				
[授業の概要・目的]					
<p>宗教と哲学は、人間存在の根本に関わる問いを共有しながらも、歴史的に緊張をはらんだ複雑な関係を結んできた。その全体を視野に入れて思索しようとする宗教哲学という営みは、多面的な姿ととりながら歴史的に進展し、現代でも大きな思想的可能性を秘めている。この授業では、その今日までの変遷を通時的に追うことによって、宗教哲学という複雑な構成体について、受講者が一通りの見取図を得られるようにすることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>宗教と哲学の関係とその変遷を、両者が切れ結ぶ根本の問いにまで遡ってとらえる態度を身につける。それによって、宗教のもつ広大な意味世界への関心を養うとともに、哲学の概念的思考を生きた問題につなげられるようにする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のテーマについて授業を行っていく(細部は変更の可能性あり)。</p> <p>第1回 宗教と哲学：根本の問いから考える。 第2回 ミュートスからロゴスへ：哲学の誕生 第3回 ソクラテス、プラトン、アリストテレス：哲学における神 第4回 ユダヤ教、キリスト教、イスラム教：啓示と信仰の神 第5回 ヘブライズムとヘレニズムの出会い：キリスト教神学の成立 第6回 中世における神学と哲学：スコラ哲学と神秘主義 第7回 近世形而上学：デカルトと哲学的神学の流れ 第8回 宗教哲学の成立と展開(1)：カントとシュライアマハー 第9回 宗教哲学の成立と展開(2)：ヘーゲルとキルケゴール 第10回 「神の死」とニヒリズム：ニーチェ 第11回 哲学と宗教の「解体」的反復：ハイデガー 第12回 日本の宗教哲学と仏教的伝統(1)：西田幾多郎 第13回 日本の宗教哲学と仏教的伝統(2)：九鬼周造 第14回 アウシュヴィッツ以降の宗教哲学：レヴィナス 第15回 フィードバック</p> <p>* フィードバックの仕方については授業中に説明する。</p>					
----- 系共通科目(宗教学A)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (宗教学A) (講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末の定期試験（筆記）による。試験は小論文形式をとり、課題は1か月前に告知する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前日までにはPandAに授業レジュメを掲示するので、あらかじめ目を通しておくこと。授業後は分からなかった点を自分で調べるなどして理解に努めること。

（その他（オフィスアワー等））

この授業は、後期の宗教学B（講義）と密接に関連し、相補的な意味をもつものである。両方を合わせて受講するのが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学106

科目ナンバリング		U-LET07 25503 LJ34			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(宗教学B)(講義) Philosophy of Religion B (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月1	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	宗教学と宗教学 基本文献解題				
【授業の概要・目的】					
<p>宗教学とは、哲学の一形態であると同時に、宗教学研究のさまざまな道の一つでもある。この両面性とそれによる独自の意義が理解できるように、この授業では、宗教学と宗教学の歴史的関係を明らかにした上で、基本となる文献を幅広く選び、それぞれについて読解の手がかりとなるような解題を行っていく。それを通して、この分野における過去の重要な思索を自ら追思索し、宗教学という事象を視野に入れた哲学的・学問的思索の一端に触れることが、この授業の目的である。</p>					
【到達目標】					
<p>宗教学と宗教学がどのような問いを開拓し、それをどのように思索してきたかを理解するとともに、思想的な文献に触れることを通して自ら思索する方法を学び、研究のための基礎力を身につけられるようにする。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>以下のテーマについて授業を行っていく(細部は変更の可能性あり)。</p> <p>第1回 宗教学と宗教学(1): 歴史的位置づけ 第2回 宗教学と宗教学(2): さまざまなアプローチ 第3回 宗教学と宗教学(3): 現代的課題 第4回 パスカル『パンセ』: 考える葦と隠れたる神 第5回 ヒューム『宗教の自然史』: 経験主義的宗教論の嚆矢 第6回 カント『単なる理性の限界内の宗教』: 根源悪論と宗教学 第7回 ニーチェ『道徳の系譜学』: ラディカルな宗教批判 第8回 ジェイムズ『宗教的経験の諸相』: 宗教心理学の方法 第9回 西田幾多郎『善の研究』: 日本の宗教学の出発点 第10回 モース『贈与論』: 宗教社会学の豊饒な可能性 第11回 ハイデガー『存在と時間』: 「現存在」と「死への存在」 第12回 ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』: 静的宗教と動的宗教 第13回 エリアーデ『聖と俗』: 宗教現象学の射程 第14回 ヨナス『アウシュヴィッツ以後の神概念』: 神概念の解体的変容 第15回 フィードバック</p> <p>* フィードバックの仕方については授業中に説明する。</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 系共通科目(宗教学B)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (宗教学B) (講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末の定期試験（筆記）による。試験は小論文形式をとり、課題は1か月前に告知する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前日までにはPandAに授業レジュメを掲示するので、あらかじめ目を通しておくこと。授業後は分からなかった点を自分で調べるなどして理解に努めること。

（その他（オフィスアワー等））

この授業は、前期の宗教学A（講義）と密接に関連し、相補的な意味をもつものである。両方を合わせて受講するのが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET07 25543 SJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学(基礎演習) Philosophy of Religion (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦 文学研究科 准教授 伊原木 大祐		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金4,5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	宗教哲学基礎演習A				
[授業の概要・目的]					
<p>宗教哲学の諸問題を考えるための基本となる文献を選び、宗教学専修の大学院生にも協力を仰ぎながら、それらを共に読み進み、問題を掘り起こし、議論を行う場となる授業である。授業への能動的な参加を通して、より専門的な研究への橋渡しになるような知識と思考法の獲得を目指す。宗教学専修の学部生の必修授業であるが、哲学と宗教が触れ合う問題領域に関心をもつ2回生、および他専修学生の参加も歓迎する。</p>					
[到達目標]					
<p>宗教哲学の基本文献に馴染み、そこで問われてきた諸問題を自らの関心と結びつけて取り扱えるようになる。とくに宗教学専修の学部生については、この作業を通して、宗教哲学・宗教学に関する自らの研究課題を発見し、それを掘り下げていくための基本的能力を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>「宗教哲学」という分野の思索様式には、どうしても概説的紹介には馴染まない面がある。宗教の問いと哲学の問いがその源泉において交差連関し、しかもそれが人間が生きていくこと自体にまつわる問題と直結するという、このことを見据えた学問的研究がいかなる形をとりうるかということは、その「実例」となる仕事の熟読を通して学んでいくしかない。</p> <p>今期の授業では、京大宗教学専修の長い歴史の一端に触れてもらうという意味も込めて、これまでの専修担当教員や専修出身者の論考の内、専門的な議論に終始せず幅広い視座で具体的な問題にも触れているものを取り上げ、毎回読み進めていきたい。なお、実際に何を読むかは、履修者の関心によって調整することもありうるので、シラバスにはあらかじめ記さないことにする。また、複数の論考ではなく、一冊の著作を通読するスタイルを取る可能性もある。</p> <p>各回2,3人の担当を決め、授業の前半は、担当者の内容要約および考察の発表に充てる。授業の後半では、教員の司会進行の下、発表内容をめぐって、チューターの大学院生たちも交えて、質疑応答と議論を行っていく。隔週授業のため、全7回として各回のテーマを記しておく。(詳細は変更の可能性あり)</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (2回) 2. 論考1についての発表と議論 (2回) 3. 論考2についての発表と議論 (2回) 4. 論考3についての発表と議論 (2回) 5. 論考4についての発表と議論 (2回) 6. 論考5についての発表と議論 (2回) 7. 総括 (2回) 8. フィードバック (1回) 					
----- 宗教学(基礎演習) (2)へ続く -----					

宗教学 (基礎演習) (2)

* フィードバックの方法は授業中に指示する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（発表・討論への参加、場合によっては小レポート等）による。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

この授業は受講者があらかじめ指定の文献を熟読してくることを前提とするものである。最初は相当時間がかかるだろうが、ともかく全体を通読し、分からない点を明確にしてきてほしい。授業後は、教員の説明や質疑応答を通して新たに理解できたことを手がかりに、もう一度文献を読み直し、要約ノートを作るなど、自分の言葉でそれを咀嚼し直してほしい。

（その他（オフィスアワー等））

この授業は、後期の「宗教哲学基礎演習B」と狙いを共有し、密接な関連をもつものである。宗教学専修の学部生は、必修授業となるので、必修単位数を満たすように計画的に履修すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET07 25543 SJ34			
授業科目名 <英訳>	宗教学(基礎演習) Philosophy of Religion (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 杉村 靖彦 文学研究科 准教授 伊原木 大祐	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金4,5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	宗教哲学基礎演習B				
[授業の概要・目的]					
<p>宗教哲学の基本文献を教師とチューター役の大学院生の解説を手がかりに読み進めていくことで、より専門的な研究への橋渡しになるような知識と思考法の獲得を目指す。4回生以上の宗教学専修在籍者にとっては、卒論の中間発表の場ともなる。</p> <p>宗教学専修の学部生を主たる対象とするが、哲学と宗教が触れ合う問題領域に関心をもつ2回生、および他専修学生の参加も歓迎する。</p>					
[到達目標]					
<p>宗教哲学の基本文献に馴染み、そこで問われてきた諸問題を自らの関心と結びつけて取り扱えるようになる。とくに宗教学専修の学部生については、この作業を通して、卒業論文の作成に向けての準備態勢が整えられるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>宗教哲学の基本文献といえる著作や論文を選んで各回の授業に割り振り、事前に出席者に読んできてもらう。そして、毎回チューター役の大学院生の解説を踏まえて、教員の司会進行の下で、質疑応答と議論を行っていく(その際、履修者には特定質問者の役割を少なくとも1回は担当してもらう)。また、卒論の中間発表の際には、論述の仕方や文献の扱い方なども指導し、論文の書き方を学ぶ機会とする。</p> <p>隔週の授業のため、全7回(+フィードバック)として各回のテーマを記しておく。なお、どのような文献を取り上げるかは、前期の「宗教哲学基礎演習A」の様子を見て決めることにする。それによって、各回で取り上げる文献の種類も、以下の記したものと異なる可能性もある。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・卒業論文の中間発表(2回) 2. 宗教哲学の基本文献(近代フランス)の読解・解説・考察(2回) 3. 宗教哲学の基本文献(近代ドイツ)の読解・解説・考察(2回) 4. 宗教哲学の基本文献(近現代英米)の読解・解説・考察(2回) 5. 宗教哲学の基本文献(現代フランス)の読解・解説・考察(2回) 6. 宗教哲学の基本文献(現代ドイツ)の読解・解説・考察(2回) 7. 宗教哲学の基本文献(京都学派の哲学)の読解・解説・考察(2回) 					
宗教学(基礎演習)(2)へ続く					

宗教学 (基礎演習) (2)

8. フィードバック (1回)

* フィードバックの方法は授業中に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

特定質問をはじめとする平常点、および学期末のレポートによる。
レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修 (予習・復習) 等】

この授業は受講者があらかじめ指定の文献を熟読してくることを前提とするものである。最初は相当時間がかかるだろうが、とにかく全体を通読し、分からない点を明確にしてきてほしい。授業後は、チューターの説明や質疑応答を通して新たに理解できたことを手がかりに、もう一度文献を読み直し、要約ノートを作るなど、自分の言葉でそれを咀嚼し直してほしい。

(その他 (オフィスアワー等))

この授業は、前期の「宗教哲学基礎演習A」と狙いを共有し、密接な関連をもつものである。宗教学専修の学部生は、必要単位数を勘案しつつどちらも出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学109

科目ナンバリング		U-LET08 35602 LJ34			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(キリスト教学)(講義) Christian Studies (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 津田 謙治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	キリスト教学A(講義)				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義は、キリスト教の思想的源泉の一つである聖書を基本的な文献として分析しつつ、そこに記述された多様な諸問題を論じることを目的とする。聖書は我々から遥かに隔たった古代に成立したテキストであり、その理解のためには当時の歴史、慣習、思想など様々な事柄を学ぶ必要がある。この講義では、それらの事柄に触れつつ、教理や文化などと関連させながら、いくつかの主題が後の時代に及ぼした影響を分析する。尚、前期は基本的にユダヤ教の聖書を用いる。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な文化、思想の中で暗示され、また基礎となっている聖書中の物語や背景などを読み取ることができる。 ・キリスト教思想における諸問題を、聖書の記述に即して分析することができる。 ・聖書の成立や正典史などの分析を通して、文献を批判的に扱うことを学ぶことができる。 					
[授業計画と内容]					
<p>初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ユダヤ教の聖書と正典の成立 3. ユダヤ教の聖書の歴史的背景 4. 世界と人間の創造 5. ノアの方舟 6. アブラハムとその子孫たち 7. ヨセフとエジプトへの移住 8. 出エジプト 9. イスラエル王国の成立とダビデ 10. ソロモンと王国の分裂 11. 預言者の活躍 12. バビロン捕囚 13. 知恵文学 14. マカバイ戦争とローマの介入 15. まとめと総括およびレポート等に関する解説 					
----- 系共通科目(キリスト教学)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (キリスト教学) (講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートによる（3回程度の小レポートと学期末レポートを含み、講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う）。
レポート内容についての相談は、個別に行う。

【教科書】

授業中にプリントを配付する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

・授業中に取り上げる事典類や参考文献などを用いての復習を中心とするが、詳細については授業内にて説明する。

（その他（オフィスアワー等））

・受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。
・質問は、基本的にメール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学110

科目ナンバリング	U-LET08 35604 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(キリスト教学)(講義) Christian Studies (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 津田 謙治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	キリスト教学B(講義)				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義は、キリスト教の思想的源泉の一つである聖書を基本的な文献として分析しつつ、そこに記述された多様な諸問題を論じることを目的とする。聖書は我々から遥かに隔たった古代に成立したテキストであり、その理解のためには当時の歴史、慣習、思想など様々な事柄を学ぶ必要がある。この講義では、それらの事柄に触れつつ、教理や文化などと関連させながら、いくつかの主題が後の時代に及ぼした影響を分析する。尚、後期は基本的に新約聖書を用いる。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な文化、思想の中で暗示され、また基礎となっている聖書中の物語や背景などを読み取ることができる。 ・ キリスト教思想における諸問題を、聖書の記述に即して分析することができる。 ・ 聖書の成立や正典史などの分析を通して、文献を批判的に扱うことを学ぶことができる。 					
[授業計画と内容]					
<p>初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 新約聖書と正典の成立 3. 新約聖書の歴史的背景 4. イエスの誕生 5. 洗礼者ヨハネ 6. イエスの奇跡 7. 山上の説教 8. 十字架と復活 9. 使徒たちの活動 10. パウロの回心 11. パウロ書簡 12. 牧会書簡 13. 共同書簡 14. 黙示録 15. まとめと総括およびレポート等に関する解説 					
----- 系共通科目(キリスト教学)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (キリスト教学) (講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートによる（3回程度の小レポートと学期末レポートを含み、講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う）。
レポート内容についての相談は、個別に行う。

【教科書】

授業中にプリントを配付する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

・授業中に取り上げる事典類や参考文献などを用いての復習を中心とするが、詳細については授業内にて説明する。

（その他（オフィスアワー等））

・受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。
・質問は、基本的にメール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学111

科目ナンバリング		U-LET09 35745 SJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 足立 恵理子		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	研究購読 A Companion to Ancient Aesthetics を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習では、美学に関する英語文献を講読し、それを通じて英語の実践的読解力を養うとともに、美学の諸問題について知見を深める。</p> <p>今学期は、A Companion to Ancient Aesthetics (Blackwell Companions to the Ancient World) 2015.を取り上げ、chapter 23 Imaginationから読み進める。(その後はchapter 26 Sublime, chapter 31 Pleasureなどを予定)</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・英語で書かれた美学の議論の正確な理解をめざす。 ・美学の諸課題へのアプローチ方法を学ぶ。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション テキスト・参考文献について紹介し(コピー配布)、授業の進め方と準備の方法を説明する。</p> <p>第2回～第14回 テキストの講読 テキストを精読し、内容についても学ぶ。毎回の授業で原則1人1回は訳を担当する輪読形式を予定。範囲としては、毎回3ページ程度を予定。</p> <p>第15回 まとめ 本演習の内容をふりかえり、総括する。</p> <p>(具体的な方法については受講者の学習状況を踏まえ決定する)。</p>					
[履修要件]					
美学講義を履修済みであることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点(輪読における訳読状況、内容への理解)60%+期末レポート(テキスト未読箇所の翻訳または講読内容にかんする英文エッセイ、詳細は授業中に指示する)40%によって行う。</p> <p>理由のいかんを問わず総授業回数の1/3以上を欠席した者には単位認定を行わない。</p>					
----- 美学美術史学 (演習II)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (演習II)(2)

[教科書]

Pierre Destree他 『A Companion to Ancient Aesthetics (Blackwell Companions to the Ancient World)』 (Wiley-Blackwell, 2015) ISBN:978-1444337648 ((初回に講読箇所のコピーを配布))

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

指定された範囲の英文を訳すだけでなく、文中の事項も調べ、当てられた際に説明できるように準備しておくこと。また、「自分の興味関心と結びつけ、応用することは可能か」など、自身の研究内容との関連性についても考える。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET09 35745 SJ34				
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山形 美有紀		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	15世紀ドイツ・ネーデルラントの三連祭壇画				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習では、西洋美術史に関する英語文献を講読し、アカデミックな英語の読解力の習得を目指します。講読テキストは、15世紀ドイツの三連祭壇画を包括的に論じた以下の書籍です。 Lynn F. Jacobs, <i>The Painted Triptychs of Fifteenth-Century Germany: Case Studies of Blurred Boundaries</i>, Amsterdam University Press, 2022.</p> <p>本演習では、第3章「Regional Boundaries: Rogier van der Weyden's Columba Altarpiece and Cross-Influences Between the Netherlands and Cologne」を読み進めます。初期ネーデルラント絵画の代表作であるロヒール・ファン・デル・ウェイデン《コルンバ祭壇画》は、ケルンの画家シュテファン・ロホナーが手掛けた《三王礼拝祭壇画》から、さまざまなモチーフや構図を借用しています。両祭壇画の比較検討を通じて、初期ネーデルラント絵画とドイツ絵画の様式交流、三王礼拝をはじめとするキリスト教図像学、イメージと宗教的機能の複雑な関係性など、美術史研究の多様なアプローチに触れてもらいます。</p>					
[到達目標]					
<p>英語で執筆された西洋美術史の専門書を、正確に読解する力を養成します。 西洋美術史研究の方法論、英語での作品記述、専門用語の訳し方に慣れてもらいます。 キリスト教図像学や聖書についての基礎的な知識を身に付けてもらいます。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション テキストのコピーを配布し、予習の進め方を説明します。テキストで言及される画家や作品について講義を行います。受講生の興味関心や学習状況を把握するためのアンケートを実施します。履修希望者は必ず、初回授業に出席してください。</p> <p>第2回-第14回 テキストの講読 テキストの第3章を輪読してもらいます。進捗状況は受講生の習熟度に応じて変動しますが、毎回2-3ページを目安に予習してもらいます。テキストで言及される画家や作品、専門用語の訳し方については、適宜、補足説明を行います。 《期末試験》試験では第3章の英文和訳を課します。一部、授業中に読み残した箇所から出題する可能性があります。</p> <p>第15回 フィードバック 期末試験の模範解答を配布し、補足説明を行います。</p>					
[履修要件]					
西洋美術史の予備知識の有無は問いませんが、毎回予習をしたうえで授業に臨んでください。					
----- 美学美術史学 (演習II)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (演習II)(2)

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業中の英文和訳；約40％）および期末試験（既読箇所+未読箇所の英文和訳；約60％）に基づいて評価します。ただし括弧内の割合は、受講生の習熟度に応じて変動することがあります。受講生の人数によっては、期末レポートでの評価に変更する可能性があります。原則として、4回以上欠席した場合は単位を認めません。原則として、遅刻・早退も欠席扱いにします。

【教科書】

Lynn F. Jacobs 『The Painted Triptychs of Fifteenth-Century Germany: Case Studies of Blurred Boundaries』
(Amsterdam University Press, 2022) ISBN:9789463725408 (初回授業で講読箇所のコピーを配布します。)

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習の進め方：構文と不明な単語を確認し、和訳を作成してください。テキストで言及される作品については、図版を丹念に観察しておきましょう。

復習の進め方：授業中の解説に基づいて予習時の和訳を修正し、専門用語の定訳を暗記してください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学113

科目ナンバリング		U-LET09 25753 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (講読) Aesthetics and Art History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 高井 たかね		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木2	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	美学美術史学 (講読)				
[授業の概要・目的]					
<p>日本・東洋美術史学では、作品や作者を研究する際に様々な文献を読むことがしばしば要求される。この授業では、漢文体で書かれた史料を読むための基礎的な能力を養うことを目的とする。今年度は南宋、林洪『山家清事』をテキストとし、山林に隠棲する文人の理想的生活と、そのための具体的実践方法について述べた文章を読む。授業では、出席者に訓読および現代語訳をしてもらい、語法の確認をしながら漢文読解の訓練をおこなう。各回の担当者を決めないので、全員毎回の予習が必要。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢文読解のための基礎的知識、能力を身につける。 ・ 具体的には、漢文の語法について基礎的理解を得る、また訓読、現代語訳のために必要な基本的な工具書を知り、それらを使いこなせるようになること。 ・ 文章の背景にある中国文化に対する理解を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 講義趣旨説明 南宋、林洪と『山家清事』の概要説明。授業の進め方、評価方法等についての確認。必要な工具書、参考図書を紹介。</p> <p>第2～13回 『山家清事』の精読。 進度は、はじめは1回に半葉程度になるかと思われる。</p> <p>第14回 総括 読解部分についてまとめ、疑問点を再考する。また、前回までの進み具合によっては引き続き会読をおこなうための予備日とする。</p> <p>第15回 見学 漢籍書庫の見学をおこなう予定。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点評価 授業時の訓読・現代語訳の発表、および議論への参加により評価する。</p>					
[教科書]					
<p>漢和辞典が必要。 テキスト、参考資料はコピーを配付する。</p>					
----- 美学美術史学 (講読)(2)へ続く -----					

美学美術史学 (講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の精読箇所について、必ず予習が必要。漢和辞典等を使用して訓読、現代語訳しておく。

(その他(オフィスアワー等))

毎回、一定量のテキストを読むので、参加者には相応の予習が要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学114

科目ナンバリング		U-LET09 25753 LJ34			
授業科目名 <英訳>	美学美術史学 (講読) Aesthetics and Art History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 健一		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木2	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	くずし字講読				
[授業の概要・目的]					
日本・東洋美術史学では、作品や作者を研究する際に様々な文献を読むことがしばしば要求される。この授業は、くずし字で書かれた史料を読むための基礎的な能力を養うことを目的とする。初め数回は基本的な変体仮名を学び、その後平安時代・鎌倉時代の絵巻物をテキストとして翻刻・現代語訳を作成する。毎回課題を設定し、参加者には授業時に発表を行ってもらう。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・くずし字読解のための基礎的知識、能力を身につける。 ・絵巻物のテキストを理解するための基本的な方法を身につける。 ・絵巻物のテキストと絵画表現との照合作業を通じて美術史学の研究能力を涵養する。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1～2回 講義趣旨説明 授業の進め方、評価方法等についての確認。必要な図書の紹介。基本的な変体仮名の習得。</p> <p>第3～6回 平安時代の絵巻を読む：病草紙、地獄草紙</p> <p>第7～10回 平安時代の絵巻を読む：伴大納言絵詞</p> <p>第11～14回 鎌倉時代の絵巻を読む：玄奘三蔵絵</p> <p>第15回 学習到達度の確認</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点 60% 授業時の訓読・現代語訳の発表、および議論への参加により評価。</p> <p>小テスト 40% 最終回に小テストを行い評価。</p>					
[教科書]					
テキスト、参考資料はコピーを配付する。					
[参考書等]					
<p>(参考書)</p> <p>授業中に紹介する</p> <p>利用しやすい辞典として以下がある。</p> <p>児玉幸多『くずし字用例辞典』(東京堂出版)</p> <p>児玉幸多『くずし字解説辞典』(東京堂出版)</p>					
					美学美術史学 (講読)(2)へ続く

美学美術史学 (講読)(2)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

各回の精読箇所について、必ず予習が必要。訓読・現代語訳しておくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

毎回、一定量のテキストを読むので、参加者には相応の予習が要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学115

科目ナンバリング		U-LET09 25705 LJ34			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(美学)(講義) Aesthetics (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 杉山 卓史	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	美学入門・分析篇				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義は、美学という学問の輪郭(美学においてどのような問題がどのようにしてどの程度解決されるのか)を示すことにある。今学期は「分析篇」とし、美学が扱う多くの問題のうちの代表的ないくつか(以下の「授業計画と内容」を参照)を取り上げ、20世紀後半以後の英語圏において主流となった「分析美学」の方法に主として依拠しつつ、これを考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>美学という学問において、どのような問題がどのようにしてどの程度解決されるのか、を分析的に理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の各項目を【】で示した週数で講述する予定だが、受講者の理解度や興味関心を勘案して変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入【1】 2. 「分析美学」とは何か【1】 3. 芸術は(いかにして)定義可能か【3】 4. 「完全な贋作」の何が悪いのか【3】 5. 芸術作品の解釈に際して作者の「意図」をどの程度・どのように考慮すべきか【3】 6. 芸術作品の批評に用いられる言葉はどのような特徴を持つか【3】 7. フィードバック【1】 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点(毎回課す小レポート)60点と期末レポート40点に基づき評価する。詳細は初回授業時に説明するので、疑問点があれば必ずその際に質問すること(2回目以降は、内容に集中するため、成績評価に関する質問は受け付けない)。やむをえず初回授業を欠席した場合は、このことを理解した上で履修すること(ただし、説明に用いた資料はKULASIS and/or PandAにアップロードして後からでも確認できるように配慮する)。</p>					
-----系共通科目(美学)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目 (美学) (講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

ロバート・ステッカー (森功次訳) 『分析美学入門』 (勁草書房) ISBN:9784326800537

西村清和 (編・監訳) 『分析美学基本論文集』 (勁草書房) ISBN:9784326800568

その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業中に紹介した参考文献・芸術作品などを、自らの関心・問題意識に照らして調べること。授業中に紹介した考え方を、別の事例・現象に適用して考察すること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学116

科目ナンバリング		U-LET09 25707 LJ34			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(美学)(講義) Aesthetics (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 杉山 卓史	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	美学入門・歴史篇(古代・中世)				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義は、美学という学問の輪郭(美学においてどのような問題がどのようにしてどの程度解決されるのか)を示すことにある。後期は「歴史篇」とし、今日に連なる美学的問題をいつ・だれが・どのように・なぜ(いかなる動機・背景の下で)扱ってきたかを概観・考察する。今年度は、主として古代・中世の西洋を範囲とする。</p>					
[到達目標]					
<p>美学という学問において、どのような問題がどのようにしてどの程度解決されるのか、を歴史的に理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>おおよそ以下の各項目を以下の順で【】に記した回数で講述するが、受講者の理解度や興味関心を勘案して変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入【1】 2. 本講義の視点：美学を学ぶのになぜ美学史を学ぶのか【1】 3. プラトンの美学【2】 4. アリストテレスの美学【2】 5. 新プラトン主義の美学【2】 6. 古代の修辞学【2】 7. アウグスティヌスの美学【2】 8. トマス・アクィナスの美学【2】 9. フィードバック【1】 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点(毎回課す小レポート)60点と期末レポート40点に基づき評価する。詳細は初回授業時に説明するので、疑問点があれば必ずその際に質問すること(2回目以降は、内容に集中するため、成績評価に関する質問は受け付けない)。やむをえず初回授業を欠席した場合は、このことを理解した上で受講すること(ただし、説明に用いた資料はKULASIS and/or PandAにアップロードして後からでも確認できるように配慮する)。</p>					
[教科書]					
使用しない					
-----系共通科目(美学)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目 (美学) (講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

小田部胤久 『西洋美学史』 (東京大学出版会、2009年) ISBN:9784130120586

その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業中に紹介した参考文献・芸術作品などを、自らの関心・問題意識に照らして調べること。授業中に紹介した考え方を、別の事例・現象に適用して考察すること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学117

科目ナンバリング		U-LET09 25708 LJ34			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(日本・東洋美術史)(講義) Japanese Art History (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 筒井 忠仁		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金1	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本美術を問い直す				
[授業の概要・目的]					
<p>美術に関心を持つ人は多いが、日本美術と聞くと、「古くさい」とか、「つまらない」とか、ネガティブな評価を返す人が多いのも事実である。だが、果たして本当に日本美術は「古くさ」く、「つまらない」ものなのだろうか。</p> <p>本講義は、日本美術を従来とは違った角度から見つめ直し、新たな価値を見出そうとするものである。そして、過去の日本美術を見ることで、現代の我々のものの見方・価値観に変化をもたらすことが、最終的な目標である。</p>					
[到達目標]					
<p>美術作品の鑑賞方法について理解し、実作品を正しく見る能力を養う。</p> <p>主要な作品に対する理解を深め、日本美術の歴史的展開について説明ができるようになる。</p> <p>日本美術の様々な要素について学習し、日本美術とは何か、日本文化とは何かについて考える力を身に付ける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>授業で取り上げる内容は以下の通りである。ただし、内容や順序は、受講生の理解度に応じて変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 序論 2 縄文土器と土偶 3 古墳壁画と法隆寺金堂壁画 4 天平仏 5 地獄の図像 6 平安の祈り 7 似絵と写実 8 絵巻の視線 9 水墨画と洋画 10 戦乱と美術 11 庶民の美術 12 グロテスク美術 13 近代洋画の胎動 14 現代アートと日本美術 15.まとめ 小テスト 					
----- 系共通科目(日本・東洋美術史)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (日本・東洋美術史) (講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業内（最終日）に行う小テストにより評価します。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で取り上げる作品は、寺院や博物館で実際に見ることが出来るものが多いので、事前・事後にできるだけ実物を見てください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

【実務経験のある教員による授業】

分類
実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容
文化庁での国宝・重要文化財の調査・指定・修理等。

実務経験を活かした実践的な授業の内容
実作品の調査や修理に携わった経験に基づき、作品の裏側の情報や、科学的な調査に基づく知見を紹介する。

思想文化学118

科目ナンバリング	U-LET09 25709 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (西洋美術史) (講義) European Art History (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 平川 佳世		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金1	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋美術史概論 (16世紀のドイツ美術に注目して)				
[授業の概要・目的]					
美術史における諸問題の考察を通じて、研究の基礎となる方法論や思考法に親しむとともに、西洋美術に関する基礎知識を習得することを目指す。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・様式分析、図像分析など美術史学の基礎的な方法論について、理解する。 ・16世紀のドイツ美術の展開について、アルブレヒト・デューラーの活動に注目しつつ、基礎的な知識を習得する。 ・具体的な作品を美術史学の観点から分析しうる能力を身につける。 					
[授業計画と内容]					
<p>本年度は、16世紀のドイツ美術について、他の地域の美術との関係、宗教、政治、社会、経済など様々な観点から論じる。基本的に以下のプランに従って講義を進めるが、講義の進み具合、受講生の理解度等に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 美術史学とは？ 第3回 西洋美術史における16世紀 第4回～第7回 デューラーとイタリア 第8回～第11回 デューラーの工房運営と新領域への挑戦 第12回～第13回 デューラーと注文主たち 第14回 まとめと今後の課題 《期末試験》 第15回 フィードバック (詳細は授業中に説明します)</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点 (出席状況および小レポートなど、30点) と期末試験 (70点) に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として、4回以上授業を欠席した者には、単位を認めない。 ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。 					
[教科書]					
<p>使用しない 必要に応じて、関連資料を配布する。</p>					
----- 系共通科目 (西洋美術史) (講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (西洋美術史) (講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習・復習については、授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

受講に際して、西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって、熱心に授業に参加してほしい。また、関連作品の展覧会等には自主的に足を運び、実作品を鑑賞する機会を持つことが好ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET40 10012 SJ36			
授業科目名 <英訳>	哲学基礎文化学系(ゼミナールI) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 津田 謙治 非常勤講師 真田 萌依 非常勤講師 鈴木 英仁 非常勤講師 佐野 寛明 非常勤講師 大島 弘 非常勤講師 西岡 千尋 非常勤講師 久富 峻介	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木2	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	哲学基礎文化学入門				
【授業の概要・目的】					
<p>哲学基礎文化学系各専修の大学院で学んだ若手研究者によるリレー講義。それぞれのイキのいい研究テーマについて、学部学生向けに、分りやすく、そして楽しく語ってまいります。</p> <p>この授業の特色として、毎回、質問の時間を用意しています。その日の講義の内容はもちろんのこと、学生生活や研究生生活の相談や、進路相談など、経験豊富な先輩にどしどしぶつけてみましょう。皆さんにとって学問の最前線に触れるとともに、研究室の先輩と早い目から交流する場となることもこの授業の目的のひとつです。</p> <p>なお受講者には担当者が代わるたびに授業アンケートに答えていただきます。これからあちこちの大学で教鞭を取る若手教員を育てるつもりになって、参考にも励みにもなる回答をお寄せください。</p>					
【到達目標】					
哲学基礎文学系に進むための基本的な知識とスキルを習得する。哲学で論じられる幅広いトピックに対応できる柔軟な思考力を養う。					
【授業計画と内容】					
第1回 ガイダンス(津田)・真田萌依講師「西田幾多郎における「身体」の問題1」					
第2回 真田萌依講師「西田幾多郎における「身体」の問題2」					
第3回 鈴木英仁講師「ミルの経験論と功利主義1」					
第4回 鈴木英仁講師「ミルの経験論と功利主義2」					
第5回 鈴木英仁講師「ミルの経験論と功利主義3」					
第6回 佐野寛明講師「触覚知としての「見る」はいかにして可能か 廣松哲学における認識、身体空間1」					
第7回 佐野寛明講師「触覚知としての「見る」はいかにして可能か 廣松哲学における認識、身体空間2」					
第8回 佐野寛明講師「触覚知としての「見る」はいかにして可能か 廣松哲学における認識、身体空間3」					
第9回 大島弘講師「後期中世における『分析論後書』の翻訳と注解1」					
第10回 大島弘講師「後期中世における『分析論後書』の翻訳と注解2」					
第11回 西岡千尋講師「アリストテレスの形而上学 プラトン哲学に対する批判から1」					
第12回 西岡千尋講師「アリストテレスの形而上学 プラトン哲学に対する批判から2」					
第13回 久富峻介講師「ドイツ観念論1」					
第14回 久富峻介講師「ドイツ観念論2」					
----- 哲学基礎文化学系(ゼミナールI)(2)へ続く -----					

哲学基礎文化学系 (ゼミナールⅠ)(2)

第15回 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業に際しては、毎回出席をとります。全講義の8割以上に出席することが、単位認定の条件です。成績評価は学期末レポートで行います。提出要領その他は授業時に伝達します。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に適宜指示する。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に適宜指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学

(2025.3.14)更新

講義コード	専修コード	担当専修別	講義名	講義形態	授業時間数	単位	開講期	曜日1	時限1	曜日2	時限2	担当教員名	使用言語	(院)聴講生	シラバス連番	備考
6631011	21	日本史学	日本史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	金	2			後藤 敦史	日本語	○	歴史文化学1	学部・大学院科目
6631014	21	日本史学	日本史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	木	3			熊谷 隆之	日本語	○	歴史文化学2	学部・大学院科目
6631015	21	日本史学	日本史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	木	3			熊谷 隆之	日本語	○	歴史文化学3	学部・大学院科目
6631016	21	日本史学	日本史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	木	2			吉江 崇	日本語	○	歴史文化学4	学部・大学院科目
6631017	21	日本史学	日本史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	木	2			吉江 崇	日本語	○	歴史文化学5	学部・大学院科目
6631002	21	日本史学	日本史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	4			三宅 正浩	日本語	○	歴史文化学6	学部・大学院科目
6631003	21	日本史学	日本史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	金	4			本庄 総子	日本語	○	歴史文化学7	学部・大学院科目
6631004	21	日本史学	日本史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	2			岩城 卓二	日本語	○	歴史文化学8	学部・大学院科目
6631006	21	日本史学	日本史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	2			福家 崇洋	日本語	○	歴史文化学9	学部・大学院科目
6631007	21	日本史学	日本史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	木	4			斎木 涼子	日本語	○	歴史文化学10	学部・大学院科目
6631008	21	日本史学	日本史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	2			岩崎 奈緒子	日本語	○	歴史文化学11	学部・大学院科目
6631009	21	日本史学	日本史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	5			横内 裕人	日本語	○	歴史文化学12	学部・大学院科目
6631010	21	日本史学	日本史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			佐藤 雄介	日本語	○	歴史文化学13	学部・大学院科目
M303003	22	東洋史学	東洋史学(演習)	演習	30	2	前期	金	2			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学14	大学院科目
M303004	22	東洋史学	東洋史学(演習)	演習	30	2	後期	金	2			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学15	大学院科目
M303005	22	東洋史学	東洋史学(演習)	演習	30	2	前期	月	5			箱田 恵子	日本語	○	歴史文化学16	大学院科目
M303006	22	東洋史学	東洋史学(演習)	演習	30	2	後期	月	5			箱田 恵子	日本語	○	歴史文化学17	大学院科目
6731003	22	東洋史学	東洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	4			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学18	学部・大学院科目
6731004	22	東洋史学	東洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	4			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学19	学部・大学院科目
6731005	22	東洋史学	東洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	木	1			箱田 恵子	日本語	○	歴史文化学20	学部・大学院科目
6731006	22	東洋史学	東洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	木	1			箱田 恵子	日本語	○	歴史文化学21	学部・大学院科目
6731010	22	東洋史学	東洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			吉澤 誠一郎	日本語	○	歴史文化学22	学部・大学院科目
6731013	22	東洋史学	東洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	1			矢木 毅	日本語	○	歴史文化学23	学部・大学院科目
6731014	22	東洋史学	東洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	1			矢木 毅	日本語	○	歴史文化学24	学部・大学院科目
6731018	22	東洋史学	東洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	3			承 志	日本語	○	歴史文化学25	学部・大学院科目
6731019	22	東洋史学	東洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	3			承 志	日本語	○	歴史文化学26	学部・大学院科目
6731023	22	東洋史学	東洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	2			宮宅 潔	日本語	○	歴史文化学27	学部・大学院科目
6731024	22	東洋史学	東洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	2			宮宅 潔	日本語	○	歴史文化学28	学部・大学院科目
6731027	22	東洋史学	東洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	1			古松 崇志	日本語	○	歴史文化学29	学部・大学院科目
6731028	22	東洋史学	東洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	1			古松 崇志	日本語	○	歴史文化学30	学部・大学院科目
6741001	22	東洋史学	東洋史学(演習I)	演習	30	2	前期	火	5			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学31	学部・大学院科目
6741002	22	東洋史学	東洋史学(演習I)	演習	30	2	後期	火	5			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学32	学部・大学院科目
6743001	22	東洋史学	東洋史学(演習II)	演習	30	2	前期	火	2			箱田 恵子	日本語	○	歴史文化学33	学部・大学院科目
6743002	22	東洋史学	東洋史学(演習II)	演習	30	2	後期	火	2			箱田 恵子	日本語	○	歴史文化学34	学部・大学院科目
6749004	22	東洋史学	東洋史学(演習)	演習	30	2	後期	金	3			佐藤 達郎	日本語	○	歴史文化学35	学部・大学院科目
6831004	23	西南アジア史学	西南アジア史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	木	3			法貴 遊	日本語	○	歴史文化学36	学部・大学院科目
6831005	23	西南アジア史学	西南アジア史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	3			山口 元樹	日本語	○	歴史文化学37	学部・大学院科目
6831006	23	西南アジア史学	西南アジア史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	3			磯貝 健一	日本語	○	歴史文化学38	学部・大学院科目
6831007	23	西南アジア史学	西南アジア史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	2			帯谷 知可	日本語	○	歴史文化学39	学部・大学院科目
6831009	23	西南アジア史学	西南アジア史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			高松 洋一	日本語	○	歴史文化学40	学部・大学院科目
6831011	23	西南アジア史学	西南アジア史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	3			岩本 佳子	日本語	○	歴史文化学41	学部・大学院科目
6842001	23	西南アジア史学	西南アジア史学(演習II)	演習	60	4	通年	火	2			磯貝 健一	日本語	○	歴史文化学42	学部・大学院科目
6842002	23	西南アジア史学	西南アジア史学(演習II)	演習	60	4	通年	水	3			岩本 佳子	日本語	○	歴史文化学43	学部・大学院科目
6844001	23	西南アジア史学	西南アジア史学(演習II)	演習	30	2	前期	金	3			伊藤 隆郎	日本語	○	歴史文化学44	学部・大学院科目
6844002	23	西南アジア史学	西南アジア史学(演習II)	演習	30	2	後期	金	3			伊藤 隆郎	日本語	○	歴史文化学45	学部・大学院科目
6850001	23	西南アジア史学	西南アジア史学(講読)	講読	60	4	通年	金	1			今松 泰	日本語	○	歴史文化学46	学部・大学院科目
6851002	23	西南アジア史学	西南アジア史学(講読)	講読	30	2	前期	火	4			中西 竜也	日本語	○	歴史文化学47	学部・大学院科目
6851003	23	西南アジア史学	西南アジア史学(講読)	講読	30	2	後期	火	4			磯貝 健一	日本語	○	歴史文化学48	学部・大学院科目
9608001	23	西南アジア史学	イラン語(初級)(語学)	語学	60	4	通年	金	2			杉山 雅樹	日本語	○	歴史文化学49	学部・大学院科目
6974001	24	西洋史学	西洋史学(演習IV)	演習	30	2	前期	金	5			金澤 周作	日本語	○	歴史文化学50	学部・大学院科目
6974002	24	西洋史学	西洋史学(演習IV)	演習	30	2	後期	金	5			金澤 周作	日本語	○	歴史文化学51	学部・大学院科目
6931001	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	3			安平 弦司	日本語	○	歴史文化学52	学部・大学院科目
6931002	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	3			安平 弦司	日本語	○	歴史文化学53	学部・大学院科目
6931003	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	5			佐々木 博光	日本語	○	歴史文化学54	学部・大学院科目
6931004	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	木	2			小山 啓子	日本語	○	歴史文化学55	学部・大学院科目
6931005	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	4			竹下 哲文	日本語	○	歴史文化学56	学部・大学院科目
6931006	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	4			竹下 哲文	日本語	○	歴史文化学57	学部・大学院科目
6931007	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	2			伊藤 順二	日本語	○	歴史文化学58	学部・大学院科目
6931008	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	2			伊藤 順二	日本語	○	歴史文化学59	学部・大学院科目
6931009	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	木	3			辻河 典子	日本語	○	歴史文化学60	学部・大学院科目
6931010	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	3			佐藤 公美	日本語	○	歴史文化学61	学部・大学院科目
6931011	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	4			小関 隆	日本語	○	歴史文化学62	学部・大学院科目
6931012	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	4			小関 隆	日本語	○	歴史文化学63	学部・大学院科目
6931014	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	歴史文化学64	学部・大学院科目
6931015	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	歴史文化学65	学部・大学院科目

6931016	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	2			藤井 崇	日本語	○	歴史文化学66	学部・大学院科目
6931017	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	2			藤井 崇・Rachele Dubbini	日本語	○	歴史文化学67	学部・大学院科目
6931018	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	5			小山 哲	日本語	○	歴史文化学68	学部・大学院科目
6931019	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	5			小山 哲	日本語	○	歴史文化学69	学部・大学院科目
6931020	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	4			林田 敏子	日本語	○	歴史文化学70	学部・大学院科目
6931021	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	3			金澤 周作	日本語	○	歴史文化学71	学部・大学院科目
6931022	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	3			金澤 周作	日本語	○	歴史文化学72	学部・大学院科目
6931023	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	3			佐藤 公美	日本語	○	歴史文化学73	学部・大学院科目
6931024	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	金	4			福元 健之	日本語	○	歴史文化学74	学部・大学院科目
6931025	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	金	4			福元 健之	日本語	○	歴史文化学75	学部・大学院科目
6931026	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	2			山口 育人	日本語	○	歴史文化学76	学部・大学院科目
6931027	24	西洋史学	西洋史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	金	2			後藤 敦史	日本語	○	歴史文化学77	学部・大学院科目
6961001	24	西洋史学	西洋史学(講読)	講読	30	2	前期	火	4			小山 哲	日本語	○	歴史文化学78	学部・大学院科目
6961002	24	西洋史学	西洋史学(講読)	講読	30	2	後期	火	4			小山 哲	日本語	○	歴史文化学79	学部・大学院科目
6971001	24	西洋史学	西洋史学(演習I)	演習	30	2	前期	金	5			藤井 崇	日本語	○	歴史文化学80	学部・大学院科目
6971002	24	西洋史学	西洋史学(演習I)	演習	30	2	後期	金	5			藤井 崇	日本語	○	歴史文化学81	学部・大学院科目
6972001	24	西洋史学	西洋史学(演習II)	演習	30	2	前期	金	5			佐藤 公美	日本語	○	歴史文化学82	学部・大学院科目
6972002	24	西洋史学	西洋史学(演習II)	演習	30	2	後期	金	5			佐藤 公美	日本語	○	歴史文化学83	学部・大学院科目
6973001	24	西洋史学	西洋史学(演習III)	演習	30	2	前期	金	5			小山 哲・安平 弦司	日本語	○	歴史文化学84	学部・大学院科目
6973002	24	西洋史学	西洋史学(演習III)	演習	30	2	後期	金	5			小山 哲・安平 弦司	日本語	○	歴史文化学85	学部・大学院科目
7031002	25	考古学	考古学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	4			吉井 秀夫	日本語	○	歴史文化学86	学部・大学院科目
7031004	25	考古学	考古学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			溝口 孝司	日本語	○	歴史文化学87	学部・大学院科目
7031006	25	考古学	考古学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	4			千葉 豊	日本語	○	歴史文化学88	学部・大学院科目
7031009	25	考古学	考古学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	金	3			下垣 仁志	日本語	○	歴史文化学89	学部・大学院科目
7031010	25	考古学	考古学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	金	3			下垣 仁志	日本語	○	歴史文化学90	学部・大学院科目
6601001	21	日本史学	系共通科目(日本史学)(講義)	講義	60	4	通年	水	2			谷川 穰	日本語	○	歴史文化学91	学部科目
6701001	22	東洋史学	系共通科目(東洋史学)(講義)	講義	60	4	通年	火	2			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学92	学部科目
6750001	22	東洋史学	東洋史学(講読)	講読	60	4	通年	水	4			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学93	学部科目
6750002	22	東洋史学	東洋史学(講読)	講読	60	4	通年	水	2			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学94	学部科目
6761001	22	東洋史学	東洋史学(実習)	実習	60	2	通年	水	5			中砂 明德・箱田 恵子	日本語	○	歴史文化学95	学部科目
6801001	23	西南アジア史学	系共通科目(西南アジア史学)(講義)	講義	60	4	通年	月	2			磯貝 健一	日本語	○	歴史文化学96	学部科目
6840001	23	西南アジア史学	西南アジア史学(演習I)	演習	60	4	通年	水	4			岩本 佳子	日本語	○	歴史文化学97	学部科目
6861001	23	西南アジア史学	西南アジア史学(実習)	実習	30	1	後期	月	4			岩本 佳子	日本語	○	歴史文化学98	学部科目
6861002	23	西南アジア史学	西南アジア史学(実習)	実習	30	1	前期	月	4			磯貝 健一	日本語	○	歴史文化学99	学部科目
6901001	24	西洋史学	系共通科目(西洋史学)(講義)	講義	60	4	通年	火	5			藤井 崇	日本語	○	歴史文化学100	学部科目
6956001	24	西洋史学	西洋史学(講読)	講読	30	2	前期	火	1			藤井 崇	日本語	○	歴史文化学101	学部科目
6956002	24	西洋史学	西洋史学(講読)	講読	30	2	後期	火	1			藤井 崇	日本語	○	歴史文化学102	学部科目
6957001	24	西洋史学	西洋史学(講読)	講読	30	2	前期	水	4			菅原 百合絵	日本語	○	歴史文化学103	学部科目
6957002	24	西洋史学	西洋史学(講読)	講読	30	2	後期	水	4			菅原 百合絵	日本語	○	歴史文化学104	学部科目
6958001	24	西洋史学	西洋史学(講読)	講読	30	2	前期	火	3			伊藤 順二	日本語	○	歴史文化学105	学部科目
6958002	24	西洋史学	西洋史学(講読)	講読	30	2	後期	火	3			伊藤 順二	日本語	○	歴史文化学106	学部科目
8007001	25	考古学	博物館学III(講義)	講義	30	2	前期	金	1			竹下 蘭子	日本語	○	歴史文化学107	学部科目
0042001	39	歴史基礎文化学系	歴史基礎文化学系(ゼミナールI)	ゼミナール	30	2	前期	木	1			中砂 明德・櫻井 智・新林 力 裁・今村 凌・田口 佳奈・勅使	日本語	○	歴史文化学108	学部科目
0042002	39	歴史基礎文化学系	歴史基礎文化学系(ゼミナールII)	ゼミナール	30	2	後期	木	1			中砂 明德・辻田 明子・小山田 真帆・斎藤 賢・松島 隆真・王	日本語	○	歴史文化学109	学部科目
0042003	39	歴史基礎文化学系	歴史基礎文化学系(ゼミナールIII)	ゼミナール	30	2	前期	木	1			中砂 明德・辻田 明子・小山田 真帆・斎藤 賢・松島 隆真・王	日本語	○	歴史文化学110	学部科目
0042004	39	歴史基礎文化学系	歴史基礎文化学系(ゼミナールIV)	ゼミナール	30	2	後期	木	1			中砂 明德・櫻井 智・新林 力 裁・田口 佳奈・勅使河原 拓	日本語	○	歴史文化学111	学部科目

歴史文化学1

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学 (特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 後藤 敦史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	幕末政治史・外交史の研究状況とその課題				
[授業の概要・目的]					
<p>幕末の政治史研究および外交史研究では、近年、精緻な実証研究の成果が相次ぎ、新しい幕末史像が様々なかたちで提示されている。たとえば、国内政局に関しては、従来注目されてこなかった政治主体が注目され、また国際環境についても、海外史料の積極的な収集により、通史像の刷新が進められている。</p> <p>本授業では、新しい研究成果を踏まえて幕末の政治史・外交史の再検討をおこなうとともに、さらなる課題について考察を深めたい。</p>					
[到達目標]					
幕末の政治・外交史に関する基本的事項を理解するとともに、歴史的な事象を多角的に捉える方法を習得する。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグー幕末政治・外交史研究を振り返る 2. 開国前夜の国際環境 3. 開国前夜における幕府の政治と外交 4. アメリカの対日外交と日本開国 5. 開国期における幕府の政治と外交 6. 1850年代末の国際環境と通商条約締結 7. 通商条約締結前後の朝幕関係 8. 黒船来航と日本の地域社会 摂津国を事例に 9. 大阪湾の海防強化と台場 10. 「攘夷」をめぐる政局の展開 11. 欧米諸国の対日報復計画と1860年代の国際状況 12. 幕末政局の中の京都 13. 譜代藩からみる幕末政治 大和国郡山藩を事例に 14. 人物研究について 徳川慶喜の生涯 15. エピローグー講義の振り返り <p>なお、講義の進みぐあい、学界における研究の進展、受講生の関心などに対応して、順序等を変えることがある。</p>					
----- 日本史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点 30%

期末レポート 70%

なお、平常点は毎回課す課題により評価する。課題の提出をもって「出席」したと見なす。課題提出がない場合は、授業に出ているも「欠席」として扱う。

4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない（公的事由による欠席の場合は申告すること）。

【教科書】

レジュメを毎回配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業ごとに参考文献を示す。授業の理解度を深めるため、参考文献を読むことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

授業担当者（後藤敦史）の連絡先： goto-a@tachibana-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学2

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38				
授業科目名 <英訳>	日本史学 (特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 熊谷 隆之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本中世の荘園と村落				
[授業の概要・目的]					
日本中世の荘園と村落					
<p>今期は、近江国の安曇川平野における荘園と村落を題材に、研究の方法論に重きをおきながら、理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>日本中世史に関する認識を深めるとともに、その研究方法を理解する。 また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
講義形式で、おおむね以下のような流れで進める。					
<p>第1回 荘園研究と現況調査 第2回 荘園類型と立荘論 第3回 近江国木津荘の引田帳と検注帳 第4回 近江国木津荘域の条里プラン 第5回 応永年間の木津荘と地殻変動 第6回 古代の港木津と北陸道 第7回 「記憶」の「記録」を作る(1) 第8回 「記憶」の「記録」を作る(2) 第9回 景観復元の試み(1) 第10回 景観復元の試み(2) 第11回 景観復元の試み(3) 第12回 景観復元の試み(4) 第13回 比叡荘・高島荘・木津荘 第14回 近江国高島郡の荘園公領 第15回 学習到達度の評価</p>					
[履修要件]					
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。					
----- 日本史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末に到達目標に即した定期試験を課し、その内容で成績評価する。定期試験は到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも必ず目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学3

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38				
授業科目名 <英訳>	日本史学 (特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 熊谷 隆之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	鎌倉幕府政治史研究				
[授業の概要・目的]					
鎌倉幕府政治史研究					
<p>今期は、鎌倉幕府政治史を題材に、研究の方法論に重きをおきながら、理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>日本中世史に関する認識を深めるとともに、その研究方法を理解する。 また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
講義形式で、おおむね以下のような流れで進める。					
<p>第1回 中世都市鎌倉の黎明 第2回 『吾妻鏡』をいかに扱うか 第3回 「古文書」をいかに扱うか 第4回 「系図」をいかに扱うか 第5回 「得宗専制論」の明と暗 第6回 「公権委譲論」の真と偽 第7回 守護研究の現在(1) 第8回 守護研究の現在(2) 第9回 守護研究の現在(3) 第10回 守護研究の現在(4) 第11回 「室町幕府」研究への影 第12回 大仏維貞の境涯 上洛と東下のあいだ (1) 第13回 大仏維貞の境涯 上洛と東下のあいだ (2) 第14回 大仏維貞の境涯 上洛と東下のあいだ (3) 第15回 学習到達度の評価</p>					
[履修要件]					
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。					
----- 日本史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末に到達目標に即した定期試験を課し、その内容で成績評価する。定期試験は到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。

[教科書]

前もってプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学4

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学 (特殊講義) Japanese History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 吉江 崇	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本古代宮廷社会の研究				
[授業の概要・目的]					
<p>日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、宮廷社会の基盤に存在した「氏」を取り上げ、平安時代における「氏」の様相を具体的に検討することによって、平安時代の宮廷社会の特質を考察する。このような作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本の歴史的な変遷とその内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、そうした宮廷社会の基盤に存在した「氏」に焦点をあて、その分析を通じて、平安時代における宮廷社会の特質を考察する。まずは奈良時代と平安時代の「氏」の相違について、平安時代前期に実施された各種の政策と関連付けながら整理する。次いで、「氏」の政治的・儀礼的な再生産と不可分な氏爵（氏人を叙爵することの申請・許可）に焦点をあて、宮廷社会における「氏」の位置付けについて考察する。最後に、春日社や興福寺といった氏社や氏寺を取り上げ、信仰形態や精神的紐帯という観点から、「氏」と氏社・氏寺との関係性を検討する。</p> <p>授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。</p>					
<p>イントロダクション (第1回)</p> <p>1 問題の所在 「氏」の変容 (第2回～第3回)</p> <p>2 氏爵の成立にみる平安時代の宮廷社会 (第4回～第7回)</p> <p>3 氏社への信仰と「氏」の結集 (第8回～第10回)</p> <p>4 氏寺の中世的展開 (第11回～第13回)</p> <p>総括 (第14回)</p> <p>《期末試験》</p> <p>フィードバック (第15回)</p>					
----- 日本史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

日本史に関する基礎知識があることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

授業時間内で実施する小テスト（10点×2回）と学期末に課す期末レポート（80点）の合計素点（100点満点）で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度から評点し、期末レポートは、問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学5

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学 (特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 吉江 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本古代宮廷社会の研究				
[授業の概要・目的]					
<p>日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、東大寺別当の登場といった事象に焦点をあて、平安時代における宮廷社会の変質を、寺院組織の変容と関連させながら考察する。このような作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本の歴史的な変遷とその内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、東大寺別当の登場といった事象に焦点をあて、平安時代における宮廷社会の変質を、寺院組織の変容と関連させながら考察する。まずは平安時代前期に出現する寺院別当を制度的な側面から概観し、東大寺において別当が登場する歴史的位置を確認する。次いで、東大寺別当を補任する太政官牒を取り上げながら、別当補任の手続きおよび東大寺別当の成立意義について考察する。最後に、平安時代の東大寺が果たした役割を、宮廷社会の様相と関連づけながら検討する。</p> <p>授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。</p>					
<p>イントロダクション (第1回)</p> <p>1 問題の所在 別当制と寺院 (第2回～第3回)</p> <p>2 東大寺別当補任の太政官牒 (第4回～第7回)</p> <p>3 造寺体制の変容と東大寺別当 (第8回～第10回)</p> <p>4 東大寺別当の成立と宮廷社会 (第11回～第13回)</p> <p>総括 (第14回)</p> <p>《期末試験》</p> <p>フィードバック (第15回)</p>					
[履修要件]					
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
<p>授業時間内で実施する小テスト (10点×2回) と学期末に課す期末レポート (80点) の合計素点 (100点満点) で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度から評点し、期末レポートは、</p>					
----- 日本史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学 (特殊講義)(2)

問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学6

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学 (特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 三宅 正浩		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世政治史研究				
【授業の概要・目的】					
<p>近年の日本近世政治史研究は、史料批判をしつつ、一次史料にもとづいて政治過程を描き出す手法が求められる段階に到達している。従来の通説的理解を一次史料を駆使して塗り替えつつ、新たな方法論と論点を獲得する過程を示すことで、日本近世史研究の基礎的方法と面白さを示したい。担当者は、主に武家文書（書状・日記・法令などの一次史料と編纂史料などの二次史料）を用いて、近世前期の政治史を研究している。特に、大名家の政治構造や幕藩関係に着目しつつ、近世国家が如何なる過程を経て形成され、その結果として如何なる構造・特質を有することになったのかを中長期的に考えているところである。</p> <p>今年度は、昨年度に引き続き、近世国家の構造・特質を意識しつつ、近世大名の領国統治およびその理念について、近世成立期を中心に分析をおこなう。</p> <p>授業では、具体的な史料を示し、その解釈を説明しながら論じていくことになる。知識ではなく、授業を通して示される研究手法をこそ学んでもらいたい。</p>					
【到達目標】					
<p>近世の史料、特に前期の政治史・武家社会に関する史料を読み解くための基礎的能力を向上させ、発展的に応用する視角と方法論を獲得する。期末には、自己の課題にもとづいて様々な史料をとりあげて読み込み、レポートを作成できるようにする。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>以下に示したテーマ・回数・順番については固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況、また、担当者の研究進展状況や学界動向に伴い、変更がありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 近世大名の政治理念について 【2週】 2. 近世前期土佐藩の政治構造【3週】 3. 近世初頭の領国統治とその理念【4週】 4. 近世前期の領国統治とその理念【4週】 5. 近世中後期への展望【1週】 6. まとめと総括【1週】 					
【履修要件】					
特になし					
----- 日本史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポートで評価する

[教科書]

授業中にプリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献を読むほか、関連する学術文献を各自で収集して読む。また、自身の課題を設定して史料を収集・分析し、レポートを作成する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学7

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学 (特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 本庄 総子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本古代政策論				
[授業の概要・目的]					
<p>本科目では、日本古代史研究の方法論を提示する。 この半世紀の日本古代史研究は、隣接諸分野との協同によって進展してきた面がある。日本の中世史・近世史・近代史の知見はもちろんのこと、考古学、地理学、文学、国語学、東洋史、西洋史、さらに自然科学諸分野との協同も模索されつつある。 その一方で、協働が一般化すればするほど、日本古代史分野で研究する者としての専門性も問われている。 授業担当者はこれまで8世紀の行財政を中心に研究を進め、現在は9世紀以降の展開に注目している。8世紀から9世紀にかけて、日本社会が向き合っていた構造的リスクには変化が生じるが、その新たなリスクの許でどのような制度設計の変更が模索されたのか、探究していきたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・日本古代史における史料解釈の方法を理解する。 ・日本古代史における社会構造を理解する。 					
[授業計画と内容]					
<p>下記のテーマで、9世紀の変化に留意しつつそれぞれ1~2回ずつ実施する。 ただし、最新の研究動向や、科目担当者自身の研究の進展状況に応じて随時変更することがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本籍帳制度の概要とその歴史的展開 ・日本籍帳制度の特質 ・正税（地方管理財源）の管理体制とその変化 ・地方官の権限と職務 ・地方官統制の方法と展開 ・古代における社会階層とその変化 ・古代における資産のかたち ・農業技術の展開、その普遍性と地域性 					
[履修要件]					
特になし					
----- 日本史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末レポートの内容によって評価する。レポートの評価はオリジナリティを重視し、素点（100点満点）の絶対評価で評点する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献や配付資料に基づき、講義内容の理解を深める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学8

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学 (特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 岩城 卓二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世後期社会論－盗賊吟味書を読む－				
【授業の概要・目的】					
<p>19世紀近世社会では居村を欠落して、所々で日雇・奉公人などをしながら生きる無宿が増加した。犯罪行為に手を染める無宿もあり、治安悪化につながったため、幕藩領主にとって無宿対策は重要な政策課題となった。なぜ百姓は無宿になったのか？ 無宿になって以降、どのような人生を送ったのか。石見大森代官所に残された盗賊吟味書を素材に、無宿の人生を読み解き、19世紀近世社会について考えていく。授業では盗賊吟味書のコピー・翻刻文を配布し、近世史料の読解力の向上もめざす。</p>					
【到達目標】					
近世史研究に必要な史料読解能力と、歴史像を構築する手法を習得する。					
【授業計画と内容】					
<p>1, 盗賊吟味書とは(2回) 2, なぜ欠落するのか?(4回) 3, 無宿はどのように生きていたのか?(4回) 4, どのような犯罪に手を染めるのか?(4回) 5, まとめと総括(1回) *なお、上記のテーマ・回数・順番は、受講者の理解状況、担当者の研究進捗状況・学界動向によって変更がありうる。 フィードバックの方法は別途連絡。</p>					
【履修要件】					
一定の近世史料読解力を必要とする。					
【成績評価の方法・観点】					
授業の理解度を確かめる期末レポート					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業中に指示する史料の精読。					
(その他(オフィスアワー等))					
授業中に指示する。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学9

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学 (特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 福家 崇洋		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近現代日本社会運動史				
【授業の概要・目的】					
<p>明治期から敗戦後までの日本社会運動史について講義を行う。本講義の目的は、近現代日本の社会運動について通史的な知識を提示することである。あわせて、日本史・日本思想史において社会運動とその思想が果たした役割を理解することを目指す。本講義への参加によって、日本近現代史を複合的・重層的にとらえる視点を育んでくれるとありがたい。</p>					
【到達目標】					
日本近現代史における社会運動の意義を理解し、基本的な知識を習得することができる。					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 自由民権運動 3 「初期社会主義」と労働運動 4 アジア主義と対外硬運動 5 2つの戦争と「大正デモクラシー」 6 コミンテルンの結成と日本社会主義運動 7 国家改造運動 8 無産政党と社会民主主義の形成 9 総力戦とクーデター未遂事件 10 満洲事変と「転向」 国家社会主義の台頭 11 昭和維新運動 テロと叛乱未遂 12 天皇機関説事件と宗教運動 13 反ファシズム統一戦線 14 占領下の民主化運動 15 まとめ <p>なお、授業の進行速度により内容が変更する可能性があります。</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 日本史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中の小レポートと期末レポート、平常点等により総合的に判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義 明治篇』(ちくま新書、2022年)
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義 明治篇』(ちくま新書、2023年)
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義 大正篇』(ちくま新書、2022年)
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義 戦前昭和篇』(ちくま新書、2022年)

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の受講内容に関する事前学習や、興味を持ったテーマについて自ら掘り下げていく事後学習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学10

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学 (特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	奈良国立博物館学芸部 列品室長 齋木 涼子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古代における仏教テキストの受容と編纂				
[授業の概要・目的]					
<p>7世紀に本格的に伝来した仏教は、日本の文化・政治・社会の形成に大きな影響を及ぼした。国家による寺院の建立や仏像制作、僧尼の統制などは目に見える形の事業や成果としてわかりやすいが、その思想的な基盤となるのはテキスト、すなわち仏教の教えを説いた経典やインド・中国で僧侶らによって編纂された著作物であった。</p> <p>本授業では、日本の仏教的思想のベースとなった仏典がどのように伝来し、日本で受容・理解されてきたのか、また日本で新しい著作物がどのように生み出されたのか、それらを含めたテキストや文書がどのように管理されてきたのかを、具体的な史料や実存する事例などを挙げながら解説する。</p>					
[到達目標]					
古代日本の社会・文化が形成される中で、大きな影響力を持った仏教について、その思想的基盤となる仏典やテキスト編纂という視点から理解を深める。					
[授業計画と内容]					
<p>基本的には下記の予定で進めるが、話題の関係で内容が前後する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 仏教テキストと漢訳 (第1回) 2. 漢訳仏典の日本への伝来 (第2~3回) 3. 奈良時代の経典 護国経典と一切経 (第4~5回) 4. 密教テキストの伝来 (第6~7回) 5. なぜ写経するのか 法華経信仰と装飾経 (第8~10回) 6. 歴史書の執筆と僧侶の歴史観 (第11~12回) 7. 聖教という史料 (第13~14回) 8. 仏教テキストの所蔵と管理 (第15回) 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業中の小レポート (30点) と期末レポート (70点) により総合的に判断する。					
[教科書]					
プリントを配布する。					
----- 日本史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
必要に応じて授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

プリントの復習、参考文献を読む。授業で触れた史跡や場所を訪れてみる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学11

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38				
授業科目名 <英訳>	日本史学 (特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	総合博物館 教授 岩崎 奈緒子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世後期の対外認識 13				
[授業の概要・目的]					
「新訂万国全図」(文化7年成立)を素材に、当時の日本の世界認識の実相を考察する。					
[到達目標]					
近世後期の世界認識の特質を学び、近代への移行を内在的に考察できる視角を得る。					
[授業計画と内容]					
以下の各項目について講述する。各項目には、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の視座【1週】 2. 近世世界地図の研究史【2週】 <ul style="list-style-type: none"> ・近世の世界地図の3系統 ・「新訂万国全図」の研究史 3. 「新訂万国全図」をめぐって <ul style="list-style-type: none"> ・成立の背景：(その1)世界研究の進展【4週】 ・成立の背景：(その2)ロシア外交との関係【2週】 ・成立の契機：作成者と原図【1週】 ・特色：日本の図像分析【4週】 5. フィードバック【1週】 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
学期末のレポート					
[教科書]					
使用しない					
----- 日本史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に予習・復習すべきポイントを指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学12

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学 (特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 横内 裕人		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本中世寺院史研究の諸問題				
[授業の概要・目的]					
この講義は、中世前期における東大寺の運営・宗教活動の実態を考察し、日本における寺院の中世化現象を論じるものである。この考察を通じて寺院構造論を深化させた寺院社会史の可能性を理解することを目的とする。					
[到達目標]					
寺院が政治的・社会的権力を有するに至った過程を理解することで、日本中世社会の特質を論ずる手掛かりを得ることができる。					
[授業計画と内容]					
講義前に関連論文を配布する。講義ではその論文の要旨と問題点等を述べる。受講者は、事前配布された関連論文を読み、その論文についての議論・課題を整理し、授業中に指摘すること。授業後には意見票の提出を義務とする。					
<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 東大寺の研究史</p> <p>第3回 東大寺印蔵の文書管理構造</p> <p>第4回 東大寺の権力と裁許状</p> <p>第5回 東大寺における歴史意識の形成・その1 『東大寺要録』にみる</p> <p>第6回 東大寺における歴史意識の形成・その2 『東大寺続要録』にみる</p> <p>第7回 東大寺における変革の諸相</p> <p>第8回 中世東大寺律儀復興史小考・その1</p> <p>第9回 中世東大寺律儀復興史小考・その2</p> <p>第10回 平安期東大寺の僧侶と学問</p> <p>第11回 権門寺院の教育 東大寺宗性にみる論義教育</p> <p>第12回 東大寺宗性の僧伝研究 『日本高僧伝要文抄』の制作を通じて</p> <p>第13回 院家と学問</p> <p>第14回 宗性のプロソポグラフィ</p> <p>第15回 総括と展望</p>					
(以上の計画・内容は、講義の進度に応じて変更する場合がある)					
[履修要件]					
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解能力があることが望ましい。					
----- 日本史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

討論への積極的な参加（10点）、授業後意見票（10点）、期末レポート（80点）

[教科書]

テキストとなる課題論文・関連論文を授業前に配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・ 授業前には、課題論文を事前に読み、疑問点等を整理しておくこと。。
- ・ 授業後には、授業内容を踏まえて私見を整理し、意見票を提出すること。

（その他（オフィスアワー等））

質問などがあれば、メールにて連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学13

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学 (特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 佐藤 雄介		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	大御所時代を考える				
[授業の概要・目的]					
この講義では、1810年代後半から1841年頃までの時代、すなわち大御所時代の政治や社会について考える。近年、大御所時代に関する研究が盛んになされている。かつては、「化政文化」という言葉に代表されるように、文化面に目が行きがちであったが、最近は政治史などさまざまな側面から、大御所時代の性格や特徴が明らかにされている。幕末史と近世史を接続する時期としても研究の重要性を増している大御所時代について、あらためて考えていきたい。					
[到達目標]					
日本近世史料を正確に読めるようになる、大御所時代の政治や社会の特徴について、歴史学の立場から理解し、説明できるようになる、みずから関連する史資料を探し、それらを緻密に分析し、レポートが書けるようになる。					
[授業計画と内容]					
第1回 ガイダンス 第2回～第4回 大御所時代とは 第5回～第7回 大御所時代の幕政 第8回～第11回 大御所時代の朝幕関係 第12回～第13回 大御所時代の社会 第14回 幕末史への展望 第15回 まとめと総括					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
レポートで評価する。詳細な評価基準については、教室で開示する。					
----- 日本史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学 (特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

荒木裕行・小野将編 『日本近世を見通す3』(吉川弘文館、2024年)

横山伊徳 『日本近世の歴史5 開国前夜の世界』(吉川弘文館、2013年)

そのほかの参考文献については、授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

(予習) 参考文献を読む。

(復習) 授業で配布するプリントを見直す、関連すると思われる文献などを自分で探して読む。

(その他(オフィスアワー等))

集中講義のため、オフィスアワーを特に設けることはしない。質問等があれば各回の授業終了後に適宜受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学14

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (演習) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	葛兆光『アジア史の研究』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>中国の歴史学界のトップランナーの一人である復旦大学の葛兆光が博士課程の学生向けに約十年にわたって行った講義をまとめた『亜洲史的研究方法』(商務印書館、2022)を読む。彼は中国でいうところの「域外史料」(たとえば、朝鮮の「燕行使」関係の資料)や日本の研究に注目してきたが、本書では、それを中国史だけでなく、東亜史を描き出すための材料として生かすにはどうすればよいのかという方法論を講じている。本書を題材にして、日本の研究が中国でどの程度認知されているのかを確認しつつ、東アジア海域史の可能性を探る。</p>					
[到達目標]					
<p>中国人研究者による海外史料や日本の研究の活用的一端について知ることができる。 日本の海域史研究と葛兆光のそれを比較できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 導入 第2回 元寇/蒙古襲来から説き起こす 第3回 アジア史研究の可能性 第4回 アジア/東アジア史の研究法 第5回 ヨーロッパの東方学、日本の東洋学からアジア史研究まで 第6回 近代の東西学術中の南シナ海と東南アジア研究 第7回 15世紀以後の東アジア海域史 第8回 15～19世紀にいたる環東海・南海海域 第9回 なぜ「域外史料」に注目するのか？ 第10回 東アジアと中国に関する日本語文献 第11回 東アジアと中国に関する朝鮮史料 第12回 朝鮮と日本の間を往来した通信使関連の史料 第13回 琉球に関する漢文史料 第14回 ベトナムと中国に関する漢文史料 第15回 フィードバック</p>					
----- 東洋史学 (演習)(2)へ続く -----					

東洋史学 (演習)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

担当者は、その授業で取り上げる著者の履歴や著作をリストアップしたレジюмеを作成すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学15

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (演習) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	外国語論文のレビュー				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、受講者が自らの関心にしたがって外国語（受講者にとっての外国語。英語でも、中国語でも、他の言語でもよい）の論文を選んで、その内容を紹介するとともに、その論文の学界における位置づけを参加者（講師も含む）にわかりやすいように行う。</p> <p>かつては、言語ごとに論文のスタイルはずいぶん異なっていた。現在でも、日本語、中国語、英語それぞれ特有の「癖」は存在するが、英語論文の影響により、かなり平準化してきている。外国語論文を読むことで、ある種のスタンダードを知るとともに、その問題点を個々の受講者が感じ取るようになれば、この授業の目的は達成される。</p>					
[到達目標]					
<p>1、外国語論文の「癖」を知ること、自国語論文のスタイルについて再考することができる。</p> <p>2、日本では数少ない「論文のレビュー」（『史学雑誌』の「回顧と展望」は、単なる紹介に過ぎない）を授業の場で公表し、それに対する疑義を受け止めるなかで、自分なりの評価の型を作ることができる。</p> <p>3、査読者の立場に身を置くことで、投稿者としての自己を振り返ることができる（ちなみに、査読付きの論文だからといって、これ以上の査読を必要としないほどに完成しているわけではない）。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1回 全体の趣旨説明</p> <p>2～14回 受講者が1回分を担当する。時間の半分を論文の紹介、評にあて、残り半分の時間で、出席者全員による質疑応答を行う。受講者の数が少ない場合には、適宜受講者自身の研究発表の場を設ける。</p> <p>15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点による評価を行う。					
----- 東洋史学 (演習)(2)へ続く -----					

東洋史学 (演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

担当論文を口頭で紹介する際に、補助材料としてレジュメを作成すること。

(その他 (オフィスアワー等))

参加者は少ないことが予想されるので、他専修からの参加も歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学16

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (演習) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 箱田 恵子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『外交報』と関連史料の精読				
【授業の概要・目的】					
『外交報』は、日本の『外交時報』にならい、1902年に張元済らによって創刊された外交・国際問題の評論誌であり、日本をはじめ海外の外交・国際関係に関する論説、報道も多数翻訳されている。この授業では、『外交報』から巖復らの論説や海外の論説・報道の翻訳記事などを選んで精読する。海外の論説・報道の翻訳記事については、もとの文献と比較し、近代的概念の翻訳状況や語彙の変化についても考察する。後半は受講生が自らの関心によって文章を選択し、関連文献とあわせて読解を担当する。					
【到達目標】					
20世紀初めの漢文史料を正確に読解する能力を身につけるとともに、関連する文献を調査する方法を理解する。翻訳記事をもとの文献と照らしあわせて精読することで、近代中国における近代的概念の翻訳状況や清末知識人の認識、語彙の変化などについても理解する。					
【授業計画と内容】					
第1回 ガイダンス：史料の説明や担当について 第2回-第9回 『外交報』の中から重要な文章を選んで輪読（翻訳記事についてはもとの文献もあわせて読む） 第10回-第14回 受講生が選んだ記事を担当して読解（関連文献もあわせて読む） 第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
教材は担当教員が準備する。					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
前半は輪読のため、毎回の予習が必要。後半は自分の担当会にはレジュメを作成すること。関連文献の調査も必要となる。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学17

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (演習) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 箱田 恵子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『外交報』と関連史料の精読				
【授業の概要・目的】					
『外交報』は、日本の『外交時報』にならい、1902年に張元済らによって創刊された外交・国際問題の評論誌であり、日本をはじめ海外の外交・国際関係に関する論説、報道も多数翻訳されている。この授業では、前期に引き続き『外交報』から巖復らの論説や海外の論説・報道の翻訳記事などを選んで精読する。海外の論説・報道の翻訳記事については、もとの文献と比較し、近代的概念の翻訳状況や語彙の変化についても考察する。後半は受講生が自らの関心によってテーマを設定し、史料にもとづいて報告を行う。					
【到達目標】					
20世紀初めの漢文史料を正確に読解する能力を身につけるとともに、関連する文献を調査する方法を理解する。翻訳記事をもとの文献と照らしあわせて精読することで、近代中国における近代的概念の翻訳状況や清末知識人の認識、語彙の変化などについても理解する。					
【授業計画と内容】					
第1回 ガイダンス：史料の説明や担当について 第2回-第9回 『外交報』の中から重要な文章を選んで輪読（翻訳記事についてはもとの文献もあわせて読む） 第10回-第14回 受講生が史料にもとづき報告を行う 第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
教材は担当教員が準備する。					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
前半は輪読のため、毎回の予習が必要。後半は自分の担当会にはレジュメを作成すること。関連文献の調査も必要となる。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学18

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	黒人と救霊				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、17世紀にアフリカからの奴隷の輸入港であったカルタヘナ（現コロンビア領）で活動したイエズス会士アロンソ・デ・サンドバル（1576-1652）のスペイン語の著作De Instauranda Aethiopum Salute（エチオピア人の救霊について）を取り上げる。ここでいう「エチオピア人」とはアフリカ人一般を指すだけでなく、アジアの黒人をも包含する。したがって、本書が扱う範囲は、彼が直接出会った奴隷の出身地である西アフリカだけでなく、中国人・日本人ら「準白人」を除く有色の人々が暮らす地域に広く及んでいる。1627年にセビーリャで、1647年にマドリッドで増補版が刊行された本書を読み解くことで、黒人・奴隷・救霊をめぐる近世初期のグローバル・ヒストリー展望の足場を得たい。</p>					
[到達目標]					
<p>近世世界の中で奴隷問題を考える糸口をつかむことができる。 イエズス会の活動の世界的な広がりを知ることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1、導入 サンドバルの生涯 2、カルタヘナと奴隷貿易 3、ペドロ・クラベール 4、ジョアン・ドス・サントス『東エチオピア』 5、アフリカ東海岸 6、アジア 7、エチオピア 8、怪異 9、エチオピアの聖人たち 10、アコスタ『インディオ救霊論』 11、黒人との向き合い方 12、救霊 13、ルセナ『ザビエル伝』 14、イエズス会 15、フィードバック 					
----- 東洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートによる評価。レポートはこの授業で紹介する史料ないし研究にもとづいて作成してもらう。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

オレリア・ミシェル 『黒人と白人の世界史』 (明石書店、2021年) ISBN:978-4750352305

【授業外学修(予習・復習)等】

授業で指示した参考文献を読むことで、授業内容を確認すると同時に疑問点を見つけ出し、次回の受講に備えること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学19

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	16・17世紀の世界図と世界地誌				
【授業の概要・目的】					
<p>本講義では、16世紀後半から17世紀半ばまでに作られた世界地図・地誌を題材にして、当時の西洋人の世界観の変遷を探る。新井白石が日本に潜入した宣教師シドッチを尋問した際に、オランダのヨハン・ブラウが制作した地図を参照したことは比較的知られていようが、宣教師によって世界地図がもたらされることでその世界観に触れる機会を持った者は白石のほかにもいた。オルテリウス『世界の舞台』（1570）以降、ブラウの『大地図帳』（1662）にいたるまでの地図・地誌制作を跡付けることで、世界のある部分が当時共有するにいたった世界観を明らかにしたい。</p>					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1、近世世界地図の概要を知ることができる 2、地図と地誌のメッセージのギャップを把握できる 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 導入 第2回 ルシェッリ『プトレマイオス地理学』イタリア語訳（1561） 第3回 オルテリウス『世界の舞台』（1570） 第4回 プランシウス『新地理・水路図』（1592） 第5回 ボテロ『世界誌』（1591-95） 第6回 メルカトル『アトラス』（1595） 第7回 ウィットフリート『プトレマイオス補遺』（1597） 第8回 利瑪竇『坤輿万国全図』（1602）「亜細亜」 第9回 同「利未亜」 第10回 同「亜墨利加」 第11回 ダヴィティ『世界諸国誌』（1613） 第12回 ヘイリン『コスモグラフィー』（1652） 第13回 イエズス会士の地図製作 第14回 ブラウ『大地図帳』（1662） 第15回 フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 東洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

織田武雄 『地図の歴史 世界篇・日本篇』 (講談社学術文庫、2018) ISBN:978-4-06-511728-6

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介する参考文献を読むことによって、問題点を確認するとともに次週の授業に備える。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学20

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 箱田 恵子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近代における米中関係				
[授業の概要・目的]					
この講義では、近代東アジアの国際関係について、米中関係の展開を軸に講義する。「特殊な関係にあったとされる近代の米中関係が、清末の中国の国際関係、政治体制、教育制度、愛国意識等に与えた影響を検討する。					
[到達目標]					
受講生は、まず近代東アジアの国際関係について知識を身につけることができる。さらに、「特殊な関係」にあったとされる近代米中関係史と、それが清末中国に与えた影響について理解する。					
[授業計画と内容]					
第1回 導入：清代の対外関係 第2回 米中関係の始まりと相互イメージ 第3回 協力政策とパーリングゲーム使節団 第4回 留美幼童の派遣とその後の影響 第5回 中国人のアメリカ移民の歴史と排華運動 第6回 張蔭桓の移民条約交渉と米清の政治体制 第7回 19世紀後半の清朝の対外交渉と米国 第8回 日清戦争と中国をめぐる国際関係の変容 第9回 アメリカの東アジア政策の転換と門戸開放宣言 第10回 ロシアの満洲占拠と清米の対応 第11回 反米ボイコット運動 第12回 清米独三国同盟の計画と挫折 第13回 満洲の鉄道をめぐる国際関係 第14回 辛亥革命と米清関係 第15回 まとめ					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業へのコメント (30点)、学期末レポート (70点)					
[教科書]					
毎回レジュメを配布する。					
----- 東洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

岡本隆司・箱田恵子編 『ハンドブック近代中国外交史』 (ミネルヴァ書房,2019年) ISBN:
9784623084906

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業中に指示する参考書や論文に目を通すこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学21

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 箱田 恵子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近代中国における東西の交流と相互認識				
[授業の概要・目的]					
この講義では、近代中国における東西の交流と相互認識の歴史を概観する。その際、とくに中国にやってきた外国人宣教師やジャーナリスト、また中国から海外に派遣された留学生や外交官など、国境を跨いで行き来した人物を取り上げ、近代中国における西洋の影響および東西の相互作用について検討する。					
[到達目標]					
受講生は、まず近代中国における東西文化交流の歴史を知り、西洋知識・文化の中国に対する影響について基本的な知識を身につけることができる。中国と西洋それぞれの具体的な著作を通じて、双方の相手に対するイメージとその相互作用について理解する。					
[授業計画と内容]					
第1回 導入 第2回 近代初期の来華宣教師とその活動 第3回 五港開港期の西学東漸 第4回 第二次アヘン戦争後の西学東漸 第5回 清朝の遣米欧使節とその記録 第6回 官費留学生の派遣：米国と欧州 第7回 清朝外交官の派遣と初期の出使記録 第8回 清朝外交官の西洋事情紹介 1880年代 第9回 清朝外交官の西洋事情紹介 1890年代前半 第10回 変法とジャーナリズム 第11回 中国人の日本留学とその影響 第12回 日露戦争後の中国の変化と外国人の認識 宣教師 第13回 日露戦争後の中国の変化と外国人の認識 ジャーナリスト 第14回 清朝による対外宣伝の動き：英文新聞・雑誌の発行 第15回 まとめ					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業へのコメント(30点)、期末レポート(70点)					
[教科書]					
毎回レジュメを配布します。					
----- 東洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

岡本隆司 『ハンドブック近代中国外交史』 (ミネルヴァ書房, 2019年) ISBN:9784623084906

岡本隆司ほか 『出使日記の時代 清末の中国と外交』 (名古屋大学出版会) ISBN:9784815807788

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業中に指示する参考書、論文に目を通しておくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学22

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 吉澤 誠一郎	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国近代思想史の論点				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、中国近代思想史について基本的な知識を身に着けることをめざす。経学の知的伝統から議論を始め、近代の政治論や人生論など、なるべく幅広く講義したい。</p> <p>そして、そもそも歴史学の一分野としての思想史とは、どのような研究対象を持ち、どのような方法論に基づいて進めるべきなのかという点にこだわって講義を行いたい。その意味では、これまでほとんど思想史という知的領域に触れることのなかった聴講者を最も歓迎する。ほとんど中国近代思想史の知識がない聴講者を想定しているので、網羅的・体系的な内容ではなく、印象的でわかりやすく代表的な事例に話題を絞りたい。</p> <p>なお、この授業の履修にあたって、現代中国語の知識は必須ではない。</p>					
[到達目標]					
<p>(1)思想史研究とは、何を対象とし、どのような方法によって行うのかについて把握する。</p> <p>(2)近代中国の代表的な思想家について一定の知識を獲得する。</p> <p>(3)中国近代思想史は、欧米や日本の思想との交流や対抗のなかで展開したことを理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>夏の集中講義を予定している。開講日はKULASISによって通知する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 導入(思想史とは何か) 2 経学の時代(理学と考証学) 3 清末の改革思想と保守思想 4 厳復と自由 5 康有為の普遍志向 6 梁啓超の国民形成論 7 新語からみる概念史 8 無政府という「政治」思想 9 第一次世界大戦の衝撃 10 神霊現象と儒教批判 11 ジェンダー論の展開 12 東西文化論争 13 「人生観」の探究 14 瞿秋白のみたロシア 15 リベラリズムの模索 					
----- 東洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

集中講義終了後のレポートで評価する(100点満点)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

坂元ひろ子 『中国近代の思想文化史』(岩波書店, 2016) ISBN:9784004316077 (岩波新書。日本語で書かれた中国近代思想史の入門書としては最適です。)

吉澤誠一郎編著 『歴史からみる中国』(放送大学教育振興会, 2013) ISBN:9784595314094 (吉澤の執筆担当部分は、最も簡便な中国近代史の概説となっていると思います。)

- ・個別のテーマについての研究書などは、授業時間内に紹介する。
- ・日本語訳された史料集として、『新編原典中国近代思想史』全7巻(岩波書店, 2010-2011年)が有用である。

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・中国近代史について全く知識が無い場合には、事前に概説書などを読んでおくのが望ましい。
- ・授業時間内に多くの研究書を紹介するので、関心に応じて参照してほしい。

(その他(オフィスアワー等))

集中講義の後にレポート提出によって成績評価するため、履修者に成績評価が伝えられるのは、前期科目の通常の期日より遅れることになる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学23

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 矢木 毅		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	朝鮮史詳説 (中世篇 1)				
[授業の概要・目的]					
<p>朝鮮半島に成立した高麗国 (918 ~ 1392) の歴史を概観し、政治・社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界 (特に中国) との関係を通して朝鮮史への理解を深めることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>基本史料 (漢文) を読解して平易な現代日本語で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 . 高麗時代史とその史料 2 . 後三国の動乱 3 . 高麗の建国 4 . 後三国統一の国際環境 5 . 王権と豪族 6 . 王権と豪族・続き 7 . 高麗と契丹 8 . 高麗と契丹・続き 9 . 門閥貴族社会の形成 10 . 門閥貴族社会の形成・続き 11 . 靖康の変と高麗 12 . 靖康の変と高麗・続き 13 . 門閥貴族社会の動揺 14 . 門閥貴族社会の動揺・続き 15 . まとめ (質疑応答) 					
[履修要件]					
<p>中国古典文 (漢文) の基礎的な読解能力 (高等学校履修程度) を身につけていることが望ましい。</p>					
----- 東洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期中 2 回の課題レポート（各50点）、および平常点（授業時の質疑応答等）を勘案して総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

講読史料、レジュメ等のプリントは事前に PandA で配信し、授業当日にも同じものを印刷して配布する。

[参考書等]

（参考書）

李成市ほか『朝鮮史1』（山川出版社）ISBN:9784634462137

姜在彦『朝鮮半島史』（角川ソフィア文庫）ISBN:9784044006419

矢木毅『韓国・朝鮮史の系譜』（塙書房）ISBN:9784827331110

（関連URL）

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学修(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

（その他(オフィスアワー等)）

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学24

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 矢木 毅	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	朝鮮史詳説 (中世篇 2)				
[授業の概要・目的]					
朝鮮半島に成立した高麗国 (918 ~ 1392) の歴史を概観し、政治・社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界 (特に中国) との関係を通して朝鮮史への理解を深めることを目的とする。					
[到達目標]					
基本史料 (漢文) を読解して平易な現代日本文で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 . 毅宗朝の政局 2 . 武臣政権の成立 3 . 崔氏政権の成立 4 . 民乱の時代 5 . 崔氏政権の権力機構 6 . 武臣政権時代の外交 7 . モンゴル軍の侵攻 8 . 武臣政権の崩壊 9 . 武臣政権の崩壊・続き 10 . 元寇の背景 11 . 事元期の王権：忠烈王と忠宣王 12 . 事元期の王権：忠宣王と忠肅王 13 . 事元期の王権：忠肅王と忠恵王 14 . 事元期の王権：忠恵王と恭愍王 15 . まとめ (質疑応答) 					
[履修要件]					
中国古典文 (漢文) の基礎的な読解能力 (高等学校履修程度) を身につけていることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
学期中 2 回の課題レポート (各50点)、および平常点 (授業時の質疑応答等) を勘案して総合的に評価する。					
[教科書]					
使用しない 講読史料、レジュメ等のプリントは、事前に PandA で配信し、授業当日にも同じものを印刷して配布する。					
----- 東洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

李成市ほか『朝鮮史1』(山川出版社) ISBN:9784634462137
姜在彦『朝鮮半島史』(角川ソフィア文庫) ISBN:9784044006419
矢木毅『韓国・朝鮮史の系譜』 ISBN:9784827331110

(関連URL)

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学修(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学25

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	追手門学院大学 文学部 教授 承 志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	マンジュ語『内国史院档』の研究				
【授業の概要・目的】					
マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン(女真)人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と講読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。3-14回の授業では史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。 ・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。 ・史料を読み解くことができるようになること。 					
【授業計画と内容】					
第1回 イン트로ダクション 第2回 『内国史院档』の研究史とその内容 第3回～14回 『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論 第15回 まとめ					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(授業での発表など)60点、期末レポート40点					
【教科書】					
使用しない 読解史料は、授業の際にプリントを配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業前の予習を必須とする。					
(その他(オフィスアワー等))					
質問などがある場合には、Email (chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学26

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	追手門学院大学 文学部 教授 承 志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	マンジュ語『内国史院档』の研究				
【授業の概要・目的】					
<p>マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン（女真）人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と購読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。前期の3-14回の授業ではマンジュ語入門と基礎文法、史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。 ・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。 ・史料を読み解くことができるようになること。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 『内国史院档』の研究史とその内容 第3回～14回 『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論 第15回 まとめ</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点（授業での発表など）60点、期末レポート40点					
【教科書】					
使用しない 読解史料は、授業の際にプリントを配布する。					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
授業前の予習を必須とする。					
（その他（オフィスアワー等））					
質問などがある場合には、Email (chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学27

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 宮宅 潔		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国古代制度史と出土文字史料				
【授業の概要・目的】					
近年中国古代史の研究に大きな影響を与えている新出史料、すなわち竹簡・木簡史料について概説する。出土地域ごとに発見史をたどりながら、主要な竹簡・木簡群を紹介し、それが歴史研究、特に制度史研究に与えたインパクトについて講義する。					
【到達目標】					
新出史料に関する知識を身につけ、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1．ガイダンス 2．中国簡牘史料の発見史 3．楚簡の概観 4．秦簡の概観 5．墓葬出土漢簡の概観 6．辺境出土漢簡の概観 					
初回のガイダンスの後、各単元を2～3回に分けて講義する。					
【履修要件】					
中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
期末のレポート（50点）に平常点（授業中の質問・発言、小テスト 50点）を加味して評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学28

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 宮宅 潔	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	出土文字史料より見た始皇帝の時代				
[授業の概要・目的]					
<p>近年公表されている秦代の出土文字史料（睡虎地秦簡、岳麓書院所蔵簡、里耶秦簡など）を活用しつつ、始皇帝の時代の政治や社会の状況について講義する。始皇帝個人の一生を紹介したうえで、中国全土を支配することになった秦王朝が如何なる問題に直面し、そのためにどのような制度が整えられていたのかを分析する。特に秦による征服と統治の展開を、制度面から跡づけていく。こうした考察を通じて、中国古代の専制国家の姿について、理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>中国古代史の諸制度について、基本的な知識を身につけたうえで、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 『史記』が語る始皇帝の生涯 3. 統一戦争の諸相 4. 新占領地の統治 5. 「法治」の実態：法家の理想と統治の現実 6. 『史記』と始皇帝：伝世史料と秦史研究 <p>ガイダンスの後、各単元を2～3回に分けて講義する。</p>					
[履修要件]					
<p>中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>期末レポート（50点）に平常点（50点 授業への参加態度、特に授業内での質問・発言）を加味して評価する。</p>					
[教科書]					
<p>授業中に指示する</p>					
[参考書等]					
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>					
----- 東洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学 (特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学29

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 古松 崇志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国石刻史料の研究				
[授業の概要・目的]					
中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料（京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む）を読み解きながら学んでいく。					
[到達目標]					
漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (1回) 2. 石刻学・石刻研究史の概観、石刻史料へのアクセスについての解説 (2～3回) 3. 人文科学研究所分館にて同所所蔵石刻拓本の見学 (1回) 4. 石刻史料積読 (8～9回) 5. 受講者による石刻史料にかんする発表 (2～3回) <p>積読する石刻史料は、授業担当者の専門分野の契丹 (遼)・宋・金・元代のものを中心に上げる予定。また、授業担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影 (拓本の写真) のあるものを用いるが、典籍文献 (伝統的な石刻文献や地方志、文集など) のみに載せられているものも適宜取り上げる。</p> <p>授業で学んだ基礎知識をもとに、学期の最後に受講生自身に関心ある特定の石刻を取り上げて発表してもらい、期末試験・レポートに代える。</p>					
[履修要件]					
実際に漢文で書かれた石刻史料を会読するので、漢文文献史料を自分で読む意欲を持っていること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 (授業での発表など) 50点、期末発表50点					
----- 東洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学 (特殊講義)(2)

[教科書]

積読史料は、プリントなどを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

積読する史料を指定してからは、受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学30

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 古松 崇志	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	契丹史研究の新展開				
【授業の概要・目的】					
<p>唐の崩壊とモンゴル帝国の出現とには含まれた10～13世紀のユーラシア東方は、複数の王朝が並存する多極共存の時代であった。この時代の前半に騎馬軍事力を背景に覇を唱えたのが遊牧王朝の契丹（遼）である。後にユーラシアを統合するモンゴル帝国の統治制度に影響を及ぼすなど、世界史上における重要性は小さくないが、その歴史はかつては謎に包まれていた。本講義では契丹の歴史に焦点を当て、新史料の発見や文献学の進展など中国・日本を中心に長足の進展を遂げている近年の研究成果をふまえながら、制度・軍事・対外関係・儀礼・信仰などの多方面から検討をくわえ、ユーラシア東方史（東アジア史）における遊牧王朝の特質と意義について考えてみたい。</p>					
【到達目標】					
<p>モンゴル帝国以前の多極化した時代のユーラシア東方史について、現段階での研究の到達点について理解する。漢語で書かれた典籍文献や考古資料を含む史料の活用方法を学び、みずからの専門研究に活かすことができるようになる。</p>					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1．導論：多極共存時代のユーラシア東方史概観 2．建国以前の契丹の歴史 3．契丹国建国：耶律阿保機の新王朝 4．契丹の支配のしくみ：部族・オルド・捺鉢 5．契丹における都市と定住民 6．契丹と中原王朝の関係：セン淵の盟の締結まで 7．契丹・北宋の平和共存：国境・文書・使節団 8．多国体制と西夏・高麗 9．契丹と中央ユーラシア：軍事と交易ネットワーク 10．契丹の統治空間と自他認識 11．契丹の王権と信仰：基層信仰と仏教 12．考古資料の発見と契丹史研究の新展開 10世紀契丹墓葬の新発見 13．考古資料の発見と契丹史研究の新展開 慶陵・慶州城遺址と契丹皇帝の喪葬儀礼 14．金・カラ=キタイの東西対峙からモンゴル帝国の統合へ 15．まとめ いちおうの目安、研究の進展により変更の可能性あり。 					
【履修要件】					
特になし					
----- 東洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業での発表など）20点、期末レポート80点

[教科書]

授業資料はプリントなどを配布する。

[参考書等]

（参考書）

古松崇志 『草原の制覇: 大モンゴルまで (岩波新書)』（岩波書店, 2020年）ISBN:4004318068

古松崇志 『ユーラシア東方の多極共存時代 大モンゴル以前』（名古屋大学出版会, 2024年）

ISBN:4815811504

参考書のうち岩波新書「中国の歴史」シリーズの一冊として一般向けに書かれた概説書『草原の制覇』を事前に読んでおくことが望ましい。

その他、関連する史資料・文献については、講義中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に参考書を読んでおく。講義中に紹介した史資料や研究文献の読書が事後に必要となる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学31

科目ナンバリング		G-LET24 76741 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習Ⅰ) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	董其昌編『神廟留中奏疏彙要』を読む				
【授業の概要・目的】					
本書は、明末芸壇の巨匠董其昌が、『神宗実録』の編集の任にあって生み出した副産物である。神宗万曆帝は長い治世の中で政治に倦み、臣下の上奏に対して返答しないことが多かった。本書はそうした「留中」された上奏のアンソロジーである。本年の授業では万曆32年(1604)~36年(1608)年までの上奏の中から選読する。					
【到達目標】					
1、白文のテキストに慣れる。 2、明末の諸問題についての理解が得られる。					
【授業計画と内容】					
<p>進度については、受講生次第なので、確言できない。漕運、四川の辺境問題、礦税、朝鮮、紅夷、織造、駅伝、モンゴルなどに関する上奏を読む。</p> <p>第1回 史料の性質について説明 第2~6回 万曆32年 第7回 万曆33年 第8~9回 万曆34年 第10~12回 万曆35年 第13~14回 万曆36年 第15回 フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。					
【教科書】					
教材は担当教員が準備する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
発表の有無に関わらず、予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学32

科目ナンバリング		G-LET24 76741 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習Ⅰ) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『明清档案』				
【授業の概要・目的】					
<p>中央研究院が刊行中の『明清档案』に収録されている清朝順治年間の文書を読み、中国制圧の過程を清朝サイドから見てゆく。明清の王朝交代は、日本では「華夷変態」として、またヨーロッパでも宣教師によってそのニュースが紹介されるなど、大事件として受けとめられていた。しかし、明末清初の動乱に関する歴史記述とそれを承けた研究は、満洲人王朝の世界史的意義が強調されるようになった今日においてもなお「敗者」の側に片寄りすぎている。あらためてこの史料集を読むことで、勝者の視点から冷静に支配確立の過程を見てゆきたい。</p>					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1、白文に取り組むことで、自力で句読を行う能力を身につけることができる。 2、行政文書の形態に習熟できる。 3、清朝の中国征服史について理解を深めることができる。 					
【授業計画と内容】					
<p>1回『明清档案』のテキストの性格を説明し、昨年読んだところについて言及しながら、順治年間前半の政治情勢について解説する。1コマにつき一、二本を読む予定。 2～14回でとりあげる予定の档案のテーマは以下のとおり。 地方官の腐敗、南明勢力、陝西、山東の「叛逆」など。 15回 フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。					
【教科書】					
教材は担当教員が準備する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
1週間前に当番を決めて、文書1本ないしその一部を担当してもらうので、それについては責任をもって予習すること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学33

科目ナンバリング	G-LET24 76743 SJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (演習II) Oriental History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 箱田 恵子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	薛福成 『庸庵海外文編』 講読				
【授業の概要・目的】					
清末の洋務思想家・外交官として知られる薛福成の『庸庵海外文編』を輪読し、あわせて薛福成の出使日記などの記述との比較を行い、彼の洋務思想や変法思想との関係などを検討する。					
【到達目標】					
清末の漢文史料の正確な読解力を身に付けるとともに、関連する歴史事象や文献を調査できるようになる。薛福成の洋務思想の特徴を理解する。					
【授業計画と内容】					
第1回 史料の性質や清末の洋務・変法思想に関する説明 第2回 清末の漢文史料の読解について (教員による読解) 第3～14回 『庸庵海外文編』の輪読、関連文献との比較 第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
教材は教員が準備する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
受講生の状況にあわせて進度は調整するが、毎回2葉程度の予習は必要と思われる。関連する歴史事象や文献の調査なども行う。					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学34

科目ナンバリング	G-LET24 76743 SJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (演習II) Oriental History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 箱田 恵子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	薛福成 『庸庵海外文編』 講読				
【授業の概要・目的】					
清末の洋務思想家・外交官として知られる薛福成の『庸庵海外文編』を輪読し、あわせて郭嵩燾など他の清末知識人の思想との比較を行い、薛福成の洋務思想の位置づけ、変法思想との関連などを検討する。					
【到達目標】					
清末の漢文史料の正確な読解力を身に付けるとともに、関連する歴史事象や文献を調査できるようになる。薛福成の洋務思想を他の清末知識人の思想と比較し、薛福成の洋務思想の特徴を理解する。					
【授業計画と内容】					
第1回 史料の性格、清末の洋務・変法思想に関する説明 第2回 清末の漢文史料の読解について (教員による読解) 第3～14回 『庸庵海外文編』の輪読、関連文献との比較 15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
教材は教員が準備する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
受講生の状況にあわせて進度は調整するが、毎回2葉程度の予習は必要と思われる。関連する歴史事象や文献の調査なども行う。					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学35

科目ナンバリング	G-LET24 76749 SJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (演習) Oriental History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	関西学院大学 文学部 教授 佐藤 達郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『文館詞林』選読				
【授業の概要・目的】					
初唐に編纂され、日本にのみ逸書として残る詩文集『文館詞林』の中から魏晋南北朝期の詔令などの散文を選読する。					
【到達目標】					
主に四六文で書かれた六朝期の文章を白文で読む能力を養うとともに、当該時代の政治社会上の諸問題に関する理解を深める。					
【授業計画と内容】					
1回：ガイダンスとして『文館詞林』の概要、授業の進め方について解説する。 2～14回 学生による『文館詞林』輪読 15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
初回にテキストを配付する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
全員毎回、事前に予習を行うこと。単に文章を読解するだけでなく、語の出典、記載内容の示す史実などについても調査を求める。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学 (特殊講義) West Asian History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 法貴 遊		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ユダヤ思想 / ヘブライ語思想とイスラーム思想 / アラビア語思想				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義ではイスラーム思想との交渉を視野に入れつつ、ユダヤ思想の様々な側面を概説していく。中世ユダヤ思想は、イスラーム思想の絶大な影響下にありながら、どこかに奇妙な捻りが見られる。イスラーム思想と比較をしつつ、ユダヤ独自の捻りを見定めたい。</p> <p>イスラーム圏におけるユダヤ思想の愛すべきところは、ムスリム思想家が躓かなかったところでユダヤ人思想家が躓くことだろう。カライ派のキルキサーニーは、イスラームのムウタズィラ学派が何も問題ないとみなした法源学をユダヤに適用する際に躓き、イエフダー・ハレヴィはイスマール派のイマーム論をユダヤに適用する際に躓き、マイモニデスはイブン・スィーナの預言者論をユダヤに適用する際に躓く…。</p> <p>これらのユダヤ思想家たちの躓きは、イスラームが (比較的) わかりやすく明瞭な枠組みで論を組み立てていたのに対し、ユダヤはその枠組みを流用しつつもイスラームにはない特殊な問題群 (選民、言葉ではなく視覚的イメージを体験する預言者など…) に対処したこと由来するのだろう。これらの躓きこそが、イスラームとの決定的な違いを際立たせ、ユダヤ固有の問題圏への接近を告げるのだろう。</p> <p>イスラーム思想を背景として、ユダヤ思想家たちの試行錯誤を迎えることによって、ユダヤ思想の独自性が少しばかり浮き彫りになるはずだ。</p> <p>この講義はユダヤとイスラームの関係にフォーカスするが、前半の講義ではユダヤとキリスト教の関係も少しばかり論じる。</p>					
[到達目標]					
<p>古代から形を変えて繰り返されるユダヤ思想の特定のモチーフを理解することができる。イスラーム思想とユダヤ思想の交流という事例を通して、中世イスラーム社会の構造の一側面 (文献へのアクセシビリティなど) を理解する。立場の異なる集団が、共通の議論の土台を共有した上で、各々の信仰について探究したプロセスを理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>毎回、事前にハンドアウト、または論文ないし書籍のPDFを共有する。事前にそれに目を通しておけば、授業の内容が理解しやすくなるかもしれないし、ならないかもしれない。</p> <p>第1回 イントロダクション：ユダヤ思想の諸相 第2回 神の名前について：マイモニデス、小泉進次郎、ハヤトロギア 第3回 古代ユダヤの黙示文学とイエス：エゼキエル書、第四エズラ書、イエス 第4回 元祖ユダヤ神秘主義者としてのパウロ：ゲルショム・ショーレム、ヤーコブ・タウベス、さくらももこ 第5回 ユダヤ・キリスト教のメシアニズムとイスラームの誕生：ササン朝、ビザンツ帝国、ムハンマド 第6回 アッバース朝とイラクのイエシヴァー：カライ派、サアディア・ガオン、シュムエル・ベ</p> <p style="text-align: right;">西南アジア史学 (特殊講義)(2)へ続く</p>					

西南アジア史学 (特殊講義)(2)

ン・ホフニ・ガオン

第7回 トーラーは普遍的なのか？：ムウタズィラ学派、ユースフ・バスィール、イエフダー・ハレヴィ

第8回 討論会 (majlis) で、みんなで楽しくワイワイやってみよう：ブワイフ朝、討論会 (majlis)、ムスリム論破マニュアル

第9回 中世ヘブライ語文学の黄金時代：アンダルス、シュムエル・イブン・ナグレーラ、ヘブライ語マカーマート

第10回 中世ユダヤ最重要の思想家、マイモニデス：ムワッヒド朝、ファーティマ朝、アイユーブ朝

第11回 マイモニデスの否定神学：カラームの学、イブン・スィーナ、イブン・ハズム

第12回 マイモニデスの医学思想：ヒポクラテス、ガレノス、ファーラービー

第13回 トーラーの秘儀、「戦車の業」(1)：エゼキエル書、アリストテレスの形而上学、イスラーム天文学

第14回 トーラーの秘儀、「戦車の業」(2)：性、偶像崇拜、フロイト

第15回 セックスと嘘とマイモニデス：禁じられた性関係、質料因、西野カナ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポート(1回)で評価を決定する。テーマは講義内で発表する。
レポートは以下の項目で評価される。

1. テーマとの関連性
2. 論旨の一貫性
3. 日本語作文の適切さ、論文としての体裁の適切さ
4. 生成AIの使用方法的適切さ
5. 執筆者自身の独自の探究への意欲

【教科書】

毎回の授業の前にハンドアウト、または論文/書籍のPDFを共有する。

【参考書等】

(参考書)

David E. Sklare 『Samuel ben Hofni Gaon and His Cultural World: Texts and Studies』(E. J. Brill, 1996)

Daniel Davies 『Method and Metaphysics in Maimonides' Guide for the Perplexed』(Oxford University Press, 2011)

【授業外学修(予習・復習)等】

事前に共有するファイルに目を通すこと。講義内で提示された参考文献を読むこと。

西南アジア史学 (特殊講義)(3)へ続く

西南アジア史学 (特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学37

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学 (特殊講義) West Asian History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山口 元樹	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東南アジアのイスラームと中東アラブ地域との関係 Islam in Southeast Asia and its relationship with the Arab Middle East				
【授業の概要・目的】					
<p>東南アジアは、イスラーム世界の「周縁」に位置しながらも現在では非常に多くのムスリム人口を抱えている。この地域に住む人々のイスラームの信仰はしばしば表層的なものに見做されてきた。しかし、この宗教が東南アジア社会の中で歴史的に重要な役割を果たしてきたことを無視すべきではない。本講義では、東南アジア島嶼部を中心に、前近代から近代までのイスラームの歴史的展開について解説する。特にイスラーム世界の「中心」である中東アラブ地域との関係について、史料を参照しながら検討していく。</p> <p>Southeast Asia, although located on the periphery of the Muslim world, now has a very large Muslim population. The Islamic faith of the inhabitants has often been viewed as superficial. However, we should not ignore the fact that this religion has historically played an important role in Southeast Asian society. In this lecture, I will explain the historical development of Islam from pre-modern to modern times, focusing on the maritime Southeast Asia. In particular, we will examine the relationship with the Arab Middle East, the center of the Muslim world, referring to historical documents.</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・前近代から現代までの東南アジアにおけるイスラームの歴史について基礎的な知識を獲得する。 ・東南アジアを事例として、イスラーム世界の中に存在する地域性や多様性、そして中心・周縁の関係性について理解する。 <p>Upon the success of completion of this course, students (1) will acquire a basic knowledge of the history of Islam in Southeast Asia from pre-modern times to the present, and (2) will understand the regional characteristics and diversity that exists within the Islamic world, and the relationship between the center and the periphery, using Southeast Asia as a case study.</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 東南アジアのイスラームの基礎知識 第2回 西アジアのムスリム商人と東南アジア 第3-4回 東南アジアにおけるイスラーム化の始まり 第5回 ワリ・ソンゴ(九聖人)とジャワのイスラーム 第6-7回 マレー世界の形成と発展 第8回 東南アジア古典文学のなかのイスラーム 第9-14回 東南アジアにおけるシーア派的要素 第15回 まとめ</p> <p>講義の進み具合や受講者の関心によって内容を変更することがある。</p>					
----- 西南アジア史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西南アジア史学 (特殊講義)(2)

- 1: Basic Knowledge of Islam in Southeast Asia
2. West Asian Muslim Traders and Southeast Asia
- 3-4. The Beginning of Islamization in Southeast Asia
5. Wali Songgo (Nine Saints) and Islam in Java
- 6-7 The Formation and Development of the Malay World
- 8 Islam in the Classical Literature of Southeast Asia
- 9-10. Intellectual Network with the Arab region
- 11-12. Pilgrimage to Makkah from Southeast Asia
- 13-14 Progress of Colonial Rule and Resistance Movements
15. Conclusion

The contents may be changed depending on the progress of the lecture and the interests of the students.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への積極的な参加（50点）、レポート（50点）で評価する。

Participation in class (50%)

Final report (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学38

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学 (特殊講義) West Asian History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 磯貝 健一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目					
[授業の概要・目的]					
<p>19世紀から20世紀初頭の中央アジアのシャリーア法廷（イスラーム法廷）が交付または受理した各種文書を史料として、当時の法廷業務や私人間の紛争解決の実態について学ぶ。</p> <p>Course Aims: This course explores the operation of Central Asian Sharia courts during the 19th and early 20th centuries, with a particular focus on their role in resolving disputes between individuals. Emphasis is placed on the analysis of historical documents issued or received by these courts, providing insight into their procedures and practices.</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・シャリーア法廷の業務、役割について理解し、これを他者に説明することができる。 ・イスラーム法学の基本的な術語について正確に理解し、これを他者に説明することができる。 <p>Upon successful completion of this course, students will:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Develop an in-depth understanding of the operation of Sharia courts and demonstrate the ability to accurately explain the fundamental nature of their functions. 2. Acquire a comprehensive knowledge of the technical terms used by Islamic jurists. 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 時代背景、ロシア帝国統治下のシャリーア法廷 第2-3回 各種の法廷文書 : 証書の書式と種別 第4-6回 各種の法廷文書 : 裁判文書 (訴状、判決記録、タズキラ、ファトワー) 第7 8回 判決台帳と証書台帳 第9-10回 ファトワーの機能 : 法学説の標準化 第11-12回 ファトワーの機能 : なぜファトワー獲得者は勝利するのか? 第13-14回 法廷と家族 第15回 フィードバック</p> <p>Week 1: Historical Background: Central Asian Sharia Courts under Russian Imperial Rule Weeks 2-3: Types of Court Documents (1): Contractual Documents Weeks 4-6: Types of Court Documents (2): Litigation Documents (Complaint, Judgment Record, Tadhkira, Fatwa) Weeks 7-8: Court Registers: Registers of Judgments and Registers of Contracts Weeks 9-10: The Function of Fatwas (1): Standardization of Legal Doctrines Weeks 11-12: The Function of Fatwas (2): Winning Litigation through Fatwas Weeks 13-14: Family Members in Court Week 15: Course Feedback and Review</p>					
----- 西南アジア史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西南アジア史学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。

Class attendance and attitude in class: 100%

[教科書]

PDF化したファイルを、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、事前配布する資料を一通り読んで授業に参加すること。

Students are expected to prepare for each class by reviewing summaries provided in advance.

(その他(オフィスアワー等))

特になし。オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学39

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学 (特殊講義) West Asian History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 帯谷 知可		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代中央アジアにおける歴史の見直しの諸相				
[授業の概要・目的]					
この授業では、旧ソ連中央アジア、特にウズベキスタンを対象として、ソ連時代のペレストロイカによる自由化、さらに独立とソ連解体を契機として進行した、歴史の見直しの諸相を検討する。それを通じて、現代中央アジア理解を深めるとともに、多様な歴史叙述のあり方についての認識を深めることをねらいとする。					
[到達目標]					
中央アジアの近現代（ロシア帝政支配期～ソ連期～ソ連解体・独立から現代まで）の歴史の流れと、ソ連時代から現代に至るまでの中央アジアにおける基本的な民族観・歴史観および歴史記述の特徴を理解する。					
[授業計画と内容]					
以下の予定に従って、講義を行う。					
<ul style="list-style-type: none"> * 旧ソ連中央アジアという地域の概要（第1-2週） * 民族史の記述（第3-4週） * ペレストロイカと歴史の見直し（第5-7週） * 中央アジア諸国の独立後の新しいナショナリズムと歴史研究（第8-9週） * 評価の逆転（ティムール、ジャディード運動、バスマチ運動）（第10-12週） * 新しい正史（第13-14週） * まとめ（第15週） 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点30%、期末のレポート70%の割合で評価を行う。					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
<p>（参考書）</p> <p>宇山智彦（編著）『中央アジアを知るための60章』』（明石書店）ISBN:978-4-7503-3137-9（中央アジア研究の入門書）</p>					
----- 西南アジア史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西南アジア史学 (特殊講義)(2)

小松久男 『革命の中央アジア あるジャディードの肖像』 (東京大学出版会) ISBN:4-13-025027-2
(ロシア革命期の中央アジアに関する必読文献)
宇山智彦 『「カザフ民族史再考 歴史記述の問題によせて」 『地域研究論集』 Vol.2, No. 1 (1999)』
(国立民族学博物館地域研究企画交流センター) (ソ連中央アジアの歴史記述の基本理念を論じた論文)
帯谷知可 『「英雄の復活 現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのティムール」 酒井啓子・白杵陽編 『イスラーム地域の国家とナショナリズム』』 (東京大学出版会) ISBN:4-13-034185-5 (ソ連解体後の中央アジアナショナリズムと歴史の見直しを論じた論文)
帯谷知可編 『ウズベキスタンを知るための60章』 (明石書店) ISBN:9784750346373 (ウズベキスタン地域研究の入門書)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業期間中に、各回の講義内容を復習するとともに、参考書等としてあげている文献を読み、より深い理解と考察に結びつけてほしい。

(その他 (オフィスアワー等))

授業でも紹介しますが、中央アジア近現代史に関する文献をできる限り多く読んでください。連絡の必要がある場合はこちらへ [obiya\[at\]cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:obiya[at]cseas.kyoto-u.ac.jp) ([AT]を@に替えてください)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学40

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学 (特殊講義) West Asian History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 高松 洋一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	文書と書籍から見たオスマン朝の国家と社会				
[授業の概要・目的]					
<p>14世紀から20世紀はじめに西アジア、東ヨーロッパ、北アフリカにまたがる領土を支配したオスマン朝の国家の仕組みと社会・文化のあり方について、今日まで膨大に残されている文字史料を通して具体的に学ぶ。目の前の史料から、どのような情報を引き出すことができるのかという方法論に重きを置きつつ、古文書学、アーカイブズ学、書誌学の基本的な概念の習得も目指す。オスマン・トルコ語の知識があると講義をいっそうよく理解できると思われるが、知識がなくても理解できるよう工夫するので、イスラーム史、アラビア文字史料に関心のある学生の参加を期待する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な文書の実例を通して、その形態・様式・機能・伝来という観点から、オスマン朝の国家組織の運営はいかなるものだったか、オスマン朝の多様な社会で人々がどのような暮らしをしていたかを理解する。 ・写本に残された所有や寄進の記録、印刷術の導入により生まれた版本の分析を通じて、知識や情報はオスマン朝社会においてどのように蓄積、伝播されたのかを理解する。 ・史料をモノとしてとらえ直すことによって、本文テキストにとどまらないさまざまな史料は情報をわれわれに伝えてくれることを理解する。 					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の計画にしたがって進めるが、受講者の理解や授業の進み具合に応じて手直しをする可能性がある。</p> <p>第1回：導入 オスマン朝史研究とその史料 第2回：アラビア文字書道、インクと紙オスマン朝の残したアーカイブズ 第3回：オスマン朝の残したアーカイブズ 第4回：オスマン朝の書記たち、文書作成・簿記術の担い手 第5回：宸筆からわかる皇帝たちの個性と宮廷 第6回：勅令をめぐる文書処理、中央政府と地方行政 第7回：嘆願書からうかがえるオスマン社会) 第8回：財務帳簿から見た国家財政と社会 第9回：訴訟、売買、相続-イスラーム法廷記録簿に残された人々の暮らし 第10回：写本に記された所有やワクフ (寄進) の記録 第11回：図書館の建設と運営 第12回：オスマン朝の図書館蔵書目録 第13回：写本から印刷出版へ 第14回：まとめ</p>					
----- 西南アジア史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西南アジア史学 (特殊講義)(2)

第15回：筆記試験

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

集中講義の最終日におこなう筆記試験により評価する予定である。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

林佳世子, 榎屋友子編 『記録と表象：史料が語るイスラーム世界(イスラーム地域研究叢書 8)』(東京大学出版会, 2005年) ISBN:978-4-13-034188-2 (品切れ・重版未定ですので図書館で見てください)

小杉泰・林佳世子編 『イスラーム書物の歴史』(名大出版会, 2014年) ISBN:978-4-8158-0773-3
その他授業中にも紹介します。

(関連URL)

<https://tcue.repo.nii.ac.jp/records/994>(ダウンロードして読んでおいてください)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業前の予習としては、上記の参考書に目を通しておくことが望ましい。また次にあげる論文を上記の関連URLからダウンロードして第10回までにあらかじめ必ず読んでおくこと(授業でとりあげます)。

山下真吾「在イスタンブル写本コレクションの形成：ファーティヒ、アヤソフィヤ・コレクションを中心に」『高崎経済大学論集(経済学会)』第61巻 1・2合併号(2018年)、49-69頁

(その他(オフィスアワー等))

・授業中の質問を歓迎し、メールによる質問を受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学41

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学 (特殊講義) West Asian History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 岩本 佳子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	オスマン朝の転換と近代化 Reserch of the Ottoman Empire II: Its Transformation and Modernization				
【授業の概要・目的】					
<p>1300年頃にアナトリア西北部で誕生し、その後、1922年まで「ヨーロッパ」「中東」「北アフリカ」にまたがる地域を支配した「オスマン帝国/オスマン朝」の、特に18 - 20世紀に焦点をあてて、多様な人々がどのように出会い、それが何を生み出していったのかを、近年の新たな研究動向を参考に、年代記やオスマン語（アラビア文字表記トルコ語）の定期刊行物など実際の史料を取り上げて考察する。また、卒業論文や修士論文執筆を目指す受講生などから希望があれば、適宜、オスマン語文献を講読する。</p> <p>Focusing on the history of the Ottoman Empire that emerged in northwestern Anatolia around 1300 and ruled over Europe, the Middle East, and North Africa until 1922, this class examines how diverse peoples met and what emerged from their encounters in the 18-20th centuries Ottoman Empire, referring to new research trends in recent years. In this lecture, Ottoman literature will be lectured on request by students who wish to write their graduation thesis or master's thesis, as appropriate.</p>					
【到達目標】					
<p>近代オスマン朝の支配や管理諸制度の持つ地域性や特色を、その起源や変容を含めて考察できるようになる。 また、史料から歴史的事実を引き出す技術を習得し、自身の研究に活かすことができるようになる。</p> <p>Upon the successful completion of this course, students will: (1) understand the feature of the ruling systems of the modern Ottoman Empire, as well as their origin and transformation. (2) gain skills to deduct reliable facts from historical sources.</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 ガイダンス 第2~第4週：オスマン朝の近代化の概説 第5~第6週：研究史料の解説 第7~14週：史料の講読・分析を通じた近代オスマン朝統治体制の探求 第15週：まとめ</p> <p>week 1: Guidance weeks 2-4: Outline of the modern Ottoman Empire weeks 5-6: Introducing historical materials. weeks 7-14: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials Week 15: Feedback and Discussion</p>					
----- 西南アジア史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西南アジア史学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業・講読への取組（50%）、期末レポートまたは授業出席者による研究発表（50%）により評価する。

Participation in class (50%)

Final report or presentation (50%)

【教科書】

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through the Internet Cloud system.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

第5週から14週にかけて、研究書、論文、オスマン語年代記（ラテン文字転写含）等を講読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

【授業外学修（予習・復習）等】

必ず前回の内容を復習したうえで授業に臨むこと。

Students will be required to review class notes before attending each lesson.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学42

科目ナンバリング		G-LET25 76842 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学 (演習II) West Asian History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 磯貝 健一	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	火2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ペルシア語、アラビア語両語による法学文献講読 Reading Islamic legal texts in both Persian and Arabic				
[授業の概要・目的]					
<p>16世紀のシャーフイー派ウラマーであるIbn Ruzbihanが、ペルシア語で著した統治マニュアル、Suluk al-Mulukを講読する。ペルシア語本文と引用元のアラビア語原文を対照することにより、アラビア語がペルシア語に翻訳される際、アラビア語固有の表現がどのようにペルシア語に移し替えられたのかにつき学習する。</p> <p>In this course students read Suluk al-Muluk, the early 16th century Central Asian governance manual compiled by Ibn Ruzbihan, a Shafiite ulama who fled there to avoid persecution from Shiite Safavids. The work consists of citations from different Arabic lawbooks, which were literally translated into Persian by the author. We can easily find out original Arabic text of each part of the work owing to annotations made by the author about reference sources. Students will read the work in both Persian and Arabic, thereby acquiring knowledge about to what extent Arabic syntax left its traces on translated text.</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ペルシア語、および、アラビア語の文法をより深く理解し、歴史的なテキストを正確に読解することができる。 ・イスラーム法学の基本的な術語について正確に理解し、これを他者に説明することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) gain an in-depth understanding about the grammar of both Persian and Arabic and obtain the ability to read historical text written in these languages accurately.</p> <p>(2) have an adequate knowledge about the technical terms used by Islamic jurists.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 授業の進め方についての説明。講読文献の著者、および、その内容についての解説。授業参加者の希望を聞いての講読箇所を選定。</p> <p>第2回~第14回 初回授業で選定した箇所の講読。</p> <p>第15回 これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。</p> <p>第16回~第29回 Suluk al-Mulukの講読。</p> <p>第30回 これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。</p> <p>Week 1: Explaining about the author and work</p>					
----- 西南アジア史学 (演習II)(2)へ続く -----					

西南アジア史学 (演習II)(2)

Weeks 2-14: Reading the chapter of the Suluk al-Muluk we will select in the 1st week.

Week 15: Feedback and Discussion

Weeks 16-29: Reading the chapter of the Suluk al-Muluk

Week 30: Feedback and Discussion

【履修要件】

アラビア語ないしペルシア語の基礎文法を学習していることが望ましい。

Students are expected to have learned the basic grammar of either Arabic or Persian.

【成績評価の方法・観点】

講読の担当、予習の状況にもとづき、平常点で評価する。

Participation in class and preparation for reading

【教科書】

使用しない

PDF化したファイルを、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、前回の授業時に予告された講読箇所を一通り読んで授業に参加すること。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text.

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学43

科目ナンバリング		G-LET25 76842 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学 (演習II) West Asian History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 岩本 佳子	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	水3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	オスマン朝の遊牧民と国家 Reserch of the nomadic people in the Ottoman Empire				
[授業の概要・目的]					
<p>1300年頃にアナトリア西北部で誕生し、その後、1922年まで「ヨーロッパ」「中東」「北アフリカ」にまたがる地域を支配した「オスマン帝国/オスマン朝」に焦点をあてて、オスマン朝における遊牧民と国家の関係を、近年の新たな研究動向を参考にしつつ、オスマン語（アラビア文字表記トルコ語）で書かれた行財政文書など実際の史料を取り上げて考察する。また、卒業論文や修士論文執筆を目指す受講生などから希望があれば、適宜、オスマン語文献を講読する。</p> <p>Focusing on the history of the Ottoman Empire that emerged in northwestern Anatolia around 1300 and ruled over Europe, the Middle East, and North Africa until 1922, this class examines nomadic people in the Ottoman Empire, referring to new research trends in recent years. In this lecture, Ottoman literature will be lectured on request by students who wish to write their graduation thesis or master's thesis, as appropriate.</p>					
[到達目標]					
<p>オスマン朝の遊牧民支配のシステムの持つ地域性や特色を、その起源や変容を含めて考察できるようになる。</p> <p>The class achievement is an understanding of the feature of the ruling systems of the Ottoman Empire, as well as their origins and transformations.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>前期 第1週：前期ガイダンス 第2~第4週：オスマン朝およびオスマン朝の遊牧民統治システムの概説 第5~第6週：研究史料の解説 第7~14週：史料の講読・分析を通じたオスマン朝統治体制の探求 第15週：まとめ</p> <p>後期 第16週：後期ガイダンス 第17~第20週：研究史料の解説 第21~29週：史料の講読・分析を通じたオスマン朝統治体制の探求 第30週：まとめ</p> <p>Spring Term week 1: Guidance weeks 2-4: Outline of the nomadic people in the pre-modern Ottoman Empire weeks 5-6: Introducing historical materials. weeks 7-14: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials</p>					
西南アジア史学 (演習II) (2)へ続く					

西南アジア史学 (演習II) (2)

week 15: Feedback and discussion

Autumn Term

week 16: Guidance

weeks 17- 20 : Outline of the nomadic people in the modern Ottoman Empire

weeks 21-29: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials

week 30: Feedback and discussion

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業・講読への取組（50%）、期末レポートまたは授業出席者による研究発表（50%）により評価する。

Participation in class (50%)

Final report or presentation (50%)

【教科書】

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

i以下の史料を講読する可能性が高い。

・ Evliya Celebi, Seyhatname. (Evliya Celebi Seyahatnamesi. Evliya Celebi b. Dervisa Mehemed Zili, Seyit Ali Kahraman et al. (eds.) Istanbul: Yapi Kredi Yayinlari, 2011.)

・ Muhimme defteri no.3 (3 numarali muhimme defteri, 966-968/1558-1560. Istanbul: T.C. Basbakanlik Devlet Arsivleri Genel Mudurlugu, 1993.)

Handouts will be shared through the Internet Cloud system.

This class will read the above-mentioned historical materials, but these are changeable.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

適宜、研究書、論文、オスマン語行財政文書（ラテン文字転写含）を講読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西南アジア史学 (演習II) (3)へ続く

西南アジア史学 (演習II) (3)

オフィスの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学44

科目ナンバリング	G-LET25 76844 SJ38				
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学 (演習II) West Asian History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アラビア語古典史料演習				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>本年度も、マムルーク朝時代後期の代表的な歴史家の一人である Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む予定であるが、受講者の希望等により別の史料を読む可能性がある。</p>					
[到達目標]					
<p>アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語 (フスハー) 文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>					
[履修要件]					
アラビア語 (フスハー) 文法を習得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。</p> <p>評価の基準：アラビア語文を適切に音読し文法に則して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>					
[教科書]					
講読教材および関連資料は配布する。					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- 西南アジア史学 (演習II)(2)へ続く -----					

西南アジア史学 (演習II)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

（その他（オフィスアワー等））

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学45

科目ナンバリング	G-LET25 76844 SJ38				
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学 (演習II) West Asian History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アラビア語古典史料演習				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>前期に引き続き、マムルーク朝時代後期の歴史家 Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む予定である。</p>					
[到達目標]					
<p>アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語 (フスハー) 文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>					
[履修要件]					
アラビア語 (フスハー) 文法を習得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。</p> <p>評価の基準:アラビア語文を適切に音読し文法に則して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>					
[教科書]					
講読教材および関連資料は配布する。					
----- 西南アジア史学 (演習II)(2)へ続く -----					

西南アジア史学 (演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学46

科目ナンバリング	G-LET25 76850 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学 (講読) West Asian History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	イスラーム地域研究センター 今松 泰 客員准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	金1	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代トルコ語文法・講読				
[授業の概要・目的]					
現代トルコ語文法の基礎を学び、その後、現代トルコ語で書かれた研究書あるいは論文の講読を行う。 さらに受講者の必要に応じて、アラビア文字表記のトルコ語 (オスマン語) 文献の講読をおこなう。					
[到達目標]					
現代トルコ語の基礎的な文法事項を確実に習得し、それらの知識を活用してトルコ語の文献を読みこなせるようになることが到達目標である。					
[授業計画と内容]					
第1回 イントロダクション 文字と発音 第2回 母音の交替、子音の交替 第3回 数詞、形容詞、複数接尾辞、人称、所有人称接尾辞 第4回 格接尾辞 (1) 第5回 格接尾辞 (2)、名詞修飾 第6回 代名詞、否定文、疑問文、後置詞 第7回-第9回 動詞 活用 第10回 動詞語幹の派生 第11回 動名詞 第12回 形動詞 (分詞、連体形) 第13回 副動詞ほか * 以降の授業では現代トルコ語、さらにはオスマン語のテキストを講読する 第14回-第30回 テキスト講読					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点評価。 参加者の受講態度と担当した講読の内容をもとに評価する。 文法習得時には、課題を課し、確認のため小テストを行うことがある。					
[教科書]					
授業中にプリントを配布する。					
----- 西南アジア史学 (講読)(2)へ続く -----					

西南アジア史学 (講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

文法事項の説明をしている間、予習は特に必要ではないが、毎授業後の復習は必ず行なうこと。
テキスト講読に入ってから、必ず予習を行なうこと。

(その他 (オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学47

科目ナンバリング		G-LET25 76851 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学 (講読) West Asian History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 中西 竜也	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ペルシア語講読 Reading Persian historical text				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、Fakhr al-Din `Ali b. Husayn Wa`iz Kashifiがペルシア語で著した、スーフィズムの一派、ナクシュバンディー派の聖者伝、Rashahat `ayn al-hayat(1503-4年完成)を読む。とくにKhwaja Ahrar (1490年没) について書かれた箇所などを読み、ティムール朝末期の中央アジアにおける宗教文化を考察する。</p> <p>In this course, we read some parts of Rashahat `ayn al-hayat, a Persian hagiography of Naqshbandiyya, compiled by Fakhr al-din Ali b. Husain al-Wa'iz Kashifi in 1503-4. Particularly, we read some parts of the work where the author describes regarding Sufis including Khwaja Ahrar (d.1490). Thus, we aim to explore the religious cultures in Central Asia during the late Timurid period.</p>					
[到達目標]					
<p>ペルシア語の歴史文献を正確に読解することができる。</p> <p>Upon the successful completion of this course, students will gain the ability to read Persian historical texts precisely.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 授業ガイダンス、講読作品の説明 第2回~第14回 第15回 授業内容のまとめ、および、質問の受付と回答</p> <p>Week 1: Explaining about Rashahat `ayn al-hayat. Weeks 2-14: Reading some parts of Rashahat `ayn al-hayat. Week 15: Feedback and Discussion</p>					
[履修要件]					
<p>ペルシア語の基礎文法を習得していること。</p> <p>Students are expected to have learned the basic grammar of Persian language.</p>					
----- 西南アジア史学 (講読)(2)へ続く -----					

西南アジア史学 (講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

予習の成果と講読への取組を基準として、平常点により評価する。

Preparation for reading and participation in discussion

[教科書]

使用しない

必要な資料はPANDAで配布。

The texts and other materials will be shared through Panda.

[参考書等]

(参考書)

Beatrice Forbes Manz 『Power, Politics and Religion in Timurid Iran』 (Cambridge University Press, 2007)

Itzhak Weismann 『The Naqshbandiyya: Orthodoxy and Activism in a Worldwide Sufi Tradition』 (Routledge, 2007)

川本正知 『15世紀中央アジアの聖者伝 ホージャ・アフラルのマカーマート』 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2005年)

その他、授業中にも適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、必ず予習して授業に臨むこと。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学48

科目ナンバリング	G-LET25 76851 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学 (講読) West Asian History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 磯貝 健一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ペルシア語講読 Reading Persian historical text				
【授業の概要・目的】					
<p>この授業では、ミールホンド (1498年没) が著した著名なペルシア語年代記『Raudat al-Safa』の一部を講読する。講読対象となるのは、ティムールによるシリア攻撃 (1400-01年) を叙述する箇所である。本授業では、近世のイラン、中央アジアで作成された美文体ペルシア語年代記の読解能力の涵養を目指す。</p> <p>In this course students read some parts of Raudat al-Safa, a famous Persian chronicle compiled by Mirkhwand (d. 1498). The parts that will be read in this course record the events which occurred during Timur's campaign toward Syria (1400-01). The main purpose of the course is to gain the ability to read Persian historical text written in the florid prose style common to almost all chronicles created in pre-modern Iran and Central Asia.</p>					
【到達目標】					
<p>ペルシア語の歴史文献を正確に読解することができる。</p> <p>Upon the successful completion of this course, students will gain the ability to read Persian historical texts precisely.</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 授業ガイダンス、講読作品、および、時代背景の説明 第2回~第14回 同作品中、1400年から翌年にかけてのシリア攻撃に関する箇所を講読する 第15回 授業内容のまとめ、および、質問の受付と回答</p> <p>Week 1: Explaining about Mirkhwand and his Raudat al-Safa Weeks 2-14: Reading the parts of Raudat al-Safa concerning Timur's campaign toward Syria in 1400-01. Week 15: Feedback and Discussion</p>					
【履修要件】					
<p>ペルシア語の基礎文法を習得していること。</p> <p>Students are expected to have learned the basic grammar of Persian language.</p>					
----- 西南アジア史学 (講読)(2)へ続く -----					

西南アジア史学 (講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

講読への取組と、事前準備の状況を基準として、平常点により評価する。

Participation in class and preparation for reading

[教科書]

使用しない
必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、必ず予習して授業に臨むこと。目安となる予習時間は、180分程度である。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text (about 180 mins. for each class)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学49

科目ナンバリング		G-LET49 89608 LJ48			
授業科目名 <英訳>	イラン語 (初級) (語学) Iranian	担当者所属・ 職名・氏名	京都外国語大学共通教育機構 杉山 雅樹 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	金2	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イラン語 (初級)				
[授業の概要・目的]					
この授業の目的は、現在イランの公用語であるペルシア語 (新ペルシア語) の基本文法や基礎単語を修得し、ペルシア語の古典文を読解するための基礎的な能力を獲得することである。					
[到達目標]					
基本的なペルシア語の文法規則・単語を習得することにより、平易な文章であれば自分で辞書を使用しつつ読むことができるようになる。また、ペルシア語による現代文と古典文との表現や文法的な違いを理解し、ペルシア語で書かれた歴史史料を読むための基礎的な能力を獲得する。					
[授業計画と内容]					
(前期)					
第1回 イントロダクション、文字					
第2回 発音と表記の注意点					
第3回 名詞、基本的な文章、疑問詞					
第4回 形容詞、エザーフエ、人称代名詞					
第5回 過去形、前置詞					
第6回 現在形、複合動詞					
第7回 現在形、未来形、副詞					
第8回 現在完了形、命令形					
第9回 仮説法、助動詞					
第10回 助動詞、人称代名詞、受動態					
第11回 接続詞					
第12回 関係詞、祈願文、副詞					
第13回 接続詞、複合動詞、過去分詞、現在分詞、その他					
第14回 数詞					
第15回 確認テスト、前期のまとめ、後期のテキストや予習の仕方について					
(後期)					
第16~19回 現代文 (物語) の読解 (1) ~ (4)					
第20~29回 古典文 (歴史史料) の読解 (1) ~ (10)					
第30回 フィードバック (詳細については授業内で指示する)					
前期は、文字の読み方や書き方を練習しつつ、基本的な文法や単語を学ぶ。 後期は、まずイランの昔話など現代のペルシア語で書かれたものを扱い、ペルシア語の文章を読むことに慣れておく。その後、前近代に書かれたペルシア語の歴史史料の中から比較的読み易い作品をテキストとして採り上げ、古典文を読むための基本的な能力を身に付ける。 原則として、前期の文法の授業では毎回復習のための小テストを行う。					
----- イラン語 (初級) (語学)(2)へ続く -----					

イラン語 (初級) (語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価（前期と後期の合計で100点）
前期（基礎文法）：小テスト（25点）、確認テスト（25点）
後期（テキスト読解）：予習の取り組み（50点）

各期で5回以上欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

前期は文法事項をまとめたレジюмеを毎回配布する。後期は講読するテキストのコピーを事前に配布する。

【参考書等】

（参考書）

特に後期の授業では、黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』（大学書林）などペルシア語辞書を用いて予習する必要がある。

その他の辞書や文法書など参考文献については、第1回授業で指示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

文字の書き方、基本文法、基礎単語の修得が中心となる前期においては、毎授業後十分に復習をし、次の授業の冒頭に行われる小テストに備えること。

実際のテキストを使用して講読を行う後期においては、各自辞書で単語を調べて訳文を作成しておくなど、毎回時間をかけて予習することが必須である。

（その他（オフィスアワー等））

質問等があれば、sugiyama.masaki.25z@st.kyoto-u.ac.jpにご連絡下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学50

科目ナンバリング		G-LET26 76974 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (演習Ⅳ) European History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 金澤 周作	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習 (西洋近代史演習)				
[授業の概要・目的]					
この演習では、西洋の近代 (18世紀半～20世紀初頭) を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、まとまった分量の欧米の研究文献を精読することを課す。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近代の諸事象について、歴史学的な意識を持って考えられるようになる。 ・歴史学的な諸論点を理解することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
近代史研究は、対象とする場所 (国や地域) と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティブを持たざるを得ないだろう。そこで、本演習では、1～3回目にイントロダクションを行ったうえで、4～14回に、大きな近代史共通のテーマを扱っている文 Jenna M. Gibbs (ed.), <i>Global Protestant Missions: Politics, Reform, and Communication, 1730s-1930s</i> (Routledge, 2020) を、分担を決めて読んでいく。そして15回で総括をする。こうして、広い視野を学び、さまざまな方法論に触れ、同時に西洋史研究に不可欠な、英語文献を正確に読解する力を養う。さらに、内容について活発な議論がなされることを期待している。					
第1回 西洋近代史について					
第2回 諸帝国史について					
第3回 海外宣教史について					
第4回 Introduction を読む					
第5回 chapter 1 - "A Christian Splendour from an Ethnick Sky": the Church of England and the Mohawks in the eighteenth century を読む					
第6回 chapter 2 - Missions, slavery, and the Quaker culture of activism を読む					
第7回 chapter 3 - Christian Ignatius Latrobe, "liberty of conscience," and slavery in the West Indies and the Western Cape, 1780s-1830s を読む					
第8回 chapter 4 - "A bulwark of slavery"?: the Moravian mission and the abolition of slavery in their mission to the Danish West Indies を読む					
第9回 chapter 5 - Double consciousness and missionary work: James Theodore Holly and the establishment of the Episcopalian Church of Haiti を読む					
第10回 chapter 6 - The forgotten apostle: Edward Kenney, Cuban nationalism, and the Episcopal Church in nineteenth-century Cuba を読む					
第11回 chapter 7 - Commerce, Christianity, and colonial philanthropy: George Thompson and the global networks of the British India society, 1838-1843 を読む					
第12回 chapter 8 - Organizing global communication among Moravians during the eighteenth and nineteenth centuries を読む					
第13回 chapter 9 - Entangled mission: Bruno Gutmann, Chagga rituals, and Christianity, 1890-1930 を読む					
西洋史学 (演習Ⅳ)(2)へ続く					

西洋史学 (演習Ⅳ)(2)

第14回 chapter 10 - The pneuma news: transcontinental press networks and the construction of modern Pentecostal identity in the twentieth centuryを読む

第15回 全体の総括と議論

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

演習内報告（回数は人数によって異なる）が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

Jenna M. Gibbs (ed.) 『Global Protestant Missions: Politics, Reform, and Communication, 1730s-1930s』 (Routledge, 2020) ISBN:978-0-367-13903-2

【授業外学修（予習・復習）等】

各回の英語文献の予習は必須。内容理解を深めるために、関連する日本語文献も復習を兼ねて適宜読み進めていくこと。

（その他（オフィスアワー等））

受講者に対するこの演習の効果は、文献を事前にどれだけしっかり読み込んだかに左右される。ただ読むだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学51

科目ナンバリング		G-LET26 76974 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (演習IV) European History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 金澤 周作	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習 (西洋近代史演習)				
[授業の概要・目的]					
この演習では、西洋の近代 (18世紀半～20世紀初頭) を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、個別の自由発表を行うことを課す。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋近代の諸事象について、歴史学的な意識を持って考えられるようになる。 ・ 歴史学的な諸論点を理解することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
近代史研究は、対象とする場所 (国や地域) と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティブを持たざるを得ないだろう。そこで、1回のイントロダクションの後、2～14回に、各受講者に、日ごろの研究成果を報告してもらい、批判的に議論をし、幅広い地域の諸テーマについて皆で理解を深め、15回目に総括する。					
第1回 授業のねらいについて 第2回 研究報告1、史実に注目して議論する 第3回 研究報告2、学説史に注目して議論する 第4回 研究報告3、先行研究に注目して議論する 第5回 研究報告4、時代区分に注目して議論する 第6回 研究報告5、トランスナショナルな視点から議論する 第7回 研究報告6、グローバルな視点から議論する 第8回 研究報告7、比較史の観点から議論する 第9回 研究報告8、言語論的転回を意識して議論する 第10回 研究報告9、ジェンダーの視点を意識して議論する 第11回 研究報告10、階級に注目して議論する 第12回 研究報告11、帝国に注目して議論する 第13回 研究報告12、資本主義に注目して議論する 第14回 研究報告13、ネイション、エスニシティに注目して議論する 第15回 全体の総括					
[履修要件]					
特になし					
----- 西洋史学 (演習IV)(2)へ続く -----					

西洋史学 (演習Ⅳ)(2)

[成績評価の方法・観点]

演習内報告（回数は人数によって異なる）が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

金澤周作監修 『論点・西洋史学』（ミネルヴァ書房、2020年）

[授業外学修（予習・復習）等]

自由報告を行うための準備はおこたりにく進めるものとし、演習での指摘を活かして勉学を継続すること。

（その他（オフィスアワー等））

受講者に対するこの演習の効果は、自分の報告のためにどれだけしっかり準備したか、そして他の報告にどれだけ批判的に介入し質問や提言などの形で貢献したかに左右される。ただ漫然と読んでまとめる、聞いて理解するというだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 講師 安平 弦司	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世オランダにおける宗派共存とカトリックのサバイバル2				
[授業の概要・目的]					
<p>宗教改革後のヨーロッパを生き残った人々にとって宗派共存は大きな課題・試練であった。なぜなら、当時のヨーロッパで宗教的多様性は、一般的に公的秩序や政治=社会的安定への脅威として認識されていたからである。そうした近世ヨーロッパの中であって、改革派（カルヴァン派）を唯一の公的教会とするオランダ共和国は、宗派共存が機能していた社会として知られ、ときに「寛容の楽園」とも称される。他方、オランダ共和国においてカトリックは潜在的な国家反逆者の烙印を押され、公的領域における多くの権利を剥奪されていた。本講義は、近世オランダの宗派共存を、従来の研究で主に用いられてきた改革派の統治戦略の視角のみならず、カトリックの生存戦術の視角からも捉えなおす。そうすることで、現代世界の喫緊の課題でもある共存や寛容といった問題を、政治=宗教的マジョリティと政治=宗教的マイノリティ双方の視点から歴史的・多角的に理解することを目指す。本年度前期は特に、オランダ史において「災厄の年」とされている1672年以降に焦点を当て、災厄の年に始まるフランス軍によるユトレヒト市の占領、貧民救済、そして市民権・市民性のテーマを取り上げる。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・近世ヨーロッパ、特にオランダ共和国における宗派共存を、政治=宗教的マジョリティの統治戦略と政治=宗教的マイノリティの生存戦術という2つの視点から考察できるようになる。 ・共存や寛容といった通時代的問題を近世ヨーロッパ史、中でも近世オランダ史を通じて考察できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：近世オランダの宗派共存とカトリックのサバイバルについて学ぶ意義 2. オランダ共和国の宗教的状況概観 3. 改革派の統治戦略：迫害 4. 改革派の統治戦略：寛容 5. カトリックの生存戦術：社会的地位とネットワーク 6. カトリックの生存戦術：空間実践 7. カトリックの生存戦術：自己表象言説 8. 「災厄の年」とフランス軍によるユトレヒト市占領 (1) 9. 「災厄の年」とフランス軍によるユトレヒト市占領 (2) 10. 貧民救済 (1) 11. 貧民救済 (2) 12. 市民権と市民性 (1) 13. 市民権と市民性 (2) 14. 市民権と市民性 (3) 15. まとめとフィードバック 					
----- 西洋史学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義) (2)

なお、受講生の反応や学習状況に応じて、授業内容を変更することはあり得る。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートによって、講義内容の理解度を評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Genji Yasuhira 『Catholic Survival in the Dutch Republic: Agency in Coexistence and the Public Sphere in Utrecht, 1620-1672』 (Amsterdam University Press, 2024) ISBN:9789048558452 (Open Accessなので下記サイトから全文の無料ダウンロードが可能。 <https://library.open.org/handle/20.500.12657/90589>)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業資料をもとに講義内容を復習し、疑問点があればそれを言語化しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 講師 安平 弦司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世オランダにおけるカトリックとジャンセニスム論争3				
[授業の概要・目的]					
<p>近世のオランダ共和国は、改革派（カルヴァン派）を唯一の公的教会とするプロテスタント国家であり、かつ多宗派共存社会でもあった。オランダのカトリック共同体は、差別的待遇を受けながらも17世紀の過程で再建されていったが、ジャンセニスム論争を経て、1723年にユトレヒト教会分裂を経験した。ジャンセニスムとは、近世カトリック教会内部で異端視された思想である。教会分裂により、オランダのカトリック共同体は、ローマ教皇に認可されるもプロテスタントのオランダ政府には否認されたローマ・カトリックと、教皇に否認されるもオランダ政府には認可された古カトリック（ジャンセニスト）に分裂し、両者の分断は現在も続いている。本講義では、ジャンセニスム論争を通じて、17・18世紀のオランダ共和国のカトリック共同体の復興と内部分裂を考察する。そうすることで、宗教改革後の近世ヨーロッパにおける複数宗派の共存・競合という問題を多角的に理解することを目的とする。本年度後期は特に、ジャンセニスム論争の社会経済史や宗教文化史についての議論を充実させる。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・近世ヨーロッパにおける宗教的多様性を、プロテスタント国家オランダにおけるカトリック共同体の復興と内部分裂を通じて考察できるようになる。 ・宗教問題、特にカトリックとジャンセニスム論争を通じて近世ヨーロッパを理解するための視座を得る。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：近世オランダのカトリックについて学ぶ意義 2. キリスト教史の諸論点：ジャンセニスム論争に踏む込む前に (1) 3. キリスト教史の諸論点：ジャンセニスム論争に踏む込む前に (2) 4. オランダ共和国の成立とカトリック共同体再興 (1) 5. オランダ共和国の成立とカトリック共同体再興 (2) 6. ジャンセニスム論争の教会史 (1) 7. ジャンセニスム論争の教会史 (2) 8. ジャンセニスム論争の政治文化史 (1) 9. ジャンセニスム論争の政治文化史 (2) 10. ジャンセニスム論争の社会経済史 (1) 11. ジャンセニスム論争の社会経済史 (2) 12. ジャンセニスム論争の宗教文化史 (1) 13. ジャンセニスム論争の宗教文化史 (2) 14. ジャンセニスム論争の宗教文化史 (3) 15. まとめとフィードバック 					
<p>なお、受講生の反応や学習状況に応じて、授業内容を変更することはあり得る。</p>					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートによって、講義内容の理解度を評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Genji Yasuhira 『Catholic Survival in the Dutch Republic: Agency in Coexistence and the Public Sphere in Utrecht, 1620-1672』 (Amsterdam University Press, 2024) ISBN:9789048558452 (Open Accessなので下記サイトから全文の無料ダウンロードが可能。 <https://library.oopen.org/handle/20.500.12657/90589>)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業資料をもとに講義内容を復習し、疑問点があればそれを言語化しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学54

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 佐々木 博光		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	フィランソロピー (慈善) の西欧中近世史				
[授業の概要・目的]					
<p>西欧諸国は産業経済の先進国であると同時に、民間の慈善活動が盛んなことでも知られる。それは国や自治体の福祉行政に勝るとも劣らない役割を果たしている。わが国は明治維新以降先進国の仲間入りを果たすために産業化を急ピッチで進めたが、西欧のもうひとつの顔である慈善を通じた民間による支援活動という側面を看過しがちであった。今後バランスのよい発展を模索し、社会の持続可能性を高めるために、西欧における慈善の伝統をその淵源に遡り考察する必要がある。中世キリスト教社会の慈善、さらに宗教改革以降のキリスト教諸教派の慈善を、関係者の動機にまで踏み込んで究明する。なにゆえ西欧で慈善という利他的な活動が栄えたのかを明らかにすることが目的である。</p>					
[到達目標]					
<p>西欧の財団や寄贈文化の淵源を歴史学の観点から説明できるようにする。財団すなわち基金に発生する利子を使った支援が宗教改革後にとくに叢生することに留意し、宗派別に考察を行い、宗派ごとの慈善に対する姿勢の異同を理解する。プロテスタントの二大宗派 (ルター派とカルヴァン派ないし改革派) と財団・寄贈文化の関係について説明ができるようになる。最後に、財団を興そうとする人たちの動機について説明できるようにする。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中世キリスト教社会の徴利禁止が社会・経済の実情にあわなくなった中世後期に、各地でそこからの出口戦略がどのように模索されたのかを理解する。 2. ドイツやスイスの財団・寄贈文化の淵源を歴史的に説明できるようにする。 3. 日欧の慈善・贈与文化の違いについて説明ができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
第1回	フィランソロピー (慈善) 研究の現在				
第2回	日本社会と慈善・福祉				
第3回	近世西欧の救貧改革 ゲレメク = フーコー説再考				
第4回	中世キリスト教社会と徴利禁止				
第5回	ユダヤ人高利貸像再考				
第6回	中世西欧の公債と利子購入				
第7回	マルティン・ルターと利息	理念編			
第8回	マルティン・ルターと利息	実際編			
第9回	ルター派の利息考				
第10回	ルター派と慈善	近世ブラウンシュヴァイク公国財団史			
第11回	ルター派と慈善	財団発起人の追悼説教			
第12回	改革派と慈善	バーゼル大学の助成財団			
第13回	改革派と慈善	財団発起人の追悼説教			
第14回	慈善の動機				
西洋史学 (特殊講義) (2)へ続く					

西洋史学 (特殊講義) (2)

第15回 富者の規律化、貧者の規律化
授業計画は一部変更になる可能性がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への参加度 (50点)
定期試験もしくは期末レポート (50点)

(授業中の小レポートでは、授業内容の理解度を確認する。期末レポートでは、独自の問いを立てて適切な論理展開のもとでレポート作成ができているかを見る。)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

金澤 周作 『チャリティの帝国 もうひとつのイギリス近現代史』 (岩波書店、2021年) ISBN: 9784004318804

金澤周作監修 『論点・西洋史学』 (ミネルヴァ書房、2020年) ISBN:9784623087792

大黒 俊二 『嘘と貪欲 西欧中世の商業・商人観』 (名古屋大学出版会、2006年) ISBN: 9784815805326

木下 光生 『貧困と自己責任の近世日本史』 (人文書院、2017年) ISBN:9784409520673

その他、各回の講義内容に関連する文献については授業中に適宜紹介する。

【授業外学修 (予習・復習) 等】

予習: 関連文献を読み、授業内容へのイメージをつかむ。

復習: 授業内容について批判的に振り返りを行う。

(その他 (オフィスアワー等))

授業後に質問を受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学55

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学人文学研究科 教授 小山 啓子 小山 啓子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	王権と都市の交差から見る近世のフランス				
[授業の概要・目的]					
<p>フランス絶対王政と言えば教科書にも出てくるようなテーマですが、「絶対王政」とは実際にはどのような体制で、これまでどのような観点から研究され、解釈されてきたのでしょうか。また、フランスという地域が形成されるにあたって歴史的に育まれてきた個性とは、どのようなものなのでしょうか。近年の近世フランス史研究の動向を整理しながら、アンシアン・レジーム期の諸制度、フランス王権の特質、宗教（教皇や教会）との関係性、儀礼と象徴、都市の発展、そして主権国家の形成といった多様な角度から、近世フランス社会を具体的に分析し、前後の時代にも視野を広げつつ問題のありかを考えてみたいと思います。</p>					
[到達目標]					
<p>近世フランス社会の特質を理解すると同時に、地域や制度の多様性と王権のもとで構築される国家権力の動き、そしてそれらが孕む諸問題について歴史的に考察する力を養います。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 導入：フランスの地域的多様性 / 時代区分 第2回 「絶対主義」とは何か 第3回 国家の領域的一体性の問題 第4回 近世の官僚の性質 第5回 社会的結合関係からみた「絶対王政」 第6回 国王の権力と権威 第7回 王位継承儀礼：葬儀と聖別式（1） 第8回 王位継承儀礼：葬儀と聖別式（2） 第9回 統治権力と宗教 第10回 移動する宮廷 第11回 都市の生成とその発展 第12回 都市と王権の対話：国王入市式（1）儀礼の歴史の変遷 第13回 都市と王権の対話：国王入市式（2）史料から何を読み取ることができるか 第14回 都市と王権の対話：国王入市式（3）ブルボン朝以降の展開 第15回 総括「アンシアン・レジーム」は解体したのか</p>					
[履修要件]					
<p>中・近世フランス史の基本的な事項を確認しておくことが望ましい。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>・小レポート（40点） 授業中に数回、小レポートを実施する。小レポートでは、授業の内容に即した上で自らの専門性や関心に立脚した意見が述べられているかを評価する。</p>					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

- ・ 定期試験（筆記）（60点）
講義内容の理解を前提に、所定の論点に関して説明・議論を展開する試験を実施する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

二宮宏之 『フランス アンシアン・レジーム論: 社会的結合・権力秩序・叛乱』（岩波書店、2007年）

その他、授業中に適宜紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

歴史上の出来事を年代順に説明していくスタイルの授業ではないので、各自でフランス史や近世ヨーロッパ史に関する概説書を読み、時系列的な流れを予習・復習しておいてもらえると、ものごとの意味や前後の関係性がよりよく把握できるかと思います。

概説書は手に取ってみて自分が気に入ったものをまず読んでみるのが一番ですが、たとえば上垣豊編 『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』（ミネルヴァ書房）などはお勧めです。

（その他（オフィスアワー等））

質問などは授業前後、あるいはメールでも受け付けます。

メールアドレスは初回授業で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学56

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語中級講読				
[授業の概要・目的]					
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、キケロー『カエリウス弁護』(Pro Caelio)を教材に講読を行う。					
[到達目標]					
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する					
[授業計画と内容]					
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
[履修要件]					
ラテン語初級文法を既習得であること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。					
[教科書]					
プリントを配布。					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
[授業外学修(予習・復習)等]					
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学57

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語中級講読				
【授業の概要・目的】					
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、キケロー『カエリウス弁護』(Pro Caelio)を教材に講読を行う。					
【到達目標】					
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する					
【授業計画と内容】					
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
【履修要件】					
ラテン語初級文法を既習得であること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。					
【教科書】					
プリントを配布。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学58

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア帝国末期のジョージア				
[授業の概要・目的]					
<p>19世紀後半から1905年までの帝政ロシア支配下の南コーカサス史を、ジョージア中心に概観する。</p> <p>ロシア人がチェチェン人やジョージア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。南コーカサスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出した。一方、「治安の悪さで悪名高い」南コーカサスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では帝国とジョージア人の関わりを主軸に、19世紀後半におけるナショナリズムと社会主義の相関関係について考えたい。</p>					
[到達目標]					
ロシア帝国に関する基本的知識を習得し、帝国と植民地についての歴史的イメージを会得する。					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：イントロダクション 第2,3回：「半アジア人」 第4,5回：露土戦争 第6,7回：「ムスリムのジョージア人」の文字と宗教 第8,9回：油田とマンガン鉱山 第10,11回：マルクス主義サークル 第12,13回：義賊と革命 第14回：1905年 第15回：おわりに</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学59

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	第一次世界大戦期の南コーカサス				
[授業の概要・目的]					
<p>南コーカサスは「東部戦線」と並んでロシア帝国の最前線だった。ジョージアの社会主義者やアルメニアやアゼルバイジャンの民族主義者のほとんどは、第一次世界大戦開戦に際し、帝国の戦争に全面協力した。帝国の中心における革命は彼らにとって予期せぬ事件だったが、さまざまな構想を一気に開花させる力となった。本講義では南コーカサスにおける戦争と革命の経緯をジョージア中心にたどりつつ、ロシア革命なるものの影響力を再考したい。</p>					
[到達目標]					
<p>第一次世界大戦とロシア革命についての基礎的知識を習得するとともに、帝国・戦争・革命に対する歴史的洞察力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：イントロダクション 第2,3回：ロシア1905年革命、イラン立憲革命、青年トルコ人革命 第4,5回：バルカン戦争と戦争準備 第6回：敵性国民としてのドイツ人 第7,8回：カフカス戦線と「アルメニア人問題」 第9,10回：社会主義者の戦争 第11回：ロシア革命とカフカス 第12回：ジョージア民主共和国の成立 第13,14回：民主共和国と地域問題 第15回：おわりに</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。</p>					
[教科書]					
<p>プリントを配布する。</p>					
[参考書等]					
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学60

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 辻河 典子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヨーロッパ中・東部の歴史と記憶：ハンガリー近現代史をめぐって				
[授業の概要・目的]					
「東欧」と一般的に呼ばれてきた地域の歴史、特にハンガリーの近現代史とそれをめぐる記憶を題材として、近現代ヨーロッパ史をより批判的な視点で考察できるようになることを目指す。					
[到達目標]					
ハンガリーを中心とした中央・東ヨーロッパの歴史についての更なる知識を得るとともに、近現代ヨーロッパ史をより批判的な視点で考察できるようになることを目指す。					
[授業計画と内容]					
基本的に以下のスケジュールで講義を進める。但し、受講者の関心や時事問題への言及などに応じて、順序や同一テーマの回数を変更することがある。					
<p>第1回 イントロダクション：ヨーロッパ史における「東欧」の位置づけ</p> <p>第2回 ハンガリー史概観（1）：中世まで</p> <p>第3回 ハンガリー史概観（2）：近世～近代</p> <p>第4回 ハンガリー史概観（3）：現代</p> <p>第5回 ハンガリー史におけるキリスト教（1）：建国神話</p> <p>第6回 ハンガリー史におけるキリスト教（2）：政治との関係</p> <p>第7回 ハンガリー史におけるナショナリズム（1）：「国民化」と1848年革命</p> <p>第8回 ハンガリー史におけるナショナリズム（2）：アウスグライヒ体制</p> <p>第9回 ハンガリー史と20世紀（1）：第一次世界大戦とパリ講和会議</p> <p>第10回 ハンガリー史と20世紀（2）：戦間期～第二次世界大戦</p> <p>第11回 ハンガリー史と20世紀（3）：社会主義体制の確立と「1956年」</p> <p>第12回 ハンガリー史と20世紀（4）：体制転換とその後</p> <p>第13回 ハンガリー史の複層性（1）：トランシルヴァニアの視点から</p> <p>第14回 ハンガリー史の複層性（2）：移動する人々</p> <p>第15回 総括とフィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末レポート(70点)、中間レポート(30点)
レポートはいずれも到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない
講義資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

南塚信吾 『図説 ハンガリーの歴史』(河出書房新社、2012年) ISBN:9784309761855

岩崎周一 『ハプスブルク帝国』(講談社、2017年) ISBN:9784062884426

大津留厚ほか編 『ハプスブルク史研究入門』(昭和堂、2013年) ISBN:9784812213155

南塚信吾編 『ドナウ・ヨーロッパ史』(山川出版社、1999年) ISBN:9784634414907

柴宜弘ほか監修 『新版 東欧を知る事典』(平凡社、2015年) ISBN:9784582126488

これらは授業全体の前提を知りたい時に役立つ参考文献である。各回の授業内では、個別のテーマに関わる文献も紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

上記参考文献で中央・東ヨーロッパ史についての知識を確認して授業に臨み、授業後は配布資料や授業中に紹介された文献を確認して理解を深めてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

授業の前後、もしくはメール(noriko.tsujikawa@lac.kindai.ac.jp)で質問を受け付ける。個別の質問でも、受講者全体にフィードバックする意義があるものについては、授業内で説明することがある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学61

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中世イタリアのコミュニティ・国家・政治文化				
【授業の概要・目的】					
<p>中世イタリアでは、都市コムーネと「地域/領域国家」を舞台に高度な政治文化が繁栄した。そこでは社会の幅広い層の人々が日常の「政治」行為に関与し、現実の政治経験と政治理論の緊密な関係が見られた。近現代の政治、国家、社会と思想も、中世イタリアの歴史と切り離せない関係にあるのである。その中でも近年目覚ましい研究の進展が見られたのが、中世後期の党派（ゲルファ党とギベリン党）とシニョリーア制である。本講義では、党派とシニョリーアに関するテーマを導入し、中世後期の政治反乱とコミュニティを分析する。これにより広い意味での政治文化と幅広い層の人々の政治行為をつなぎ、中世イタリア政治史を長い歴史の中に位置づける考察を学ぶ。</p>					
【到達目標】					
<p>1．中世イタリアの政治史、国制史、政治文化史に関する基本的事項を理解し説明することができる。</p> <p>2．中世イタリアの政治史、国制史、政治文化史に関する専門的課題と研究状況を理解し説明することができる。</p> <p>3．1・2をヨーロッパ史の広い文脈の中に位置づけて理解し説明することができる。</p> <p>4．1～3について適切な参考文献や史料に基づいて、明確で論理的な文章で表現することができる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>基本的に以下の計画に沿って授業を進めるが、講義の進展に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回 イン트로ダクション：なぜ中世イタリア政治史を学ぶのか 第2～3回 中世イタリア政治制度史概説：都市コムーネから地域/領域国家へ 第4～6回 中世イタリアの政治と政治理論 第7～9回 党派とシニョリーア再考 第10～12回 政治反乱に見る党派とコミュニティ 第13～14回 政治反乱に見るシニョリーアとコミュニティ 第15回 フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートにより評価する。

[教科書]

使用しない
授業中にプリントを配布し、随時参考文献を紹介する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・特に履修要件は定めないが、高校世界史の中世ヨーロッパに関する部分の基礎知識を身に付けていることが望ましい。その不足を感じる場合には自ら参考書等で学習し補ってほしい。
- ・随時紹介する参考文献や授業中に配布する資料に目を通すこと。その他、関連する文献や資料を各主体的に読み進めていくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

質問その他の相談はオフィスアワーの他随時受付ます(要アポイントメント)。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学62

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 小関 隆		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イギリス・アイルランド現代史：世界大戦からブレクシットまで				
【授業の概要・目的】					
今年度の授業では、二度にわたる世界大戦からブレクシット（イギリスのEU離脱）まで、イギリスとアイルランドの現代史を通覧する。前期には、第一次大戦、大戦間期、第二次大戦、ヨーロッパ統合にかかわる重要な論点を検討し、1960年代以降については後期の授業で扱う。基軸になるのはイギリス＝アイルランド関係、両国が相互に影響を及ぼしあう歴史である。					
【到達目標】					
前期・後期の授業を通じて、第一次大戦以降の100年余りの歴史を俯瞰し、そのダイナミズムを理解する能力を身に着けること。					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1 第一次大戦 徴兵制と「リベラル・イングランドの死」（2回） 「未完の戦争」とアイルランド革命（2回） 2 大戦間期 委任統治の困難（1回） 「事実上の共和国」の形成（第二次アイルランド革命）（1回） 平和主義の苦渋（1回） 3 第二次大戦 「至上の時」の神話（1回） 中立国アイルランド（2回） 福祉国家の構築（1回） 4 ヨーロッパ統合 帝国からヨーロッパへ（2回） 冷戦と中立国（1回） まとめ（1回）					
授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。					
【履修要件】					
前期・後期の授業を通年で受講することが望ましい。					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートによって評価する。

[教科書]

使用しない
資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

自分の関心に合わせて、授業のテーマに関連する書籍や映画、音楽、等に触れるよう日頃から心がけること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学63

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 小関 隆		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イギリス・アイルランド現代史：世界大戦からブレクシットまで (つづき)				
[授業の概要・目的]					
<p>前期で扱った、第一次大戦、大戦間期、第二次大戦、ヨーロッパ統合に引き続いて、後期の授業では、サッチャリズムの歴史的な前提 (1960~70年代)、サッチャリズムの時代、ポスト冷戦、ブレクシットにかかわる重要な論点を検討し、イギリスとアイルランドの現代史を通覧する。基軸になるのはイギリス=アイルランド関係、両国が相互に影響を及ぼしあう歴史である。</p>					
[到達目標]					
<p>前期・後期の授業を通じて、第一次大戦以降の100年余りの歴史を俯瞰し、そのダイナミズムを理解する能力を身に着けること。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1 サッチャリズムの歴史的な前提 文化革命と「許容する社会」(2回) 「危機」の時代?(1回) 北アイルランド紛争(1回)</p> <p>2 サッチャリズムの時代 モラリズム(1回) ポピュラー・キャピタリズム(2回) ヨーロッパとアメリカ(2回) アイルランドの「現代化」(1回)</p> <p>3 ポスト冷戦 サッチャー以降のサッチャリズム(1回) 「ケルティック・タイガー」の勃興と衰退(1回)</p> <p>4 ブレクシット 国民投票への経緯(1回) 南北アイルランド国境(1回)</p> <p>まとめ(1回)</p>					
<p>授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。</p>					
[履修要件]					
<p>前期の授業を受講していることが望ましい。</p>					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートによって評価する。

[教科書]

使用しない
資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
文献リストを配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

自分の関心に合わせて、授業のテーマに関連する書籍や映画、音楽、等に触れるよう日頃から心がけること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学64

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	食と農の人文学				
[授業の概要・目的]					
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。					
[到達目標]					
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である (全15回)					
<ol style="list-style-type: none"> 1 食をめぐる研究の方法 2 明治大正期の食 3 アジア太平洋戦争までの食 4 戦後の食 5 牛乳の歴史学 6 品種改良の歴史学 7 フィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
定期試験 (筆記)					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』					
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』					
藤原辰史 『ナチスのキッチン』					
藤原辰史 『カブラの冬』					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』
湯澤規子他編 『食と農の人文学』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修 (予習・復習) 等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学65

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	食と農の人文学				
[授業の概要・目的]					
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。					
[到達目標]					
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である (全15回)					
<ol style="list-style-type: none"> 1 食糧戦争としての第一次世界大戦 2 有機農業の歴史 3 毒ガスと農薬の歴史 4 トラクターの歴史 5 戦時期の農村女性たち 6 食糧戦争としての第二次世界大戦 7 フィードバック 					
[履修要件]					
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。					
[成績評価の方法・観点]					
定期試験 (筆記)					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』					
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』					
藤原辰史 『ナチスのキッチン』					
藤原辰史 『カブラの冬』					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』
湯澤規子他編 『食と農の人文学』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修 (予習・復習) 等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学66

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 藤井 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古代ギリシア・ローマ世界における経済格差				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業は、現代世界の大きな問題の一つになっている経済格差の問題に注目し、これを歴史的枠組みのなかに位置づける試みとして、古代ギリシア・ローマ世界における経済格差を考察する。過去の社会を幅広く対象として経済格差を考えてきた思想家、歴史家の概要をまとめたのちに、ヘレニズム期とローマ帝政期を中心として、ポリス・王国・帝国での経済格差のあり方を分析する。ここでは、戦争・軍事、市民権、エリート形成といった、伝統的なテーマの見直しも含まれる。</p>					
[到達目標]					
<p>経済格差のあり方を歴史学的な視角から理解し、ギリシア古典期からローマ帝政期における格差の具体的な様相を把握できるようになる。同時に、戦争・軍事、市民権、エリート形成という伝統的なテーマの新たな可能性を理解できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>おおむね以下の内容に従って講義を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション(1回) 2. 経済格差の歴史学的研究の動向(3回) 3. 古典期(1回) 4. ヘレニズム期(4回) 5. 帝政期(4回) 6. 授業中試験・フィードバック(2回) 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>筆記試験をおこなう。講義内容に関する筆記試験をおこない、これに基づいて授業の理解度を評価する。</p>					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介された文献を可能な限り参照し、授業に使用したレジユメなどをしっかりと復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学67

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科	准教授 藤井 崇	非常勤講師 DUBBINI, Rachele
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古代ギリシア・ローマ世界における聖域の考古学				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業は、ラケレ・ドゥッビーニ（イタリア・フェッラーラ大学、京都大学大学院文学研究科客員准教授）と藤井崇が共同で開講する。ドゥッビーニ担当回は英語、藤井担当回は日本語を、主な使用言語とする。</p> <p>本授業の目的は、古代ギリシア・ローマ世界における聖域（sacred spaces）と聖域での各種の現象を、考古学・古代史の観点から分析することである。こうした聖域の考古学遺構は、景観、社会と経済、神話と歴史的記憶、個人と集団の経験の実態について、多くの示唆を与えてくれる。こうした聖域でこそ、宗教的、政治的、経済的、芸術的活動が、相互影響を与えながらおこなわれていた。聖域は、古代世界を知るために、根本的に重要である。ギリシア・ローマ世界に特有の文化的ダイナミクスよりよく理解するために、聖域でおこなわれた相互影響のあり方と社会と文化の形成を把握する必要がある。</p>					
[到達目標]					
<p>この授業の履修を通じて、受講者は、以下の知識・能力を獲得できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 地中海地域の主要なギリシア・ローマの聖域の概要。 - 考古学遺構の理解に必須となる文化的景観という概念。 - ギリシア・ローマの建築と都市計画の概要。 - 宗教遺構の考古学的研究の基礎。 - 考古学研究と人類学との関係。 					
[授業計画と内容]					
<p>本授業では、おおむね以下のスケジュールで進める。</p> <p>第1回：イントロダクション（ドゥッビーニ・藤井担当） 第2-11回：ギリシア・ローマの聖域（ドゥッビーニ担当） 第12-13回：聖域と皇帝崇拜・キリスト教（藤井担当） 第14-15回：授業中試験</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業内容に即した授業中試験で成績評価をおこなう。授業中試験は、日本語でおこなう。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の復習をきちんとおこない、関連文献を可能な限り読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	環大西洋革命とポーランド・リトアニア				
[授業の概要・目的]					
<p>18世紀後半は、大西洋をはさんで、アメリカ大陸とヨーロッパ大陸の双方で、政治地図が大きく塗りかえられた時代である。アメリカ大陸では、イギリス領13植民地が本国の支配に武力で抵抗し、アメリカ合衆国として独立した。ヨーロッパ大陸の西方ではフランス革命によって旧体制が崩壊し、東方ではポーランド・リトアニア共和国が周辺の3国によって分割されて消滅した。これらの一連の変化は相互に関連しており、その全体を総称して「環大西洋革命」と呼ぶ。</p> <p>本講義では、大西洋をまたいで活躍したタデウシュ・コシチューシコ(1746~1817)の生涯をたどりながら、啓蒙期の知的交流、アメリカ独立革命・フランス革命とポーランド・リトアニアの変革の動き、分割と抵抗が連鎖する経緯を追ってみたい。</p>					
[到達目標]					
<p>タデウシュ・コシチューシコは、今日のベラルーシ西部で生まれ、ワルシャワとパリで学び、アメリカ独立戦争で戦い、分割によって滅亡の危機にあったポーランドで最高司令官として武装蜂起を指揮した。広く環大西洋圏で活動したこの人物の足跡をたどることで、18世紀後半、近世から近代への転換期がどのような時代であったのかを理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
以下のテーマに従って、講義を進める。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本人にとっての「コシチューシコ」(第1回) 2. 大西洋革命論の系譜(第2・3回) 3. コシチューシコの生い立ち(第4回) 4. 士官学校時代(第5回) 5. パリのコシチューシコ(第6回) 6. 結ばれぬ恋の行方(第7回) 7. コシチューシコのアメリカ(第8~10回) 8. ポーランド・ロシア戦争(第11回) 9. コシチューシコ蜂起(第12・13回) 10. 亡命者としての活動(第14回) 11. フィードバック(第15回) 					
フィードバックの時間に本講義の内容にかんする質問を受け付ける。					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末に筆記試験をおこない、その結果にもとづいて成績を評価する。
論述試験によって授業の内容にかんする理解度を確認し、到達目標に照らして達成度を判定する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

配布する資料を予習・復習に用いることができる。また、授業でとりあげる時代と地域の概要を、歴史地図・年表や概説書などで、その都度確認しておくとう理解が深まるであろう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学69

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世ポーランド・リトアニア共和国の文化と社会 多様性とコミュニケーションの視点から				
【授業の概要・目的】					
<p>近世のポーランド・リトアニア共和国は、バルト海南岸から黒海北方のステップ地帯にかけて広がる領域を支配する複合的な国家であった。その国土は東西のキリスト教圏の境界線上に位置しており、住民のなかにはキリスト教徒以外の宗教の信徒も含まれていた。16世紀には、宗教改革の波及によって、宗派的な多様性はさらに高まった。宗教的・言語的・階層的に多様なこの地域の人びとは、どのように社会に統合され、共存していたのであろうか。また、彼らのあいだのコミュニケーションは、どのようになされていたのであろうか。この講義では、具体的な事例の考察をとおして、こうした問題を考えるための手がかりを提示したい。</p>					
【到達目標】					
<p>ポーランド・リトアニアにおける具体的な事例に触れることをとおして、ヨーロッパ東部の近世（16～18世紀）の社会と文化について、宗教・言語・コミュニケーションの視点からみた歴史的な特徴を理解することを到達目標とする。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>以下のような内容を取りあげる予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．多宗教・多言語国家としてのポーランド・リトアニア共和国（第1・2回） 2．近世ポーランドの社会成層観（第3・4回） 3．メルクリウシュ・ポルスキ ポーランド語による最初の新聞（第5・6回） 4．恋文と新聞のあいだ ポーランド王権のメディア戦略（第7・8回） 5．文芸共和国とポーランド・リトアニア（第9・10回） 6．情報革命と貴族の蔵書（第11・12回） 7．ヴォルテールとポーランド（第13・14回） 8．フィードバック <p>第1・2回は宗派と言語、第3・4回は階層の視点からポーランド・リトアニア共和国内部の多様性と社会的統合について概観する。第5回以降は、コミュニケーションとメディアの視点からヨーロッパ東部の近世の特徴を考える。フィードバックの時間に本講義の内容にかんする質問を受け付ける。</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末に筆記試験をおこない、その結果にもとづいて成績を評価する。
論述試験によって授業の内容にかんする理解度を確認し、到達目標に照らして達成度を判定する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布する資料を予習・復習に用いることができる。また、授業でとりあげる時代と地域の概要を、歴史地図・年表や概説書などで、その都度、確認しておくとう理解が深まるであろう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	奈良女子大学大学院生活環境科 学系(生活環境学部)教授 林田 敏子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	大戦とジェンダー 軍隊・記憶・セクシュアリティ				
[授業の概要・目的]					
<p>二〇世紀に起こった二度にわたる世界大戦は、銃後を広く巻き込む総力戦として多くの女性たちを動員した。前線にまで拡大した女性の戦時活動は、ときに「男の領域の侵犯」ととらえられ、様々な手段でジェンダー秩序の維持がはかられた。本講義では両大戦期のイギリスを対象に、大規模な戦時動員が引き起こした諸問題をジェンダーとセクシュアリティの観点から考察する。戦争に主体的に関わることを求められた女性たちの活動や経験を、軍隊(前線)と家庭(銃後)という二つの空間の重なりや連続性のなかに位置づけてみたい。女性に求められた戦時の役割や女性表象が果たした機能、戦時の「男らしさ」をめぐる価値観の揺らぎ、そして長い「戦後」という時空間における大戦の記憶の変遷に焦点をあてながら、女性たちの長い「戦い」を論じる。</p>					
[到達目標]					
<p>総力戦となった両大戦期において、なぜ、そしていかなる形でジェンダー問題が顕在化し、どのような対処がなされたのかを、現代社会とのつながりのなかで理解する。大戦とジェンダー研究の複数の論点への理解を深めることで、汎用性のあるアプローチ方法を獲得し、それを自らの問題関心にひきつけて、新たな研究の可能性を探ることができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の授業計画に沿って進めるが、講義の進捗や受講生の関心や理解度によって、回数や順序、テーマを微調整することがある。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. パンプスを履いた女性兵士 戦うことと「女らしさ」 2. 大戦とジェンダーをめぐるトピックと論点 3. 「新しい軍事史」とジェンダー 4. 第一次世界大戦と女性表象 5. 第一次世界大戦と「男らしさ」 白い羽運動を通して 6. 第一次世界大戦期のベルギー表象 セクシュアリティと戦争 7. 近代戦とマスキュリニティ 8. 「弱き男」のマスキュリニティーショックを例に 9. 軍隊のなかの女性たち 第一次世界大戦 10. 軍隊のなかの女性たち 第二次世界大戦 11. 軍隊と同性愛 排除が黙認かー 12. キッチン・ソルジャー 主婦たちの世界大戦 13. 語り出す女性たち 「忘れられた軍隊」の記憶 14. 「普通の人々」の大戦経験 Mass Observationと第二次世界大戦 15. Mass Observationと第二次世界大戦 ある主婦の日記をもとに 					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中に出される課題（30%）、学期末のレポート（70%）で成績を評価する。
到達目標に掲げた水準に達しているか否かで達成度を測る。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

大戦とジェンダーに関する文献（授業中に適宜紹介する）を積極的に参照すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学71

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 金澤 周作		
配当学年	全回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ふたつの奴隷貿易の廃絶 近代地中海・ヨーロッパ・イギリス				
[授業の概要・目的]					
<p>近世ヨーロッパの人びとは、よく知られた大西洋横断する黒人の奴隷貿易と並行して、地中海でのムスリムとキリスト教徒（白人）の奴隷貿易にも関わっていた。後者はあまり知られていないが、近年研究が活発化し、多面的な実相が解明されてきている。本講義では、ふたつの奴隷貿易の対比と関係に注意しながら、地中海の奴隷貿易を詳論する。後期は、主として地中海奴隷貿易に関わるイギリスの未刊行史料を精読しつつ、最盛期を過ぎた地中海奴隷貿易の内実に迫り、さらに、19世紀初頭におけるふたつの奴隷貿易の同時的な廃絶プロセスを描くことを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>近代ヨーロッパがふたつの奴隷貿易をほぼ同時期に廃絶しようとした経緯が理解できるようになる。大西洋黒人奴隷貿易の廃止という出来事を相対化できるようになる。「奴隷貿易」を現代的な課題としてとらえることができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>本講義では、数回ずつの講義で小括できるいくつかのサブ・テーマに分けて、以下の順序で議論を進めていく（1は2回、2～4は各4回、5は1回、全15回）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．序論 ふたつの奴隷貿易の廃絶の同時性 2．ベットン財団の史料にみる地中海奴隷貿易の実態 3．ナポレオン戦争からウィーン体制へ 4．ふたつの奴隷貿易の廃絶過程 5．結論と展望 					
[履修要件]					
特になし					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

講義内容の要点にかんする理解度を確認するために筆記試験を行ない、その結果によって評価する。
講義をした範囲に関して、到達目標に掲げた水準に達しているかどうかで達成度を測ることとする。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で担当者が紹介する文献をできるだけ参照すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学72

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 金澤 周作	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	もうひとつの奴隷貿易 近世地中海とイギリス				
[授業の概要・目的]					
<p>近世ヨーロッパの人びとは、よく知られた大西洋横断する黒人の奴隷貿易と並行して、地中海でのムスリムとキリスト教徒（白人）の奴隷貿易にも関わっていた。後者はあまり知られていないが、近年研究が活発化し、多面的な実相が解明されてきている。本講義では、ふたつの奴隷貿易の対比と関係性に注意しながら、地中海の奴隷貿易を詳論する。前期は先行研究と若干のイギリスの史料を用いながら、18世紀までの全体像を描くことを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>近世ヨーロッパにおける知られざるもうひとつの奴隷貿易を理解できるようになる。大西洋黒人奴隷貿易を相対化できるようになる。「奴隷貿易」を現代的な課題としてとらえることができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>本講義では、数回ずつの講義で小括できるいくつかのサブ・テーマに分けて、以下の順序で議論を進めていく（1は2回、2～4は各4回、5は1回、全15回）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．序論 ふたつの奴隷貿易 2．大西洋黒人奴隷貿易 3．地中海の歴史と奴隷貿易 4．イギリスと地中海の奴隷貿易 5．結論と展望 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>講義内容の要点にかんする理解度を確認するために筆記試験を行ない、その結果によって評価する。</p> <p>講義をした範囲に関して、到達目標に掲げた水準に達しているかどうかで達成度を測ることとする。</p>					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で担当者が紹介する文献をできるだけ参照すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学73

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中世ヨーロッパの国家				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義のテーマは、中世ヨーロッパ国制史、政治社会史、政治文化史の諸問題である。研究史上の諸論点を概観し、授業者が考察を加えて展開し、受講生が基本的参考文献の読み込みに取り組み自らの考察を深めることにより、受講生が専門的西洋中世史研究への導入的知識と学術的議論のフレームを習得することが本授業の目的である。</p>					
[到達目標]					
<p>(1)中世ヨーロッパの国制史、政治社会史、政治文化史の基本的な事項や研究史上の論点を理解することができる。</p> <p>(2)(1)について、適切な参考文献を活用しながら考察を深め、自らの言葉で論理的に説明することができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の計画に沿って授業を進めるが、講義の進展に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回 イントロダクション 国制史とは何か 第2～3回 国家概念とその歴史的系譜 第4回 「フェーデ」と国家形成 フェーデの基本性格 第5～6回 「神の平和」と「王の平和」 第7～8回 ラントフリーデをめぐる諸問題 第9～10回 共同体としての国家・共同体に依拠する国家 第11～12回 暴力・交渉・コミュニケーション 第13～14回 中世国家の儀礼と表象 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
レポートにより評価する。					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

・特に履修要件は定めないが、高校世界史の中世ヨーロッパに関する部分の基礎知識を身に付けていることが望ましい。その不足を感じる場合には自ら参考書等で学習し補ってほしい。
・随時紹介する参考文献や授業中に配布する資料に目を通すこと。その他、関連する文献や資料を各主体的に読み進めていくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

質問その他は授業後やオフィスアワーに受け付けます(要アポイントメント)。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学74

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 福元 健之	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	チャクラバルティによる歴史学批判の検討				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、シカゴ大学で教鞭をとる歴史家・哲学者のディペシュ・チャクラバルティによる議論を中心に取り扱い、彼による歴史学批判の批判的検証を行う。</p> <p>気候変動に関心が高まる今日、日本語に翻訳されたチャクラバルティの著作は、いずれも地球規模の環境問題に関するものであるが、歴史研究の文脈でチャクラバルティの名は、歴史学全体に影響を与えたサバルタン研究グループの一員として知られていた。ヨーロッパ中心主義のなかで黙殺されてきた主体の声を汲み取る繊細な作業に従事してきた彼が、そうしたミクロな世界とは対極に位置するかにみえる「惑星」的問題について論じるに至った経緯を踏まえ、そのうえで彼の議論を批判的に自分たちの方法論に落とし込む方策について考察する。</p> <p>歴史研究は、先行研究者が成し遂げた仕事の誠実かつ批判的な読解に基づき、独自の問いを立てるものである。本講義は、チャクラバルティが方法論的・実証的に論じた欧米の（必ずしも欧米だけではない）歴史についての講義であるのみならず、史学史の一つの実践である。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・史学史に関する理解力を養う。 ・ヨーロッパ近現代史に関する知識を養う。 ・ヨーロッパ近現代史の方法論に関する理解力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>授業回数はフィードバックを含めて全15回とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．イントロダクション 2．インド史・労働史・サバルタン研究 3．インド史・労働史・サバルタン研究 4．ヨーロッパの「地方化」 5．ヨーロッパの「地方化」 6．転換点としての「歴史の気候」 7．転換点としての「歴史の気候」 8．人新世から「惑星」へ 9．人新世から「惑星」へ 10．人新世から「惑星」へ 11．チャクラバルティへの既存の評価 12．チャクラバルティへの既存の評価 13．新しい環境史の方法論的可能性 14．新しい環境史の方法論的可能性 15．フィードバック 					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末筆記試験または期末レポート試験

[教科書]

使用しない
授業中に資料を配布する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習・復習は、授業で配布した資料を利用するとよい。授業中に紹介する文献や、図書館で関連する文献を自分でみつけ、読んでみることで、理解をさらに深めることができる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学75

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 福元 健之	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	戦間期の医療・技術・環境の歴史				
[授業の概要・目的]					
<p>20世紀前半の放射線医学の周囲には、日光療法や「人工太陽」による光線療法、放射性物質であるラジウムの医療利用など、現在からみれば「非科学的」な治療方法が徘徊していた。いや、より正確に言えば、発展途上にあった放射線医学は、日光療法や光線療法、ラジウム療法とともに「放射エネルギーによる治療Strahlentherapie」という共通の枠組のなかに分類されていた。天然の日光が放射能と同じカテゴリーにあったのは、今日からすれば奇妙に見えるが、その驚きや戸惑いは、医療・技術・自然の関係を歴史的に考えることの出発点になりえる。</p> <p>本講義では、この問題について論じるために、戦間期ポーランドのウッチ市に焦点を当てる。医学的知識のみならず、開発・製造される技術を西欧から受容したポーランドで、「放射エネルギーによる治療」がどのように普及し、それによって医療のあり方がどのように変化したのか、を、一次史料の読解に基づきながら明らかにする。</p>					
[到達目標]					
・ヨーロッパ近現代史を医療史や社会政策史の観点から考察できるようになる。					
[授業計画と内容]					
授業回数はフィードバックを含めて全15回とする。					
<ol style="list-style-type: none"> 1．イントロダクション 2．レントゲンの発見 3．ウッチの医療 4．医療機器メーカーとポーランド 5．医療機器メーカーとポーランド 6．ウッチの放射線医 7．ウッチの放射線医 8．医師養成のなかの放射線医学 9．医師養成のなかの放射線医学 10．ラジウムと文化 11．ラジウムと文化 12．ラジウム研究所 13．ラジウム研究所 14．まとめ 15．フィードバック 					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末筆記試験または期末レポート試験

[教科書]

使用しない
授業中に資料を配布する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習・復習は、授業で配布した資料を利用するとよい。授業中に紹介する文献や、図書館で関連する文献を自分でみつけ、読んでみることで、理解をさらに深めることができる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学76

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山口 育人	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	20世紀英米経済関係の研究				
【授業の概要・目的】					
<p>この講義は、20世紀世界史の展開を国際経済システムに着目して考察することを目的とする。19世紀中葉からのヘゲモニー国家イギリスの自由貿易路線と国際通貨ポンドを基盤とした国際経済秩序は、第一次世界大戦と世界恐慌により終焉を迎える。第二次世界大戦後は、アメリカ合衆国のヘゲモニーのもと、IMF・GATT体制と呼ばれる国際経済システムが構築されたと理解される。しかし、例えば通貨システムをみてもポンド体制からドル体制への単線的移行だったわけではない。大戦後もポンドを基盤とする通貨スターリング圏は一定の役割を果たし、また1970年代以降、現在に至るまでは、アメリカの国際収支の強さとは異なり、グローバル化が支えるドル基軸体制が展開している。本講義は、英米覇権交代という単純な展開としてではなく、脱植民地化とグローバルサウスの出現、冷戦対立、ヨーロッパ統合、「福祉国家」から「新自由主義」への政治経済思想の転換といった20世紀世界の複雑な展開を反映したものであるものとしての国際経済システムのあり方を、英米経済関係に着目しつつ考えることを中心視角としたい。</p>					
【到達目標】					
20世紀の各時代における国際経済システムの性格を、経済のみならず、世界各地域の政治、社会動向、ならびに国際関係を踏まえながら歴史的に理解し、説明できるようになる。					
【授業計画と内容】					
第1回	導入 国際貿易システム・通貨システムの基礎				
第2回	「衛兵交代ならず」 戦間期の英米経済関係				
第3回	戦後国際経済構想をめぐる英米関係 (第二次世界大戦期)				
第4回	シカゴ国際民間航空会議 (1944年) 戦後民間航空制度をめぐる英米角逐				
第5回	英米借款協定 (1945年)				
第6回	マーシャルプランとスターリングエリアの「生き残り」 (1940年代後半)				
第7回	冷戦と開発援助 (1950年代前半)				
第8回	バミューダ体制 戦後国際民間航空制度の確定				
第9回	欧州統合とスターリングエリアの動揺 (1950年代後半)				
第10回	「ドル防衛の第一線としてのポンド防衛」 (1960年代)				
第11回	ブレトンウッズ体制の崩壊 (1970年代前半)				
第12回	オイルマネー、ユーロダラー、「新国際経済秩序 (NIEO)」 ポストブレトンウッズの国際通貨システム (1970年代後半)				
第13回	大西洋両岸での「新自由主義革命」とグローバルサウスの「敗北」 (1980年代)				
第14回	グローバル化と英米経済関係 (1990年代～21世紀)				
第15回	まとめ				
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

小課題の作成（授業中に指示。各10点×4回）と期末レポート（60点）で評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

君塚直隆、細谷雄一、永野隆行（編著）『イギリスとアメリカ 世界秩序を築いた四百年』（勁草書房、2016年）ISBN:978-4-326-35168-8

猪木武徳（著）『戦後世界経済史 自由と平等の視点から』（中公新書、2009年）ISBN:978-4-12-1020000-0

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指示する基本文献（読むべき箇所も指示する）を読んでくる。

（その他（オフィスアワー等））

質問は授業終了後に対応する。また、授業開始後、連絡方法を伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学77

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 後藤 敦史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	幕末政治史・外交史の研究状況とその課題				
[授業の概要・目的]					
<p>幕末の政治史研究および外交史研究では、近年、精緻な実証研究の成果が相次ぎ、新しい幕末史像が様々なかたちで提示されている。たとえば、国内政局に関しては、従来注目されてこなかった政治主体が注目され、また国際環境についても、海外史料の積極的な収集により、通史像の刷新が進められている。</p> <p>本授業では、新しい研究成果を踏まえて幕末の政治史・外交史の再検討をおこなうとともに、さらなる課題について考察を深めたい。</p>					
[到達目標]					
幕末の政治・外交史に関する基本的事項を理解するとともに、歴史的な事象を多角的に捉える方法を習得する。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグー幕末政治・外交史研究を振り返る 2. 開国前夜の国際環境 3. 開国前夜における幕府の政治と外交 4. アメリカの対日外交と日本開国 5. 開国期における幕府の政治と外交 6. 1850年代末の国際環境と通商条約締結 7. 通商条約締結前後の朝幕関係 8. 黒船来航と日本の地域社会 摂津国を事例に 9. 大阪湾の海防強化と台場 10. 「攘夷」をめぐる政局の展開 11. 欧米諸国の対日報復計画と1860年代の国際状況 12. 幕末政局の中の京都 13. 譜代藩からみる幕末政治 大和国郡山藩を事例に 14. 人物研究について 徳川慶喜の生涯 15. エピローグー講義の振り返り <p>なお、講義の進みぐあい、学界における研究の進展、受講生の関心などに対応して、順序等を変えることがある。</p>					
----- 西洋史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点 30%

期末レポート 70%

なお、平常点は毎回課す課題により評価する。課題の提出をもって「出席」したと見なす。課題提出がない場合は、授業に出ているも「欠席」として扱う。

4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない（公的事由による欠席の場合は申告すること）。

【教科書】

レジュメを毎回配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業ごとに参考文献を示す。授業の理解度を深めるため、参考文献を読むことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

授業担当者（後藤敦史）の連絡先：goto-a@tachibana-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学78

科目ナンバリング	G-LET26 76961 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポーランド書講読				
[授業の概要・目的]					
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 ・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 					
[授業計画と内容]					
この授業では、ヤギェウォ王朝の断絶から第3次ポーランド分割に至るまでの時代のポーランド・リトアニア共和国の歴史を記述した次の本のなかから、いくつかの章を講読する。					
Urszula Augustyniak, Historia Polski 1572-1795, Wydawnictwo Naukowe PWN: Warszawa, 2014.					
本書は、ポーランド・リトアニア共和国の歴史を体系的・総合的に記述した、優れたポーランド近世史の概論である。					
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、ポーランド史上の論点についての理解を深めることを目指す。					
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 (授業中の訳読の実績) によって評価する。					
----- 西洋史学 (講読)(2)へ続く -----					

西洋史学 (講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

- ・ あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・ 授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他 (オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。なお、後期にも同じ書籍をテキストとする講読の授業が開講されるが、前期の授業では、後期とは異なる箇所を読む予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学79

科目ナンバリング	G-LET26 76961 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポーランド書講読				
[授業の概要・目的]					
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 ・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 					
[授業計画と内容]					
この授業では、ヤギェウォ王朝の断絶から第3次ポーランド分割に至るまでの時代のポーランド・リトアニア共和国の歴史を記述した次の本のなかから、いくつかの章を講読する。					
Urszula Augustyniak, Historia Polski 1572-1795, Wydawnictwo Naukowe PWN: Warszawa, 2014.					
本書は、ポーランド・リトアニア共和国の歴史を体系的・総合的に記述した、優れたポーランド近世史の概論である。					
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、ポーランド史上の論点についての理解を深めることを目指す。					
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 (授業中の訳読の実績) によって評価する。					
----- 西洋史学 (講読)(2)へ続く -----					

西洋史学 (講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

- ・ あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・ 授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他 (オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。なお、前期にも同じ書籍をテキストとする講読の授業が開講されるが、後期の授業では、前期とは異なる箇所を読む予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学80

科目ナンバリング	G-LET26 76971 SJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (演習I) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 藤井 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習 I (西洋古代史演習)				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>西洋古代史の広範な歴史的事象と歴史学的論点を理解することで、自身の研究をさらに発展させる。一次史料と二次文献を批判的に分析し、その成果を自身の研究に取り入れ、国際レベルでの研究者となる基礎を形成する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。</p> <p>前期の演習では、ローマ帝国の統合論に大きなインパクトを与えたClifford Ando, Imperial Ideology and Provincial Loyalty in the Roman Empire (2000) を講読する。講読にあたって、一次史料の分析を組み合わせることで、基礎的な歴史的知識を養うと同時に、これまで学界で議論されてきた重要な論点の意義と将来性を見抜く能力を獲得する。各受講生は、この演習での経験をもとに、各自の研究の深化を図ってほしい。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2-13回：Ando, Imperial Ideology and Provincial Loyaltyの講読 第14-15回：まとめ・フィードバック</p>					
[履修要件]					
西洋古代史の分野で研究をおこなう大学院生の出席を授業の前提とする。					
[成績評価の方法・観点]					
報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。					
----- 西洋史学 (演習I)(2)へ続く -----					

西洋史学 (演習I)(2)

[教科書]

使用するテキストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

基本テキスト、一次史料、個別論文の予習が不可欠となる。大学院生は、関連する一次史料、二次文献も積極的に活用すること。さらに、この演習での経験をもとに、自身の研究の発展を目指す必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学81

科目ナンバリング	G-LET26 76971 SJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(演習I) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 藤井 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習I(西洋古代史演習)				
[授業の概要・目的]					
この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。					
[到達目標]					
西洋古代史の広範な歴史的事象と歴史学的論点を理解することで、自身の研究をさらに発展させる。一次史料と二次文献を批判的に分析し、その成果を自身の研究に取り入れ、国際レベルでの研究者となる基礎を形成する。					
[授業計画と内容]					
おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。 後期の演習では、受講生が順に各自の研究報告をおこなう。その際、それぞれのテーマに関係の深い文献を、受講生全員で講読する。					
第1回：イントロダクション 第2-13回：受講生による研究報告、ディスカッション 第14-15回：まとめ・フィードバック					
[履修要件]					
西洋古代史の分野で研究をおこなう大学院生の出席を授業の前提とする。					
[成績評価の方法・観点]					
報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。					
[教科書]					
使用するテキストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- 西洋史学(演習I)(2)へ続く -----					

西洋史学 (演習I)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

基本テキスト、一次史料、個別論文の予習が不可欠となる。大学院生は、関連する一次史料、二次文献も積極的に活用すること。さらに、この演習での経験をもとに、自身の研究の発展を目指す必要がある。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学82

科目ナンバリング		G-LET26 76972 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (演習II) European History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習 II (西洋中世史演習)				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習では、ヨーロッパ史に関係する欧米の相対的に新しい英語研究文献を読解し議論する。これにより英語で専門研究文献を精読する力を養うとともに、現在の歴史学方法論、解釈理論、史料論、および研究上の諸論点を学び、理解を深め、ヨーロッパ史についての基本的な知識を身に着ける。本演習では中世史を中心に扱う。</p> <p>今回のテーマは中世の領主制再考である。領主制は中世ヨーロッパの基本構造でありながら、各国の歴史学が、それぞれの地域的現実にしたがって、異なる定義と解釈を与えてきた。また、領主制は、支配と従属による「人と人との絆」(M・ブロック)を農民層や隷属民に至る社会の基底において示すものであり、権力と社会を理解するための最も重要な鍵である。近年の研究は中世の権力と社会をコミュニケーションという広義の文化史的観点から大幅に見直してきたが、この観点から、領主制に新たな光を投げかければ、どのような新しい理解が立ち上がってくるのだろうか？</p> <p>今回の演習では、この問題に関する最新の研究成果に向き合い、歴史研究の思考力と知識と技術を磨きながら、参加者各自が新たなヨーロッパ史像を考えることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語による西洋史学の専門文献の読み方を習得する。 ・ 授業で扱うテーマを中心に、ヨーロッパ史に関する歴史学研究上の諸論点を理解する。 ・ 専門的な文献と史資料の理解に基づいた議論を行い、適格な説明や問題提起を行うことができるようになる。 ・ 各参加者が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。 					
[授業計画と内容]					
<p>授業は総合人間学部、文学部、人間・環境学研究科、文学研究科の授業と共通。英語文献精読のテキストとして以下のものを用いる。</p> <p>Alessio Fiore, The Seigneurial Transformation. Power Structure and Political Communication in the Countryside of Central and Northern Italy, 1080-1130, Oxford UP, 2020.</p> <p>授業は基本的に以下の計画にそって進めるが、参加者数等に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回はイントロダクションとして、取り上げる文献の概要と方法論、研究状況についての導入的説明を行う。また、ヨーロッパ史研究の基本的な道具を紹介し、授業の進め方の確認と担当の分担を行い、補足的な導入用文献の配布を行う。</p> <p>第2回は日本語の参考文献を用いて導入的な議論を行う。</p> <p>第3回～第13回は上記文献の読解・発表・議論を行う。受講生の関心と必要に応じて、適宜補助的</p>					
西洋史学 (演習II)(2)へ続く					

西洋史学 (演習II)(2)

な資料の配布と読解、説明、議論を行う。
第14回は、結論分の読解・発表・議論とともに、全体のまとめと討論を行う。
各回の内容は以下の通り。

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 日本語参考文献に基づく導入的学習
- 第3回 The Seigneurial Transformation, Introduction
- 第4回 1 Civil Wars: Collapse and Rebuilding of Political Structures
- 第5回 2 Imperial Power: Crisis and Transformation
- 第6回 3 Territorial Lordship: Rise and Spread of a Model of Power
- 第7回 4 Inside the Lordship: Reshaping Local Societies
- 第8回 5 Collective Powers: Political Actions of Urban and Rural Autonomous Communities
- 第9回 6 Royal Legitimation and its Crisis
- 第10回 7 Fidelity: A Pervasive Language
- 第11回 8 Pacts: The Foundations of a New Legitimacy
- 第12回 9 Custom: Rituals of Memory
- 第13回 10 Violence: A Pragmatic Language
- 第14回 Conclusions: A Seigneurial Revolution (and More) およびまとめと討論
- 第15回 フィードバック

【履修要件】

ヨーロッパの歴史や文化に関心を持ち、英語の研究文献を読む意欲を有すること。

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。

【教科書】

Alessio Fiore 『The Seigneurial Transformation. Power Structure and Political Communication in the Countryside of Central and Northern Italy, 1080-1130』 (Oxford University Press, 2020.) ISBN: 9780198825746 (テキストとなる文献の入手については別途指示する。補足資料は随時配布する。)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

文献の予習は必須。随時紹介・配布する参考となる文献や資料も読んでおくこと。その他、関連す

西洋史学 (演習II)(3)へ続く

西洋史学 (演習II)(3)

る文献や資料を各自主体的に読み進めていくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

演習では主体的に関わっただけの成長が得られるので、しっかり文献を読み込み準備をした上で、積極的に臨んでください。また、ぜひとも討論を大切にしてください。意見や疑問をぶつけあい共有することで、一人では決して得られないものにたどり着くことができます。共に学ぶためにお互いに貢献し合ってほしいと思います。

質問その他は授業の前後の時間とオフィスアワーに受け付けます(要アポイントメント)。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET26 76972 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (演習II) European History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習 II (西洋中世史演習)				
[授業の概要・目的]					
西洋中世史学の研究方法と研究成果を表現し他者に伝える方法を学ぶ。そのためにまず西洋中世史料論を学び、ついで各参加者が自らの研究課題を定め、具体的な研究を実践し、研究報告を行う。					
[到達目標]					
各演習参加者が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。 1回生は、自らの研究課題を選択して史資料や文献を収集、分析するとともに、史料の類型や性質を学ぶ。 2回生は、自らの研究を深化発展させ、まとめ上げる力を身に着ける。					
[授業計画と内容]					
研究の技術と知識習得のための共通課題として、史料論の学習や史資料研究の実習に一部の時間を充てる。高山博・池上俊一編『西洋中世学入門』第2部「西洋中世社会を読み解くための史料」を参考資料として基礎を学んだ後、具体的な史料を取り上げ学習する。 次いで、参加者各自が設定したテーマに沿った個人研究の口頭報告と、参加者全員による質疑応答と討論、助言や指導を行う。その際、研究を進めるプロセスの各ステップにおいて習得すべき事柄に毎回焦点を当てる。 第1回と第9回～第14回(予定)は「欧米歴史社会論演習IIB」と合同で行う。 総合人間学部、大学院人間・環境学研究科、文学部、文学研究科の授業と共通。 基本的に以下の計画にそって授業を進めるが、参加者数等に応じて変更がありうる。					
第1回 イン트로ダクション 参加者各自の興味や研究課題を確認し、授業の進め方の確認と発表の割り当てを行う。(欧米歴史社会論演習IIBと合同)					
第2回 『西洋中世学入門』第11章 統治・行政文書					
第3回 『西洋中世学入門』第12章 法典・法集成					
第4回 『西洋中世学入門』第13章 叙述史料					
第5回 『西洋中世学入門』第14章 私文書					
第6回 『西洋中世学入門』第15章 教会文書					
第7回 史料研究 統治・行政文書、法典・法集成から事例を選択					
第8回 史料研究 叙述史料、私文書、教会文書から事例を選択					
第9回 受講生の研究発表 -先行研究を整理し問を設定する(欧米歴史社会論演習IIBと合同)					
第10回 受講生の研究発表 -史料の性格を把握する(欧米歴史社会論演習IIBと合同)					
第11回 受講生の研究発表 -史料を分析する(欧米歴史社会論演習IIBと合同)					
第12回 受講生の研究発表 議論を論理的に組み立てる(欧米歴史社会論演習IIBと合同)					
第13回 受講生の研究発表 自説を位置付ける・意義付ける(欧米歴史社会論演習IIBと合同)					
西洋史学 (演習II)(2)へ続く					

西洋史学 (演習II)(2)

第14回 研究発表の振り返りと総合討論（欧米歴史社会論演習IIBと合同）
第15回 フィードバック

【履修要件】

ヨーロッパの歴史や文化に関心を有すること。

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。

【教科書】

高山博・池上俊一（編）『西洋中世学入門』（東京大学出版会，2005年）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

各自の研究テーマに沿って計画的に史料や文献の読み込み、分析、整理、考察を行い、研究を進めておく。また、口頭報告の準備には十分な時間をとること。

（その他（オフィスアワー等））

演習での研究は、世界にたった一つのあなたの研究成果です。演習ではそれぞれの「たった一つ」を対話の中でともに育て磨き上げてゆきます。積極的に臨み、議論による共有と創造を楽しんでください。質問その他の相談はオフィスアワーの他随時受け付けます（要アポイントメント）。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学84

科目ナンバリング		G-LET26 76973 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (演習III) European History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 講師	小山 哲 安平 弦司
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習 (西洋近世史演習)				
[授業の概要・目的]					
近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献を読解し、また、個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。 ・英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。 					
[授業計画と内容]					
<p>身分制議会は、近世ヨーロッパの国制や政治文化の特徴を理解するうえで、重要な制度の1つである。ヨーロッパ諸地域におけるこの制度の展開を概観した次の本をとりあげ、その内容を正確に理解するとともに、研究の視角や考察の特徴について議論する。</p> <p>Michael A. R. Graves, <i>The Parliaments of Early Modern Europe</i>, Routledge: London and New York, 2001.</p> <p>併せて、身分制議会をめぐる最近の研究動向と研究上の論点を知るために、以下の論文も参照する。</p> <p>Paulina Kewes et al, “ Early modern parliamentary studies: Overview and new perspectives ”, <i>History Compass</i>, 2023, DOI:10.1111/hic3.12757.</p> <p>Id., “ Towards a history of parliamentary culture in the early modern world: concept, geopolitical scope, and method ”, <i>Parliaments Estates and Representation</i>, 2024, DOI: 10.1080/02606755.2024.2420417.</p> <p>参加者全員による討論をつうじて、近世ヨーロッパの身分制議会とはどのような制度であるのか、地域によってどのような特徴がみられるか、この制度の発展を可能にしたあるいは妨げた政治的・社会的・文化的条件はどのようなものであったのか、身分制議会の制度と実態にかんする研究はどのような史料にもとづいて行なわれているのか、最新の研究ではどのような視点や研究手法が取り入れられているのか、といった問題を、さまざまな角度から検討する。</p> <p>イントロダクション (第1回) に続けて、各回 (第2回 ~ 第15回) に上記の本と論文を読み、内容を理解したうえで、近世ヨーロッパ史にかかわる諸問題について議論する。</p> <p>フィードバックについては、授業中に指示する。</p>					
----- 西洋史学 (演習III)(2)へ続く -----					

西洋史学 (演習III)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示、研究発表、討論への参加の度合いにもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。

【教科書】

使用するテキストの入手については、別途指示する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

- ・ 毎回、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
- ・ 議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学85

科目ナンバリング		G-LET26 76973 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (演習III) European History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 講師	小山 哲 安平 弦司
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習 (西洋近世史演習)				
[授業の概要・目的]					
<p>近世のヨーロッパ史上の個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。必要に応じて近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献をとりあげて読解し、議論する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。 ・受講生各自が研究発表を行なうことにより、各受講生の専門的な研究を深化させるとともに、発表に説得力をもたせるにはどのような工夫が必要かを考え、実践する経験を積む。 ・関連する英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回： オリエンテーション</p> <p>第2～15回： 参加者がそれぞれ興味をもつテーマについて研究発表を行い、それにもとづいて全員で討論を行う。 また、関連するテーマのについて英語による文献を全員で読解し、議論する。 参加者の研究発表には第2回から偶数回を、文献の読解・議論には第3回から奇数回をあてる予定であるが、受講生の人数によって変更することもありうる。</p> <p>フィードバックについては、授業中に指示する。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>研究発表、討論への参加の度合い、授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示にもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。</p>					
----- 西洋史学 (演習III)(2)へ続く -----					

西洋史学 (演習III)(2)

[教科書]

使用するテキストの入手については、別途指示する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

- ・ 受講生各自が関心のあるテーマについて個別発表を行なうので、そのための研究を各自で進めておく必要がある。
- ・ 文献を読む回については、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
- ・ 議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38			
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉井 秀夫		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	朝鮮三国時代墓制の変遷と棺・槨・室				
[授業の概要・目的]					
3～6世紀の朝鮮半島と日本列島の各地では、多大な労力を用いて多様な古墳が築造された。本講義では、棺・槨・室を中心とする埋葬施設の構造と空間原理などに着目しつつ、朝鮮半島各地の三国時代墓制の変遷過程を検討する。					
[到達目標]					
朝鮮三国時代の墓制の展開と特質についての基本的な知識を得る。 墓制を比較研究するための方法論を学ぶ。 東アジア的な広がりの中で日本考古学を研究する視角の基礎を身につける。					
[授業計画と内容]					
第1回 墓制を比較検討する視角をめぐって 第2回 考古学からみた墓制・葬制 第3回 棺・槨・室をめぐる諸問題(1) - 棺・槨・室の定義 第4回 棺・槨・室をめぐる諸問題(2) - 木棺・木槨の構造復元法 第5回 棺・槨・室をめぐる諸問題(3) - 墳丘との関係 第6回 竪穴系埋葬施設における棺・槨・室(1) - 新石器時代～初期鉄器時代 - 第7回 竪穴系埋葬施設における棺・槨・室(2) - 原三国時代 - 第8回 竪穴系埋葬施設における棺・槨・室(3) - 洛東江流域木槨墓の「棺」 - 第9回 竪穴系埋葬施設における棺・槨・室(4) - 大加耶系竪穴式石槨墓の「棺」 - 第10回 竪穴系埋葬施設における棺・槨・室(5) - 漢城百済における墓制の多様性と「棺」 - 第11回 横穴式石室の受容と棺の変化(1) - 錦江流域の場合 - 第12回 横穴式石室の受容と棺の変化(2) - 栄山江流域の場合 - 第13回 横穴式石室の受容と棺の変化(3) - 洛東江以西地域の場合 第14回 横穴式石室の受容と棺の変化(4) - 洛東江以東地域の場合 第15回 朝鮮三国時代墓制の特質 日本列島の比較から					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
レポート試験70% 平常点評価30%(講義についての小レポートなど)					
[教科書]					
使用しない					
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----					

考古学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の講義で紹介する論文を是非よんで欲しい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38			
授業科目名 <英訳>	考古学 (特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 溝口 孝司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会考古学：理論と実践				
[授業の概要・目的]					
<p>考古学は【物質遺存の研究を通じて人類過去を探究する学問】と一般に定義される。物質遺存にパターンが存在することにより私たちは過去の人々の思考と行動、それらとのカップリングにより構築・再生産される<社会>に接近することができる。人間の思考と行動の物的媒介・帰結としての<物質文化>のパターンは、人間の相互交渉・コミュニケーション(の反復)により産み出される。本講義は、人間の相互交渉・コミュニケーションは<社会>現象の最小・基本単位であるとの立場から、人間の相互交渉・コミュニケーション、それを基盤として存立するさまざまな社会サブシステム、組織システム、そして全体社会システムの再生産とそれぞれの変容の具体的様態を、物質文化の研究からどのようにして解明できるかを考える。</p>					
[到達目標]					
<p>・考古資料の分析を通じて、人間の相互交渉・コミュニケーション(システム)、種々の社会サブシステム、組織システム、全体社会システムの再生産と変容の様態を復元するための理論と方法論を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の計画に沿って講義を進める。ただし、授業の進度や受講生の興味、理解度によって、適宜変更もあり得る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 考古学とは何か 2 社会考古学とは何か 3 コミュニケーションを最小基本単位とする社会考古学の再編(1) 4 コミュニケーションを最小基本単位とする社会考古学の再編(2) 5 きれいな土器とそうでない土器：考古資料からコミュニケーション・システムの存在と作動を分析する(1) 6 きれいな土器とそうでない土器：考古資料から個別コミュニケーション・システムの存在と作動を分析する(2) 7 歩くから見つめるへ：考古資料から個別コミュニケーション・システムの変化を分析する(1) 8 歩くから見つめるへ：考古資料から個別コミュニケーション・システムの変化を分析する(2) 9 モコモコした土器からツルツルで絵が描かれた土器へ：考古資料から複数コミュニケーション・システムのカップリング様態とその変化を分析する(1) 10 モコモコした土器からツルツルで絵が描かれた土器へ：考古資料から複数コミュニケーション・システムのカップリング様態とその変化を分析する(2) 11 世界が大きく複雑になる時：考古資料から全体社会システムの変化を分析する(1) 12 世界が大きく複雑になる時：考古資料から全体社会システムの変化を分析する(2) 13 土偶から神社へ：考古資料から社会システムの長期変動を分析する 					
考古学 (特殊講義) (2)へ続く					

考古学 (特殊講義) (2)

- 14 私の故郷の町・ショッピングモール・現代考古学たち：過去と現在と未来をつなげる
15 総括

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートによって評価する（100％）。レポートについては到達目標の達成度にもとづき評価する。

【教科書】

溝口孝司 『社会考古学講義：コミュニケーションを分析最小基本単位とする考古学の再編』（同成社、2022年）ISBN:978-4-88621-895-7 C3021

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

できれば教科書を通読して、疑問や批判的見解を持って講義に臨んでいただければ幸いです。

（その他（オフィスアワー等））

連絡メールアドレス：
mizog@scs.kyushu-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38			
授業科目名 <英訳>	考古学 (特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 千葉 豊		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	縄文土器研究法				
[授業の概要・目的]					
<p>今日の縄文文化研究は多様化しつつあるが、そのような研究状況においても土器研究は縄文時代を理解するための根幹を占め続けている。土器を用いて、時空断面における最小の単位 = 土器型式とし、編年研究を進展させることで、縄文時代研究の基礎を構築してきた。縄文土器がもつ多様な情報をいかに読み解くのか、そして得られた情報を縄文文化・社会の解明にどのようにリンクさせていくのかが今日の縄文土器研究の重要な課題である。本講義では、講師がおこなってきた研究例を中心に解説し、どのような方向へ研究を進めるべきかを批判的に検討する。</p>					
[到達目標]					
縄文土器の研究方法を理解・習得して、自身の研究を遂行する能力の向上させる。					
[授業計画と内容]					
<p>以下に示すテーマに関して、授業をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 縄文土器研究史 (第1回～第3回) 土器の製作 - 粘土・混和材 - (第4回) 土器の製作 - 成形・整形・加飾 (第5回) 年代と地域を読む - 後期初頭の研究例 (第6回・第7回) 年代と地域を読む - 後期前葉の研究例 (第8回・第9回) 年代と地域を読む - 後期中葉の研究例 (第10回・第11回) 分類から系統へ (第12回・第13回) 縄文土器研究の未来 (第14回) フィードバック (その方法は授業中に指示します) 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 (授業への積極性 40点)、期末レポート (60点)により評価する。					
[教科書]					
プリントを毎回配付し、それにもとづき授業を進める。					
----- 考古学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

考古学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

縄文土器・縄文時代に関する概説的な知識は身につけているものとして授業を進めるので、そうでない受講生は、縄文土器・縄文時代に関して概説書(例:今村啓爾『縄文文化』考古調査ハンドブック17など)などで予習しておくこと。授業において多数の文献(論文)を取り上げるので、そうした論文をできるだけ精読してもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学89

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38			
授業科目名 <英訳>	考古学 (特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 下垣 仁志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	前方後円墳の機能と展開				
[授業の概要・目的]					
<p>鍵穴形の墓にすぎないのに、社会的な人気を集める前方後円墳。その特異な形状は、巨大さとあいまって、国外でも知られるようになりつつある。しかし、前方後円墳が列島史の特定時点に登場し、津々浦々まで普及し、律令が導入される直前に姿を消した理由については、百家争鳴で実態が判然としているとはいいがたい。</p> <p>本講義では、講義者の近著をふまえて、前方後円墳の機能的役割に重点をおきつつ、上記した問題に暫定的な回答をあたえたい。</p>					
[到達目標]					
<p>前方後円墳という考古資料から多様なデータと歴史的意義を多面的に抽出する方法論を習得する。物言わぬ考古資料を歴史叙述につなげる手法を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1. イントロダクション【1週】 2. 前方後円墳とはなにか【1週】 3. 誕生から消滅まで【1週】 4. 多彩なアプローチ【2週】 5. 集権志向と分権志向【1週】 6. 巨大古墳と国家形成【1週】 7. 集団関係の表示 親族関係【2週】 8. 他界の演出 イデオロギー【1週】 9. 人とモノの集約 経済・軍事【2週】 10. 区画と連結 領域・交通【1週】 11. 権力装置としての前方後円墳【2週】 * 計15週実施する。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
学期末のレポートにより成績を評価する。					
[教科書]					
使用しない					
----- 考古学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

考古学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

下垣仁志 『前方後円墳』 (吉川弘文館,2025年) ISBN:4642306161

[授業外学修 (予習・復習) 等]

古墳に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

(その他 (オフィスアワー等))

事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学90

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38			
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 下垣 仁志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	前方後円墳造営の論理				
[授業の概要・目的]					
<p>ほかの考古資料と同様に、古墳研究も日進月歩である。本講義では、最新のデータをふまえて、前方後円墳が造営された政治的・社会的論理を探る。前方後円墳の政治的意義がしばしば強調されてきたが、詳細な編年に根ざした肌理の細かい議論はまだまだ十分に構築されていない。そこで、前方後円墳を頂点とする古墳の階層構成をつぶさに追跡し、前方後円墳を首座とする古墳がどのようにして創出され、列島広域に波及し、最後は不要化して姿を消していったのかを解き明かす。</p>					
[到達目標]					
<p>前方後円墳という考古資料を題材にし、編年・分布・分類という考古学の基礎作業をつうじて、その動態と歴史的背景を理解できるようになる。考古学の強みである定量分析の意義を理解できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1. イントロダクション【1週】 2. 古墳の階層構成【1週】 3. 階層構成の展開【6週】 4. 列島各地の階層構成【1週】 5. 巨大古墳の被葬者【2週】 6. 前方後円墳造営の論理【4週】 * 計15週実施する。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
学期末のレポートにより成績を評価する。					
[教科書]					
使用しない					
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----					

考古学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

下垣仁志 『前方後円墳』 (吉川弘文館,2025年) ISBN:4642306161

[授業外学修 (予習・復習) 等]

古墳(時代)に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

(その他 (オフィスアワー等))

事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学91

科目ナンバリング		U-LET23 26601 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(日本史学)(講義) Japanese History (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 谷川 穰	
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本近代史概論				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業では、日本史という学問の歴史(史学史)と、日本近代史の概論を講義する。前者では、明治以降の近代史学のあゆみと現在をたどり、京都大学における日本史学の特色などについても触れる。後者では、幕末から第二次世界大戦後までの歴史をテーマごとに通観する。特に明治時代を中心に、近代日本社会の形成と展開を政治・社会・思想などの面から論じ、受講生の生きた/生きる時代とのつながり、そしてジェンダーや生活の視点を常にたずさえ、それらの歴史的意義を明確にしたい。随時、担当者自身の研究成果も盛り込む予定である。なお、本講義は、日本史学の研究入門という役割ももっている。</p>					
[到達目標]					
日本史学および日本近代史に関する基本的な知識を身につけるとともに、新たな歴史認識を獲得するための方法を体得する。					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に下記のテーマで進めていく予定である。ただし、担当者自身の研究の進捗状況などに応じて、新たなテーマも盛り込むこともありえる。そのため、各テーマの内容・回数・順序については柔軟に考えたい。</p> <p>第1回 イントロダクション：本講義の視角と問題意識</p> <p>第2～7回目：近現代日本の史学史</p> <p>第2回 時期区分と「近代」：明治期における歴史学と「国史」</p> <p>第3回 大正・昭和期(戦前)における日本史研究</p> <p>第4回 戦争と歴史学：京都大学の場合</p> <p>第5回 「戦後歴史学」と日本史研究</p> <p>第6回 社会史・国民国家論のあとで</p> <p>第7回 小括</p> <p>第8～30回：日本近代史概論</p> <p>第8回 19世紀前半の世界と幕末日本</p> <p>第9回 幕末の政局</p> <p>第10回 幕末の社会</p> <p>第11回 明治維新とその「世界史的意義」</p> <p>第12回 明治初期の財政と外交</p> <p>第13回 明治初期の国家と身分構造</p> <p>第14回 「文明開化」とは何か</p> <p>第15回 自由民権運動の世界</p> <p>第16回 条約改正と 軍拡</p>					
-----系共通科目(日本史学)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目 (日本史学) (講義)(2)

- 第17回 帝国憲法・皇室典範・教育勅語
第18回 日清戦争がもたらしたもの
第19回 小括
- 第20回 資本主義経済の確立と展開：「通俗道徳」とともに
第21回 近代日本の農村と都市：人口・家族
第22回 「母性保護」論争と男性
第23回 「憲政の常道」の政治と思想
第24回 植民地帝国としての日本
第25回 「昭和維新」：軍部・官僚・財界と国民
第26回 アジア・太平洋戦争
第27回 戦後社会の様相： 高度経済成長と福祉・生活
第28回 戦争社会の様相： 政治と国際的立場
第29回 戦争社会の様相： 宗教と世俗
第30回 まとめ

[履修要件]

高等学校等で「日本史A」または「日本史B」を履修したこと、もしくはそれと同等の学力を有することが望ましいが、必須ではない。現代日本社会のありようを歴史の深みから問いなおすことに、あるいは過去の価値観や社会状況を当時の記録（史料）から読みとくことに、興味・関心・意欲を持つ人であることこそが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

小レポート（数回、計30点）、期末レポート（2回、計70点）により評価する。
ともに到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

谷川穰 『明治前期の教育・教化・仏教』（思文閣出版）
岩城・上島・河西・塩出・谷川・告井編 『論点・日本史学』（ミネルヴァ書房）
小熊英二編 『平成史』（河出書房新社）
その他必要に応じて指示する。

[授業外学修（予習・復習）等]

講義で参考文献等を示すので、それらや関連する書籍・論考を積極的に読むこと。普段の生活や思考において「そもそも、なぜ」と問うクセを養い、講義内容とのつながり／つながらなさに思いをめぐらすこと。

系共通科目 (日本史学) (講義)(3)へ続く

系共通科目 (日本史学) (講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学92

科目ナンバリング		U-LET24 26701 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(東洋史学)(講義) Oriental History (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德	
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	火2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東洋史と世界史				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、19世紀末に誕生した東洋史学の今日にいたるまでの歩みをたどるとともに、東洋史と世界史の教育・研究面でのかかわりを概観する。日清戦争後に中等教育の科目として西洋史とともに誕生した東洋史は、その後大学の史学科の区分にも取り入れられた。第二次大戦後に、高校教育は「世界史」と「日本史」に分かれたが、ほとんどの大学では東洋史と西洋史の区分がそのまま使われてきた。現在、この日本特殊な学問区分の意味がグローバル化の中で問い直される時期に来ているが、その際に「東洋史」と苦闘してきた先学の仕事を振り返り、今日の世界史叙述の試みもそれらを前提としていることに思いを致すべきである。</p>					
[到達目標]					
<p>1, 教育・研究の両面から東洋史・世界史の問題を考えることができる。 2, 日本の歴史学研究の特徴を知ることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 導入 東洋とは？ 第2回 岡本監輔『万国史記』(1879) 第3回 井上哲次郎「東洋史学の価値」(1891) 第4回 桑原隲蔵『中等東洋史』(1898) 第5回 白鳥庫吉の「塞外史」研究 第6回 津田左右吉『新撰東洋史』(1901) 第7回 高桑駒吉『中等西洋歴史詳解』(1907) 第8回 高桑駒吉『中等東洋歴史詳解』(1908) 第9回 高橋與惣『文部省検定受験用東洋通史』(1917) 第10回 大川周明『復興亜細亜の諸問題』(1922) 第11回 市村「玉偏+賛」次郎『東洋史統』(1939~1943) 第12回 宮崎市定『東洋に於ける素朴主義の民族と文明主義の社会』(1940) 第13回 松田壽男・小林元『乾燥アジア文化史論』(1941) 第14回 高坂正顕ら『世界史的立場と日本』(1943) 第15回 宮崎市定『菩薩蛮記』(1944) 第16回 同『アジア史概説』(1947) 第17回 世界史研究会編『新制世界史：学び方と問題』(1949) 第18回 上原専禄『世界史における現代のアジア』(1956) 第19回 梅棹忠夫『文明の生態史観』(1957) 第20回 飯塚浩二『東洋史と西洋史とのあいだ』(1963) 第21回 ウィリアム・マクニール著・増田義郎ら訳『世界史』(1971) 第22回 岩波講座世界歴史(1次)『現代歴史学の課題』(1971) 第23回 杉山正明『遊牧民から見た世界史：民族も国境もこえて』(1997)</p>					
系共通科目(東洋史学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目 (東洋史学) (講義)(2)

- 第24回 三木亘 『世界史の第二ラウンドは可能か：イスラム世界の視点から』 (1998)
第25回 岩波講座世界歴史(2次) 『世界史へのアプローチ』 (1998)
第26回 羽田正 『新しい世界史へ 地球市民のための構想』 (2011)
第27回 小川幸司 『世界史との対話 70時間の歴史書評』 (2011)
第28回 岩波講座世界歴史(3次) 『世界史とは何か』 (2021)
第29回 グローバル・ヒストリー
第30回 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートにより評価する。

【教科書】

講義資料は担当者が準備する。

【参考書等】

(参考書)

羽田 正 『グローバル化と世界史』 (東京大学出版会、2018) ISBN:978-4130251716

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に別途指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学93

科目ナンバリング		U-LET24 26750 LJ36			
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (講読) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德	
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	水4	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『資治通鑑』を読む				
【授業の概要・目的】					
<p>長らく為政者の必読書とされてきた『資治通鑑』を読むことによって、漢文読解の力を養うだけでなく、中国の知識人が歴史から何を読み取ろうとしたかを考える機会を提供する。</p> <p>なお、本授業は東洋史学専修進学者の必修単位であるので、東洋史に進もうと考えている者は2回生のうちに履修しておくのが望ましい。</p> <p>他の専修に進む予定の人も歓迎する。「最後の漢文学習の機会」と考えて参加してほしい。</p>					
【到達目標】					
<p>1、漢文史書の読解力の基礎ができる。</p> <p>2、漢文史書の叙述のスタイルを体得できる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>今年は隋朝の部分を読む。授業の進捗については受講生次第なので、明確に計画を示すことはできないが、次のように予定している。</p> <p>1回 『資治通鑑』がいかに読まれてきたかを紹介</p> <p>2～10回 隋朝の天下統一から廃太子まで (589～600)</p> <p>11～19回 文帝の晩年から煬帝の治世へ (601-610)</p> <p>20～29回 隋末の混乱(611～615)</p> <p>30回 フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
プリントしたものを配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
一回前の授業で次の授業分のテキストを配布する (B4用紙1枚分) ので、そのなかの担当分について予習し、あらかじめ訳稿を提出すること。					
(その他 (オフィスアワー等))					
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>					

科目ナンバリング	U-LET24 26750 LJ36				
授業科目名 <英訳>	東洋史学 (講読) Oriental History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德		
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	水2	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英書講読				
[授業の概要・目的]					
<p>グローバル・ヒストリーに関する著作もあるドイツの中国史家ドミニク・ザクセンマイヤーが、17世紀の中国人キリスト教徒の信仰に関する著作を素材にして、グローバルな思想潮流に向き合った中国知識人の精神世界を描いた本 (Global entanglements of a man who never traveled, Columbia University Press, 2022, 本文168頁) を読む。朱宗元は明末に生まれ、清初に拳人となっているが、徐光啓や李之藻のように進士には合格しておらず、当時のイエズス会宣教師にとって大きな存在だったとはいえない。しかし、宣教師の漢文著述を助け、自らもいくつかの作品を残している。ザクセンマイヤーは、こうしたローカルな知識人までもが世界の潮流にまきこまれていった状況を描き出そうとする。本書を読むことで、一知識人が体験した精神的葛藤の背景である近世世界のグローバルイゼーションについても考察する。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1, 英文読解力の錬成 2, 課題発見能力を養う 					
[授業計画と内容]					
<p>1 回につき、5 ~ 6 頁分を読む。参加者には英文和訳ではなく、文章を読んだうえでその中から自らテーマを設定してそれについて1000字程度の作文をしてもらう。事前に提出してもらった作文を講師のほうが集約して (受講者が複数いればの話だが) 授業で参加者と共有し、それにもとづいて討論を行う。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1, 導入 2 ~ 5, Introduction: Situating Zhu Zongyuan 6 ~ 9, A Local Life and Its Global Contexts 10 ~ 13, A Globalizing Organization and Chinese Christian Life 14 ~ 18, A Teaching Shaped by Constraints 19 ~ 23, Foreign Learnings and Confucian Ways 24 ~ 28, European Origins on Trial 29, Epilogue 30, フィードバック 					
----- 東洋史学 (講読)(2)へ続く -----					

東洋史学 (講読)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点。

[教科書]

授業で配布する

[参考書等]

(参考書)

特になし

[授業外学修(予習・復習)等]

担当範囲の英文を読み、テーマを設定して作文を提出する。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学95

科目ナンバリング		U-LET24 36761 PJ36			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(実習) Oriental History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科 教授	中砂 明德 箱田 恵子	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	水5	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東洋史学(実習)				
[授業の概要・目的]					
<p>教員2人によるリレー担当。東洋史学研究のうち、特に中国史の全時代にわたって、先行研究をどのようにして探るか、史料をどのようにあつかうか、コンピューターを研究にどのように用いるかなど実習させるとともに、自らテーマを選んで「小論文」を発表させる。</p>					
[到達目標]					
<p>東洋史の卒論を書くにあたって基本的なスキルを習得できるようにする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回～第30回： 主に3回生を対象とする。東洋史学専修の全教員が1年間にわたり、東洋史学を研究するにあたってのツール(工具)を教え、学生に実際に使わせる。先行研究の探し方を教えるとともに、優れた先行研究を選んで学生に読ませ、先人の達成したものを学びつつ、自らがおかれた研究状況を考えさせる。 11月頃までにツールの修得や先行研究の選読を終え、自らの問題関心に即した研究テーマを選ばせる。それまでに修得した知識と方法をもとにして、自ら先行研究を探し、あるいは原典の一部を読むことによって、自らの問題に解答を与えさせる。1月中頃にこれを「小論文」として授業で発表させる。 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点と「小論文」の発表を評価する。					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- 東洋史学(実習)(2)へ続く -----					

東洋史学 (実習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回提出される課題を準備しておくこと。一年間を通して卒論のテーマを絞り込めるようにつねひ
ごろから関心を持っておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学96

科目ナンバリング		U-LET25 26801 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (西南アジア史学) (講義) West Asian History (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 磯貝 健一		
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	月2	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イスラーム世界史研究入門 An Introduction to the Study of History of the Islamicate World				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、初学者向けにイスラーム世界史の研究に必要な基礎的な知識を説明する。勿論、アフリカ大陸から東南アジアに及ぶ広大なイスラーム世界の歴史すべてを、一人の教員でカバーすることなど出来ない。従って、授業の内容は、イスラーム世界史の理解、研究に最低限必要な事項 (たとえばイスラーム教の基本的な教義など) の説明に重点が置かれる。</p> <p>This course aims to explain students of such basic knowledge and skills required to engage in the research activity into history of the Islamicate world as essential teachings of Muslim religion, crucial events in its history, and so on.</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム世界を理解するために最低限必要な専門的知識を獲得し、これにもとづきイスラーム世界の現状について自分自身の見解を持つことが出来る。 ・イスラーム世界史の研究に必要な基礎的知識を獲得し、自ら研究を開始することが出来る。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) acquire necessary knowledge for understanding current picture of the contemporary Muslim world. (2) obtain essential knowledge required for the research activity into history of the Muslim world. 					
[授業計画と内容]					
<p>授業で扱うトピック、および、各トピックに配当される目安となる授業時間は下記の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入：現代イスラーム世界の概観 (2回) イスラーム世界の範囲、人口、ヨーロッパのムスリムなど ・イスラーム教の基礎知識 (2回) コーランとハディース、および、その日本語訳書の紹介など ・イスラーム世界史の概観 (12回) イスラーム教の成立、イスラーム世界の拡大過程、シーア派とスンナ派の形成、19世紀までのイスラーム世界など ・イスラーム法 (3回) イスラーム法と法学派の形成、近代におけるイスラーム法の法典化など ・イスラーム世界史研究入門 (3回) 各種工具書の紹介、研究対象となる時代・地域別に必要な言語、辞書、歴史資料の種類など ・ワクフ (2回) ワクフ制度の説明、ワクフ文書の実例紹介など ・知識の伝達 (2回) 口承の重要性、マドラサとそのカリキュラムなど ・スーフイズム (2回) 「スーフイズム (イスラーム神秘主義)」の概要、歴史研究におけるスーフイズムなど 					
系共通科目 (西南アジア史学) (講義)(2)へ続く					

系共通科目 (西南アジア史学) (講義)(2)

・イスラーム法廷 (2回)

「法廷文書」とその類型、法廷の役割、裁判のながれ、「法廷文書」の歴史資料としての可能性など

・ Contour of the contemporary Islamic world (2 weeks)

・ Basic teachings of the Muslim religion (2 weeks): al-Quran and Hadith (the traditions about the words and deeds of Prophet Muhammad)

・ Brief explanation of history of the Muslim world (12 weeks)

・ Islamic law (3 weeks)

・ How to embark on the research into history of the Islamicate world? - dictionaries, tools, and typology of historical sources (3 weeks)

・ Waqf (pious donation) (2 weeks)

・ The way of transmitting knowledge in the pre-modern Islamicate world - the curriculum of madrasa (2 weeks)

・ Sufism in history (2 weeks)

・ Sharia court documents (2 weeks)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験 (筆記) により評価する。

Final exam

【教科書】

使用しない

担当教員が作成するレジюмеを教科書とする。尚、レジюмеは紙媒体では配布せず、PDFファイルを配布する。ファイルの受信方法については、初回授業時に説明する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修 (予習・復習) 等】

初回授業を除き、必ず前回の授業内容を復習したうえで授業に臨むこと。また、前回の授業で参考書、関連URL等が提示された場合は、予めこれに目を通したうえで次回の授業に臨むこと。

Students should review class notes before attending each lesson.

系共通科目 (西南アジア史学) (講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学97

科目ナンバリング		U-LET25 36840 SJ36			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学 (演習 I) West Asian History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 岩本 佳子	
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	水4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西南アジア史に関する英文文献講読 Reading English text about Western and Southern Asian history				
[授業の概要・目的]					
<p>西南アジア史、イスラーム史の初学者である学部生を対象として、比較的近年に刊行された英語のイスラーム史概説（詳細は「授業計画と内容」を参照）を講読する。イスラーム史に関する基礎的知識を獲得するだけでなく、英語の研究文献においてアラビア語・ペルシア語・トルコ語の歴史用語がどのような語に置き換えられているのかを知ること、本授業の大きな目的の一つである。</p> <p>In this course students read English text on Islamic world history. Through reading the text students will gain an adequate knowledge not only about early stages of the development of Muslim history, but also the rules for translating Arabic, Persian and Turkish technical terms into English.</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム史に関する海外の研究動向について知り、これを他者に対して説明することができる。 ・イスラーム史に関する英語の研究文献に頻出する専門用語の意味を知り、これに対応するアラビア語その他の現地語における原語を指摘することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) be informed of contemporary research trend in the field of history of the Islamic world.</p> <p>(2) understand the meaning of technical terms which frequently appear in research literature on the field.</p>					
[授業計画と内容]					
<ul style="list-style-type: none"> ・講読対象とする文献は、講義の際に事前に適宜指定する。 ・各回の授業では、受講者全員がテキストの翻訳を実施する。 <p>Each student will be required to translate the English text into Japanese.</p> <p>Week 1: (講読文献、および、講読箇所の説明と各回の担当者決定) 受講生と相談のうえ講読テキストを決定する Deciding the text we will read in this course by consulting with students.</p> <p>Weeks 2-29: 講読 Reading of the assigned text</p> <p>Week 30: (これまで講読した内容についての議論) Having discussion on the key issues presented by the authors.</p>					
----- 西南アジア史学 (演習 I)(2)へ続く -----					

西南アジア史学 (演習 I)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

参加者の受講姿勢と講読担当の内容によって評価する。

Participation in class and preparation for reading

【教科書】

Edited by Hamit Bozarslan, Cengiz Gunes, Veli Yadirgi 『The Cambridge History of the Kurds』 (Cambridge University Press, 2021) ISBN:9781108623711

講読史料やその他必要な資料は適宜PDF化したうえで、Web上で共有する。

講師が受講生全員分の講読史料を用意するので、教科書を事前に受講生が用意する必要はない。

Reading Texts and Handouts will be shared through the Internet Cloud System. Course instructor prepares the reading materials or textbook in the first week; thus, students do not need to prepare the textbook in advance.

【参考書等】

(参考書)

必要な資料は適宜PDF化したうえで、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive

【授業外学修(予習・復習)等】

授業では受講生全員が翻訳に参加する。必ず予習をしておくこと。

All Students are required to make an adequate preparation for reading the text so that they can participate in translation work.

【その他(オフィスアワー等)】

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学98

科目ナンバリング		U-LET25 36861 PJ36			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学 (実習) West Asian History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 岩本 佳子	
配当学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月4	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西南アジア史学実習 Practice education for Western and Southern Asian history				
[授業の概要・目的]					
<p>学部学生を対象に、イスラーム圏の歴史研究に着手するにあたり、差し当たって必要な基本的知識を説明することを目的とする。また、本授業で得た知識をもとに、受講生が自身の卒業論文の対象となるおおよその時代、地域を決定することも、本授業の目的の一つである。</p> <p>The main purpose of this course is to explain students the essential skills necessary to undertake research activity into history of the Islamicate world.</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム圏諸地域の歴史研究に必要な、言語、辞書、事典、工具書、および、主にインターネットを利用した各種文献の検索方法を知り、卒業論文完成に向け、自身の研究に着手することができる。 ・自身の研究テーマの大枠を決定することができる。 ・実際に、自身の研究テーマに関連した専門論文を検索し、その内容についてレジュメ付きで発表することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) acquire knowledge about the basic tools required to undertake research activity as dictionaries, encyclopedias, websites, and so on.</p> <p>(2) be able to decide their own topics of research.</p> <p>(3) be able to make a presentation about the contents of a professional paper relating to his/her topic of research.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 後期授業の進め方について 第2回 期末の研究発表に向けての個人指導 第3-5回 日本語論文の内容紹介発表 第6回 期末の研究発表に向けての個人指導 第7-9回 英語論文の内容紹介発表 第10回 期末の研究発表に向けての個人指導 第11-13回 英語論文の内容紹介発表 第14-15回 研究発表</p> <p>Week 1: Explaining the tasks which will be assigned to students in the 2nd semester Week 2: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the semester Weeks 3-5: Making a presentation about a research essay written in Japanese Weeks 6: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the semester Weeks 7-9: Making a presentation about a research essay written in English</p>					
西南アジア史学 (実習)(2)へ続く					

西南アジア史学 (実習)(2)

Weeks 10: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the semester

Weeks 11-13: Making a presentation about a research essay written in English

Weeks 14-15: Making a research talk

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（50点）と各人が担当する一人あたり3回の発表の内容（50点）による。平常点は取り組む姿勢（授業時の質疑応答への積極的な参加等）による。

Participation (50%)

Presentations (50%)

【教科書】

使用しない

必要資料を電子ファイル化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

必ず前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、各回の発表を行うにあたっては、準備のために十分な時間をとること。

Students are required to make adequate preparations for each presentation.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学99

科目ナンバリング	U-LET25 36861 PJ36				
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学 (実習) West Asian History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 磯貝 健一		
配当学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月4	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西南アジア史学実習				
[授業の概要・目的]					
学部学生を対象に、イスラーム圏の歴史研究に着手するにあたり、差し当たって必要な基本的知識を説明することを目的とする。また、本授業で得た知識をもとに、受講生が自身の卒業論文の対象となるおおよその時代、地域を決定することも、本授業の目的の一つである。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム圏諸地域の歴史研究に必要な、言語、辞書、事典、工具書、および、主にインターネットを利用した各種文献の検索方法を知り、卒業論文完成に向け、自身の研究に着手することができる。 ・自身の研究テーマの大枠を決定することができる。 ・実際に、自身の研究テーマに関連した専門論文を検索し、その内容についてレジュメ付きで発表することができる。 					
[授業計画と内容]					
第1回 各時代、地域を研究するにあたり習得が必要な言語、および、辞書についての説明 第2回 日本語および英語による事典、工具書類の説明 第3回 インターネットを利用した各種文献の検索方法とその実践 第4回～第6回 専門論文の読み方、自身の研究への利用方法、レジュメ化の方法について 第7回～第9回 受講生各人が選択した時代、地域について、主に概説書等に基づきレジュメ付きの発表を実施 第10回～第12回 受講生各人が選択した時代、地域について、各々が日本語の専門論文を一つ選択し、その内容につきレジュメ付きの発表を実施 第13回～第15回 受講生各人が選択した時代、地域について、各々が英語（または、それ以外の外国語）の専門論文を一つ選択し、その内容につきレジュメ付きの発表を実施					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点（50点）と各人が担当する一人あたり3回の発表の内容（50点）による。平常点は取り組む姿勢（授業時の質疑応答への積極的な参加等）による。					
----- 西南アジア史学 (実習)(2)へ続く -----					

西南アジア史学 (実習)(2)

[教科書]

授業の際に必要な資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

必ず前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、各回の発表を行うにあたっては、準備のために十分な時間をとること。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学100

科目ナンバリング		U-LET26 26901 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (西洋史学) (講義) European History (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 藤井 崇	
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	火5	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋史学講義				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業は、第一に、西洋史学が主たる対象とするヨーロッパにおいて歴史と歴史学がどのようなものである(べき)と認識されてきたのかを考察し、第二に、ヨーロッパを対象とした20世紀以降の歴史学の論点と方法論を確認することを目的とする。われわれが漠然と考える歴史や歴史学(「過去の出来事」? 「過去の出来事についての学問」?)は、その対象や内容について人類の諸文明において議論が重ねられてきたが、ヨーロッパでの歴史・歴史学の概念形成は、現代歴史学に決定的な影響を与えているという意味で、良くも悪くも特権的な立場を占めている。本授業の第一部では、この概念形成の軌跡を、古代から19世紀までたどる。本授業の第二部では、こうして形成された近代以降の歴史学が、関連諸学問からの影響によってその方法論を多様化させ、さまざまな新しい論点を発掘していく過程を、おもに日本語で読める名著を分析する形で紹介する。</p>					
[到達目標]					
<p>この授業の履修を通じて参加者は、ヨーロッパにおける歴史・歴史学についての概念形成の概要について理解し、ヨーロッパを対象とする現代歴史学の課題と方法論について、その大枠を把握することができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>おおむね以下のテーマにそって授業を進める。ただし、内容と順番について、若干の変更をおこなう場合がある。</p> <p>イントロダクション(1回) 西洋古代における歴史・歴史学(5回) 西洋中世における歴史・歴史学(2回) 西洋近世における歴史・歴史学(2回) 西洋近代における歴史・歴史学(3回) 授業中試験・フィードバック(2回) (以上、前期)</p> <p>イントロダクション(1回) モデル/データ/マイクロヒストリー(2回) 階級と身分/交換(2回) 支配と文化(2回) 中心と周縁/アイデンティティ(2回) セクシュアリティとジェンダー(2回) 記憶/感情(2回) 授業中試験・フィードバック(2回) (以上、後期)</p>					
----- 系共通科目 (西洋史学) (講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (西洋史学) (講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

前期と後期にそれぞれ授業中試験をおこなう（各50パーセント）。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

服部良久・南川高志・小山哲・金澤周作編 『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』（京都大学学術出版会、2010年）ISBN:978-4-87698-948-5（京都大学における西洋史学研究・教育への導入解説をおこなっており、本講義全体を通じて参考となるであろう。）

金澤周作監修 『論点・西洋史学』（ミネルヴァ書房、2020年）ISBN:978-4-62308-779-2

ピーター・バーク 『歴史学と社会理論』（慶應義塾大学出版会、2009年）ISBN:978-4-7664-1634-3

[授業外学修（予習・復習）等]

授業の復習をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学101

科目ナンバリング	U-LET26 26956 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 藤井 崇		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火1	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古代ギリシアの感情研究				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業は、おもに歴史学の分野で必要とされる、学術的なドイツ語の読解能力を養成することを目的とする。利用するテキストは、Angelos Chaniotisによる古代ギリシア人の感情に関する諸著作のなかでも、特にEmotionen und Fiktionen (2023)とする。感情が歴史学の対象となつてすでに久しいが、本授業ではChaniotisの著作の講読を通じて、ギリシア人の感情のあり方を理解することを目標とする。</p>					
[到達目標]					
<p>本授業を通じて、受講生は学術的なドイツ語に親しみ、必要とされる文法と語彙の基礎知識を獲得することができる。さらに受講生は、歴史学全般で重要なテーマとなっている感情について、その意義と具体例を学ぶことができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクシヨN 第2回-第13回 テクスト講読 第14回 授業中試験 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
ドイツ語の基礎文法を既習していること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(50パーセント)と授業中試験(50パーセント)で総合的に勘案する。					
[教科書]					
授業中に指示する					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
[授業外学修(予習・復習)等]					
テキストの指定範囲を事前に予習すること。また、同時にドイツ語文法・語彙の習熟に努めること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学102

科目ナンバリング		U-LET26 26956 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (講読) European History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 藤井 崇	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火1	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古代ギリシアの感情研究				
【授業の概要・目的】					
<p>本授業は、おもに歴史学の分野で必要とされる、学術的なドイツ語の読解能力を養成することを目的とする。利用するテキストは、Angelos Chaniotisによる古代ギリシア人の感情に関する諸著作のなかでも、特にEmotionen und Fiktionen (2023)とする。感情が歴史学の対象となつてすでに久しいが、本授業ではChaniotisの著作の講読を通じて、ギリシア人の感情のあり方を理解することを目標とする。</p>					
【到達目標】					
<p>本授業を通じて、受講生は学術的なドイツ語に親しみ、必要とされる文法と語彙の基礎知識を獲得することができる。さらに受講生は、歴史学全般で重要なテーマとなっている感情について、その意義と具体例を学ぶことができる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 イントロダクション 第2回-第13回 テキスト講読 第14回 授業中試験 第15回 フィードバック</p>					
【履修要件】					
ドイツ語の基礎文法を既習していること。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(50パーセント)と授業中試験(50パーセント)で総合的に勘案する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
テキストの指定範囲を事前に予習すること。また、同時にドイツ語文法・語彙の習熟に努めること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学103

科目ナンバリング	U-LET26 26957 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 菅原 百合絵		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	仏書講読				
[授業の概要・目的]					
<p>「ギャラントリ」概念考察</p> <p>フランス映画やロココ絵画などの印象もあってか、フランスはしばしば「派手な恋愛」「色恋沙汰の駆け引き」の国であると考えられてきた。そしてこのイメージは、フランス人たちがしばしば自分自身に与えてきたものでもある。そうしたイメージをもっともよく表現する語はフランス語に特有の「ギャラントリ」であろう。</p> <p>本講義では、このギャラントリという概念・形容について、歴史家アラン・ヴィアラ(1947-2021)の『ギャラントリ(La galanterie. Une mythologie française)』を読みながら考察していきたい。「ギャラント(伊達な、きざな)」や「ギャラントリ」といった価値判断も含む論争的な語は、時には批判や愚弄の対象となりつつ、文学や絵画、音楽などのさまざまな分野においてつねに参照され続けてきた。</p> <p>歴史学において概念や呼称・形容詞を分析するとはどういうことなのか、文学作品や絵画を読み解くヴィアラの方法に目配りもしつつ、テキストを丁寧に読んでいきたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語でテキストを読む力を身につける ・概念や形容を歴史学的に扱うやり方に馴染む 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション(1) : 授業の概要、テキストの説明、今後の進め方 第2回 イン트로ダクション(2) : ギャラントリについての簡単な解説、絵画などの紹介 第3回-第15回 『ギャラントリ』の精読</p> <p>* 第3回以降の精読パートからは、事前に訳読担当者を決めておき、講義の前にテキスト約1頁分ほどの訳稿を提出してもらうという方式になります。講義では受講者の皆さんと全員でその訳稿を検討しながら、随時解説などを加えていきます。</p>					
[履修要件]					
フランス語文法をひと通り習得していること。中級程度のフランス語読解力があることが望ましい。					
----- 西洋史学 (講読)(2)へ続く -----					

西洋史学 (講読)(2)

【成績評価の方法・観点】

講義での発表（40％）および期末レポート（60％）によって評価する

【教科書】

授業中に指示する

本講義では

Alain Viala, Galanterie française. Une mythologie française, Paris, Seuil, 2019.

を使用する。必要箇所をコピーして配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

「授業計画と内容」で記したように、第3回以降の精読パートからは、事前に訳読担当者を決めておき、担当者に講義の前に訳稿を提出してもらいます。単位が必要な方は、最低1回はこの訳読にあたってもらうことが必要です。

提出の仕方等については、初回講義にて説明します。

（その他（オフィスアワー等））

不明な点や要望などがあれば、メール等でご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学104

科目ナンバリング	U-LET26 26957 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 菅原 百合絵		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	仏書講読				
[授業の概要・目的]					
アリエスの名著『 子供 の誕生』を読む					
<p>本講義では、アナル学派の泰斗フィリップ・アリエス(Philippe Aries, 1914-1984)による『 子供の誕生(L ' enfant et la vie familiale sous l ' Ancien Regime)』を読む。日本ではしばしば「 子どもの誕生」の問題系はルソーと結びつけられてきたが、必ずしもルソーが「子どもの発見者」だとは言いきれない。アリエスは子どもが大人の世界から分けられておらず、家族というまとまりがほかの社会的紐帯によって薄められていた時代から、少しずつ家族が教育の中心になっていき、子どもが子どもとして扱われるようになってゆくその変化を丹念に描いている。政治や歴史的な事件に重点をおいてきたそれまでの歴史学に大きな変革をもたらし、研究対象や分析する史料の幅を拡げたアナル学派について簡単に概観した後、アナル学派的なアプローチが具体的にどのように実践されていったのかの例として『 子供 の誕生』を精読していきたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ フランス語でテキストを読む力を身につける ・ アナル学派についての基礎的な知識を習得する 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション：授業の概要、本講義で扱う文献の配布等、今後の進め方についての説明</p> <p>第2回 アナル学派についてのミニレクチャー</p> <p>第3回-第14回 『 子供 の誕生』の精読</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
フランス語文法をひと通り習得していること。中級程度のフランス語読解力があることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
講義での発表 (訳読の提出) によって評価する					
[教科書]					
<p>授業中に指示する</p> <p>授業でテキストを配布する。</p> <p>なお、本講義では</p> <p>Philippe Aries, L ' enfant et la vie familiale sous l ' Ancien Regime, Paris, Editions du Seuil, "Ecrivains de</p> <p style="text-align: right;">西洋史学 (講読)(2)へ続く</p>					

西洋史学 (講読)(2)

toujours" 1975
を底本とする。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

「授業計画と内容」で記したように、第2回以降の精読パートからは、事前に訳読担当者を決めておき、担当者に講義の前に訳稿を提出してもらいます。単位取得には、最低1回はこの訳読にあたってもらうことが必須要件です。
提出の仕方等については、初回講義にて説明します。

(その他 (オフィスアワー等))

不明な点や要望などがあれば、メール等でご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学105

科目ナンバリング	U-LET26 26958 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	露書講読 1				
【授業の概要・目的】					
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。					
【到達目標】					
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。					
【授業計画と内容】					
以下の文書をテキストとする。					
<p style="text-align: right;">. (1863)</p> <p>ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点 (予習の精度) によって評価する。					
【教科書】					
使用しない プリントを配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーは、火曜 4 限とする。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学106

科目ナンバリング	U-LET26 26958 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋史学 (講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3	授業形態	講読 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	露書講読 1				
【授業の概要・目的】					
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。					
【到達目標】					
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。					
【授業計画と内容】					
前期に引き続き、以下の文書をテキストとする。					
<p style="text-align: right;">. (1863)</p>					
初回授業で前期の要約を配布し、後期のみの受講者にも不便のないよう配慮する。また、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。					
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点 (予習の精度) によって評価する。					
【教科書】					
使用しない プリントを配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーは、火曜 4 限とする。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学107

科目ナンバリング	U-LET49 28007 LJ36				
授業科目名 <英訳>	博物館学III (講義) Museum Science III	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 竹下 繭子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金1	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	博物館学 (博物館資料論)				
【授業の概要・目的】					
博物館の活動基盤である博物館資料について、基礎的な知識を身につけることを目的とする。博物館資料の収集、保管、調査研究、展示等、博物館業務の実態をもとに具体的に講義する。展覧会の見学や実践をあわせて博物館業務への認識を向上する。					
【到達目標】					
学芸員に必要な博物館資料の基礎的知識を習得し、実際の博物館活動において活用できる能力を養うことを目的とする。					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1 博物館の意義 2 博物館資料の定義 3 博物館資料の収集 4 博物館資料の保管 5 博物館資料の調査研究 6 博物館資料の公開 7 展覧会のつくりかたI 8 展覧会のつくりかたII 9 博物館資料の保護 保存と活用の課題 10 資料の複製とデジタル活用 11 博物館資料の展示方法 12 京都大学総合博物館の展示見学 13 活用の実践 資料の魅力を伝える題箋をつくろう 14 博物館資料と学芸員 15 総括 					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>受講態度およびレポートの成績で評価する。 受講態度30%、レポート内容70%の割合で評価する。</p>					
----- 博物館学III (講義)(2)へ続く -----					

博物館学Ⅲ (講義)(2)

[教科書]

必要に応じてプリント等を配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受講生は日ごろから積極的に博物館に足を運び、問題意識を持ちながら見学してほしい。

(その他(オフィスアワー等))

日時は定めていないが、京都国立博物館での展覧会見学を行うのでそのつもりでいてほしい。

【履修上の注意点】

資格取得のための科目であり、卒業に単位として認められないので注意して履修すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学108

科目ナンバリング		U-LET43 10042 SJ36			
授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系(ゼミナールI) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德 非常勤講師 櫻井 智 非常勤講師 新林 力哉 非常勤講師 今村 凌 非常勤講師 田口 佳奈 非常勤講師 勅使河原 拓也 非常勤講師 殷 捷 非常勤講師 安永 寛 非常勤講師 山下 耕平 非常勤講師 平良 聡弘 非常勤講師 堀 雄高 非常勤講師 鷺澤 遼祐	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木1	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	歴史学研究の最前線(1)				
【授業の概要・目的】					
歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、自らの研究の体験をふまえながら、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。					
【到達目標】					
新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。					
【授業計画と内容】					
ゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。講義担当者と講義題目(予定)は以下のとおり。日程については初回の授業で発表する。					
第1回 中砂明德「導入」					
第2回 式田 洸「土器研究から紐解く古墳時代の開始」					
第3回 櫻井 智「8・9世紀の雅楽寮と楽人」					
第4回 新林力哉「日本古代史における神祇祭祀研究」					
第5回 今村 凌「律令制下における徴税と監査のシステム」					
第6回 田口佳奈「平安時代の穢れと怪異」					
第7回 勅使河原拓也「院政期の政治史」					
第8回 安永 寛「日本近世の政治組織」					
第9回 殷 捷「中世朝廷の官司制度と文書」					
第10回 殷 捷「建武政権の官司制度」					
第11回 平良聡弘「アメリカ対日使節派遣運動と日本開国 ペリー来航の再検討」					
第12回 山下耕平「近世日本社会における学者」					
第13回 堀 雄高「近代日本の農村社会と教育」					
第14回 鷺沢遼祐「1930年代における「日本精神」の流行 当該期における日本主義に関する研究動向を踏まえて」					
第15回 フィードバック					
歴史基礎文化学系(ゼミナールI)(2)へ続く					

歴史基礎文化学系 (ゼミナールⅠ)(2)

* コーディネーター：中砂 明德

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の感想を中心とする毎回の小レポート(40%)と、学期末のレポート(60%)にもとづいて総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、講師・テーマがかわるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理すること。

(その他(オフィスアワー等))

・受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。
・歴史基礎文化学系の「ゼミナール」は《「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅡ」》、《「ゼミナールⅢ」と「ゼミナールⅣ」》がそれぞれセットとなり、すべての専修をカバーする内容となっている。4つのゼミナールはいずれも半期完結型授業なので、いずれか1つのみの履修もできるが、前・後期を通じて歴史基礎文化学系の「ゼミナール」を履修する場合、ⅠとⅡ、または、ⅢとⅣの組み合わせで履修して欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学109

科目ナンバリング		U-LET43 10042 SJ36			
授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系 (ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德 非常勤講師 辻田 明子 非常勤講師 小山田 真帆 非常勤講師 斎藤 賢 非常勤講師 松島 隆真 非常勤講師 王 蘇 非常勤講師 角田 哲朗 非常勤講師 藤田 風花 非常勤講師 葉 勝 非常勤講師 徐 口	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木1	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	歴史学研究の最前線(2)				
【授業の概要・目的】					
歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。					
【到達目標】					
新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。					
【授業計画と内容】					
ゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。講義担当者と講義題目は以下のとおり。日程については初回の授業で発表する。					
第1回 中砂 明德「導入」					
第2回 辻田 明子「古代メソポタミアの農業」					
第3回 小山田真帆「アテナイ民主政の中の男性同性愛」					
第4回 斎藤 賢「『史記』戦国史と秦系資料」					
第5回 斎藤 賢「『史記』戦国史の編纂 - 戦国列伝を手掛りとして」					
第6回 松島 隆真「前漢前期の「戦後」社会」					
第7回 王 蘇「簡牘概説」					
第8回 角田 哲朗「中世イランにおける神聖王権とオカルト諸学の動員 - 占星術・数秘術・夢占い」					
第9回 角田 哲朗「中世イランの宗教政治的権威の再構築 - 自称メシアたちの時代」					
第10回 藤田 風花「近世東地中海世界におけるカトリックの宣教活動」					
第11回 葉 勝「ホトンノールの戦いで捕虜となった清朝兵の研究」					
第12回 葉 勝「康熙朝中期における盛京八旗軍の食糧保障について」					
第13回 徐 口「近代満洲における新聞読者の誕生」					
第14回 中砂 明德「グローバル・ヒストリー」					
第15回 フィードバック					
* コーディネーター：中砂 明德					
----- 歴史基礎文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----					

歴史基礎文化学系 (ゼミナールII)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の感想を中心とする毎回の小レポート（40％）と、学期末のレポート（60％）にもとづいて総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、講師・テーマが変わるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

・受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。

・歴史基礎文化学系の「ゼミナール」は《「ゼミナールI」と「ゼミナールII」》、《「ゼミナールIII」と「ゼミナールIV」》がそれぞれセットとなり、すべての専修をカバーする内容となっている。4つのゼミナールはいずれも半期完結型授業なので、いずれか1つのみの履修もできるが、前・後期を通じて歴史基礎文化学系の「ゼミナール」を履修する場合、IとII、または、IIIとIVの組み合わせで履修して欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学110

科目ナンバリング		U-LET43 10042 SJ36			
授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系 (ゼミナールIII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德 非常勤講師 辻田 明子 非常勤講師 小山田 真帆 非常勤講師 斎藤 賢 非常勤講師 松島 隆真 非常勤講師 王 蘇 非常勤講師 角田 哲朗 非常勤講師 藤田 風花 非常勤講師 葉 勝 非常勤講師 徐 口	
	配当学年	1回生以上		単位数	2
曜時限	木1	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	歴史学研究の最前線(3)				
【授業の概要・目的】					
歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、自らの研究の体験をふまえながら、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。					
【到達目標】					
新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。					
【授業計画と内容】					
ゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。講義担当者と講義題目(予定)は以下のとおり。日程については初回の授業で発表する。					
第1回 中砂 明德「導入」					
第2回 辻田 明子「古代メソポタミアの農業に関わる神々」					
第3回 小山田真帆「古典期アテナイのシティズンシップとセクシュアリティ」					
第4回 斎藤 賢「『史記』と戦国史 その重要性と課題」					
第5回 斎藤 賢「『史記』の描く戦国史像 - 蘇秦列伝を中心に」					
第6回 松島 隆真「秦末楚漢の国際関係」					
第7回 王 蘇「中国史の時代区分について」					
第8回 角田 哲朗「中世イランの王権とモンゴルインパクト イルハン朝・ティムール朝・サファヴィー朝」					
第9回 角田 哲朗「中世イランにおける宗教政治的権威 神秘主義・預言者裔崇拜・メシア主義」					
第10回 藤田 風花「東地中海世界と宗教改革」					
第11回 葉 勝「中国における駐防八旗と駐防地社会の関係研究史」					
第12回 葉 勝「清朝前期における江寧の旗・民関係」					
第13回 徐 ろ「満洲に越境する新聞と新聞人」					
第14回 中砂 明德「歴史研究者とは？」					
第15回 フィードバック					
*コーディネーター：中砂 明德					
----- 歴史基礎文化学系(ゼミナールIII)(2)へ続く -----					

歴史基礎文化学系 (ゼミナールIII) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の感想を中心とする毎回の小レポート(40%)と、学期末のレポート(60%)にもとづいて総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、講師・テーマが変わるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理すること。

(その他(オフィスアワー等))

・受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。
・歴史基礎文化学系の「ゼミナール」は《「ゼミナールI」と「ゼミナールII」》、《「ゼミナールIII」と「ゼミナールIV」》がそれぞれセットとなり、すべての専修をカバーする内容となっている。4つのゼミナールはいずれも半期完結型授業なので、いずれか1つのみの履修もできるが、前・後期を通じて歴史基礎文化学系の「ゼミナール」を履修する場合、IとII、または、IIIとIVの組み合わせで履修して欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学111

科目ナンバリング		U-LET43 10042 SJ36			
授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系 (ゼミナールIV) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德 非常勤講師 櫻井 智 非常勤講師 新林 力哉 非常勤講師 田口 佳奈 非常勤講師 勅使河原 拓也 非常勤講師 殷 捷 非常勤講師 安永 寛 非常勤講師 山下 耕平 非常勤講師 平良 聡弘 非常勤講師 堀 雄高 非常勤講師 鷺澤 遼祐	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木1	授業形態	ゼミナール (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	歴史学研究の最前線 (4)				
【授業の概要・目的】					
歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、自らの研究の体験をふまえながら、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。					
【到達目標】					
新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。					
【授業計画と内容】					
ゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。講義担当者と講義題目 (予定) は以下のとおり。日程については初回の授業で発表する。					
第1回 中砂明德「導入」 第2回 式田 洸「弥生土器から土師器へ」 第3回 櫻井 智「朝廷儀礼の変容と朝堂院 「見物」の成立過程」 第4回 新林力哉「8・9世紀の地方神祭祀」 第5回 田口佳奈「平安時代の思想文化」 第6回 勅使河原拓也「治承・寿永の内乱」 第7回 勅使河原拓也「鎌倉幕府の支配体制」 第8回 殷 捷「中世天皇家の後院」 第9回 安永 寛「日本近世の身分と集団」 第10回 山下耕平「近世日本の山村」 第11回 山下耕平「近世日本の政治と儒者」 第12回 平良聡弘「幕末維新时期灯台建設をめぐる内外動向 近代的インフラ整備の国際環境」 第13回 堀 雄高「近現代日本の学校教育と教師」 第14回 鷺沢遼祐「在日朝鮮人による 日本主義的標語 解釈 アジア主義研究と日本主義研究の 接続について」 第15回 フィードバック					
----- 歴史基礎文化学系 (ゼミナールIV) (2)へ続く -----					

歴史基礎文化学系 (ゼミナールⅣ) (2)

* コーディネーター：中砂 明德

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の感想を中心とする毎回の小レポート(40%)と、学期末のレポート(60%)にもとづいて総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、講師・テーマが変わるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理すること。

(その他(オフィスアワー等))

・受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。

・歴史基礎文化学系の「ゼミナール」は《「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅡ」》、《「ゼミナールⅢ」と「ゼミナールⅣ」》がそれぞれセットとなり、すべての専修をカバーする内容となっている。4つのゼミナールはいずれも半期完結型授業なので、いずれか1つのみの履修もできるが、前・後期を通じて歴史基礎文化学系の「ゼミナール」を履修する場合、ⅠとⅡ、または、ⅢとⅣの組み合わせで履修して欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学

(2025.3.14)更新

講義コード	専修コード	担当専修別	講義名	講義形態	授業時間数	単位	開講期	曜日1	時限1	曜日2	時限2	担当教員名	使用言語	(院)聴講生	シラバス連番	備考
M341001	26	心理学	心理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	2			森口 佑介	日本語	○	行動文化学1	大学院科目
M341002	26	心理学	心理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	3			蘆田 宏	日本語	○	行動文化学2	大学院科目
M341003	26	心理学	心理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	4			齋木 潤	日本語	○	行動文化学3	大学院科目
M341004	26	心理学	心理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	2			藤田 孝博・西田 真由・中島 浩一・後藤 幸雄・三村 清文・塩原 尚	日本語	○	行動文化学4	大学院科目
M341006	26	心理学	心理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	2			黒島 妃香	日本語	○	行動文化学5	大学院科目
7138001	26	心理学	心理学(特殊講義)(神経・生理心理学)	特殊講義	30	2	前期	水	4			阿部 修士	日本語	○	行動文化学6	学部・大学院科目
7131001	26	心理学	心理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			関 義正	日本語	○	行動文化学7	学部・大学院科目
M351001	27	言語学	言語学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	4			堀口 大樹	日本語	○	行動文化学8	大学院科目
M351002	27	言語学	言語学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	4			堀口 大樹	日本語	○	行動文化学9	大学院科目
M352001	27	言語学	言語学(演習)	演習	120	4	通年	金	4	金	5	千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah・定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学10	大学院科目
7231002	27	言語学	言語学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	木	5			浅尾 仁彦	日本語	○	行動文化学11	学部・大学院科目
7231003	27	言語学	言語学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	3			CATT, Adam Alvah	日本語	○	行動文化学12	学部・大学院科目
7231006	27	言語学	言語学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	4			谷口 一美	日本語	○	行動文化学13	学部・大学院科目
7231007	27	言語学	言語学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	4			谷口 一美	日本語	○	行動文化学14	学部・大学院科目
7231009	27	言語学	言語学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	4			山本 武史	日本語	○	行動文化学15	学部・大学院科目
7231010	27	言語学	言語学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			宮本 陽一	日本語	○	行動文化学16	学部・大学院科目
7231013	27	言語学	言語学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	2			Tao PAN	英語	○	行動文化学17	学部・大学院科目
7231014	27	言語学	言語学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	2			Tao PAN	英語	○	行動文化学18	学部・大学院科目
7231017	27	言語学	言語学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	3			CATT, Adam Alvah	日本語	○	行動文化学19	学部・大学院科目
7231019	27	言語学	言語学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	4			荻原 裕敏	日本語	○	行動文化学20	学部・大学院科目
7231020	27	言語学	言語学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	金	1			野原 将揮	日本語	○	行動文化学21	学部・大学院科目
7231021	27	言語学	言語学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	5			大崎 紀子	日本語	○	行動文化学22	学部・大学院科目
7231023	27	言語学	言語学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	金	2			横森 大輔	日本語	○	行動文化学23	学部・大学院科目
7231018	27	言語学	言語学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	金	3			定延 利之	日本語	○	行動文化学24	学部・大学院科目
7231022	27	言語学	言語学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	金	3			定延 利之	日本語	○	行動文化学25	学部・大学院科目
7231011	27	言語学	言語学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			エマ タマイアヌ モリタ	英語	○	行動文化学26	学部・大学院科目
7241001	27	言語学	言語学(演習)	演習	30	2	前期	水	2			鈴木 博之	日本語	○	行動文化学27	学部・大学院科目
7241002	27	言語学	言語学(演習)	演習	30	2	前期	木	2			パリハワダナ ルチラ	日本語	○	行動文化学28	学部・大学院科目
7241003	27	言語学	言語学(演習)	演習	30	2	前期	火	3			千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah・定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学29	学部・大学院科目
7241004	27	言語学	言語学(演習)	演習	30	2	後期	火	3			千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah・定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学30	学部・大学院科目
9624001	27	言語学	スワヒリ語(初級)(語学)	語学	30	2	前期	火	3			井戸根 綾子	日本語	○	行動文化学31	学部・大学院科目
9625001	27	言語学	スワヒリ語(中級)(語学)	語学	30	2	後期	火	3			井戸根 綾子	日本語	○	行動文化学32	学部・大学院科目
9652001	27	言語学	満州語(初級)(語学)	語学	30	2	前期集中	その他	その他			松岡 雄太	日本語	○	行動文化学33	学部・大学院科目
M361002	28	社会学	社会学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			安里 和晃・Stephane Heim	日本語	○	行動文化学34	大学院科目
M361003	28	社会学	社会学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	2			丸山 里美	日本語	○	行動文化学35	大学院科目
M361004	28	社会学	社会学(特殊講義)	特殊講義	60	2	通年	水	4			太郎丸 博	日本語	○	行動文化学36	大学院科目
M362001	28	社会学	社会学(演習)	演習	60	4	通年	水	5			Stephane Heim	日本語	○	行動文化学37	大学院科目
M362002	28	社会学	社会学(演習)	演習	60	4	通年	月	5			丸山 里美	日本語	○	行動文化学38	大学院科目
M362003	28	社会学	社会学(演習)	演習	60	4	通年	金	4			太郎丸 博	日本語	○	行動文化学39	大学院科目
M362005	28	社会学	社会学(演習)	演習	60	4	通年	火	5			田中 紀行	日本語	○	行動文化学40	大学院科目
M362006	28	社会学	社会学(演習)	演習	60	4	通年	月	4			岸 政彦	日本語	○	行動文化学41	大学院科目
7331001	28	社会学	社会学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	金	2			丸山 里美	日本語	○	行動文化学42	学部・大学院科目
7331005	28	社会学	社会学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	3			岸 政彦	日本語	○	行動文化学43	学部・大学院科目
7331008	28	社会学	社会学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	2			太郎丸 博	日本語	○	行動文化学44	学部・大学院科目
7331026	28	社会学	社会学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	金	2			安里 和晃	英語	○	行動文化学45	学部・大学院科目
7102001	26	心理学	系共通科目(心理学)(講義I)	講義	60	4	通年	月	3			藤田 孝博・西田 真由・中島 浩一・後藤 幸雄・三村 清文・塩原 尚	日本語	○	行動文化学46	学部科目
7139001	26	心理学	心理学(特殊講義)(臨床心理学概論)	特殊講義	30	2	前期	火	2			梅村 高太郎	日本語	○	行動文化学47	学部科目
7125001	26	心理学	心理学(特殊講義)(心理学の支援法)	特殊講義	30	2	後期	火	2			松下 姫歌	日本語	○	行動文化学48	学部科目
7106001	26	心理学	系共通科目(心理学)(講義IIb)	講義	30	2	前期	月	2			黒島 妃香	日本語	○	行動文化学49	学部科目
7109001	26	心理学	系共通科目(心理学)(講義IIe)	講義	30	2	後期	火	2			蘆田 宏	日本語	○	行動文化学50	学部科目
7113001	26	心理学	系共通科目(心理学)(講義IId)(発達心理学)	講義	30	2	前期	火	2			森口 佑介	日本語	○	行動文化学51	学部科目
7134001	26	心理学	心理学(特殊講義A)(神経・生理心理学)	特殊講義	30	2	前期	月	1			月浦 崇	日本語	○	行動文化学52	学部科目
7135001	26	心理学	心理学(特殊講義B)(神経・生理心理学)	特殊講義	30	2	後期	月	1			月浦 崇	日本語	○	行動文化学53	学部科目
7136001	26	心理学	心理学(特殊講義A)(知覚・認知心理学)	特殊講義	30	2	前期	金	2			齋木 潤	日本語	○	行動文化学54	学部科目
7137001	26	心理学	心理学(特殊講義B)(知覚・認知心理学)	特殊講義	30	2	後期	金	2			齋木 潤	日本語	○	行動文化学55	学部科目
7202001	27	言語学	系共通科目(言語学)(講義I)	講義	30	2	前期	水	4			千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah・定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学56	学部科目
7204001	27	言語学	系共通科目(言語学)(講義II)	講義	30	2	後期	水	4			千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah・定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学57	学部科目
7206001	27	言語学	系共通科目(言語学)(講義II)	講義	30	2	前期	月	3			千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah・定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学58	学部科目
7208001	27	言語学	系共通科目(言語学)(講義II)	講義	30	2	後期	月	3			仲尾 周一郎	日本語	○	行動文化学59	学部科目
7241005	27	言語学	言語学(演習)	演習	30	2	後期	木	3			守田 貴弘	日本語	○	行動文化学60	学部科目
7246001	27	言語学	言語学(基礎演習)	基礎演習	30	2	前期	水	2			千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah・定延 利之・大竹 昌巳	日本語	○	行動文化学61	学部科目
7246002	27	言語学	言語学(基礎演習)	基礎演習	30	2	後期	木	4			浅尾 仁彦	日本語	○	行動文化学62	学部科目
9648001	27	言語学	朝鮮語(初級A)(語学)	語学	30	2	前期	金	1			杉山 豊	日本語	○	行動文化学63	学部科目
9649001	27	言語学	朝鮮語(初級B)(語学)	語学	30	2	後期	金	1			杉山 豊	日本語	○	行動文化学64	学部科目
7302001	28	社会学	系共通科目(社会学)(講義)	講義	30	2	前期	水	2			田中 紀行	日本語	○	行動文化学65	学部科目

7304001	28	社会学	系共通科目(社会学)(講義)	講義	30	2	後期	水	2		太郎丸 博	日本語○	行動文化学66	学部科目
7361002	28	社会学	社会学(実習)	実習	60	2	通年	水	4		太郎丸 博	日本語○	行動文化学67	学部科目

行動文化学1

科目ナンバリング	G-LET28 6M341 LJ46				
授業科目名 <英訳>	心理学 (特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 森口 佑介		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	認知発達特論				
【授業の概要・目的】					
本授業では、認知発達とその生物学的基盤を、発達心理学、認知神経科学、生理心理学などの知見を参照しながら理解することを目的とする。内容としては、実行機能、意識、メタ認知、注意、記憶、視覚イメージなどの認知機能の発達とその脳内基盤について、講義と受講者の発表を織り交ぜながら検討する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知発達とその生物学的基盤を理解する ・ 様々な認知発達の関連性を理解する 					
【授業計画と内容】					
1 イントロダクション 2 ~ 4 認知発達理論の復習 5 ~ 14 認知発達についての最新知見 15 まとめ					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
【評価方法】 発表を割り当てるので、その発表（80点）および平常点(20点) 【評価基準】 到達目標について、文学部・文学研究科の成績評価基準に従って評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
【予習】 参考書程度の知識は授業前に身につけておく 【復習】 授業の課題論文について、復習する (わからない部分があれば、教員に積極的に質問に来てください)					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

行動文化学2

科目ナンバリング	G-LET28 6M341 LJ46				
授業科目名 <英訳>	心理学 (特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 蘆田 宏		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	視覚科学特論				
[授業の概要・目的]					
<p>視覚に関する心理物理学・神経科学的研究について議論する。視覚科学の理論的基礎と方法論を習得するとともに、知見や方法をそれぞれの研究に活かせるようにすることを目的とする。前半は視覚科学の基礎に関する講義を行い、後半は参加者に最近の論文を読んで報告することを求める。</p>					
[到達目標]					
<p>視覚科学に関して、最新の研究について理解し、自らの研究を実践するための基礎となる高度な知識と批判的議論の能力を獲得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>前半では、下記のテーマについて、それぞれ1-2週ずつ講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 視覚刺激と信号 3 受容野とたたみこみ 4 初期視覚処理のモデル 5 視覚実験刺激の基礎 6 MRIの基礎 7 その他の実験手法 <p>後半、8-14週は、参加者それぞれが最近の論文を読んで報告し、全員で議論を行う。参加者の数によって前半の講義の内容と週数を調整する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 15 フィードバック 					
[履修要件]					
<p>学部で実験心理学または周辺領域（神経科学など）の基礎を学んでいること 議論に参加できる日本語能力を持つこと</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点評価（発表と議論への参加）</p>					
----- 心理学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

心理学 (特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://foundationsofvision.stanford.edu/>(視覚科学の教科書(無料オンライン版))

[授業外学修(予習・復習)等]

前半は授業中に指示する。
後半は各自が論文を選んで内容を報告する。読むべき論文は前週までに報告し、他の参加者は予め概要を読んでおくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは固定しない。まずメール等で相談する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学3

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学 (特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 齋木 潤		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	視覚認識論				
[授業の概要・目的]					
<p>視覚による外界の認識の過程、特に視覚認識における注意や短期記憶の機能に焦点を当て、その研究方法論と最新の知見を解説する。行動実験を用いた研究、脳波測定研究などを取り上げる。心的現象を科学的に探求するための方法論を学ぶことにより視覚的注意に関する研究のみならず、広く視覚科学、認知科学的研究に応用できる知識を身につけることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>正答率や反応時間を主たる指標とする行動実験のデータ解析に必要な基本的スキルを身に付ける。単に手法を学ぶのではなく、その理論的背景を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の予定で講義を行う。各テーマ2週程度の授業を行う。講義の進捗により若干の内容の変更がありうる。</p> <p>1 - 2回．心理物理学的測定法 3 - 4回．信号検出理論の基礎 5 - 6回．信号検出理論の発展：強制選択と視覚探索 7 - 8回．信号検出理論の発展：有限状態モデルと視覚記憶 9 - 10回．信号検出理論の発展：弁別・同定課題と物体認識 11 - 12回．反応時間解析 13回．脳波測定とその解析 14回．授業内試験（問題演習） 15回．フィードバック</p>					
[履修要件]					
<p>心理学、認知科学の基礎的な知識があるとよいが必須ではない。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点 50% 試験 50%</p> <p>試験は最終回の授業時に行う。持込可にする予定。 平常点は、PandA を通じて毎回授業後に授業に関するコメントを提出することによって評価する</p>					
----- 心理学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

心理学 (特殊講義)(2)

[教科書]

教科書は用いない。

[参考書等]

(参考書)

なし。

[授業外学修(予習・復習)等]

自分自身の実験データなどで使ってみる。実験を計画する際に解析手法まで考える。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学4

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学 (特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	情報学研究科 教授 情報学研究科 教授 情報学研究科 准教授 情報学研究科 准教授 情報学研究科 助教 非常勤講師	熊田 孝恒 西田 眞也 中島 亮一 後藤 幸織 三好 清文 佐藤 弥	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	認知科学基礎論				
【授業の概要・目的】					
<p>視覚認知、注意、記憶、意識、実行機能、感情などを中心に人間の認知機能に関わる概念、及び、その脳内メカニズムを解説する。また、認知機能を理解するための心理学的手法、認知機能と脳との関係を明らかにするための機能的脳画像解析手法などについても詳細に解説する。さらには、社会への適用に関するトピックスも取り上げる。</p> <p>This lecture elaborates on the issue of brain mechanisms such as visual recognition, attention, memory, consciousness, executive function, and emotion. In addition, technical issues of experimental psychology and functional brain imaging are introduced. The applied aspects of these issues are also explained.</p>					
【到達目標】					
<p>人間の認知過程を理解するのに必要な認知科学の基礎知識を得ることができる。また、心理学実験や脳計測実験の実例を通して、基礎的な知見がどのように得られたかを理解できるようになる。さらには、情報学などの関連領域との関係、ならびに、基礎的な知見がどのように日常生活における認知的な問題と関係しているかについても理解を広げることができる。</p> <p>Basic knowledge and techniques for understanding of human cognitive system can be learned.</p>					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 脳の基礎 (後藤) 3. 視覚情報処理の基礎 (西田) 4. 基本的な視覚属性の知覚 (西田) 5. 複雑な視覚属性の知覚 (西田) 6. 知覚的意思決定 (三好) 7. 注意 (中島) 8. アクション (中島) 9. 記憶 (後藤) 10. 意識 (三好) 11. 実行機能 (熊田) 12. 感情 (佐藤) 13. 社会的認知 (佐藤) 14. 認知の個人差, 加齢変化, 障害 (熊田) 15. フィードバック 					
----- 心理学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

心理学 (特殊講義)(2)

1. Introduction
2. Basics of the brain
3. Basic of visual information processing
4. Visual perception for simple attributes
5. Visual perception for complex attributes
6. Perceptual decision
7. Attention
8. Action
9. Memory
10. Consciousness
11. Executive function
12. Emotion
13. Social cognition
14. Individual difference, aging and deficits of cognition
15. Feedback

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回、講義中に行うまたは、講義中に出題し、期限内に提出を求める小レポートにより情報学研究科成績評価規定第7条に基づき評価（講義の最後を実施するとは限らないので要注意）

これらは通常のテストと同等に扱う。

フィードバックを除く14回分を10点満点で採点し、合計140点満点を合計100点に換算する（小数点以下切り上げ）。したがって、6回以上、小テストを受けていない場合には、残りが満点であったとしても合格点には達しないので注意すること。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中の指示により、予習復習を行うこと。

心理学 (特殊講義)(3)へ続く

心理学 (特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーはKULASISを参照のこと

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学5

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学 (特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 黒島 妃香		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	比較認知特論				
【授業の概要・目的】					
この講義の目的は、ヒトを含む多様な動物の認知能力に関する最先端の研究を学び、比較認知科学的観点から心の進化を考察することにある。					
【到達目標】					
比較認知科学では、対象とする動物種に応じた適切な実験手続きが求められる。最先端の研究を通して、多様な実験手法について学ぶとともに、実験から得られた結果をどのように位置づけ、比較し、考察するかについて習得する。また、実証的研究を通して心の進化について考察する。主に、強化学習、意識、内省、感情に関連する内容を扱う。					
【授業計画と内容】					
第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 講師から2回ないし3回にわたり、ヒトやヒト以外の動物を対象とした認知に関連する研究を紹介し、基礎的知識を養ってもらう。続く回では、各受講者に講義で扱ったトピックに関連する最新の研究論文を紹介してもらい、受講者全員で研究法、考察に関する具体的な議論を行う。講義は基本3回ないし4回で1トピックの割合で進める。 第15回 心の進化に関する議題に対して各受講者に意見を発表してもらい、全員で議論する。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
毎回の討論内容 (30%) 及び、発表担当回での発表と討論 (40%)、最終回での討論 (30%) により評価する。					
【教科書】					
特に用いない。必要な資料は準備する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
毎回トピックに関連した文献を調べ、議論に積極的に参加すること。					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

行動文化学6

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義)(神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人と社会の未来研究院 教授 阿部 修士		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	心理学(特殊講義)				
【授業の概要・目的】					
<p>本講義では、心理過程と生理学的な活動との対応関係を探る研究分野における、主要な方法論 - 具体的には、神経心理学や脳機能イメージングといった認知神経科学的手法 - を解説する。研究手法についての理解を深めた後に、前頭葉機能・記憶・情動・意思決定など、主に社会神経科学 (Social Neuroscience) における知見を中心に概説する。これまでに得られている基礎的な知見に加え、発展的・建設的な思考能力を身につけることで、受講者がそれぞれの研究に活かせるようにすることを目的とする。</p>					
【到達目標】					
<p>認知神経科学・社会神経科学の基礎を身につけ、自身の研究に活かせるようにする。 認知神経科学・社会神経科学の研究における発展的・建設的な思考能力を習得する。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>初回にオリエンテーションを行う。2週目以降は以下のような内容について授業を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 認知神経科学の研究手法：神経心理学による研究 3. 認知神経科学の研究手法：fMRI 4. 認知神経科学の研究手法：その他の脳機能の測定手法 5. 前頭葉機能：下位領域の区分 6. 前頭葉機能：機能の評価とこれまでの知見 7. 記憶の神経機構 8. 未来思考/プロスペクシオンの神経基盤 9. 情動の神経基盤 10. 報酬と意思決定 11. 選好判断 12. 道徳的判断 13. 文化神経科学 14. 発達社会神経科学 15. 講義全体のまとめ及びフィードバック <p>なお各講義の終盤には、取り扱うトピックに関連する英語のTED talks (http://www.ted.com/talks) を教材として用いる。TED talks では世界的に著名な研究者による優れた講演が行われており、最新の研究成果・現在のトレンド・英語によるプレゼンテーションの方法など、研究を行うために必要な多くの知識とスキルを学ぶ貴重な機会を提供するものである。</p>					
----- 心理学(特殊講義)(神経・生理心理学)(2)へ続く -----					

心理学 (特殊講義) (神経・生理心理学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

【評価方法】

平常点評価（50％）及びレポート（50％）。
4回以上欠席した場合には単位を認めない。

【教科書】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

初回のオリエンテーション時に、教材として使用するTED talk（<http://www.ted.com/talks>）についての紹介を行う。予習は必須ではないが、繰り返し視聴することによって、理解を深めること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学7

科目ナンバリング		G-LET28 67131 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学 (特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 関 義正		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	生物による音響コミュニケーションの心理学				
[授業の概要・目的]					
<p>ヒトを含む多くの動物のコミュニケーションには、しばしば音響信号が用いられる。複雑な音響信号を生み出すための優れた方法の一つは発声であろう。また、ヒトの音声言語の基盤の一つが、発声学習能力（聴覚経験に基づいて新たな発声パターンを獲得する能力）であることは言うまでもないが、オウムやキュウカンチョウなど一部を除けば、多くの動物はこの能力を持たないか、かなり限定的な能力しか示さない。この違いを生み出すものは何か、という問いに焦点を当てつつ、関連する様々な研究について考える。</p>					
[到達目標]					
<p>生物の音声コミュニケーションの基盤となる神経生理・心理機構について理解し、発声学習能力・音声言語や音楽の進化に関する仮説・シナリオについて考察することができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の通り講義を進める。ただし講義の進みぐあいにより変更されることがある。</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回 動物の音声コミュニケーションの機能 第3回 発声学習能力とその進化 第4回 発声信号の解析に用いられる技術 第5回 発声の生理・心理研究に用いられる実験技術・手法 第6回 発声学習能力に関わる中枢の神経・生理機構 第7回 発声学習能力に関わる抹消の神経・生理機構 第8回 鳥類の発声制御能力の程度を探る試み 第9回 鳥類の系列処理能力の程度を探る試み 第10回 野生・飼育下・文化 第11回 声真似能力とヒトの文化 第12回 ”知能”との関連・ヨウムのアレックス 第13回 動物の音響コミュニケーションと言語 第14回 動物の音響コミュニケーションと音楽 第15回 まとめ</p>					
開講日時については5月頃にKULASISを通して連絡					
----- 心理学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

心理学 (特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

積極的な発言（10点）、小レポート（40点）、最終レポート（50点）により評価する。
・ 4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。
・ レポートは全回提出を必須とする。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

採点報告日以降に実施することになった場合は成績報告が遅れる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学8

科目ナンバリング		G-LET29 6M351 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	バルト・スラブ言語学概論				
[授業の概要・目的]					
「バルト・スラブ言語学概論」と題し、バルト諸語ならびにスラブ諸語の語彙、文法、社会言語学的事象を概略する。					
[到達目標]					
個別言語学的視点ならびに通言語学的視点から様々な言語の事象を考察する力を身につける。					
[授業計画と内容]					
基本的に講義形式で行うが、各回の授業での受講者の質問やコメントシートに基づいた議論も行う。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 文字と音 3. 語彙 4. 借用 5. 人名 6. 形態論 7. 形態論 8. 形態論 9. 語形成論 10. 語形成論 11. 統語論 12. ディアスポラ 13. 方言 14. 言語政策 15. 総括 					
[履修要件]					
バルト諸語またはスラブ諸語の学習歴を有していることが望ましい。					
----- 言語学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

各回の授業でのコメントシート (50%)
期末レポート (50%)

[教科書]

授業中に指示する
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

日々の言語学習や言語学に関する文献の講読を通じて、言語に対する考察力を高めてほしい。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学9

科目ナンバリング		G-LET29 6M351 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (特殊講義) Linguistics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア語文法と語用論				
[授業の概要・目的]					
「ロシア語文法と語用論」と題し、ロシア語の文献を輪読し、ロシア語の文法と語用論に関する諸問題に対する理解を深める。					
[到達目標]					
言語について考究する力が身に付くようにする。個別言語にとどまらず、言語一般の体系性を把握できることを目指す。ロシア語の専門文献の読解力を向上させる。					
[授業計画と内容]					
受講者の関心も考慮に入れた上でテーマを決め、事前に担当箇所 (担当言語) を割り当て、各回の授業で発表・報告してもらおう。テキストの解説のほかに、各自で補足して調べることが望ましい。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文法と語用論 2. 文法と語用論 3. 文法と語用論 4. 動詞の体 5. 動詞の体 6. 動詞の体 7. 動詞の体 8. 動詞の態 9. 動詞の態 10. 動詞の態 11. 動詞の態 12. 名詞と形容詞 13. 名詞と形容詞 14. 名詞と形容詞 15. 総括 					
[履修要件]					
ロシア語の中級以上の読解力を有すること。					
----- 言語学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

発表・報告などの平常点：50%
期末レポート：50%

[教科書]

授業で扱うテキストはコピーを配布する。
『 (2012) 』

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

ロシア語をはじめとするスラブ諸語の一般的な運用能力を高める努力をすることが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学10

科目ナンバリング		G-LET29 7M352 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (演習) Linguistics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 准教授 大竹 昌巳	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	金4,5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語学の諸問題				
[授業の概要・目的]					
修士論文および課程博士論文の質の向上を目的とする。大学院生が自らの研究について報告を行い、それに対する質疑応答、討論を通して、思考力や分析力を培う機会にする。					
[到達目標]					
1. 発表、それに関する質疑を通じて、自分の研究を深める。 2. 専門を異にする研究者に対して、自分の研究をわかりやすくプレゼンテーションすることができるようになる。 3. 自分と専門が違う研究者の発表を理解し、簡潔で、適切な質問ができるようになる。 4. 発表の論理を理解し、論理の問題点などを指摘できる。					
[授業計画と内容]					
大学院生は、各自の研究の進捗状況と成果について、年30回の授業の中で少なくとも1回の発表を行う。修士論文提出予定者は前期と後期にそれぞれ1回ずつ発表を行う。発表の後に、質疑・討論を行い、さまざまな言語学の問題についての理解を深める。発表者は発表の数日前に、自らの研究成果が反映されているハンドアウトを用意しなければならない。 前期 第1回 イン트로ダクション・発表 第2回～第14回 発表 第15回 発表・まとめ 後期 第1回 イン트로ダクション・発表 第2回～第14回 発表 第15回 発表・まとめ					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業時での発表や他の院生の発表に対する批判的なコメントや質問など、平常点で評価する					
----- 言語学 (演習)(2)へ続く -----					

言語学 (演習)(2)

[教科書]

ハンドアウトを使用する

[参考書等]

(参考書)

特になし

[授業外学修 (予習・復習) 等]

発表者はハンドアウトを発表週の月曜日までに提出すること。ハンドアウトは読むだけで、論旨がわかるものとする。発表者以外は発表当日までに読み、質問を準備すること。質問、コメントは簡潔でわかりやすく、かつ、答えることが可能なものとする。

(その他 (オフィスアワー等))

大学院博士後期課程修了者の参加も歓迎する

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学11

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 浅尾 仁彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	コーパスと言語研究				
[授業の概要・目的]					
言語研究において近年重要な役割を果たすようになってきているコーパスについて、その意義と限界を学ぶとともに、コーパスを実際に扱うための具体的な技術を身につけます。特定のコーパスやツールの使い方を学ぶのではなく、ソフトウェアが世代交代しても無駄になることのない基本的な考え方を身につけることを重視します。					
[到達目標]					
言語研究におけるコーパスの役割について理解するとともに、既製のコーパス検索ツール等に頼らずともコーパスを自在に扱えるようになるための基礎を身につけます。					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション 第2回 コーパスの基本概念とテキストデータ 第3回 検索 (1) 第4回 検索 (2) 第5回 頻度と統計 (1) 第6回 頻度と統計 (2) 第7回 論文紹介 (1) 各自に発表をお願いします 第8回 論文紹介 (2) 各自に発表をお願いします 第9回 Pythonによるテキスト処理 (1) 基本 第10回 Pythonによるテキスト処理 (2) 検索 第11回 Pythonによるテキスト処理 (3) 集計 第12回 Pythonによるテキスト処理 (4) 進んだ話題 第13回 研究発表 (1) 各自に発表をお願いします 第14回 研究発表 (2) 各自に発表をお願いします 第15回 まとめ 授業計画は仮のものです。内容・日程は、受講者の人数・興味関心に応じて柔軟に変更することがあります。					
[履修要件]					
特になし					
----- 言語学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的な参加（30％）、宿題（30％）、期末レポート（40％）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

石川慎一郎 『ベーシックコーパス言語学 第2版』（ひつじ書房, 2021）

浅尾仁彦 『言語研究のためのPython活用術』（開拓社, 2025）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内容の復習として宿題を課します。また、授業では、先行研究の紹介や、自身の研究プロジェクトについての発表をお願いしますので、その準備が必要です。期末レポートについては早めのテーマ設定など、計画性が求められます。

（その他（オフィスアワー等））

- ・パソコンを授業に持ち込み、演習的な内容の場合はその場でパソコンで作業することが望ましいですが、パソコンなしでも受講は可能です。
- ・授業時間外に連絡事項などある場合はメール等で対応します。詳細については授業中に共有します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学12

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 CATT, Adam Alvah		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)				
【授業の概要・目的】					
紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語 (古期サンスクリット語) はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 					
【授業計画と内容】					
この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定 (学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるように、以下の授業計画は週毎に分けられていない)。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1 (7 週間) 2. Hymn 2 (7 週間) 3. フィードバックなど (1 週間) 					
【履修要件】					
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

行動文化学13

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 谷口 一美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	認知構文論				
【授業の概要・目的】					
この授業では、認知文法、構文文法の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 					
【授業計画と内容】					
<p>認知言語学の代表的な学術雑誌である Cognitive Linguistics や近刊の論文集を中心とし、重要な英語論文を取り上げる。担当者が論文の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：認知文法 (論文1前半) 第3回：認知文法 (論文1後半) 第4回：認知文法 (論文2前半) 第5回：認知文法 (論文2後半) 第6回：構文文法 (論文1前半) 第7回：構文文法 (論文1後半) 第8回：構文文法 (論文2前半) 第9回：構文文法 (論文2後半) 第10回：認知文法・構文文法の応用的研究 (論文1前半) 第11回：認知文法・構文文法の応用的研究 (論文1後半) 第12回：認知文法・構文文法の応用的研究 (論文2前半) 第13回：認知文法・構文文法の応用的研究 (論文2後半) 第14回：全体の総活とディスカッション 第15回：フィードバック</p>					
【履修要件】					
認知言語学の基礎知識を備えていることが望ましい。					
----- 言語学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

言語学 (特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

授業への参加状況 (20%)、学期末のレポート (80%) から総合的に評価する。

[教科書]

論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学14

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 谷口 一美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	認知意味論研究				
[授業の概要・目的]					
この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学（特に認知意味論）の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。それぞれ2週前後、授業を行う予定である。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：認知言語学の理論的概要 第3回：言語学と心理学の関わり (1)：図と地の分化（導入） 第4回：言語学と心理学の関わり (1)：図と地の分化（考察） 第5回：言語学と心理学の関わり (2)：視線と主観性（導入） 第6回：言語学と心理学の関わり (2)：視線と主観性（考察） 第7回：カテゴリー化と言語 (1)：プロトタイプ・カテゴリー（導入） 第8回：カテゴリー化と言語 (1)：プロトタイプ・カテゴリー（考察） 第9回：カテゴリー化と言語 (2)：抽象化とスキーマ（導入） 第10回：カテゴリー化と言語 (2)：抽象化とスキーマ（考察） 第11回：イメージ・スキーマと言語の意味（導入） 第12回：イメージ・スキーマと言語の意味（考察） 第13回：意味の拡張：メタファーとメトニミー 第14回：文法構文と意味 第15回：フィードバック</p>					
[履修要件]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。 					
[成績評価の方法・観点]					
学期末のレポート (80%)、授業への取り組みの状況 (20%) から総合的に評価する。					
[教科書]					
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。					
----- 言語学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学15

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37				
授業科目名 <英訳>	言語学 (特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学 大学院人文学研究科 教授 山本 武史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英語の音声・音韻				
[授業の概要・目的]					
英語の音声・音韻について概説し、特に音節構造、強勢付与、形態論との関わりなどにおいてまだ解決されていない問題や意見が分かれている問題について議論する。テキストを使用するが、授業内容はそれに縛られず、受講生が自身の考えでデータを分析することに重きを置く。					
[到達目標]					
英語の音声・音韻に関する基本的知識を習得し、さまざまな問題を定説にとらわれず自身で解決する力を養う。					
[授業計画と内容]					
以下に各回の内容を当初の予定として示すが、初回の授業で受講者の知識を確認して変更することがある。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要の説明 2. English phonetics: Consonants 3. English phonetics: Vowels 4. The phonemic principle and English phonemes 5. English syllable structure (1): Phonotactics 6. English syllable structure (2): Syllabification 7. Rhythm and word stress in English (1): The Latin stress rule 8. Rhythm and word stress in English (2): Remaining problems 9. Rhythm, reversal, and reduction 10. English intonation 11. Graphophonemics: Spelling-pronunciation relations 12. Variation in English accents 13. An outline of some accents of English 14. First language (L1) acquisition of English phonetics and phonology 15. Second language (L2) acquisition of English phonetics and phonology 					
[履修要件]					
特になし					
----- 言語学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（30点）および期末試験（実施が困難な状況においてはレポート）（70点）による。平常点は授業中の議論への活発な参加を評価する。4回以上（4回を含む）欠席した者には単位を与えない。

[教科書]

Carr, Philip 『English Phonetics and Phonology: An Introduction, 3rd edn.』（Wiley-Blackwell）ISBN: 9781119533740

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の予習、復習はもちろんであるが、調音音声学や音韻論に関する基礎的知識が不足している者は各自その補強に努めること。

（その他（オフィスアワー等））

授業時以外の連絡はメール（yamamoto.takeshi.hmt@osaka-u.ac.jp）によること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学16

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学大学院人文学研究科 宮本 陽一 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	統語論研究				
[授業の概要・目的]					
統語理論のゴールは、人間の持つ言語能力の研究を通して人間の心 (mind) を理解することにある。この1つの試みとして生成文法理論がある。本講義では、生成文法理論において広く議論されている英語の疑問文 (移動現象) に注目しながら、生成文法理論の考え方を学んでいく。					
[到達目標]					
<p>(1) 生成文法理論の基本的な考え方が理解できるようになる。</p> <p>(2) 疑問文に関する理論発展が理解できるようになる。</p> <p>(3) 樹形図, ブラケット等を用いて言語 (特に英語と日本語) の基本的な文の構造が表現できるようになる。</p> <p>(4) 生成文法理論の枠組みにおいて日英語の統語的な違いが理解できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の予定で講義を進める。但し、講義の進み具合により、多少の変更はあり得る。</p> <p>第1回：オリエンテーションならびに文の構造</p> <p>第2回：平叙文の構造</p> <p>第3回：疑問文の構造</p> <p>第4回：疑問文にかかる制約 (基本概念)</p> <p>第5回：疑問文にかかる制約 (帰結)</p> <p>第6回：疑問文にかかる制約 (問題点)</p> <p>第7回：格</p> <p>第8回：障壁理論 (基本概念)</p> <p>第9回：障壁理論 (練習)</p> <p>第10回：障壁理論 (帰結)</p> <p>第11回：障壁理論 (問題点)</p> <p>第12回：相対最小性</p> <p>第13回：ミニマリストプログラム</p> <p>第14回：日英語比較 (削除と移動)</p> <p>第15回：日英語比較 (数量詞と量化詞)</p>					
[履修要件]					
言語学概論程度の知識があることが望ましい。					
----- 言語学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

課題（20%）と期末レポート（80%）の成績を総合的に評価する。授業の内容を踏まえ、独創的な視点のもと、必要なデータ収集・分析を行い、更にその帰結を提示した期末レポートを高く評価する。

[教科書]

使用しない

ハンドアウトを配布する場合もあるが、授業は基本的に板書で進める。

[参考書等]

（参考書）

宮本陽一 『生成文法の展開：「移動現象」を通して』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-288-7

[授業外学修（予習・復習）等]

予習・復習を必ず行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学17

科目ナンバリング	G-LET29 67231 LJ37				
授業科目名 <英訳>	言語学 (特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Introduction to Indo-European Linguistics				
【授業の概要・目的】					
This course offers an introduction to Indo-European Linguistics and basic knowledge of different Indo-European language families including Anatolian, Indo-Iranian, Greek, Italic, Germanic, Celtic, Balto-Slavic, Tocharian and Armenian. Along with language and literature, students will learn the various scripts for writing these languages. After brief introduction of grammar, reading materials of various languages will be studied and analysed.					
【到達目標】					
The participants will learn the basic theories of Indo-European Linguistics and basic knowledge of different Indo-European language families including Anatolian, Indo-Iranian, Greek, Italic, Germanic, Celtic, Balto-Slavic, Tocharian and Armenian.					
【授業計画と内容】					
Week #01 Introduction: Research history of Indo-European Linguistics Week #02 Introduction: Indo-European language families Week #03 Introduction: Important books, papers and online databases. Week #04 to #14 Anatolian, Indo-Iranian, Greek, Italic, Germanic, Celtic, Balto-Slavic, Tocharian and Armenian. Grammar and reading materials. Week #15 Feedback					
【履修要件】					
Knowledge of Sanskrit, Greek or Latin is desired, but not necessary.					
【成績評価の方法・観点】					
Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final essay. Assessment will be based on class performance (50%) and final essay (50%)					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.					
(その他 (オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

行動文化学18

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定講師 Tao PAN		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Introduction to Iranian Linguistics				
[授業の概要・目的]					
This course offers an introduction to Old and Middle Iranian languages including Avestan, Old Persian and Khotanese. Along with language and literature, students will learn the scripts for writing Avestan, Old Persian and Khotanese as well. The reading materials include Avestan Yasna, Old Persian inscriptions of King Darius I and Khotanese Vajracchedika. Therefore, this course provides glimpses into development of Iranian languages, early history of Iran as well as early Buddhism.					
[到達目標]					
The participants will learn Avestan, Old Persian and Khotanese scripts, Old and Middle Iranian languages and historical grammar of Iranian linguistics.					
[授業計画と内容]					
Week #01 Introduction: From PIE to Indo-Iranian Week #02 Introduction: Avestan languages and Avesta Week #03 Introduction: Old Persian and Cuneiform Week #04 Khotanese and Buddhist texts Week #05 to #07 Reading: Old Avestan Yasna Week #08 to #10 Reading: Behistun Inscription (Old Persian) Week #11 to #14 Reading: Khotanese Vajracchedika Week #15 Feedback					
[履修要件]					
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.					
[成績評価の方法・観点]					
Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final essay. Assessment will be based on class performance (50%) and final essay (50%)					
[教科書]					
授業中に指示する					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- 言語学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学 (特殊講義)(2)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学19

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 CATT, Adam Alvah		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)				
【授業の概要・目的】					
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 					
【授業計画と内容】					
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1（7週間） 2. Hymn 2（7週間） 3. フィードバックなど（1週間） 					
【履修要件】					
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 荻原 裕敏		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	マニ教中世ペルシャ語文献から見る文献言語研究				
[授業の概要・目的]					
<p>中世ペルシャ語について講義する。中世ペルシャ語は中期イラン語に位置づけられ、パルティア語と共に西イラン語に分類される。この言語は、中期イラン語として知られている言語の中では、最も多くの言語資料を残している。残された文献は3世紀以降のもので、碑文・貨幣銘・印章、パピルスや紙などに書かれた文書であり、ゾロアスター教やマニ教の典籍がその多くを占める。この講義では、特にマニ教文献に反映される中世ペルシャ語を取り上げる。中世ペルシャ語のマニ教文献は、主に中国新疆ウイグル自治区のトゥルファンから発見されたものであり、ゾロアスター教文献の中世ペルシャ語では失われている古い段階の言語特徴を残していることから、イラン語史研究における重要性が指摘されている。今回の講義では、研究史並びに文法を概観した後、代表的なテキストの講読を通して、出土文献資料を利用した文献言語研究の方法論やその可能性について解説する。</p>					
[到達目標]					
<p>マニ教中世ペルシャ語の文法を学び、ローマ字転写されたテキストの読解を通して、工具書を利用して自ら文献を読むことができるようになるとともに、古代ペルシャ語から現代ペルシャ語に至る言語変化についての概観的な知識を得ることを目指す。また、文字とその背後にある言語体系との関係や文献資料を通じた言語研究の方法論について理解し、文献言語研究に取り組む能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。</p> <p>1 導入【1週】 研究史、イラン語におけマニ教中世ペルシャ語の位置づけ及び資料の紹介</p> <p>2 マニ教中世ペルシャ語の基礎【7週】 マニ文字 マニ教中世ペルシャ語の音韻・文法</p> <p>3 出土文献資料による文献言語研究の方法論【6週】 出土文献資料の扱い方 マニ教中世ペルシャ語文献講読 出土文献解読による言語体系の解明とその可能性 出土文献資料に反映される文化と文献成立の背景</p> <p>4 フィードバック【1週】 期末レポート フィードバック</p>					
----- 言語学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

言語学 (特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポート（70％）・平常点（小レポート）（30％）

【教科書】

ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

（参考書）

Gernot Windfuhr (ed.) 『The Iranian Languages』 (Routledge, 2009)

Desmond Durkin-Meisterernst 『Grammatik des Westmitteliranischen (Parthisch und Mittelpersisch)』 (Verlag der Oesterreichischen Akademie der Wissenschaften, 2014)

Christopher J. Brunner 『A syntax of western Middle Iranian』 (Caravan Books, 1977)

Desmond Durkin-Meisterernst 『Dictionary of Manichaean Middle Persian and Parthian』 (Brepols, 2004)

Ruediger Schmitt (ed.) 『Compendium Linguarum Iranicarum』 (Reichert, 1989)

Emmerick, Ronald E. and Maria Macuch (eds.) 『The Literature of Pre-Islamic Iran: Companion Volume I to A History of Persian Literature』 (I. B. Tauris, 2009)

ジャーレ・アームーズガール, アフマド・タファッゾリー著; 山内和也訳 『パフラヴィー語: その文学と文法』 (シルクロード研究所, 1997)

その他、授業中に紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介する参考文献を自主的に学習すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学21

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 野原 将揮		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国語音韻学：中古音について				
【授業の概要・目的】					
<p>中古音は上古音、近世音を研究するための一つの定点であり、中国語諸方言、漢字音等を研究する上で不可欠の分野である。そこで本講義では中古音の基礎的な知識・概念を提供するとともに、関連する事項（特に中国語学の専門用語、字書、義書等）についても紹介する予定である。また中古音と上古音の関係についてもあわせて紹介したい。</p>					
【到達目標】					
<p>中古音の基本的な概念を理解する 中古音の声母・韻母の用語を覚える 中国語音韻学の専門用語を音声学の用語で説明ができる 字書・義書・韻書の成立と大まかな流れを理解する</p>					
【授業計画と内容】					
<p>特に前半では中古音の基本的な概念を理解することを目的とする。第10回までに中古音の基本的な専門用語を暗記すること。授業内でも工夫して暗記する時間を設ける予定である。</p> <p>第1回－第3回 ガイダンス 音声学、音韻論、中国語音韻学の用語について 第4回－第6回 切韻系韻書、反切について 第7回－第9回 韻図、方言、漢字音について 第10回 中古音の用語チェック 後半は中古音に関連する事項について紹介する。</p> <p>第11回－第14回 字書、義書について 第15回 まとめ、フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>議論への積極的な参加（20%） 小テスト（50%） レポート（30%）</p>					
----- 言語学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学 (特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業内で適宜紹介しますが、専門用語を覚えてもらいます。

(その他 (オフィスアワー等))

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学22

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 大崎 紀子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	チュルク語概説				
[授業の概要・目的]					
<p>チュルク語は、西はアナトリア半島のトルコ語から、東はシベリアのサハ語に至るまで、ユーラシア大陸を横断する広大な地域で用いられている言語で、30余りの方言（言語）が認められている。この講義では、分布域のほぼ中央位置で話されているキルギス語のデータや研究成果を中心に、チュルク語に見られる言語現象を考察する。共通して見られる言語特徴と、個別言語間の違いを理解し、研究の視点や手法を身に着けることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>チュルク語に共通する言語特徴を理解し、説明することができる。 チュルク語の個別言語間の違いを理解し、説明することができる。 個別の言語現象に問題点を見出す観察力を養う。 見出した問題点を解決する視点を持てるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいに応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 1 分布と分類 2. Introduction 2 類型論的特徴 3. 音韻的特徴 1 4. 音韻的特徴 2 5. 文字と書記体系 6. 名詞と格 7. 名詞と所有接尾辞 8. 動詞の構造 1 9. 動詞の構造 2 10. 態（ヴォイス） 1 11. 態（ヴォイス） 2 12. 補助動詞 1 13. 補助動詞 2 14. 名詞修飾節 15. フィードバック 					
----- 言語学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業参加 20点（授業内での発言や質問を含む）小課題：10点×2回、最終レポート：60点

【教科書】

授業中に資料を配付する。

【参考書等】

（参考書）

アクマタリエワ ジャクシルク・大崎紀子 『大学のキルギス語』（東京外国語大学出版会、2024）
（印刷中）

Johanson, Lars. 『Turkic』（Cambridge University Press, 2021.）ISBN:978-0-521-86535-7

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に必ず質問をするか、または講師からの問いに答えられるように準備してください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	国際高等教育院 准教授 横森 大輔		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	語用論から会話分析へ				
[授業の概要・目的]					
<p>約束の時刻から遅れて友達との待ち合わせ場所に着いた時、その友達が「あのさ、いま何時？」と言ってきたら、ちょっとした緊張感があるに違いない。その友達は、時刻を知りたいのではない。このように、私たちが発する言葉の「意味」は単語の意味を足し合わせた以上のものになることがしばしばである。</p> <p>こういった発話の意味の動態やそのメカニズムを捉えようとする分野は言語学の中で語用論と呼ばれ、そこで論じられてきた会話の推論、言語行為、ポライトネス、嫌み・皮肉・あてこすりといった現象についての知見は、あらゆる分野の言語研究にとっての基礎の一部となっている。ただし、伝統的な語用論の議論は、仮定の、単純化された発話の例に基づいてなされることが多く、実際のコミュニケーションの複雑さと精巧さを描き出すことはできていない。</p> <p>この授業では、会話分析 (Conversation Analysis) と呼ばれる、実際の会話の録音・録画データを利用したコミュニケーション研究手法を学び、上で挙げたような語用論的現象についてどのような見通しが得られるのかを検討する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ある発話がどのような語用論的意味 (言語行為) を持つか、正確に分析できる。 ・発話の語用論的意味 (言語行為) の分析にあたり、その発話の前後のやりとりが果たす役割を分析できる。 ・発話の語用論的意味 (言語行為) の分析にあたり、その発話の文法的特徴が果たす役割を分析できる。 ・発話の語用論的意味 (言語行為) の分析にあたり、その発話の音声的特徴が果たす役割を分析できる。 ・発話の語用論的意味 (言語行為) の分析にあたり、その発話を産出する際の身体・環境・社会文化的コンテキストが果たす役割を分析できる。 ・身の回りやメディアで起きているコミュニケーションに対して、学術的な視点から観察・理解を行うことができるようになる 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로</p> <p>第2回 保証します、話すことって行為なんです：言語行為論</p> <p>第3回 行為はやりとりを見なきゃわからない：隣接ペアと行為連鎖(1)</p> <p>第4回 行為はやりとりを見なきゃわからない：隣接ペアと行為連鎖(2)</p> <p>第5回 言葉が行為になる仕組み：会話分析における行為論</p> <p>第6回 データ観察実習</p> <p>第7回 文法と行為：発話デザイン</p>					
----- 言語学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学 (特殊講義)(2)

- 第8回 知識のなわばり争いと行為：認識性・証拠性・モダリティ
第9回 韻律と行為：プロソディの相互行為言語学
第10回 身体・環境と行為：マルチモーダル会話分析(1)
第11回 身体・環境と行為：マルチモーダル会話分析(2)
第12回 今のって私に向けて言ったのか？：話し手・聞き手・参与枠組み
第13回 でも要は文脈でしょ（…待てよ、文脈ってそもそも何だ？）：活動とフレーム
第14回 まとめ講義
第15回 フィードバック

各回で取り上げるテーマは、受講生のニーズに応じて変更する可能性があります。

【履修要件】

事前知識は特に要求されませんが、「語用論」「話しことば」「コミュニケーション」「会話」といったトピックに学術的に取り組む強い意欲をもっていることが求められます。

また、履修にあたっては、毎週の課題（下記）についてよくご確認ください。

【成績評価の方法・観点】

授業課題（予習課題、データ分析実習、発表担当）への取り組み：70点
期末レポート：30点

期末レポートでは、各自が定めたテーマ（相互行為の中の言語現象あるいはコミュニケーション現象）について、具体的な会話事例の詳細な観察に基づく論考（学部生2,000~4,000字、院生3,000~6,000字程度）を課す予定です。

【教科書】

オンラインで読める論文または電子書籍を取り上げていきます。URL等は授業で案内します。

【参考書等】

（参考書）

串田秀也・平本毅・林誠 『会話分析入門』（勁草書房, 2017年）（京大図書館のサイトから電子書籍版にアクセス可能）

平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実（編） 『会話分析の広がり』（ひつじ書房, 2018年）

（関連URL）

<https://sites.google.com/site/yokomoling/lab/recommended-readings>(CA/ILを学ぶための文献)

【授業外学修（予習・復習）等】

文献の予習課題（文献を読んで質問を提出する等）は、多くの週で、全員に課せられます。

単位取得を必要としない参加（いわゆる聴講）も歓迎しますが、毎週の課題に取り組むことが参加

言語学 (特殊講義)(3)へ続く

言語学 (特殊講義)(3)

の条件となります。

(その他(オフィスアワー等))

質問等がある場合は、授業後または別途調整した日程にて受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学24

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (特殊講義) Linguistics (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 定延 利之	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本語話しことばの文法				
[授業の概要・目的]					
この授業では、日本語の話しことばの規則性の観察を通して、音声言語をつかさどる基本的な概念と原理を学ぶ。より具体的には、文法に「知識～体験」とエゴフォリシティの概念を持ち込み、母語話者を対象とするアンケート調査の結果をデータとすることで、現実の発話がどのように説明されるかを検討する。					
[到達目標]					
以下の能力を身に付けることを達成目標とする。 [1] 話しことば研究を推進するための基礎的な知識と技法を、受講者が自身で獲得していけるようになる。 [2] コミュニケーション研究，音声研究，そして文法研究を含む統合的な研究枠組みを自ら構想できるようにする。					
[授業計画と内容]					
各回の内容は以下のとおりだが、受講者の理解度や議論の展開次第では変更の可能性はある。					
第1回	コミュニケーションの中の日本語の文法				
第2回	いま・ここ 1				
第3回	いま・ここ 2				
第4回	いま・ここを超えた世界				
第5回	責任者の特権性				
第6回	体験者の特権性				
第7回	デキゴトの基本類型 1				
第8回	デキゴトの基本類型 2				
第9回	ここまでの補足と議論				
第10回	きもちの文法 1				
第11回	きもちの文法 2				
第12回	知識と体験 1				
第13回	知識と体験 2				
第14回	ここまでの補足と議論				
第15回	まとめ				
----- 言語学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

言語学 (特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

[教科書]

使用しない
資料は電子的に配布する。

[参考書等]

(参考書)

定延利之 『やわらかい文法』 (教養検定会議, 2024年) ISBN:978-4910292090 (この授業の全般に関連する。)

定延利之 (編) 『発話の権利』 (ひつじ書房, 2020年) ISBN:978-4894769830 (第5回・第6回の授業内容に最もよく関連する。)

[授業外学修(予習・復習)等]

復習を怠らないでほしい。

(その他(オフィスアワー等))

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとってもらえば面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学25

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 定延 利之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本語話しことばの文法				
[授業の概要・目的]					
この授業では、日本語の話しことばの規則性の観察を通して、音声言語をつかさどる基本的な概念と原理を学ぶ。より具体的には、文法に表出性と非流暢性の概念を持ち込み、母語話者を対象とするアンケート調査をデータとすることで、現実の発話がどのように説明されるかを検討する。					
[到達目標]					
以下の能力を身に付けることを達成目標とする。 [1] 話しことば研究を推進するための基礎的な知識と技法を、受講者が自身で獲得していけるようになる。 [2] コミュニケーション研究、音声研究、そして文法研究を含む統合的な研究枠組みを自ら構想できるようになる。					
[授業計画と内容]					
各回の内容は以下のとおりだが、受講者の理解度や議論の展開次第では変更の可能性はある。					
第1回 コミュニケーションの中の日本語の文法 第2回 話しことばと書きことば、場面的なことばと脱場面的なことば 第3回 唯文主義を超えて 第4回 名詞一語発話とその周辺文節発話・節発話 第5回 文節発話・節発話 第6回 自立性の無い接ぎ穂発話 1 第7回 自立性の無い接ぎ穂発話 2 第8回 オノマトペ発話 第9回 感動詞発話 第10回 非流暢性からみたコミュニケーション 1 第11回 非流暢性からみたコミュニケーション 2 第12回 ドリフトイントネーション 第13回 語アクセントとイントネーション 第14回 りきみ 第15回 まとめ					
[履修要件]					
特になし					
----- 言語学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

言語学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

[教科書]

使用しない
資料は電子的に配布する。

[参考書等]

(参考書)

定延利之 『やわらかい文法』 (教養検定会議, 2024年) ISBN:978-4910292090 (この授業の全般に関連する。)

定延利之 『コミュニケーションと言語におけるキャラ』 (三省堂, 2020年) ISBN:978-4385349121 (第8回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之 『文節の文法』 (大修館書店, 2019年) ISBN:978-4469213751 (第2回・第4回・第5回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之 『コミュニケーションへの言語的接近』 (ひつじ書房, 2016年) ISBN:978-4894769472 (第7回・第8回の授業内容に最もよく関連する。)

[授業外学修(予習・復習)等]

復習を怠らないでほしい。

(その他(オフィスアワー等))

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとってもらえば面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学26

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 MORITA, Emma Simona		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Japanese – English contrastive text analysis, with a focus on the relation between language and culture				
【授業の概要・目的】					
<p>This course explores English and Japanese from a contrastive perspective, starting from a brief overview of differences in lexical and grammatical conceptualization, and then advancing to the level of discourse. Focusing on genuine texts in the two languages, the perspective of contrastive linguistics will be complemented with insights from the disciplines of discourse studies and cultural semiotics. Relevant textual material will be selected from a variety of genres, such as advertisements, public notices, literary texts, Japanese toponymy etc., with the importance of cultural context elements highlighted in each case. The lectures will be conducted in English, with auxiliary materials provided in Japanese. All sessions will also include interactive tasks, so active participation is required.</p> <p>本講義では日英対照言語学の視点で、さまざまな題材を多様に分析することを通して、両言語それぞれの文化的な要素と背景が深く関係している観点と、実は言語学的知識は、実生活において実用的な価値を持つ観点を、新たな気づきとして得られることを目指した内容としている。題材は具体的には、言語構成における語彙と構文から談話の規範に始まり、文化記号論からアイコンシティーや、日常的に見るさまざまな広告などである。講義はすべて英語で行われるが、受講者からの質問やクラス活動などでは日本語でも行うことができ、できるだけストレスのない受講環境を提供する。</p>					
【到達目標】					
<p>By the end of the course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) understand and define a set of key concepts pertaining to the fields of contrastive linguistics and text linguistics; (2) use the corresponding English and Japanese terminology appropriately; (3) apply the conceptual framework in the contrastive analysis of linguistic data from the two languages on various structural levels; (4) interpret genuine discourse samples by connecting linguistic aspects with relevant elements of the respective cultural contexts. 					
【授業計画と内容】					
【9月2日】					
第1回：Introduction: A linguistics for the real world – the contrastive perspective in text linguistics and discourse analysis					
第2回：Basic notions: From functional language type to a semiotic typology of cultures					
第3回：Critical discussion of common misconceptions in the contrastive study of languages (I): Language as nomenclature; lexical and grammatical ‘gaps’; ‘untranslatable’ units					
第4回：Critical discussion of common misconceptions in the contrastive study of languages (II): Applicative					
----- 言語学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

言語学 (特殊講義) (2)

exercises

【9月3日】

第5回：和製英語(I): Expressiveness vs. the constraints of communication. Characteristics and rules of usage

第6回：和製英語 (II): Right or wrong? Moving from the level of word-formation to the level of discourse — Analysis of genuine textual examples

第7回：Contrastive linguistic analysis ... beyond language? Culturally-connotated words and phrases (I): collocations, idioms, proverbs and sayings, culturemes

第8回：Culturally-connotated words and phrases (II): Exercises; mini-translation tasks

【9月4日】

第9回：Arbitrariness and iconicity in language and texts: Fundamental concepts

第10回：Iconicity in Japanese texts

第11回：Iconicity in English texts

第12回：Multi-dimensional text analysis: Introduction of genuine material to be analyzed and interpreted in the final report

【9月5日】

第13回：“What's in a name?” : Language as a repository of social and cultural experience. The case of Japanese disaster-related toponyms (災害地名 I)

第14回：Social and cultural functions of Japanese disaster-related toponyms (災害地名 II)

第15回：Conclusions. Feedback, reflection and wrap-up

【履修要件】

Students are required to bring their own Japanese — English / English — Japanese dictionaries (both print and electronic dictionaries are accepted).

【成績評価の方法・観点】

In-class exercises and quizzes: 60%

Final report: 40%

【教科書】

None.

Handouts and reference materials will be made available in electronic form, and a selection of printouts will be distributed for in-class tasks.

Students will be required to take notes during the lectures.

【参考書等】

(参考書)

Kortmann, Bernd 『English Linguistics: Essentials: Anglistik - Amerikanistik』 (Cornelsen, 2010) ISBN: 9783464311622 (Ch. I and V, esp. related to Sessions 1, 4, 9 and 11)

石綿敏雄, 富田誠 『対照言語学』 (おうふう社, 1990) ISBN:9784273023744 (Ch. 1, 4, 5, esp. related to Sessions 2, 3 and 4)

Refsing, Kirsten and Lita Lundquist 『Translating Japanese Texts』 (Museum Tusulanum Press, 2009)

言語学 (特殊講義) (3)へ続く

言語学 (特殊講義) (3)

ISBN:9788763507776 ((Ch. 4 and 5, esp. related to Sessions 7 and 8))

Danesi, Marcel 『The Quest for Meaning. A Guide to Semiotic Theory and Practice』 (University of Toronto Press, 2007) ISBN:9780802095145 ((Ch. 2., esp. related to Session 9))

池上 嘉彦 『自然と文化の記号論 (放送大学教材)』 (放送大学教育振興会, 2002) ISBN: 9784595113864 ((Ch. 4 and 6, esp. related to Sessions 9 and 10))

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Students will have to:

- (a) read the excerpts from the bibliography indicated for each topic;
- (b) try to find supplementary examples independently;
- (c) check up unknown vocabulary in the sets of linguistic examples and sample texts provided before the applicative tasks.

(その他 (オフィスアワー等))

Contact information will be announced in the first session.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学27

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (演習) Linguistics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 鈴木 博之	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	調音音声学				
[授業の概要・目的]					
世界の言語の大半は音声を媒体としており、音声学の知識は言語記述に欠かせない。一般に音声の記述には音標文字が用いられる。本演習は、実習をとおして音標文字の中で最も広く用いられているIPA (International Phonetic Alphabet ; 国際音声字母) を中心に習熟することを目的とする。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ IPAの発音を身につける。 ・ 音声を発する際に、音声器官のどこで何が起きているのか内省できるようになる。 ・ IPAを用いて音声表記ができるようになる。 ・ IPAの発音・聞き取りの習得をとおして、さまざまな言語音の記述をおこなうための基礎をつくる。 					
[授業計画と内容]					
<p>音声器官、気流、発声について説明し、多様な音標文字の中でIPAを位置づけ、そののちIPAを中心とした発音・聞き取り練習をおこなう。また、受講生に各自の学習言語からの例を持ちよってもらい、その発音・表記について検討する。</p> <p>第1回 イントロダクション、音標文字のいろいろ、音声器官のしくみ 第2回 気流と発声 第3回 破裂音 第4回 鼻音、ふるえ音、はじき音 第5回 摩擦音 第6回 摩擦音、小テスト1 第7回 接近音、その他の子音 第8回 非肺気流による子音 第9回 非肺気流による子音、小テスト2 第10回 子音のまとめ、表記練習 第11回 第一次基本母音 第12回 第二次基本母音、その他の母音 第13回 母音のまとめ、表記練習、小テスト3 第14回 超分節的音特徴、いわゆる声調 第15回 総復習と発表</p> <p>小テストは第6回、第9回、第13回を予定しているが、授業の進み具合により変更する可能性がある。</p>					
----- 言語学 (演習)(2)へ続く -----					

言語学 (演習)(2)

【履修要件】

特に要件は設けないが、言語学概論等の授業で音声学の基礎を学んでいることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

以下の合計で評価する。

- ・ 平常点（60点、授業内での発表を含む）
- ・ 小テスト（3回の聞き取りテスト、各10点）
- ・ 小レポート（10点）

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で学んだ音の発音・表記を確認しておくこと。

授業中にできるようにならなかった発音については各自で練習し、必要に応じて次回以降の授業後に担当者に確認すること。

授業で学んだことにもとづき、自らが学習する言語の音声をあらためて観察するとともに、観察結果を授業に持ち寄ってほしい。

（その他（オフィスアワー等））

実習であるので、休まないこと。

休んだ回の内容については、書籍、CDやネット上の音声などを活用して確認しておくこと。

授業中は他の受講生の発音にもよく耳を傾けること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (演習) Linguistics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	国際高等教育院 教授 パリハワダ ナルチラ		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「魅力的な日本語」・「難しい日本語」を題材とした日本語学・日本語教育的探究				
[授業の概要・目的]					
日本語学習者の「日本語学習の目的」として「日本語そのものへの興味」が常に上位にランキングされる。その理由は果たして何だろうか。学習者が惹かれる日本語の特徴とは何か。本授業では、日本語・日本文化を主専攻とする日本語・日本文化研修留学生 (日研生) と共に、「魅力的な日本語」及び「難しい日本語」の学習項目を選定し、多角的な分析を行う。日本人学生・日研生を含む混在グループで、誤用分析、用法分析、教科書分析等を行いつつ、日本語の魅力、特徴に迫る。					
[到達目標]					
本授業の到達目標は、 (1) 日本語教育の基礎を学びつつ、選定した学習項目・用法を基にその基礎的応用力を習得することである。 (2) 日本語に対する相対的な見方を形成しつつ、その背景にある社会文化的な諸要素に対する理解力を高めることである。					
[授業計画と内容]					
以下の通りに進めていく予定であるが、履修者の興味や背景に応じて変更する場合もある。					
第1回 ガイダンス、初級日本語学習者の言語行動の疑似体験、テーマ選定・グループ形成					
第2回 日本語学習者の初歩的動機・グループワーク : 選定した学習項目の特徴・初級学習者を惹きつける要因の分析					
第3回 学習ニーズと多様な日本語 (やさしい日本語、アカデミック日本語、ビジネス日本語、専門日本語) ・グループワーク : 学習ニーズへの配慮					
第4回 コースデザイン・グループワーク : コースにおける位置づけ・到達目標設定					
第5回 教授法とシラバス・グループワーク : 教授法の検討					
第6回 漫画・アニメ・J-Popの日本語・グループワーク : メディアの活用法及び教材化の課題と利点					
第7回 教室活動・グループワーク : 教室活動と教科書分析					
第8回 中間発表会と前半の総括					
第9回 学習困難な日本語 学習を困難にしている理由とは? ・グループワーク : テーマ選定・グループ形成及びアウトライン作り					
第10回 自然な日本語と教科書で用いられる日本語の問題点・グループワーク : 典型的な使用場面と状況					
第11回 教科書分析の方法・グループワーク : 教科書分析					
第12回 類推と転移・グループワーク : 他言語との比較					
第13回 誤用分析の方法・グループワーク : 誤用分析					
第14回 学習者ビリーフと動機付け : 期末発表の準備 グループ別期末発表					
第15回 フィードバック					
----- 言語学 (演習)(2)へ続く -----					

言語学 (演習)(2)

【履修要件】

日本語・日本文化研修留学生、文学部、文学研究科の学生専用科目

【成績評価の方法・観点】

以下の通りに評価する。

授業活動への参加度合：30%

中間発表・中間レポート：30%

期末発表・期末レポート：40%

なお、演習科目であるため出席も重視する。

【教科書】

使用しない

授業中にプリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)

白川博之監修 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(スリーエーネットワーク)
ISBN:ISBN4-88319-201-6

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上)』(ひつじ書房)
ISBN:ISBN4-89476-251-X

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(下)』(ひつじ書房)
ISBN:ISBN4-89476-252-8

その他適宜授業中に提示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

グループ活動を遂行する上で事前準備・授業外の共同学習が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

E-mailアドレス：palihawadana.ruchira.8n@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学29

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (演習) Linguistics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 准教授 大竹 昌巳	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語学的文字研究				
[授業の概要・目的]					
<p>20世紀初頭のF. de Saussureの言語研究に端を発し、ラテンアルファベット文字圏を中心に発展してきた現代言語学では、文字は言語を表わすことを唯一の目的とする記号の記号であって、言語記号そのものを構成する要素ではないとみなされ、言語学の対象としては等閑視されてきた。ところが現代言語学の言語観にはラテン文字特有のバイアスが作用しており、文字が言語理論の構築に無視できない大きな影響を与えていることが指摘されている。言語と文字の関わりについて十分な自覚をもつことが、実り豊かな言語研究の成果につながるのである。</p> <p>この授業では、文字の言語学的研究について論じた近年の書籍をテキストとして通読することを通じて、文字と言語の関係や、「文字とは何か」について考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>世界の様々な文字体系を類型論的観点から考察し、また言語理論に対する文字の影響を考察することを通して、文字とはどのような特徴をもつもので、言語とどのように関わりあうのかを理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>テキストのうち、言語と文字の関係を扱った第2章、文字の言語的機能を扱った第4章、正書法を扱った第5章、文字の類型論を扱った第6章を中心に、輪読形式を進める。授業では毎回、学部生と大学院生がペアとなり、割りあてられた部分について資料を準備して内容を解説するとともに、問題となる事項について討議する。なお今年度は大竹昌巳がすべての授業回を担当する。</p>					
<p>第1回 ガイダンス 第2回 イントロダクションのイントロダクション 第3回 Introduction 第4回 Language, speech, and writing (1) 第5回 Language, speech, and writing (2) 第6回 Graphematics (1) 第7回 Graphematics (2) 第8回 Graphematics (3) 第9回 Orthography (1) 第10回 Orthography (2) 第11回 Writing system typology (1) 第12回 Writing system typology (2) 第13回 Writing system typology (3) 第14回 Conclusion and outlook 第15回 フィードバック</p>					
----- 言語学 (演習)(2)へ続く -----					

言語学 (演習)(2)

(但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性はある)

【履修要件】

事前に言語学講義Iを履修しているか、もしくはそれに相当する言語学の初歩的知識を有していることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

授業での発表および討論への積極的な参加（50%）と期末レポート（50%）により総合的に評価する。

【教科書】

Dimitrios Meletis & Christa Dürscheid 『Writing Systems and Their Use: An Overview of Grapholinguistics』
(De Gruyter Mouton, 2022) ISBN:978-3-11-075777-4 ((Open accessのため<https://www.degruyter.com/>より入手可能))

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

担当箇所の発表準備に当たっては、指定の教科書の内容をただまとめるだけでなく、他の資料にも当たって自分なりに調べる必要がある。担当部分以外も事前に目を通しておき、授業中の討議や質問を通じて分からない部分を解決することが望まれる。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学30

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (演習) Linguistics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 准教授 大竹 昌巳	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語研究における容認性				
[授業の概要・目的]					
<p>言語の研究，とりわけ文法の研究においては，ある主張を裏づけたり反証したりするための重要な経験的データとして，例文に対する話者の容認度・容認性 (acceptability) が利用されている。しかし容認性は様々な因子によって敏感に変動するものであり，容認度がどのようであれば主張が確認・反証されたと言えるかの判断も各研究者に委ねられているなど，容認性をめぐっては考えるべき事柄が多い。</p> <p>この授業では，同じ（ような）文法構造をもつにもかかわらず容認度に差が生じるような現象に焦点を当て，この問題がそれぞれの言語理論でどのように解釈されるかについて論じているテキストを用いて，容認性をめぐる問題について考察する。</p>					
[到達目標]					
容認性がどのような因子で変動しうるかを知るとともに，いくつかの言語理論の考え方をふまえた上で，それぞれの言語理論が容認度に差が生じる現象をどのように解釈するかを理解する。					
[授業計画と内容]					
<p>下記のスケジュールでテキストの各章を輪読する。授業では毎回，学部生と大学院生がペアとなり割りあてられた部分について資料を準備して内容を解説するとともに，問題となる事項について討議する。なお今年度は大竹昌巳がすべての授業回を担当する。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 1. The problem of gradient acceptability 第3回 2. Theories of grammatical knowledge in relation to formal syntactic and non-syntactic explanations (1) 第4回 2. Theories of grammatical knowledge in relation to formal syntactic and non-syntactic explanations (2) 第5回 3. On distinguishing formal syntactic constraints from other aspects of linguistic knowledge 第6回 4. On distinguishing formal syntactic constraints from processing constraints (1) 第7回 4. On distinguishing formal syntactic constraints from processing constraints (2) 第8回 5. On the relationship between corpus frequency and acceptability 第9回 6. Relative clause extraposition and PP extraposition in English and German (1) 第10回 6. Relative clause extraposition and PP extraposition in English and German (2) 第11回 7. Resumptive pronouns in Hebrew, Cantonese, and English relative clauses (1) 第12回 7. Resumptive pronouns in Hebrew, Cantonese, and English relative clauses (2) 第13回 8. The emergence of linguistic structure and theoretical interpretation (1) 第14回 8. The emergence of linguistic structure and theoretical interpretation (2) 第15回 フィードバック</p>					
----- 言語学 (演習)(2)へ続く -----					

言語学 (演習)(2)

(但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性はある)

【履修要件】

事前に言語学講義Iを履修しているか、もしくはそれに相当する言語学の初歩的知識を有することが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

授業での発表および討論への積極的な参加（50%）と期末レポート（50%）により総合的に評価する。

【教科書】

Elaine J. Francis 『Gradient Acceptability and Linguistic Theory』（Oxford University Press, 2022）ISBN: 978-0-19-289895-1（（入手方法については第1回授業を参照のこと））

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

担当箇所の発表準備に当たっては、指定の教科書の内容をただまとめるだけでなく、他の資料にも当たって自分なりに調べる必要がある。担当部分以外も事前に目を通しておき、授業中の討議や質問を通じて分からない部分を解決することが望まれる。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学31

科目ナンバリング		G-LET49 89624 LJ48			
授業科目名 <英訳>	スワヒリ語 (初級) (語学) Swahili		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 井戸根 綾子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	スワヒリ語 (初級)				
[授業の概要・目的]					
<p>バンツー諸語に属すスワヒリ語はタンザニアやケニアなど東アフリカを代表する共通語である。バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。教科書を用いて会話形式の文章の解説とともに文法を学び、作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。また教科書の会話表現には、衣食住や習慣など文化的な事柄が多く含まれる。その背景について授業中に説明を加えることで、言語だけでなくその地域の文化やものの考え方に関する知識を深める。関連する実物や画像、映像は授業中に紹介される。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する。 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てることができる。 3：短い日常会話の流れを把握できる。 4：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション / スワヒリ語文法の概要 第2回 第1課 / 現在時制 第3回 第2課 / コピュラ文 第4回 第4課 / 所有表現 第5回 第5課 / 未来時制 第6回 名詞クラス 第7回 第3課 / 存在表現 第8回 第1～5課の復習と補足説明 第9回 第6課 / あいさつ表現 第10回 第7課 / 過去時制 第11回 第8課 / 完了時制 第12回 第9課 / 形容詞 第13回 第10課 / 接続形 第14回 第6～10課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する。</p>					
----- スワヒリ語 (初級) (語学)(2)へ続く -----					

スワヒリ語 (初級) (語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社, 2018）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/wl/sw/index.html>（大阪大学言語文化研究科言語社会専攻/日本語専攻）高度外国語教育全国配信システムプロジェクトによるスワヒリ語独習コンテンツ。「文字と発音」では、実際の発音を映像付きで確認できる。）

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各課の予習・復習は必須とする。各課の本文については、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。
課題の提出を求められる場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外でご質問などがある際はメールでご連絡ください。メールアドレスはKULASISのオフィスアワーで確認できます。授業に関するお知らせなどについてはPandAを利用しますので、PandAのチェックを怠らないようにして最新の情報にご注意ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学32

科目ナンバリング	G-LET49 89625 LJ48				
授業科目名 <英訳>	スワヒリ語 (中級) (語学) Swahili	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 井戸根 綾子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	スワヒリ語 (中級)				
[授業の概要・目的]					
<p>教科書はスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説とともに文法を学び、作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。教科書の基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその文化的背景についても説明し、関連する実物や画像、映像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化やものの考え方についての知識も深める。</p>					
[到達目標]					
<p>1：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解する。 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話すことができる。 3：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる。 4：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODククション / 第1～10課の復習 第2回 第11課 / 時間 第3回 第12課 / 指示詞 第4回 第13課 / 使役 第5回 第14課 / 条件節 第6回 関係節 第7回 第15課 / 受身 第8回 第11～15課の復習と補足説明 第9回 第16課 / 相互形 第10回 第17課 / 仮想時制 第11回 第18課 / 複合時制 第12回 第19課 / ことわざ・なぞなぞ 第13回 第20課 / 手紙の書き方 第14回 第16～20課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック なお、授業の進度は適宜調整する。</p>					
----- スワヒリ語 (中級) (語学)(2)へ続く -----					

スワヒリ語 (中級) (語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況(30%)、期末試験の結果(70%)により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』(白水社, 2018) ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

教科書の名課の予習・復習は必須とする。各課の本文については、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。
課題の提出を求められる場合がある。

(その他(オフィスアワー等))

授業時間外でご質問などがある際はメールでご連絡ください。メールアドレスはKULASISのオフィスアワーで確認できます。授業に関するお知らせなどについてはPandAを利用しますので、PandAのチェックを怠らないようにして最新の情報にご注意ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学33

科目ナンバリング	G-LET49 89652 LJ48				
授業科目名 <英訳>	満州語(初級)(語学) Manchu	担当者所属・ 職名・氏名	関西大学外国語学部 教授 松岡 雄太		
配当学年	全回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	満洲語入門および満洲語学概論				
[授業の概要・目的]					
<p>17世紀以降、中国に清朝を起こした満洲族の言語であり、かつ清朝の公用語でもあった満洲語の文語を入門レベルから学ぶ。満洲語はいわゆるアルタイ型言語の一つだが、同じアルタイ型言語に含まれる日本語などと比べながら学習することで、言語類型論に関する知識の修得も目指す。また、過去の先人たちが満洲語をいかに学習・研究してきたかを知ることで、話者数の多さや実用性ばかりに目が行きがちな外国語学習の現状にあって、外国語(特に少数民族言語)を学ぶ意義について考える機会にもしたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 満洲文字を読み、かつローマ字で転写できるようになる。 ・ 満洲語の基本的な文法知識を修得する。 ・ 満洲語がどのような言語か、類型論的な観点から理解する。 ・ 辞書さえあれば今後も引き続き独学で満洲語を学習・研究できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>【1日目】 第1回 満洲族と満洲語、満洲語を学ぶ意義、学習工具類の紹介など 第2回~第3回 満洲文字の読み書きとローマ字転写の練習</p> <p>【2日目】 第4回~第6回 満洲文字の読み書きとローマ字転写の練習(続)</p> <p>【3日目】 第7回 辞書の使い方、満洲語の文構造 第8回~第9回 満洲語文献の読解練習</p> <p>【4日目】 第10回~第12回 満洲語文献の読解練習(続)</p> <p>【5日目】 第13回~第14回 東アジアにおける満洲語研究史 第15回 授業の総括</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 満洲語(初級)(語学)(2)へ続く -----					

満州語 (初級) (語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価(授業への参加状況、予習・復習、小テスト、授業内の発言など)

[教科書]

使用しない
適宜、プリントを配布する

[参考書等]

(参考書)

河内良弘・清瀬義三郎則府 『満洲語文語入門』(京都大学学術出版会, 2002) ISBN:9784876984459

津曲敏郎 『満洲語入門20講』(大学書林, 2002) ISBN:9784475018579

河内良弘 『満洲語辞典 増補改訂版』(松香堂書店, 2018) ISBN:9784879747457

河内良弘 『満洲語辞典 改訂増補版 日本語語彙索引』(松香堂書店, 2021) ISBN:9784879747617

[授業外学修(予習・復習)等]

満洲文字の学習や文献講読の日には、毎日授業外学修課題(宿題)が出されるだろう。その課題に耐えられるだけの忍耐力、授業外学習時間の確保、体調管理が求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学34

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学 (特殊講義) Sociology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 文学研究科	准教授 准教授	安里 和晃 Stephane Heim
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	次世代グローバルワークショップ The Next-Generation Global Workshop				
[授業の概要・目的]					
<p>この科目は17年間にわたって実施されてきた「次世代グローバルワークショップ」をベースにしたものである。2024年度のワークショップのテーマは"Cinema Studies in Asia and Europe" (仮題)を予定しており、京都大学での開催を予定している。募集要項は5月に示され、応募書類のスクリーニングをもって報告者が決定される。ワークショップは9月末を予定しているが、それまでにフルペーパーの提出が必要であり、これらの論文はProceedingsに掲載される予定となっている。詳細情報については、5月初旬ごろ以下のアジア研究教育ユニットのウェブサイトで公開される予定。これまでのワークショップについても以下よりアクセスが可能である。 http://www.kuas.cpi.kyoto-u.ac.jp/</p> <p>The Next-Generation Global Workshop (NGGW) has been held annually since 2008 to provide an opportunity for early-career scholars to present their research and to have feedback from an international audience. Please see the detail in the call for papers as follows after April http://www.kuas.cpi.kyoto-u.ac.jp/</p>					
[到達目標]					
<p>示されたテーマに従い英語論文を執筆し、研究者間の交流を主体的に進めつつ、英語で研究報告を行う。京都大学での開催であり、国際舞台の第一のステップとして参加しやすく、大きな成果が期待される。</p> <p>It has proved to be a pleasant and effective way for capacity building through the mentorship of professors from different universities in different areas of the world. It has also provided invaluable opportunities for all participants to learn from their fellow participants with different perspectives and to deepen their understanding of various social phenomena in the world, particularly in Asia. Ultimately, the NGGW has served as a forum for scholars of different generations from various regions to build a common academic foundation by redefining Asia in the global context. You can access the workshop proceedings below. https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/262982</p>					
[授業計画と内容]					
<p>示されたテーマにしたがって英語論文を執筆し、英語で研究報告を行う。報告にあたっておおまかなプロセスは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. タイトルの作成 2. 要旨の作成 3. 応募書類の作成と応募 4. 論文執筆 (6000語程度) 5. 校閲 6. 発表原稿作成 7. 発表演習 					
----- 社会学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

社会学 (特殊講義)(2)

- 8 . 修正
- 9 . 報告
- 10 . 大学教員からのコメントと返答
- 11 . 全体のディスカッション
- 12 . 研究者間交流
- 13 . 論文のリライトと編集
- 14 . 論文および研究構成に関する宣誓書の確認・提出
- 15 . プロシーディングス掲載と確認

ワークショップでは世界各地からの参加者と同じセッションで報告し、やはり世界各地から参加する大学教員からコメントを受ける。国際会議での学術発表の実践的経験を積む貴重な機会である。

Writing an English Paper and Presentation Report Based on the Assigned Theme

The general process for the report is as follows:

1. Title Creation
2. Abstract Preparation
3. Submission of Application Documents and Application
4. Writing the Paper (Approximately 6,000 Words)
5. Proofreading
6. Preparation of Presentation Manuscript
7. Rehearsal for the Presentation
8. Revision
9. Presentation
10. Feedback and responses from professors
11. Overall Discussion
12. Networking Among Researchers
13. Rewriting and Editing of the Paper
14. Confirmation and Submission of Declaration on the Paper and Research Structure
15. Publication in the Proceedings

During the workshop, the submitted paper will be presented in the same session as participants worldwide and will receive feedback from participating professors from various universities. This is a valuable opportunity to gain practical experience in delivering academic research at an international conference.

【履修要件】

応募が必要。発表要旨を提出し、選考を通った者のみが報告を認められる。単位は認められないがオブザーバーとしての参加も可能。

Applicants must submit their abstracts in advance, and only those who pass the selection process will be accepted to give a presentation.

【成績評価の方法・観点】

ワークショップへの参加・研究報告(50%)と提出論文(50%)により評価する。

Based on the workshop participation/presentation (50%) and final paper(50%).

社会学 (特殊講義)(3)へ続く

社会学 (特殊講義)(3)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Tasks are based on calls for papers. 募集要項に従って準備を進める。

(その他 (オフィスアワー等))

ワークショップ参加希望者は

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

を通じてアポを取ること。(@)は@に。

Please get in touch with Prof. Asato asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

Or Kyoto University Asian Studies Unit

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 丸山 里美	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	質的調査の方法(専門社会調査士科目J)				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業では、質的調査の特徴と、代表的な手法および質的データの分析方法、および質的調査をめぐる現代的な課題について学ぶ。質的調査の手法として、参与観察、インタビューなどがあり、質的データの分析方法として、ライフヒストリー分析、グラウンデッドセオリーなど異なる方法と、それらの背後にある対象選定とデータ解釈に対する異なる態度がある。また今日において質的調査を実施するには、現場で経験する政治的社会的不正義への姿勢、個人の人権やプライバシーの尊重、対象者への成果の還元、書くことの権力性への自省など、判断することを求められる倫理的態度がある。これら質的調査をめぐる異なる手法とその態度、倫理的課題について、どのような議論がなされているかを、具体的な事例をもとに、演習形式で検討する。それを通して、自ら質的調査を実施し、質的調査に基づいた論文を書けるようになることが目的である。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 質的調査の特徴を説明できるようになる ・ 質的調査を計画し、実施することができる ・ 質的調査において必要となる倫理的態度を理解する 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方、自己紹介 2. 質的調査の特徴 3. 質的調査の歴史 4. 質的データの解釈と態度(1) 5. 質的データの解釈と態度(2) 6. 質的調査の倫理(1) 7. 質的調査の倫理(2) 8. 質的調査の代表的な成果(1): インタビュー 9. 質的調査の代表的な成果(2): 参与観察 10. 質的調査の代表的な成果(3): ライフヒストリー分析 11. 質的調査の代表的な成果(4): 相互行為分析 12. 質的調査の代表的な成果(5): グラウンデッドセオリー 13. 質的調査データの検討(1) 14. 質的調査データの検討(2) 15. 質的調査データの検討(3) 					
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----					

社会学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点50% + 期末レポート50%

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業は、質的調査を行ったことがある / 行う予定があることを前提にする。議論には積極的に参加してほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学36

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学 (特殊講義) Sociology (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 太郎丸 博	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	水4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会調査の実際 (社会調査士科目G)				
【授業の概要・目的】					
社会調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひとつとおり体験的に学習する。そのような体験を通して、講義で得た知識の身体化を目指す。そのためには、授業時間外の作業が多く必要となる。また、他の受講者との相談や共同作業も多くなる。					
【到達目標】					
調査の企画、実施、データの入力、分析、報告書の作成ができるようになる。					
【授業計画と内容】					
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1オリエンテーション 2 調査の企画 3仮説構成 4 調査項目の設定 5質問文・調査票の作成 6 プリテストと調査票の修正 7 対象者・地域の選定 8サンプリング 9 調査の実施 (調査票の配布・回収、面接) 10 エディティング 11 集計、分析 12 データの視覚化 13 仮説検証 14 報告書の作成 15フィードバック <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1オリエンテーション 2 データの入力・読み込み 3 単純集計表、ヒストグラムの作成 4 変数の操作の基礎 5変数の操作の応用 6 クロス集計表、帯グラフの基礎 7 クロス集計表、帯グラフの応用 8 散布図、箱ヒゲ図の作成 9 データセットの分割・結合 10 独立性の検定 11平均値の差の検定 					
----- 社会学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

社会学 (特殊講義)(2)

- 12 多重クロス表分析
- 13 回帰分析の基礎
- 14 回帰分析の応用
- 15 フィードバック

[履修要件]

社会調査士科目A～Eをあわせて受講することが望ましいが、強制ではない。

[成績評価の方法・観点]

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社) ISBN:978-4589032577

盛山 和夫 『社会調査法入門』(有斐閣) ISBN:978-4641183056

[授業外学修(予習・復習)等]

復習重視。宿題が頻繁に出る。

(その他(オフィスアワー等))

授業時間外にグループで実際の調査や調査票の作成、分析などを行う必要がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学37

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学 (演習) Sociology (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 Stephane Heim	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	水5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	質的調査に基づく研究				
[授業の概要・目的]					
この授業は、社会・文化をおもに質的に調査し、分析し、記述することに関わる根源的な問題について考察することを目的とする。受講生の報告と討論を中心とする形式で実施される。					
[到達目標]					
質的調査にもとづいて書かれた研究や、質的調査に関する諸問題に関する理論的知見を批判的に検討し、自身の研究に関する視座を獲得すること。					
[授業計画と内容]					
(前期)					
第1回 イン트로ダクション 自己紹介、講読文献の決定、発表担当者の決定					
第2回～第6回 文献講読 質的調査にもとづいて書かれた研究、質的調査に関する諸問題について書かれた文献を輪読し、議論を行う。					
第7回～第14回 研究報告 投稿論文、修士論文、博士論文のドラフト報告とそれに関する検討を行う。					
第15回 まとめ					
(後期)					
第1回 イン트로ダクション 講読文献の決定、発表担当者の決定					
第2回～第6回 文献講読 質的調査にもとづいて書かれた研究、質的調査に関する諸問題について書かれた文献を輪読し、議論を行う。					
第7回～第14回 研究報告 投稿論文、修士論文、博士論文のドラフト報告とそれに関する検討を行う。					
第15回 まとめ					
[履修要件]					
特になし					
----- 社会学 (演習)(2)へ続く -----					

社会学 (演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

報告と討議への参加によって評価する

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示をする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学 (演習) Sociology (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 丸山 里美	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	月5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	質的調査にもとづく研究				
[授業の概要・目的]					
この授業は、社会・文化をおもに質的に調査し、分析し、記述することに関わる根源的な問題について考察することを目的とする。質的調査にもとづいて書かれた国内外のトップジャーナルに掲載された論文を輪読し、上記の点について議論する。あわせて、受講者の修士論文・博士論文・投稿論文等について、中間報告を行い、議論する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 質的調査の方法と特徴について理解する ・ 質的調査にもとづく研究論文の記述の仕方を理解する 					
[授業計画と内容]					
【前期】 第1回 導入、自己紹介、講読文献の決定、発表担当者の決定 第2～14回 質的調査にもとづく論文の輪読、もしくは修士論文・博士論文・投稿論文の中間報告を行う。 第15回 まとめ 【後期】 第1回 導入、自己紹介、講読文献の決定、発表担当者の決定 第2～14回 質的調査にもとづく論文の輪読、もしくは修士論文・博士論文・投稿論文の中間報告を行う。 第15回 まとめ					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業での報告 60% + 議論への参加 40%					
----- 社会学 (演習)(2)へ続く -----					

社会学 (演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各々のテーマに沿った研究報告を行うための準備をする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学39

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学 (演習) Sociology (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 太郎丸 博	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	金4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会調査の実際とデータ分析 (専門社会調査士科目H・I)				
[授業の概要・目的]					
<p>社会調査を実践的に企画・設計し、実施し、分析・集計をおこなうための実践的な知識と能力を習得する。また、数理統計学の基礎を踏まえながら、多変量解析に共通する計量モデルを用いた分析法を基本的に理解することを目指す。コンピュータを使ったデータの分析とその結果の解釈に重点を置く。</p>					
[到達目標]					
<p>データ分析の応用力を身につけ、データ分析のためのテクニックの幅を広げる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 調査方法論、調査倫理 2. 調査企画と設計(1) 3. 調査企画と設計(2) 4. 仮説構成 5. 尺度構成法 6. サンプルないし対象者・フィールドの選定(1) 7. サンプルないし対象者・フィールドの選定(2) 8. 調査票の作成(1) 9. 調査票の作成(2) 10. 実査 11. 調査データの整理 (コーディング、データクリーニングなど) (1) 12. 調査データの整理 (コーディング、データクリーニングなど) (2) 13. グラフ作成、仮説の検証(1) 14. グラフ作成、仮説の検証(2) 15. 報告書の作成 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 回帰分析の復習 2. 非線形モデル (対数変換、二乗項の投入) 3. 交互作用効果の検討 4. モデルの選択 (AIC, BIC, F検定) 5. モデルの診断 (残差プロット、VIF) 6. 二項ロジスティック回帰分析(1) 7. 二項ロジスティック回帰分析(2) 8. 最尤推定法と尤度比検定(1) 9. 最尤推定法と尤度比検定(2) 					
----- 社会学 (演習)(2)へ続く -----					

社会学 (演習)(2)

10. 多項ロジスティック回帰分析(1)
11. 多項ロジスティック回帰分析(2)
12. 順序ロジスティック回帰分析(1)
13. 順序ロジスティック回帰分析(2)
14. 分析結果のまとめ方とグラフの利用(1)
15. 分析結果のまとめ方とグラフの利用(2)

[履修要件]

すでに社会調査士の資格を取得しているか、同等の知識を持っていることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習重視。宿題がでる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学40

科目ナンバリング	G-LET30 7M362 SJ45				
授業科目名 <英訳>	社会学 (演習) Sociology (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 紀行		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	火5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「後期近代」の社会学理論				
[授業の概要・目的]					
<p>「後期近代 (late modernity)」と呼ばれる現代社会について、過去の社会と比較したその構造的 特質や成立過程、多様性といった問題をマクロ社会的観点から検討する。そのために1980年代以 降に書かれた代表的な現代社会論の文献を輪読する。そのために1980年代以降に書かれた代 表的な現代社会論の文献を輪読する。A.ギデنز、U.ベック、Z.バウマン、N.ルー マン、I.ウォーラステイン、L.ポルトンスキー、H.ローザ、A.レクヴィッツ等の著作を順次取 上げ、彼らの社会理論とそれに基づく時代診断を比較検討する予定である。日本語訳のある著作に ついては基本的に翻訳を読む予定だが、後期には英語文献も取り上げる可能性がある。 またこれとあわせて受講者による研究報告 (テーマは上記の内容と無関係でもよい) も希望に応 じて適宜行う。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・後期近代社会に関する主要な社会学理論の特徴・問題点・課題について理解を深める。 ・自分の従事する経験的研究にどの理論がどのように利用できるかを学び、社会学理論への関心を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>前期 【第1回】イントロダクション 【第2回～第15回】テキストの講読。受講者の研究報告を適宜行う。</p> <p>後期 【第1回～第14回】テキストの講読。受講者の研究報告を適宜行う。 【第15回】まとめ</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
報告レジュメと授業中の発言によって評価する。					
----- 社会学 (演習)(2)へ続く -----					

社会学 (演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受講者は事前にテキストの該当箇所を読み、疑問点をできるだけ整理した上で授業に臨むことを求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学41

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 岸 政彦	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	月4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	質的調査の研究				
[授業の概要・目的]					
<p>前期は文献の購読をおこなう。「質的調査」とは何か、質的調査を通じて論文を書くことはどのようにして可能か、質的調査はどのように捉えられ、どのように批判され、それに対してどのように応答されてきたのか。あるいはより実践的に、これまで質的調査を通じた論文はどのようにして書かれてきたのか、そしてこれからどのように書いていくことが可能なのか。主にこれらの点について、国内外のトップジャーナルに掲載された論文の分析と批評を通じて、参加者全員によるディスカッションをおこなう。</p> <p>後期は、質的調査をおこなっている参加者がいれば、その方ご自身の研究について報告してもらう。調査計画の検討、データセッション、理論枠組みと分析概念の彫琢、そして実際の論文執筆まで、参加者全員で議論したい。</p> <p>もちろん質的調査をしない方も履修可能である。</p>					
[到達目標]					
<p>質的調査とは何か、質的調査を研究するとはどのようなことかについて専門的な知識と実践的な方法について学ぶ。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 導入 質的調査は何をするのか 2 質的調査の論文のレビューと分析、批判(1) 3 質的調査の論文のレビューと分析、批判(2) 4 質的調査の論文のレビューと分析、批判(3) 5 質的調査の論文のレビューと分析、批判(4) 6 質的調査の論文のレビューと分析、批判(5) 7 質的調査の論文のレビューと分析、批判(6) 8 質的調査の論文のレビューと分析、批判(7) 9 参加者による調査報告とディスカッション(1) 10 参加者による調査報告とディスカッション(2) 11 参加者による調査報告とディスカッション(3) 12 参加者による調査報告とディスカッション(4) 13 まとめ(1) 質的調査は何をしていくのか 14 まとめ(2) 何をすれば質的調査になるのか 15 まとめ(3) 質的調査の研究の研究 16 各自の調査計画の検討(1) 17 各自の調査計画の検討(2) 18 各自の調査計画の検討(3) 19 各自の調査計画の検討(4) 					
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----					

社会学 (演習)(2)

- 20 各自の調査計画の検討 (5)
- 21 データセッション 情報整理と分析の実際 (1)
- 22 データセッション 情報整理と分析の実際 (2)
- 23 データセッション 情報整理と分析の実際 (3)
- 24 データセッション 情報整理と分析の実際 (4)
- 25 データセッション 情報整理と分析の実際 (5)
- 26 理論枠組みの検討 先行研究批判と問題設定 (1)
- 27 理論枠組みの検討 先行研究批判と問題設定 (2)
- 28 理論枠組みの検討 先行研究批判と問題設定 (3)
- 29 理論枠組みの検討 先行研究批判と問題設定 (4)
- 30 1年のまとめ データと理論の接合をめざして

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポート50%、平常点50%

【教科書】

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』 (2016)
ISBN:978-4-641-15037-9

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

教科書、および授業中に紹介する文献は必ず読んでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学42

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45				
授業科目名 <英訳>	社会学 (特殊講義) Sociology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 丸山 里美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会調査入門 (社会調査士科目A)				
[授業の概要・目的]					
本講義では、「社会調査」について、その歴史や目的および意義、設計に関する基本的な考え方、具体的な調査手法の種類や特徴、調査を行なうときに気をつけるべきこと、といった基本的事項を学ぶ。なお、この科目は社会調査士資格認定科目【A】に相当する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の目的と意義を説明できる ・複数の社会調査について、それぞれの特徴を説明できる ・社会調査を実施する際の基礎的な考え方と倫理的態度を理解する 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査とは何か 2. 社会調査の目的と意義 3. 調査企画とテーマ設定 4. 社会調査の種類 5. 量的調査の特徴とそのプロセス 6. 量的調査の例 7. 質的調査の特徴とそのプロセス 8. 質的調査の例 9. 資料調査の特徴とそのプロセス 10. 資料調査の例 11. 公的統計、世論調査、マーケティング・リサーチ 12. 社会調査の歴史 13. 社会調査の倫理 14. 社会調査の現代的課題 15. 授業のまとめ 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点・小レポート(40%)、期末レポート(60%)					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- 社会学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

社会学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内でときどき課される課題に取り組む必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

他の社会調査士科目も受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学43

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学 (特殊講義) Sociology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 岸 政彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	質的調査の方法論 (社会調査士科目F)				
[授業の概要・目的]					
<p>「他者の合理性」という概念をキーワードにして、質的調査の方法論上の問題について概説する。まずは古典的なエスノグラフィであるポール・ウィリスの『ハマータウンの野郎ども』を取り上げ、「理にかなった行為」がどのようにして歴史と社会構造に規定され、またそれらを規定していくかについて述べる。次に、より最近のエスノグラフィである丸山里美、石岡丈昇、上間陽子、打越正行らの作品を取り上げ、かれらがどのようにして他者の行為の「理由」を記述しているかを解説する。そして私自身の調査の経験から、「人の語りを聞くこと」とはどのようなことかについて考える。最後にマックス・ウェーバーの「理解社会学」に立ち戻りながら、「他者の合理性」を記述するとはどのようなことかについて述べる。他にも、聞き取り調査や参与観察を実践する場合の、方法論的・倫理的・政治的問題にも触れたい。これらの議論を通じて質的調査の方法論上の可能性と課題についての理解を深めることがこの講義の目的である。</p>					
[到達目標]					
この授業を通して、科学的方法としての質的調査の歴史、理論、方法、実践について総合的・体系的に学ぶ。あわせて倫理的問題についても議論を深める。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 導入 質的調査は何をするのか 2 一般化という問題 普遍性と固有性のあいだで 3 「ハマータウン」の教室で何がおこなわれていたのか(1) 4 「ハマータウン」の教室で何がおこなわれていたのか(2) 5 「理由のある行為」とは何か(1) ウィリスとブルデュー 6 主体的なものと状況的なもの 丸山里美 7 身体と意味 石岡丈昇 8 「裸足」とは何か 上間陽子 9 男であることの社会学 打越正行 10 語りのなかに引きずり込まれる 岸政彦(1) 11 語り手から名前を呼ばれる 岸政彦(2) 12 聞くという経験を書く 岸政彦(3) 13 「理由のある行為」とは何か(2) ウェーバー 14 方法/倫理/政治 15 まとめ 質的調査は何をすればよいのか 					
----- 社会学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

社会学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポート70%、平常点30%。

[教科書]

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』（2016）
ISBN:978-4-641-15037-9

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書、および授業中に紹介する文献は必ず読んでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学44

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45			
授業科目名 <英訳>	社会学 (特殊講義) Sociology (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 太郎丸 博	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	基本的な統計資料とデータの分析 (社会調査士科目C)				
【授業の概要・目的】					
<p>この授業では、データの分布を要約する方法やグラフを使った視覚化の方法や質的データのまとめ方や読み方を概説する。大量のデータを扱う場合、それらをすべて読者に提示することは不可能なので、データをうまく要約する必要が生じることが多い。このような方法論は、データを扱う多くの学問分野で役に立つだろう。</p> <p>なお、この授業は社会調査士科目Cに該当する。</p>					
【到達目標】					
<p>この授業の到達目標はデータを要約するための方法の習得である。具体的には、自分自身で、そのような方法を用いて、データを要約できるようになるだけでなく、他人が要約したデータを読解できるようになることを目指す。</p>					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1.問題：大量のデータをどう処理するか？ 2.度数分布表と代表値とバラツキの尺度 3.不平等の指標 4.クロス表の分析 5.相関係数と非線形関係 6.因果分析と相関、疑似相関 7.データの視覚化：グラフの種類と作成、読解時の注意 8.多重クロス表の分析 9.公開されている集計表と表計算 10.ソフトを利用した二次分析の実習 11.オンライン集計システムを使った二次分析の実習 12.データの分類：クラスター分析 13.大量の質的データをどう扱うか？ 内容分析、テキストマイニングとコンピュータ支援質的データ分析ソフトウェア (CAQDAS) 14.「何人インタビューすればいいか？」問題：研究目的、研究対象、調査/分析プラン 15.フィードバック 					
【履修要件】					
特になし					
----- 社会学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

社会学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを2本提出し、それらの平均点を成績とする。2つレポートを提出することが必須。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

盛山和夫 『社会調査法入門』 (有斐閣) ISBN:978-4641183056

轟亮・杉野勇・平沢和司編 『入門・社会調査法〔第4版〕2ステップで基礎から学ぶ』 (法律文化社) ISBN:978-4-589-04141-8

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ Googleアカウントが必要。
- ・ 授業時には、インターネットに接続できる自身のPC (またはPCに準じる機器) が必要。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学45

科目ナンバリング	G-LET30 67331 LJ45				
授業科目名 <英訳>	社会学 (特殊講義) Sociology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 安里 和晃		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	Qualitative Research and Community Fieldwork in and around Kyoto				
[授業の概要・目的]					
<p>This class will cover social research methods, mainly qualitative research. In view of the relaxed restrictions on movement under COVID-19, we are also planning to conduct fieldwork.</p> <p>Social research is a process and method of recognizing and understanding social phenomena by collecting data from the real world through experience, observation, participation, interviews, action, questionnaires, and so forth, and then by analyzing, interpreting, and integrating the obtained data. Through social research, we become aware of why certain phenomena occur, the relationship between structure and agency, the gap between institutions and reality, and how people think and feel the way they do. Finally, researchers approach social reality through research and sometimes change reality through action. Although there are many books on social research methods, this class will focus primarily on how to think about methodology rather than discussing methodology per se as a technical issue.</p> <p>During the first month, a lecture is given on his research experiences. The purpose is to stimulate discussion by making his experience a reference point. Then we will read some literature on qualitative research covering conventional interview research, which is subjective-objective binary used by many researchers. This will be useful for students in conducting qualitative research. In addition, we will also deal with research on colonial/post-coloniality, low-end globalization, and papers on non-binary research such as action research and commitment. Though spotty for this class, fieldwork will also be conducted at social welfare facilities, public schools, and the historical buraku community.</p>					
[到達目標]					
<p>This course provides an opportunity for mainly non-Japanese students to explore aspects of Japanese society that students may not be able to learn through prior knowledge. The course format involves studying topics such as outcast community, ethnic minorities, undocumented migrants, homelessness, and nursing homes, then students will gain a deeper understanding by actually visiting these communities and conducting interviews.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>The organization of the course is as follows.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. introduction 2. research experience (1) fieldwork in a local community 3. research experience (2) interviewing migrants/stakeholders 4. research experience (3) approach to the vulnerable and reciprocity in research 5. research experience (4) advocacy 6-7. experiencing community visits: poverty, houselessness and ageing in Osaka 8-9. experiencing community visits: being undocumented in Japan 10-11. experiencing community visits: ethnic Koreans under gentrification 					
社会学 (特殊講義)(2)へ続く					

社会学 (特殊講義)(2)

- 12-13. experiencing community visits: elderly care and ability to perceive scape
14. reading ethnography: globalizations
15. feedback

Field visits will take at least half a day or longer, so please be aware of this in advance.

【履修要件】

This course is primarily designed for graduate students enrolled in the joint degree master program in Transcultural Studies at Kyoto and Heidelberg University who seek to understand Japanese society through qualitative research. Due to the nature of the course, priority is given to the joint degree students and MA students.

【成績評価の方法・観点】

Short papers based on community visits and class participation.

【教科書】

授業中に指示する

During class, English literature on topics such as Zainichi Koreans, Buraku communities, poverty and homelessness, migration and other issues related to education and welfare will be distributed.

【参考書等】

(参考書)

Corrigall-Brown, Catherine, 2020, *Imagining Sociology: An Introduction with Readings*, 2nd ed., Ontario: Oxford University Press Canada.

Marvasti, Amir, B., 2004, *Qualitative Research in Sociology*, London: Sage Publications.

Mirfakhraie, Amir, 2019, *A Critical introduction to Sociology: Modernity, Colonialism, Nation-Building, Post-Modernity*, Dubuque: Kendall Hunt Publishing Company.

Scheper-Hughes, Nancy, 1995, " The Primacy of the Ethical: Propositions for a Militant Anthropology, " *Current Anthropology*, 36(3): 409-440.

Scheper-Hughes, Nancy, 2009, " The Ethics of Engaged Ethnography: Applying a militant Anthropology in Organs-Trafficking Research, " *Anthropology News*: 13-14.

Francis, Nyamnjoh, B., 2015, " Beyond an evangelising public anthropology: science, theory and commitment, " *Journal of Contemporary African Studies*, 33 (1): 48- 63.

【授業外学修（予習・復習）等】

Preparation and review of relevant literature on community visits.

(その他（オフィスアワー等）)

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

(@) indicates @.

社会学 (特殊講義)(3)へ続く

社会学 (特殊講義)(3)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 27102 LJ46			
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (心理学) (講義 I) Psychology (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 蘆田 宏 人と社会の未来研究院 教授 阿部 修士 情報学研究科 教授 熊田 孝恒 文学研究科 教授 黒島 妃香 文学研究科 准教授 森口 佑介 文学研究科 講師 Duncan Wilson 文学研究科 助教 山崎 大暉	
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	月3	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	実験心理学概論				
【授業の概要・目的】					
この講義の目的は、実験心理学の基礎的知識から最新の研究成果を身につけることにある。多様な心理学領域から、行動の科学としての目的、問題、手法、考え方などを学ぶとともに、最新の研究成果を知ることによって実験心理学を概観する。					
【到達目標】					
実験心理学の多様な領域に関する基本事項を理解するとともに、その最新の研究成果に触れることによって現在の研究の動向を理解することができるようになる。					
【授業計画と内容】					
ヒトや動物の行動を解明するための実験心理学的手法とその成果について、最新のトピックやデモを織り込みながら、講座の教員全員および関連部局の教員によるリレー形式で講じる。 講義内容は以下の通りである。必修科目ではないが、心理学専修を希望する者はぜひ履修するよう強く推奨したい。					
第1回 実験心理学とは何か (全員) 第2回 脳と神経 (蘆田) 第3回 感覚知覚の諸相 (蘆田) 第4回 感覚知覚の歴史と基本法則 (蘆田) 第5回 心理物理学的測定法 (蘆田) 第6回 知能 (蘆田) 第7回 社会的認知 (阿部) 第8回 意思決定 (阿部) 第9回 注意 (熊田) 第10回 実行機能 (熊田) 第11回 多感覚知覚 (山崎) 第12回 知覚と身体 (山崎) 第13回 学習理論 (黒島) 第14回 記憶 (黒島) 第15回 前期総括 (黒島) 第16回 後期導入 (黒島) 第17回 思考・推理 (黒島) 第18回 社会的知性 (黒島)					
系共通科目 (心理学) (講義 I)(2)へ続く					

系共通科目 (心理学) (講義 I)(2)

- 第19回 伴侶動物のこころ (黒島)
- 第20回 動物心理学と動物の福祉 (Wilson)
- 第21回 認知バイアスと感情 (Wilson)
- 第22回 脳と行動の一側優位性 (Wilson)
- 第23回 顔認知 (Wilson)
- 第24回 認知発達 (森口)
- 第25回 認知発達 (森口)
- 第26回 脳発達 (森口)
- 第27回 意識研究 (森口)
- 第28回 意識の発達 (森口)
- 第29回 総括 (全員)
- 第30回 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験 (筆記) による(100%)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
京都大学心理学連合 『心理学概論』 (ナカニシヤ出版) ISBN:9784779503993 (心理学の全貌を基礎から知るための概論書。)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

紹介された文献や参考図書を読んでおくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

心理学専修を希望する可能性がある者は、2回生で履修することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37139 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義)(臨床心理学概論) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	教育学研究科 准教授 梅村 高太郎		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	臨床心理学概論Ⅰ				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、心理療法の基盤を成す臨床心理学について概説する。まず、臨床心理学の成り立ちとその歴史的背景を説明し、次に代表的な理論やアプローチ(精神分析、分析心理学、人間性心理学、認知行動療法など)について詳しく論じる。さらに、心理アセスメントの理論と技法、臨床心理学の研究方法についても解説する。最後に、神経症、発達障害、思春期の問題、親子関係などの具体的なトピックを取り上げ、心理臨床実践の実際を紹介する。これらの学びを通じて、心理専門職として必要な臨床心理学の基礎を身につけることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理学の成り立ちと方法論について理解する。 臨床心理学の基本的な理論と主要アプローチを理解する。 心理臨床実践の実際を知ることを通じて、心理療法の技法と基本的姿勢について理解する。 					
[授業計画と内容]					
<p>基本的には以下のプランに沿って授業を進める。ただし、実施順序や内容は、変更する可能性がある。</p> <p>授業は、講師から当該回の内容に関する講義に先立ち、授業冒頭に受講生から提出された前回授業に対するコメントについてフィードバックを行う形で進める。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 臨床心理学の成り立ち 3. 臨床心理学の基礎理論 : 精神分析的アプローチ 4. 臨床心理学の基礎理論 : 分析心理学的アプローチ 5. 臨床心理学の基礎理論 : 人間性アプローチ 6. 臨床心理学の基礎理論 : 認知行動アプローチ 7. 臨床心理学の基礎理論 : 非言語的アプローチ 8. 臨床心理学の基礎理論 : 補遺 9. 心理アセスメント 10. 臨床心理学の研究 11. 心理臨床の実際 : 神経症 12. 心理臨床の実際 : 発達障害 13. 心理臨床の実際 : 思春期 14. 心理臨床の実際 : 親子の問題 15. フィードバック 					
----- 心理学(特殊講義)(臨床心理学概論)(2)へ続く -----					

心理学 (特殊講義) (臨床心理学概論) (2)

[履修要件]

イントロダクションで説明する、事例についての守秘義務に関する約束を守れること。

[成績評価の方法・観点]

【評価方法】

平常点評価：100%（コメントカード60%、小テスト：40%）

【評価方針】

到達目標について、教育学部の成績評価の方針に従って評価する。

[教科書]

授業資料はPandAを通じて配布を行う（紙媒体での配布は行わない）。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・特別な予習は必要ないが、授業時に適時小テストを行うため、履修した内容について各自が確認し、理解を深めておくことが望ましい。
- ・授業の印象が薄れないうちに、授業を受けて感じたこと、考えたことについて記し、コメントカードを提出する。

（その他（オフィスアワー等））

【関連する科目】

臨床心理学概論（心理学的支援法）

【受講生へのアナウンス】

本授業は、教育心理学系に所属するための系分属指定科目である。詳細は『便覧』を参照のこと。

【オフィスアワー】

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37125 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義)(心理学的支援法) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	教育学研究科 教授 松下 姫歌		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	心理学(特殊講義)(心理学的支援法)				
[授業の概要・目的]					
<p>心理療法とは何か、治癒や成長とは何か、という本質的問題を根底において、その基礎理論である臨床心理学について概説し、心理療法および心理学的支援法について論じる。</p> <p>臨床心理学および心理療法の歴史的背景と代表的理論の3大潮流(オリエンテーション)について概観し、それらの共通点と相違点を踏まえた上で、あらゆる心理臨床の基盤となりうる理論として、ユングの分析心理学を取り上げ、その理論と実践のエッセンスについて論じるとともに、他学派の心理療法の理論や関連領域の理論との共通点や相違点についてもとりあげて論じる。これらを通じ、既存の理論の単なる応用ではなく、理論をクリティカルに敷衍することで、心における多様な問題とそのアプローチについて検討し、実践につなげていく基礎的な力を涵養することを目的とする。</p> <p>また、心の問題は、人が生きるさまざまな分野・領域にかかわる。保健医療分野や学校教育分野をはじめ、主要5分野において、乳幼児期から老年期にわたる幅広い対象と多様な問題について、事例をとりあげつつ、問題の理解と支援の実際について具体的検討を通じて学ぶことを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>精神疾患の分類も含めた臨床心理学、および心理臨床の実際に関する基礎的な理解力を身につける。</p> <p>また、そのための前提として、心理学的支援法に関する以下の初歩的な基本的事項について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応および適用の限界について概説できる。 (2) 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。 (3) 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。 (4) 心理学的支援に必要なコミュニケーション能力を身に着ける。 (5) 心理学的支援における倫理について理解し、心理に関する支援を要する者等のプライバシーへの配慮ができる。 					
[授業計画と内容]					
<p>授業計画と内容は以下を予定している。但し、受講生の理解度等に応じて部分的な変更を加えることがある。</p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：臨床心理学とその成り立ち</p>					
心理学(特殊講義)(心理学的支援法)(2)へ続く					

心理学 (特殊講義) (心理学的支援法) (2)

- 第3回：臨床心理学と心理療法：代表的理論の3大潮流をめぐって：力動的アプローチ
第4回：臨床心理学と心理療法：代表的理論の3大潮流をめぐって：認知行動的アプローチ・人間学的アプローチ
第5回：心と心的体験の理解：日常的体験と老年期の問題・認知症の理解と支援
第6回：心の危機論：中年期の問題・うつ病の理解と支援
第7回：心の危機論：思春期の問題・不登校の理解と支援
第8回：心の危機論：親子の問題（非行，虐待）の理解と支援
第9回：心の危機論の敷衍・主体の問題：強迫性障害の理解と支援
第10回：主体の問題：発達障害の理解と支援
第11回：主体の問題：妄想症の理解と支援
第12回～第13回：主体の問題：統合失調症の理解と支援
第14回：非言語的アプローチ
第15回：期末試験 / 学習到達度の評価，心理療法と臨床心理学の本質・まとめ
第16回：フィードバック（方法は別途連絡します）

【履修要件】

事例を扱うため、守秘義務や資料等の取扱いについて、ルールを守ることができること。

【成績評価の方法・観点】

- 【評価方法】 1. 毎回の授業終了時に提出する小レポート（30点）
2. 年度末(授業の最終回頃)に行う筆記試験（70点）
【評価基準】到達目標について、文学部・文学研究科の成績評価基準に従って評価する。

【教科書】

松下 姫歌 『ネガティブ・イメージの心理臨床』（創元社, 2021）ISBN:978-4422117690
松下 姫歌 『心的現実感(リアリティ)と離人感』（創元社, 2019）ISBN:978-4422116471

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習
・指示された参考資料を読んでおく。
・自ら積極的に関連する資料を収集し、問題意識をもって授業に臨むことが望ましい。

復習
・授業内容についての理解度を確認する。
・授業を通じて得た知識や疑問等をきっかけに、自ら積極的に関連する資料を収集し、理解を深めることが望ましい。

心理学 (特殊講義) (心理学的支援法) (3)

(その他(オフィスアワー等))

授業前後の時間、もしくは授業時の小レポートで、考えたことや疑問等を受け付ける。必要なフィードバックを行うことで、対話的に授業をすすめる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学49

科目ナンバリング		U-LET28 27106 LJ46			
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (心理学) (講義IIb) Psychology (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 黒島 妃香	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	知性と感情の系統発生論				
[授業の概要・目的]					
多様な動物種の知性と感情の機能を学び、それらがいかに進化したのか、ヒトの心の働きは其中でいかに位置づけられるのかを考察する。					
[到達目標]					
動物たちのゆたかな心の働きを知り、心の多様性を学び、ヒトの心を相対化することを通じて、ヒト中心主義を脱し、新たなヒト観を構築する。ヒトが決して特別な存在ではないこと、多様な心の存在が地球共生系の未来へのカギであることを理解し、全ての生にとって真に幸福な未来を志向した、新たな行動指針を考える力を身につける。					
[授業計画と内容]					
ヒトの心の機能は数十億年にわたる進化の所産である。化石種の心が直接的に調べられない以上、他の現生動物種の心の働きを分析し、相互に比較することが、その過程を跡づけるための可能な唯一の方法である。講義では、学習の原理について復習したあと、比較認知科学的観点から、多様な動物種の感覚や知覚、記憶、言語、概念形成、感情、社会的知性、意識などについて現在までに得られた諸事実を紹介し、心の多様性とその進化について論じるとともに、ヒトの心を動物たちの心の中にどのように位置づければよいかを考える。以下の予定で講じるが、適宜変更もありうる。					
<ol style="list-style-type: none"> 1．イントロ - 比較認知科学事始め 2．学習 1 (学習の基本的諸原理) 3．学習 2 (学習の生物学) 4．動物たちから見た世界 - 感覚・知覚 1 (色彩視) 5．動物たちから見た世界 - 感覚・知覚 2 (形態視) 6．動物たちの記憶 7．動物たちの思考 1 (推論) 8．動物たちの思考 2 (概念) 9．動物たちのコミュニケーション 10．動物たちの感情 11．動物たちの社会的知性 1 (欺きと協力) 12．動物たちの社会的知性 2 (社会的知性の諸要素) 13．動物たちの意識と内省 1 (自己認知・メタ認知) 14．動物たちの意識と内省 2 (心的時間旅行) 15．総括 					
----- 系共通科目 (心理学) (講義IIb)(2)へ続く -----					

系共通科目 (心理学) (講義IIb)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

評価方法：講義後に行う小クイズや小レポートなどによる平常点（50%）、及び期末レポート（50%）により評価

評価基準：期末レポートについては、到達目標の達成度に基づき評価する

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の講義内容を、レジюмеや教科書、参考書などを参照して、整理しておくことが重要である。

（その他（オフィスアワー等））

受講者には、毎回の授業への出席と、積極的な質問や討論を期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学50

科目ナンバリング	U-LET28 27109 LJ46				
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (心理学) (講義IIe) Psychology (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 蘆田 宏		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火2	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	心理学講義IIe：知覚心理学				
[授業の概要・目的]					
人間の感覚・知覚について、視知覚を中心に概説する。心理物理学、解剖学、神経生理学などの知見をあわせて感覚・知覚の諸機能とそのメカニズムについて理解を深めることを目的とする。					
[到達目標]					
ヒトの知覚機能についての基本的事項を理解し、心理学におけるより専門的なトピックを理解するための基礎を習得する。					
[授業計画と内容]					
講義内容は次の通り。					
<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction 2 感覚知覚の一般的特徴 3 視覚システムと基礎機能 4 色の知覚 5 明るさとコントラストの知覚 6 かたちの知覚 7 3次元空間の知覚 8 運動の知覚 9 聴覚 10 音楽知覚 11 その他の感覚と相互作用 12 感性工学 13 視覚の諸相 14 総括 15 期末試験 16 フィードバック (実施方法は授業中に指示する) 					
なお、状況により一部の順序、内容を変更する可能性がある。					
[履修要件]					
特になし					
----- 系共通科目 (心理学) (講義IIe)(2)へ続く -----					

系共通科目 (心理学) (講義IIe)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末試験（筆記）による。講義範囲についての到達目標達成度により評価する。
授業内での発言等により加点する場合がある。

[教科書]

吉澤達也 編 『感覚知覚の心理学』（朝倉書店, 2023）ISBN:978-4-254-52034-7（購入必須ではないが強く推奨する。）

[参考書等]

（参考書）

北岡明佳 編著 『知覚心理学』（ミネルヴァ書房, 2011）ISBN:978-4-623-05769-6（必ずしも購入する必要はないが、授業で参照する場合がある）

[授業外学修（予習・復習）等]

講義の後に教科書や関連する本，ウェブサイトなどを見て基本的事項を確認するとともに，各自の興味に合わせてより詳細な理解を得るように努める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは設定しない。面談希望はメールで受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学51

科目ナンバリング	U-LET28 27113 LJ46				
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (心理学) (講義IId) (発達心理学) Psychology (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 森口 佑介		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火2	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	認知発達論 (発達心理学)				
[授業の概要・目的]					
<p>ヒトの認識はいかに発生するのか。19世紀末から本格的に問われるようになった認知発達に関する問題は、20世紀に著しく発展し、21世紀には神経科学や生物学、言語学、社会学、経済学、教育学などとの接点を得て、新しい展開を迎えている。本講義では、認知発達に関する歴史的経緯を概観したのちに、認知発達の最新の知見について紹介する。とりわけ、主観的経験や意識、情動がどのように発生してくるのか、子どもと大人でどのように異なるのかを講義する。</p>					
[到達目標]					
ヒトの認知発達に関するプロセスやメカニズムを説明できるようになる。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 認知発達理論小史(1)ピアジェ 3 認知発達理論小史(2)ヴィゴツキーから新生得主義まで 4 認知発達理論小史(3)情報処理理論からコネクショニズムまで 5 脳の発達理論 6 意識の理論 7 意識の発達理論 8 視覚的意識の発達 9 夢と自伝的記憶の発達 10 子どものクオリア 11 想像力の発達 12 情動の発達 13 自己制御の発達 14 発達障害 15 まとめ 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点評価 (50点) およびレポート課題を課す (50点)					
[教科書]					
使用しない					
----- 系共通科目 (心理学) (講義IId) (発達心理学)(2)へ続く -----					

系共通科目 (心理学) (講義IId) (発達心理学)(2)

[参考書等]

(参考書)

森口佑介 『おさなごころを科学する 進化する乳幼児観』 (新曜社)

森口佑介 『自分をコントロールする力 非認知スキルの心理学』 (講談社現代新書)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業中に別途指示する。読んでおくべき論文や文献等紹介する。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学52

科目ナンバリング		U-LET28 37134 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学 (特殊講義A) (神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究所 教授 月浦 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	神経心理学				
[授業の概要・目的]					
<p>脳の様々な疾患によってヒトの脳が損傷されると、その損傷した領域の違いによって、言語や行為、記憶などの様々なタイプの高次脳機能障害が起こる。本講義では、これらの高次脳機能障害を理解することによって、脳を媒介とした心理メカニズムを理解することを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトのさまざまな認知機能が脳を媒体としてどのように表現されているのかについて、基礎科学としての認知神経科学についての理解を深める。 ・脳の疾患によって起こる様々な高次脳機能の障害についての臨床的観点からの知識を習得する。 ・脳を介して心の働きを客観的に理解することを通じて、自らを客観的にみつめる力を体得する。 					
[授業計画と内容]					
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体としているが、脳が様々な疾患（脳梗塞・脳出血・変性疾患等）によって（局所的に）損傷されると、その損傷領域の違いによって様々なタイプの高次脳機能障害が起こる。その事実は、損傷した領域と障害を受けた脳機能との間の相関関係を我々に示し、そこから脳を媒体とした認知機能のメカニズムを推測することができるようになる。本講義では、様々な高次脳機能障害を解説することによってその病態を臨床的に理解し、そこからヒトの高次な認知機能の基盤となる脳内メカニズムを理解することを目指す。</p> <p>講義で扱う内容は概ね以下のとおり。以下のテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業を行う。順番や番号は目安であり、多少変更する可能性もあります。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1．授業のガイダンスと神経心理学の方法の概説 2．基本的脳解剖 3．視覚認知の障害 4．行為の障害 5．言語の障害 6．言語の障害 7．記憶の障害 8．記憶の障害 9．感情と情動の障害 10．前頭葉機能の障害 11．神経心理学的検査 12．神経心理学的検査 13．「知・情・意」の神経心理学 14．教養教育実習 15．期末試験 					
心理学 (特殊講義A) (神経・生理心理学)(2)へ続く					

心理学 (特殊講義A) (神経・生理心理学)(2)

16. フィードバック (フィードバック方法は別途連絡します)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

原則的に、試験(100点)によって評価する。ただし、試験の得点に平常点を考慮することもある。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。配布資料についてはKULASISにもアップするので、自習の際に活用すること。

【参考書等】

(参考書)

松田実 『初学者のための神経心理学入門』(新興医学出版社)
河村満・高橋伸佳 『高次脳機能障害の症候辞典』(医歯薬出版)
山鳥 重 『神経心理学入門』(医学書院)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業の前日までには授業資料をクラス上にアップロードするので、事前に内容を確認しておくこと。授業後には授業内容と資料を照らし合わせた上で、必要に応じて復習をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

履修希望者が教室定員を大きく超える場合は履修制限を行う。履修制限の方法は別途指示する。オフィスアワーについては、KULASISを参照のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37135 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学 (特殊講義B) (神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 月浦 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	神経心理学				
[授業の概要・目的]					
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体として制御されている。近年、機能的磁気共鳴画像法 (fMRI) などの脳機能イメージング法の発展により、ヒトの高次な認知過程に関連する脳の神経活動のパターンを可視化することが可能になってきている。本講義では、高次脳機能障害を呈する脳損傷患者の事例と、健常者を対象とした高次脳機能に関連する脳機能イメージング研究を対比して解説し、その基盤となる脳内機構を理解することを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトのさまざまな認知機能が脳を媒体としてどのように表現されているのかについて、基礎科学としての認知神経科学についての理解を深める。 ・脳機能イメージングの方法についての基礎的知識を習得する。 ・脳を介して心の働きを客観的に理解することを通じて、自らを客観的にみつめる力を体得する。 					
[授業計画と内容]					
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体として制御されている。ヒト認知機能の脳内メカニズムに関しては、伝統的に脳損傷患者を対象として損傷領域と特定の認知機能の障害パターンから研究が行われてきた。しかし、近年の脳機能イメージング技術の発達により、健常者を対象として認知機能に關与する脳内機構を可視化することが可能になってきた。本講義では、脳損傷患者に対する研究と脳機能イメージング法から得られた様々な高次な認知機能を媒介する脳内機構の研究の両方を対比して概説し、ヒトの高次な認知機能の基盤となる脳内機構を理解することを目指す。</p> <p>講義で扱う内容は概ね以下のとおり。以下のテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業を行う。順番や番号は目安であり、多少変更する可能性もあります。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンスと神経心理学の方法の概説 2. 基本的脳解剖 3. 知覚の脳機能イメージング 4. 異種感覚統合と行為の脳機能イメージング 5. コミュニケーションの脳機能イメージング 6. コミュニケーションの脳機能イメージング 7. 記憶の脳機能イメージング 8. 記憶の脳機能イメージング 9. 感情と情動の脳機能イメージング 10. 前頭葉機能の脳機能イメージング 11. 社会的認知の脳機能イメージング 12. 脳機能イメージングの応用 13. 「知・情・意」の神経心理学 14. 教養教育実習 					
心理学 (特殊講義B) (神経・生理心理学)(2)へ続く					

心理学 (特殊講義B) (神経・生理心理学)(2)

15. 期末試験
16. フィードバック (フィードバック方法については別途指示します)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

原則的に、試験 (100点) によって評価する。ただし、試験の得点に平常点を考慮することもある。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。配布資料についてはKULASISにもアップするので、自習の際に活用すること。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修 (予習・復習) 等】

授業の前日までには授業資料をクラスス上にアップロードするので、事前に内容を確認しておくこと。授業後には授業内容と資料を照らし合わせた上で、必要に応じて復習をしておくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

履修希望者が教室定員を大きく超える場合は履修制限を行う。履修制限の方法は別途指示する。オフィスアワーについては、KULASISを参照のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学54

科目ナンバリング		U-LET28 37136 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学 (特殊講義A) (知覚・認知心理学) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 齋木 潤		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	心理学 (知覚・認知心理学)				
[授業の概要・目的]					
<p>認知心理学は知覚、記憶、思考、意思決定などを含む広い分野であるが、本講義は、視覚による認識過程を主たる題材として、認知心理学の基本的な考え方、研究の方法論などを理解することを目指す。視覚認識に関する基礎的な知識を土台として、視覚認識における記憶、注意の役割に焦点を当てて解説する。</p>					
[到達目標]					
<p>視覚に関する科学的研究を主な題材として、主観現象の科学である認知心理学の背後にある基本的な考え方を理解する。基本的な事実の習得とともに、研究すべき問題の立て方、それに対するアプローチ、実験結果の評価の仕方、を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のトピックを取り上げる。各トピックにつき2 - 3回の講義を割り当てる。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2 - 4回 視覚システムの基礎 第5 - 6回 3次元構造の知覚 第7 - 8回 物体認識 第9 - 10回 視覚認知における記憶の機能 第11 - 12回 視覚認知における注意の機能 第13 - 14回 認知における特徴の統合 第15回 試験 第16回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点 20%、期末試験 80%で評価する。素点 (100点満点) で評価する。 平常点は、授業の各回にPandAのクイズツールを使ったクイズへの回答によって評価する。</p>					
----- 心理学 (特殊講義A) (知覚・認知心理学)(2)へ続く -----					

心理学 (特殊講義A) (知覚・認知心理学)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱った内容について、他の解釈、他の可能性、発展研究など、自分自身で考えてみること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学55

科目ナンバリング		U-LET28 37137 LJ46			
授業科目名 <英訳>	心理学 (特殊講義B) (知覚・認知心理学) Psychology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 齋木 潤		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	心理学 (知覚・認知心理学)				
[授業の概要・目的]					
<p>認知心理学は知覚、記憶、思考、意思決定、運動制御などを含む広い分野であるが、本講義では、視覚による認識過程を主たる題材として、認知心理学の基本的な考え方、研究の方法論などを理解することを目指す。視覚認識に関する基礎的な知識を土台として、探索行動を題材に取り上げ、知覚、意思決定、眼球運動の機能に焦点を当てて解説する。</p>					
[到達目標]					
<p>視覚に関する科学的研究を主な題材として、主観現象の科学である認知心理学の背後にある基本的な考え方を理解する。基本的な事実の習得とともに、研究すべき問題の立て方、それに対するアプローチ、実験結果の評価の仕方、を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のトピックを取り上げる。各トピックにつき2 - 3回の講義を割り当てる。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2 - 4回 視覚システムの基礎 第5 - 6回 シーンの認知 第7 - 8回 探索行動における視覚の機能 第9 - 10回 視覚探索と眼球運動 第11 - 12回 探索行動における意思決定 第13 - 14回 探索行動における記憶の役割 第15回 試験 第16回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>平常点 20%、期末試験 80%で評価する。素点 (100点満点) で評価する。 平常点は、授業の各回にPandAのクイズツールを使ったクイズへの回答によって評価する。</p>					
----- 心理学 (特殊講義B) (知覚・認知心理学)(2)へ続く -----					

心理学 (特殊講義B) (知覚・認知心理学)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
特になし

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱った内容について、他の解釈、他の可能性、発展研究など、自分自身で考えてみること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学56

科目ナンバリング		U-LET29 17202 LJ37			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(言語学)(講義Ⅰ) Linguistics (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 准教授 大竹 昌巳	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語学概論 音声学・音韻論・形態論を中心に				
【授業の概要・目的】					
<p>言語学は、人間のコトバに関わる現象の分析を通じてコトバの使用やその能力を人間が理解可能な形で明らかにしようとする学問である。私たちにとってコトバはきわめて身近な存在でありながら多くの受講生にとって言語学はなじみのない学問領域であると思われる。この授業では、言語学の専門的知識をもたない学生を対象として、言語や言語音を研究するためにこれまで用いられてきた基礎的な概念や用語、分析方法について紹介し、その必要性や問題点を概観する。</p>					
【到達目標】					
<p>言語学の各分野で使われている概念・用語や分析方法についての基礎的知識を修得し、そうした知識を用いて実際に言語データを分析することができるようになる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>この授業では、人間言語の特徴と言語研究の方法について概観したのち、言語学を構成する主要分野のうち音声学・音韻論と形態論に関するトピックを中心に解説する。以下のようなスケジュールと題目で授業を進める予定である。今年度は大竹昌巳がすべての授業を担当する。</p>					
<p>第1回 ガイダンスとイントロダクション 第2回 言葉話す 人間言語の特徴 第3回 言葉探究する 言語研究の方法 第4回 音を出す 調音音声学 第5回 音を書く 国際音声記号 第6回 音を見る 音響音声学 第7回 音を別ける 音素分析 第8回 音を分ける 音節とモーラ 第9回 音を上げる・下げる アクセントとイントネーション(1) 第10回 音を上げる・下げる アクセントとイントネーション(2) 第11回 語を分ける 形態素分析 第12回 語を変える 派生と屈折 第13回 語を合わせる 複合 第14回 語を再考する 形態論と統語論 第15回 フィードバック</p>					
----- 系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)へ続く -----					

系共通科目 (言語学) (講義 I)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（不定期の小レポート）【40%】および定期試験（筆記）【60%】により評価する。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の中で分からなかった概念・用語や興味をもった事柄は、授業で紹介される文献等を参考に自分で調べて知識として定着させてほしい。ただし、大学での学びにおいて唯一絶対の正解は存在しない。教師の言うことや本に書いてあることには常に疑いの目を向け、自分なりにあれこれ考えてみる事が大切である。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学57

科目ナンバリング		U-LET29 17204 LJ37			
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (言語学) (講義 I) Linguistics (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 准教授 大竹 昌巳	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水4	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語学概論II - - 談話文法, 統語論, 意味論を中心に				
[授業の概要・目的]					
この授業では, さまざまな研究者の言説の解説を通じて, 言語学の理論的前提と方法論を教授し, 同時に言語の奥深さを体験してもらう。					
[到達目標]					
言語学の理論と基本的な分野に関して, 以下のことを理解する。 1) 何が問題となっているのか。 2) その問題に対してどのような考えがあるのか。 3) それらの考えの背後に, どのような言語観ひいては人間観があるのか。					
[授業計画と内容]					
言語学の目的は, 言語の考察を通して人間を理解することにあるが, その道は一つではなく多様である。この授業では現代言語学のさまざまな考えを紹介しながら, その問題意識をなるべく具体的な形で解説する。中心的なトピックは, 統語論, 談話文法, 意味論である。今年度は定延利之がすべての授業を担当する。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに、言語学の下位分野、反証可能性 2. ソシユールの記号的な言語観 3. コミュニケーション1 4. コミュニケーション2 5. 言語とその他のコミュニケーション行動 6. 談話と文 7. アメリカ構造主義言語学 8. アメリカ構造主義言語学と「認知革命」 9. チョムスキー言語学の合理主義的特徴 10. プロトタイプカテゴリと認知言語学 11. 表象主義と状況論 12. 言語類型論からアプローチする言語普遍性 1 13. 言語類型論からアプローチする言語普遍性 2 14. 「する」言語と「なる」言語 15. まとめ 					
----- 系共通科目 (言語学) (講義 I) (2)へ続く -----					

系共通科目 (言語学) (講義 I)(2)

[履修要件]

前期の言語学講義Iを履修していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

筆記試験

[教科書]

資料は電子的に配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

いくつかの基本的現象に関しては、世界諸言語の言語データを分析する。

(その他(オフィスアワー等))

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学58

科目ナンバリング		U-LET29 17206 LJ37			
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (言語学) (講義II) Linguistics (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 准教授 大竹 昌巳	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語変化の考え方				
【授業の概要・目的】					
言語学についての予備知識がない学生を対象にして、歴史言語学の考え方を紹介する。音変化、類推、文法化、統語変化、語彙変化、比較方法、祖語の再建などの基本的な概念を取り上げて、 (1) 言語はどのように変化するのか (2) 言語はなぜ変化するのか という問題について考える。					
【到達目標】					
言語変化の基本的な考え方が把握され、歴史言語学の分野が理解できるようになる。					
【授業計画と内容】					
Bybee (2015) の以下の章について、順次に考察する。なお、今年度は Adam A. Catt がすべての授業を担当する。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業紹介 2. 第1章 言語変化の研究 3. 第2章 音変化 4. 第3章 より広い観点からの音変化と音韻変化 5. 第4章 音変化と文法間の相互作用 6. 第5章 類推変化 7. 第6章 文法化 8. 第7章 文法化の共通経路 9. 第8章 統語変化 10. 第9章 語彙変化 11. 第10章 比較、再建、および類型論 12. 第11章 言語変化はなぜ起こるのか 13. まとめと諸問題 14. まとめと諸問題 15. まとめと諸問題 					
【履修要件】					
特になし					
----- 系共通科目 (言語学) (講義II)(2)へ続く -----					

系共通科目 (言語学) (講義II)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中に指示する課題（75%）と平常点（25%）を勘案する。

[教科書]

Joan Bybee 『Language Change』（Cambridge University Press, 2015）ISBN:978-1-107-65582-9

Joan Bybee 『言語はどのように変化するのか』（開拓社, 2019）ISBN:978-4-7589-2272-2

使用する教科書は、英語版と和訳があります。内容は同じですので、自分にとって使いやすい方を買ってください。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

予習と復習を必ずすること。

（その他（オフィスアワー等））

授業の後に、相談を受け付ける。それ以外でも適宜面談の機会を持つが、メールなどで事前にアポイントメントを取ることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学59

科目ナンバリング		U-LET29 17208 LJ37			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(言語学)(講義II) Linguistics (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 仲尾 周一郎	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語学の歴史				
[授業の概要・目的]					
<p>言語の研究は長い歴史を有するが、高校までの教科に「言語学」科目が存在しないため、多くの受講生にとってなじみの薄い研究分野になるのではないかと懸念される。この講義では、言語学についての予備知識がない学生を対象にして、古代から現代に至る言語研究の歴史を概観することによって、人間が言語に対してもってきた関心の向け方と捉え方の変遷を辿り、今日の言語学の研究方法や、そこで使用される概念・用語の成立の背景について講義する。</p>					
[到達目標]					
<p>過去の言語研究の流れの概要を把握し、現在の言語学の術語や概念の成立の事情が理解する。さまざまな言語における言語事実を基礎知識として身につけ、言語の在り方についての理解を深める。この、言語事実の多様性を前提として、その背後に存在する通言語的な規則性が見出されてきた歴史を把握する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>言語研究に大きな影響を及ぼした個人や分析手法を取り上げ、その成果について解説する。今年度後期は仲尾周一郎(非常勤講師)がすべての授業を受け持つ。以下のトピックについて題材を提供する予定であるが、授業の構成上、内容を前後させたり、増減したりすることがある。より具体的な授業計画は初回授業にて示す予定である。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに: 古代の言語学 2. 母語の「発見」と異民族語の「発見」 3. 「インド」との遭遇 4. フンボルト 5. 言語学と科学 6. 青年文法学派 7. 言語学の多様化: ドイツ語圏 8. 言語学の多様化: 非ドイツ語圏 9. 新しい言語学の兆し 10. アメリカの言語学 11. 日本と言語学 12. プラーク学派 13. 言語普遍の探究へ 14. 現代言語学 15. まとめ 					
----- 系共通科目(言語学)(講義II)(2)へ続く -----					

系共通科目 (言語学) (講義II)(2)

[履修要件]

他の「言語学講義(I, II)」のどれかを履修済みであることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

積極的な授業参加(60%)、定期試験(40%)

[教科書]

資料配布

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

研究史をみてゆくため、挙げられる用語や人名は多目である。プリントを参考に復習していただきたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは設けない。面談が必要な学生は授業後に予約をとること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学60

科目ナンバリング	U-LET29 17241 SJ37				
授業科目名 <英訳>	言語学 (演習) Linguistics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 守田 貴弘		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ダイクシス研究				
【授業の概要・目的】					
言語学の諸問題のうち、人称代名詞や指示詞に関連する日本語および英語で書かれた論文を読んでいく。これらダイクシスと呼ばれる要素の意味論的特性を理解し、言語を通して自己中心性がいかに規定されているのかを考えることを目的とする。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・無意識で行っている日常語の使い分けを客観的に分析する視点が身につく。 ・言語学のレポート・論文が書けるようになる。 					
【授業計画と内容】					
本演習はフィードバックを含めて全15週で行う。					
第1回：ダイクシスに関する概要的な講義および役割分担の決定					
第2回 - 第14回：論文の発表とそれにもとづく議論。扱う論文は初回授業時に、受講生のニーズに応じて数の増減や種類も含めて決定する。					
第15回：フィードバック					
【履修要件】					
全共科目「言語科学I」「言語科学II」，総人科目「言語科学ゼミナールI」等を履修済であるか，独習によって言語学一般についての基礎的知識を有していることが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
授業での発表および議論への参加50%，期末レポート50%					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
割り当てになっていないものも含め，文献を読んだ上で参加すること。					
【その他 (オフィスアワー等)】					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

行動文化学61

科目ナンバリング		U-LET29 27246 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学 (基礎演習) Linguistics (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 准教授 大竹 昌巳	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	基礎演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現象を通して学ぶ言語の広がりとお行き				
【授業の概要・目的】					
この授業は、受講者にさまざまな言語現象の不思議さを体感させ、それによって、言語の広がりとお行きを正しく理解させようとするものである。					
【到達目標】					
言語現象とはどのようなもので、どうすれば発見でき、説明できるのかを、受講者が自身で気づき自身の発見・説明能力を高めていけるようにしたい。					
【授業計画と内容】					
多くの受講者にとって最も身近な言語である現代日本語（共通語）の現象観察を通して、言語学の基礎的な知識と技法を学ぶ。受講者は、提示された具体的なデータについて、現象を見てとり、その不思議さと理解をめぐるディスカッションに積極的に参加し、それをふまえてさらに自分で考えることが要求される。予定されている概要は以下のとおりである。なお今年度は定延利之がすべての授業を担当する。					
第1回：イントロダクション～言語現象とはどのようなものか？					
第2回：合成語のアクセント					
第3回：単純語のアクセント					
第4回：接ぎ木語					
第5回：動静と格形					
第6回：モノと述部形態					
第7回：知識と体験					
第8回：きもちの文法					
第9回：発話の権利 1					
第10回：発話の権利 2 :					
第11回：非流暢性の規則性					
第12回：共在とインタラクション					
第13回：キャラ					
第14回：呼びかけ					
第15回：まとめ					
----- 言語学 (基礎演習)(2)へ続く -----					

言語学 (基礎演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

議論への積極的な参加と受け答え(50%)，レポート(50%)の合計による。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

復習を怠らないようにしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

予約をとってもらえば質問などに応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学62

科目ナンバリング		U-LET29 27246 SJ37			
授業科目名 <英訳>	言語学(基礎演習) Linguistics (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 浅尾 仁彦		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木4	授業形態	基礎演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	言語学の大問題				
[授業の概要・目的]					
<p>一口に「言語学」と言っても、言語をどのようなものとして捉えるか、考え方はさまざまです。この授業では専門家の間でも意見が分かれるようなビッグプロブレムを取り上げ、その一つ一つを吟味することによって、言語に対する視点の多様性、言語をとりまく学問・思想の豊かさに触れることを目標とします。あえて狭い意味での言語学の枠をはみ出すようなトピックまで含めて幅広く取り上げます。</p>					
[到達目標]					
<p>言語に対する考え方の多様性を理解し、その中で各自それぞれがじっくり考える考え方、より深く追究してみたいと思えるような考え方を見つけ、今後の言語学や周辺分野の学習・研究、さらには学問に限らない実務に生かす能力を養います。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>授業回数は目安です。受講者数などに応じてスケジュールを変更する可能性があります。</p> <p>日常の授業参加に加えて、受講者は以下の形で授業への積極的な参加が求められます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション：担当したトピックについて文献を紹介した上でクラス全体での討論を先導します。グループごとにトピックを担当してもらうことを想定していますが、詳細は受講者数などによって判断します。 ・本の紹介：言語に関するおすすめの書籍を紹介してもらいます。 ・期末レポート：授業で議論したトピック等について掘り下げたレポートを書いてもらいます。 <p>【第1-2回】 講義(イントロダクション・言語に対する多様な視点について)</p> <p>【第3-12回】 ディスカッション。以下のようなトピックを受講者に割り当て、担当者が文献を紹介し、ディスカッションを行います(トピックの例は追加・変更する可能性があります)。文献についてはトピックごとに授業内で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音には意味があるのか ・動物に言語はあるか ・言語能力は生得的か ・単語は定義できるか ・品詞は普遍的か ・統語的な制約が存在するのはなぜか ・再帰のない言語はあるか ・言語は思考に影響するか ・簡単な言語と複雑な言語があるのか ・大規模言語モデル(LLM)は人間の言語能力のモデルたりうるか 					
<p>----- 言語学(基礎演習)(2)へ続く -----</p>					

言語学 (基礎演習)(2)

【第13-14回】

本紹介パート。各自、言語に関するおすすめの書籍を持ち寄り、紹介してもらいます。

【第15回】

まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業参加 50%

期末レポート 50%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

参考書は授業中に講師が紹介します。それに加えて、各自に自分でおすすめの書籍を探し、紹介してもらいます。

【授業外学修(予習・復習)等】

発表準備・レポート執筆のために授業外で十分に時間を取る必要があります。

(その他(オフィスアワー等))

授業時間外の連絡はメールもしくはPandAを用います。詳細は授業中に共有します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学63

科目ナンバリング	U-LET49 29648 LJ48				
授業科目名 <英訳>	朝鮮語 (初級A) (語学) Korean	担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学外国語学部 准教授 杉山 豊		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金1	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	朝鮮語 (初級)				
【授業の概要・目的】					
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。					
【到達目標】					
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。					
【授業計画と内容】					
一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。					
第1回：ガイダンス 第2回：文字(1) (第1課相当) 第3回：文字(2) (第1課相当) 第4回：発音(1) (第2課相当) 第5回：発音(2) (第2課相当) 第6回：単語の表記(1) (第3課相当) 第7回：単語の表記(2) (第3課相当) 第8回：単語の発音(1) (第4課相当) 第9回：単語の発音(2) (第4課相当) 第10回：現在終止形 (上称体) (第5課相当) 第11回：名詞と助詞 (第6課相当) 第12回：数詞と助数詞(1) (第7課相当) 第13回：数詞と助数詞(2) (第7課相当) 第14回：否定と肯定 (第8課相当) 第15回：期末試験・フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点 (30点) と学期末試験 (70点)。					
【教科書】					
松尾勇・金善美 『初めての韓国語』 (同学社) ISBN:978-4-8102-0267-0					
----- 朝鮮語 (初級A) (語学)(2)へ続く -----					

朝鮮語 (初級A) (語学)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

(その他(オフィスアワー等))

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学64

科目ナンバリング	U-LET49 29649 LJ48				
授業科目名 <英訳>	朝鮮語 (初級B) (語学) Korean	担当者所属・ 職名・氏名	京都産業大学外国語学部 准教授 杉山 豊		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金1	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	朝鮮語 (初級)				
【授業の概要・目的】					
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。					
【到達目標】					
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。					
【授業計画と内容】					
一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。					
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：略待上称体(1) (第9課相当)</p> <p>第3回：略待上称体(2) (第9課相当)</p> <p>第4回：変則用言(1) (第10課相当)</p> <p>第5回：変則用言(2) (第10課相当)</p> <p>第6回：過去終止形 (第11課相当)</p> <p>第7回：未来終止形 (第12課相当)</p> <p>第8回：敬語形 (第13課相当)</p> <p>第9回：命令・勧誘・禁止 (第14課相当)</p> <p>第10回：連用形 (第15課相当)</p> <p>第11回：連体形 (第16課相当)</p> <p>第12回：各種接続語尾 (第17課相当)</p> <p>第13回：各種補助用言 (第18課相当)</p> <p>第14回：各種補助用言) (第18課相当)</p> <p>第15回：期末試験・フィードバック</p>					
【履修要件】					
前期よりの継続なので、前期に初級を履修しているか、またはそれと同等の学習歴のある者。					
【成績評価の方法・観点】					
平常点 (30点) と学期末試験 (70点)。					
【教科書】					
松尾勇・金善美 『初めての韓国語』 (同学社) ISBN:978-4-8102-0267-0					
----- 朝鮮語 (初級B) (語学)(2)へ続く -----					

朝鮮語 (初級 B) (語学)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

(その他(オフィスアワー等))

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学65

科目ナンバリング		U-LET30 27302 LJ45			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(社会学)(講義) Sociology (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 紀行	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会学概論I				
[授業の概要・目的]					
<p>社会学の代表的な基礎理論について体系的に概観する。社会学という学問の性格について隣接する学問領域と比較しつつ解説した後、R. コリンズ(『ランドル・コリンズが語る社会学の歴史』)の整理に従って社会学の主要な理論的伝統を4つに分類した上で、それぞれについて代表的な社会学者の学説を取り上げてその基本的な考え方の特徴を解説し、それらの成立過程、異同や相互関係について概説する。</p>					
[到達目標]					
<p>社会学的なものの見方の特徴について学び、社会学の代表的な基礎理論についてそれぞれのアプローチの特徴を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の順で講義を進める。ただし講義の進み具合によって各テーマの回数は変動する可能性がある。</p>					
<p>第1回 社会学とは何か 第2回 機能主義的伝統(1) デュルケム 第3回 機能主義的伝統(2) パーソンズ(初期#12316中期) 第4回 機能主義的伝統(3) パーソンズ(中期#12316後期) 第5回 機能主義的伝統(4) マートン、ルーマン、ネオ機能主義 第6回 コンフリクト理論的伝統(1) マルクス、ヴェーバー 第7回 コンフリクト理論的伝統(2) ヴェーバー 第8回 コンフリクト理論的伝統(3) 比較歴史社会学、批判理論 第9回 コンフリクト理論的伝統(4) ブルデュー 第10回 ミクロ相互作用論的伝統(1) ジンメル、ミード 第11回 ミクロ相互作用論的伝統(2) シンボリック相互作用論、ゴフマン 第12回 ミクロ相互作用論的伝統(3) 現象学的社会学、エスノメソドロジー 第13回 功利主義的伝統 第14回 まとめと展望 《期末試験》 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
-----系共通科目(社会学)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目 (社会学) (講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

定期試験による。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

ランドル・コリンズ 『ランドル・コリンズが語る社会学の歴史』 (有斐閣、1997) ISBN: 9784641075955

友枝敏雄ほか (編) 『社会学の力(改訂版)』 (有斐閣、2023) ISBN:9784641174818

[授業外学修 (予習・復習) 等]

予習は特に必要ないが、授業中に紹介する社会学者の著作を各自の関心に応じて読んでほしい。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学66

科目ナンバリング		U-LET30 27304 LJ45			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(社会学)(講義) Sociology (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 太郎丸 博	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会学概論 II				
[授業の概要・目的]					
現代世界で生起している諸現象を特徴付けるいくつかの重要なキーワードをとりあげ、前期で習得した社会学的な視点(社会学的方法論)を活用してどのようにしてその現象を認識し、どのようにしてその現象の背後にある(見えない)構造的な仕組みを理解することができるのかを明らかにする。					
[到達目標]					
現代世界で起きているさまざまな現象を表層的にとらえるのではなく、その現象が根ざしている、あるいはその現象をつくりだしているより深層の構造を批判的にとらえる社会学的想像力を身につけることができる。					
[授業計画と内容]					
第1回社会学とは何か? 問題 第2回社会変動論と現代社会論 第3回近代化論 第4回ネオ近代化論 第5回大衆消費社会論 第6回後期近代とモダニティ論 第7回階級闘争と社会革命 第8回社会階層と社会的地位 第9回中間試験 第10回社会移動と学歴 第11回科学と知識の社会学 第12回科学世論と政治 第13回社会学方法論 第14回社会学はどう役立つか 第15回フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 20%、試験 80%					
[教科書]					
使用しない					
-----系共通科目(社会学)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目 (社会学) (講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

友枝敏雄, 浜日出夫, 山田真茂留 『社会学の力 -- 最重要概念・命題集 改訂版』 (有斐閣) ISBN: 978-4-641-17481-8

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業中指示した基本文献を読むこと

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学67

科目ナンバリング	U-LET30 37361 PJ45				
授業科目名 <英訳>	社会学(実習) Sociology (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 太郎丸 博		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	水4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会調査の実際(社会調査士科目G)				
【授業の概要・目的】					
社会調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひとつとおり体験的に学習する。そのような体験を通して、講義で得た知識の身体化を目指す。そのためには、授業時間外の作業が多く必要となる。また、他の受講者との相談や共同作業も多くなる。					
【到達目標】					
調査の企画、実施、データの入力、分析、報告書の作成ができるようになる。					
【授業計画と内容】					
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1オリエンテーション 2 調査の企画 3仮説構成 4 調査項目の設定 5質問文・調査票の作成 6 プリテストと調査票の修正 7 対象者・地域の選定 8サンプリング 9 調査の実施(調査票の配布・回収、面接) 10 エディティング 11 集計、分析 12 データの視覚化 13 仮説検証 14 報告書の作成 15フィードバック <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1オリエンテーション 2 データの入力・読み込み 3 単純集計表、ヒストグラムの作成 4 変数の操作の基礎 5変数の操作の応用 6 クロス集計表、帯グラフの基礎 7 クロス集計表、帯グラフの応用 8 散布図、箱ヒゲ図の作成 9 データセットの分割・結合 10 独立性の検定 11 平均値の差の検定 					
----- 社会学(実習)(2)へ続く -----					

社会学(実習)(2)

- 12 多重クロス表分析
- 13 回帰分析の基礎
- 14 回帰分析の応用
- 15 フィードバック

[履修要件]

社会調査士科目A～Eをあわせて受講することが望ましいが、強制ではない。

[成績評価の方法・観点]

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社) ISBN:978-4589032577

盛山 和夫 『社会調査法入門』(有斐閣) ISBN:978-4641183056

[授業外学修(予習・復習)等]

復習重視。宿題が頻繁に出る。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学

(2025.3.14)更新

講義コード	専修コード	担当専修別	講義名	講義形態	授業時間数	単位	開講期	曜日1	時限1	曜日2	時限2	担当教員名	使用言語	(院)聴講生	シラバス連番	備考
7431001	29	地理学	地理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	3			埴淵 知哉	日本語	○	現代文化学1	学部・大学院科目
7431002	29	地理学	地理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	3			埴淵 知哉	日本語	○	現代文化学2	学部・大学院科目
7431003	29	地理学	地理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	金	3			米家 泰作	日本語	○	現代文化学3	学部・大学院科目
7431004	29	地理学	地理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	金	3			米家 泰作	日本語	○	現代文化学4	学部・大学院科目
7431008	29	地理学	地理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			松四 雄騎	日本語	○	現代文化学5	学部・大学院科目
7431009	29	地理学	地理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			鈴木 康弘	日本語	○	現代文化学6	学部・大学院科目
7431010	29	地理学	地理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	2			水野 真彦	日本語	○	現代文化学7	学部・大学院科目
7431011	29	地理学	地理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			渡辺 和之	日本語	○	現代文化学8	学部・大学院科目
7431012	29	地理学	地理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	2			河原 典史	日本語	○	現代文化学9	学部・大学院科目
7431013	29	地理学	地理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	4			桐村 喬	日本語	○	現代文化学10	学部・大学院科目
7431014	29	地理学	地理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	2			寺床 幸雄	日本語	○	現代文化学11	学部・大学院科目
7431017	29	地理学	地理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	木	1			杉江 あい	日本語	○	現代文化学12	学部・大学院科目
7431018	29	地理学	地理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	木	1			杉江 あい	日本語	○	現代文化学13	学部・大学院科目
7431019	29	地理学	地理学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	5			大山 修一・塩谷 暁代	日本語	○	現代文化学14	学部・大学院科目
8231012	30	科学哲学科学史	科学哲学科学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	現代文化学15	学部・大学院科目
8231013	30	科学哲学科学史	科学哲学科学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	3			瀬戸口 明久	日本語	○	現代文化学16	学部・大学院科目
8231014	30	科学哲学科学史	科学哲学科学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			久木田 水生	日本語	○	現代文化学17	学部・大学院科目
8241001	30	科学哲学科学史	科学哲学科学史(演習)	演習	30	2	前期	月	5			伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学18	学部・大学院科目
8241002	30	科学哲学科学史	科学哲学科学史(演習)	演習	30	2	後期	月	5			伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学19	学部・大学院科目
8241003	30	科学哲学科学史	科学哲学科学史(演習)	演習	30	2	後期	火	4			伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学20	学部・大学院科目
8241004	30	科学哲学科学史	科学哲学科学史(演習)	演習	30	2	後期	金	3			伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学21	学部・大学院科目
8241005	30	科学哲学科学史	科学哲学科学史(演習)	演習	30	2	後期	木	4			大塚 淳	日本語	○	現代文化学22	学部・大学院科目
8231001	30	科学哲学科学史	科学哲学科学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	2			伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学23	学部・大学院科目
8231002	30	科学哲学科学史	科学哲学科学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	2			伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学24	学部・大学院科目
8231004	30	科学哲学科学史	科学哲学科学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	金	2			伊勢田 哲治	英語	○	現代文化学25	学部・大学院科目
8231007	30	科学哲学科学史	科学哲学科学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中	その他	その他			平岡 隆二	日本語	○	現代文化学26	学部・大学院科目
8231011	30	科学哲学科学史	科学哲学科学史(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	現代文化学27	学部・大学院科目
M432001	31	メディア文化学	メディア文化学(演習)	演習	60	4	通年	火	4			喜多 千草・松永 伸司	日本語	○	現代文化学28	大学院科目
8931006	31	メディア文化学	メディア文化学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	2			山本 昭宏	日本語	○	現代文化学29	学部・大学院科目
8931009	31	メディア文化学	メディア文化学(特殊講義)	特殊講義	30	3	後期	月	4			松永 伸司	日本語	○	現代文化学30	学部・大学院科目
8931023	31	メディア文化学	メディア文化学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	4			蘆田 裕史	日本語	○	現代文化学31	学部・大学院科目
8931026	31	メディア文化学	メディア文化学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	金	2			丸山 里美	日本語	○	現代文化学32	学部・大学院科目
8941001	31	メディア文化学	メディア文化学(演習IA)	演習	30	2	前期	水	2			喜多 千草	日本語	○	現代文化学33	学部・大学院科目
8941002	31	メディア文化学	メディア文化学(演習IB)	演習	30	2	後期	火	5			松永 伸司	日本語	○	現代文化学34	学部・大学院科目
8944007	31	メディア文化学	メディア文化学(演習II)	演習	30	2	前期	月	5			伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学35	学部・大学院科目
8944008	31	メディア文化学	メディア文化学(演習II)	演習	30	2	後期	月	5			伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学36	学部・大学院科目
8944009	31	メディア文化学	メディア文化学(演習II)	演習	30	2	後期	金	3			伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学37	学部・大学院科目
8944010	31	メディア文化学	メディア文化学(演習II)	演習	30	2	後期	火	4			伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学38	学部・大学院科目
8433002	32	現代史学	現代史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	火	4			林田 敏子	日本語	○	現代文化学39	学部・大学院科目
8433004	32	現代史学	現代史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	現代文化学40	学部・大学院科目
8433005	32	現代史学	現代史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	現代文化学41	学部・大学院科目
8433008	32	現代史学	現代史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	月	2			石川 禎浩	日本語	○	現代文化学42	学部・大学院科目
8433009	32	現代史学	現代史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	月	2			石川 禎浩	日本語	○	現代文化学43	学部・大学院科目
8433010	32	現代史学	現代史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	火	4			西山 伸	日本語	○	現代文化学44	学部・大学院科目
8433020	32	現代史学	現代史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	金	2			小堀 聡	日本語	○	現代文化学45	学部・大学院科目
8433021	32	現代史学	現代史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	金	2			小堀 聡	日本語	○	現代文化学46	学部・大学院科目
8433003	32	現代史学	現代史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	水	2			山口 育人	日本語	○	現代文化学47	学部・大学院科目
8433011	32	現代史学	現代史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期集中					吉澤 誠一郎	日本語	○	現代文化学48	学部・大学院科目
8433023	32	現代史学	現代史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	木	3			辻河 典子	日本語	○	現代文化学49	学部・大学院科目
8433006	32	現代史学	現代史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	前期	金	4			福元 健之	日本語	○	現代文化学50	学部・大学院科目
8433007	32	現代史学	現代史学(特殊講義)	特殊講義	30	2	後期	金	4			福元 健之	日本語	○	現代文化学51	学部・大学院科目
8202001	30	科学哲学科学史	系共通科目(科学哲学)(講義)	講義	30	2	前期	水	3			大塚 淳	日本語	○	現代文化学52	学部科目
8204001	30	科学哲学科学史	系共通科目(科学哲学)(講義)	講義	30	2	後期	水	3			伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学53	学部科目
8206001	30	科学哲学科学史	系共通科目(科学史I)(講義)	講義	30	2	前期	水	2			伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学54	学部科目
8208001	30	科学哲学科学史	系共通科目(科学史II)(講義)	講義	30	2	後期	水	2			伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学55	学部科目
8902001	31	メディア文化学	系共通科目(メディア文化学)(講義A)	講義	30	2	前期	月	4			松永 伸司	日本語	○	現代文化学56	学部科目
8904001	31	メディア文化学	系共通科目(メディア文化学)(講義B)	講義	30	2	後期	水	2			喜多 千草	日本語	○	現代文化学57	学部科目
8407001	32	現代史学	系共通科目(現代史学)(講義I)	講義	30	2	前期	水	3			小野沢 透	日本語	○	現代文化学58	学部科目
8408001	32	現代史学	系共通科目(現代史学)(講義II)	講義	30	2	後期	水	3			塩出 浩之	日本語	○	現代文化学59	学部科目
0062001	39	基礎現代文化学系	基礎現代文化学系(ゼミナールI)	ゼミナール	30	2	前期	木	5			小野沢 透・秦 皖梅・福田 耕 佑・楊 雅韻・范 艶芬・白木	日本語	○	現代文化学60	学部科目

現代文化学1

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学 (特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 埴淵 知哉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	地理的社会調査				
[授業の概要・目的]					
<p>地域で起こる多様な現象の特徴を把握するためには、さまざまな種類の調査法を利用する必要がある。同様に、収集したデータの分析にも多くの方法が存在する。本講義ではとくに量的データに注目し、統計的・系統的な地域調査法に関する基礎的な概念・理論を紹介するとともに、調査の困難化やデジタル化といった現代的課題についても検討する。具体的なトピックとしては、国勢調査や標本調査、インターネット調査、デジタルデータなどが含まれる。また、地理的なデータの分析方法についても可能な限り本授業の中で取り上げ、簡単な実習を含めて、地域を俯瞰的にみる方法を広く議論することを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 統計的・系統的なデータの収集・分析・表現に関する基礎的な知識とスキルを身につけることができる。 ・ 様々な地域調査法の長所と短所を理解し、課題に対して適切な方法を選択できる能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：講義概要の説明 第2回：人文地理学におけるデータ収集の方法 第3回：国勢調査の利点と欠点 第4回：国勢調査データによる地域特性の把握 第5回：標本調査の利点と欠点 第6回：インターネット調査の可能性と限界 第7回：公開データと二次分析 第8回：標本調査の設計 第9回：調査票の作成 第10回：標本調査によるデータ収集 第11回：標本調査データの加工 第12回：標本調査データの分析 第13回：系統的社會観察の可能性と限界 第14回：デジタルデータの可能性と限界 第15回：フィードバック</p> <p>履修者数や進捗状況に応じて内容を変更・調整することがあります。 講義に加えて実際にデータを扱う実習を組み込む予定です。</p>					
----- 地理学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点 (20点)、作業課題 (30点)、レポート (50点)

・5回以上欠席した場合には単位を認めない。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

埴淵知哉・村中亮夫編 『地域と統計: 調査困難時代のインターネット調査』(ナカニシヤ出版、2018年) ISBN:4779513405

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献をもとに予習・復習すること。授業時間内で終わらなかった作業課題については授業時間外に完了させること。

(その他(オフィスアワー等))

質問は授業中、授業後およびメールでも受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学2

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39				
授業科目名 <英訳>	地理学 (特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 埴淵 知哉		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	地図で描く都市・地域				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、さまざまな現象や問題を観察・表現する方法として地図に注目し、地図を通して都市・地域の諸相を理解することを試みる。取り上げる地図はデータマップ、メンタルマップ、デジタルマップなどである。データマップは都市・地域における諸現象の地理的な広がりを可視化し、各地域の特徴や問題を浮き彫りにする。メンタルマップは頭の中にある空間的なイメージを表すもので、私たちが世界や都市をどうとらえているのかを知る手がかりを与えてくれる。またGISやデジタルデータの広がりによって新しいデジタルマップが生み出される一方で、場所の経験を重視して街の特徴を描くユニークな地図帳も登場している。本講義では、こういった様々な種類の地図について学ぶとともに、それによって都市を多面的にとらえることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な地図表現の特徴および長所・短所を説明できるようになる。 ・現代都市・地域の諸問題に対して地図を通してアプローチする能力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：講義概要の説明 第2回：情報デザインと地図 第3回：データマップで描く都市 第4回：地図による推論 第5回：世界のメンタルマップ（理論） 第6回：世界のメンタルマップ（実証） 第7回：都市のメンタルマップ（理論） 第8回：都市のメンタルマップ（実証） 第9回：デジタル地図と方向感覚 第10回：地図とAI 第11回：地域らしさを描く地図帳（概論） 第12回：地域らしさを描く地図帳（構想） 第13回：地域らしさを描く地図帳（制作） 第14回：地域らしさを描く地図帳（発表） 第15回：フィードバック</p> <p>履修者数や進捗状況に応じて内容を変更・調整することがあります。 講義に加えて実際に地図を制作する実習を組み込む予定です。</p>					
----- 地理学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点 (20点)、作業課題 (30点)、レポート (50点)

・5回以上欠席した場合には単位を認めない。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

マイケル・ボンド 『失われゆく我々の内なる地図 空間認知の隠れた役割』 (白揚社、2022年)

ISBN:4826902379

若林芳樹 『地図の進化論 地理空間情報と人間の未来』 (創元社、2018年) ISBN:4422400371

デービッド・バニス, ハンター・ショービー 『ポートランド地図帖 地域の「らしさ」の描きかた』

(鹿島出版会、2018年) ISBN:4306046699

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業中に紹介する参考文献をもとに予習・復習すること。

(その他 (オフィスアワー等))

質問は授業中、授業後およびメールでも受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学3

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学 (特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 米家 泰作		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	森と火の環境史				
【授業の概要・目的】					
<p>本講義では、近世から近代の日本（とその帝国）を例として、社会と森林環境の関わりを議論する。本講義では森林を単なる資源の供給源とみるのではなく、資源の採取や保全を通じて、有用な動植物で満ちた場へと（あるいは過度な利用によってそれらが失われた場へと）、人為的に改変された空間として捉える。授業では、採集、草地、焼畑、林業などのさまざまな生業に着目して、そしてその担い手であった村落や個人、流通と消費を担った都市、さらに法制度を通じて強い影響を与えた国家や学知の役割に注意して、社会と森林環境の関わりが、いかに動的に展開してきたのかを示す。そして、森林の利用と管理をめぐる、さまざまな地理的スケールが関与し、政治的判断が積み重ねられながら、森林が再生産されてきたことを議論する。</p>					
【到達目標】					
<p>社会と森林の関係について、広く歴史的・地理的視野から捉える問題意識を養い、日本と東アジアの森林環境が抱えている課題の背景について議論する力を養う。また、「自然」を改変しながらそれを利用し、管理し、社会化する人間のあり方について、省みる視座を獲得する。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 森と火の環境史 第2回 「ハゲ山」と草地 第3回 焼畑と人為的植生 第4回 堅果の利用と保全 第5回 伐採林業の展開 第6回 育成林業の登場 第7回 近代林学の導入と環境主義 第8回 「原野」の制限と縮小 第9回 植民地台湾と森林調査 第10回 澎湖島と造林事業 第11回 植民地朝鮮の森林環境 第12回 植民地朝鮮と「火田整理」 第13回 中国東北部と帝国林業 第14回 帝国林業と東アジアの環境保全 第15回 フィードバック（方法は授業中に説明）</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 地理学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（30％）と学期末のレポート（70％）により評価する。前者は授業期間中に3回程度求めるリアクションペーパーにもとづく。後者は授業内容を踏まえた小論文とし、授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

米家泰作 『森と火の環境史』（思文閣出版、2019）ISBN:9784784219735

米家泰作 『紀伊山地はなぜ歴史の舞台になったか』（古今書院、2024）ISBN:9784772261234

米家泰作 『中・近世山村の景観と構造』（校倉書房、2002）ISBN:9784751733508

（関連URL）

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>（講師の研究業績など（京都大学教育研究活動データベース））

<https://orcid.org/0000-0002-3391-5069>（ORCID（Open Researcher and Contributor ID））

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku>（講師のフェイスブック）

<https://researchmap.jp/tkomeie/>（リサーチマップ（科学技術振興機構））

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する参考文献を含めて、関連する論文や文献に積極的に触れ、問題関心を深めてほしい。なお後期に予定している「紀伊山地はなぜ歴史の舞台になったか」は、本講義と問題意識を共有しており、紀伊山地の山村にフォーカスした事例研究となるので、あわせて受講することをお勧めする。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーを設定している。オンラインでの問い合わせは、メールあるいはPandAのフォーラムで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学4

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学 (特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 米家 泰作		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	紀伊山地はなぜ歴史の舞台になったか - 山村の歴史地誌 -				
【授業の概要・目的】					
<p>本講義では、紀伊山地を事例として、歴史地理学的な視点から、山村地域の成り立ちについて議論する。自然環境、古代史、宗教史、政治史、集落形成、環境の利用と改変、焼畑、林業、人口動態に留意しながら、山地斜面に多くの集落が分布するこの地域の特色を理解していく。紀伊山地の人口は集落の形成とともに歴史的に漸増してきたが、1960年頃をピークとして急減していく。その背景には、環境利用の高度化によって、経済地理の拡大に対応できず、生業の柔軟性を低下させたという事情がある。</p>					
【到達目標】					
<p>現在様々な問題を抱える山村地域に関して、その歴史地理的背景を理解するとともに、人間と環境の関係史を広い視野から動的に捉える能力を養う。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 山村という視点 第2回 山地環境と集落立地 第3回 古代の伝承とその痕跡 第4回 修験道と大峯山 第5回 寺領荘園と山村の形成 第6回 近世を迎えた山村地域 第7回 山村の多様な生業 第8回 『和州吉野郡群山記』にみる近世山村の世界 第9回 焼畑による巧みな森林利用 第10回 焼畑から林業へ 第11回 木材流送とその由緒 第12回 失われゆく多様な生業 第13回 育成林業の近代 第14回 山村地域の行方 第15回 フィードバック (方法は授業中に説明)</p>					
【履修要件】					
<p>前期に予定している「森と火の環境史」は本講義と問題意識を共有しているので、あわせて受講することを推奨するが、受講が必須ということではない。</p>					
----- 地理学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（30％）と学期末のレポート（70％）により評価する。前者は授業数回ごとに求めるリアクションペーパーにもとづく。後者は授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。

[教科書]

米家泰作 『紀伊山地はなぜ歴史の舞台になったか』（古今書院、2024）ISBN:978-4-7722-6123-4（本書に沿って授業を進めるが、購入・持参を義務づけるものではない。）

[参考書等]

（参考書）

米家泰作 『森と火の環境史』（思文閣出版）ISBN:9784784219735

米家泰作 『中・近世山村の景観と構造』（校倉書房）ISBN:9784751733508

（関連URL）

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>（講師の研究業績など（京都大学教育研究活動データベース））

<https://orcid.org/0000-0002-3391-5069>（ORCID（Open Researcher and Contributor ID））

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku>（講師のフェイスブック）

<https://researchmap.jp/tkomeie/>（リサーチマップ（科学技術振興機構））

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する参考文献を含めて、関連する論文や文献に積極的に触れ、問題関心を深めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーを設定している。オンラインでの問い合わせは、メールあるいはPandAのフォーラムで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39				
授業科目名 <英訳>	地理学 (特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	防災研究所 教授 松四 雄騎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	湿潤変動帯の自然地理学とその応用としての斜面減災論				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業では、自然地理学の応用としての自然災害（特に斜面災害）の被害軽減（減災）に関する方法論を学び、その実現に向けた基礎データを取得するための野外調査法および室内実験法を実習する。</p> <p>山地や丘陵地が国土の大半を占める日本列島では、豪雨や地震によってしばしば斜面から土砂が流出し、下流域に被害を及ぼす。土砂災害による人的・物的被害は、高度経済成長期以降の砂防・治山事業の拡充による人工構造物の配備により、それ以前と比べて格段に減少してきたが、近年、極端な豪雨の頻度増大により、再び増加しつつある。日本人はそもそも、居住域に隣接する傾斜地（里山）で得られる燃料や湧水といった資源を利用し、その恩恵を受けてきたが、それと同時に斜面の崩壊や地すべり、土石流といった斜面災害の脅威にもさらされてきた。地域に根差した住民が斜面と共生していた時代に培われていた減災のための知恵は、傾斜地での道路敷設や宅地開発といった自然環境の改変行為を可能にした現代的な土木技術の発達と、それによる山際居住区の拡大と新規住民の移入とともに、失われつつある。居住域周辺斜面からの土砂流出による被害を軽減するためには、空間的に飽和し、コスト的にも限界に達しつつあるハード対策だけでなく、住民自力での警戒・避難を促すソフト対策の高度化が不可欠である。そのためには地域の地理環境の成り立ちを深く理解し、それを土台に世代を超えて持続可能な減災方策を備えた地域社会の形成をめざす必要がある。これはまさに自然地理学の応用問題であるといえよう。本授業では、斜面災害の地質・地形的背景（素因）や、降水浸透あるいは地震動といった引き金（誘因）が、なぜ・どのようにして土砂流出を引き起こすのかについて、野外実習と室内実験を通して、自ら地盤構成材料に触れ、その物性を定量的に把握し、データの解析を行うことで体験的に学ぶ。</p>					
[到達目標]					
<p>実習形式の授業を通して、温暖湿潤帯における自然地理環境とそこで起こる地球表層プロセスを概観し、山地の斜面をつくる地盤材料の定性的な観察法、およびその水理学・土質力学的性質の定量化法を学び、斜面減災を実現するための自然地理学的方法論について考察できる力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>夏季の集中講義とし、野外および室内での実習形式での授業を行う。</p> <p>授業のスケジュールおよびその中で取り上げるテーマとトピックスは以下の通り。</p> <p>9月2日（火）森林斜面での野外実習（京都近郊丘陵地） 9月3日（水）実験室での土質試験（宇治キャンパス） 9月4日（木）データ解析およびゼミ（宇治キャンパス）</p> <p>1日目: 野外巡検 京都近郊の丘陵地を対象に、地盤の構成物とその性質および陸域水循環に伴う地形変化過程について概説する。また、過去に発生した斜面崩壊跡地を観察し、森林土壌の断面を作成して、土層試料</p>					
地理学 (特殊講義)(2)へ続く					

地理学 (特殊講義)(2)

の採集を行う。

2日目: 室内実験 + データ解析

採集した試料を用いて、宇治キャンパスにおいて水理・力学的な試験を行う。

3日目: 室内実験 + データ解析 + ゼミ

宇治キャンパスにおいて引き続き実験を行うとともに、得られたデータを用いて、雨の浸透や斜面の安定に関する計算を行い、斜面ハザード評価の方法論について討論する。

テーマとトピックス

- (1) 自然地理学における野外観察の基礎と方法
- (2) フィールドサイエンスにおける理論・法則・モデルの役割
- (3) 人間社会を取り巻く自然環境の成り立ち
- (4) 陸域水循環の概要と流域生態系の恒常性
- (5) 森林水文学の基礎と山地流域における降雨流出過程
- (6) 斜面の地形変化と土砂災害の発生メカニズム
- (7) 地理的な防災・減災の方法論
- (8) 自然地理学における実験法とデータ分析法の基礎
- (9) 地盤構成材料の水理・力学特性とその意味
- (10) 地理情報システムと地形計測
- (11) 地図解析および実験・計測における精度と確度
- (12) データの整理と統計処理の基礎
- (13) 流域表層現象のモデル化と計算法
- (14) 製図法とアカデミックライティングの基礎
- (15) 総括とフィードバック

授業を通じて、野外観察の方法、実験による定量データの取得方法、自然現象のモデル化について習得するとともにフィールドノートや実験ノートの記載方法、データの整理方法、製図や記述の方法等のアカデミックライティングについて具体的に指導する。

フィードバックについては、実習終了後に必要に応じて、教員オフィスあるいはEメールにて質問に答えるほか、レポートに講評を記入することも含む。

【履修要件】

学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険に加入していること。

【成績評価の方法・観点】

平常点(50%)およびレポート(50%)の評価による。

【教科書】

関連する資料等を授業の中で配布・紹介する。

地理学 (特殊講義)(3)へ続く

地理学 (特殊講義)(3)

[参考書等]

(参考書)

塚本 良則 『森林・水・土の保全 湿潤変動帯の水文地形学』（朝倉書店，1998）ISBN:4254470274

[授業外学修（予習・復習）等]

3日間の授業期間中にはデータ解析や討論準備を課題として出すことがあるので、ホームワークとしてこなすこと。

(その他（オフィスアワー等）)

第一日目は京都近郊の丘陵地でのフィールドワークとなるため、動きやすい靴と服装に手袋や帽子を着用の上、虫よけや雨具、筆記用具・野帳・カメラといった個人装備を揃えて参加すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学6

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39				
授業科目名 <英訳>	地理学 (特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	名古屋大学 減災連携研究センター 教授 鈴木 康弘		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	災害地理学				
[授業の概要・目的]					
日本の風土の特異性を考えたとき、自然災害と如何に共存するかは重要な課題である。高度成長期において我が国はこの問題を解決しかけたかにも見たが、阪神・淡路大震災や東日本大震災は新たな課題を提起した。災害観やエネルギー問題や国土計画などに関わる問題であり総合的・俯瞰的視点が重要度を増している。地理学の視点からこの問題を考える。					
[到達目標]					
防災論をどのような視点で考えるべきか、その中で地理学の知識や視点はどのように有効かについて事例に則して考え、自らの考えを整理して述べられるようにする。					
[授業計画と内容]					
1. 地震防災を巡る諸問題を考える 1-1. 東日本大震災が提起した問題 1-2. 日本の風土と自然災害 1-3. 防災施策の転換を迫った阪神・淡路大震災から30年 1-4. 熊本地震・能登半島地震が提起した問題 2. 地震・地殻変動を理解するための地理的基礎 2-1. 地震発生に関する地理学的理解 2-2. 地殻変動の指標としての海岸地形・海底地形 2-3. 世界の変動帯と大地形 3. 活断層と地震防災 3-1. 活断層とは何か 3-2. 活断層地形判読 3-3. 活断層をめぐる社会問題 3-4. 「活断層大地震に備える」「活断層防災を問う」を読む 4. 防災における地理学の役割 4-1. 原発と活断層 4-2. ハザードマップの意義と課題 4-3. レジリエンスとサステナビリティ 4-4. 災害地理学の役割を考える					
----- 地理学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業の目的で述べたとおり、「防災のあり方」はひとつの社会的にも重要なポイントであるが、その背景にどのような状況があるかを理解することは重要である。こうした背景に関する十分な整理に基づいて、自らの考えを整理し、論述できるかどうかを成績評価のポイントとする。単位認定は、講義参加への積極性(40%)、論述形式レポート(60%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

鈴木康弘 『活断層問題を問うー阪神・淡路大震災30年』(風媒社)

鈴木康弘 『防災・減災につなげるハザードマップの活かし方』(岩波書店) ISBN:978-4-00-005838-4

鈴木康弘 『活断層大地震に備える』(筑摩書房) ISBN:4-480-05923-7

伊藤達雄・鈴木康弘 『持続的社會づくりへの提言』(古今書院) ISBN:978-4-7722-4233-2

鈴木康弘ほか 『熊本地震の真実 - 語られない8つの誤解』(明石書店) ISBN:978-4-7503-5446-0

鈴木康弘 『ポスフォラスを越えてー激動のバルカン・トルコ地理紀行』(風媒社) ISBN:978-4-8331-3185-8

【授業外学修(予習・復習)等】

- ・ 毎回配付する資料を各自で読み直し、自分自身の考えを整理してください。
- ・ 小レポートの提出を数回求めるので、自らの言葉にまとめられるようにしてください。

(その他(オフィスアワー等))

質問等は常時メールで受け付けます。ysz@nagoya-u.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学7

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39				
授業科目名 <英訳>	地理学 (特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪公立大学現代システム科学研究科 水野 真彦 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	産業の分散と集積をめぐる議論を理解する				
[授業の概要・目的]					
<p>本科目は、産業立地と都市・地域経済について経済地理学の視点から理解するための講義である。理論と具体的事例を関連づけて説明し、都市や地域の経済発展について考える視点を習得させる。具体的には、産業立地論、製造業の地理的集積と分散、サービス業の立地とその変化の理解を深める。</p>					
[到達目標]					
<p>経済活動の成長や衰退の地域による違いはなぜ生じるのか、様々な産業が立地する理由は何か、なぜ特定の産業が地理的に集積（集まって立地）し別の産業では分散して立地するのか、といった問題について説明できるようになることを目標とする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション 第2回 製造業の立地（A.ウェーバーの立地論のエッセンス） 第3回 製造業の地方分散 第4回 プロダクトサイクルモデル 第5回 サービス業の立地 第6回 地方都市へのコールセンター立地 第7回 グローバル価値連鎖（GVC） 第8回 グローバル生産ネットワーク（GPN） 第9回 産業の空間的集積をめぐる議論 第10回 東大阪地域の町工場群 第11回 シリコンバレーの新産業集積 第12回 その他の集積（京都のハイテク産業など） 第13回 産業集積論の変化 第14回 地域発展論と政策 第15回 フィードバック</p> <p>・受講生の関心に応じて講義内容や順番を変更することがあります。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 地理学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

成績評価は、授業時に行うコメントペーパー50%，期末レポート50%とする。
課題については、到達目標の達成度について評価を行う。

[教科書]

竹中克行編 『人文地理学のパースペクティブ』（ミネルヴァ書房，2022）ISBN:9784623094486（第4章が本講義のエッセンスとなります）

[参考書等]

（参考書）

青山裕子ほか著 『経済地理学キーコンセプト』（古今書院）ISBN:9784772231572
伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著 『経済地理学への招待』（ミネルヴァ書房）ISBN:9784623086917
経済地理学会編 『キーワードで読む経済地理学』（原書房）ISBN:9784562092116

[授業外学修（予習・復習）等]

講義でとりあげたトピックについて、具体的にどのような事例があるのか調べ、関連する図書を探して読む。また、講義で言及した国や都市の場所がわからない時は地図で調べるなど、日頃から都市や地域について関心を持つようにする。

（その他（オフィスアワー等））

質問があればメール等でも受け付けますので、お気軽にご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学8

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学 (特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 渡辺 和之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	地理学からみる山地の資源利用と家畜				
[授業の概要・目的]					
<p>世間では山は住みにくい所と考える人が多くいます。しかし、地理学は山は自然資源の豊かな場所として研究をしてきました。この講義では、山を対象とした地理学の視点を紹介しながら、山の資源利用の1つとして家畜に注目します。事例として、ネパールの移牧や村の家畜飼養を通じ、山で家畜を飼養する営みを学びます。</p>					
[到達目標]					
<p>以下の4点を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高地から低地まで移動することで、多様な自然環境が利用できることを理解する。 ・畜産物の交易を通じて、平原や都市と関係することを理解する。 ・山地の多様な資源管理のあり方を理解します。 ・現代における山の暮らしの問題、利点、山の生業の持続可能性を考える。 					
[授業計画と内容]					
<p>山の地理学</p> <p>第1回 山は住みにくい所なのか？</p> <p>第2回 山を対象とした地理学の視点</p> <p>山地の移牧と資源利用の社会関係</p> <p>第3回 ヒマラヤの自然環境と山地農業</p> <p>第4回 移牧の歴史生態学</p> <p>第5回 移牧の形態の変化</p> <p>ネパール社会の変化</p> <p>第6回 マオイスト問題</p> <p>第7回 内戦のあとで</p> <p>第8回 出稼ぎと舎飼い家畜</p> <p>ヒマラヤの農牧林産物交易</p> <p>第9回 山を下る羊毛織物</p> <p>第10回 祭礼と家畜回廊</p> <p>山の生業の持続可能性</p> <p>第11回 山のコモンズと観光</p> <p>第12回 野生動物・家畜・人</p>					
----- 地理学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学 (特殊講義)(2)

災害と山の暮らしの変化

第13回 ネパール大地震

第14回 原発事故と阿武隈山地の家畜飼養者

第15回 まとめとフィードバック（具体的内容は授業中に指示する）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

小テスト（60％）と、小作文(40%)の充実度で評価します。
毎回の授業終了後に小作文を提出してもらいます。

【教科書】

使用しない

スライド（配布資料）に従って講義を進めます。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の講義スライドは授業支援システムから配布します（紙の資料は配りません）。
毎回の授業後に小コメントを提出してもらいます。

（その他（オフィスアワー等））

質問は講義終了後、および随時メール等で受け付けます。メールアドレスは以下です。
watanabe（アット）hannan-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学9

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39				
授業科目名 <英訳>	地理学 (特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 河原 典史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	水産移民をめぐる歴史地理学研究				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業では、漁業・漁村について歴史地理学的なアプローチを紹介する。</p> <p>漁業では、漁業者だけでなく、漁船や漁網などの製造業者が存在する。さらに、漁獲物は腐敗性が高いため、漁獲後の保存・加工・運搬など、漁業以外の従事者も存在する。また、新たな漁場や魚種の発見、漁業種類の導入などによって、彼らは移動することも少なくない。このように、漁業者を中心とする移動する人々を「水産移民」をして、改めて捉えなおす必要がある。</p> <p>このような諸相を歴史地理学的なアプローチから解明する場合、「地籍資料」「漁船台帳」や「船員手帳」など、活用できる一次資料を紹介する。そして、担当者が研究を重ねてきた事例を紹介する。具体的には、京都府の伊根浦と植民地期朝鮮、そして第2次大戦以前のカナダ西岸をとりあげる。</p>					
[到達目標]					
担当者の専門分野を中心とする歴史地理学のアプローチを学ぶ。そして、その知見を活用して、受講者の研究 (卒論・修論など) への応用力を習得する。					
[授業計画と内容]					
基本的には、以下の構成に従って講義を進める。なお、講義の順序や内容の細部を変更する場合がある。					
第1回	漁業をめぐる地理学的なアプローチ				
第2回	伊根浦の舟屋集落の変容(1)：地籍資料と家屋台帳				
第3回	伊根浦の舟屋集落の変容(2)：保全と観光地化				
第4回	植民地期朝鮮の水産業(1)：地籍資料と工場通覧				
第5回	植民地期朝鮮の水産業(2)：竹中缶詰工場の展開				
第6回	カナダ水産移民の展開(1)：日本人移民史の概要				
第7回	カナダ水産移民の展開(2)：サケ缶詰産業とBC州缶詰工場図集成				
第8回	カナダ水産移民の展開(3)：サケ缶詰産業と火災保険図				
第9回	カナダ水産移民の展開(4)：サケ缶詰産業と住所氏名録				
第10回	カナダ水産移民の展開(5)：捕鯨業と民族的分業システム				
第11回	カナダ水産移民の展開(6)：塩ニシン製造業と漁場利用				
第12回	カナダ水産移民の展開(7)：塩ニシン製造業と民族的分業システム				
第13回	カナダ水産移民の展開(8)：バンクーバー島の漁場開拓				
第14回	カナダ水産移民の展開(9)：バンクーバー島の女性と子供たち				
第15回	まとめと課題				
----- 地理学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業後の小レポート（20点）と試験または期末レポート（80点）により評価する。

【教科書】

レジュメの配布を中心に、パワーポイントの提示を併用する。参考とする論文などは、授業内で紹介する。

【参考書等】

（参考書）

河原典史 『カナダにおける日本人水産移民の歴史地理学研究』（古今書院、2021）ISBN: 9784772231961

京都学研究会編 『京都を学ぶ【丹後編】』（ナカニシヤ出版、202）ISBN:9784779517891（所収された拙稿「海を魅せつづける伊根浦の舟屋」を参照）

山根拓・中西僚太郎編著 『近代日本の地域形成：歴史地理学からのアプローチ』（海青社、2007）ISBN:978-4-86099-233-0（所収された拙稿「植民地期の朝鮮における水産加工業 缶詰製造業を中心に」を参照）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に別途指示します。

（その他（オフィスアワー等））

授業後の質問を歓迎します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学10

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学 (特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 桐村 喬		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	GISを用いた地理空間データ分析とその方法				
[授業の概要・目的]					
<p>今日では、地理学だけでなく、地域・空間を対象とする様々な学問分野において、GIS (地理情報システム) が必要不可欠なツールとなっている。この授業では、GISを用いた地理学的な分析事例や方法について、古典的なものだけでなく、衛星画像やオープンデータ、3Dデータにも注目しつつ、実習形式を交えながら紹介する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・GISを用いた地理学的分析の方法を理解し、自身の関心に応じて実践できる。 ・適切な地図表現の方法を用いて、GISで地図を描くことができる。 ・オープンデータや3Dデータなど、多様なGISデータをハンドリングすることができる。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 地理学とGIS 第2回 さまざまなGISデータ 第3回 ArcGIS Proの使い方 : 操作方法・レイアウト 第4回 ArcGIS Proの使い方 : 統計データの地図化 第5回 ArcGIS Proの使い方 : データ分析 第6回 さまざまな地理空間データの分析 : 事例紹介 第7回 さまざまな地理空間データの分析 : オープンデータの分析・地図化 第8回 さまざまな地理空間データの分析 : 衛星画像の解析 第9回 3D表現・データの活用 第10回 3Dデータの表示・分析 第11回 クラウドGISの活用 第12回 データ分析課題作業 準備 第13回 データ分析課題作業 分析 第14回 データ分析課題作業 地図化 第15回 授業のまとめとフィードバック</p> <p>フィードバックの方法については授業時に指示する。</p>					
----- 地理学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

GISソフトとしてはArcGIS Proを用いるが、必要に応じてExcelも用いる。これらのソフトの使用方法は必要な範囲で解説するが、PCの基本的な操作方法については解説しないため、PCの基本的な操作については各自で予備知識を持っておくこと。

【成績評価の方法・観点】

平常点（40点）：毎回の授業で課す小テスト・作業課題の提出物
レポート（60点）：GISを用いたデータ分析課題についてのレポート

【教科書】

桐村 喬 『ArcGIS Proではじめる 地理空間データ分析』（古今書院, 2024年）ISBN:978-4-7722-2033-0（おおむね毎回の授業で使用する。）
必要に応じてプリントの現物やPDFの配布も行う。

【参考書等】

（参考書）

桐村 喬・上杉昌也・米島万有子・相 尚寿・鈴木重雄 『基礎から学ぶGIS・地理空間情報』（古今書院, 2024年）ISBN:978-4-7722-3205-0
矢野桂司 『やさしく知りたい先端科学シリーズ8 GIS 地理情報システム』（創元社, 2021年）ISBN:978-4-422-40064-8
授業中にも適宜紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の授業終了時に予習範囲の説明を行うので、その回の復習と次回の内容の予習を行うこと。自身の関心に応じたGISの活用方法について考え、各自でさらなる学習を進めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

メールアドレスを初回の授業で案内するので、不明な点があれば、授業前後かメールで問い合わせること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学11

科目ナンバリング	G-LET31 67431 LJ39				
授業科目名 <英訳>	地理学 (特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 寺床 幸雄		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	村落地理学				
【授業の概要・目的】					
<p>本講義では、村落を多角的に理解する視点を農山村の事例をふまえて学ぶ。村落は古くから人間生活の基礎となり、農業などの生業が営まれてきただけでなく、様々な文化を生み出してきた。また、近年はグリーンツーリズムのように観光行動の舞台ともなっている。村落をとらえるための視点や研究方法を概観したうえで、具体的事例から今後の村落の展望についてともに考えていきたい。</p>					
【到達目標】					
<p>(1) 村落地理学の基礎的な研究の視点を理解し、説明することができる。 (2) 村落の地域的特徴を理解し、その時間的变化や地域的差異について説明することができる。 (3) 農業や地域活性化などの具体的事例から、今後の村落の持続可能性について考え、説明することができる。</p>					
【授業計画と内容】					
第1週 村落とはどのような空間か 第2週 村落をとらえる視点 人文地理学における村落地理学の位置づけ 第3週 村落をとらえる視点 空間スケール、基礎地域、基礎社会 第4週 村落をとらえる視点 村落のイメージ 第5週 村落の立地と類型 村落の形態論、村落研究の系譜 第6週 村落の立地と類型 村落の地図を読む 第7週 村落研究のフィールドワーク 第8週 村落研究のフィールドワーク 第9週 村落と産業 商業的農業地域 第10週 村落と産業 自給的農業地域 第11週 村落の地域振興と観光 第12週 村落における生活 地域集団と生活文化 第13週 村落における生活 高齢化と社会生活の再編 第14章 村落の比較地誌 第15章 村落の未来					
【履修要件】					
特になし					
----- 地理学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

各週のショート・レポート（30%）および学期末のレポート（70%）によって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に各回に関連する参考文献や論文等を提示するので、各自で講読して復習と予習に役立ててほしい。また、日常的にニュースなどで村落地域に関する話題に関心を持ち、身近な地域の暮らしや農業などにも目を向けて過ごすことが重要である。そうした日常的な情報収集と観察を、授業内容との関連で考える習慣をつけてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

授業終了後にオフィスアワーの時間を設けることが可能なので、事前に連絡すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学12

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学 (特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 講師 杉江 あい		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代バングラデシュの経済・社会・ジェンダー				
[授業の概要・目的]					
この授業では工業化, 労働, 開発, ジェンダー, 環境, 宗教, 移動といった多様な観点から, バングラデシュの急速な経済成長と社会変容について学ぶ。それと同時に, 第3世界の諸問題を捉える視座について考える。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・バングラデシュの経済成長と社会変容を多様な観点から理解する。 ・バングラデシュを含む第3世界を捉える視座について, 各自が自分の意見を述べるようになる。 					
[授業計画と内容]					
第1回目 オリエンテーション・バングラデシュの基本情報 第2回目 低開発国から脱出した経済 第3回目 経済発展と労働市場の変化 第4回目 社会開発と取り残される人びと 第5回目 NGOの戦略変化 第6回目 小規模金融の発展と女性 第7回目 社会変動のなかの女性への暴力 第8回目 川とともに生きる農村の変化 第9回目 イスラームとライフスタイル消費 第10回目 女性労働の拡大とジェンダー規範 第11回目 国際移住の歴史 第12回目 海外出稼ぎと農村経済 第13回目 バングラデシュ移民女性が抱える課題 第14回目 国際関係を取り巻く変化 第15回目 まとめとフィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<ul style="list-style-type: none"> ・平常点 (40点) と期末レポート (60点) で評価する。 ・平常点は授業内に提出するコメントで評価する。 ・理由のない欠席を5回以上した場合は単位を認めない。 ・期末レポートは、文章のわかりやすさ、構成力、論理的な展開、説得力、定められた形式にしたがっているかという点を考慮して評価する。 ・必ずしも上記の点が十分でなくても、授業内容を踏まえた記述や多くの文献・資料の渉猟をする 					
----- 地理学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

地理学 (特殊講義) (2)

などの努力が認められる場合も高く評価する。

・ただし、すべてまたはほとんどの文章が文献やウェブサイトからそのまま引用しただけの場合は低く評価する。

・期末レポートで出典を明記せず盗用・剽窃を行った場合は単位を認めない。

[教科書]

外川昌彦ほか編 『『現代バングラデシュ—経済成長と激動する社会』 (東京大学出版会, 2025)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業前に配布する資料を読んで予習する。授業後には授業中に示した参考文献を参照して復習する。

(その他 (オフィスアワー等))

面談は必ず事前にメールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学13

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学 (特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 講師 杉江 あい		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木1	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	難民の地理学				
[授業の概要・目的]					
この授業では地理学及び隣接分野におけるさまざまな難民を対象とした研究をもとに、難民に対するまなざしや「人道支援」の問題、難民の行為主体性と生活世界について学ぶ。後半では前半でとりあげた難民を対象とした研究による知見をもとに、ロヒンギヤをめぐる問題をどのように捉えることができるのかを考える。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 難民を脆弱な存在ないしは潜在的犯罪者とする一面的な見方を相対化する。 ・ 強制退去させられた人びとを「難民」として支援する体制とその問題点を理解する。 ・ 難民をめぐる諸問題について、各自が自分の意見を述べるようになる。 					
[授業計画と内容]					
第1回目 オリエンテーション 第2回目 難民と難民研究 第3回目 「人道支援」と第三国定住 第4回目 移動の自律性と下からの地政学：ヨーロッパに向かう難民 第5回目 難民の行為主体性：チベット難民のアイデンティティ 第6回目 アフリカ難民の生計戦略と生活世界 第7回目 難民として生きる：ウガンダに避難したヌエールの人びと 第8回目 イスラエル建国とナクバ（大厄災） 第9回目 パレスチナ難民のオーラル・ヒストリー：「正史」への対抗言説 第10回目 ロヒンギヤのルーツと歴史 第11回目 ロヒンギヤのルーツと歴史 第12回目 ロヒンギヤ難民キャンプの地理 第13回目 ロヒンギヤとホストコミュニティ 第14回目 日本とロヒンギヤの関わり 第15回目 まとめとフィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 平常点（40点）と期末レポート（60点）で評価する。 ・ 平常点は授業内に提出するコメントで評価する。 ・ 理由のない欠席を5回以上した場合は単位を認めない。 ・ 期末レポートは、文章のわかりやすさ、構成力、論理的な展開、説得力、定められた形式にしたがっているかという点を考慮して評価する。 					
----- 地理学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学 (特殊講義)(2)

- ・必ずしも上記の点が十分でなくても、授業内容を踏まえた記述や多くの文献・資料の渉猟をするなどの努力が認められる場合も高く評価する。
- ・ただし、すべてまたはほとんどの文章が文献やウェブサイトからそのまま引用しただけの場合は低く評価する。
- ・期末レポートで出典を明記せず盗用・剽窃を行った場合は単位を認めない。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

久保忠行 『難民の人類学』 (2014)

Jennifer Hyndman, Wenona Giles 『Refugees in Extended Exile: Living on the Edge』 (2016)

北川真也 『アンチ・ジオポリティクス』 (2024)

山本達也 『舞台の上の難民』 (2013)

橋本栄莉 『タマリンドの木に集う難民たち』 (2024)

ラシード・ハーリディー 『パレスチナ戦争』 (2023)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業中に提示する参考文献を参照し、予習・復習する。

(その他 (オフィスアワー等))

面談は必ず事前にメールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学14

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39			
授業科目名 <英訳>	地理学 (特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科	教授 特定助教	大山 修一 塩谷 暁代
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アフリカの地誌				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、多面的にアフリカの諸相を取り上げていきます。飢餓や貧困、内戦やテロ、クーデターといった問題をみたり、人びとの日常生活に着目した農業や牧畜、環境利用、食事やモノのやりとり、人間関係の、文化に根ざした価値観、働き方、結婚や子育てといった側面にもフォーカスを当てていきます。</p> <p>また、BOPビジネスの定着や脱プラスチックの動きなど、時代にあわせた環境政策なども取り上げ、アフリカにおける自然や生態、文化、社会、生業、経済、政治を幅広くみていき、地理学とその隣接分野によるフィールドワークの可能性とそのフロンティアをみなさんと一緒に考えていきます。</p>					
[到達目標]					
<p>サハラ以南アフリカにおける自然や社会、文化、経済、政治に関する理解を深めるとともに、アフリカの諸相を検討することにより、今後の日本社会や世界の動き、社会、同時代に生きるわれわれの暮らしのより良いあり方を考察できるようになることを目標とする</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の計画で講義を進める。ただし講義の進み具合等により、順序を変えることがある。</p> <p>第1回 アフリカ研究のおもしろさ - 自然と文化、生き方 第2回 アフリカの自然 (1) : 低いアフリカ、高いアフリカ 第3回 アフリカの自然 (2) : 熱帯林から砂漠まで 第4回 森林保全とアフリカ (1) : 農業からみた熱帯雨林の資源利用 第5回 森林保全とアフリカ (2) : 狩猟・採集からみた熱帯雨林の資源利用 第6回 食料安全保障とアフリカ(1) : アフリカにおける都市化の進展と食料問題 第7回 食料安全保障とアフリカ (2) : アフリカにおける農業の商業化 第8回 開発とアフリカ : 収入向上をめぐる様々なアプローチ 第9回 自給生活は貧しいのか。 第10回 テロとクーデター : 貧困が生み出すスパイラル 第11回 BOPビジネス : 貧しいからこそ工夫して 第12回 アフリカの国境線と土地制度 : 土地はだれのもの？ 第13回 脱植民地化と陰謀論の時代 : カギを握るのはSNS 第14回 環境修復とアフリカ : 環境問題の解決は物質循環 第15回 Ubuntu : 問われるのは人間性</p>					
----- 地理学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

地理学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

小レポートの成績(50%)と期末レポート(50%)で評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

佐藤寛 『開発援助の社会学』(世界思想社, 2005)

杉村和彦・鶴田格・末原達郎編 『アフリカから農を問い直すー自然社会の農学を求めて』(京都大学学術出版会, 2023)

セルジュ・ラトゥール 『脱成長』(白水社, 2020)

松田素二 『アフリカ社会を学ぶ人のために』(世界思想社, 2014)

ムンギ・エンゴマニ 『ウブントゥ: 自分も人も幸せにする14の知恵』(バンローリング株式会社, 2020)

[授業外学修(予習・復習)等]

内容を理解し、履修者自身の関心と関連づけて考察するため、授業中に配布または指示する資料を用いて予習・復習する。

(その他(オフィスアワー等))

授業に関する質問は、メールや研究室で対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学15

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史 (特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	食と農の人文学				
[授業の概要・目的]					
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。					
[到達目標]					
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である (全15回)					
1 食糧戦争としての第一次世界大戦					
2 有機農業の歴史					
3 毒ガスと農薬の歴史					
4 トラクターの歴史					
5 戦時期の農村女性たち					
6 食糧戦争としての第二次世界大戦					
7 フィードバック					
[履修要件]					
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。					
[成績評価の方法・観点]					
定期試験 (筆記)					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。					
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』					
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』					
藤原辰史 『ナチスのキッチン』					
科学哲学科学史 (特殊講義)(2)へ続く					

科学哲学科学史 (特殊講義)(2)

藤原辰史 『カブラの冬』
ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』
湯澤規子他編 『食と農の人文学』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修 (予習・復習) 等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学16

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史 (特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 瀬戸口 明久		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	物質の環境史				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義は、「物質」を中心にして歴史を書くことの可能性について考える試みである。人類は有史以前から地下から鉱物を掘り出し、金属として精錬して利用してきた。とりわけ19世紀以降は、化学工学の発達とともに、新たな化学物質が次々と生産された。それらの化学物質は、環境中に拡散し、ヒトの体内にも浸透している。「物質」を歴史を見る対象の単位とすることはいくつか利点がある。地球史と接続することによって、ディープ・ヒストリーの視点を導入できること。物質のグローバルな流れに注目することで、世界各地で起こっていたことを同時代的に見通すことができること。ヒトと自然の関係を考える環境史の視点から歴史を再検討できることなどである。本講義では、おもに日本の科学技術史・環境史の研究をもとに、化学物質と人間の歴史について考えてみたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> - 物質について、人文学の視点から考えられるようになる。 - 物質について、基礎的な自然科学の知識を得る。 					
[授業計画と内容]					
第1回 物質の環境史序論 第2回 物質とは何か：物質の科学技術史 第3回 金属（1）銅・鉄・アルミニウム 第4回 金属（2）銅・鉄・アルミニウム 第5回 炭素（1）石炭・石油・自動車 第6回 炭素（2）石炭・石油・自動車 第7回 砒素（1）石見銀山・殺虫剤・毒ガス 第8回 砒素（2）石見銀山・殺虫剤・毒ガス 第9回 リン（1）肥料・マッチ・猫いらず 第10回 リン（2）肥料・マッチ・猫いらず 第11回 青酸：殺虫剤・毒ガス・メッキ 第12回 プラスチック 第13回 アイソトープ 第14回 まとめ 第15回 フィードバック					
----- 科学哲学科学史 (特殊講義)(2)へ続く -----					

科学哲学科学史 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

中間レポート（40％）と最終レポート（60％）。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

Brett L. Walker 『Toxic Archipelago: A History of Industrial Disease in Japan』（University of Washington Press, 2011）ISBN:0295991380

Timothy J. LeCain 『The Matter of History: How Things Create the Past』（Cambridge University Press, 2017）ISBN:9781316460252

桃木至朗責任編集 『ものがつなく世界史』（ミネルヴァ書房、2021年）ISBN:9784623087778

【授業外学修（予習・復習）等】

第1回の授業で参考文献一覧を配布するので、関心を持った回については参照するとよい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学17

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史 (特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 久木田 水生		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	情報技術の哲学				
[授業の概要・目的]					
<p>現在、情報技術は急激に発達しており、それは私たちの生活と社会的環境を大きく変化させている。情報技術はコミュニケーションの基盤であり、それゆえに私たちがどのように情報を伝え、どのように他者とつながるかということの規定する。人間は社会的な生物であるがゆえに、他者とのつながり方が変化すれば、「私たちは何者であるのか」、「私たちはいかなる世界に生きているのか」という問いに対する答えもまた変化する。そこで本講義では急速に発達する情報技術が、自己と環境（物理的世界、社会、他者）についての私たちの認識をどのように変容させているか考え、議論する。その際にはコミュニケーションは人間にとってどのような意味を持つかという問題についても議論する。またより一般的に技術と人間がどのような関係にあるのかという問題も扱う。</p>					
[到達目標]					
<p>情報技術のこれまでの発展が人間や社会に与えてきた影響について基本的な知識を身に付け、現在と将来の情報技術の影響と課題について理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>本講義ではコンピュータ、インターネット、スマートフォン、ソーシャルメディア、ビッグデータ、人工知能、ロボティクス、VRなどの情報技術が社会と人間に与えるインパクトを、倫理的哲学的観点から考察する。授業は以下の内容を含む予定であるが、変更する場合もある。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：なぜ情報技術を論じるのか 2. 情報技術によるコミュニケーションの変容 3. 情報技術に関する楽観論と悲観論 4. 技術と人間の関係(1)：技術による変容的経験 5. 技術と人間の関係(2)：技術と「共生」ということの意味 6. コミュニケーションとは何か(1)：情報通信と意思疎通 7. コミュニケーションとは何か(2)：相互同期と協調 8. インターネットと情報のコモンズ 9. インターネットの問題(1)：「勝者総取り」の構造 10. インターネットの問題(2)：エンゲージメント至上主義 11. インターネットの問題(3)：インターネットのイドラ 12. 人工知能略史：階差機関からChatGPTまで 13. 人工知能というメディア 14. コミュニケーションの未来(1)：メタバースとアバター 15. コミュニケーションの未来(2)：ソーシャルロボット 					
----- 科学哲学科学史 (特殊講義)(2)へ続く -----					

科学哲学科学史 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中に実施する小テスト 100%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

指定された参考資料、参考文献を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

質問やコメント等は授業の後に直接、あるいは下記のメールアドレス宛に問い合わせてください。

kukita.minao.p7@f.mail.nagoya-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET32 78241 SJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史 (演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	核と市民				
[授業の概要・目的]					
原子力関係施設は20世紀に出現した非日常的な存在であり、それまでの人間の生活の中にはなかったものである。これまでこのような核施設と人々はどのようにかかわり合ってきただろうか。核施設のもたらすリスクや事故に対して、人々はどのように向き合ってきただろうか。この授業では、これらの問題に関係する歴史学および周辺分野の研究のうち、比較的最近のものを取り上げて討論する。					
[到達目標]					
原子力と市民とのかかわりに関する和文および英文の学術文献を読みこなせるようになること。					
[授業計画と内容]					
この授業はリーディングセミナーの形式で行う。毎回担当者が文献を読んで、その紹介をし、かつ、ディスカッションをリードする。文献の紹介の時間は60分程度とし、残りの時間をディスカッションにあてる取り上げる文献は、参加者の関心や語学力などに応じて変更する可能性がある。					
<ol style="list-style-type: none"> 1 . オリエンテーション：ラングドン・ウィナー「鯨と原子炉」をめぐって 2 . ブライアン・ウィン (立石 裕二訳・解題) 「誤解された誤解 社会的アイデンティティと公衆の科学理解」(原著1996) 3 . 榎本喜一「リスク論導入の歴史的経緯とその課題：関西研究用原子炉の安全性に対する日本学術会議の見解を事例に」(2005)、「初期原子力政策と戦後の地方自治 相克の発生：関西研究用原子炉交野案設置反対運動を事例に」(2006)、「研究用原子炉の都市近郊立地に関する歴史的考察：関西研究用原子炉と武蔵工業大学研究用原子炉の比較検討」(2007) 、 4 . ダニエル・アルドリッチ『誰が負を引きうけるのか：原発・ダム・空港立地をめぐる紛争と市民社会』(原著2008)、序章から第2章 5 . ダニエル・アルドリッチ『誰が負を引きうけるのか：原発・ダム・空港立地をめぐる紛争と市民社会』(原著2008)、5章から結論 6 . ケート・ブラウン『プルトピア：原子力村が生みだす悲劇の連鎖』(原著 2013) 第一部 7 . ケート・ブラウン『プルトピア：原子力村が生みだす悲劇の連鎖』(原著 2013) 第二部 8 . 竹峰誠一郎『マーシャル諸島 終わりなき核被害を生きる』(2015) から抜粋 9 . Aya Hirata Kimura, Radiation Brain Moms and Citizen Scientists: The Gender Politics of Food Contamination after Fukushima (2016)から抜粋 (1) 1 0 . Aya Hirata Kimura, Radiation Brain Moms and Citizen Scientists: The Gender Politics of Food Contamination after Fukushima (2016)から抜粋 (2) 1 1 . Toshihiro Higuchi, Political Fallout: Nuclear Weapons Testing and the Making of a Global Environmental Crisis (2020)から抜粋 (1) 1 2 . Toshihiro Higuchi, Political Fallout: Nuclear Weapons Testing and the Making of a Global Environmental Crisis (2020)から抜粋 (2) 					
----- 科学哲学科学史 (演習)(2)へ続く -----					

科学哲学科学史 (演習)(2)

- 1 3 . Hamblin and Richards, Making the Unseen Visible (2023から抜粋)
- 1 4 . まとめ: Kenji Ito, " Physicists versus Locals in Tanashi: The Dispute over the Establishment of the Institute for Nuclear Study, " (unpublished)
- 1 5 . フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点 (授業参加・担当箇所の発表) (50%)
レポート1回 (50%)
ただし、発表回数によってはレポートを免除することがある。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修 (予習・復習) 等】

参加者は指定したテキストを事前に読んで討論できるようにすること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学19

科目ナンバリング	G-LET32 78241 SJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史 (演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	科学史研究法：理論と実践				
[授業の概要・目的]					
科学史の研究にはよく用いられる理論的な枠組みや、実際の研究を進めていく上で、役に立つノウハウや、様々な道具が存在する。この演習では、卒業論文、修士論文、博士論文などで、科学史およびその周辺分野の研究をこれからしようとする人を対象に、科学史分野で用いる理論的枠組みを考えるのに有益な論文を読みつつ、研究や研究者としての活動を実際に遂行するにあたって有用なリソースやノウハウを紹介し、実際の研究の一部を演習する。					
[到達目標]					
科学史の理論的枠組みの一部を習得し、同時に研究を行うスキルの基礎的なものを身につけること。					
[授業計画と内容]					
この授業は各回の授業は理論パートと演習パートからなるが、授業の6回目と14回目は各自の提出物に基づいたワークショップ形式で行う。					
理論パート：Biagioli ed., Science Studies Readerから論文をピックアップして演習					
実践パート：研究上のリソースやノウハウを紹介し、時には実演する。					
ワークショップ：研究に関する実際の作業に基づき、合評をする。					
1. ガイダンス、概要説明、分担決定、科学史研究によく使うツール					
2. 理論：実験と研究者集団の科学史的分析: Kohler, “Moral Economy”					
実践：テーマ設定と研究設計、研究計画書					
レポート課題1発表					
3. 理論：技術の社会構築: MacKenzie, “Nuclear Missile Testing”					
実践：先行研究と一次資料の文献調査法：科学史関係のデータベース、図書館、その他					
4. 理論：標準の科学論: Schaffer, “Late Victorian Metrology”					
実践：文献の入手と整理の実践（書籍、論文、その他、図書館と書店の利用法）					
5. 理論：実験室の科学史: Shapin, “House of Experiment”					
実践：リーディングとノートテイキングの技法					
課題1レポート提出期限					
6. 研究計画書ワークショップ					
7. 理論：非西洋科学: Hart, “On the Problem of Chinese Science”					
実践：書評と査読					
レポート課題2発表					
8. 理論：「パラダイム論」を超えて: Galison, “Trading Zone”					
実践：アーカイブズ調査 / 資料撮影とその整理					
9. 理論：科学と表象: Martin, “Toward an Anthropology of Immunology”					
実践：新聞データベースの利用					
10. 理論：実験室とANT: Latour, “Give Me a Laboratory”					
科学哲学科学史 (演習)(2)へ続く					

科学哲学科学史 (演習)(2)

実践：学会発表とスライド

11. 理論：バウンダリー・オブジェクト: Star and Griesemer, “ Institutional Ecology ”

実践：ライティングの技法とバックアップ

12. 理論：実験と物質の科学論: Pickering, “ The Mangle of Practice ”

実践：スタイルと論文投稿と改稿

13. 理論：新物質主義とフェミニズム: Barad, “ Agential Realism ”

実践：科学史における研究倫理

レポート課題2 提出期限

14. 書評 / 査読報告ワークショップ

15. フィードバック

(履修者の関心と必要に応じて内容を変えることがある)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点 (授業参加・発表) (50%)

課題2回 (50%)

[教科書]

授業で使用するテキストは、担当教員が用意して配布する。

[参考書等]

(参考書)

トーマス・S・マラニー, クリストファー・レア 『リサーチのはじめかた 「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』 (筑摩書房, 2023) ISBN:978-4480837257

戸田山 和久 『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』 (NHK出版, 2022) ISBN: 978-4140912720

[授業外学修 (予習・復習) 等]

参加者は指定したテキストを事前に読んで討論できるようにすること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学20

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34			
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史 (演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	時間の科学哲学				
[授業の概要・目的]					
<p>時間は哲学のさまざまな領域で問題となってきたが、科学哲学においてはとりわけ物理学理論における時間と我々の経験する時間との関わりが重要な問題になってきた。この授業では、特に現在主義と相対性理論の関わりという話題と熱力学における時間という話題について時間の哲学に関するアンソロジーに収録された論文を読むことで、科学哲学の観点から見た時間の問題について理解を深める。</p>					
[到達目標]					
時間の科学哲学の主要な論点を理解し、主な立場を批判的に検討できるようになる。					
[授業計画と内容]					
<p>以下の論文集から2つの論文を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。 Callender, C. (2011) The Oxford Handbook of Philosophy of Time. Oxford University Press.</p> <p>基本的に一回の授業でテキスト7~8ページ程度を読み、それについてディスカッションする形です。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する(担当者は事前に決めておく)。</p> <p>授業の進行は以下のとおり。</p> <p>イントロダクション(1回) 学生による発表担当 Zimmerman "Presentism and the space-time manifold" (10回) North "Time in thermodynamics" (4回)</p>					
[履修要件]					
<p>特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』(岩波書店)は全体を読み理解しておくことが望ましい。</p>					
----- 科学哲学科学史 (演習)(2)へ続く -----					

科学哲学科学史 (演習)(2)

【成績評価の方法・観点】

発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。
発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうか評価基準になる。

【教科書】

「授業計画と内容」で挙げた著作から使用する部分を授業内で配布。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学21

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34			
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史 (演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	確率の哲学 2				
【授業の概要・目的】					
<p>確率の哲学は哲学の諸問題だけでなく隣接するさまざまな問題領域に適用される応用範囲の広い分野である。しかしその基礎概念は必ずしもよく理解されているとは言えない。この演習では昨年に引き続き確率の哲学に関するアンソロジーを利用して、この分野についてのより正確で深い理解を身に付けていくことを目指す。</p>					
【到達目標】					
<p>確率の哲学の様々な立場を正しく理解し、それらを批判的に検討できるようになる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>以下のアンソロジーからいくつかの論文を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。</p> <p>Hajek, A. and Hitchcock, C. eds. (2016) The Oxford Handbook of Probability and Philosophy. Oxford University Press.</p> <p>基本的に一回の授業でテキスト7~8ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する (担当者は事前に決めておく)。</p> <p>授業の進行は以下のとおり。</p> <p>イントロダクション(1回) Sprenger "Bayesianism vs. frequentism in statistical inference"(3回) Neapolittan and Jiang "Bayesian Network Theory" (2回) Gillies "The propensity interpretation" (2回) Schwartz "Best system approaches to chance"(2回) Smithson "Human understandings of probability"(2回) Bartha "Probability and the philosophy of religion" (3回)</p>					
【履修要件】					
<p>特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』(岩波書店)は全体を読み理解しておくことが望ましい。</p>					
【成績評価の方法・観点】					
<p>発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。 発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レ</p>					
<p>科学哲学科学史 (演習)(2)へ続く</p>					

科学哲学科学史 (演習)(2)

ポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうかの評価基準になる。

[教科書]

「授業計画と内容」で挙げた書籍から使用する部分を授業内で配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学22

科目ナンバリング	G-LET32 78241 SJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史 (演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 大塚 淳		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目					
[授業の概要・目的]					
<p>古くプラトンの時代から、数学は哲学者の基礎的教養とされてきた。また20世紀以降の哲学議論においては、論理学や集合論などといった数学的道具立てが陰に陽に用いられてきた。実際、数学的思考は、高度に抽象的で一見「捉えどころのない」問題をモデル化し、思考に秩序と型を与えるという点で、哲学的思索にとって有益である。そこで本授業では、哲学に益すると目される限りでの抽象数学の基礎的な部分を概観し、それをを用いて具体的な哲学的問題をモデル化することを学ぶ。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> - 集合、代数、位相、群など、現代数学の基本的な概念に慣れ親しむ - 数学的概念で哲学的問題をモデル化する方法を学ぶ - 注：本授業は取り扱われる数学理論に習熟することを目的とするのではなく、あくまでそれらの哲学的問題との関連性 / 使い所を知ることが主眼である。それぞれの理論をしっかりと理解するためには、別途専門の授業を受けられたい。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 導入と準備 3. 集合 4. 関係と関数 5. 順序 6. 束 7. トポロジー 8. モノイド 9. 群 10. 圏 11. 数理モデリング方法論 12-14. 予備およびプロジェクトのフィードバック 15. フィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
----- 科学哲学科学史 (演習)(2)へ続く -----					

科学哲学科学史 (演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

- 単元毎の演習課題 30%
- 事前構想レポート 10%
- 期末レポート 60%

[教科書]

授業中に指示する
「哲学者のための数学」(オリジナル教材、初回授業時に配布)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://grey-mall-db5.notion.site/Formal-methods-for-Philosophy-2025S-Syllabus-16688bced13080e599d3c993d4aba528>(オンラインシラバス)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、指定された教科書の範囲を読み、演習問題を解いておくこと

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学23

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史 (特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	核のグローバルヒストリー				
[授業の概要・目的]					
この講義では20世紀を中心として世界的な核開発の歴史を扱う。核開発は多くの場合、国家的な事業として実施されるため、国単位で考えやすい。しかし、国際関係・国際秩序と密接に結びついているので、グローバルな、あるいはトランスナショナルな視点が欠かせない。この授業では、国別の開発を抑えながらも、グローバルないしトランスナショナルな観点に重点をおいて、核開発の歴史を概観する。日本に関する事柄は後期の授業で扱うので、あまり取り上げない。					
[到達目標]					
グローバルな観点から核開発の歴史を俯瞰できるようになる。					
[授業計画と内容]					
この授業は講義形式で行う。必要と履修者の関心により、内容を変えることがある。					
<ol style="list-style-type: none"> 1．オリエンテーション：核のグローバルヒストリーとは何か？ 2．原子物理学の発展と核分裂の発見 3．原子爆弾の想像と可能性 4．科学者の移動と冶金研究所 5．国際事業としてのマンハッタン計画 6．放射線の人体影響 7．冷戦における核の人工物 8．原子力をめぐる国際条約と国際機関 9．ウランとプルトニウム 10．核開発のグローバル化 11．太平洋における核実験 12．原子力事故とフォールアウト 13．世界の反核運動 14．まとめ 15．フィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
レポート1回 (100%)					
[教科書]					
使用しない					
----- 科学哲学科学史 (特殊講義)(2)へ続く -----					

科学哲学科学史 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

- ジム・バゴット 『原子爆弾 1938~1950年：いかに物理学者たちは世界を残酷と恐怖へと導いていったか?』 (作品社, 2015) ISBN:978-4861825125
- マイケル・D・ゴードン、G・ジョン・アイケンベリー編 『国際共同研究 ヒロシマの時代：原爆投下を変えた世界』 (岩波書店, 2022) ISBN:979-4000245456
- スペンサー・R・ワート 『核の恐怖全史：核イメージは現実政治にいかなる影響を与えたか』 (人文書院, 2017) ISBN:978-4409241141
- 中山保雄 『増補放射線被曝の歴史：アメリカ原爆開発から福島原発事故まで』 (明石書店, 2011) ISBN:978-4750334820 (巻末に文献が挙げられているだけで、典拠の記述が不十分であるという欠陥を持つ。)
- 若尾祐司、本田宏編 『反核から脱原発へ』 (昭和堂, 2012) ISBN:978-4812212233 (ヨーロッパ各国の原子力政策史を簡潔にまとめている。)
- 加藤哲郎・井川充雄編 『原子力と冷戦：日本とアジアの原発導入』 (花伝社, 2013) ISBN:978-4763406590
- 若尾祐司、木戸衛一編 『核開発時代の遺産：未来責任を問う』 (昭和堂, 2017) ISBN:978-4812216347 (収録されている論文の質にややばらつきがある。)
- 竹峰 誠一郎 『マーシャル諸島：終わりなき核被害を生きる』 (新泉社, 2015) ISBN:978-4787714114
- ケイト・ブラウン 『ブルートピア：原子力村が生み出す悲劇の連鎖』 (講談社, 2016) ISBN:978-4062199995 (訳書では原注が削除されるという蛮行がなされている。原注は出版社ウェブサイトからPDFファイルをダウンロードできるとあるが、リンク切れ。)
- Elisabeth Roehlich 『Inspectors for Peace: A History of the International Atomic Energy Agency』 (Johns Hopkins University Press, 2022) ISBN:978-1421443331
- Gabrielle Hecht 『Being Nuclear: Africans and the Global Uranium Trade』 (MIT Press, 2012) ISBN:978-0262017268

[授業外学修(予習・復習)等]

適宜参考文献を紹介するので、各人の関心と必要に応じて読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学24

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史 (特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本の核開発史				
[授業の概要・目的]					
どのようにして日本で原子力が開発されて、大規模事故に至ったのか？この授業では戦前から2011年ごろまでの日本における核開発の歴史におけるいくつかの側面について概観する。					
[到達目標]					
日本における核開発の概要についての理解を深める。					
[授業計画と内容]					
授業は講義形式で行う。授業内容は必要や受講者の関心に応じて変更することがある。					
<ol style="list-style-type: none"> 1．オリエンテーション：日本における核開発史の何が問題か 2．戦前日本の核物理学とX線 3．日本における戦時核研究 4．放射能の人体影響研究 5．日本学術会議と原子力 6．第五福竜丸事件 7．原子力における「1955年体制」 8．原子炉の輸入と国内政治 9．JRR-3と核技術の国産 10．IAEAと日本 11．日本における反核運動 12．原子力と広報 13．福島第一原発事故 14．まとめ 15．フィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
レポート1回 (100%)					
[教科書]					
使用しない					
----- 科学哲学科学史 (特殊講義) (2)へ続く -----					

科学哲学科学史 (特殊講義) (2)

[参考書等]

(参考書)

吉岡齊 『新版 原子力の社会史』(朝日新聞出版, 2011) ISBN:978-4022599834 (文献注がなく、巻末参考文献表さえなく、典拠が全く示されていないという深刻な欠陥を持つ。)

山崎正勝 『日本の核開発:1939~1955: 原爆から原子力へ』(績文堂, 2011) ISBN:978-4881160756

山本義隆 『核燃料サイクルという迷宮: 核ナショナリズムがもたらしたもの』(みすず書房, 2024) ISBN:978-4622096979 (核燃料サイクルだけではなく、そこに至る戦前からの歴史を描いている。)

リチャード・J. サミュエルズ 『富国強兵の遺産 技術戦略にみる日本の総合安全保障』(三田出版会, 1997) ISBN:978-4895831833 (核開発についての本ではないが、日本における軍事研究の位置づけについて知るのに良い。)

山本昭宏 『核エネルギー言説の戦後史1945 - 1960: 「被爆の記憶」と「原子力の夢」』(人文書院, 2012) ISBN:978-4409240946

笹本征男 『米軍占領下の原爆調査: 原爆加害国になった日本』(新幹社, 1995) ISBN:978-4915924651 (著者の主張には賛成しないが、このテーマについて日本語で読める研究として。M・スーザン・リンディー 『軍事の科学』第5章も参照。)

伊藤憲二 『励起: 仁科芳雄と日本の原子物理学(下巻)』(みすず書房, 2023) ISBN:978-4622096191 (全部を読む必要はないが、下巻22章が戦時核エネルギー研究についてであり、その他日本の核開発に関連する記述がある。。)

小路田泰直ほか編 『核の世紀: 日本原子力開発史』(東京堂出版, 2016) ISBN:978-4490209365 (収録された論文の質にかなりばらつきがある。)

丸浜 江里子 『新装版 原水禁署名運動の誕生: 東京・杉並の住民パワーと水脈』(有志舎, 2021) ISBN:978-4908672484

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に適宜参考文献を紹介するので、各人の関心と必要に応じて読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学25

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史 (特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	英語
題目	科学哲学入門上級 Advanced Introduction to Philosophy of Science				
[授業の概要・目的]					
<p>The aim of this special lecture is to introduce the participants into the field of philosophy of science through lectures focusing on classic and basic papers in the field. More concretely, In the first half of the class, we read classic papers of Hempel, Kuhn, Duhem, Nagel and others who founded the field. Lectures on the background of the papers will be given. In the latter half of the class, we pick up several areas in philosophy of science that attract attention recently. We read related basic literature and there will be lectures on the background, relationship with contemporary issues (especially implications in Japanese context) of the readings. Through such readings and lectures, this class try to show the breadth of the field of philosophy of science.</p>					
[到達目標]					
<p>To be able to explain the historical background and basic issues of the field of philosophy of science. To be able to connect ideas in philosophy of science to various contemporary issues.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>The lectures will be given in English, and structured around the following anthology: Martin Curd et al. eds. (2013) Philosophy of Science: The Central Issues, Second edition. Norton.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction 2 Hempel "Criteria of confirmation and acceptability" 3 Salmon "Rationality and objectivity in science" 4 Mayo "A critique of Salmon's Bayesian Way" 5 Kuhn "The nature and necessity of scientific revolution" 6 Kuhn "Objectivity, value judgment, and theory choice" 7 Longino "Values and objectivity" 8 Duhem "Physical theory and experiment" 9 Quine "Two dogmas of empiricism" 10 Laudan "Demystifying underdetermination" 11 Nagel "Issues in the logic of reductive explanations" 12 Feyerabend "How to be a good empiricist" 13 Foder "Special sciences (or the disunity of science as a working hypothesis)" 14 Kitcher "1953 and all that" 15 wrap-up 					
[履修要件]					
<p>No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short</p>					
----- 科学哲学科学史 (特殊講義)(2)へ続く -----					

科学哲学科学史 (特殊講義)(2)

Introduction) is recommended.

[成績評価の方法・観点]

The evaluation will be based on two papers (50% each). The papers can be either in Japanese or in English. The points of view of the evaluation are the understanding of the content of the class and appropriate application of the understanding to concrete cases.

[教科書]

Martin Curd et al. eds. 『Philosophy of Science: The Central Issues, Second edition』 (Norton)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Participants are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

(その他(オフィスアワー等))

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史 (特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 平岡 隆二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東西宇宙観の出会いと融合				
【授業の概要・目的】					
江戸時代の天文暦学者たちは、西洋や中国から伝来する古今東西の天文学知識を手掛かりに、独自の宇宙観・自然認識を練り上げていった。その成立と変遷をたどることで、科学史・思想史・文化史・東西交流史についての理解を深める。また、京大が所蔵する関連史料の現地調査に参加し、その整理や取り扱いの方法を学ぶ。					
【到達目標】					
現代とは異なる自然認識とその利用のあり方を、具体的な史料に即して理解する能力を養う。またその特質と意義を、当時の文脈を踏まえつつ俯瞰的に説明する能力を養う。					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1．ガイダンス 本授業の位置づけ 2．東アジアの暦と文化 3．近世天文暦学：史料と背景 4．書誌採取入門 5．科学伝来 キリシタン布教と宇宙論 6．科学伝来 翻訳と変容 7．書誌調査とその方法 (1) 8．西学書の渡来と影響 『天経或問』の流行 9．西学書の渡来と影響 『暦算全書』と舶載漢籍 10．書誌調査とその方法 (2) 11．江戸後期の天文暦学 蘭学とその展開 12．江戸後期の天文暦学 梵暦運動 13．書誌調査とその方法 (3) 14．書誌調査とその方法 (4) 15．フィードバック 					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点 (50%) とレポート (50%) 。レポートはこの授業に関連する史料や研究にもとづいて作成すること。					
【教科書】					
使用せず、プリントを配布する。					
----- 科学哲学科学史 (特殊講義) (2)へ続く -----					

科学哲学科学史 (特殊講義) (2)

[参考書等]

(参考書)

渡辺敏夫 『近世日本天文学史 上・下』 (恒星社厚生閣、1986-87年)

嘉数次人 『天文学者たちの江戸時代：暦・宇宙観の大転換』 (ちくま書房、2016年)

その他、授業中にも適宜紹介します。

(関連URL)

<http://hiraoka.zinbun.kyoto-u.ac.jp/>

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介する参考文献を読み、理解・関心を深めてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学27

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史 (特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	食と農の人文学				
[授業の概要・目的]					
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。					
[到達目標]					
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である (全15回)					
1 食糧戦争としての第一次世界大戦					
2 有機農業の歴史					
3 毒ガスと農薬の歴史					
4 トラクターの歴史					
5 戦時期の農村女性たち					
6 食糧戦争としての第二次世界大戦					
7 フィードバック					
[履修要件]					
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。					
[成績評価の方法・観点]					
定期試験 (筆記)					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。					
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』					
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』					
藤原辰史 『ナチスのキッチン』					
科学哲学科学史 (特殊講義) (2)へ続く					

科学哲学科学史 (特殊講義) (2)

藤原辰史 『カブラの冬』
ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』
湯澤規子他編 『食と農の人文学』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修 (予習・復習) 等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学28

科目ナンバリング	G-LET37 7M432 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学 (演習) Media and Culture Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 喜多 千草 文学研究科 准教授 松永 伸司		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	火4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	メディア文化学研究の諸問題 (大学院)				
【授業の概要・目的】					
修士論文および博士論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、議論構築、文献調査、聞き取り調査などについて、受講生に個別指導すると同時に、集団ディスカッションを通じて、現代文化に関わる多様な研究テーマに関する学知を深める。					
【到達目標】					
修士論文および博士論文を作成する上で必要になる力を養う。					
【授業計画と内容】					
第1回－第2回: 研究テーマに関する個人面談 第3回－第14回: 各回とも、1名の受講生が、修士論文・博士論文の予定テーマについて、研究の意義、先行研究、論旨、文献について報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該報告の問題点を洗い出し、研究をさらに進める場合の課題を考える。 第15回: フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点 (報告内容50%、および他者の報告に応じた適切な発言内容および発言頻度50%)					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) なし					
【授業外学修 (予習・復習) 等】					
各自が個別報告するにあたって配布するレジュメについて、枚数制限は設けないが、報告時間が1時間以内におさまる分量にすること。					
(その他 (オフィスアワー等))					
専修のDiscordを連絡手段として活用する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学 (特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸市外国語大学外国語学部 山本 昭宏 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「戦後」日本文化史研究 小説・映画・マンガ				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、「戦争が生み出した表現」という観点から「戦後」日本文化史を辿る。なお、この授業でいうところの「戦後」は、便宜的に1945年から73年までを指すが、この期間の文化史を考える際には、それ以前と以後の時代を踏まえる必要がある。そのため、授業では適宜「戦後」の枠を越えた議論を行うだろう。対象は小説・映画・マンガだが、文学研究・映像研究・マンガ研究という個別の方法論に即して論じるのではなく表象論と思想史研究によって各ジャンルを横断的に論じる。</p>					
[到達目標]					
<p>到達目標は以下のとおりである。</p> <p>(1) 戦後史および文化史の基本的事項を理解すること。</p> <p>(2) 個別の表現ジャンルの動向を、同時代の他のジャンルや思想と関連付けて説明できるようになること。</p> <p>(3) 表現者や文化産業の動向を、「戦争が生み出した文化」という観点で説明できるようになること。</p>					
[授業計画と内容]					
以下の授業計画はあくまで予定であり、受講生の関心に応じて微修正を行う。					
<ol style="list-style-type: none"> 1、「戦後」「日本」「文化」を論じるとはどのようなことか？(ガイダンス) 成績評価の説明 2、占領下の文化 映画 黒澤明を中心に 3、占領下の文化 文学 戦後派の小説を読む 4、占領下の文化 漫画 手塚治虫を中心に 5、1950年代の文化と政治 50年代概説 6、50年代の文化 新世代の文学 石原・開高・大江を中心に 7、50年代の文化 木下恵介・今井正(そして黒澤明)と戦後民主主義 8、1960年代 概説、および「ヌーベルヴァーク」と「政治」 9、60年代の文化 漫画雑誌の布置 少年漫画・少女漫画・貸本漫画 10、60年代の文化 水木しげるの表現 11、70年代の文化 概説、「終末ブーム」を手がかりに 13、70年代の文化 村上龍と村上春樹の文化史的意義(大江健三郎を補助線としつつ) 14、「戦後」「日本」「文化」とは何だったのか? 授業のふりかえりと補遺 15、「戦後」「日本」「文化」とは何だったのか? 授業のふりかえりと補遺 					
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----					

メディア文化学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（コメントシートやミニ・レポートの提出、授業中のディスカッションへの積極的参加など）40点、期末の筆記試験60点で評価する。

【教科書】

授業中に指示する
授業中に配布するレジュメと資料、スクリーンに映す資料に沿って授業を進めます。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する
参考文献については、授業中に適宜指示します。

【授業外学修（予習・復習）等】

参考書も含めて、授業中に適宜指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学30

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36			
授業科目名 <英訳>	メディア文化学 (特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 松永 伸司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代文化と芸術存在論				
[授業の概要・目的]					
<p>芸術存在論 (ontology of art) は、現代英語圏の芸術哲学 (いわゆる分析美学) の一分野である。芸術存在論では、芸術作品や芸術的パフォーマンスがどのようなあり方で存在しているのか (それらはどんな種類の存在者なのか)、芸術形式ごとに作品の存在のあり方はどのように異なるのか、作品の同一性は何によって決まるのか、といった問題が論じられる。</p> <p>従来の芸術存在論で扱われてきたのは、主に音楽 (クラシック音楽) や文学や絵画・彫刻のようなオーソドックスな芸術形式だった。一方で、現代の文化 (とりわけポピュラーカルチャー) の中には、きわめて多様な文化形式のアイテムがある (「芸術」と呼びづらいようなものも含め)。</p> <p>この講義では、そうした現代の諸文化形式のアイテムがそれぞれどのようなあり方で存在しているのかについて、芸術存在論の観点と道具立てを使って考えてみたい。</p> <p>芸術存在論は、それ自体としては純粋に哲学的な関心でなされるものだが、作品の批評、作品の修復や保存、贋作と真作の区別、さらには著作権のような作品の法律上の取り扱いといった実践的な諸問題にも直結する。</p> <p>授業の目的は、一方では芸術存在論を通して現代文化の一面を明らかにすることにあるが、もう一方では現代文化にそれを適用することを通して芸術存在論の有用さと不十分さをはっきりさせることにもある。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術存在論の基本的な考え方と概念を理解する。 ・ 諸々の芸術形式の存在論的な違いを理解する。 ・ 現代文化を存在論の枠組みから眺める視点を得る。 ・ 芸術存在論の実践的な意義や応用可能性を理解する。 					
[授業計画と内容]					
第1回	ガイダンス				
第2回	芸術存在論の問いとモチベーション				
第3回	芸術存在論の基本概念				
第4回	音楽の存在論				
第5回	ポピュラー音楽の存在論				
第6回	ピエール・メナールのケース				
第7回	贋作について				
第8回	「未完の作品」について				
第9回	デジタル画像の存在論				
第10回	ビデオゲームの存在論				
メディア文化学 (特殊講義)(2)へ続く					

メディア文化学 (特殊講義)(2)

- 第11回 フィクショナルキャラクターの存在論
- 第12回 VTuberの存在論
- 第13回 生成AIと芸術存在論
- 第14回 「アウラ」とブロックチェーン
- 第15回 フィードバック

授業の進み具合によって各回の順番や内容が変わる可能性がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点：50%

期末レポート：50%

・平常点は、毎回授業後に求めるリアクションペーパーの提出とその内容によってカウントする。リアクションペーパーによるやりとりも授業の重要なパートとして考えるので、疑問や気になることがあれば積極的に書いてください。

・期末レポートは、「独特の存在のあり方をしていると思われるアイテムを挙げ、それを授業内で示された考え方と関係づけながら説明しなさい(字数自由)」のような課題になる予定。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

参考文献はできるだけ示すので、関心のあるトピックは自分で文献を読んで学習してください。

(その他(オフィスアワー等))

わからないことなどがあれば気軽に質問してください。いろいろ聞いてもらえたほうが授業をする側としてはありがたいです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学31

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学 (特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都精華大学デザイン学部 蘆田 裕史 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ファッション論入門				
[授業の概要・目的]					
<p>私たちはみな、衣服を身に着けて社会生活を送っている。しばしば「ファッションに興味がない」と主張する人がいるが、そのような人であっても衣服なしで生活できるわけではない。つまり、関心があるとなかろうと、ファッションは私たちにとって必要不可欠なものなのである。なぜ私たちはファッションを必要とするのか。この授業では、ファッションにまつわる様々なトピックを論じることで、ファッションについて考えると同時に、ファッションを通して人間や社会について考えることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ファッション論の基本的事項を理解する。 ・社会におけるさまざまな事象や行為をファッションの観点から考察できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>イントロダクション：ファッションの定義 ファッションと社会：流行のメカニズム ファッションと社会：消費の諸様態 ファッションとコミュニケーション：ファッションのもつ意味 ファッションとアイデンティティ：インターフェイスとしてのファッション ファッションと倫理：他者を傷つけずにファッションを楽しむことは可能か ファッションと美：外見を気にするのは軽薄なのか ファッションと身体：衣服は第二の皮膚なのか ファッションとジェンダー：ファッションを通じて作られる「女らしさ/男らしさ」 ファッションとメディア：イメージの生成と伝播 ファッションと産業：ファッションは文化かビジネスか ファッションと環境：サステナブルファッションの展開 ファッションとデザイン：ファッションデザイナーはなにをデザインしているのか ファッションとアート：美術家はファッションをどのように捉えてきたか フィードバック</p> <p>授業の進行具合によって各回の順番や内容が変わる可能性があります。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- メディア文化学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

メディア文化学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

講義への参加度：60%（毎回のコメントシートによって評価します）
レポート：40%

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

日常的にファッションに関連する事項について考えるようにし、それをコメントシートや授業中の質問などに反映させてください。

（その他（オフィスアワー等））

授業時以外に連絡する必要がある場合はEメール（ashida@kyoto-seika.ac.jp）でお願いします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学32

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学 (特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 丸山 里美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目					
[授業の概要・目的]					
本講義では、「社会調査」について、その歴史や目的および意義、設計に関する基本的な考え方、具体的な調査手法の種類や特徴、調査を行なうときに気をつけるべきこと、といった基本的事項を学ぶ。なお、この科目は社会調査士資格認定科目【A】に相当する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の目的と意義を説明できる ・複数の社会調査について、それぞれの特徴を説明できる ・社会調査を実施する際の基礎的な考え方と倫理的態度を理解する 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査とは何か 2. 社会調査の目的と意義 3. 調査企画とテーマ設定 4. 社会調査の種類 5. 量的調査の特徴とそのプロセス 6. 量的調査の例 7. 質的調査の特徴とそのプロセス 8. 質的調査の例 9. 資料調査の特徴とそのプロセス 10. 資料調査の例 11. 公的統計、世論調査、マーケティング・リサーチ 12. 社会調査の歴史 13. 社会調査の倫理 14. 社会調査の現代的課題 15. 授業のまとめ 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点・小レポート(40%)、期末レポート(60%)					
[教科書]					
授業中に指示する					
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----					

メディア文化学 (特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内でときどき課される課題に取り組む必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

他の社会調査士科目も受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学33

科目ナンバリング	G-LET37 78941 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学 (演習IA) Media and Culture Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 喜多 千草		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	メディア文化研究の手法 (前期)				
[授業の概要・目的]					
メディア文化研究では、資料の形態が多岐に渡る。この演習では、そうした多様な資料を扱い、論文を仕上げていくための実践的な技法を学ぶ。					
[到達目標]					
取り上げる資料の扱いに習熟し、各々の研究テーマに合わせて柔軟に技法を組み合わせて研究を行うことができる基礎力を養う。					
[授業計画と内容]					
第1回 オリエンテーション 第2回 LaTeX入門 第3回 LaTeX入門 第4回 LaTeX入門 第5回 質的研究の基礎 第6回 質的研究の基礎 第7回 インタビュー法の基礎 第8回 インタビュー法の基礎 第9回 エスノメソドロジー入門書の内容 第10回 エスノメソドロジー入門書の内容 第11回 エスノメソドロジーを用いた論文・研究調査 第12回 エスノメソドロジーを用いた論文・研究調査 第13回 エスノメソドロジーの実践 第14回 エスノメソドロジーの実践 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 (課題60%、発表40%)					
[教科書]					
使用しない					
----- メディア文化学 (演習IA)(2)へ続く -----					

メディア文化学 (演習IA)(2)

[参考書等]

(参考書)

佐藤郁哉 『質的データ分析法』 (新曜社、2008年) ISBN:9784788510951

藤田真文編著 『メディアの卒論 第2版』 (ミネルヴァ書房、2016年) ISBN:9784623077199

前田泰樹・水川喜文・岡田光弘編 『エスノメソドロジー』 (新曜社、2007年) ISBN:9784788510623

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業で取り上げた技法を使って、実際にデータ収集、分析を行う課題を出すので、しっかり取り組むこと。できるだけ自分のパソコンを持参すること。

(その他 (オフィスアワー等))

PandAおよびscrapboxにコースサイトを作成し、それを通じて授業連絡を行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学34

科目ナンバリング	G-LET37 78941 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学 (演習IB) Media and Culture Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 松永 伸司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	メディア文化研究の手法 (後期)				
[授業の概要・目的]					
<p>現代英語圏で主流の美学・芸術哲学 (いわゆる分析美学) は、ある種の思考の割り切り (単純化と明晰さ) をベースにしつつ、活発な議論 (批判と反論の応酬) を通じて協働的に美・芸術・文化・感性についての理解を深めていくことを特徴とする。</p> <p>この演習では、理論的なテキストを正確に読解することを通して、メディア文化を理解・研究するためのひとつの手法として、哲学的な文化研究の視点や論じ方を学ぶ。</p> <p>具体的に取り上げるテキストは、現代の身近な文化実践を考える上で役に立ちそうな分析美学の古典的文献や最近の論文になる予定。いずれにせよ日本語のテキスト (邦訳の場合はできるだけ原文も付ける) になる。</p> <p>2023年度は、ケンダル・ウォルトン「芸術のカテゴリー」とケンダル・ウォルトン『フィクションとは何か』を取り上げた。2024年度は、主に芸術存在論関係の論文を6篇取り上げた。</p> <p>授業の補助ツールとしてDiscordを利用する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを正確・厳密に読むという態度を身につける。 ・分析美学のトピックと考え方に触れる。 ・理論を具体的な文化実践に適用することの意義・利点・限界について考える。 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 ガイダンス 第2～14回 議論と解説 第15回 フィードバック</p> <p>第2～14回は、各回数人ずつに担当箇所を割り振り、それぞれの担当者がレジюмеを作成するというかたちの輪読形式を進める。場合によっては、レジюме担当者に加えて質問担当者の役割を設ける可能性がある。</p>					
[履修要件]					
必須ではないが、系共通科目 (メディア文化学) 講義Aを受講済みであることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
<p>期末レポート：40% 平常点：60%</p>					
----- メディア文化学 (演習IB)(2)へ続く -----					

メディア文化学 (演習IB)(2)

期末レポートは、教員がピックアップした日本語論文のリストからひとつを選んでレジюмеを作成するという課題になる予定。

平常点は、レジюме作成の担当実績・クオリティと、授業内での積極的な参加度で評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

レジюме担当になっていない場合でも、次回の授業で読むテキストの範囲を毎回予習しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

授業外での質問は、基本的にメールまたはDiscordのDMをお願いします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学 (演習II) Media and Culture Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	核と市民				
[授業の概要・目的]					
原子力関係施設は20世紀に出現した非日常的な存在であり、それまでの人間の生活の中にはなかったものである。これまでこのような核施設と人々はどのようにかかわり合ってきただろうか。核施設のもたらすリスクや事故に対して、人々はどのように向き合ってきただろうか。この授業では、これらの問題に関係する歴史学および周辺分野の研究のうち、比較的最近のものを取り上げて討論する。					
[到達目標]					
原子力と市民とのかかわりに関する和文および英文の学術文献を読みこなせるようになること。					
[授業計画と内容]					
この授業はリーディングセミナーの形式で行う。毎回担当者が文献を読んで、その紹介をし、かつ、ディスカッションをリードする。文献の紹介の時間は60分程度とし、残りの時間をディスカッションにあてる取り上げる文献は、参加者の関心や語学力などに応じて変更する可能性がある。					
<ol style="list-style-type: none"> 1 . オリエンテーション：ラングドン・ウィナー「鯨と原子炉」をめぐって 2 . プライアン・ウィン (立石 裕二訳・解題) 「誤解された誤解 社会的アイデンティティと公衆の科学理解」(原著1996) 3 . 榎本喜一「リスク論導入の歴史的経緯とその課題：関西研究用原子炉の安全性に対する日本学術会議の見解を事例に」(2005)、「初期原子力政策と戦後の地方自治 相克の発生：関西研究用原子炉交野案設置反対運動を事例に」(2006)、「研究用原子炉の都市近郊立地に関する歴史的考察：関西研究用原子炉と武蔵工業大学研究用原子炉の比較検討」(2007) 、 4 . ダニエル・アルドリッチ『誰が負を引きうけるのか：原発・ダム・空港立地をめぐる紛争と市民社会』(原著2008)、序章から第2章 5 . ダニエル・アルドリッチ『誰が負を引きうけるのか：原発・ダム・空港立地をめぐる紛争と市民社会』(原著2008)、5章から結論 6 . ケート・ブラウン『プルートピア：原子力村が生みだす悲劇の連鎖』(原著 2013) 第一部 7 . ケート・ブラウン『プルートピア：原子力村が生みだす悲劇の連鎖』(原著 2013) 第二部 8 . 竹峰誠一郎『マーシャル諸島 終わりなき核被害を生きる』(2015) から抜粋 9 . Aya Hirata Kimura, Radiation Brain Moms and Citizen Scientists: The Gender Politics of Food Contamination after Fukushima (2016)から抜粋 (1) 1 0 . Aya Hirata Kimura, Radiation Brain Moms and Citizen Scientists: The Gender Politics of Food Contamination after Fukushima (2016)から抜粋 (2) 1 1 . Toshihiro Higuchi, Political Fallout: Nuclear Weapons Testing and the Making of a Global Environmental Crisis (2020)から抜粋 (1) 1 2 . Toshihiro Higuchi, Political Fallout: Nuclear Weapons Testing and the Making of a Global Environmental Crisis (2020)から抜粋 (2) 					
----- メディア文化学 (演習II)(2)へ続く -----					

メディア文化学 (演習II)(2)

- 1 3 . Hamblin and Richards, Making the Unseen Visible (2023から抜粋)
1 4 . まとめ: Kenji Ito, " Physicists versus Locals in Tanashi: The Dispute over the Establishment of the Institute for Nuclear Study, " (unpublished)
1 5 . フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点 (授業参加・担当箇所の発表) (50%)
レポート1回 (50%)
ただし、発表回数によってはレポートを免除することがある。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修 (予習・復習) 等】

参加者は指定したテキストを事前に読んで討論できるようにすること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学 (演習II) Media and Culture Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	科学史研究法：理論と実践				
[授業の概要・目的]					
科学史の研究にはよく用いられる理論的な枠組みや、実際の研究を進めていく上で、役に立つノウハウや、様々な道具が存在する。この演習では、卒業論文、修士論文、博士論文などで、科学史およびその周辺分野の研究をこれからしようとする人を対象に、科学史分野で用いる理論的枠組みを考えるのに有益な論文を読みつつ、研究や研究者としての活動を実際に遂行するにあたって有用なリソースやノウハウを紹介し、実際の研究の一部を演習する。					
[到達目標]					
科学史の理論的枠組みの一部を習得し、同時に研究を行うスキルの基礎的なものを身につけること。					
[授業計画と内容]					
この授業は各回の授業は理論パートと演習パートからなるが、授業の6回目と14回目は各自の提出物に基づいたワークショップ形式で行う。					
理論パート：Biagioli ed., Science Studies Readerから論文をピックアップして演習					
実践パート：研究上のリソースやノウハウを紹介し、時には実演する。					
ワークショップ：研究に関する実際の作業に基づき、合評をする。					
1. ガイダンス、概要説明、分担決定、科学史研究によく使うツール					
2. 理論：実験と研究者集団の科学史的分析: Kohler, “Moral Economy”					
実践：テーマ設定と研究設計、研究計画書					
レポート課題1発表					
3. 理論：技術の社会構築: MacKenzie, “Nuclear Missile Testing”					
実践：先行研究と一次資料の文献調査法：科学史関係のデータベース、図書館、その他					
4. 理論：標準の科学論: Schaffer, “Late Victorian Metrology”					
実践：文献の入手と整理の実践（書籍、論文、その他、図書館と書店の利用法）					
5. 理論：実験室の科学史: Shapin, “House of Experiment”					
実践：リーディングとノートテイキングの技法					
課題1レポート提出期限					
6. 研究計画書ワークショップ					
7. 理論：非西洋科学: Hart, “On the Problem of Chinese Science”					
実践：書評と査読					
レポート課題2発表					
8. 理論：「パラダイム論」を超えて: Galison, “Trading Zone”					
実践：アーカイブズ調査 / 資料撮影とその整理					
9. 理論：科学と表象: Martin, “Toward an Anthropology of Immunology”					
実践：新聞データベースの利用					
10. 理論：実験室とANT: Latour, “Give Me a Laboratory”					
					メディア文化学 (演習II)(2)へ続く

メディア文化学 (演習II)(2)

実践：学会発表とスライド

11. 理論：バウンダリー・オブジェクト: Star and Griesemer, “ Institutional Ecology ”

実践：ライティングの技法とバックアップ

12. 理論：実験と物質の科学論: Pickering, “ The Mangle of Practice ”

実践：スタイルと論文投稿と改稿

13. 理論：新物質主義とフェミニズム: Barad, “ Agential Realism ”

実践：科学史における研究倫理

レポート課題2 提出期限

14. 書評 / 査読報告ワークショップ

15. フィードバック

(履修者の関心と必要に応じて内容を変えることがある)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点 (授業参加・発表) (50%)

課題2回 (50%)

[教科書]

授業で使用するテキストは、担当教員が用意して配布する。

[参考書等]

(参考書)

トーマス・S・マラニー, クリストファー・レア 『リサーチのはじめかた 「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』 (筑摩書房, 2023) ISBN:978-4480837257

戸田山 和久 『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』 (NHK出版, 2022) ISBN: 978-4140912720

[授業外学修 (予習・復習) 等]

参加者は指定したテキストを事前に読んで討論できるようにすること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学37

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36			
授業科目名 <英訳>	メディア文化学 (演習II) Media and Culture Studies (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金3	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	時間の科学哲学				
[授業の概要・目的]					
<p>時間は哲学のさまざまな領域で問題となってきたが、科学哲学においてはとりわけ物理学理論における時間と我々の経験する時間との関わりが重要な問題になってきた。この授業では、特に現在主義と相対性理論の関わりという話題と熱力学における時間という話題について時間の哲学に関するアンソロジーに収録された論文を読むことで、科学哲学の観点から見た時間の問題について理解を深める。</p>					
[到達目標]					
時間の科学哲学の主要な論点を理解し、主な立場を批判的に検討できるようになる。					
[授業計画と内容]					
<p>以下の論文集から2つの論文を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。 Callender, C. (2011) The Oxford Handbook of Philosophy of Time. Oxford University Press.</p> <p>基本的に一回の授業でテキスト7~8ページ程度を読み、それについてディスカッションする形です。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する(担当者は事前に決めておく)。</p> <p>授業の進行は以下のとおり。</p> <p>イントロダクション(1回) 学生による発表担当 Zimmerman "Presentism and the space-time manifold" (10回) North "Time in thermodynamics" (4回)</p>					
[履修要件]					
特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』(岩波書店)は全体を読み理解しておくことが望ましい。					
----- メディア文化学 (演習II)(2)へ続く -----					

メディア文化学 (演習II)(2)

【成績評価の方法・観点】

発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。
発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうか評価基準になる。

【教科書】

「授業計画と内容」で挙げた著作から使用する部分を授業内で配布。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学 (演習II) Media and Culture Studies	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	確率の哲学 2				
[授業の概要・目的]					
<p>確率の哲学は哲学の諸問題だけでなく隣接するさまざまな問題領域に適用される応用範囲の広い分野である。しかしその基礎概念は必ずしもよく理解されているとは言えない。この演習では昨年に引き続き確率の哲学に関するアンソロジーを利用して、この分野についてのより正確で深い理解を身に付けていくことを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>確率の哲学の様々な立場を正しく理解し、それらを批判的に検討できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のアンソロジーからいくつかの論文を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。</p> <p>Hajek, A. and Hitchcock, C. eds. (2016) The Oxford Handbook of Probability and Philosophy. Oxford University Press.</p> <p>基本的に一回の授業でテキスト7~8ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する (担当者は事前に決めておく)。</p> <p>授業の進行は以下のとおり。</p> <p>イントロダクション(1回) Sprenger "Bayesianism vs. frequentism in statistical inference"(3回) Neapolittan and Jiang "Bayesian Network Theory" (2回) Gillies "The propensity interpretation" (2回) Schwartz "Best system approaches to chance"(2回) Smithson "Human understandings of probability"(2回) Bartha "Probability and the philosophy of religion" (3回)</p>					
[履修要件]					
<p>特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』(岩波書店)は全体を読み理解しておくことが望ましい。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。 発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レ</p>					
<p>----- メディア文化学 (演習II)(2)へ続く -----</p>					

メディア文化学 (演習II)(2)

ポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうかの評価基準になる。

[教科書]

「授業計画と内容」で挙げた書籍から使用する部分を授業内で配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学 (特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	奈良女子大学大学院生活環境科 学系 (生活環境学部) 教授 林田 敏子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	大戦とジェンダー—軍隊・記憶・セクシュアリティ				
[授業の概要・目的]					
<p>二〇世紀に起こった二度にわたる世界大戦は、銃後を広く巻き込む総力戦として多くの女性たちを動員した。前線にまで拡大した女性の戦時活動は、ときに「男の領域の侵犯」ととらえられ、様々な手段でジェンダー秩序の維持がはかられた。本講義では両大戦期のイギリスを対象に、大規模な戦時動員が引き起こした諸問題をジェンダーとセクシュアリティの観点から考察する。戦争に主体的に関わることを求められた女性たちの活動や経験を、軍隊（前線）と家庭（銃後）という二つの空間の重なりや連続性のなかに位置づけてみたい。女性に求められた戦時の役割や女性表象が果たした機能、戦時の「男らしさ」をめぐる価値観の揺らぎ、そして長い「戦後」という時空間における大戦の記憶の変遷に焦点をあてながら、女性たちの長い「戦い」を論じる。</p>					
[到達目標]					
<p>総力戦となった両大戦期において、なぜ、そしていかなる形でジェンダー問題が顕在化し、どのような対処がなされたのかを、現代社会とのつながりのなかで理解する。大戦とジェンダー研究の複数の論点への理解を深めることで、汎用性のあるアプローチ方法を獲得し、それを自らの問題関心にひきつけて、新たな研究の可能性を探ることができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の授業計画に沿って進めるが、講義の進捗や受講生の関心や理解度によって、回数や順序、テーマを微調整することがある。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. パンプスを履いた女性兵士 戦うことと「女らしさ」 2. 大戦とジェンダーをめぐるトピックと論点 3. 「新しい軍事史」とジェンダー 4. 第一次世界大戦と女性表象 5. 第一次世界大戦と「男らしさ」 白い羽運動を通して 6. 第一次世界大戦期のベルギー表象 セクシュアリティと戦争 7. 近代戦とマスキュリニティ 8. 「弱き男」のマスキュリニティーシェルショックを例に 9. 軍隊のなかの女性たち 第一次世界大戦 10. 軍隊のなかの女性たち 第二次世界大戦 11. 軍隊と同性愛 排除が黙認かー 12. キッチン・ソルジャー 主婦たちの世界大戦 13. 語り出す女性たち 「忘れられた軍隊」の記憶 14. 「普通の人々」の大戦経験 Mass Observationと第二次世界大戦 15. Mass Observationと第二次世界大戦 ある主婦の日記をもとに 					
----- 現代史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中に出される課題（30%）、学期末のレポート（70%）で成績を評価する。
到達目標に掲げた水準に達しているか否かで達成度を測る。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

大戦とジェンダーに関する文献（授業中に適宜紹介する）を積極的に参照すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学40

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学 (特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	食と農の人文学				
[授業の概要・目的]					
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。					
[到達目標]					
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である (全15回)					
1 食をめぐる研究の方法					
2 明治大正期の食					
3 アジア太平洋戦争までの食					
4 戦後の食					
5 牛乳の歴史学					
6 品種改良の歴史学					
7 フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
定期試験 (筆記)					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』					
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』					
藤原辰史 『ナチスのキッチン』					
藤原辰史 『カブラの冬』					
					現代史学 (特殊講義)(2)へ続く

現代史学 (特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』
湯澤規子他編 『食と農の人文学』』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修 (予習・復習) 等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学41

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学 (特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	食と農の人文学				
[授業の概要・目的]					
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。					
[到達目標]					
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である (全15回)					
1 食糧戦争としての第一次世界大戦					
2 有機農業の歴史					
3 毒ガスと農薬の歴史					
4 トラクターの歴史					
5 戦時期の農村女性たち					
6 食糧戦争としての第二次世界大戦					
7 フィードバック					
[履修要件]					
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。					
[成績評価の方法・観点]					
定期試験 (筆記)					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。					
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』					
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』					
藤原辰史 『ナチスのキッチン』					
----- 現代史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学 (特殊講義)(2)

藤原辰史 『カブラの冬』
ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』
湯澤規子他編 『食と農の人文学』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修 (予習・復習) 等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学 (特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 石川 禎浩		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国共産党史の諸問題				
[授業の概要・目的]					
<p>中国共産党にとって、革命の歴史を如何に描くか、および自党や各指導者の役割を如何に位置づけるかは、路線闘争と権力確立のための重要課題であったがゆえに、政治と歴史（研究）とは、半ば一体不可分であったと言える。中国共産党が結党以来3度（1945年、1981年、2021年）にわたって、歴史叙述と歴史解釈を党の決議事項として定めたことはその最も見やすい例である。</p> <p>本講義では、中国共産党史上のいくつかの事件、トピックを対象として、それらに関する歴史記述や評価が如何に変遷してきたのかを、時々の革命情勢、党内事情（例えば、延安整風運動や『毛沢東選集』の編纂）と結びつけながら考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>中国共産党の歴史をその自己認識と合わせて概述することにより、中国現代史の一重要側面を通史的に理解することを目指す。また、中国共産党の歴史について、同党自身が折々に提示する公的な歴史像がどのように形作られ、その時々の政治情勢によってどのような変化を見せたのかを合わせて解説することにより、歴史と歴史叙述の両側面から、重層的に中国現代史の展開を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 党史と歴史決議、『毛沢東選集』 2 マルクス主義の伝播と党の結成（1919-1921年） 3 国民革命（中国国民党との合作とその崩壊 1923-1927年） 4 農村革命への転換 5 中華ソヴィエト共和国の樹立（人民共和国のプロトタイプ） 6 長征（1930年代中期）と毛沢東の台頭 7 抗日統一戦線政策（1930年代後期）と西安事変 8 抗日戦争と第二次国共合作 9 延安整風運動と毛沢東の指導権（1940年代前期） 10 抗日戦争の終結と国共内戦の開始（1940年中期） 11 国共内戦の帰趨と中華人民共和国の成立（1940年代後期） 12 中ソ同盟への道と朝鮮戦争（1950-53年） 13 中国共産党による社会管理（単位、戸籍、政治運動、思想改造） 14 毛沢東論、革命家として、政治家として、文化人として 15.フィードバック 					
----- 現代史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポート

【教科書】

使用しない
その都度プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)
石川禎浩 『中国共産党、その百年』 (筑摩書房、2021) ISBN:978-4-480-01733-8

【授業外学修(予習・復習)等】

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学 (特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 石川 禎浩		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国共産党と外国メディア				
[授業の概要・目的]					
<p>革命政党にとって、自党の方針や主張を社会に広く訴える広報、宣伝活動は、その党の盛衰に直結する重要な活動である。とりわけ、国際的な連帯を標榜して革命活動を展開した共産主義政党は、党組織にかんする秘密保持と対外宣伝という相反するベクトルの活動を両立させなければならなかった。それはどのような思想的思惑のもとに行われたのだろうか。本講義では、中国共産党の「実情」をはじめ海外で紹介したことで知られる米人ジャーナリストのエドガー・スノー (Edgar Snow) の活動をあと追うことにより、その取材がどのような背景で可能になったのかを分析する。また、スノーだけでなく、中国報道に携わった西側ジャーナリストの報道活動と中国共産党の関わりを分析し、現代的な取材者と被取材者の関係構築について歴史的検討を行う。</p>					
[到達目標]					
<p>中国報道にかかわったジャーナリストと中国共産党の対外広報活動との協力とせめぎ合いの過程を系統的に分析することを通じて、中国近現代史に対する理解を深めると共に、近現代の中国に関する内外の報道が、どのような規制の中で行われたのかを理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス (外国メディアと中国史) 2 エドガー・スノー小伝 3 スノーの中国共産党へのアプローチ 4 中国共産党の対外広報戦略 革命運動と宣伝工作 5 スノーの取材 (1936年夏-秋) 6 取材記録の整理と執筆、そしてルポの刊行 (『中国の赤い星』) 7 『中国の赤い星』の衝撃と後世への影響 8 スノーのあとを追って中国共産党根拠地を取材した欧米ジャーナリスト (1) 9 スノーのあとを追って中国共産党根拠地を取材した欧米ジャーナリスト (2) 10 取材と検閲、加筆、削除 報道倫理のあり方 11 『中国の赤い星』の欧米各国での受け入れ状況 名作をいかに読むか? 12 日本・ソ連における『中国の赤い星』の状況 13 中国革命における外国人ジャーナリストとエンベッド取材 14 人民共和国における外国人ジャーナリスト 15 フィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
----- 現代史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポート

[教科書]

使用しない
その都度プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
石川禎浩 『中国共産党、その百年』 (筑摩書房、2021) ISBN:978-4-480-01733-8

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学 (特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大学文書館 教授 西山 伸		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「大学紛争」を考える				
[授業の概要・目的]					
本講義では、1960年代後半の「大学紛争」を検討する。日本の大学にとって「大学紛争」とは、新制大学発足以来とられた拡大路線の一つの帰結であるとともに、その後の大学のありようを規定する意味も併せ持ったといえる。「大学紛争」について語られた文献は数多いが、学問的な分析はまだこれからといったところである。本講義では資料に基いた実証的な立場から分析を試みる。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み込むことにより「大学紛争」について理解する。 ・「大学紛争」についての理解を通じて、現在の大学についても理解を深める。 ・現代史資料の読解力を高める。 					
[授業計画と内容]					
第1回	大学紛争の研究史				
第2回	高度経済成長期の大学と学生(1)				
第3回	高度経済成長期の大学と学生(2)				
第4回	大学紛争(1) 特徴と時期区分				
第5回	大学紛争(2) 大学への抗議として				
第6回	大学紛争(3) 党派との関連				
第7回	大学紛争(4) 全共闘の出現				
第8回	大学紛争(5) 激化と変質				
第9回	大学紛争(6) 入試中止をめぐって				
第10回	大学紛争(7) 拡大と拡散				
第11回	大学紛争(8) 学生たちの意識				
第12回	大学紛争(9) 大学立法から終焉へ				
第13回	紛争後の大学と学生(1)				
第14回	紛争後の大学と学生(2)				
第15回	まとめ (フィードバック)				
[履修要件]					
特になし					
----- 現代史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学 (特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎回の授業終了時に提出するコメントにより評価する。コメントは、単に授業の内容をまとめるのではなく、受講者独自の見解を示したものに高評価を与える。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回多数の資料を配付する。資料は授業前にPandAにアップするので確認しておくこと。また、授業後にはよく読み返して復習しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学45

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学 (特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 小堀 聡		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代日本社会経済史				
[授業の概要・目的]					
第1次世界大戦期以降における日本の社会経済史について、通史的な知見を提供することが目的である。非欧米諸国のなかでいち早く「経済大国」化すると同時に、深刻な公害や自然破壊を引き起こした日本の経験について理解を深めることは、現在の日本社会を長期的視点から探究する能力を高めると同時に、人類の持続可能性を模索することにも資するだろう。					
[到達目標]					
日本経済の諸特徴がどのような過程で形成されてきたのかを、総合的・俯瞰的に把握する能力を養う。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 . 日本経済史の概観 2 . 第1次世界大戦の経済的影響 3 . 1920年代：重化学工業化と二重構造 4 . 1930年代前半：昭和恐慌と経済政策 5 . 財閥と新興コンツェルン 6 . 戦前期の労使関係 7 . 感染症と日本経済 8 . 「大東亜共栄圏」の形成と崩壊 9 . 占領と復興 10 . 特需から防衛生産へ 11 . 高度経済成長のメカニズム 12 . 高度経済成長と外部不経済 13 . 石油危機後の安定成長 14 . 長期停滞 15 . フィードバック 					
受講者の関心等に応じて変更の場合あり。					
----- 現代史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

中間レポート（25%）+ 期末レポート（75%）によって評価する。

[教科書]

レジュメを配布する。

[参考書等]

（参考書）

三和良一・三和元 『概説日本経済史近現代 第4版』（東京大学出版会、2021）

宮本又郎・阿部武司ほか 『日本経営史 新版 江戸時代から21世紀へ』（有斐閣、2007）

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の講義で関連文献・史料を紹介するので、それらを読み進めること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学 (特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 小堀 聡		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	社会経済史研究の古典と理論				
[授業の概要・目的]					
本講義の目的は、経済史研究に影響を与えてきた諸理論について、代表的な古典文献を取り上げつつ、検討することである。経済史研究は、経済学・経営学・政治学といった社会科学の古典的成果を参照しつつ進められてきた点に特徴があり、普遍的・理論的把握を志向する性格が強い。したがって、主要な古典や理論についての理解を深めることは、過去の経済史研究を摂取し、さらには自ら研究を進める上で、役に立つだろう。					
[到達目標]					
社会経済史学がどのような分析視角から形成されてきたのかを理解することで、先行研究を批判的に検討する能力を養う。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から2週かけて講義する予定である (全15回)					
1. ガイダンス【1週】					
2. 市場経済への歴史と古典					
(1) 市場のない経済、資本のない経済：カール・ポラニー【1週】					
(2) 経済発展の諸要因1：自然【1週】					
(3) 経済発展の諸要因2：精神と制度【2週】					
(4) 経済発展の時期区分：ヘーゲル、マルクス、ロストウ【1週】					
3. 市場経済の歴史と古典					
(1) 工業化のメカニズム：政府と企業家【1週】					
(2) 大衆消費社会の形成：フォーディズムと依存効果【1週】					
(3) 帝国主義論：レーニンとギャラハー+ロビンソン【1週】					
(4) 東アジアの奇跡：アジア間貿易と小経営【1週】					
4. 日本経済の歴史と古典					
(1) 日本資本主義論争：講座派と労農派【2週】					
(2) 公害研究の蓄積【2週】					
5. フィードバック【1週】					
受講者の関心に応じて変更の場合あり。					
----- 現代史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートによって評価する。

【教科書】

レジュメを配布する。

【参考書等】

(参考書)

中西聡編 『世界経済の歴史〔第2版〕：グローバル経済史入門』（名古屋大学出版会、2020）ISBN: 9784815809973（解説および第14章を参考にする。）

【授業外学修（予習・復習）等】

講義内容のうち関心のあるテーマについて、さらに学びを深めること。また、講義中に紹介する著書、論文、史料などに積極的に目を通すこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学 (特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山口 育人		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	20世紀英米経済関係の研究				
【授業の概要・目的】					
<p>この講義は、20世紀世界史の展開を国際経済システムに着目して考察することを目的とする。19世紀中葉からのヘゲモニー国家イギリスの自由貿易路線と国際通貨ポンドを基盤とした国際経済秩序は、第一次世界大戦と世界恐慌により終焉を迎える。第二次世界大戦後は、アメリカ合衆国のヘゲモニーのもと、IMF・GATT体制と呼ばれる国際経済システムが構築されたと理解される。しかし、例えば通貨システムをみてもポンド体制からドル体制への単線的移行だったわけではない。大戦後もポンドを基盤とする通貨スターリング圏は一定の役割を果たし、また1970年代以降、現在に至るまでは、アメリカの国際収支の強さとは異なり、グローバル化が支えるドル基軸体制が展開している。本講義は、英米覇権交代という単純な展開としてではなく、脱植民地化とグローバルサウスの出現、冷戦対立、ヨーロッパ統合、「福祉国家」から「新自由主義」への政治経済思想の転換といった20世紀世界の複雑な展開を反映したものである。国際経済システムのあり方を、英米経済関係に着目しつつ考えることを中心視角としたい。</p>					
【到達目標】					
20世紀の各時代における国際経済システムの性格を、経済のみならず、世界各地域の政治、社会動向、ならびに国際関係を踏まえながら歴史的に理解し、説明できるようになる。					
【授業計画と内容】					
第1回	導入	国際貿易システム・通貨システムの基礎			
第2回	「衛兵交代ならず」	戦間期の英米経済関係			
第3回	戦後国際経済構想をめぐる英米関係 (第二次世界大戦期)				
第4回	シカゴ国際民間航空会議 (1944年)	戦後民間航空制度をめぐる英米角逐			
第5回	英米借款協定 (1945年)				
第6回	マーシャルプランとスターリングエリアの「生き残り」 (1940年代後半)				
第7回	冷戦と開発援助 (1950年代前半)				
第8回	バミュダ体制	戦後国際民間航空制度の確定			
第9回	欧州統合とスターリングエリアの動揺 (1950年代後半)				
第10回	「ドル防衛の第一線としてのポンド防衛」 (1960年代)				
第11回	ブレトンウッズ体制の崩壊 (1970年代前半)				
第12回	オイルマネー、ユーロダラー、「新国際経済秩序 (NIEO)」	ポストブレトンウッズの国際通貨システム (1970年代後半)			
第13回	大西洋両岸での「新自由主義革命」とグローバルサウスの「敗北」 (1980年代)				
第14回	グローバル化と英米経済関係 (1990年代～21世紀)				
第15回	まとめ				
----- 現代史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学 (特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

小課題の作成（授業中に指示。各10点×4回）と期末レポート（60点）で評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

君塚直隆、細谷雄一、永野隆行（編著）『イギリスとアメリカ 世界秩序を築いた四百年』（勁草書房、2016年）ISBN:978-4-326-35168-8

猪木武徳（著）『戦後世界経済史 自由と平等の視点から』（中公新書、2009年）ISBN:978-4-12-1020000-0

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指示する基本文献（読むべき箇所も指示する）を読んでくる。

（その他（オフィスアワー等））

質問は授業終了後に対応する。また、授業開始後、連絡方法を伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学 (特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 吉澤 誠一郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国近代思想史の論点				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、中国近代思想史について基本的な知識を身に着けることをめざす。経学の知的伝統から議論を始め、近代の政治論や人生論など、なるべく幅広く講義したい。</p> <p>そして、そもそも歴史学の一分野としての思想史とは、どのような研究対象を持ち、どのような方法論に基づいて進めるべきなのかという点にこだわって講義を行いたい。その意味では、これまでほとんど思想史という知的領域に触れることのなかった聴講者を最も歓迎する。ほとんど中国近代思想史の知識がない聴講者を想定しているので、網羅的・体系的な内容ではなく、印象的でわかりやすく代表的な事例に話題を絞りたい。</p> <p>なお、この授業の履修にあたって、現代中国語の知識は必須ではない。</p>					
[到達目標]					
<p>(1)思想史研究とは、何を対象とし、どのような方法によって行うのかについて把握する。</p> <p>(2)近代中国の代表的な思想家について一定の知識を獲得する。</p> <p>(3)中国近代思想史は、欧米や日本の思想との交流や対抗のなかで展開したことを理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>夏の集中講義を予定している。開講日はKULASISによって通知する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 導入(思想史とは何か) 2 経学の時代(理学と考証学) 3 清末の改革思想と保守思想 4 厳復と自由 5 康有為の普遍志向 6 梁啓超の国民形成論 7 新語からみる概念史 8 無政府という「政治」思想 9 第一次世界大戦の衝撃 10 神霊現象と儒教批判 11 ジェンダー論の展開 12 東西文化論争 13 「人生観」の探究 14 瞿秋白のみたロシア 15 リベラリズムの模索 					
----- 現代史学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

現代史学 (特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

集中講義終了後のレポートで評価する(100点満点)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

坂元ひろ子 『中国近代の思想文化史』(岩波書店, 2016) ISBN:9784004316077 (岩波新書。日本語で書かれた中国近代思想史の入門書としては最適です。)
吉澤誠一郎編著 『歴史からみる中国』(放送大学教育振興会, 2013) ISBN:9784595314094 (吉澤の執筆担当部分は、最も簡便な中国近代史の概説となっています。)
・個別のテーマについての研究書などは、授業時間内に紹介する。
・日本語訳された史料集として、『新編原典中国近代思想史』全7巻(岩波書店, 2010-2011年)が有用である。

【授業外学修(予習・復習)等】

- ・中国近代史について全く知識が無い場合には、事前に概説書などを読んでおくのが望ましい。
- ・授業時間内に多くの研究書を紹介するので、関心に応じて参照してほしい。

(その他(オフィスアワー等))

集中講義の後にレポート提出によって成績評価するため、履修者に成績評価が伝えられるのは、前期科目の通常の期日より遅れることになる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学 (特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 辻河 典子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヨーロッパ中・東部の歴史と記憶：ハンガリー近現代史をめぐって				
[授業の概要・目的]					
「東欧」と一般的に呼ばれてきた地域の歴史、特にハンガリーの近現代史とそれをめぐる記憶を題材として、近現代ヨーロッパ史をより批判的な視点で考察できるようになることを目指す。					
[到達目標]					
ハンガリーを中心とした中央・東ヨーロッパの歴史についての更なる知識を得るとともに、近現代ヨーロッパ史をより批判的な視点で考察できるようになることを目指す。					
[授業計画と内容]					
基本的に以下のスケジュールで講義を進める。但し、受講者の関心や時事問題への言及などに応じて、順序や同一テーマの回数を変更することがある。					
第1回 イントロダクション：ヨーロッパ史における「東欧」の位置づけ					
第2回 ハンガリー史概観（1）：中世まで					
第3回 ハンガリー史概観（2）：近世～近代					
第4回 ハンガリー史概観（3）：現代					
第5回 ハンガリー史におけるキリスト教（1）：建国神話					
第6回 ハンガリー史におけるキリスト教（2）：政治との関係					
第7回 ハンガリー史におけるナショナリズム（1）：「国民化」と1848年革命					
第8回 ハンガリー史におけるナショナリズム（2）：アウスグライヒ体制					
第9回 ハンガリー史と20世紀（1）：第一次世界大戦とパリ講和会議					
第10回 ハンガリー史と20世紀（2）：戦間期～第二次世界大戦					
第11回 ハンガリー史と20世紀（3）：社会主義体制の確立と「1956年」					
第12回 ハンガリー史と20世紀（4）：体制転換とその後					
第13回 ハンガリー史の複層性（1）：トランシルヴァニアの視点から					
第14回 ハンガリー史の複層性（2）：移動する人々					
第15回 総括とフィードバック					
[履修要件]					
特になし					
----- 現代史学 (特殊講義) (2)へ続く -----					

現代史学 (特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

学期末レポート(70点)、中間レポート(30点)
レポートはいずれも到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない
講義資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

南塚信吾『図説 ハンガリーの歴史』(河出書房新社、2012年) ISBN:9784309761855

岩崎周一『ハプスブルク帝国』(講談社、2017年) ISBN:9784062884426

大津留厚ほか編『ハプスブルク史研究入門』(昭和堂、2013年) ISBN:9784812213155

南塚信吾編『ドナウ・ヨーロッパ史』(山川出版社、1999年) ISBN:9784634414907

柴宜弘ほか監修『新版 東欧を知る事典』(平凡社、2015年) ISBN:9784582126488

これらは授業全体の前提を知りたい時に役立つ参考文献である。各回の授業内では、個別のテーマに関わる文献も紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

上記参考文献で中央・東ヨーロッパ史についての知識を確認して授業に臨み、授業後は配布資料や授業中に紹介された文献を確認して理解を深めてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

授業の前後、もしくはメール(noriko.tsujikawa@lac.kindai.ac.jp)で質問を受け付ける。個別の質問でも、受講者全体にフィードバックする意義があるものについては、授業内で説明することがある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学 (特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 福元 健之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	チャクラバルティによる歴史学批判の検討				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、シカゴ大学で教鞭をとる歴史家・哲学者のディペシュ・チャクラバルティによる議論を中心に取りあげ、彼による歴史学批判の批判的検証を行う。</p> <p>気候変動に関心が高まる今日、日本語に翻訳されたチャクラバルティの著作は、いずれも地球規模の環境問題に関するものであるが、歴史研究の文脈でチャクラバルティの名は、歴史学全体に影響を与えたサバルタン研究グループの一員として知られていた。ヨーロッパ中心主義のなかで黙殺されてきた主体の声を汲み取る繊細な作業に従事してきた彼が、そうしたミクロな世界とは対極に位置するかにみえる「惑星」的問題について論じるに至った経緯を踏まえ、そのうえで彼の議論を批判的に自分たちの方法論に落とし込む方策について考察する。</p> <p>歴史研究は、先行研究者が成し遂げた仕事の誠実かつ批判的な読解に基づき、独自の問いを立てるものである。本講義は、チャクラバルティが方法論的・実証的に論じた欧米の(必ずしも欧米だけではない)歴史についての講義であるのみならず、史学史の一つの実践である。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・史学史に関する理解力を養う。 ・ヨーロッパ近現代史に関する知識を養う。 ・ヨーロッパ近現代史の方法論に関する理解力を養う。 					
[授業計画と内容]					
授業回数はフィードバックを含めて全15回とする。					
<ol style="list-style-type: none"> 1．イントロダクション 2．インド史・労働史・サバルタン研究 3．インド史・労働史・サバルタン研究 4．ヨーロッパの「地方化」 5．ヨーロッパの「地方化」 6．転換点としての「歴史の気候」 7．転換点としての「歴史の気候」 8．人新世から「惑星」へ 9．人新世から「惑星」へ 10．人新世から「惑星」へ 11．チャクラバルティへの既存の評価 12．チャクラバルティへの既存の評価 13．新しい環境史の方法論的可能性 14．新しい環境史の方法論的可能性 15．フィードバック 					
----- 現代史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末筆記試験または期末レポート試験

[教科書]

使用しない
授業中に資料を配布する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習・復習は、授業で配布した資料を利用するとよい。授業中に紹介する文献や、図書館で関連する文献を自分でみつけ、読んでみることで、理解をさらに深めることができる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学51

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学 (特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 福元 健之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	戦間期の医療・技術・環境の歴史				
【授業の概要・目的】					
<p>20世紀前半の放射線医学の周囲には、日光療法や「人工太陽」による光線療法、放射性物質であるラジウムの医療利用など、現在からみれば「非科学的」な治療方法が徘徊していた。いや、より正確に言えば、発展途上にあった放射線医学は、日光療法や光線療法、ラジウム療法とともに「放射エネルギーによる治療Strahlentherapie」という共通の枠組のなかに分類されていた。天然の日光が放射能と同じカテゴリーにあったのは、今日からすれば奇妙に見えるが、その驚きや戸惑いは、医療・技術・自然の関係を歴史的に考えることの出発点になりえる。</p> <p>本講義では、この問題について論じるために、戦間期ポーランドのウッチ市に焦点を当てる。医学的知識のみならず、開発・製造される技術を西欧から受容したポーランドで、「放射エネルギーによる治療」がどのように普及し、それによって医療のあり方がどのように変化したのか、を、一次史料の読解に基づきながら明らかにする。</p>					
【到達目標】					
・ヨーロッパ近現代史を医療史や社会政策史の観点から考察できるようになる。					
【授業計画と内容】					
授業回数はフィードバックを含めて全15回とする。					
<ol style="list-style-type: none"> 1．イントロダクション 2．レントゲンの発見 3．ウッチの医療 4．医療機器メーカーとポーランド 5．医療機器メーカーとポーランド 6．ウッチの放射線医 7．ウッチの放射線医 8．医師養成のなかの放射線医学 9．医師養成のなかの放射線医学 10．ラジウムと文化 11．ラジウムと文化 12．ラジウム研究所 13．ラジウム研究所 14．まとめ 15．フィードバック 					
----- 現代史学 (特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学 (特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末筆記試験または期末レポート試験

[教科書]

使用しない
授業中に資料を配布する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習・復習は、授業で配布した資料を利用するとよい。授業中に紹介する文献や、図書館で関連する文献を自分でみつけ、読んでみることで、理解をさらに深めることができる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学52

科目ナンバリング	U-LET32 28202 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (科学哲学) (講義) Philosophy of Science (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 大塚 淳		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	科学哲学入門 (上)				
[授業の概要・目的]					
科学哲学は「哲学」という視点から「科学」に切り込む分野である。本講義では、多様化のすすむ科学哲学のさまざまな研究領域を紹介し、受講者が自分の関心に応じて今後掘り下げていけるような「入り口」を提供する。前期の講義においては、科学とはなにかという問題、科学的推論や科学的説明をめぐる問題、および科学の目的と規範性に関する問題を扱う。					
[到達目標]					
科学とは何か、科学的推論とは何か、科学的説明は何か、といった問題について、科学哲学の基礎的な概念と考え方を理解し、それを適切に科学の具体的事例に適用できるようになる。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 科学の歩み 3. 科学的仮説とは何か 4. ポパーの反証主義と疑似科学 5. 仮説の確証と帰納の問題 6. 科学と正当化 7. 科学的説明：法則 8. 科学的説明：因果性 9. 科学的説明：モデリング 10. 還元主義 11. 科学的真理 12. 科学の変化と科学革命 13. 科学と多様性 14. 科学と規範 15. フィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
期末レポートで評価を行う。					
[教科書]					
サミール・オカーシャ 『哲学がわかる 科学哲学 新版』 (岩波書店) ISBN:9784000616096					
----- 系共通科目 (科学哲学) (講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (科学哲学) (講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受講者は各授業前にテキストの該当箇所を読むことが期待されている。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学53

科目ナンバリング	U-LET32 28204 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (科学哲学) (講義) Philosophy of Science (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水3	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	科学哲学入門 (下)				
【授業の概要・目的】					
科学哲学は「哲学」という視点から「科学」に切り込む分野である。本講義では、多様化のすすむ科学哲学のさまざまな研究領域を紹介し、受講者が自分の関心に応じて今後掘り下げていけるような「入り口」を提供する。後期の授業では科学的实在論や科学の変化、科学と価値などのテーマを順にとりあげ、関連する個別科学におけるテーマも検討する。					
【到達目標】					
科学における实在の問題とは何か、科学はどのように変化するか、科学と価値の関係はどうなっているか、といった問題について、科学哲学の基礎的な概念と考え方を理解し、それを適切に科学の具体的事例に適用できるようになる。					
【授業計画と内容】					
1 实在論と反实在論(3回) 2 個別科学における实在論問題(3回) 3 科学の変化と科学革命(3回) 4 個別科学における変化の問題(2回) 5 科学と価値(3回) フィードバック(1回)					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
2回のレポート(各50%)で評価を行う。評価は到達目標の達成度にもとづいて行う。 1回でもレポートをさぼると不可となるので注意されたい。					
【教科書】					
サミール・オカーシャ 『哲学がわかる 科学哲学 新版』(岩波書店)					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
受講者は各授業前にテキストの該当箇所を読むことが期待されている。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーは金曜日15:00-16:30。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	U-LET32 18206 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (科学史I) (講義) History of Science (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	科学史入門I (名著による科学史研究への招待)				
[授業の概要・目的]					
<p>科学史とはどのような学問だろうか。学問としての科学史は、自然科学をめぐる様々な出来事をたどって年表を作ることで、いわゆる「科学者」の様々なエピソードを集めることでなく、「科学」だけの歴史だけでもない。その一つの野心は、現在「科学」と呼ばれるものがどのように、いかなるものとして立ち現れたかを歴史的に調べることによって、「科学」が何かを明らかにすることである。その学問的内容は多様であり、さまざまな関心の人の中から自分にとって興味のある内容や、アプローチを見出すことができる。この授業では科学史という研究分野を形作ってきた数々の名著のうち、日本語でも読める14の魅力あふれる著作を選んでおおよそ年代順に紹介し、関連する研究について述べる。それを通して科学史の研究における様々なアプローチとその可能性について論じ、科学史という学問の面白さを伝える。授業は講義形式で行い、事前に文献を読むことは要求しない。ただし、課題提出のために読むことが必要なこともある。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 通俗的な科学史についての考え方を打破し、科学史という学問の多様性とその中の主要なアプローチを知る。 ・ 科学史という学問がどのような点で履修者にとって興味深いものとなり得るのかを理解する。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：科学史の通史なるものの虚構性について(シェイピン『科学革命とは何だったのか』) 2. 科学思想史という方法とその限界：コイレ『コスモスの崩壊』 3. 科学者集団の社会学：マートン『社会理論と社会構造』 4. パラダイムと科学革命:クーン『科学革命の構造』 5. 非西洋学問とニーダム問題：ニーダム『文明の滴定』 6. 権力と規律と知識：フーコー『監獄の誕生』 7. 実験装置と政治思想の科学史：シェイピン&シャッフアー『リヴァイアサンと空気ポンプ』 8. ジェンダーと科学史：シーピング『科学史から消された女性たち』 9. アクターネットワーク理論：ラトゥール『パストゥール』 10. 物質文化の科学史：ギャリソン『アインシュタインの時計 ポワンカレの地図』 11. 視覚実践と認識論的徳：ダストン&ギャリソン『客観性』 12. 知識のグローバルヒストリー：ラジ『近代科学のリロケーション』 13. 非知の科学論：オレスケス&コンウェイ『世界を騙しつづける科学者たち』 14. まとめ：絡み合った世界の存在論：バラッド『宇宙の途上で出会う』 15. フィードバック 					
----- 系共通科目 (科学史I) (講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (科学史I) (講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポート2回(100%)。それぞれ、レポート課題は二つからなる。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

古川安 『科学の社会史』(ちくま学芸文庫, 2018) ISBN:978-4480098832 (科学史に関する全般的な背景知識を得るのに推薦。)

スティーヴン・シェイピン 『「科学革命」とは何だったのか 新しい歴史観の試み』(品切れ)

アレクサンドル・コイレ 『コスモスの崩壊 閉ざされた世界から無限の宇宙へ』(白水社, 1991)(品切れ)

ロバート・K・マートン 『社会理論と社会構造』(1961, みすず書房)(品切れ)

トマス・S・クーン 『科学革命の構造』(みすず書房, 2023) ISBN:978-4622096122

ジョゼフ・ニーダム 『文明の滴定 科学技術と中国の社会』(法政大学出版局, 1974, 2015)(品切れ)

ミシェル・フーコー 『監獄の誕生 監視と処罰』(新潮社, 1977, 2020)(品切れ)

スティーヴン・シェイピン, サイモン・シャッフアー 『リヴァイアサンと空気ポンプ ホップズ、ボイル、実験的生活』(名古屋大学出版会, 2016) ISBN: 978-4815808396

ロンダ・シービンガー 『科学史から消された女性たち アカデミー下の知と創造性』(工作舎, 1992, 2022) ISBN:978-4875025443

ブリュノ・ラトゥール 『パストゥールあるいは微生物の戦争と平和、ならびに「非還元」』(以文社, 2023) ISBN:978-4753103782

ピーター・ギャリソン 『アインシュタインの時計 ポアンカレの地図 鑄造される時間』(名古屋大学出版会, 2015) ISBN:978-4815808198

ロレイン・ダストン, ピーター・ギャリソン 『客観性』(名古屋大学出版会, 2021) ISBN:978-4815810337

カピル・ラジ 『近代科学のリロケーション—南アジアとヨーロッパにおける知の循環と構築』(名古屋大学出版会, 2016) ISBN:978-4-8158-0841-9

ナオミ・オレスケス, エリック・M・コンウェイ 『世界を騙しつづける科学者たち』(楽工社, 2011)(品切れ)

カレン・バラッド 『宇宙の途上で出会う 量子物理学からみる物質と意味のもつれ』(人文書院, 2023) ISBN:978-4409031254

その他、授業中に紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

各回取り上げた書籍や、その他言及した書籍を各人の関心と必要に応じて読むこと。

系共通科目 (科学史I) (講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

科学史Iと科学史IIは独立した科目なので、個別に履修してよい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学55

科目ナンバリング	U-LET32 18208 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目 (科学史II) (講義) History of Science (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	科学史入門II：重要著作を通じた日本科学史研究入門				
[授業の概要・目的]					
<p>日本の科学史を通して、科学について何を明らかにできるだろうか。この授業では日本の科学技術に関する歴史研究の重要著作のうち、特に刺激的で興味深いと思われる14の著作を選んでおおよそ年代順に紹介することを通して、日本の科学技術の歴史研究における様々なアプローチを説明し、それが「科学」とは何かを明らかにするのにどのような意義があるのかについて論じる。授業は講義形式で行い、事前に文献を読むことは要求しない。ただし、課題では読むことが必要なこともある。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> 日本の科学技術についての歴史研究の様々なアプローチを知る。 日本の科学技術についての歴史研究に関して、これまでどのような研究がなされ、今後、どのような研究がありうるのかについて理解する。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> イントロダクション：なぜ日本の科学技術史か？ 日本の科学思想史：辻哲夫『日本の科学思想』(1973) 社会史（科学の体制化論）：広重徹『科学の社会史』(1973) 戦後日本における科学の社会史：中山茂『科学と社会の現代史』(1981) 科学の文化史：金子務『アインシュタイン・ショック』(1981) 大学史：潮木守一『京都帝国大学の挑戦』(1984) 初期近代の分岐点：板倉聖宣ほか『日本における科学研究の萌芽と挫折』(1990) 国際関係・安全保障と科学技術：リチャード・サミュエルズ『富国強兵の遺産』(原著1996) 官僚性と科学：吉岡斉『原子力の社会史』(1999, 2011) 時間技術と近代：栗山茂久・橋本毅彦編『遅刻の誕生』(2001) 科学とイデオロギー：泊次郎『プレートテクトニクスの拒絶と受容』(2008) 科学社会学と災害研究：松本三和夫『構造災』(2012) 科学とジェンダー：古川安『津田梅子』(2022) まとめと番外編：伊藤憲二『励起：仁科芳雄と日本の現代物理学』(2023)ができるまで フィードバック (必要に応じて授業内容を変えることがある) 					
----- 系共通科目 (科学史II) (講義)(2)へ続く -----					

系共通科目 (科学史II) (講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポート2回(100%)それぞれ、レポート課題は二つからなる。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

辻哲夫 『日本の科学思想』(中央公論社, 1973) ISBN:978-4875592754 (2013年こぶし文庫から復刊)

広重徹 『科学の社会史』(中央公論社, 1973)(岩波現代文庫から復刊。どちらも品切れ。)

中山茂 『科学と社会の現代史』(岩波書店, 1981)(品切れ。『中山茂著作集』第5巻に収録。)

金子務 『アインシュタイン・ショック』(河出書房新社, 1981)(岩波現代文庫から復刊。どちらも品切れ。)

潮木守一 『京都帝国大学の挑戦 帝国大学史のひとこま』(名古屋大学出版, 1984)(講談社学術文庫から復刊。どちらも品切れ。)

板倉聖宣、中村邦光、板倉玲子 『日本における科学研究の萌芽と挫折』(仮説社, 1990)(品切れ)

リチャード・サミュエルズ 『富国強兵の遺産』(三田出版会, 1997)(品切れ)

吉岡斉 『原子力の社会史』(朝日新聞出版, 1999, 2011) ISBN:978-4130230780

栗山茂久、橋本毅彦編 『遅刻の誕生 近代日本における時間意識の形成』(三元社, 2001)(品切れ)

泊次郎 『プレートテクトニクスの拒絶と受容』(東京大学出版会, 2008) ISBN:978-4130603195 (新装版(2017)は入手可。)

松本三和夫 『構造災 科学技術社会に潜む危機』(岩波書店, 2012) ISBN:978-4004313861

古川安 『津田梅子: 科学への道、大学の夢』(東京大学出版会, 2022) ISBN:978-4130230780

伊藤憲二 『励起 仁科芳雄と日本の現代物理学』(みすず書房, 2023) ISBN:978-4-622-09618-4, 978-4-622-09619-1

[授業外学修(予習・復習)等]

各回で取り上げる文献などを各人の関心と必要に応じて読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

科学史Iと科学史IIは独立した科目なので、個別に履修してよい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET37 18902 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(メディア文化学)(講義A) Media and Culture Studies (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 松永 伸司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	メディア文化学研究入門(前期)				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、現代のメディアやコンテンツ、あるいはそれらを取り巻く諸現象を研究対象とした場合に陥りやすい諸問題を取り上げつつ、メディア文化を理論的なアプローチで研究する方法について考える。</p> <p>この講義で紹介する考え方は、現代のメディア文化(たとえばポピュラーカルチャーやインターネットカルチャー)の研究を主に想定したものだが、文化研究全般に通用する考え方でもある。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・おそらく誰もが初手ではまる思考上の落とし穴について十分注意できるようになる。 ・現代のカルチャーを研究するのは確立した分野の作法にしたがって研究するのよりもはるかにハードルが高い(自分でいろいろ勉強し、考え、判断すべきことが多い)ことを十分理解する。 ・既存の分野の知見を活かすことの重要性を理解する。 ・一般に理論とはだいたいどんなものかをなんとなく理解する。 ・個々の理論の内容についてなんとなく理解する。 ・理論の使い道と使い方についてなんとなく理解する。 					
[授業計画と内容]					
<p>前半は文化研究における理論(一定の体系化されたものの捉え方)の例とその具体的な使い方をいくつか学びつつ、理論を導入することの利点や必要性を理解する。</p> <p>後半は文化を論じる際に陥りやすい思考上の落とし穴について学ぶ。</p>					
第1回	ガイダンス:現代文化の研究は難しい				
第2回	理論ってなんだ				
第3回	理論の何がうれしいのか:キャラクターの理論を例に				
第4回	何にでも使える芸術理論:表象と表出				
第5回	美学の初歩:「感性でとらえる性質」をどう扱うか				
第6回	様式論と文化史の初歩:パターンの歴史を記述すること				
第7回	物語論の初歩:物語を論じるための理論				
第8回	ゲームを論じるための理論				
第9回	作品論の落とし穴:「正しい」作品解釈とはなんだ				
第10回	べき論の落とし穴:記述的と規範的				
第11回	定義論の落とし穴:「とはなんだ」とはなんだ				
第12回	ジャンル論の落とし穴:定義・起源・同一性の問題				
第13回	社会反映論の落とし穴:そんなに簡単に社会は反映されない				
第14回	文化とジェンダー:自分の政治的立場を省みる				
第15回	フィードバック				
系共通科目(メディア文化学)(講義A)(2)へ続く					

系共通科目 (メディア文化学) (講義A)(2)

授業の進み具合によって各回の順番や内容が変わる可能性がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点：50%

期末レポート：50%

・平常点は、毎回授業後に求めるリアクションペーパーの提出とその内容によってカウントする。リアクションペーパーによるやりとりも授業の重要なパートとして考えるので、疑問や気になることがあれば積極的に書いてください。

・期末レポートは、各回の授業のポイントについて十分に理解できているかを問う記述式テストに近い形式を予定している。Googleフォームによる出題と回答になる予定。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

自分が日ごろ接しているカルチャーを反省的に眺めることを意識しながら過ごすことをおすすめします。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学57

科目ナンバリング	U-LET37 18904 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(メディア文化学)(講義B) Media and Culture Studies (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 喜多 千草		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	メディア文化学研究入門(後期)				
[授業の概要・目的]					
<p>「メディアを用いる生活様式と、その共有のあり方」がメディア文化であるとすれば、その研究対象は、メディアを介して受容されるコンテンツの内容のみならず、その基盤技術のありようや受容のありようも含まれることになる。</p> <p>本講義では、この分野を代表するいくつかの研究領域を採り上げ、その研究方法論について学ぶ。</p>					
[到達目標]					
<p>メディア文化を研究対象として捉えて分析を行うためのさまざまな方法論にふれることによって、自分が研究しようとする対象に適切な研究方法を選ぶ力をつける。</p> <p>またいずれの領域でも重要になってくる歴史学的な視点を身につけることによって、それらを通して現代の社会問題を考える力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>メディア文化学とは(2回) アニメに関わる研究領域とその方法(2回) 広告に関わる研究領域とその方法(2回) インターネット文化に関わる研究領域とその方法(3回) 写真に関わる研究領域とその方法(2回) スポーツに関わる研究領域とその方法(2回) レポート、論文の書き方について(1回) フィードバック(1回)</p> <p>(ただし、受講生の興味関心に合わせて取り上げる領域を調整する可能性がある。)</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点評価(PandAを通じての予習・復習課題60%、小レポートの内容40%)					
-----系共通科目(メディア文化学)(講義B)(2)へ続く-----					

系共通科目 (メディア文化学) (講義B)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業で紹介する研究書ならびにWebサイトを、授業後に閲読すること。

(その他 (オフィスアワー等))

PandAなどで、スケジュールやWebリソースの紹介および課題の提示を行うので、こまめにチェックすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET35 28407 LJ38				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(現代史学)(講義I) Contemporary History (Lectures I)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小野沢 透		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代史学概論				
[授業の概要・目的]					
<p>「現代」の起点は、第一次世界大戦に求められることが多い。このような見方は、今日でもひとつの有力な視点である。しかし、それが提起されたのは、20世紀半ばから後半にかけてのことである。21世紀の今日の視点から見直すとき、「現代」という時代の枠組みにも再考の余地があるかもしれない。</p> <p>このような問題意識に立ちつつ、19世紀以来の「世界史」の展開を21世紀に至るまで概観する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・「近代」～「現代」の世界史の展開について、基本的な史実とその歴史的な位置づけを理解する。 ・時期区分の問題を含め、歴史的な思考とはどのようなものか、具体的史実に即して理解する。 					
[授業計画と内容]					
<p>以下のテーマを扱う予定。以下、各回の授業内容は暫定的なものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：「現代」はどのような時代と捉えられてきたのか？ 2. 近現代世界史という視点 3. 長い19世紀 二重革命と「近代」の始まり 4. 長い19世紀 資本の時代 5. 長い19世紀 帝国の時代 6. 短い20世紀 第一次世界大戦とロシア革命 7. 短い20世紀 大恐慌と第二次世界大戦 8. 短い20世紀 冷戦と人類史の「黄金時代」 8. 短い20世紀 社会主義圏と第三世界 10. 短い20世紀 「黄金時代」の終焉 11. 短い20世紀 社会主義圏の終焉 12. 21世紀 新自由主義コンセンサスの出現 13. 21世紀 「対テロ戦争」の時代 14. アメリカ外交史から見た現代史 15. まとめ、フィードバック 					
[履修要件]					
<p>現代史学専修に所属する学生は、卒業までに現代史学講義I,IIをそれぞれ履修し、計4単位を取得する必要がある。Iを2回、またはIIを2回履修して4単位とすることはできないので注意すること。</p>					
----- 系共通科目(現代史学)(講義I)(2)へ続く -----					

系共通科目 (現代史学) (講義I) (2)

[成績評価の方法・観点]

学期末試験

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義の中で紹介した文献など、各自で関連書籍を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学59

科目ナンバリング	U-LET35 28408 LJ38				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(現代史学)(講義II) Contemporary History (Lectures II)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 塩出 浩之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東アジアのなかの日本近現代史				
[授業の概要・目的]					
日本近現代史について、主として政治外交史を通史的に論じながら、近代性、世界システム、ナショナリズム、植民地主義、ヒトの移動、歴史認識など、日本近現代史を世界史、特に東アジア史の一部として理解するための視点や論点を提示する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の近現代史、特に政治外交史に関する基本的な論点について、具体的な根拠に基づいて論じられるようになる。 ・世界史、特に東アジア史の一部としての日本近現代史を理解することで、通念的なナショナル・ヒストリーを相対化する視点を獲得する。 ・歴史学とは単なる知識の修得とは異なり、過去の世界に対する絶えざる「問い」であることを理解し、これまでの知見を踏まえて自ら発問できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
以下に予定した各回の項目は、状況に応じて微調整することがある。					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 世界市場と東アジア 3 明治維新 4 主権国家体制と東アジア 5 立憲政治の形成 6 資本主義経済と労働社会 7 社会運動と民族運動 8 帝国日本と人の移動 9 中国侵略から対米開戦へ 10 総力戦と社会 11 敗戦と占領 12 東アジアの分断と日米安保体制 13 高度経済成長と沖縄復帰 14 東アジアの戦後処理と歴史和解 15 冷戦の終結と現代日本 					
-----系共通科目(現代史学)(講義II)(2)へ続く-----					

系共通科目 (現代史学) (講義II)(2)

[履修要件]

現代史学専修に所属する学生は、卒業までに現代史学講義I,IIをそれぞれ履修し、計4単位を取得する必要がある。Iを2回、またはIIを2回履修して4単位とすることはできないので注意すること。

[成績評価の方法・観点]

毎回提出する小課題によって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で紹介する参考文献を、各自でできる限り読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学60

科目ナンバリング		U-LET45 10062 SJ36			
授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学系(ゼミナールI) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小野沢 透 非常勤講師 秦 皖梅 非常勤講師 福田 耕佑 非常勤講師 楊 雅韻 非常勤講師 范 艶芬 非常勤講師 白木 正俊	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木5	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代文化学への招待 I				
[授業の概要・目的]					
<p>現代文化学専攻の博士後期課程を修了した若手研究者が、自分たちの最新の研究成果をふまえて、基礎現代文化学系の学問についてわかりやすく講義します。この科目は2つの性格をもっています。</p> <p>ひとつ目は、現代文化学に関心をもつ1・2回生のための導入的な専門科目という性格です。多様な基礎現代文化学系の研究内容の一端を示すことで、基礎現代文化学系への理解を深めてもらい、1回生には、系分属選択の判断材料を、2回生には、専修選択の判断材料を提供することがその目的です。</p> <p>ふたつ目は、大学教員をめざす若手研究者のための教育実践の場であるということです。現代文化学専攻で学び、将来大学教員を志す研究者が、実際に学生に教えることを通して教育力を伸ばすことが目的となります。そのために毎回授業終了後に、授業について感想や意見を書いもらうアンケートを実施します。</p>					
[到達目標]					
<p>この科目は、基礎現代文化学系に関心をもっている学生に、多様性に富む基礎現代文化学系の学問内容の一端を提示することを目的としています。リレー講義を担当する若手の研究者は、最先端に近いところで研究をしています。そういった研究の新動向を知ることで、受講生が基礎現代文化学系に関心をもつようになり、専修分属を決める際の判断材料の材料となることが期待されます。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>初回の授業で簡単なガイダンスを行ったあと、下記のスケジュール・内容で5名の講師が各3回の授業を行う。</p> <p>I. 学術雑誌の360年 (担当：秦 皖梅) 第1回 学術雑誌のグローバル・ヒストリー (科学史分野における最新の知見に依拠し、学術雑誌の全体像を提示する。) 第2回 学問領域としての学術雑誌 (学術雑誌が研究テーマとしての重要性やそのアプローチについて説明する。) 第3回 日本における学術雑誌の誕生と変容 (ヨーロッパで生まれた学術雑誌は、日本という土壌においてどのように変容したのかを申請者自身の研究に基づいて説明する。)</p>					
----- 基礎現代文化学系(ゼミナールI)(2)へ続く -----					

基礎現代文化学系 (ゼミナール I)(2)

II. 高度成長期における日本の経済外交

(担当：范 艶芬)

第4回 戦後日本経済の復興と成長における東南アジアの役割

第5回 ベトナム戦争期の日本・東南アジア経済関係

第6回 1970年代の日本・ASEAN関係 「福田ドクトリン」への再考

III. コンスタンティノープル - 失われた都市イスタンブルとギリシア系住民のアイデンティティ

(担当：福田耕佑)

第7回 導入: ギリシア史の側面から見た近世・現代のイスタンブルのギリシア人について

第8回 本土ギリシア・ナショナリズムにおける自己意識と「脱亜入欧」とイスタンブルのギリシア人の位置

第9回 二十世紀のイスタンブルのギリシア人の文学作品 - 失われた都市への郷愁とアイデンティティ

IV. 近代日本の化粧文化とジェンダー

(担当：楊 雅韻)

第10回 近代化粧法及び美的基準の変遷

第11回 職業婦人の進出と化粧品産業への参入：美容師と販売促進員を中心に

第12回 表象とジェンダー：男性の化粧品広告を例に

V. 日本近代都市における人と水の関係史～京都市を事例に～

(担当：白木正俊)

第13回 近代社会における人と水の関係史

(古来、人間の生活に水が深く関わってきたことを、治水政策・利水政策・水質政策・景観整備の観点から論じる。前二者が前近代から継続する課題であるのに対し、後二者が近代以降代に生じる課題であり、その問題の大きさと質を大きく変化することを明らかにする。)

第14回 都市における利水事業の展開

(明治前期から昭和初期に至る京都市の琵琶湖疏水事業を取り上げ、同事業によって展開された電気事業・水力事業・運河事業についての歴史的展開を論じるとともに、これに関する一次史料を提示し、グループ単位で発表させる。)

第15回 都市における治水事業の展開

(明治前期から昭和初期に至る京都市の鴨川水系改修事業を取り上げ、同水系の治水事業を利水事業・陸上交通政策・景観整備との関係でその歴史的展開を論じるとともに、これに関する一次史料を提示しグループ単位で発表させる。)

一部スケジュールが変更になる可能性がある。あらかじめ了承のこと。

[履修要件]

授業は主として1・2回生を受講者に想定して行いますが、3・4回生の受講も可。

[成績評価の方法・観点]

授業への参加態度とレポート試験によって総合的に成績を評価する。

レポートは、各講師が担当する最後の授業で出すレポート課題（講師は5人なので課題は5つ）のう

基礎現代文化学系 (ゼミナールⅠ)(3)

ち2つを選び(3つ以上は不可), 1200~1600字の字数で作成すること。

【配点】

平常点50%

試験(レポート)50%

【平常点の評価基準】

毎回授業終了時に提出してもらいうりフレクションシートの提出実績によって評価する。

【試験(レポート)の評価基準】

レポート課題の提出実績および内容のクオリティによって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業時に担当者から課題が提示されることがあるので, その指示にしたがうこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については, KULASISで確認してください。

共通

(2025.3.14)更新

講義コード	専修コード	担当専修別	講義名	講義形態	授業時間数	単位	開講期	曜日1	時限1	曜日2	時限2	担当教員名	使用言語	(院)聴講生	シラバス連番	備考
9616001		インド古典学・仏教学・西南アジア史学	サンスクリット(2時間コース)(語学)			4	通年	月	4			山口 周子	日本語	○	共通1	学部・大学院科目
9633001		インド古典学・西南アジア史学	ヒンディー語(初級)(語学)			4	通年	金	4			濱谷 真理子	日本語	○	共通2	学部・大学院科目
9642001		スラブ語学スラブ文学・言語学	ポーランド語(中級II)(語学)			2	前期	木	5			Bogna Sasaki	日本語	○	共通3	学部・大学院科目
9642002		スラブ語学スラブ文学・言語学	ポーランド語(中級II)(語学)			2	後期	木	5			Bogna Sasaki	日本語	○	共通4	学部・大学院科目
9661001		スラブ語学スラブ文学・言語学	ポーランド語(初級I)			2	前期	木	4			Bogna Sasaki	日本語	○	共通5	学部・大学院科目
9662001		スラブ語学スラブ文学・言語学	ポーランド語(初級I)			2	後期	木	4			Bogna Sasaki	日本語	○	共通6	学部・大学院科目
9684001		スラブ語学スラブ文学・言語学	ブルガリア語(初級)(語学)			2	前期	水	4			ブラジミロブ イヴォ	日本語	○	共通7	学部・大学院科目
9685001		スラブ語学スラブ文学・言語学	ブルガリア語(中級)(語学)			2	後期	水	4			ブラジミロブ イヴォ	日本語	○	共通8	学部・大学院科目
9680001		スラブ語学スラブ文学・言語学	古教会スラヴ語(初級)(語学)			2	前期	水	5			ブラジミロブ イヴォ	日本語	○	共通9	学部・大学院科目
9681001		スラブ語学スラブ文学・言語学	古教会スラヴ語(中級)(語学)			2	後期	水	5			ブラジミロブ イヴォ	日本語	○	共通10	学部・大学院科目
9686001		スラブ語学スラブ文学・言語学	チェコ語(初級)(語学)			2	前期	金	2			田中 大	日本語	○	共通11	学部・大学院科目
9687001		スラブ語学スラブ文学・言語学	チェコ語(中級)(語学)			2	後期	金	2			田中 大	日本語	○	共通12	学部・大学院科目
9639001		キリスト教学・西南アジア史学	ヘブライ語(初級)(語学)			2	前期	金	4			武藤 慎一	日本語	○	共通13	学部・大学院科目
9640001		キリスト教学・西南アジア史学	ヘブライ語(中級)(語学)			2	後期	金	4			武藤 慎一	日本語	○	共通14	学部・大学院科目
9682001		西南アジア史学・言語学	アラブ語(初級)I(語学)			2	前期	月	2			仲尾 周一郎	日本語	○	共通15	学部・大学院科目
9683001		西南アジア史学・言語学	アラブ語(初級)II(語学)			2	後期	月	2			仲尾 周一郎	日本語	○	共通16	学部・大学院科目
9688001		言語学・西南アジア史学	シュメール語(初級I)(語学)			2	前期	金	1			森 若葉	日本語	○	共通17	学部・大学院科目
9689001		言語学・西南アジア史学	シュメール語(初級II)(語学)			2	後期	金	1			森 若葉	日本語	○	共通18	学部・大学院科目
JK11001		JD専攻	Foundations I-Seminar(VMC)			2	前期	水	4			蘆田 裕史	日本語	○	共通19	学部・大学院科目

共通1

科目ナンバリング	G-LET49 89616 LJ48				
授業科目名 <英訳>	サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit (2H)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山口 周子		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	月4	授業形態	語学(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	サンスクリット初級文法(2時間コース)				
[授業の概要・目的]					
<p>サンスクリット語は南アジア(インド)において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。</p>					
[到達目標]					
<p>このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。</p> <p>前期 サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回) 名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回) 代名詞、数詞、複合語(第14-15回)</p> <p>後期 動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回) 年度末テスト(テスト期間) フィードバック期間:フィードバック(第30回)</p> <p>授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。</p>					
----- サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----					

サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)

【履修要件】

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

【成績評価の方法・観点】

- ・平常点(練習問題への理解度(授業期間中に「確認テスト」を実施)、40点)
- ・年度末筆記試験(60点)

【教科書】

吹田隆道(編著)『実習サンスクリット文法:萩原雲来『実習梵語学』新訂版』(春秋社,2015)
ISBN:978-4393101728

【参考書等】

(参考書)

辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波書店,1974) ISBN:978-4000202220

【授業外学修(予習・復習)等】

予習:各回の進捗状況に合わせて、原則として次の2つのいずれかを授業中に指示します。

- ・宿題として出された練習問題の解答(訳)を準備してくること。
- ・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておくこと。

復習:授業内容を見直すこと(特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す)。

授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通2

科目ナンバリング	G-LET49 89633 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ヒンディー語 (初級) (語学) Hindi	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 濱谷 真理子		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2025・通年
曜時限	金4	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヒンディー語 (初級)				
[授業の概要・目的]					
<p>ことばを学ぶことは、そのことばが使われている文化・社会のものの見方や価値観、身体技法や慣習を学ぶことでもある。ヒンディー語といえばインドというイメージがあるかもしれないが、日常的にヒンディー語を話す人びとだけでなく、少し話せる人や聞けばわかる人も含めれば、使用地域は南アジアの多岐にわたる。さらに、近年インド系移民が世界各地に展開していることで、ヒンディー語が使える場はグローバルなレベルで拡大しつつある。</p> <p>本授業は、発展著しいヒンディー語の基礎を学ぶための授業であるが、ヒンディー語が主に使われている北インド、及びヒンディー語を理解する人びとが多く暮らす南アジア地域の文化・社会についても理解を深めることをめざす。ヒンディー語は日本語と少し似ている部分があり、日本人には比較的習得しやすい言語である。インドや南アジアに関心のある学生は、ぜひ気軽に受講して、ヒンディー語を楽しんでもらいたい。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1.ヒンディー語の初等文法を習得する。 2.簡単なヒンディー語会話ができるようになる。 3.ヒンディー語を通じてインド・南アジア地域の文化・社会について理解を深める。 					
[授業計画と内容]					
<p>全20課から成る教科書を、原則として1課ずつ進めていく。各課は、新出単語、文法事項、文章から成り、それぞれを丁寧に解説する。他の参考書を使って補足説明をすることもある。</p> <p>教科書が一通り終われば、新聞や物語などヒンディー語の文章を読んだり、ヒンディー語映画を鑑賞したり、ヒンディー語会話に挑戦してもらおう。教材は、履修者の希望に応じて決める。</p>					
前期					
1 イントロダクション					
2-4文字と発音					
5-14 文法と会話					
15 前期・期末試験					
16 試験のフィードバック					
後期					
1-10 文法と会話					
11-14 映画鑑賞・文献読解					
15 後期・期末試験					
16 試験のフィードバック					
----- ヒンディー語 (初級) (語学)(2)へ続く -----					

ヒンディー語 (初級) (語学)(2)

【履修要件】

授業には継続的に参加すること。

【成績評価の方法・観点】

平常点（50％）と2回の筆記試験（前期20％・後期30％）で評価する。

【教科書】

町田和彦 『ニューエクスプレスプラス ヒンディー語』（白水社、2020年）ISBN:978-4-560-08862-3

【参考書等】

（参考書）

田中敏雄・町田和彦 『エクスプレスヒンディー語』（白水社、1986年）ISBN:4-560-00768-3（絶版のため入手困難。授業で適宜配布する。）

Snell, Rupert and Simon Weightman 『Teach Yourself Hindi』（London: Hodder Education, 1989）ISBN: 978-0340866870

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の前日までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド・南アジア地域の情報に関心を持ち、主体的に情報収集すること。

（その他（オフィスアワー等））

時間：授業終了後～17:30ごろまで

場所：文学部・非常勤講師控室

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通3

科目ナンバリング	G-LET49 89642 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ポーランド語 (中級II) (語学) Polish	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木5	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポーランド語中級				
[授業の概要・目的]					
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。					
[到達目標]					
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。					
[授業計画と内容]					
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。					
授業計画：					
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】					
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】					
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】					
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】					
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】					
6．総復習とまとめ【1週】					
7．定期試験【1週】					
8．フィードバック【1週】					
[履修要件]					
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。					
[成績評価の方法・観点]					
基本的に定期試験(筆記)(90%)での評価となります。授業へのぞむ姿勢(10%)も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。					
[教科書]					
授業中に受講生と話し合っただけ決めた資料を用意し配布します。					
----- ポーランド語 (中級II) (語学)(2)へ続く -----					

ポーランド語 (中級II) (語学)(2)

[参考書等]

(参考書)

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』 (白水社) ISBN:978-4-560-08974-3 (絶版となっていた辞典は、2023年6月に復刊されました。)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業中に指示します。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通4

科目ナンバリング	G-LET49 89642 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ポーランド語 (中級II) (語学) Polish	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木5	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポーランド語中級				
[授業の概要・目的]					
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。					
[到達目標]					
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。					
[授業計画と内容]					
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。					
授業計画：					
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】					
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】					
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】					
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】					
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】					
6．総復習とまとめ【1週】					
7．定期試験【1週】					
8．フィードバック【1週】					
[履修要件]					
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。					
[成績評価の方法・観点]					
基本的に定期試験(筆記)(90%)での評価となります。授業へのぞむ姿勢(10%)も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。					
[教科書]					
授業中に受講生と話し合っただけ決めた資料を用意し配布します。					
-----ポーランド語 (中級II) (語学)(2)へ続く-----					

ポーランド語 (中級II) (語学)(2)

[参考書等]

(参考書)

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』 (白水社) ISBN:978-4-560-08974-3 (絶版となっていた辞典は、2023年6月に復刊されました。)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業中に指示します。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通5

科目ナンバリング		G-LET49 69661 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ポーランド語 (初級I) (語学) Polishnbsp (Lectures)nbsp		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木4	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポーランド語初級 I				
[授業の概要・目的]					
ポーランド語の初級文法を習得する。					
[到達目標]					
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>前期では、名詞と動詞の活用を学ぶとともに、ポーランド語になれていきます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、前期ではその前半分を学習します。</p> <p>期末に映画も鑑賞し、ポーランドの文化に触れます。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 . ポーランド語の基礎知識 (文字、アクセント、語尾変化、発音など) 【1週】 2 . 基本的な構文、格の基礎知識、名詞の主格、挨拶や自己紹介に関する語彙【1週】 3 . 基本動詞bycの変化、名詞の性の見極め方と性による形容詞の変化【1週】 4 . ここまでの内容の確認と練習【1週】 5 . 名詞と形容詞の単数複数造格、日本語の「～である」に相当する主格と造格の使い分け【1週】 6 . 名詞の単数生格、panとpaniの用法【1週】 7 . 名詞と形容詞の複数主格、「あなたがた、皆さん」の言い方【1週】 8 . ここまでの総復習、基本的な構文や語彙の確認【1週】 9 . 名詞の単数複数対格、動詞の第1変化 (-m,-sz型)【1週】 10 . 動詞の第2変化 (-e,-isz型)、名詞の単数複数与格、「知っている」に当たる表現【1週】 11 . 動詞の第3変化 (-e,-esz型)、現在形の動詞変化のまとめ、名詞の単数複数前置格【1週】 12 . sie動詞、ktoとcoの格変化、名詞の複数生格、数量を表す言葉【1週】 13 . 前期の総復習、格の使い分けや、基本的な構文の確認、語彙の復習【1週】 14 . 映画を鑑賞し、ポーランドの文化に触れる【1週】 15 . 定期試験【1週】 16 . フィードバック【1週】 					
[履修要件]					
特になし					
----- ポーランド語 (初級I) (語学)(2)へ続く -----					

ポーランド語 (初級I) (語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-08974-3（絶版となっていた辞典は、2023年6月に復刊されました。）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通6

科目ナンバリング	G-LET49 69662 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ポーランド語 (初級I) (語学) Polish (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木4	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポーランド語初級 I				
[授業の概要・目的]					
ポーランド語の初級文法を習得する。					
[到達目標]					
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>後期では、動詞の時制や、ポーランド語における様々な構文を学びます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、後期ではその後半分を学習します。</p> <p>期末に映画の鑑賞などをして、ポーランドの文化に触れます。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1．否定生格という現象、呼格、基本的な助動詞の使い方【1週】 2．動詞の過去形、非人称文の過去時制、人称代名詞と再帰代名詞の格変化【1週】 3．動詞bycと一般動詞の合成未来形、時刻に関する表現、非人称文の未来時制、nie maの過去形と未来形【1週】 4．動詞のアスペクト、命令法、数詞と名詞の総合規則【1週】 5．命令法の続き、仮定法、miecの助動詞的な用法【1週】 6．移動の動詞isc/chodzic, jechac/jezdzicの用法、場所と移動の起点を表す前置詞【1週】 7．関係代名詞ktoryの用法【1週】 8．ここまでの総復習、動詞の時制などの学習内容の確認【1週】 9．仮定法の用法の続き、関係副詞による複文の作り方、能動形容分詞、非人称動詞【1週】 10．sieによる非人称構文、形容詞と副詞の比較変化【1週】 11．副分詞の作り方と用法、受動形容分詞と受動構文【1週】 12．非人称能動過去形と完了体動詞の副分詞、年月日の言い方【1週】 13．一年間の総復習、分かりにくかった点などを確認する【1週】 14．ポーランドの文化に触れる【1週】 15．定期試験【1週】 16．フィードバック【1週】 					
[履修要件]					
前期のポーランド語 (初級I) の受講など、ポーランド語の基礎知識が要求されます。					
----- ポーランド語 (初級I) (語学)(2)へ続く -----					

ポーランド語 (初級I) (語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-08974-3（絶版となっていた辞典は、2023年6月に復刊されました。）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通7

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	ブルガリア語 (初級) (語学) Bulgarian		担当者所属・ 職名・氏名	ソフィア大学スラブ学部・スラブ研究科 ブラジミロブ イヴォ 専任講師	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ブルガリア語初級コース				
【授業の概要・目的】					
キリル文字発祥の地、ブルガリアは中世は巨大な帝国で、文芸の中心の地でもあった。初級コースではその文化や言語を受け継いだ現代ブルガリア語を学ぶ。ブルガリア語は「スラブの古典言語」と呼ばれるのと同時に、バルカン言語連合の一つとして、スラブ諸語には見られない他のバルカン半島の言語との共通点も多いことから、「エキゾチックな言語」とも言われる。授業ではまずキリル文字を習得し、基本的な文法を学習しながら、基礎的な語彙や表現も身に付ける。					
【到達目標】					
キリル文字の習得、基本的な文法や語彙、表現を身につけることを目標とする。					
【授業計画と内容】					
第1回 オリエンテーション (オリエンテーション、キリル文字の発音と書き方の練習)					
第2回 1課のテキスト (出会いの挨拶 (1)、敬称、「 」どうぞ、「 」ほら、さあ)					
第3回 1課の文法 (1課の文法資料)					
第4回 2課のテキスト (出会いの挨拶 (2)、主語の人称代名詞、 動詞、自己紹介、疑問の「 」)					
第5回 2課の文法 (2課の文法資料)					
第6回 3課のテキスト (名詞の性、動詞 (-変化動詞)、無人称動詞「 と 」、前置詞)					
第7回 3課の文法 (3課の文法資料)					
第8回 4課のテキスト (動詞 (-変化動詞)、複数形、形容詞の変化)					
第9回 4課の文法 (4課の文法資料)					
第10回 5課のテキスト (呼格形、 -変化動詞、後置冠詞形、人称代名詞短形)					
第11回 5課の文法 (5課の文法資料)					
第12回 6課のテキスト (完了体動詞と不完了体動詞、 構文)					
第13回 6課の文法 (6課の文法資料)					
第14回 総復習 (作成資料で復習をしていく)					
第15回 前期試験 (対面試験の実施)					
【履修要件】					
特になし					
-----ブルガリア語 (初級) (語学)(2)へ続く-----					

ブルガリア語 (初級) (語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

出席率、提出物、授業への取り組み(50%)、定期試験(50%)で総合評価する。

[教科書]

寺島 憲治 『ニューエクスプレスプラス ブルガリア語』(白水社,2019年) ISBN:ISBN:9784560088258

1-2 『ブルガリア語』(白水社,2013年) ISBN:ISBN:9789545357374

教科書は『ニューエクスプレスプラス ブルガリア語』を購入のこと。『ブルガリア語』は、購入は不要。必要に応じてコピーを配布する。

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

テキストの予習と復習、課題

(その他(オフィスアワー等))

バルカン半島・南東ヨーロッパの中心に位置するブルガリアの言語や文化の習得は、この地域を知る鍵となる。新しい世界を体験しよう!

また、古教会スラヴ語コースと一緒に履修すると、より理解が深まる。

連絡先: ivo_padma@yahoo.co.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

ブルガリア語 (中級) (語学)(2)

購入は不要。必要に応じてコピーを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

テキストの予習と復習、課題

(その他(オフィスアワー等))

バルカン半島・南東ヨーロッパの中心に位置するブルガリアの言語や文化の習得は、この地域を知る鍵となる。新しい世界を体験しよう!

また、古教会スラヴ語コースと一緒に履修すると、より理解が深まる。

連絡先: ivo_padma@yahoo.co.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通9

科目ナンバリング		G-LET49 69680 LJ48			
授業科目名 <英訳>	古教会スラヴ語 (初級) (語学) Old Church Slavic	担当者所属・ 職名・氏名	ソフィア大学スラブ学部・スラブ研究科 ブラジミロブ イヴォ 専任講師		
配当学年	全回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水5	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古教会スラヴ語初級コース				
[授業の概要・目的]					
<p>最古のスラヴ文語である古教会スラヴ語は、古代ギリシア語、ラテン語と並び、中世ヨーロッパにおける第3の古典語である。第一次ブルガリア帝国で用いられ公用語となったことにより、古教会スラヴ語はバルカン半島/南東ヨーロッパ地域のみにとどまらず、大モラヴィア王国、キエフ・ルーシにまで伝播する。ギリシア語の聖書や祈祷書、典礼書の翻訳はもちろん、オリジナルな経典や文学作品も多く存在する。</p> <p>授業では、インド・ヨーロッパ語族の類似性とそのルーツ、また現代ブルガリア語との関連性を意識しながら、単語や文法の基本的理解を目指す。この言語を身に付けることで、スラブ圏やバルカン半島の言語を習得する際の重要な基礎知識となるだけでなく、正教圏スラブ世界 (Slavia Orthodoxa) を知るための重要な鍵にもなる。</p>					
[到達目標]					
<p>初期キリル文字の読み書きができるようになる。 古典言語の発音ができるようになる。 基礎的文法の概略と特徴を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回 授業のオリエンテーション (古代教会スラヴ語とその時代背景の紹介、聖なる言語の概念)					
第2回 文字の発音と綴り (古代教会スラヴ語の二つのアルファベットであるキリル文字とグラゴル文字の読み方と書き方の練習)					
第3回 文字の発音と綴り (キリル文字とグラゴル文字の読み方と書き方の練習の続き)					
第4回 動詞 (動詞の体系、動詞の語幹、不定詞、スピン、動詞の現在形)					
第5回 動詞 (動詞の練習)					
第6回 人称代名詞と前方照応代名詞 (人称代名詞と前方照応代名詞、格変化)					
第7回 人称代名詞と前方照応代名詞 (人称代名詞と前方照応代名詞の練習)					
第8回 命令法と未来形 (語幹形成母音動詞と非語幹形成母音動詞の命令法、単純未来形と複合未来形)					
第9回 命令法と未来形 (命令法と未来形の練習)					
第10回 名詞 (-o-変化名詞、-jo-変化名詞、-a-変化名詞、-ja-変化名詞)					
第11回 名詞 (- -変化名詞、- -変化名詞、- -変化名詞、-en-/ -men-変化名詞、-nt-変化名詞、-r-変化名詞、-s-変化名詞)					
第12回 名詞 (名詞の練習)					
第13回 指示代名詞、所与代名詞 (指示代名詞、所与代名詞、練習)					
第14回 総復習 (作成資料で復習をしていく)					
第15回 前期試験 (対面試験の実施)					
----- 古教会スラヴ語 (初級) (語学)(2)へ続く -----					

古教会スラヴ語 (初級) (語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

出席率、提出物、授業への取り組み(50%)、定期試験(50%)で総合評価する。

【教科書】

木村 彰一 『古代教会スラヴ語入門』(白水社,2022) ISBN:9784560006252

『

, 2017) ISBN:9789540742106

』(

『

10

』(

、1987)

コピーを配布するので、教科書の購入は不要。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

教科書や配布プリントで学習した箇所の復習をすること。

(その他(オフィスアワー等))

聖書からの引用を扱うので、キリスト教の教義についての理解を深めることができる。

また、ブルガリア語コースと一緒に履修すると、より理解が深まる。

連絡先: ivo_padma@yahoo.co.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通10

科目ナンバリング		G-LET49 69681 LJ48			
授業科目名 <英訳>	古教会スラヴ語 (中級) (語学) Old Church Slavic	担当者所属・ 職名・氏名	ソフィア大学スラブ学部・スラブ研究科 ブラジミロブ イヴォ 専任講師		
配当学年	全回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水5	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古教会スラヴ語初級コース				
【授業の概要・目的】					
前期に引き続き、古教会スラヴ語の文法、当時使用された語彙や表現を学ぶ。古教会スラヴ語を生きた言語として扱い、その時代の人々の習慣や考え方にも触れていく。また聖書やアポクリファを読み解き、より理解を深めていく。					
【到達目標】					
基礎的文法の概略と特徴を理解する。 学習した文法を用いて、写本を読めるようになる。					
【授業計画と内容】					
第1回 所有代名詞と所有を表す前方照応代名詞、関係代名詞 (所有代名詞、関係代名詞、名詞の格変化)					
第2回 主の祈り (主の祈りを読む、所有代名詞、関係代名詞の練習)					
第3回 形容詞 (単純形容詞 (-o-, -a- 語幹、-jo-, -ja- 語幹) と複合形容詞、硬変化と軟変化)					
第4回 形容詞 (形容詞の練習)					
第5回 数詞、曜日、月、四季 (数詞、曜日、月、四季、疑問文)					
第6回 アオリスト (単純 (非s-) アオリスト、第一sアオリスト、第二sアオリスト、非語幹形成動詞のアオリスト)					
第7回 アオリスト (アオリストの練習)					
第8回 インパーフェクト					
第9回 インパーフェクトの練習					
第10回 現在能動分詞、過去能動分詞1、過去能動分詞2、現在完了、過去完了、未来完了、条件法					
第11回 練習					
第12回 受動分詞、動名詞					
第13回 受動分詞、動名詞の練習					
第14回 総復習 (作成資料で復習をしていく)					
第15回 前期試験 (対面試験の実施)					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
出席率、提出物、授業への取り組み(50%)、定期試験 (50%) で総合評価する。					
【教科書】					
木村 彰一 『古代教会スラヴ語入門』 (白水社,2022) ISBN:9784560006252					
----- 『 (----- 古教会スラヴ語 (中級) (語学)(2)へ続く					

古教会スラヴ語 (中級) (語学)(2)

, 2017) ISBN:9789540742106

『 , 10 』 (, 1987)

コピーを配布するので、教科書の購入は不要。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

教科書や配布プリントで学習した箇所の復習をすること。

(その他 (オフィスアワー等))

聖書からの引用を扱うので、キリスト教の教義についての理解を深めることができる。
また、ブルガリア語コースと一緒に履修すると、より理解が深まる。
連絡先：ivo_padma@yahoo.co.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通11

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	チェコ語 (初級) (語学) Czech		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 田中 大	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金2	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	チェコ語 初級文法 (1)				
【授業の概要・目的】					
【キーワード】チェコ語、文法、発音、初級					
チェコ語の文法・発音に関する初歩の知識を身につけることを目的とします。ロシア語などスラブ諸語の知識を前提にしません。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・チェコ語の発音 (文字との関係を含む) が理解でき、実際に発音できるようになる。 ・チェコ語動詞の各時制、名詞・代名詞・形容詞の格変化 (主に単数のみ) が使えるようになる。 ・比較的簡単な短文を理解することができるようになる。 					
【授業計画と内容】					
第1回 ガイダンス・文字と発音 (1) 第2回 文字と発音 (2) ・第 1 課 人称代名詞・「～である」の現在形 第3回 文字と発音 (3) ・第1～2課 Yes-No疑問文、名詞の性 第4回 第2課 指示代名詞 (1)、形容詞 (1) 第5回 第3課 動詞の現在変化 (1)、「これはなんですか？」 第6回 第3～4課 呼びかけとあいさつ、名詞の格 (1) 第7回 第4課 女性名詞の格変化 (1)、動詞の現在変化 (2) 第8回 第5課 男性名詞の格変化 (1)、不規則動詞の現在変化 (1) 第9回 第5～6課 2格 (属格) の用法、人称代名詞の格変化 (1) 第10回 第6課 中性名詞の格変化 (1)、出沒母音 第11回 第7課 動詞の現在変化 (3)、男性名詞の格変化 (2) 第12回 第7～8課 移動の動詞 (1)、動詞の現在変化 (4) 第13回 第8課 女性名詞の格変化 (2)、場所の表現 第14回 第9課 形容詞の格変化 第15回 フィードバック					
授業の進捗状況、受講者の状況に応じて適宜内容を変更する場合があります。					
【履修要件】					
特になし					
----- チェコ語 (初級) (語学)(2)へ続く -----					

チェコ語 (初級) (語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎回出席を取ります。また学期末に試験を行います。

授業への貢献度・平常点を40%、期末試験を60%とします。

[教科書]

教材は基本的にプリントを配布します。同時にPandAを通じてデジタル形式でも配布します。その他適宜補助教材を用いることがあります。これらもあわせて配布します。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布する教材について予習・復習を求めます(できれば授業前に簡単に一読しておいてください)。また復習を兼ねて宿題を出題する場合があります。

(その他(オフィスアワー等))

連絡先については授業内でお知らせします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通12

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	チェコ語 (中級) (語学) Czech		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 田中 大	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金2	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	チェコ語 初級文法 (2)				
【授業の概要・目的】					
【キーワード】チェコ語、文法、初級～中級へ					
<p>前期の「チェコ語 (初級)」で身につけたチェコ語の文法事項に関する知識の拡大と全般の知識の定着を図ります。語彙や表現に関する知識を一層広めることも目的とします。また初級文法を一通り学んだあと、具体的には比較的易しい文章などの読解を行って知識の定着・拡大を目指します。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・チェコ語の文法知識を定着させることができる。 ・学んだ知識を実際に用いることができるようになる。 ・教科書以上のよりナチュラルな表現を知ることができるようになる。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 イントロダクション・第10課 動詞の現在変化 (4)、動詞の過去形 第2回 第11課 動詞の未来形 第3回 第12課 動詞の体 第4回 第13課 人称代名詞の格変化 (2)、所有代名詞 第5回 第14課 命令法 第6回 第15課 形容詞の比較級、数詞と名詞の組み合わせ 第7回 第16課 比較級と最上級 第8回 第17課 疑問詞、月日・曜日の表現 第9回 第18課 所有形容詞 第10回 第19課 条件法 第11回 第20課 移動の動詞 (2) 第12回 第21課 受動態 第13～14回 読解 第15回 まとめとフィードバック</p>					
授業の進捗状況、受講者の状況に応じて適宜内容を変更する場合があります。					
【履修要件】					
「チェコ語 (初級)」からの続きとして開講される授業ですので、「チェコ語 (初級)」で学習した内容に相当する知識を有していることを履修条件とします。					
【成績評価の方法・観点】					
試験期間の筆記テストの結果、授業への参加度・貢献度など総合的に判断して評価する。毎回出席をとる。					
----- チェコ語 (中級) (語学) (2)へ続く -----					

チェコ語 (中級) (語学) (2)

授業への貢献度・平常点40%、期末試験60%

[教科書]

メインテキストは基本的にはプリントを配布します。同時にPandAを通じてデジタル形式で通じて配布します。また補助教材を配布する場合も同様です。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

予習・復習が必要となります。予習は次回の範囲を一通り読んでおいてください。復習として当該回の内容の復習・宿題の準備、また理解できなかった部分がどこかを明らかにして質問の準備をしておくことなどを求めます。

(その他 (オフィスアワー等))

連絡先 (メールアドレス) については授業内で知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通13

科目ナンバリング		G-LET49 89639 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ヘブライ語 (初級) (語学) Hebrew		担当者所属・ 職名・氏名	大東文化大学 武藤 慎一	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金4	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヘブライ語文法 (初級)				
[授業の概要・目的]					
<p>聖書ヘブライ語の文字、母音表記などの特徴を概観するとともに、文法の基礎 (名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞ほか) を扱う。ヘブライ語文の特徴的構造に親しみ、さらに個々の文法事項がもつ聖書解釈上の意義についても解説する。その際、文法書の変化表を無理やり暗記するのではなく、実際に聖書テキスト (創世記) を読みながら、できる限り帰納的に共通する法則を発見していく方法をとる。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヘブライ語の文字と母音表記を認識して、文章を声に出して読める。 ・名詞類の特徴を指摘できる。 ・簡単な名詞文の和訳ができる。 					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って授業を進める。ただし、言語習得は螺旋状に進行していくものなので、各テーマとも1回の授業で完結するのではなく、同じようなテーマに何度も立ち戻りながら、少しずつ最終目標に近づいていく。</p> <p>第1回 導入：本授業の方法 第2回 ヘブライ語の特徴とその背景：宗教、歴史、文化 第3回 発音 第4回 文字 (子音) 第5回 母音表記と音節 第6回 固有名詞 第7回 普通名詞 第8回 名詞のつながり 第9回 前置詞 第10回 代名詞と接尾辞 第11回 形容詞 第12回 副詞 第13回 語順 第14回 動詞 第15回 動詞のアスペクト</p>					
----- ヘブライ語 (初級) (語学)(2)へ続く					

ヘブライ語 (初級) (語学)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価・・・授業への参加状況（50％）、小テスト（50％）

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で配布するプリントを読んでくること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通14

科目ナンバリング		G-LET49 89640 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ヘブライ語 (中級) (語学) Hebrew		担当者所属・ 職名・氏名	大東文化大学 武藤 慎一	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金4	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヘブライ語文法 (中級)				
[授業の概要・目的]					
<p>初級に引き続いて、動詞 (完了形・未完了形・命令形、時制など) のシステムとその文章構造の理解を中心に、聖書ヘブライ語文法の基礎を扱う。聖書テキストを声に出して読み、テキスト翻訳の中で注意すべき文法的な事項の認識を深める。その際、文法書の変化表を無理やり暗記するのではなく、実際に聖書テキスト (創世記) を読みながら、できる限り帰納的に共通する法則を発見していく方法をとる。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・動詞の完了・未完了の基本活用を認識できる。 ・完了・未完了を含むヘブライ語の文構造を理解し、翻訳できる。 ・聖書ヘブライ語の特殊な時制構造を理解している。 ・辞書を使える。 					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って授業を進める。ただし、言語習得は螺旋状に進行していくものなので、各テーマとも1回の授業で完結するのではなく、同じようなテーマに何度も立ち戻りながら、少しずつ最終目標に近づいていく。</p> <p>第1回 導入：ヘブライ語文法の初級から中級へ 第2回 動詞のパターン 第3回 動詞の人称変化 (完了形) 第4回 動詞の人称変化 (未完了形) 第5回 動詞の数と性 第6回 動詞の命令形と不定詞形 第7回 動詞の分詞形 第8回 動詞のカル 第9回 動詞のニフアル 第10回 動詞のピエル 第11回 動詞のヒファイル 第12回 動詞のヒトパエル 第13回 名詞文と動詞文 第14回 文のつながり 第15回 北西セム語の中のヘブライ語</p>					
----- ヘブライ語 (中級) (語学)(2)へ続く					

ヘブライ語 (中級) (語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価・・・授業への参加状況（50％）、小テスト（50％）

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で配布するプリントを読んてくること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通15

科目ナンバリング		G-LET49 89682 LJ48			
授業科目名 <英訳>	アラブ語 (初級)I (語学) Arabic	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 仲尾 周一郎		
配当学年	全回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	文語アラビア語初級				
[授業の概要・目的]					
<p>アラビア語は文字言語としての長い歴史をもつ文語アラビア語諸変種と、民衆的な日常語としての口語アラビア語諸方言に大別される。この授業では文語アラビア語の語学的基礎を身につけつつ、簡潔な文体で書かれたテキストの講読を行う。また、単に語学的能力だけでなく、言語そのものを分析するための諸概念についても紹介する。なお、時間的制約のため、書くこと、話すこと、聞くことは本授業では主たる目標としては扱わないが、学生の関心や自主性に応じて授業に取り込む予定である。</p>					
[到達目標]					
<p>文語アラビア語に関する基本的な社会言語学的・言語学的事実を理解した上で、辞書を用いて自力で文献を読解し、音読することができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>本授業では初期の数回を除き、教材に沿って文法学習・講読を進める。 現代語というよりは古典語を主として扱う予定だが、受講者の要望に応じて方向修正する可能性がある。</p> <p>第1～2回 導入とアラビア語に関する概説 第3～14回 教材(下記参照)に沿った文法学習・講読 第15回 試験</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
参加度 50 点 (予習し当てられれば適切に答える)、試験 50 点。					
[教科書]					
<p>未定 基本的には以下の教科書を用いる予定であるが、受講者の要望に合わせて変更する可能性がある。 井筒俊彦(2016)『アラビア語入門』(井筒俊彦全集 第十二巻)慶應義塾大学出版会。</p>					
----- アラブ語 (初級)I (語学) (2)へ続く -----					

アラブ語 (初級)I (語学) (2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

無料で現代標準アラビア語を学習できる手近なツールとしては以下の2点を取りあえずお勧めする。

アラビア語初級eラーニング (大阪大学)

<http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/wl/ar/index.html>

東外大言語モジュール・アラビア語

<https://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/ar/>

[授業外学修 (予習・復習) 等]

最初の数回の目標としては、アラビア文字の活字をみて読めるよう準備すること。講読を行うフェーズでは、できる限り事前に自分なりの訳文を用意してくること。また、復習として毎回学んだ文章を音読すること。

(その他 (オフィスアワー等))

メールにて連絡のこと。授業後すぐの時間帯は遠慮なくどうぞ。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通16

科目ナンバリング	G-LET49 89683 LJ48				
授業科目名 <英訳>	アラブ語 (初級)II (語学) Arabic	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 仲尾 周一郎		
配当学年	全回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月2	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	文語アラビア語中級				
[授業の概要・目的]					
<p>アラビア語は文字言語としての長い歴史をもつ文語アラビア語諸変種と、民衆的な日常語としての口語アラビア語諸方言に大別される。この授業では文語アラビア語の語学的基礎を身につけつつ、簡潔な文体で書かれたテキストの講読を行う。また、単に語学的能力だけでなく、言語そのものを分析するための諸概念についても紹介する。なお、時間的制約のため、書くこと、話すこと、聞くことは本授業では主たる目標としては扱わないが、学生の関心や自主性に応じて授業に取り込む予定である。</p>					
[到達目標]					
<p>文語アラビア語に関する基本的な社会言語学的・言語学的事実を理解した上で、辞書を用いて自力で文献を読解し、音読することができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>本授業では初期の数回を除き、教材に沿って文法学習・講読を進める。 現代語というよりは古典語を主として扱う予定だが、受講者の要望に応じて方向修正する可能性がある。</p> <p>第1～14回 教材(下記参照)に沿った文法学習・講読 第15回 試験</p>					
[履修要件]					
<p>半期相当以上のアラビア語学習歴(自学でもよい)があること。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>参加度50点(予習し当てられれば適切に答える)、試験50点。</p>					
[教科書]					
<p>未定 基本的には以下の教科書を用いる予定であるが、受講者の要望に合わせて変更する可能性がある。 井筒俊彦(2016)『アラビア語入門』(井筒俊彦全集 第十二巻)慶應義塾大学出版会。</p>					
[参考書等]					
<p>(参考書) 授業中に紹介する 無料で現代標準アラビア語を学習できる手近なツールとしては以下の2点を取りあえずお勧めする。 アラブ語(初級)II(語学)(2)へ続く</p>					

アラブ語 (初級)II (語学) (2)

アラビア語初級eラーニング (大阪大学)
<http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/wl/ar/index.html>

東外大言語モジュール・アラビア語
<https://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/ar/>

[授業外学修 (予習・復習) 等]

できる限り事前に自分なりの訳文を用意してくること。また、復習として毎回学んだ文章を音読すること。

(その他 (オフィスアワー等))

メールにて連絡のこと。授業後すぐの時間帯は遠慮なくどうぞ。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通17

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	シュメール語 (初級I) (語学) Sumerian		担当者所属・ 職名・氏名	国士館大学イラク古代文化研究所 森 若葉 特別研究員	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金1	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	楔形文字書記体系のしくみとシュメール語文法 (1)				
【授業の概要・目的】					
<p>古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。</p> <p>この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、シュメール人が発明した楔形文字とその楔形文字で記されるシュメール語の文法を学ぶことを目的とする。系統不明の古代語であるシュメール語のほか楔形文字言語の解読についてもふれる。最古の文字である楔形文字の成立としくみ、シュメール語の文法の基礎を名詞、形容詞を中心に解説する。比較的簡単なシュメール語資料 (簡単な行政経済文書、王碑文) の講読を行う。死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。</p>					
【到達目標】					
<p>世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的な文法構造を理解する。</p> <p>楔形文字で記されたシュメール語の文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>楔形文字およびシュメール語文法の概説、資料の紹介と並行して京都大学所蔵粘土板 (行政経済文書) の講読を進めていく。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。</p> <p>第1回 シュメール語の背景 メソポタミア文明の世界について</p> <p>第2回 シュメール語と楔形文字について</p> <p>第3回 楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について</p> <p>第4回 楔形文字の成立としくみについて</p> <p>第5回 シュメール語文法 (1)、楔形文字文献について</p> <p>第6回 シュメール語文法 (2)、字書や辞書の使い方</p> <p>第7回 シュメール語文法 (3)、王碑文を読む</p> <p>第8回 シュメール語文法 (4)、行政文書を読む</p> <p>第9回 シュメール語文法 (5)、行政経済文書講読</p> <p>第10回 楔形文字粘土板実習 - 粘土板を作成</p> <p>第11回 シュメール語文法 (6)、行政経済文書講読</p> <p>第12回 シュメールの文学作品について、行政経済文書講読</p> <p>第13回 文学作品紹介 (1) 神話、行政経済文書講読</p> <p>第14回 文学作品紹介 (2) 王賛歌、行政経済文書講読</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>講義の進捗の状況や受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。</p>					
----- シュメール語 (初級I) (語学)(2)へ続く -----					

シュメール語 (初級I) (語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験（90％）と平常点（10％）で評価を行う。
定期試験は、到達目標とする楔形文字のしくみと基本的な文法の理解度を確認するため、楔形文字資料の読解と文法の分析問題を出題する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業時に指示する講読資料や問題として出題する資料の予習・復習が必要である。
実習時に粘土に楔形文字を刻んでもらうために、各自粘土を持参し、事前に楔形文字で自分の氏名などを書いてきてもらう必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通18

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	シュメール語 (初級II) (語学) Sumerian		担当者所属・ 職名・氏名	国士舘大学イラク古代文化研究所 森 若葉 特別研究員	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金1	授業形態	語学 (対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	シュメール語文法 (2) とシュメール語文献				
【授業の概要・目的】					
<p>シュメール語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法とシュメール語文献について学ぶことを目的とする。</p> <p>動詞組織の解説とともに、簡単なシュメール語行政経済文書資料の講読を行い、そのほか文学作品についても内容の紹介と一部読解をおこなう。死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、行政経済文書、法律文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。</p>					
【到達目標】					
<p>古代メソポタミア世界のシュメール語動詞の構造を理解し、簡単な資料を辞書等を用いて読解することを目標とする。</p> <p>また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語楔形文字資料についての知識を深める。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>文法概説、資料の紹介と並行して京都大学所蔵粘土板 (行政経済文書) の講読を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。</p> <p>第1回 文献から見るシュメールの社会 第2回 シュメール語文法ー動詞 (1)、行政経済文書講読 第3回 シュメール語文法ー動詞 (2)、行政経済文書講読 第4回 シュメール語文法ー動詞 (3)、行政経済文書講読 第5回 シュメール語文法ー動詞 (4)、バビロニア人による文法テキスト紹介 シュメール文学作品紹介 (1) (ギルガメシュ「叙事詩」) 第6回 シュメール語文法ーその他 (5)、行政経済文書講読 シュメール文学作品紹介 (2) (ギルガメシュ「叙事詩」) 第7回 ウルナンマ「法典」紹介・講読 (1) 第8回 ウルナンマ「法典」紹介・講読 (2) 第9回 京都大学総合博物館所蔵資料紹介 第10回 京都大学総合博物館粘土板見学実習 第11回 シュメール文学作品紹介 (3) 神話、行政経済文書講読 第12回 シュメール文学作品紹介 (4) 歴史物語、行政経済文書講読 第13回 シュメール文学作品紹介 (5) 論争詩、行政経済文書講読 第14回 シュメール文学作品紹介 (6) その他、行政経済文書講読 第15回 まとめ</p>					
----- シュメール語 (初級II) (語学)(2)へ続く -----					

シユメール語 (初級II) (語学)(2)

講義の進度の状況や受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。

[履修要件]

シユメール語初級I履修者もしくは同等の知識を有する人を対象としています。未履修者は初級Iの授業内容に関連する資料を配付しますので、独習してもらう必要があります。

[成績評価の方法・観点]

定期試験（90％）と平常点（10％）で評価を行う。
定期試験は、到達目標とする簡単な楔形文字資料の読解と文法理解にかんする分析問題を出題する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講読資料や問題として指定した資料の予習・復習のほか、配布した文学作品の資料に事前に目を通してもらう指示をを行うことがある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

共通19

科目ナンバリング		G-LET36 6JK11 LE36			
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar (VMC) Foundations I-Seminar (VMC)		担当者所属・ 職名・氏名	京都精華大学デザイン学部 蘆田 裕史 准教授	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ファッション論入門				
[授業の概要・目的]					
<p>私たちはみな、衣服を身に着けて社会生活を送っている。しばしば「ファッションに興味がない」と主張する人がいるが、そのような人であっても衣服なしで生活できるわけではない。つまり、関心があるとなかろうと、ファッションは私たちにとって必要不可欠なものなのである。なぜ私たちはファッションを必要とするのか。この授業では、ファッションにまつわる様々なトピックを論じることで、ファッションについて考えると同時に、ファッションを通して人間や社会について考えることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ファッション論の基本的事項を理解する。 ・社会におけるさまざまな事象や行為をファッションの観点から考察できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>イントロダクション：ファッションの定義 ファッションと社会：流行のメカニズム ファッションと社会：消費の諸様態 ファッションとコミュニケーション：ファッションのもつ意味 ファッションとアイデンティティ：インターフェイスとしてのファッション ファッションと倫理：他者を傷つけずにファッションを楽しむことは可能か ファッションと美：外見を気にするのは軽薄なのか ファッションと身体：衣服は第二の皮膚なのか ファッションとジェンダー：ファッションを通じて作られる「女らしさ/男らしさ」 ファッションとメディア：イメージの生成と伝播 ファッションと産業：ファッションは文化かビジネスか ファッションと環境：サステナブルファッションの展開 ファッションとデザイン：ファッションデザイナーはなにをデザインしているのか ファッションとアート：美術家はファッションをどのように捉えてきたか フィードバック</p> <p>授業の進行具合によって各回の順番や内容が変わる可能性があります。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- Foundations I-Seminar (VMC) (2)へ続く -----					

Foundations I-Seminar (VMC) (2)

[成績評価の方法・観点]

講義への参加度：60%（毎回のコメントシートによって評価します）
レポート：40%

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

日常的にファッションに関連する事項について考えるようにし、それをコメントシートや授業中の質問などに反映させてください。

（その他（オフィスアワー等））

授業時以外に連絡する必要がある場合はEメール（ashida@kyoto-seika.ac.jp）でお願いします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。